

NI NO MIYA MIYA HIGASHI

二之宮宮東遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

〈本文編〉

1994

建設省
群馬県教育委員会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

寄贈

群

馬

県

様

8. 10. -9

2 /

二之宮宮東遺跡 正誤表

下記の誤りがありましたので、ご訂正の上お使い下さい。

箇 所	誤	正
P. 12 番号説明	なし	1 無量寿寺
同上	なし	2 江竜沼
同上	なし	3 二之宮赤城神社
同上	なし	4 あづま道
同上	なし	5 女堀
同上	なし	6 伊勢崎大胡道
P. 227 9行目	33点	35点
同上	依存度	依存度
P. 230 15行目	7. 加工痕のある	6-1. 加工痕のある
19行目	8. 使用痕のある	6-2. 使用痕のある
22行目	9. 磨石類	7. 磨石類
28行目	凹凸み	凹凸み
P. 240 5号釈文	□?塔	□寔塔
同上	三?三	三寔三
P. 241 9号釈文	施主?言	施主獻言
P. 244 6行目	「?」(23=2042)	「○」(23=2042)
同上	「?」(28=2153)	「ム」(28=2153)
7行目	「?」(18=1858)	「風」(18=1858)
同上	「?」(25=2085)	「風」(25=2085)
11行目	「?」(27=2105)	「風」(27=2105)
註(5)2行目	七福即生	削除
註(5)3行目	蘇民 ^{七福即生} 將來子孫家門」七難即滅	蘇民 ^{七福即生} 將來子孫家門」
註(12)3行目	「?」	「風」
註(12)4行目	「?」	「風」
P. 245 18釈文	「?」	「風」
23釈文	「?カ」	「○カ」
25釈文	「?」	「風」
27釈文	「?」	「風」
28釈文	「?」	「ム」
30釈文	「?」	「風」
P. 284 1867~69	(時代欄) 里笹	(時代欄) 黒笹

98- 4470	群馬県埋蔵文化財 調査事業団保管	01-330 23
	平成(0年)5月(3)日	(17)

NI NO MIYA MIYA HIGASHI
二之宮宮東遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

〈本文編〉

1994

建設省
群馬県教育委員会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

埼玉県深谷市と本県の前橋市を結ぶ一般国道17号線のバイパスである上武道路は、前橋市今井町の国道50号線までの区間が開通・供用されており、通過市町村の産業経済の発展に大きく貢献しています。

上武道路の通過する地域は、本県でも有数の埋蔵文化財が分布しています。このため、道路建設工事に先立って埋蔵文化財の記録を後世に残すための発掘調査が昭和48年度より群馬県教育委員会及び当事業団により行われています。

本書は、昭和60年11月より61年10月にかけて発掘調査をしました前橋市二之宮町所在の古代から近世にかけての複合遺跡である二之宮宮東遺跡の報告書です。近世の富士塚、蘇民将来符、庚申塔等近世民間信仰を知る上での貴重な資料が報告されています。

発掘調査から報告書作成に至るまで、建設省関東地方建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、地元関係者等から種々、ご指導ご協力を賜りました。今回、報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて、本報告書が群馬県の歴史を解明する上で、広く活用されることを願い序とします。

平成6年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺 弘 之

例言

1 本報告書は、一般国道17号（上武道路）改築工事に伴い事前調査した事業名称「J K32・33二之宮宮東遺跡」の発掘調査報告書である。

2 遺跡所在地 群馬県前橋市二之宮町川東地区

3 事業主体 建設省関東地方建設局高崎工事事務所

4 調査主体 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

5 調査期間 昭和60(1985)年11月1日～61(1986)年10月31日

6 調査組織 調査 昭和60年度 桜場一寿・坂井 隆・山口逸弘
昭和61年度 藤巻幸男・大西雅広・中山純一 (A調査)
大木紳一郎・飯塚 誠・坂井 隆・山口逸弘・金井 武 (B調査)

事務 白石保三郎・梅沢重昭・井上唯雄・大沢秋良・松本浩一・上原啓巳
秋池 武・定方隆史・国定 均・笠原秀樹・須田朋子・吉田有光
柳岡良宏・水口九思

調査作業員 青木秀邦・青木芳子・秋岡キヨ子・阿部利一・荒牧 章・石川典子・磯部ヤス・板垣てる子・板垣利平治・井上とも江・井上ふく代・卯野やす子・遠藤キヌ江・大島 博・大山貞一・岡田やす・岡野さみ子・磯岡芳雄・川井美代・川田佳子・川端いくの・川端キヨ子・川和久子・神沢梅子・神沢シモ・神沢芳子・神沢利江・菊池ミキ・水暮吾一・北爪ヒデア子・木村公子・木村唯雄・木村とよ・喜楽トヨ・国定 勇・久保田ひろみ・栗原増雄・小坂崎さみよ・高坂ちまの・小暮徳太・水暮近雄・小沼あき・小沼里子・小林栄輔・小崎さみ江・近藤さよし・近藤 貴・青藤秋子・青藤たけ・坂井健作・重田夏子・清水亨子・下塚すえ・須賀サイ子・鈴木しげ子・鈴木まき江・鈴木ヨシエ・須藤あ喜子・須藤よしの・高橋友子・滝川律子・田中すみ子・田中高志・田中幹子・田部井ケイ・田部井正子・塚田より・富田祐登・長岡 武・奈良芳子・新野見茂雄・羽鳥愛子・羽鳥かつ江・羽鳥ふみ子・羽鳥正代・羽鳥八重子・浜岡仁一・早川フサ子・原田房子・平野智子・広瀬正子・福田たみ子・福田春江・古郡頼信・細谷友江・堀越ふみ江・松井さくの・松井千代枝・松井りょう・馬見新基・黛 幹江・水科瀬太郎・宮本サトノ・森村伊勢雄・八木原さぬ子・吉沢美枝子・吉田さだ子・吉田ツヤ子・吉原君子

7 整理主体 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

8 整理期間 平成4(1992)年4月1日～5(1993)年3月31日

9 整理組織 整理 坂井 隆
鈴木幹子
宇佐美征子・下境マサ江・高田栄子・高橋順子・田村栄子・細井敏子
(五十音順)

事務 邊見長雄・近藤 功・佐藤 勉・神保信史・能登 健・斎藤俊一
国定 均・笠原秀樹・須田朋子・柳岡良宏・船津 茂・高橋定義
松下 登・吉田恵子・角田みづほ・松井美智代・塩浦ひろみ
遺物写真 佐藤元彦 保存処理 関 邦一・小村浩一・土橋まり子

10 本書の編集及び非著名分の執筆は、坂井 隆が行った。

11 発掘調査に際しては、前橋市教育委員会と地元二之宮町の方々より多大なご援助を頂いた。また整理作業を含めご協力頂いた方々を下記に記し、感謝の意としたい。(敬称略)

山崎 一 大橋康二 仲野泰裕 飯島静男 角田住一 無量寿寺
嶋谷和彦 倉沢正幸 嶋村英之 小久保啓一 宮田進一 (順不同)

報告書抄録

フリガナ	ニノミヤミヤヒガシイセキ
書名	二之宮宮東遺跡
副書名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘報告
シリーズ番号	第164集
編著者名	坂井 隆・山口逸弘・山崎 一・高島英之他
編集機関	〒377(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
発行年	1994年3月27日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ニノミヤミヤヒガシイセキ 二之宮宮東	群馬県前橋市二之宮町	10201		362145	1391020	19851101- 19861031	30,000	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
二之宮宮東	居住	近世・近代	掘立柱建物	26	初期伊万里片	寺院に伴う屋敷地		
			井戸	54	呉須手染付片 蘇民苧来符			
	生産 寺院	中世	畠	36		山岳信仰地 庭園・灌漑池		
			富士塚	1	人名連記祭札札			
			池	1	庚申塔・五輪塔			
	墓	中世	墓	1	杭型塔婆			
			居住	中世	堀	4		居館
					礎石建物	1		
	庭園 井戸	2 4			竜泉窯青磁・白磁片 五輪塔	池		
	居住 生産	古代	竪穴住居	23	緑釉陶器			
			小鍛冶	2				
			水路	33		灌漑水路		
			水田	2	二彩陶器			

目次

序	P. 3
例言	P. 4
I 遺跡と調査の概要	P. 7
1 調査経過と成果概要	P. 8
2 遺跡の立地環境	P. 9
3 調査方法	P. 10
4 凡例	P. 10
II 調査成果	P. 15
1 西側部分	P. 16
西側部分全体図	P. 17
中央部分全体図	P. 111
2 中央部分	P. 113
東側部分全体図	P. 165
3 東側部分	P. 167
4 歴史時代遺構外出土遺物	P. 220
5 縄文時代遺物	P. 227
III まとめ	P. 233
1 二之宮環濠遺構群 (故)山崎 一	P. 234
2 二之宮宮東遺跡出土の文字資料 高島英之	P. 238
3 陶磁器胎土・鉄滓分析 井上 巖他	P. 246
4 土坑D124号遺構出土馬歯について 宮崎重雄	P. 254
5 プラント・オパール分析報告 古環境研究所	P. 255
6 古代から近世への土地利用	P. 256
7 庚申信仰を中心とする信仰資料	P. 262
IV 資料	P. 267
1 遺構一覧表	P. 268
2 遺物一覧表	P. 274
3 遺物検索表	P. 299
写真 (別冊)	
原色図版	PL. 1
単色図版	PL. 17

I 遺跡と調査の概要

1 調査経過と成果概要

A 調査に至る経過

一般国道17号の混雑緩和のための大規模バイパスとして計画された上武道路は、埼玉県深谷市を起点として利根川を渡河して群馬県に入り、伊勢崎市東方・前橋市北東方を迂回して前橋市北部に至る全長41.4kmの道路である。

群馬県教育委員会は、昭和45年度に計画路線を中心に幅2kmの区域の埋蔵文化財の分布調査を実施した。その結果、昭和48年度には事業主体の建設省と県教育委員会は、埋蔵文化財の事前調査についての協定書を締結し、以後国道50号との交差点までの発掘調査が昭和63年度まで行われた。

発掘調査は、昭和53年度以後は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が県教育委員会より引き継ぎ、整理事業と共に実施してきている。

B 調査経過

本遺跡は、上記協定書による32及び33番の遺跡であり、発掘調査は昭和60(1985)年11月1日より翌年10月31日まで1年間行われた。

調査は、2年度にまたがったが、面積が3万平米と広域であったため、次のように異なった体制で行った。

昭和60年度

湧水処理を主な理由として、県道伊勢崎・大胡線から筑波山前まで区域(本報告の中央部分と東側部分西半)の調査を1個調査班で実施した。そのうち、東側部分西半では近世の畠跡と古代水路の2面の調査となった。

湧水期の調査ではあったが、検出遺構の大部分は筑波山前の大池を初めとして、いずれも湧水が激しく、常に排水の工夫が調査の最優先項目となった。人名連記板あるいは庚申塔などの石塔類を中心とする大量の遺物を検出したこの大池の調査は、近世の低湿地の調査としては群馬県地域で初めての本格的なものであった。

厳寒期に氷を割りながらの調査は決して楽なものではなかったが、多彩な遺物と並んで長さ80m以上幅20m深さ32m近くの巨大な池の検出過程は、少なからず驚きの連続であった。

その過程で従来、終末期の方形墳と考えられていた筑波山が、そのままの形では古墳たりえないことが判明し、その成果を現地説明会で地元住民に報告した。説明会は61年3月15・16日に行ったが、約900人の見学者があった。

昭和61年度

調査期間の短縮のため、筑波山以西(本報告の西側部分)と県道伊勢崎・大胡線以东(同東側部分の東半)の2個調査班体制で併行した。また前年度の調査区域の中の既存道路下について一部確認調査を行った。

西側の調査では、複雑に走る中世の堀そしてその間に展開する近世の屋敷跡が主な検出遺構となった。特に50本以上の大量の井戸の検出と堀底の調査は、引き続き水との戦いであった。重複のため屋敷地遺構群として理解しにくいこともあって、少なからず遺構と出土遺物の関係が混乱したこともあった。

東側の調査は、東端の江竜川の古代の旧流路がいくつも検出され、またそれに伴う水路が複雑に見られた。ここでは同じ古代の中で最大3面の調査となり、調査事務所用地を調査範囲内にしか確保できなかったため、面的な遺構の整合関係が必ずしもはっきりとは捉えにくかった。西側と異なって、検出遺構の大部分は古代であり、同一遺跡の中での差が明瞭となった。

なお、本調査範囲に隣接する筑波山の平面実測を、前橋市教育委員会からの委託を受けて実施した。

2 遺跡の立地環境 (P.11~14図参照)

A 地理的環境

本遺跡は、赤城山南麓を南流する荒砥川と神沢川にはさまれた扇状地地形の末端付近に位置する。海抜高度は約90mで、この扇状地地形の中位の荒子沼から流れる小河川の江竜川と無名川に東西を限られる。

現状は微高地地形を呈するが、最新世の土層は不安定な状態を示しており、ローム層の堆積は認められず、現地表の4m下の硬質粘土層の上に堆積した砂層そして黄褐色シルト質土層が基盤となっている。この砂層とシルト質土層が、豊富な扇状地伏流水の流路となっており、比較的容易に汲み上げることができる。

周辺は調査直前には、広大な水田地帯になっていたが、そのような景観は基本的には戦後のほ場整備により形成されたもので、それ以前は畠地が多かった。

B 歴史的環境

近世・近代・中世

明治初年の地図によれば、二之宮は伊勢崎と大胡の間を結ぶ南北方向の道路とあづま道と呼ばれる東西方向の道路の交点近くに位置している。あづま道の西の前橋として伊勢崎は城下町であった。また大胡も近世初期には城下町であった。近世には基本的に前橋藩領であったが、大胡・伊勢崎両藩また幕府領としての支配も複雑に経緯している。

明治11年の『上野国郡村誌』の記載によれば、木綿・桑の栽培に通じ、水の豊富な田が少ないため、白綿布を最大の産物としている。また、天明2(1782)年の井田文書によれば、二之宮村の人口は家数271戸、男556人、女498人、馬50匹である。

無名川の西側で本調査地から300m北西に、村名の由来である二之宮赤城神社が鎮座する。もともと裾野の広い赤城山の麓の各地には同名の神社が多数存在するが、最も参詣者の多い三夜沢の赤城神社(勢多郡宮城村)の里宮としての関係が、いくつかの神事として二之宮に残っている。赤城山最高峰の黒松山と三夜沢そして二之宮は一直線上に並んでいる。

二之宮の呼称は中世初期に登場する。13世紀末には成立していた『上野国神名帳』には、二之宮との表現が見られ、また14世紀の説話集である『神道集』にも、赤城信仰の中で名が現れている。境内地にある多宝塔の一種である赤城塔など、中世の繁栄を示す遺物も見られる。しかし、神宮として存在していた二之宮氏の活動も含めて、その他の文書類の残存が極めて少なく、状況は明瞭ではない。

しかし、神社の北隣には、中世の最大の東西交通路であった前述のあづま道が走っている。また村の北には12世紀初頭の掘削である大規模な水路女堀が見られる。さらに本遺跡と無名川をはさんだ対岸の二之宮宮下東遺跡また二之宮宮下西遺跡さらに北東の江竜沼など、中世居館の跡はかなりの多く検出されている。特に宮下東では、11,12世紀を中心として関東北部ではかなりまとまった規模での中国陶磁片が発見されていることは、重要である。

また本調査範囲の北に接する真言宗豊山派の無量寿寺は、元禄年間に幕府権力との近い関係の中で再建されたと言われており、今回の調査と直接に関係している。

古代以前

二之宮赤城神社の成立が古代まで遡る可能性は極めて高いが、資料として確実なものは、これまで考古・文献共に知られていない。しかし、本遺跡から西に約1km離れた、二之宮村の西端で宮川右岸に位置する二之宮洗橋遺跡では、「芳郷」を記した9世紀の墨書土器が数点発見されている。勢多郡の郷については和名抄に「芳賀郷」が見られるため、当時の二之宮が芳賀郷であったことは、ほぼ間違いないだろう。

二之宮宮下東遺跡とその約500m西の二之宮千東遺跡では、古墳時代の木製品がまとまって出土しており、古墳時代から集落が広く展開していた。ただ確実な古墳は、二之宮ではまだ未検出である。

I 遺跡と調査の概要

3 調査方法

調査範囲は次のように区分し、それぞれ調査方法を異にした。

西側部分 (字十二天及び六反)	1面調査
中央部分 (字宮東及び六反)	1面調査
東側部分 (字六反及び江竜)	2～3面調査

近世畠跡面と浅間B軽石上下面

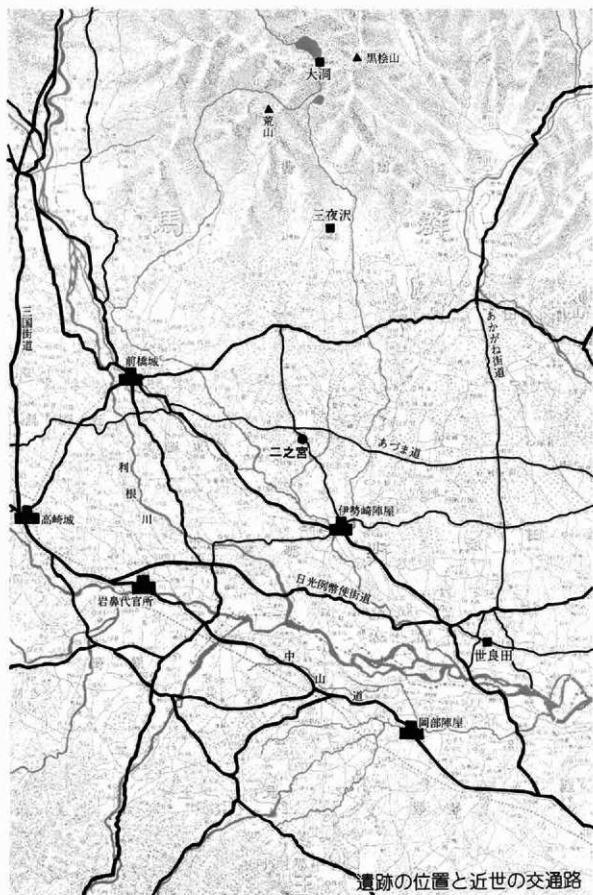
基本層序と概略的な深さは、次のとおりである。

1 現水田・畠耕作土	-0～0.2m
2 褐色砂質土	-0.2～0.4m
3 浅間B軽石・灰	-0.5～0.6m
4 黒褐色粘質土 浅間C軽石混入	-0.6～0.8m
5 黄褐色シルト質土	-0.9～3.5m
6 砂	-3.5～4.0m
7 硬質粘土	-4.0m

以上のうち、3・4層は東側部分のみにしか見られなかった。1層の掘削には土木機械を用いて、調査可能単位ごとに廃土した。

4 凡例

- I 遺跡 1 名称は中央部分の字名によった。地元二之宮町では、本遺跡地を含む無名川の東側全体を川東(かわひがし)地区と呼んでいる。
- 2 グリッドは、国土座標に併せた10m方眼で、図中の方位は座標北である。
- II 遺構 1 調査時に認定した遺構は全て掲載したが、性格認定や番号付与に混乱があったため次のような種類別略号を付与した番号に変更した。旧番号との対照は遺構一覧表を参照されたい。
- D：井戸土坑類(332基) M：堀水路類(102条) J：居住跡類(59基)
N：耕地跡類(41面) X：その他(12基)
- 2 以上の他に、表面調査と実測のみを行った筑波山がある。
- 3 原則として全て図と写真を掲載した。
- III 遺物 1 取り上げた遺物全体の種類と報告率は次のとおりである。
- | | |
|---------------------|------|
| 陶磁器土器類 (1000,2000台) | 約20% |
| 木器 (3000台) | 100% |
| 石製品・石器 (4000台) | 100% |
| 金属器 (5000台) | 60% |
- 2 報告遺物は原則として全て図と写真を掲載した。
- 3 報告遺物の詳細な記録は、遺物一覧表に記した。また索引として器種別に全ての報告遺物を並べた遺物検索表を掲載した。
- 4 報告遺物の中で軸葉のかかった陶磁器については、色調表現に不可欠のため全点原色写真とした。
- 5 陶磁器土器の断面図の表現は、次の意味である。
- 白ヌキ：磁器 斜線：陶器 スミ：土器
- 6 鑑定はそれぞれ、陶磁器は大橋康二氏・仲野泰裕氏、石材は飯島静男氏、木器は藤根 久氏による。







Ⅱ 調査成果

1 西側部分

〈 概要 〉 (PL.18)

この部分は、調査範囲西端の無名川際から無量寿寺参道までで、東西220mほど南北は50～60mである。大部分は字十二天(じゅうにてん)に含まれるが、東端の30mほどは一部字六反(ろくたん)にかかる。(次頁の全体図の東側の字六反部分は、P.111の中央部分全体図に参照。)

東端は、無量寿寺旧参道の道路遺構X004が南北に走り、調査範囲にはほぼ平行して東西走向の2条の大溝M065、M050が貫くローム質の台地である。北西端の一部は無名川の低地の延長で、水田跡N203になっている。2条の大溝を結ぶ南北溝M064の西側では、古代以前の無名川旧河道と思われる砂質土部分が南北走向で見られたが、それは調査していない。

全体としては、古代から近代までほぼ絶え間なく継続した居住域で、僅かに耕作利用された部分が見られる。検出遺構は次のように多様だが、特に井戸が多いことは注目に値する。

溝類(M)	堀跡	4条
	区画溝	19条
	水路跡	4条
居住(J)	掘立柱建物跡	26箇所
	竪穴住居	9棟
土坑類(D)	方形竪穴	1基
	井戸	38基
	桶埋設土坑	19基
	短冊形土坑	94基
	箱形土坑	23基
耕作地(N)	その他	40基
	畠跡	10箇所
	水田跡	1箇所
その他(X)	道路跡	3条
	墓地	1箇所

なお、以上の中で最も古い遺構である古代の竪穴住居群は、それ以後の遺構にかなり壊されて、残存状態は極めて悪かった。また縄文時代と古墳時代の遺物が少し見られたが、遺構は確認されていない。

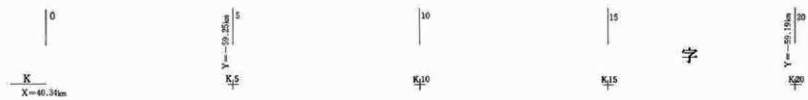
報告は、中央部分まで延びる東西堀に関するものを最初に述べ、以後堀M050以南部分、同以北の西側、同東側の順で行う。

堀・水路跡M048、M050、M057、M064～M066、M074、M075遺構

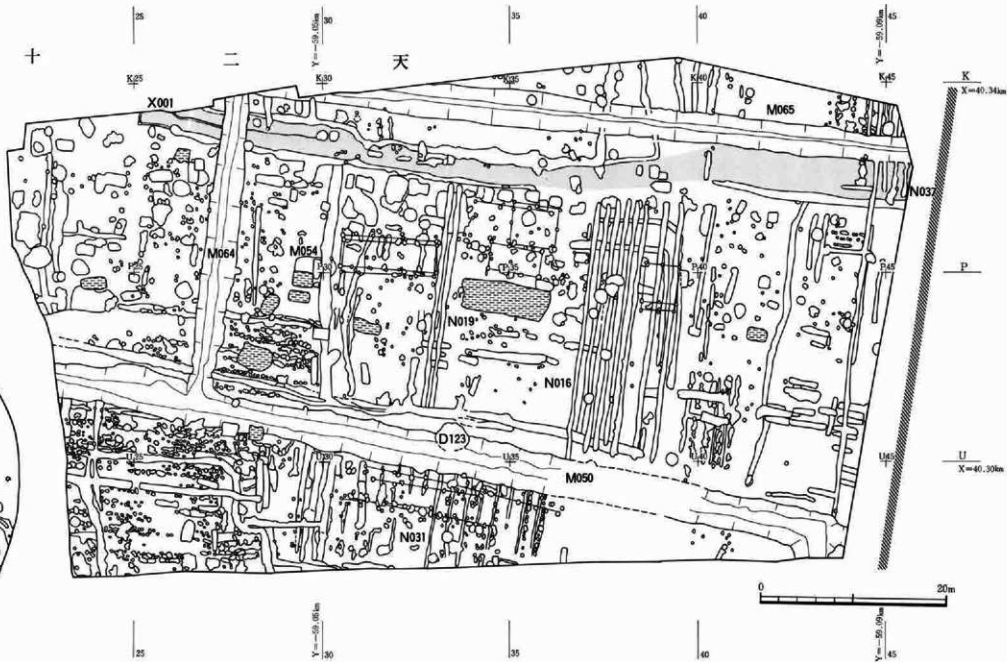
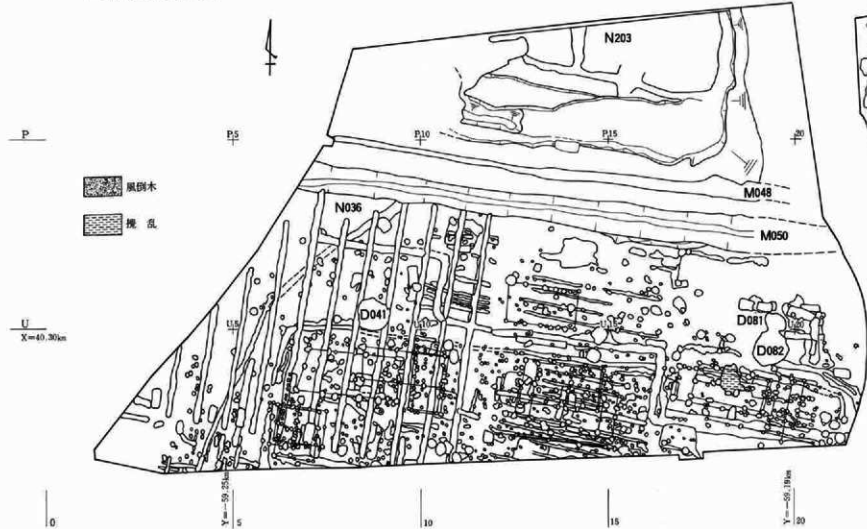
道路跡X001～X004遺構 水田跡N203遺構 (P.19図 PL.5, 6, 19～24)

北側の堀跡M065は、東西方向に直線状に延び、上幅は4mで確認された長さは95m深1.3mである。東端で幅3mの土橋を越えてさらに同一走向で東に延びる部分がM040で、これは85m先で南北溝のM022とT字形に交差している。西端は、調査範囲を僅かはずれた位置で南北堀跡M064と交差する。その先の西にさらに延びるかは不明だが、少なくとも195mの直線で走っている。

断面形はV字形と逆八字形で、水流痕がある。また畠跡N037及び中央部分の池跡X011より古い。E断面 1.暗褐色砂質土 2.砂質土塊含む暗褐色粘質土 3.互層堆積の灰褐色砂泥 J断面 1.耕作土 2.しまりない黒褐色粘質土(X011埋土) 3.黒褐色砂質土 4.暗褐色砂 5.黒褐色粘質土 6.黒褐色砂



西側部分全体図





堀水路・道路水田跡群

南側の堀跡M050は、東西方向に150m直線状に伸びるが、北側の堀との関係は完全な平行ではなく、東側がやや広がっている。そして東端は同一方向に浅い溝M066を分岐しながら、直角に南方向に曲がっている。西端は、そのまま無名川低地に入っている。中央で北直交方向に溝M064を分岐している。最大上幅は5m底幅2m深1.5mを測る。

断面形は東側はU字形、西側は逆八字形で、水流痕がある。D123などの井戸と重複している。F断面 1.暗褐色砂質土 2.淡褐色砂 3.互層堆積の砂と黒色土 4.灰白色粘質土 GH断面 1.耕作土 2.暗褐色砂質土 3.砂含む黒褐色粘質土 4.砂含む暗褐色粘質土 5.黄色軽石含む黒褐色粘質土 6.互層堆積の砂と黒褐色土 7.砂

分岐した溝M066は、上幅2m深1mを測るが、確認範囲が短いため、走向は不明。非調査部分の反対側で検出されなかったため、M050と同様に南へ曲がる可能性もある。断面U字形で水流痕がある。

南北の堀とをつなぐ堀跡M064は、長さ32m上幅3m底幅1mで、断面形は、逆八字形である。東西方向の溝M048や道路跡X001など、この堀より新しい遺構が多い。

水路跡M048とM057は、堀跡M050の北側2mをほぼ平行して走っている。上幅1m底幅0.6m深0.5mほどで、前者は130m後者は50mほどの長さで、その内30mは重なっている。M050との間は傾斜がある場合が多く、積極的に道路跡とは考えにくい。両者はM050に規制された同一の区画溝だろう。

東西方向の道路跡X001は、北堀の南側に沿って110m確認された。西半分は両側に側溝があり、側溝間は1~1.5mほどである。中央で北側溝は北に曲がり、東側では南側溝のみが堀に平行する。この東側は1~2mほどの幅となり、土橋からの南北道路跡X004と交差する。以上のように形状の異なる東西両半分の中央では、北にさらに道路が分岐することは間違いないが、不明瞭である。

西側の側溝での遺物出土が多い。堀跡M064より新しく、畠跡N037より古い。なお北堀跡に平行して土橋よりさらに東に伸びる痕跡はない。北側溝断面 1.暗褐色砂質土 2.ローム塊含む黒褐色砂質土

南北方向の道路跡X004は、北堀跡の土橋よりまっすぐ南下している。同一走向で上幅0.6~1mの側溝が3本見られる。そのため路面は東西両側になるが、幅は共に2m前後である。ただし最も西側の側溝は調査範囲の南側では、不明瞭になる。

土橋よりそのまま南下しているのは、東側の路面である。しかし土橋のすぐ南で墓地跡X021に壊されている。また東側溝は北大溝に少し切られた状態である。一方、西側の路面は、西側溝が東西方向の道路跡X001の南側溝の続きである。

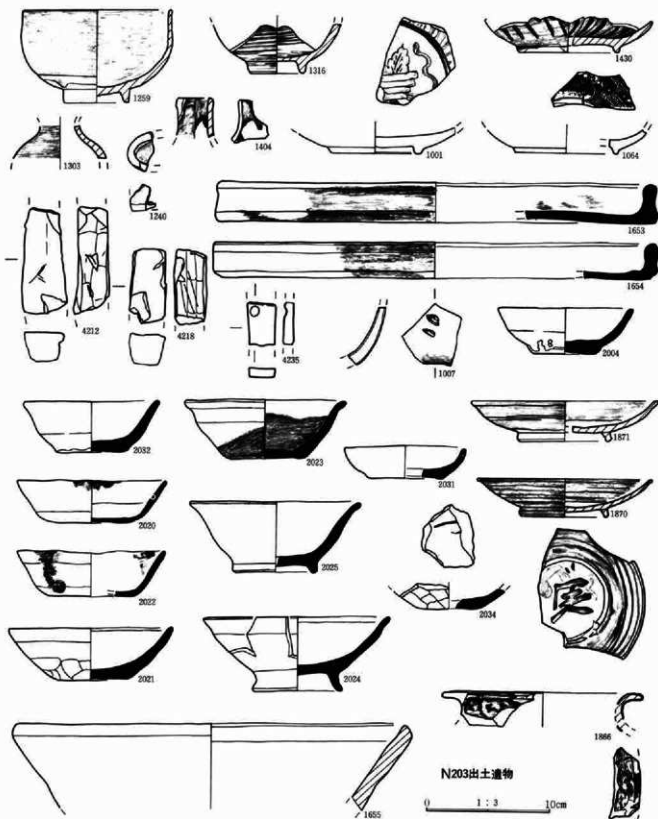
以上をまとめれば、東路面が最も古くからあり、それに規制されて北堀の土橋が掘り残される。その後、土橋を少し避ける状態で墓地が形成されたため、西路面に移動した。またそれは東西道路の造成と同一のできごとでもあった、となる。なお東路面を北にそのまま向かえば、120mほどで無量寿寺の山門に至る。

南側の道路跡X003は、幅1.0m以下の小道だが、両側に側溝がある。僅かに15mほどの検出であるため不明瞭だが、そのまま延びれば西側は南堀跡の屈曲部に東側は南北道路X004と交差する。

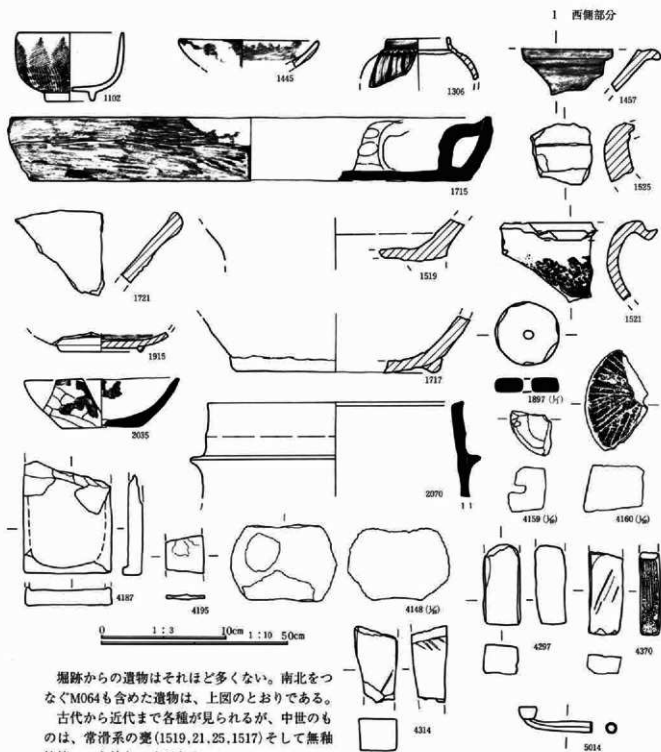
南堀跡屈曲部より北に区画溝M075が延び、さらにその西8mほどでやや蛇行して溝M071が同様に走っている。前者は道路跡X001と重なっているが、関係は不明。

南堀跡の西端側で水路跡M048のさらに北側が、無名川低地の延長である水田跡N203である。浅間山B軽石を塊状に含む砂層下に東西1条南北2条の畦畔状の高まりが確認された。しかし性格不明の掘り込みがいくつもあり、水田面としての検出状態は、非常に悪く、まとまった1枚の単位区画は不明。むしろ上記層の直上の褐色粘質土中に大量の遺物が見られた。

II 調査成果



水田跡N203からの出土遺物は上図のとおりである。古代から近代まで多様であるが、注目されるのは近世では初期伊万里輪花皿(1001)、中世では竜泉窯系青磁碗(1007)、古代では「庚」字墨書灰釉皿(1870)そして二彩瓶(1866)である。特に1870の墨書がいつなされたかは、興味深い。1866は、緑と白の薄い釉で8世紀代と考えられるが、同時期の遺物は他には当遺跡全体でも見られない。



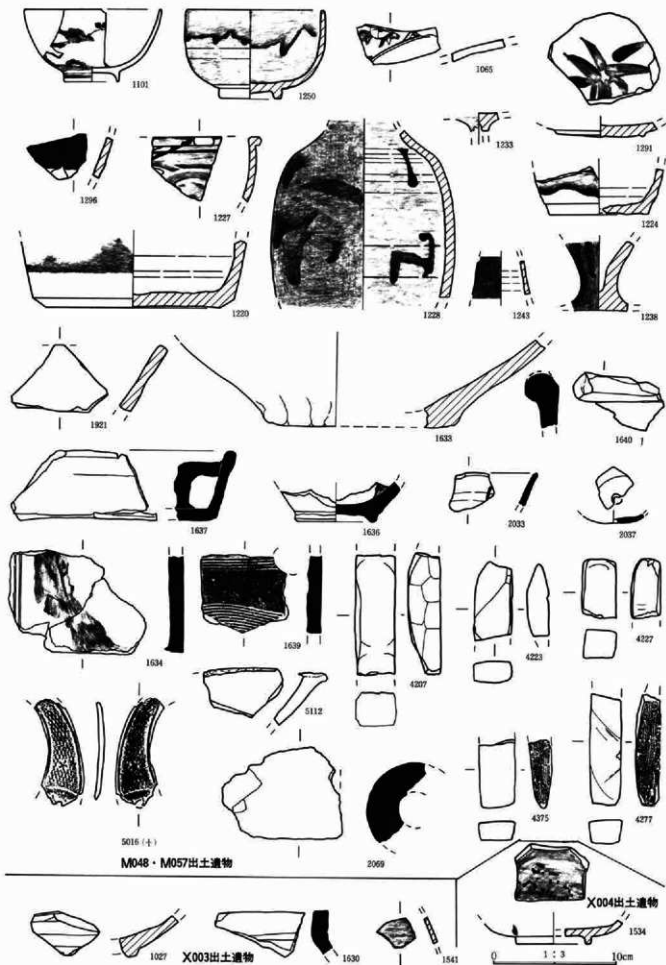
堀跡からの遺物はそれほど多くない。南北をつなぐM064も含めた遺物は、上図のとおりである。古代から近代まで各種が見られるが、中世のものは、常滑系の甕(1519, 21, 25, 1517)そして無袖焼締のコネ鉢(1721)がある。

このうちM064から出土した甕の口縁部は、13世紀の特徴を持っており、とりえず堀跡の造成時期を示していると考えたい。

なお近世の遺物では、大小の碗(4187, 95)が興味深い。後者はM065から出土。M064が中世の遺物しかないに対し、南北の堀跡は共に近世の遺物を多く含んでいる。両者がかなり遅くまで水路として機能していたことを示しているのだろう。

南大堀に平行する区画溝M048とM057からやや多くの遺物が見られた。(P.24)陶磁器類は、近世が中心で18世紀中頃のものが多く、遺構使用年代と思われる。それより古いものでは、福建広東系の呉須手青花皿片(1065)が特筆に値する。1580年代～17世紀前半のもので、出土位置はM064(続P.25)

M040・M050・M064・M065出土遺物

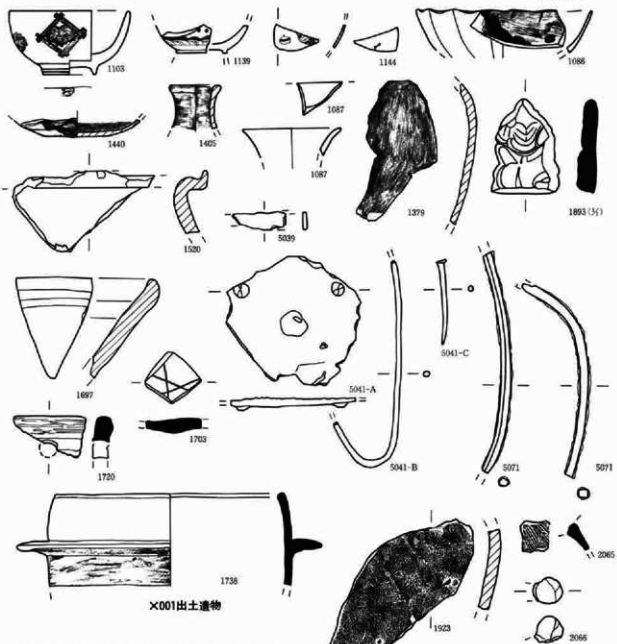


M048・M057出土遺物

X004出土遺物

X003出土遺物

1 西側部分



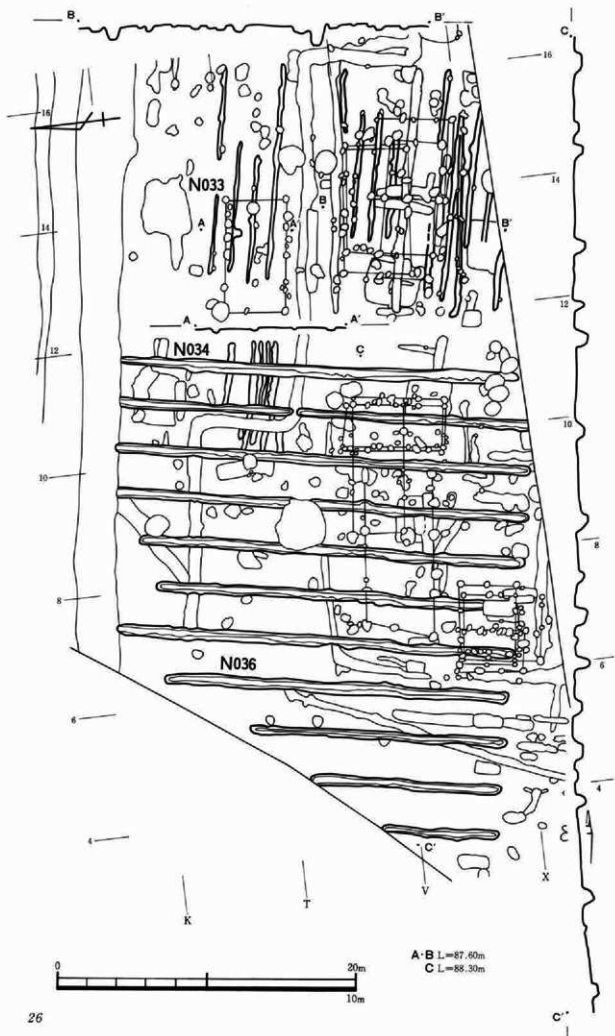
との重複箇所から約12mほど西側のM048の埋土中である。他に近世と思われる性格不明の銅製品片(5016)は、湾曲した扁平なもので両面に網目と星形が鑄造されている。中世の焼締陶器類(1633,1921)と古代土器が混在していたが、土師器碗片(2033)には不明墨書が見られた。

道路跡X003の側溝からは、近世後半の瀬戸美濃系灰釉鉢(P.21-1027)と京焼系灰釉碗(1541)が出土した。道路跡X004の側溝からは、18世紀前半から中頃の瀬戸美濃摺絵皿(P.24-1534)が出ている。

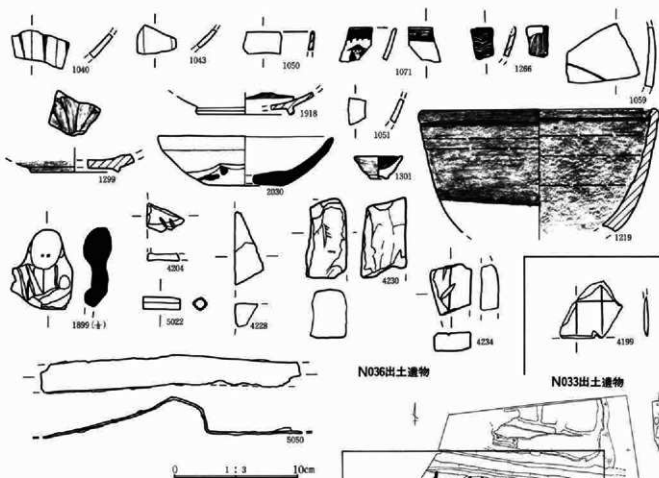
道路跡X001の側溝出土遺物は、上図のように多彩である。陶磁器は、18,19世紀のものが多い。三河高浜土器釜(1738)は、鈔の上面から内面にかけて赤色の光沢塗彩が施されている。泥人形(1893)は、仏像のようである。主とした使用時期は、この18,19世紀の頃であろう。

中世の焼締陶器も13世紀の常滑の甕口縁片(1520)など計3点が見られる。古代の土師器片(1703)には刻刺がある。また古墳時代前期の土師器片(2065)も混じっていた。

この遺構は道路跡としては遺物が多いが、南側に居住域が接していたためと思われる。



1 西側部分



畠跡N033, N034, N036遺構(PL.18)

最西端の無名川低地に接する台地で、南堀跡X050の南側で、共に接して検出された。両者は重複遺構のいずれよりも新しい。

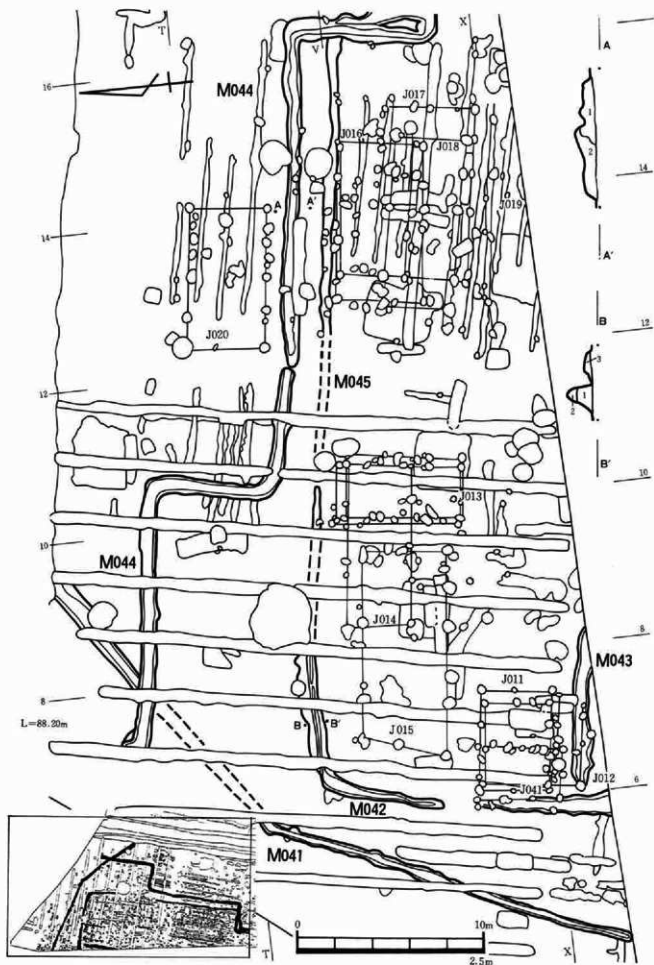
西側のN036は、南北走向でサクは整然としており、上幅0.5~7m間隔2.1~2.3mで、掘り込みは0.3m以上と深い。耕作地単位は、東西31m南北28mで、長方形とすれば面積868㎡以上である。ただし北西側は低地に接しているため、五角形の可能性もある。

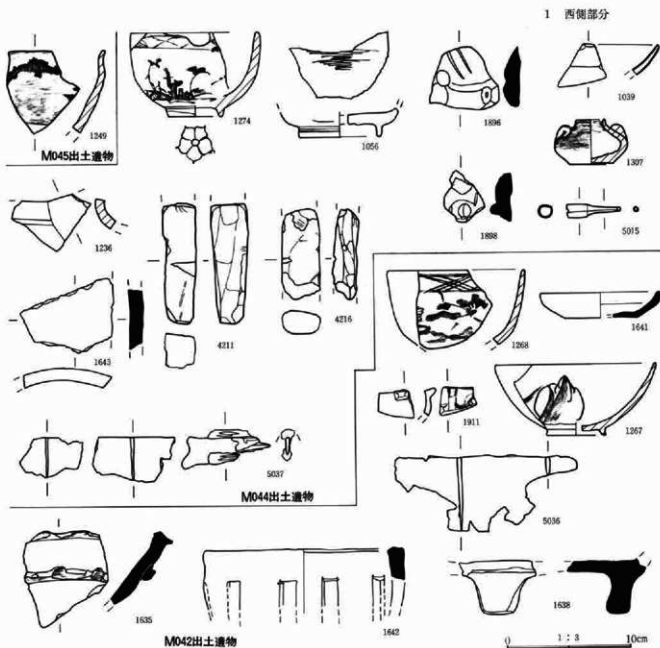
東側のN033は、東西走向でサクはやや煩雑な状態で、上幅0.4m間隔1.1mを測る。掘り込みは0.2~3m、耕作単位は東西14m南北19m以上、面積は266㎡以上となる。南北に分かれる可能性もある。両者の間は5mほどの空白地帯となっている。

N036と重なるN034は、極めて狭い範囲で検出され、残存状況は良くない。東西走向でサクの状態はN034と同様と思われるが、重複しているため不明瞭。耕作単位は東西7m南北3.5mほどで、面積は24.5㎡となる。N036との関係は不明。

N036の出土遺物は、古代から近代まで多様だが、陶磁器は18世紀から19世紀までのものがやや多い。仏像状の泥人形(1899)や棒具状の鉄板(5050)そして硯片(4204)・砥石類(4228,30,34)・キセル(5022)は、その時期のものだろう。

中世では、竜泉系青磁碗片(1040,43)が注目される。重複する南堀跡遺物の混入か。また古代の灰釉碗(1918)と土師器杯(2030)は、同じく重複の竪穴住居からのものと思われる。



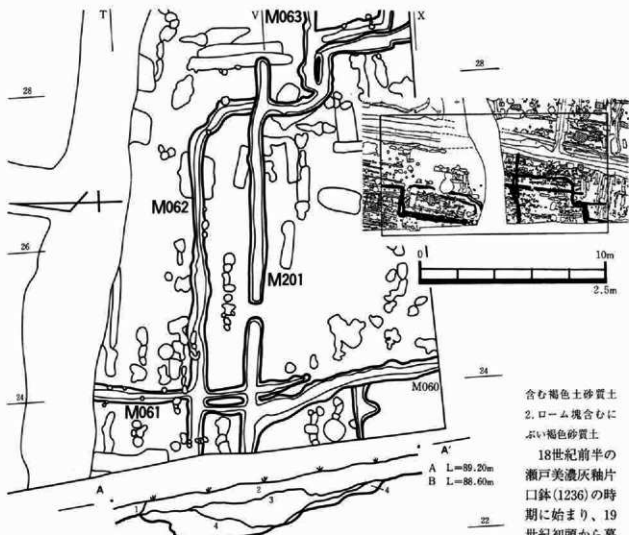


区画溝M041～M045遺構 (PL.6,25,26)

西端のM041は、斜め走向で途中で角を付けて曲がる。無名川低地を意識したのだろう。検出全長は38mで、浅く途中は消える。18世紀後半の瀬戸美濃腰鍔鍔(1247)が出土。

東のM042は、掘立J011～J015を囲う区画の北西側だろう。上幅0.6m深さ0.4mほどで、断面はV字形。B断面 1.暗褐色砂質土 2.ローム塊含む褐色砂質土 3.不均一な暗褐色砂質土 西側は一部2mほど切れる。出土陶磁器は17世紀から19世紀まで幅がある。肥前柴付皿片(1911)は17世紀中頃。東に離れたM045も同じ遺構と考えられ、北辺全長は41mに達する。17世紀前中頃の瀬戸美濃天目碗(1249)が出土。18世紀前半までが掘削時期だろう。東西走向のM043も、掘立柱建物群に関係する区画溝。ただしJ012とは重複。

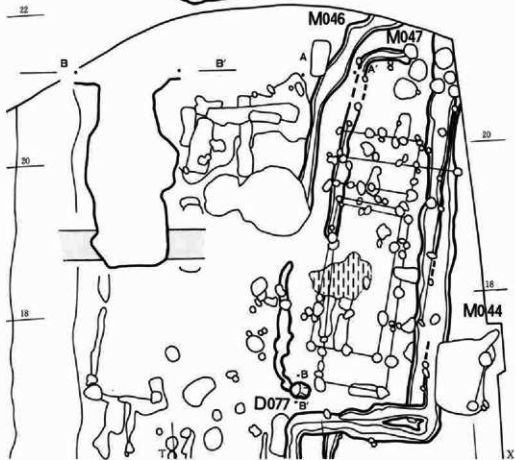
北側のM044は、無名川低地際から2回直角屈曲を繰り返して、南東に走る(東端はP.30図)。各辺長は、西から15m7m25m8m22m以上。途中で途切れがちでもあり、一時期の掘削ではない。水流痕はなく、掘立群J016～J019を囲ったものと思われる。東側でM045に完全に重なる。断面 1.炭化物・ローム塊



含む褐色土砂質土
 2. ローム塊含むに
 ぶい褐色砂質土

18世紀前半の
 瀬戸美濃灰釉片
 口鉢(1236)の時
 期に始まり、19
 世紀初頭から幕
 末の肥前染付鉢
 (1056)までの長
 期間の使用が考
 えらえる。後者
 は二次焼成を受
 け、土層からも
 後の時期の火災
 が伺われる。

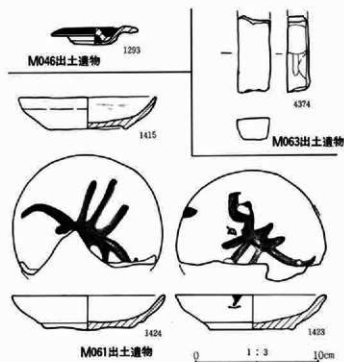
A L=89.20m
 B L=88.60m



区画溝M046,
 M047, M061,
 M062, M201
 遺構、井戸跡
 D077遺構
 (PL. 27)

西側のM046,
 M047はM044と
 併せて、掘立群
 J021-J024など
 を囲っている。

1 西側部分



A断面 1.攪乱 2.表土 3.暗褐色砂質土 4.ローム塊
含む黄褐色砂質土

掘立の重複に合わせるような数回の掘り返しが考えられる。水流痕はない。瀬戸美濃の船軸蓋(1293)は18世紀以前のもの。

東側のM062とM063は、M044とほぼ同様に南に向かう二重の屈曲が見られる(東端はP.61図)。調査範囲内では北東側に掘立群J027が見られる。同一走向で重なるM201は、途中で途切れるが同じ目的であろう。

直交するM061は、一部二重になり、小道の開溝かも知れない。鉄絵皿(1423,24)より17世紀後半と考えられる。

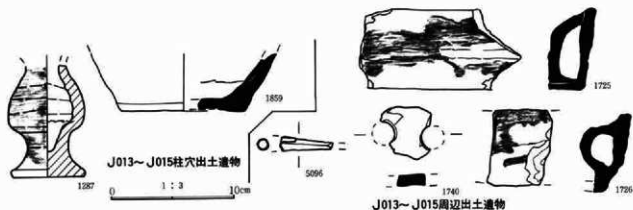
井戸跡D077は、M046西端に重なっている。深さ2.4mで、海拔86.5m以下より湧水。底は方形に掘り、掘り直しの痕跡が見られる。僅かにタガ状木製品片20片ほど出土した(非掲載)。近世か。

掘立柱建物跡J013～J015遺構(P.32図 PL.6,27)

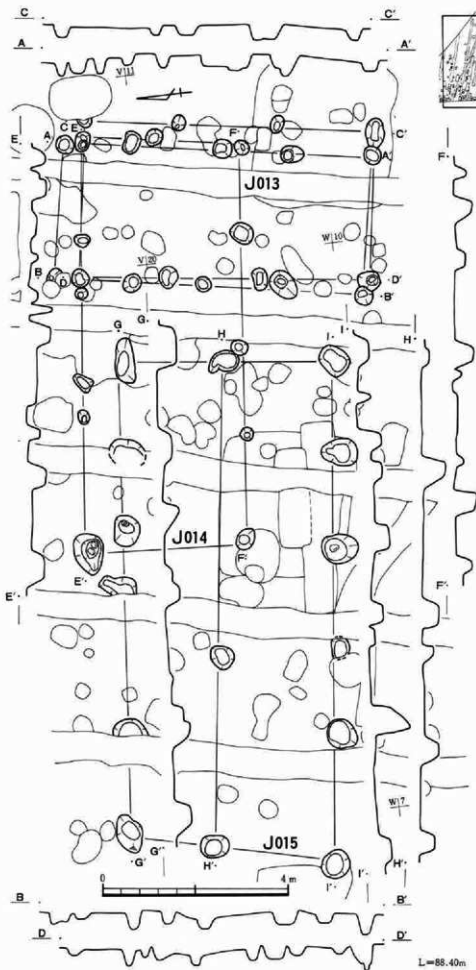
溝M042に北西側を囲われている。東側のJ013は、1×3間の南北棟で、建替えは1回。南北6.3m、東西3.2mで、面積は20.2㎡。柱穴は、確認面から20～40cmの深さである。

これに重なる中央のJ014は、1×4間の東西棟で、建替えはない。東西8.4～8.6m、南北3.4mで、面積は28.9㎡。柱穴の深さは40cm前後で、径の大きい北西端のものには柱止めの礫が2個見られた。

西側のJ015は、2×4間の東西棟で、建替えはない。東西10.0～10.6m、南北4.5mほどを測り、面積は46.4㎡と大形である。基本的に東西方向の3部分で構成されており、方形の中央と東部分の幅は、3.8mの規格が見られる。南辺の中央と東の境の柱穴には、柱止め礫があり、東部分は中間にさらに柱穴を持つ。梁方向には、榑持柱穴がそれぞれあり、中央部分の中間に榑木受けと思われる柱穴もある。西部分は、やや台形状の平面形である。



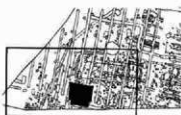
J013～J015周辺出土遺物



確認面からの柱穴の深さは、30～60cmと差があるが、この遺構は調査時には認識されていなかったため、掘り足りない可能性もある。

これらの掘立のうちの柱穴から15世紀の瀬戸灰軸花瓶(1287)、そしてJ013の柱穴から壺状の酸化土器(1859)が出土している。しかし、柱穴以外の遺物は焙烙(1725.26)やキセル(5096)など18世紀前後と思われるものが多い。花瓶は伝世の可能性もあるため、後者を使用年代と考えたい。そうであれば、区画溝M042、M045の年代とも整合してくる。

なお、北側の区画溝M044でも中世の水滴(P.29-1307)が出土している。J015は、この地区での最も主要な建物と考えられる。



掘立柱建物跡 J011,
J012, J041, J045遺構
(PL.28)

区画溝M042の西側に接する掘立柱群。

J011は、2×3間の東西棟で、東西5.2～5.3m、南北3.7～3.8mを測り、面積は20.1㎡となる。柱穴は、確認面から20～40cmの深さで、四隅が深い。

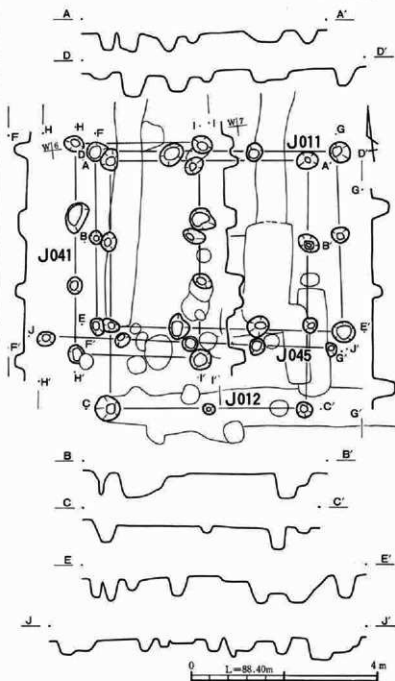
J012は、2×4間の南北棟で、東西4.2m、南北5.2mを測り、面積は21.8㎡。柱穴の深さはJ011と同様。

J041は、1×4間の南北棟で、南北4.5m、東西2.7mを測り、面積は12.2㎡。深さは上記と同じ。

また建物にならないJ045は、長さ6.1mで5個の柱穴が東西に等間隔で並ぶ。深さは同様である。

これらの建物の内部の柱穴外で、瀬戸美濃船軸菊皿(1286)が出ており、17世紀後半の年代がこれらの建物の時期と考えられる。

なお、各建物の相互の重複関係は不明。またJ012と区画溝M043の重複関係も分からない。



周辺出土遺物

0 1:3 10cm

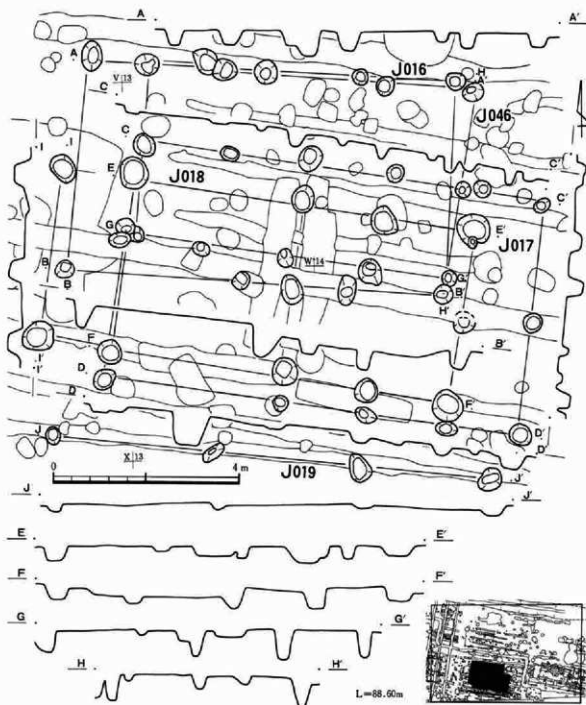
II 調査成果

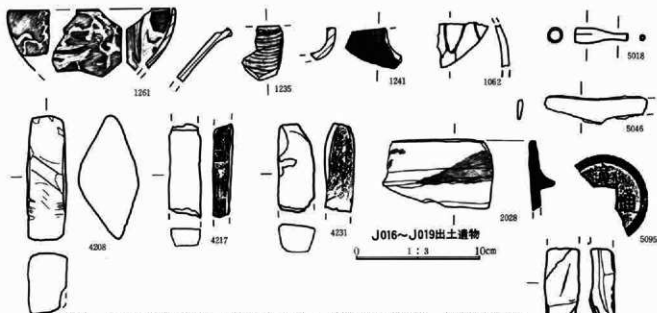
掘立柱建物跡 J016～J019, J046 遺構 (PL.6,28)

区画溝M044及びM045の南側の掘立柱群。

J016は、1×3間の東西棟で、東西7.7～8.0m、南北4.5mを測る。面積は35.3m²で、柱穴の確認面からの深さは北辺が30cm前後、南辺が40～60cmと少し差がある。中央で東西に大きく分かれ、西半分は桁方向の柱穴間隔は3.8mに対し東半分は2.2mである。区画溝M045と重なる。

J046は、1×4間の東西棟。東西6.7～6.9m、南北3.9～4.0mで、面積は26.9m²となる。柱穴の深さは60cm前後である。南辺はほぼ均等に1.7～1.8mの間隔で柱穴が並ぶが、北辺は中央のものが抜けている。同様に区画溝M045と重なる。





J017は、2×5間の東西棟。東西8.6～9.0m、南北5.0mを測り、面積は44㎡と大形である。柱穴の深さは、20～30cmと浅い。南北の長辺には、土坑D069と重なった南辺の一部を除いて、1.6～1.8mのほぼ等間隔で柱穴が並ぶ。

J018は、2×4間の東西棟。東西8.9m、南北3.7mを測り、面積は32.9㎡となる。柱穴の深さは、40～60cmである。全体は3部分に分かれ、桁方向の間隔は西より、1.6m 3.7m 3.6mとなり、東部分には中間に一つ柱穴が入る。庇的な西部分以外はJ016に構造が近似している。

J019は建物ならず、東西方向9.4mに4個の柱穴が並んでいる。深さは20cm以下と浅い。

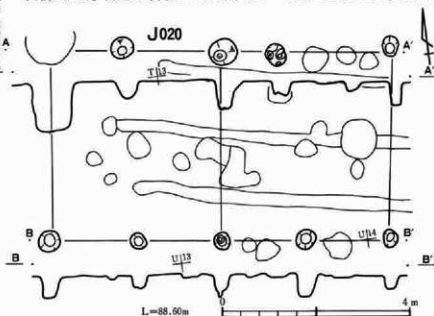
柱穴及び建物内での遺物で17世紀後半から18世紀前半のものは、肥前染付瓶(1062)・同二彩皿(1235)・瀬戸美濃胎軸片口(1241)・キセル吸口(5018)がある。19世紀の瀬戸美濃二彩碗(1261)は、畠跡N036出土片と接合した。そのため、主な使用時期は17世紀後半から18世紀前半で、J016とJ046は18世紀前半が妥当だろう。

掘立柱建物跡J020遺構 (PL.28)

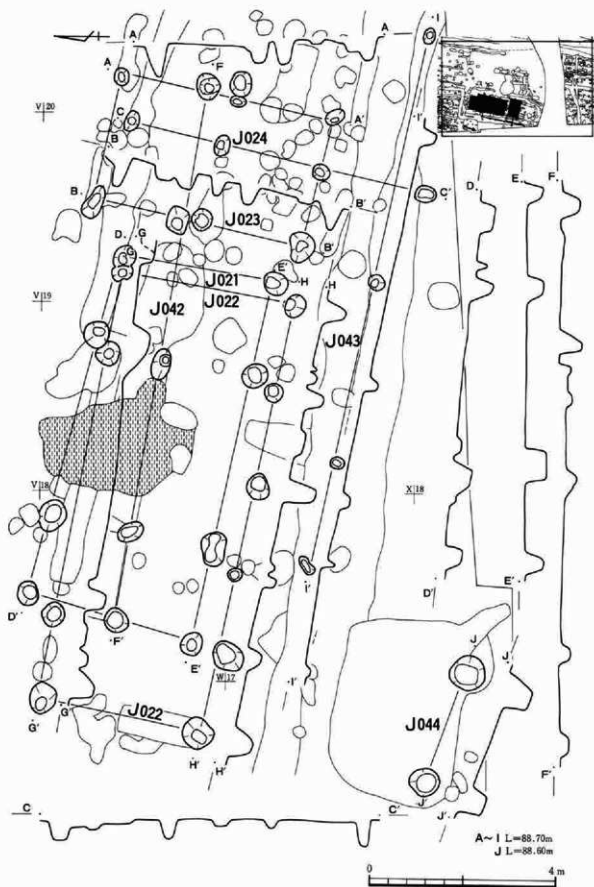
区画溝M044北側の1×4間の東西棟。東西7.3m南北4.0mを測り、面積29.2㎡。南辺は等間隔の1.8m深さ20～60cmの柱穴が並ぶ。近世か。

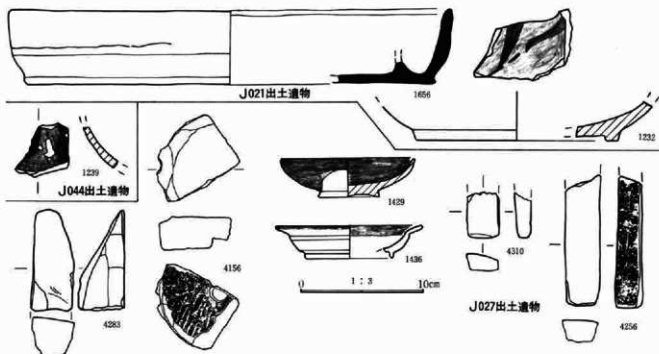


J020出土遺物



II 調査成果





掘立柱建物跡 J021～J024, J042～J044 遺構 (PL.29)

区画溝M044の北東側の掘立柱群。J021は、 1×3 間の東西棟。東西7.6～7.9m、南北3.3～3.6mで面積は27.3 m^2 。柱穴は深さ40cm前後で、長辺の中央が約4mの間隔があく。柱穴と建物内からは17世紀の瀬戸美濃笠原鉢(1232)と18世紀と思われる土器塔塔(1656)が出土したため、後者の年代とする。

J022は、 1×5 間の東西棟。東西3.5～3.7m南北9.4～9.5mで、面積は34.2 m^2 。柱穴は40～60cmの深さで、南辺は1.9mのほぼ等間隔で並ぶ。J023は、 1×2 間の南北棟。東西2.7m南北4.5～4.6mで、面積は12.4 m^2 。柱穴は深さ40～80cmで特に四隅が深い。

J024は建物にならず、南北6.5mの間に深さ20～60cmの柱穴が4個並ぶ。J042も建物にならず、東西11.4mの間に深さ20～50cmの柱穴が5個ややまばらに並ぶ。J043も建物にならず、東西11.5mの間に深さ20～30cmの柱穴が4個まばらに並ぶ。J044も建物にならず、東西2.5mの間隔で底径40cm深さ60cmの柱穴が2個並ぶ。周辺から18世紀の瀬戸美濃船釉脚部(1239)・石臼・砥石が出土。

以上のように、建物にならないものが多いが、全体としては区画溝M044に規制される18世紀の建物群と考えられる。なおJ024とJ043は、M044と重なる。

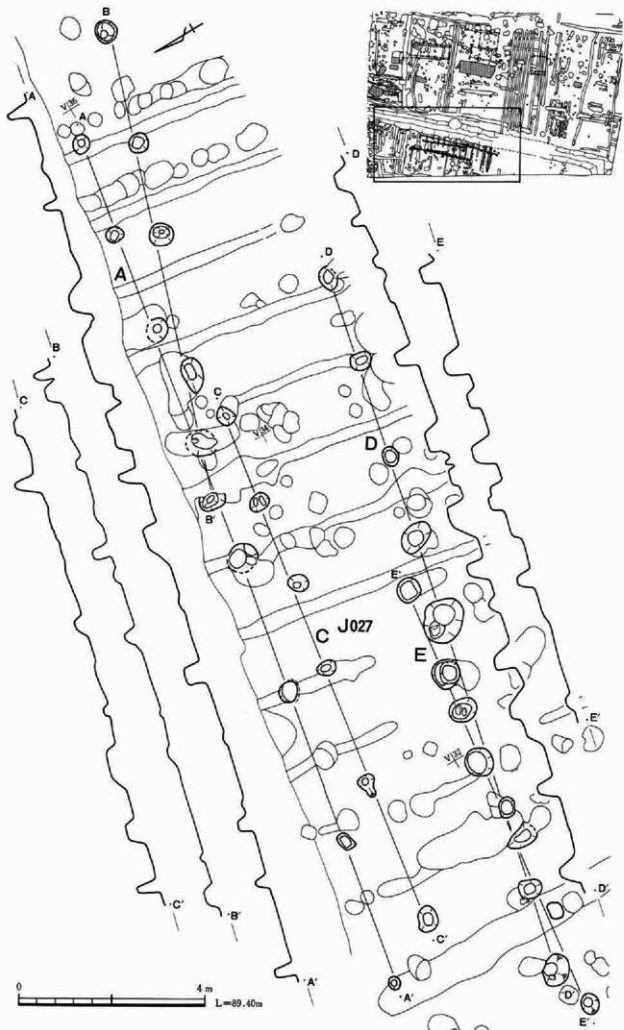
掘立柱建物跡 J027 遺構 (P.38図 PL.2.16)

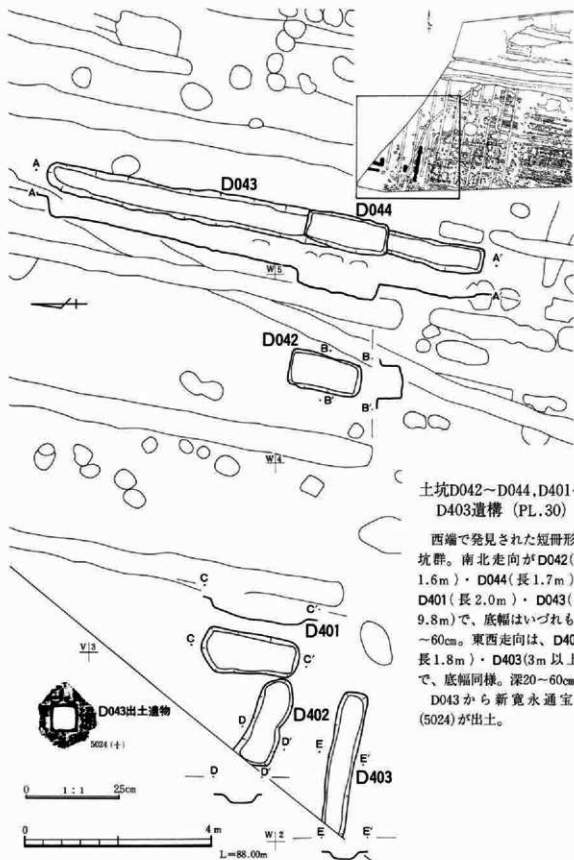
区画溝M063の北東側で南堀跡にそって検出された。

次頁の図のように東西方向に並ぶ柱穴列5本が調査終了後確認されたが、建物にはならない。

規模はそれぞれ、A列長さ19m間隔2.0～3.5m柱穴数8個、B列長さ10.7m間隔2.0～3.0m柱穴数5個、C列長さ11.5m間隔2.0～3.2m柱穴数6個、D列長さ15.5m間隔1.8～2.0m柱穴数9個、E列長さ9.5m間隔2.0～2.5m柱穴数5個である。D列が最も間隔のばらつきが少なく、深さも40cm前後とそろっており、柱止め礎の入った柱穴も見られた。いずれも高跡N031と重なっている。この周辺で、1580年代～1610年代の肥前陶器皿(1429)と17世紀中頃の瀬戸美濃灰釉端反皿(1436)及び砥石が出土している。

この遺構群は、調査時には認識されなかったため、判明したことは少ないが、D列は建物の一部である可能性は高く、またA列は南堀跡に伴う木柵かもしれない。一応17世紀中頃と考えられる。

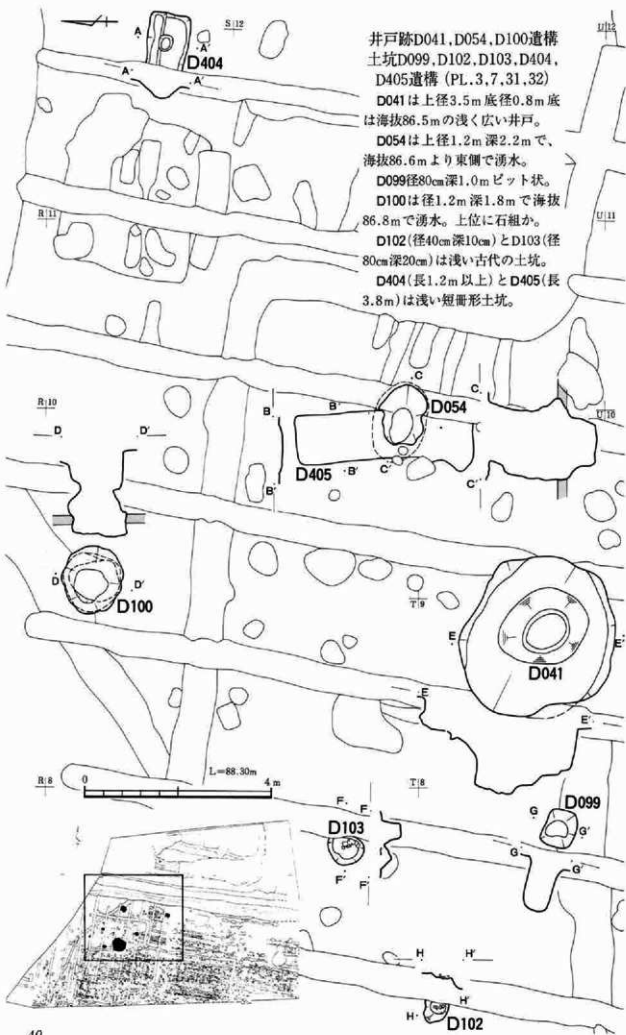




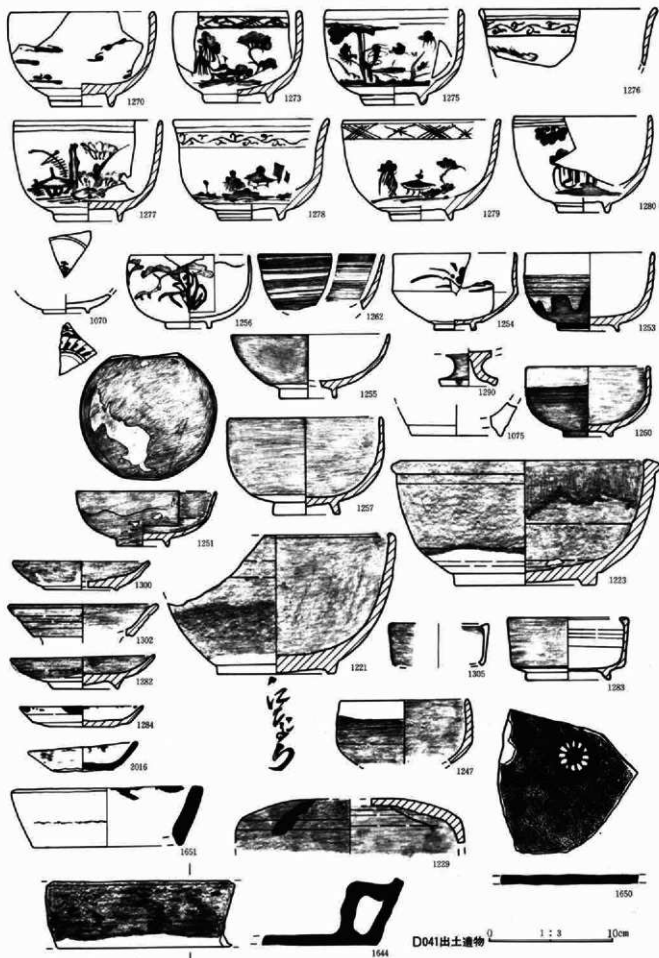
土坑D042～D044, D401～
D403遺構 (PL.30)

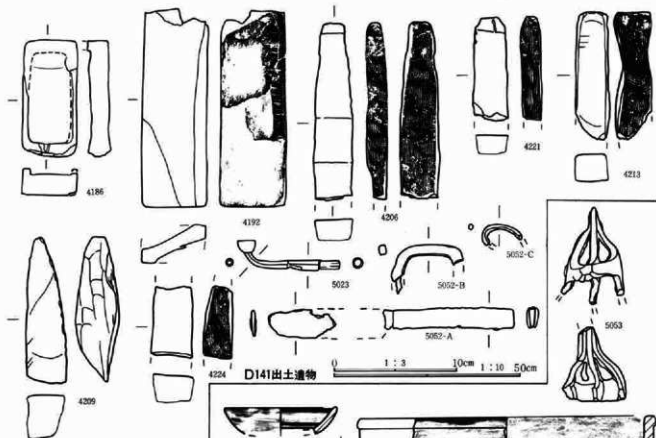
西端で発見された短冊形土坑群。南北走向がD042(長1.6m)・D044(長1.7m)・D401(長2.0m)・D043(長9.8m)で、底幅はいずれも40～60cm。東西走向は、D402(長1.8m)・D403(3m以上)で、底幅同様。深20～60cm。

D043から新寛永通宝片(5024)が出土。

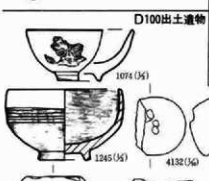


井戸跡D041, D054, D100遺構
 土坑D099, D102, D103, D404,
 D405遺構 (PL. 3, 7, 31, 32)
 D041は上径3.5m底径0.8m底
 は海拔86.5mの浅く広い井戸。
 D054は上径1.2m深2.2mで、
 海拔86.6mより東側で湧水。
 D099径80cm深1.0mビット状。
 D100は径1.2m深1.8mで海拔
 86.8mで湧水。上位に石組か。
 D102(径40cm深10cm)とD103(径
 80cm深20cm)は浅い古代の土坑。
 D404(長1.2m以上)とD405(長
 3.8m)は浅い短冊形土坑。

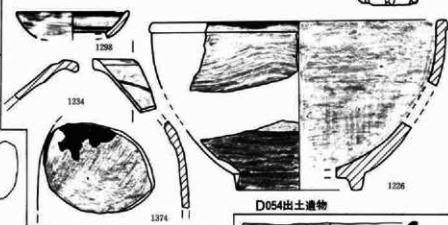




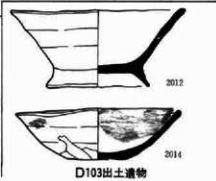
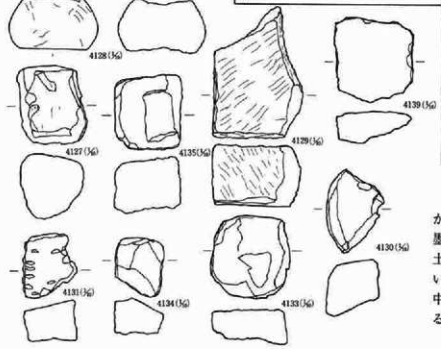
D141出土遺物



D100出土遺物



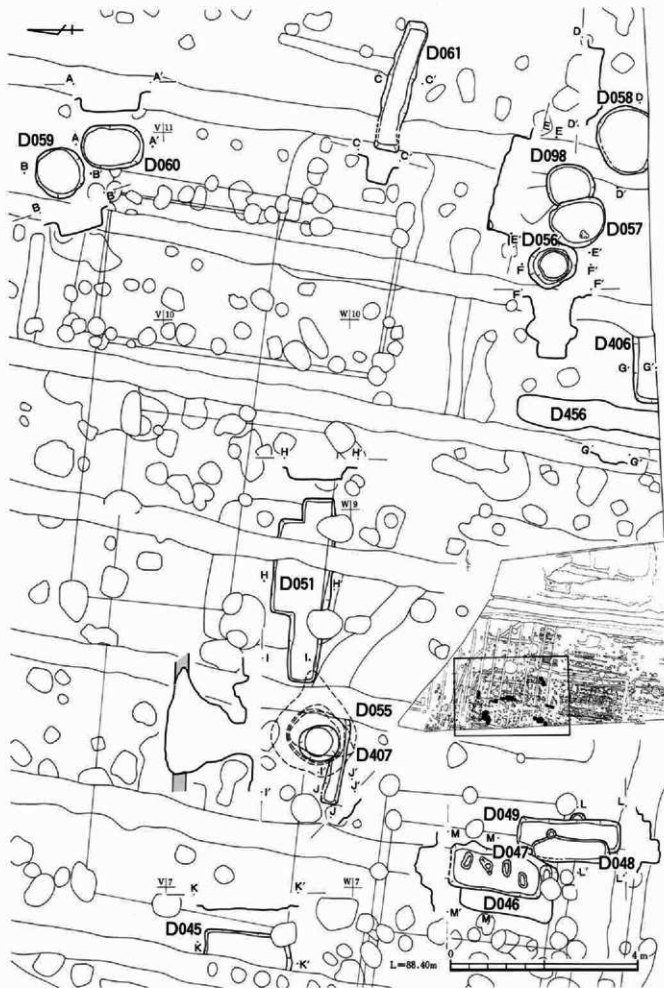
D054出土遺物



D103出土遺物

D041からは大量の陶磁器などが出土。特に肥前陶胎染付碗群・墨書瀬戸美濃灰釉片口(1221)・志土呂錆釉灯明皿(1284)が興味深い。全体では18世紀中頃の遺物が中心だが、19世紀初頭も少し混じる。

また16世紀前半(1300)も含む。



II 調査成果



D054は、肥前二形鉢(1226)など18世紀後半の陶磁器が中心。3本の細板を一つに溶接した不明鉄製品(5053)が見られた。D100は、石組みに転用されていた石塔・石白類が多く出ている。瀬戸美濃腰鉢碗(1245)の19世紀初頭が廃棄年代と考えられる。D103からは土師器高足碗(2012)と杯(2014)が出土し、前者はD102出土片と接合した。11世紀代。

井戸跡D055, D056遺構

土坑D045～D049, D051, D057～D061, D098, D406, D407, D456遺構(P.43図 PL.7.33, 34)

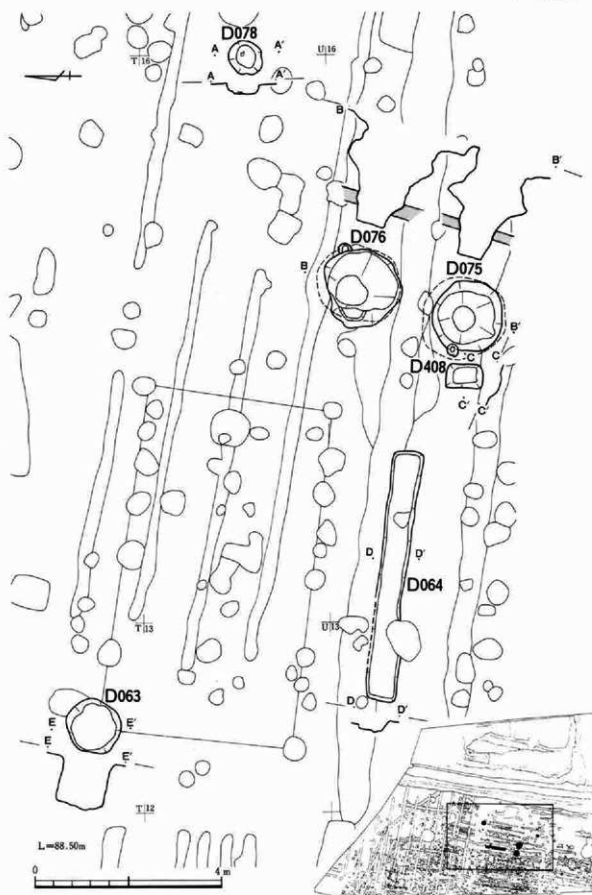
井戸跡D055は、直径0.7m深2.0mのフラスコ状で海拔86.8mより湧水。特に東側が水が多く、壁崩壊。土師器高足碗(2015)以外に近世陶磁器小片がかなり出土しているため、近世。掘立J015と重なる。また長1.8m幅30cmの短冊形土坑D407とも重複。

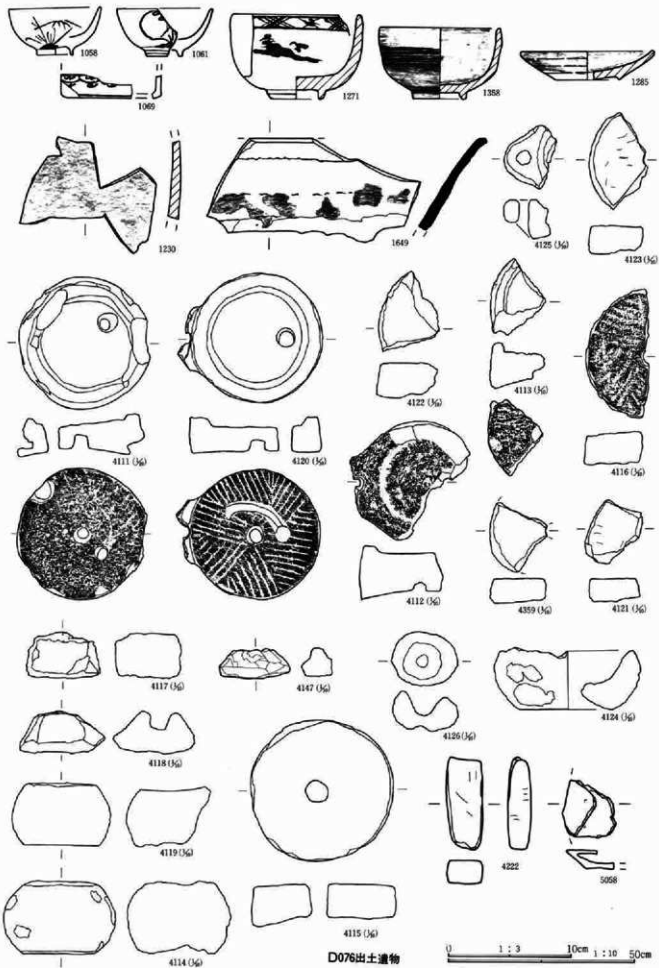
井戸跡D056は、直径1.0m深1.3mと浅いが下に壁崩壊痕が見られるため、井戸跡と思われる。須惠器碗(2013)・壺(2017)が出土しており、10世紀頃と考えられる。

D045～D049は南北走向の短冊形土坑群で、長1.6～2.2m幅0.3～0.7m深20～40cmである。掘立J011, 012と重なる。同じ南北走向の短冊形土坑には、東にやや離れてD456がある。東西走向では2基重複したD051(長4.2mと1.9m)、そしてD061(長2.6m)とD406(長1.2m以上)が離れて見られる。そのうちD046からは瓦質土器瓦灯(1864)・唐草形鉛飾り具(5026)など多様な遺物が見られるが、近代と考えられる。D061はやや深く50cmある。D051より瀬戸美濃灰軸小皿(1297)が出土。近世。

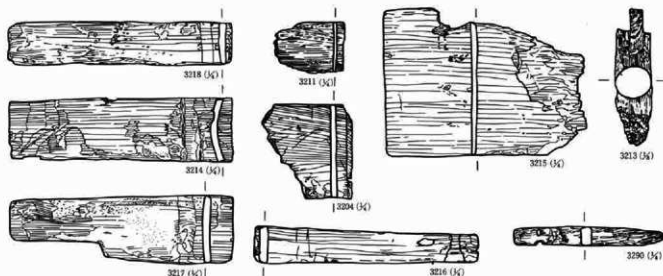
D057, D098, D059は桶埋設土坑の可能性ある。いずれも径0.9～1.0m深0.4～0.5mで、底が平坦かつ壁は垂直に近い。調査時には認識がなかったため、D057はややゆがんだ円形になったが、基本的には円形であったと思われる。D057からは、ガラス薬瓶(6002)が出ており、明治大正期と思われる。

それらに近接する楕円形のD058(長径1.4m深30cm)とD060(長形1.2m深30cm)も平坦な底と垂直な壁により、桶埋設土坑であったかもしれない。後者は初期伊万里染付瓶(1047)など多様な遺物が出ているが、常滑大甕(1309)による近代の遺構とするのが妥当である。

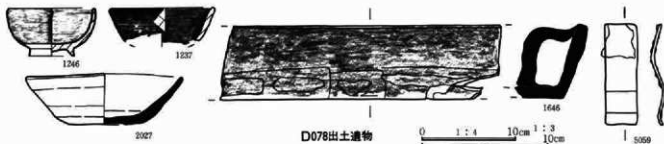




1 西側部分



D076出土遺物



D078出土遺物

井戸跡D075, D076遺構

土坑D063, D064, D078, D408遺構 (P.45図 PL.7,35,36)

D075は井戸跡で、径1.2m深2.2m。区画溝M044,045と重なるが、関係不明。南側に掘立J016/019近接。海拔86.8mより湧水。西側に小ビット付く。遺物は、陶器・瓦質土器小片が少量。近世。

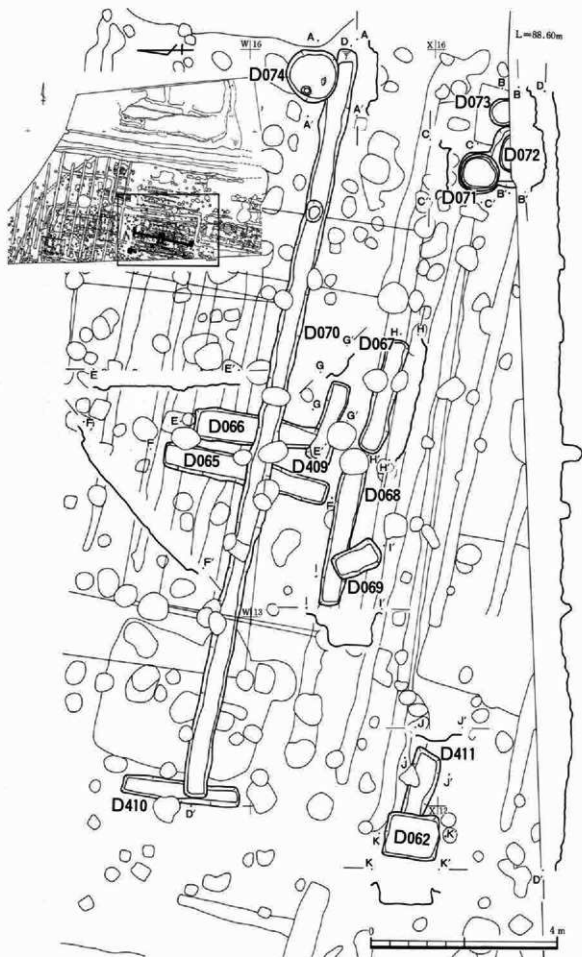
D076も井戸跡。径1.8m深2.2m。M045との新旧関係不明、畠跡N033より古い。海拔86.8mより湧水。壁の崩壊が強い。東西に小ビットが付く。埋め戻し時に投げ込まれた遺物は、石臼・五輪塔などの大型石遺物が中心。石臼上玉は、把手棒が垂直に付くもの(4120)と水平に付くもの(4111)の両者が見られる。陶磁器類は多くないが、鉄軸の徳利の内面には鉄分が付着。木製品はスギの釣瓶部材などがある。18世紀後半。

D063は円筒形。径約1m深1m。掘立J020と重なるが、新旧関係不明。近世か。

D064は短冊形土坑。長5.2m幅0.6m深0.3m。M044と重なるが、新旧関係不明。J020の長辺と平行。西端がやや幅広く、複数の掘り方の重複の可能性もある。形状より近世。

D078は小円形。径0.8m深0.2m。陶器猪口類と瓦質土器焙烙、そして長方形鉄板(5059)が見られた。土師器杯(2027)は混入。18世紀。

D408は小長方形。長0.8m幅0.5m深0.1m。M045との新旧関係不明。時期不明。



土坑D062,065~074,
D409~411遺構
(PL.37,38)

D065・D067・D068(長2.4~3.8m以上幅0.4~0.6m深0.1~0.2m)は、掘立J016/019及び畠跡N033と重複し、走向が平行もしくは直交する短冊形土坑群。いずれも重複遺構との関係不明で遺物ないが形状より近世と考えられる。

重なる箱形土坑には、D062(長1.1m幅0.9m深0.4m)とD069(長1.0m幅0.5m深0.7m)があるが、後者から鉄製の吊り手(S109ABC)出土。

D070(長16.1m幅0.5m深

0.2m)は長大だが、底の状態より長3.4mのものの重複延長と思われる。近世。

南東隅に桶埋設土坑群D071(径0.8m深0.2m)とD072(径0.7m以上深0.4m)は併存と思われ、方円形のD073より古い。楕円形のD074(長径1.2m短径1.0m深0.2m)はD070と重なるが関係不明。また西側内部に小ビットがあるが、重複かは不明。銅製キセル吸い口出土。近世。D073は方円形。長1.2mの方形の中央に円形で径0.5m深0.2m。短冊形土坑D409は長1.7m幅0.4m深0.1m、D410は長2.5m幅0.4m、D411は長1.4m以上幅0.5m深0.1m。

井戸跡D081, D082遺構 土坑D079, 080, 083~097, 412~416遺構 (P.50図 PL.7,8,39~43)

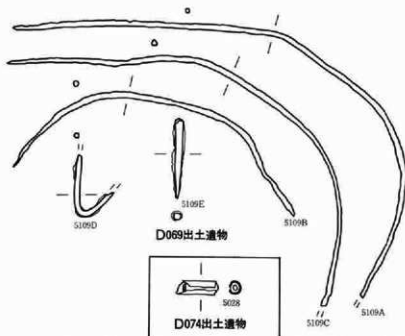
井戸跡D081は上幅2.0m深2.4mで、接する井戸跡D082は上幅3.8m深2.5m。共に海拔85.4mより湧水。後者では中位に井戸枠木製品3本(長約40cm径7cm非報告)が垂直状態で見られ、2本は倒れかけていた。この補修後上面が大崩壊し、その後前者を掘り直したと考えられる。D081からは、肥前からわんか手腕(1055)が見られ18世紀後半で、D082の遺物は肥前二彩鉢(1244)などいずれも18世紀前半。

北東側の桶埋設土坑群D094, D095, D097は径60~80cm深30cmほどで、円形・平坦な底・垂直な壁。周辺のD092, D093, D096もほぼ同様の状態であるため、調査時には認識されなかったが、同じ性格の可能性がある。

D079, D080, D085~D090, D412~D415は短冊形土坑。長1.4~4.8m幅0.3~1.0m深20~40cm。東西走向が多い。

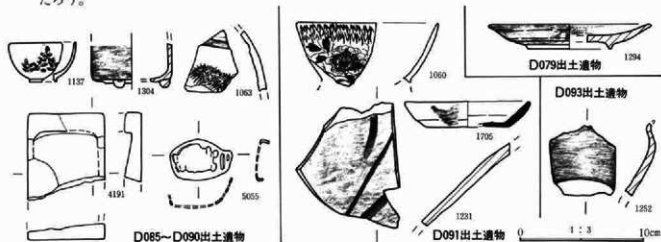
D083, D084, D091は箱形土坑。長1.3~1.7m幅0.7~0.9m深0.3~0.4m。いずれも東西走向。

短冊形土坑の一部を除いて掘立群と重なるものが少なく、特に井戸跡はJ021~J023に対応するものだろう。



D069出土遺物

D074出土遺物

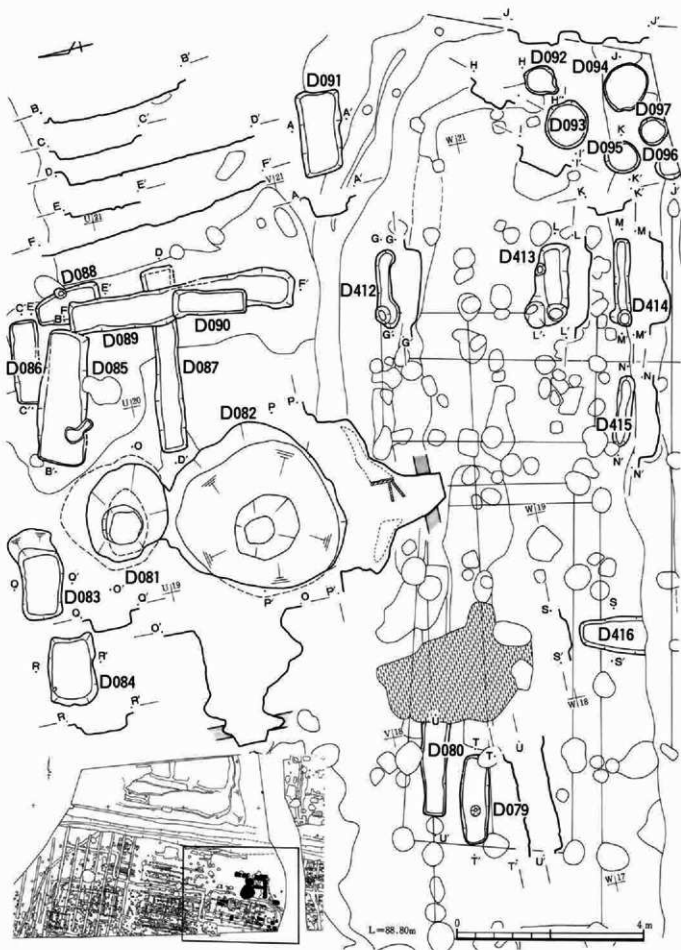


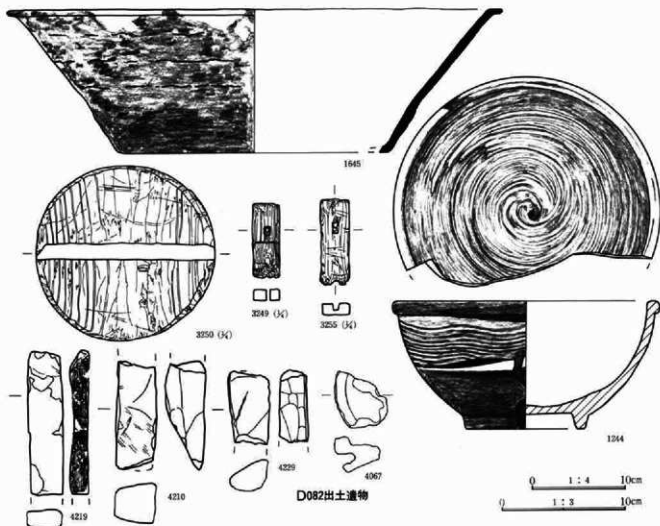
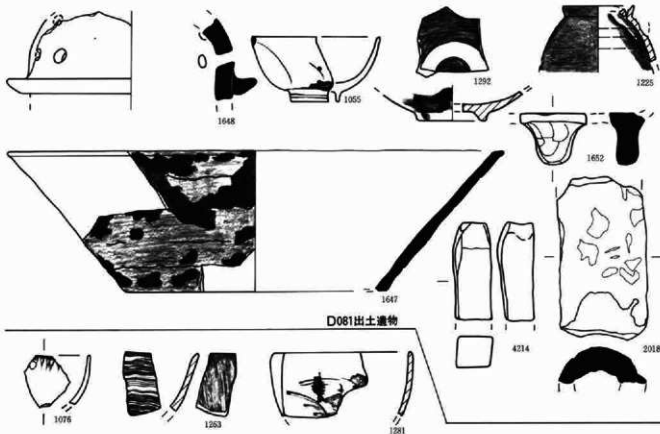
D085~D090出土遺物

D091出土遺物

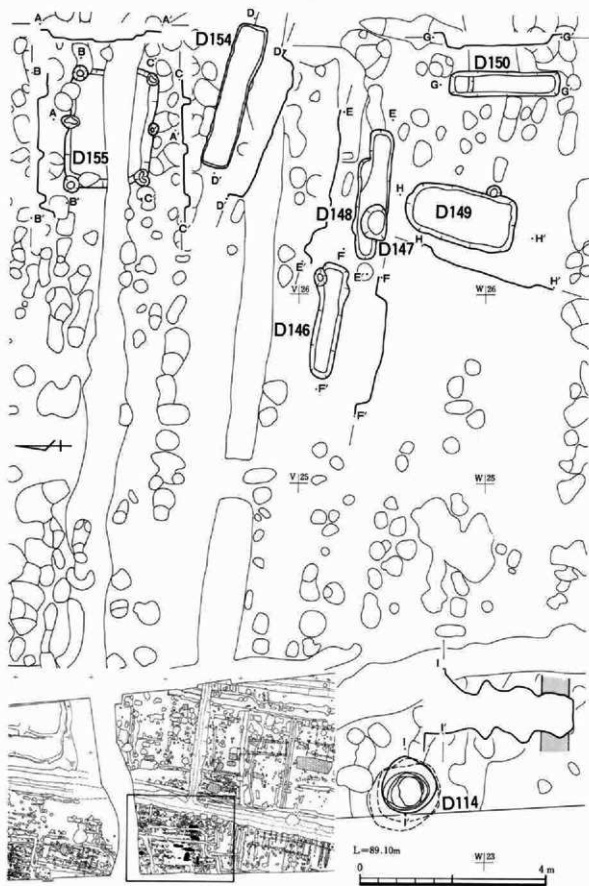
D079出土遺物

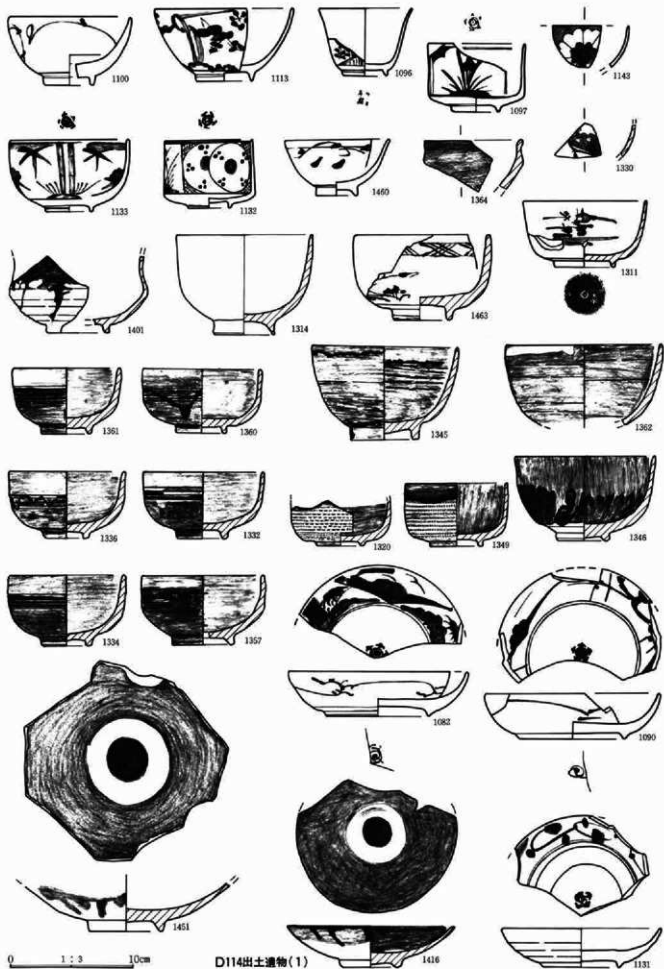
D093出土遺物



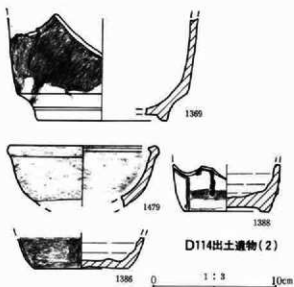
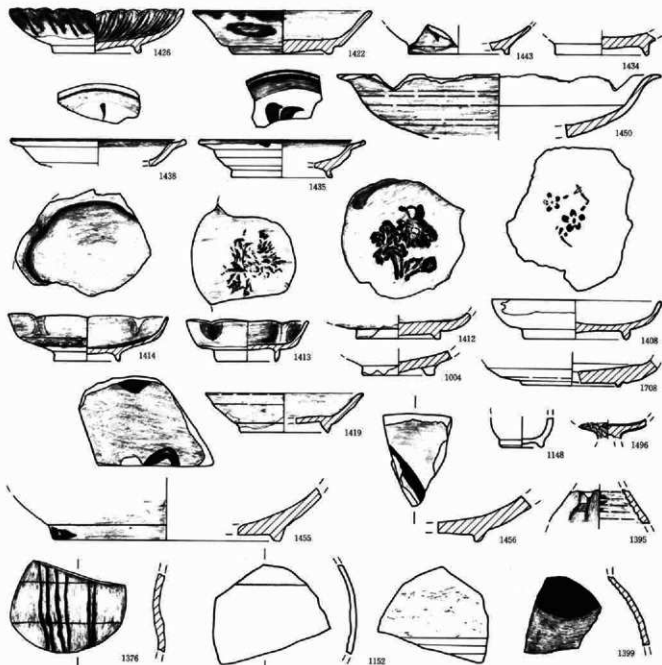


II 調査成果





D114出土遺物(1)

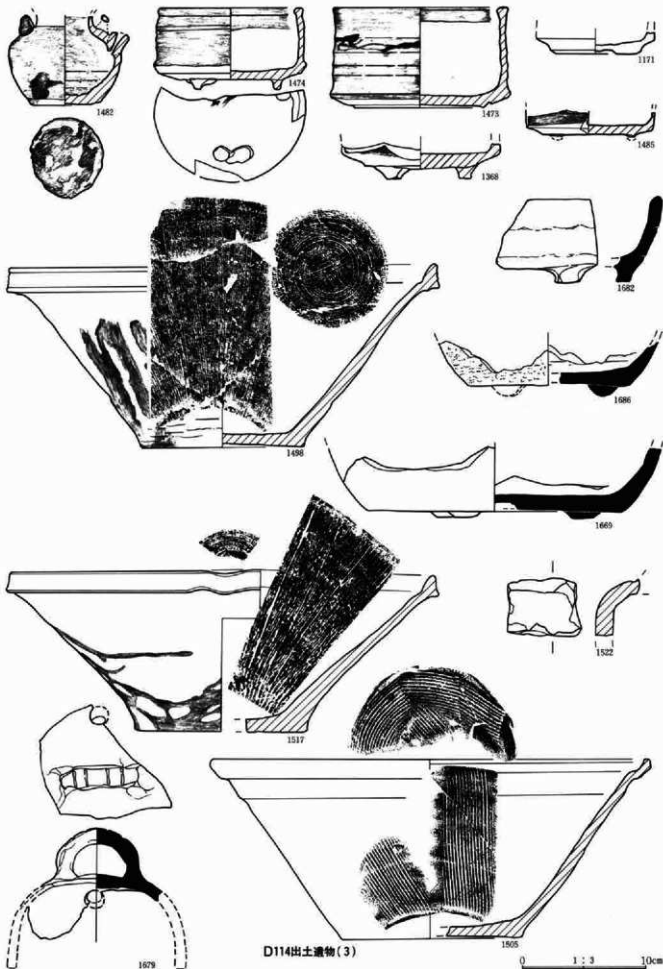


D114出土遺物(2)

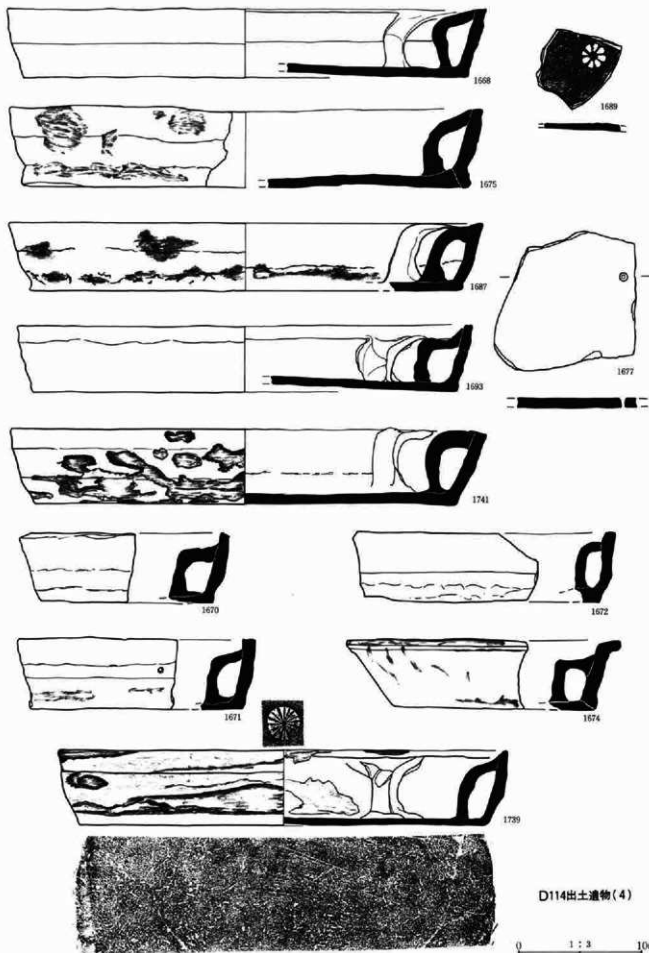
井戸跡D114、方形竪穴D155、土坑D146~D150、
D154遺構 (P.52図 PL.3,8,9,43~47)

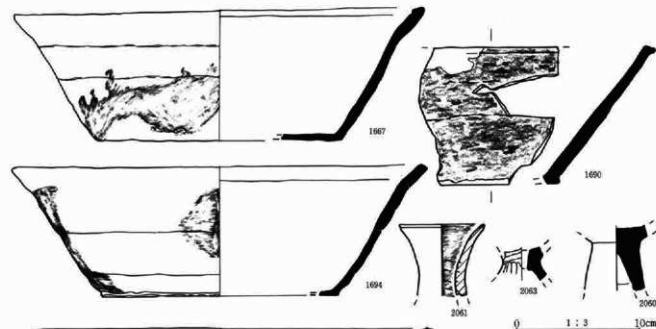
井戸跡D114は上径1.2m深2.8mで海拔87.1mより湧水。長期間使用しており、上層(~0.6m)自然埋土・中層(~1.4m)人為的埋土・下層(~2.8m)自然堆積土に分かれる。大量の遺物が出土。(P.53~59)

方形竪穴D155は、平面2.4×1.8m深0.2mの規模で、四隅と長辺中央に深20cmほどの柱穴計6個が見られる。中央を区画溝M062に切られ周辺も未命名の高跡があり、調査時には認識がなかった。中世か。(続P.57)

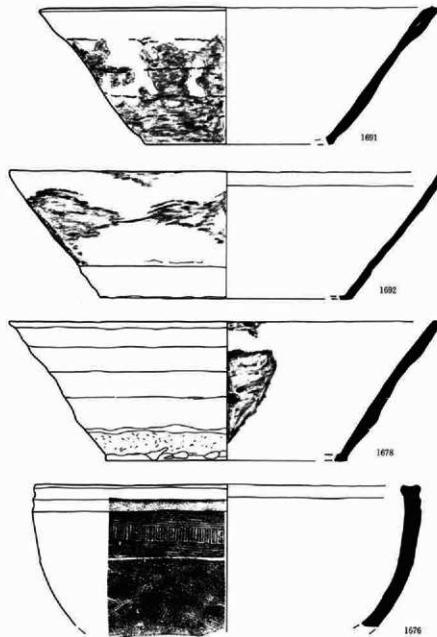


D114出土遺物(3)





D114出土遺物(5)



D146～D150, D154は短冊形土坑。長2.1～3.1m幅0.4～0.6m深0.2～0.4mで東西走向が多い。D149は2基重複か。近世。

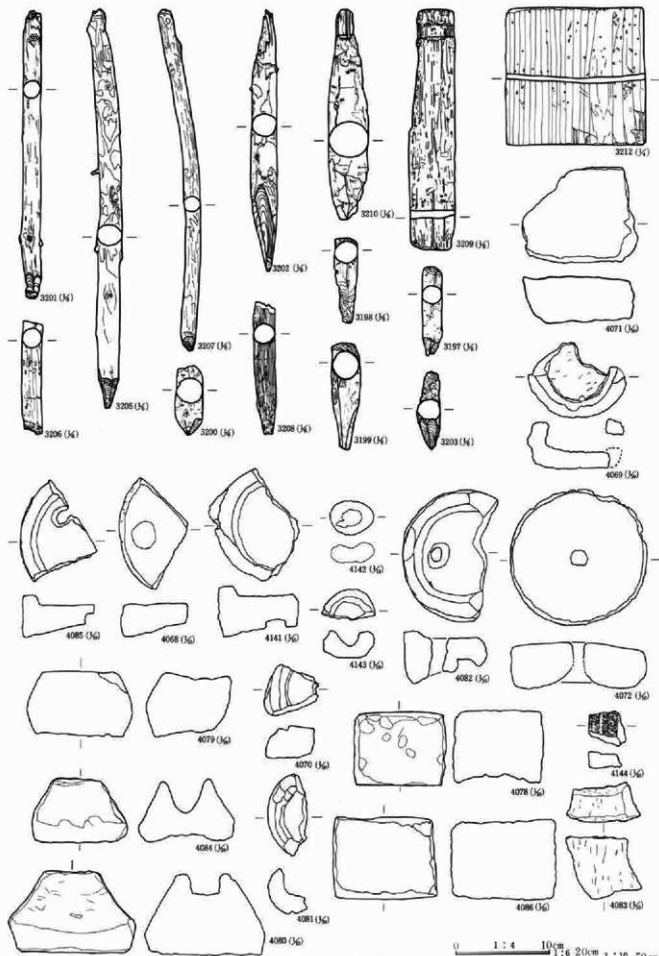
D114の遺物は、本来各層に分かれていたが、個々の遺物について出土状態の記録は取れなかった。

食器の碗・皿・鉢・瓶類(P.53,54図)は、瀬戸美濃系陶器が中心である。これに肥前系陶磁器が加わる。

碗類では1690年代～18世紀前半の肥前染付遠山・松文碗(1113)・17世紀末～18世紀初頭の肥前京焼風色絵碗(1330)・関西系銘軸碗(1401)、皿類では18世紀前半の瀬戸美濃摺絵型打皿(1413)が目立つ。

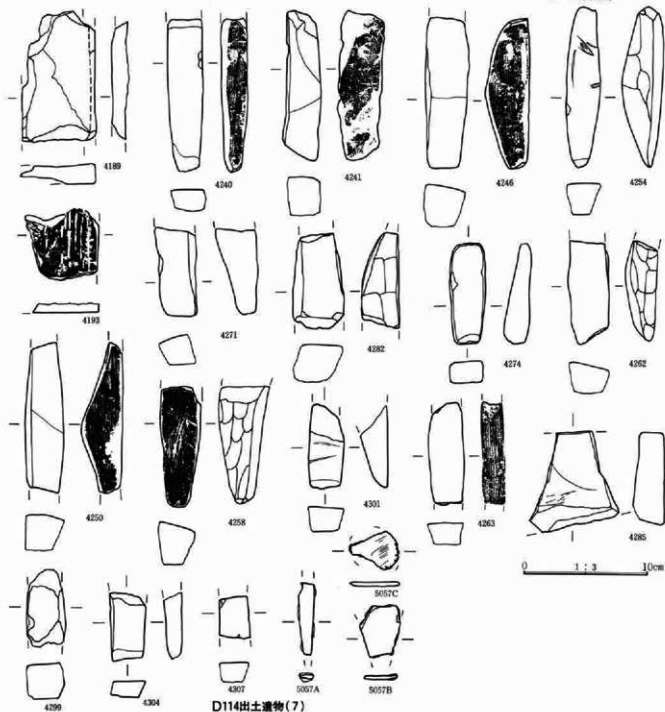
傾向として17世紀後半から18世紀初頭頃のものが多く、次に18世紀末から19世紀初頭のものとなっており、18世紀中頃から後半のものが少ない。また後の時期ではすでに一般的であるはずの磁器が多くない点は、注意を要する。

(続P.59)



D114出土遺物 (6)

I 西側部分



D114出土遺物(7)

調度具(P.55,59図)では、16世紀代の瀬戸美濃錆釉水注(1482)や不明墨書のある17世紀後半の同銘釉香炉(1474)が古く、他は18世紀の香炉類が多い。硯(4189,93)もあった。

調理具(P.55~58図)は、搥鉢・焙烙・塀・石臼の出土量が多い。特に搥鉢以外は、同一器種の投棄数が少なくない。瓦質土器の塀と焙烙が、消耗品的な基本の調理具であったことを物語っている。焙烙の底に麦殻状圧痕が見られたもの(1739)があった。焙烙では内面に菊花押印が2例見られた。産地不明の錆釉搥鉢(1498)は16世紀の可能性がある。(続P.60)

II 調査成果

(P.59より)

暖房具は、瓦質土器の大小の火鉢類(P.55,57図)である。灯火具は、瓦質土器の手持ち火入れ(P.55-1679)が出土した。

古墳時代の土師器・須恵器(P.57-2060,61,63)の混入も少しあった。

木器(P.58図)の杭が何故か多く、また他の石造物では五輪塔各部分(P.58図)、そして砥石(P.59図)がややまとまって出土した。

以上の中で、石造物については中層の出土である。杭類は、中層以下に見られた。これらの石造物と杭類がこの井戸の構造に関係する可能性については不明。

年代の判明する陶磁器の傾向は、16世紀2点、17世紀10点、18世紀33点、19世紀12点である。それより、上層は19世紀初頭、中層は18世紀前半、下層は17世紀中頃と考えられ、中層と下層の間が使用時期であろう。前述のように、特に一般に大量に存在するはずの18世紀後半の肥前磁器くらわんか手碗類が全体の量に比べ少ないことは、上層での投棄が中層での投棄と不連続であったことを示していると思われる。

ただし、この井戸跡の遺物と後述の井戸跡D123(P.86)の遺物は、調査時の不手際で一部分別できないものがあり、それについては検討の結果全てD123の遺物として扱ったことを付記しておく。

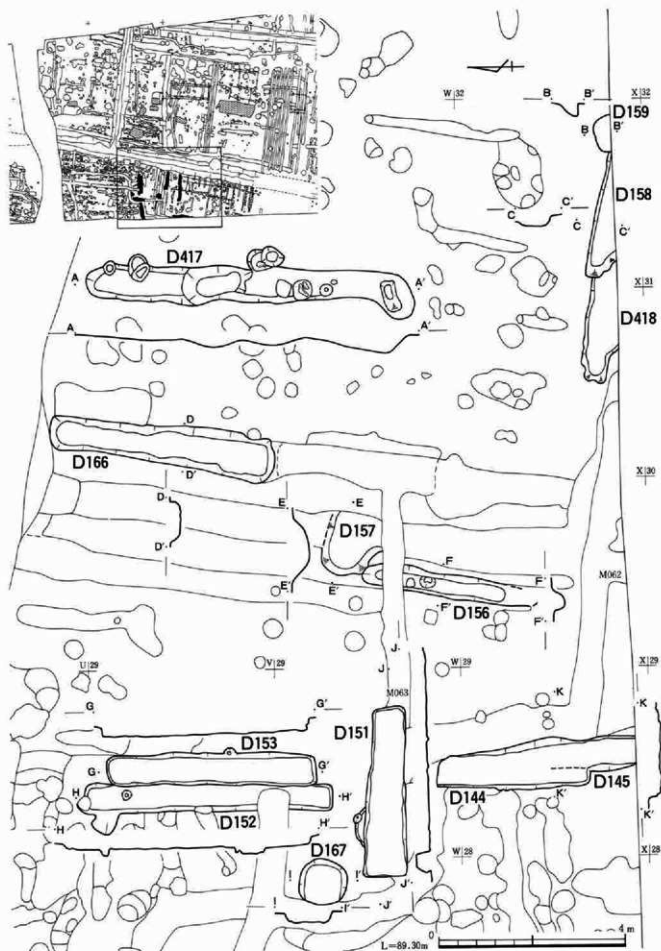
土坑D144, D145, D151~D153, D156~D159, D166, D167, D417, D418遺構 (PL.8,47,48)

南堀跡南側の短冊形土坑群。南北走向がD144, D145, D152, D153, D156, D166, D417で、長3.2~5.2m 幅0.4~0.6m 深20~40cmと、やや長めのものが多い。東西走向はD151, D158, D418で、D151の場合長3.6m 幅0.8m 深30cmを測る。これらの中には、区画溝M062, M063、畠跡N032の走向にほぼ重なるか、厳密には区別しにくいものが多い。

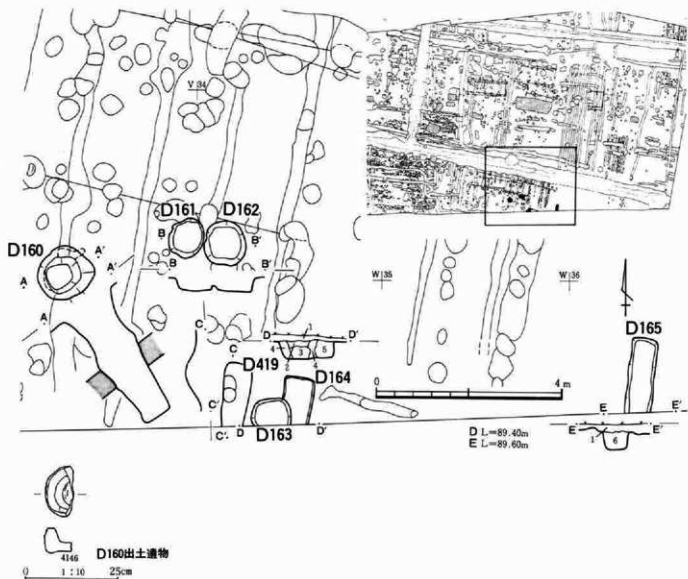
D152より17世紀の瀬戸美濃黄瀬戸軸鉢(1458)・17世紀後半~18世紀前半のうのふ軸天目碗(1366)などが出ている。またD158からは、18世紀の瀬戸美濃柿軸徳利(1391)が出土している。一般に短冊形土坑から遺物が出ることは少なく、特に17世紀の遺物は極めて珍しいため、これらの土坑群の年代は18世紀とするのが妥当である。

D157(深40cm)とD167(幅0.9m 深20cm)は、箱形土坑にやや近い形態だが、重複遺構のため形状不明。近世か。





II 調査成果



井戸跡D160遺構 土坑D161～D165, D419遺構 (PL.49)

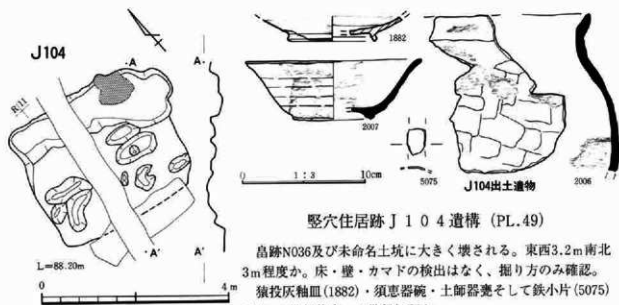
掘立柱建物跡J027の南側に位置する井戸跡D160は、径1.2m深2.8mで海拔87.9mより湧水。それほど長く使わないで埋め戻した状態が、壁などから見られた。小型の石鉢片(4146)が出土。近世か。

D161, D162, D163は、それぞれ径0.8m深30cmを測り、平坦な底とまっすぐ立ち上がる壁より桶埋設土坑と考えられる。D断面 1.耕作土 2.固い暗褐色砂質土 3.灰を含む黒褐色砂質土 4.ローム・粘土塊含むふい黄褐色粘質土 固い 5.しまり固い暗褐色砂質土

なお調査時には、桶埋設土坑との認識はなかった。

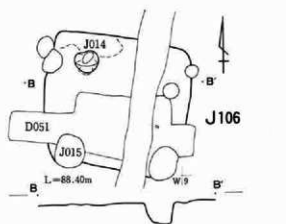
D164, D165, D419は、南北走向の短冊形土坑。幅0.5～0.6m深50～60cm。E断面 6.しまりなくローム塊含む暗褐色砂質土

D断面に見られるように短冊形土坑D164が桶埋設土坑D163より新しい。いずれも近世か。



竪穴住居跡 J 1 0 4 遺構 (PL.49)

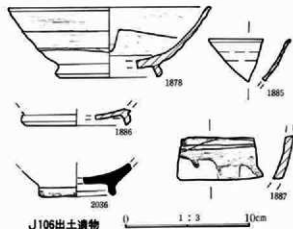
高跡N036及び未命名土坑に大きく壊される。東西3.2m南北3m程度か。床・壁・カマドの検出はなく、掘り方のみ確認。
 猿投灰軸皿(1882)・須恵器碗・土師器甕そして鉄小片(5075)出土。9世紀後半～10世紀初頭か。

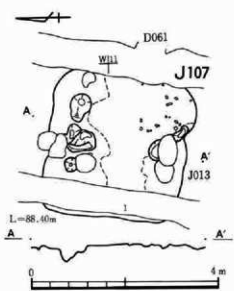


竪穴住居跡 J 1 0 6 遺構 (PL.50)

高跡N036・掘立J014, J015・土坑D051それぞれに壊される。東西3.2m南北2.8m。北西側隅のみ床確認。その近くに柱穴が1基あるが、掘立のものも可能性もある。壁・カマド不明。大部分は掘り方のみ確認。

美濃灰軸碗(1878, 85)・猿投同碗(1886)そして猿投同壺小片(1887)と土師器碗(2036)が出土。10世紀中頃か。



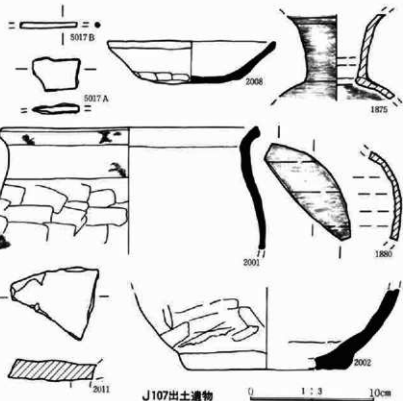


竪穴住居跡J107遺構 (PL.50)

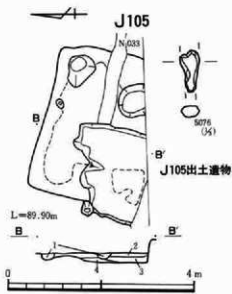
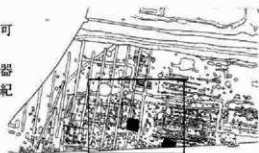
畠跡N036・掘立J013・土坑D061それぞれに壊される。東西3.0m以上南北3.1m。南東隅側が少し張り出す。床面は中央部から南東側のみ確認。北側に柱穴状のピットがいくつかあるが、掘立のものの可能性もある。壁・カマド不明。大部分は掘り方のみ確認。

猿投灰釉長頸瓶(1875.80)・同瓶類底部(2011)そして土師器甕・同坏・須恵器壺(2002)また鉄小片(5017A,B)が出土。10世紀後半頃か。

南2.2mにやや古い井戸跡D056(P.43)がある。



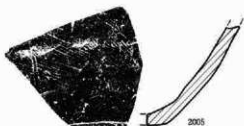
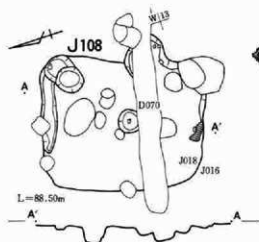
J107出土遺物



竪穴住居跡 J 1 0 5 遺構 (PL.51)

畠跡N033に壊される。東西3.6m南北2.1m以上。しかし北辺は畠跡と重なっている可能性もあり、厳密には形状規模不明。南西側には土坑状の落ち込みがあるが、土層的には同じ遺構になる。中央部で検出した床状の部分も平坦ではない。1.しまりない褐色砂質土 2.暗褐色粘質土 3.ローム塊含む黒褐色粘質土 4.ローム粒含む褐色粘質土 不明鉄製品小片(5076)のみ出土。

竪穴住居でない可能性もある。古代か。



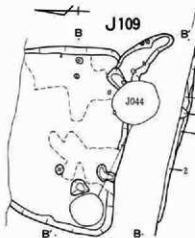
J108出土遺物

竪穴住居跡 J 1 0 8 遺構 (PL.51)

掘立柱建物跡J016・J018・土坑D070に壊される。南北3.4m東西2.7mで、南北線よりやや時計回り方向にずれる。東辺やや南よりにカマドがあるが、中心部分は土坑に壊される。中央に径40cm深20cmほどの柱穴がある。また北辺には周溝状の浅い掘り込みがある。

カマドより陶器質須恵器壺片(2005)が、また他に土師器碗(2009)が出土。9,10世紀頃。

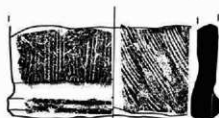
周辺では最も残りの良い竪穴住居。



竪穴住居跡 J 1 0 9 遺構 (PL.51)

掘立柱建物跡J044・区画溝M044に壊される。南北2.2m以上東西4.0m。南東隅に細長く伸びたカマドがある。10cmほどの掘り込みで、東壁際と南壁中央でやや状態の良い床面検出。1.褐色砂質土 未命名跡埋土 2.暗褐色粘質土 しまりない 3.黒褐色砂質土 ローム粒含む 4.黒褐色粘質土 カマド内より粗製土師器釜(2003)と円筒埴輪片(2250)が出土し、他にも埴輪片があった。埴輪片を転用してカマドを築いていたと思われる。また古墳時代前期の土師器壺片(2010)も見られた。

11,12世紀頃か。



J109出土遺物





N016出土遺物

N031出土遺物

畠跡N016, N019, N031, N032遺構 (PL. 18)

N016は、南堀跡と道路跡X001の間の南北方向にサクが走る。南北27m東西10mで、耕作単位は270㎡。サクは上幅30cm深20cmほどで8条見られる。

掘立柱建物跡J031・区画溝M051, M052, M057と重なる。

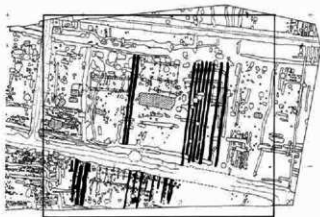
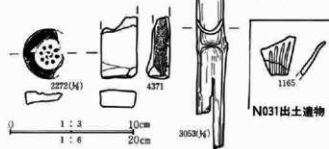
出土遺物は比較的多く、多彩である。陶磁器は、17世紀後半～18世紀前半の肥前白磁瓶片(1169, 70)が最も古い。それ以降の18世紀後半から19世紀のものを中心で、肥前染付雨竜文湯飲み碗(1164)・瀬戸美濃灰軸びん水入れ(1396)・鉄銭(5020B)などが代表的なものである。また瓦質土器小型火鉢(1688)や軒棧瓦(2272)も見られた。

18世紀中頃の区画溝M057との重複関係は不明だが、上記の遺物より、この畠跡が新しく、主体的な時期は18世紀後半から19世紀と考えられる。

N019は、同様に南堀跡と道路跡X001の間の南北走向のサクだが、2条しか検出されない。南北24m以上東西1.5mで、耕作単位は36㎡以上である。走向は全くN016と同じだが、2本しかサクがないことは不自然であり、掘立と重複しないことも考えれば道路跡の可能性も考えられる。区画溝M057との重複も含めてN016と同様の年代が想定できる。

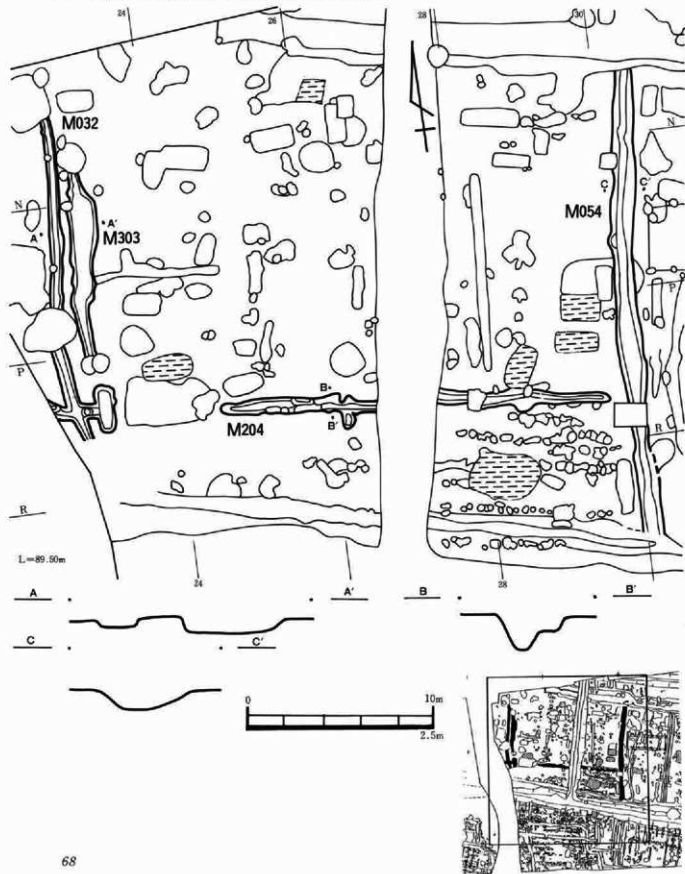
N031は、南堀跡の南側で検出され、掘立J027と重なる。東西20m南北10m以上で、耕作単位は200㎡以上。間隔1.2mほどで浅い10cmほどのサクが14条確認された。遺物は、1630～40年代の肥前白磁小杯(1165)が見られた。掘立J027からは17世紀前半の陶器が出た(P.37)ため、この畠跡の年代は17世紀後半以降と考えられる。

N032は、N031の西に接しており、東西4m南北12m以上で、耕作単位は48㎡以上である。サクは70cmほどと広いが、深さは20cm以下である。遺物はないが、時期はN031と同じだろう。



区画溝M054, M202~M204遺構 (PL.6,52)

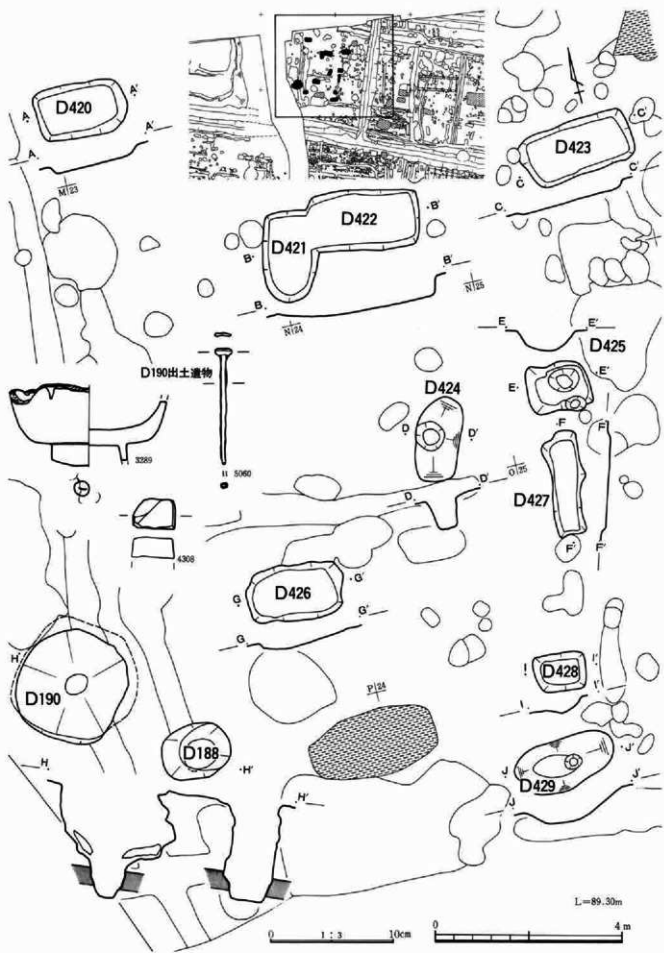
南北走向堀跡M064をはさんだ両側の区画溝。南北走向では西端にM202とM203の2条があり、30m離れた東側ではM054が走っている。その間を東西走向でM204が西に向かっている。上幅はM202が0.5m、M204が0.9mで他は1.2mほどあり、断面形はM204のみV字形である。M204はM064より新しい。M202~M204は遺物がないが、近世と考えられる。





M054出土遺物

M054からはかなり多くの遺物が見られた。陶磁器は17世紀から19世紀まで幅広い。17世紀では1650～80年代の肥前乗付瓶(1154)、18世紀では肥前陶器二彩刷毛目鉢(1447)・同白磁壺(1157)が目立つ。白磁壺の内面には鉄分が付着していた。また瓦質土器火鉢類と土師器小皿が見られた。17世紀中頃から19世紀までの長期使用が考えられる。



井戸跡D188, D190遺構 土坑D420~D429遺構 (P.72 PL.53)

井戸跡D188は、区画溝M203と重なる。上径1.1m深2.1mで海拔87.5mより湧水。全て自然埋土で、長期間の使用が考えられる。北西1mほどに接する井戸跡D190は、上径2.2m底径0.4m深2.4mで海拔87.4mより湧水。中位で壁の崩壊が見られた。○内に一字が書かれた漆椀(3289)及び鉄釘・砥石が出土。いづれも近世か。

D420~D423, D426は箱形土坑。長2.0~2.2m幅1.2mで深20~40cmほど。東西走向が中心で規格的な配置。近世。D427(長2.1m幅0.6m深20cm)は南北走向の短冊形土坑。D424, D425, D429は中央に深40~60cmのピットがあり、掘立があった可能性も考えられるが不明。D428は平面1.1×0.8mの方形。性格不明。いづれも近世か。

井戸跡D189, D192遺構 土坑D133遺構 (P.72図 PL.53)

井戸跡D189は、南堀跡と南北堀跡M064の交点近くの西側に位置。底径0.5m深1.7mで北西側に3段の石敷階段が1.2mほど延びる。海拔87.9mより湧水。径は小さく直接段を降りての水くみ。近世か。

井戸跡D192は、同交点の東側で南堀跡の北側傾斜面で検出。径0.7m深1.8mで、南堀跡の底より50cmほど深く、海拔88.3mより湧水。南大溝M050より新しい。五輪塔水輪(4171)出土。近世。

土坑D133は、短冊形土坑。長2.6m幅0.6m深40cm。南北走向。近世。

井戸跡D186, D187, D191遺構 土坑D128~D132, D134, D185, D431遺構
(P.73図 PL.8, 10, 54~56)

井戸跡D186は、南北堀跡M064の西2.5mにあり、上径2.0m底径0.4m深2.8mで、海拔87.7mより湧水。底は深2.3mより半分掘り増した後、火山灰層で中断した状態。その後一気に埋める。北に現代の井戸がある。

遺物は多く、陶磁器は肥前京焼風碗(1312)・瀬戸美濃摺絵皿(1409)が18世紀前半で古く、肥前系染付菊花文碗(1119)が1780~1810年代、瀬戸美濃腰鑄碗(1337)が19世紀初頭で最も新しい。全体としては18世紀後半のものが中心。肥前系染付濃鯉滝登り文水滴(1151)・瀬戸美濃鉛釉根来型德利(1492)は注目される。文房具では硯(4185)も見られた。他に調度具では、瓦質土器で焜炉(1731)・火鉢(1732)・瓦灯(1737)などがある。

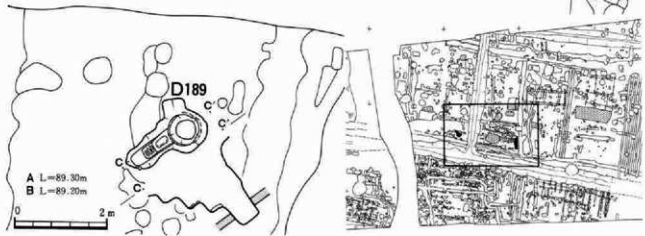
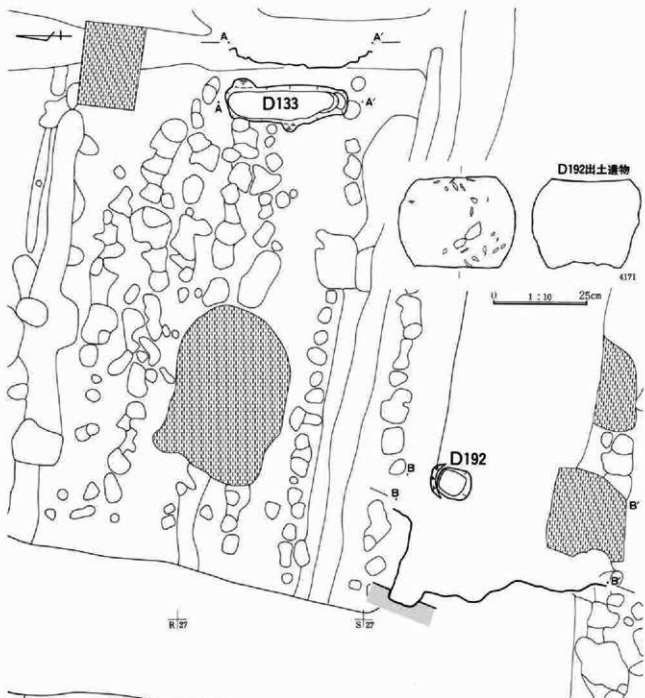
木製品は、駒付きまな板(3276)・杵状製品(3285)あるいは建具状のものなど多様である。また「喜」字を書いた漆器片(3300)も見られた。他に石臼類もある。なお1731, 32は井戸跡D114(45m南P.52)と、1312は井戸跡D171(72m東P.94)出土片と接合した。

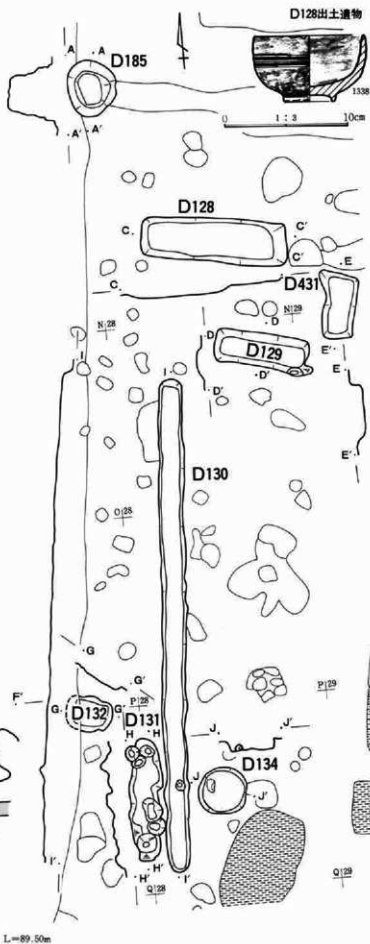
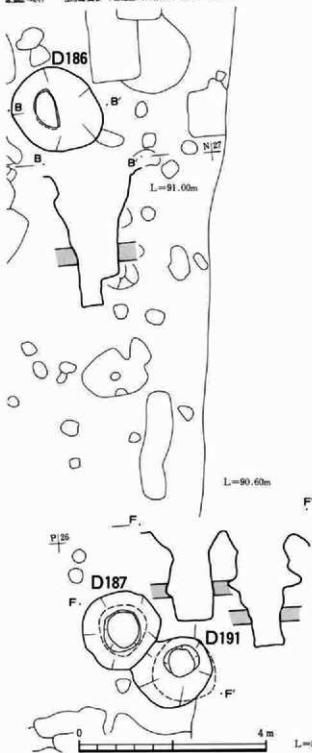
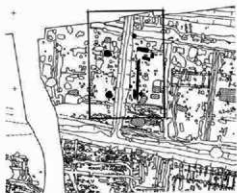
井戸跡D187, 191は南北堀跡の西面に2基接している。D187は径1.7m深1.9mで海拔88.2mより湧水。D191は径1.8m深2.5mで海拔87.1mより湧水。D187の湧水面は南北堀跡の水面に一致している。そのことより、D191の方が新しく、また南北堀跡の埋没後の掘削と考えられる。共に近世か。

D185は径1.2m深1.1mの円形土坑。道路跡X001及び南北堀跡と重なる。時期不明。D134は桶埋設土坑。径1.2m深20cm。近世。

D128~D131は短冊形土坑。南北走向のD130は長10.3m幅0.5m深20cmと長大。東西走向のD128からは、瀬戸美濃腰鑄碗(1337)が出土。19世紀初頭の年代が当てられる。他も近い時期か。

D431(長1.3m幅0.5m深20cm)とD132(幅0.7m深20cm)は長方形の土坑。性格・時期不明。

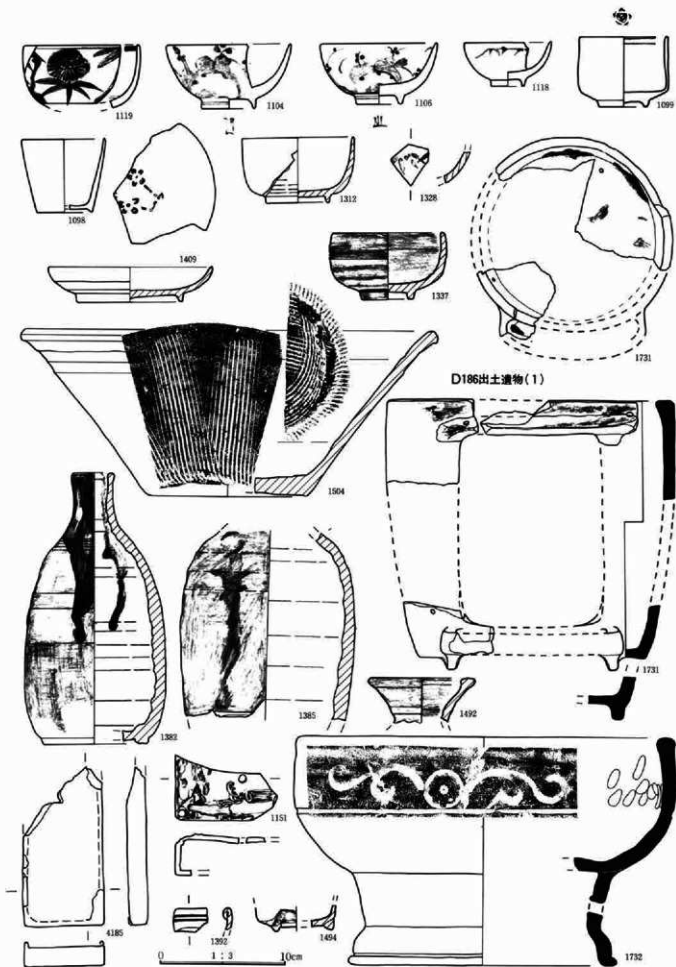


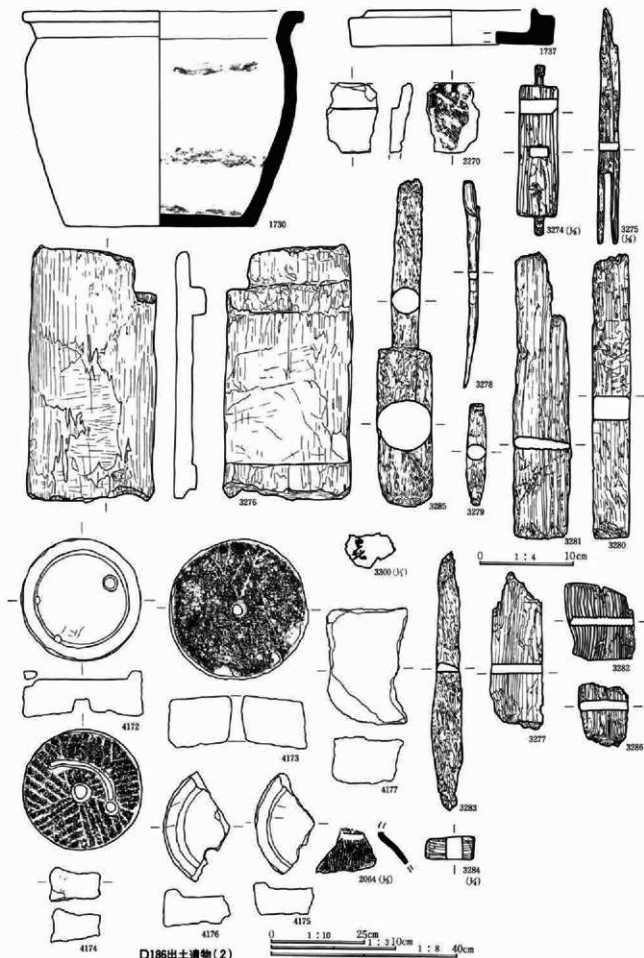


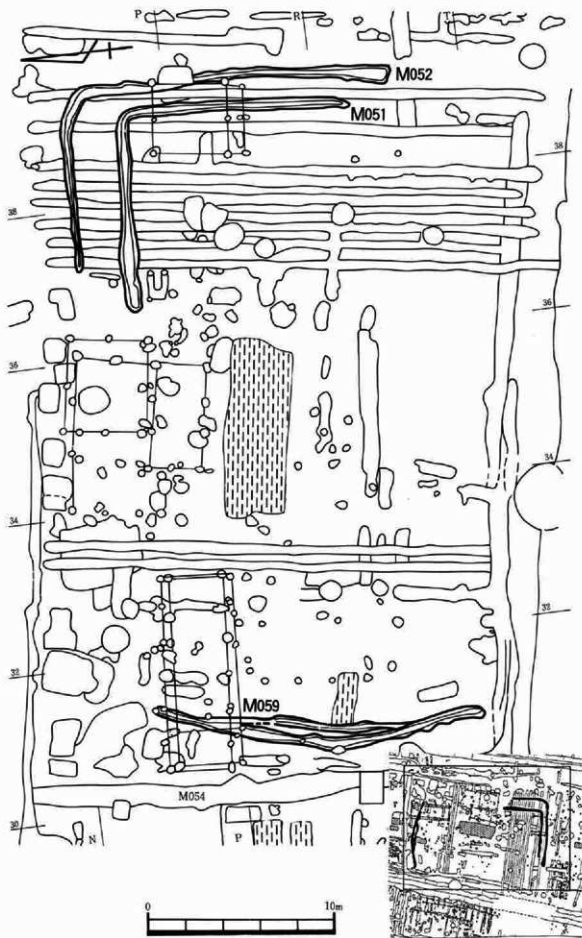
D128出土遺物

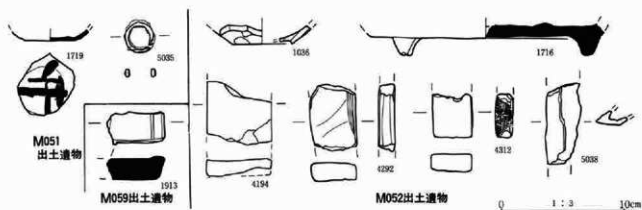


0 1 : 3 10cm







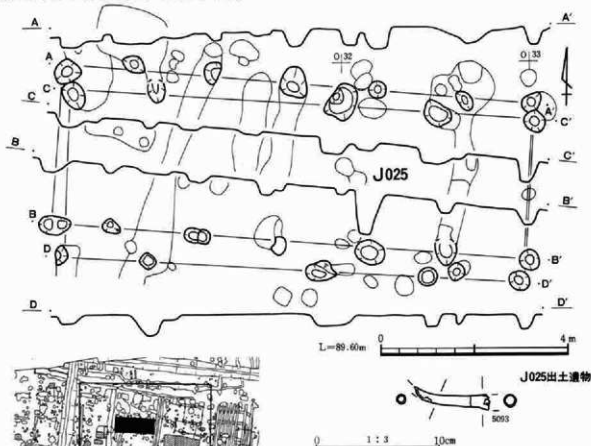


区画溝M051, M052, M059遺構 (PL.57)

区画溝M051とM052は、平行して西から東に10m走った後、直角に南へ12m延びる。間隔は、東西走向部分約2.5m弱、南北部分0.8—1.2mほど。掘立柱建物J031と重複。西に36m離れた区画溝M054と組んで、掘立柱建物群を囲む屋敷構えの北東角を形成する。道路側溝の可能性もある。

区画溝M059は、やや西側に膨れた弧状の南北走向で18mほど延びる。途中は付け替えて2条に別れている。掘立柱建物J025と重なる。

遺物はいずれも少なく、砥石類が主体。美濃鉛釉小皿片(1036)は、18世紀頃か。土師器小皿(1719)底には不明の墨書がある。これは中世か。



掘立柱建物跡J025遺構 (PL.57)

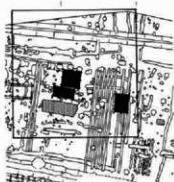
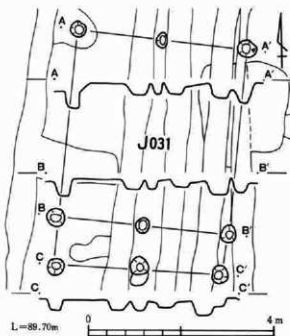
東西8.9m南北3.5mの東西棟。南北1間、北側が6間南側が4間。柱間は北側が約1.8mの等間隔で、南側は東西で差。区画溝M059と重複。北側で井戸跡D183とD184が近接。建物内で18世紀頃の煙管雁首(5093)出土。

II 調査成果

掘立柱建物跡J031遺構(PL.58)

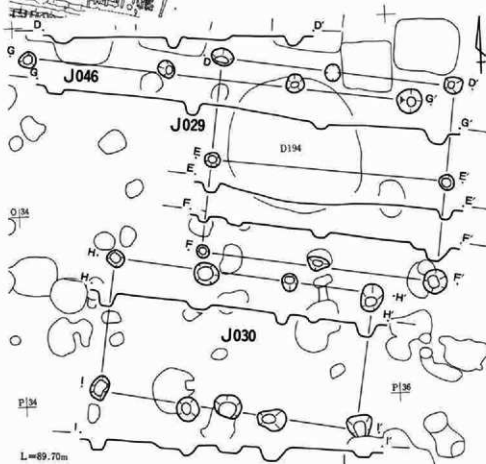
東西3.6m南北4.0mの規模の南北棟。南に0.9m離れて庇がある。東西2間、南北1間。

区画溝M051、M052及び土坑D104と重複。島跡N016より古い。遺物ないが、そのため18世紀頃と推定。



掘立柱建物跡J029、J030、J046遺構(PL.58)

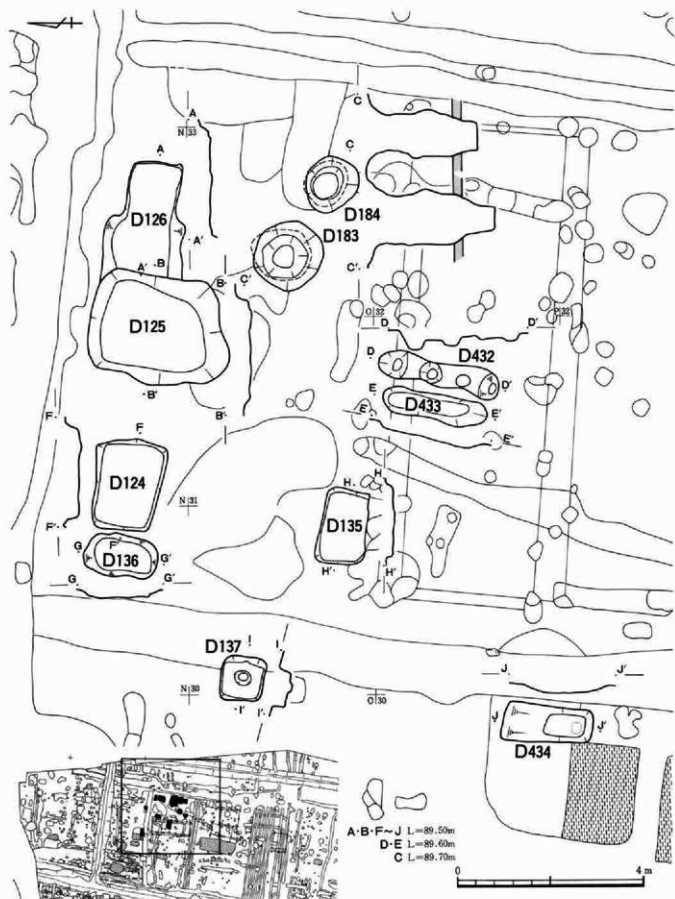
J029は、東西5.0m南北4.2mの規模の東西棟。東西2間、南北2間。内部にはやや北西に偏って井戸跡D194がある。



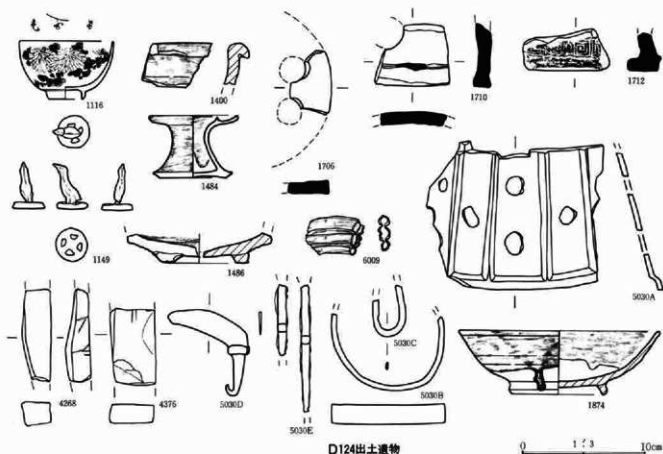
南に接するJ030は、東西5.6m南北2.8mの規模の東西棟。東西3間、南北1間。柱間はほぼ1.8m前後に揃う。

J046は建物にならず、東西方向8.3mに4個のピットが並ぶ。間隔は2.5~3.0m。J029及びD194と重なる。

J029は、井戸跡D194の覆屋の可能性があり、J030は時期的にそれに近いだろう。



II 調査成果



D124出土遺物

井戸跡D183, D184遺構 土坑D124~D126, D135~D137, D432~D434遺構
(P.79図 PL.8, 58~61)

掘立柱建物跡J025と道路跡X001の間の井戸と箱形土坑群。

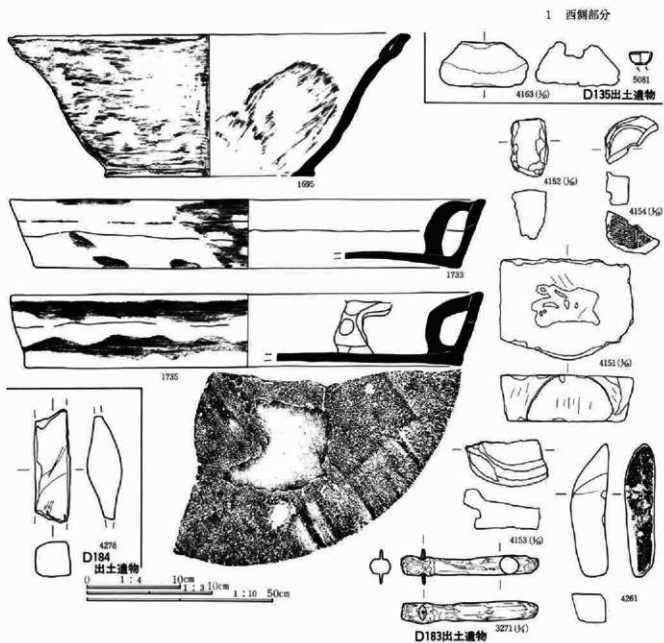
井戸跡D183は径1.6m深2.8mで、D184は径1.5m深2.3m。近接して並んでおり、両者の間隔は僅かに0.4m。共に海拔87.7mより湧水。埋土はD183がかなり人為的な状況であるのに対し、D184は自然的な埋没を示している。後者は、上層で砥石(4278)が見られた程度なのに比べ、前者は投棄遺物が多い。

D183からは、瓦質土器嶋と焙烙があり、後者の1735は底部裏側に型の痕が残っていた。石造物は、石塔基礎(4151)や石臼類があり、またモモの木釘の残る細い棒(3271)も見られた。なお図示していないが、竹片も出ている。近世。焙烙と嶋は18世紀の陶磁器に共伴するものである。

D184は、山形の砥石(4278)がある。両者は、掘立J025に近接しており、この建物と近い時期と想定できる。

箱形土坑群は、一連の道路跡X001の南側に並ぶものの西側の部分にあたる。D124は長1.9m幅1.5m深0.3mで、最も形状がはっきりしている。D125は、長3.0m幅2.2m深0.3m。D126は長2.4m以上幅1.2m深0.2mで、2基重複。D136は、長1.6m幅0.9m深0.2m。南に離れ掘立J025と重なるD135は、長1.6m幅1.1m以上深0.2mで同様の箱形土坑である。D137は、長0.9m幅0.9m深0.4mを測り、小形で中央にピットをもっており性格が異なるだろう。

掘立J025に重なって、南北走向の短冊形土坑状のD432とD433が並ぶ。D432は長2.6m幅0.4m深0.1m、D433は長2.3m幅0.5m深0.1mを測る。ただ前者は、内部にいくつかピットがある。また



D137の南のD434は、長1.9m幅0.8m深0.2mで、短冊形土坑に似るが底は不均一。

D124からは、雑多に遺物が出土している。陶磁器は、合成コバルトを使用した染付碗(1116)と同鳥形灯芯押さえ(1149)が最も新しく、灰釉碗(1874)が最も古い。灯火具は他に乗燭(1484)があり、香炉片(1486)も見られる。火処としては、瓦質土器の提炉(1706,10)と火鉢(1712)が小片で、また鉄製の5030Aも提炉の一部と思われる。細い鉄棒(5039E)は火箸か。他に小鎌・砥石などがあった。全体としては調度具が中心である。

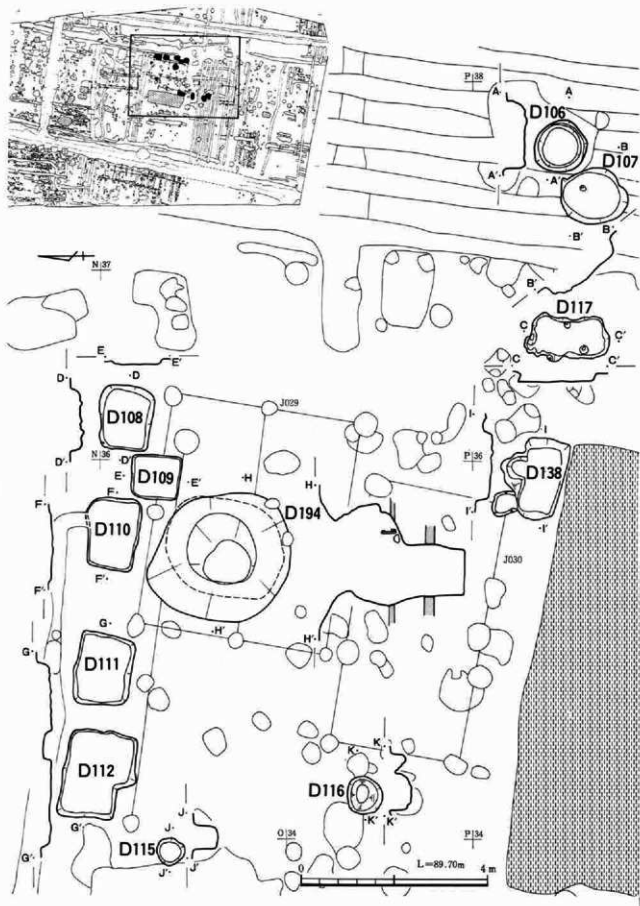
興味深いのは、人為的に切断した馬歯(6009)が含まれていたことである。(考察参照)

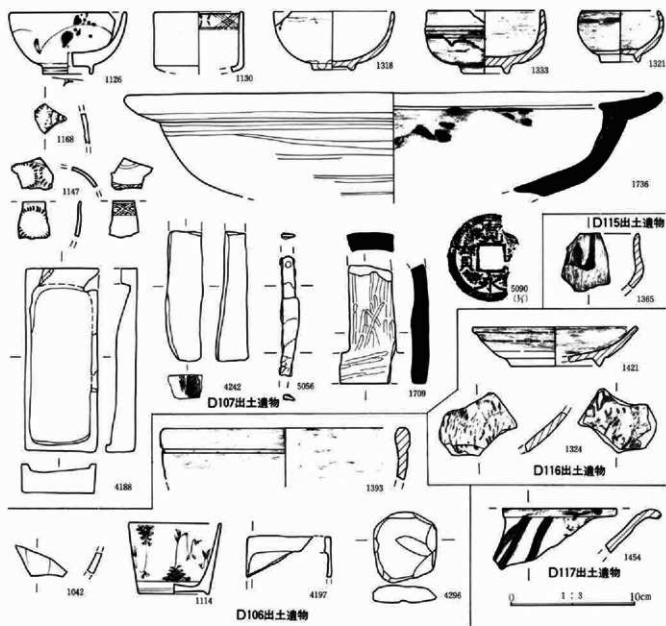
そのため、19世紀後半の廃棄物坑と考えられる。また道路跡に連なる一連の箱形土坑群の時期を考える目安になるだろう。

D135からは、銅キセル扉首片(4163)と五輪塔火輪(5081)出土。近世。

以上の他に、D126は磁器と瓦質土器小片、D184からは焙烙小片が出ており、いずれも近世である。

II 調査成果



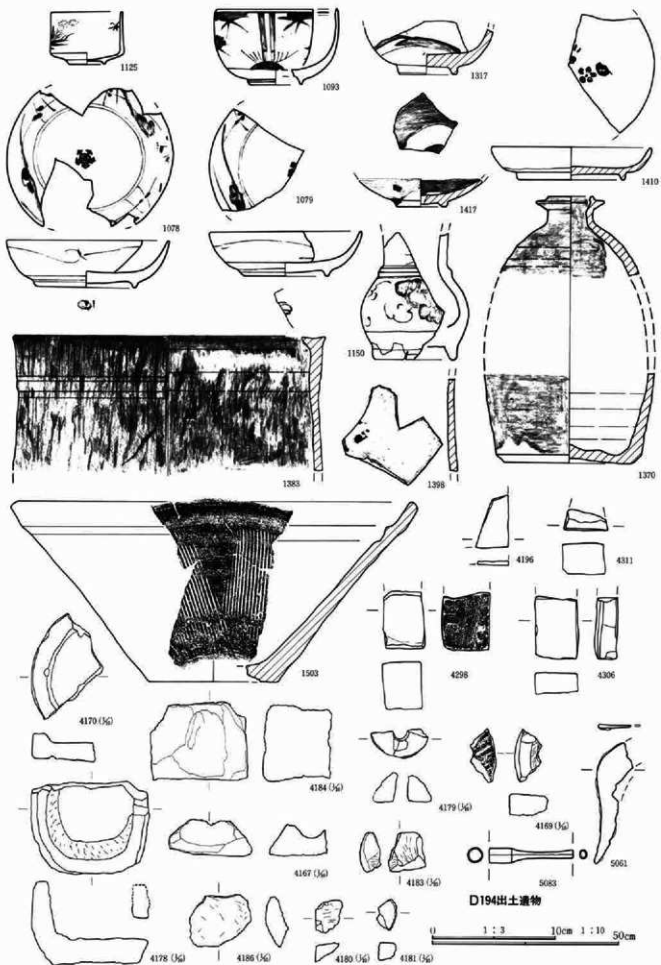


井戸跡D194遺構 土坑D106～112, 115～117, 138遺構 (PL.10, 58, 62～64)

井戸跡D194は、口径2.8m深3.2mで、海拔87.4mと88.1mの二つの湧水層がある。底が「南西側に偏っていることから北東側で汲み上げた可能性がある。1.5mの深さの地点の崩落部分には、自然石を多く並べ竹片(非報告)で組まれた防止施設があった。長期間の使用が考えられる。周辺の掘立J029は覆屋とも思われるが、柱穴列J046はこの井戸跡と重複している。

遺物(P.84)は、陶磁器では肥前系と瀬戸美濃系の食器と調理器が18世紀代全体のものが一通り見られる。しかし、くらわんか碗が見られない。また17世紀中葉の肥前染付瓶(1150)は、少し離れて古い。なお、それを含んで報告陶磁器の半数の肥前染付皿(1078)・瀬戸美濃二彩水注(1398)・同銘軸播鉢(1503)・産地不明鎗軸德利(1370)・阿柿軸半胴甕(1383)は、南西に56m離れた井戸跡D114出土(P.53～55)の破片と接合した。また、その他に肥前染付湯飲み(1093)と瀬戸美濃捺絵小皿(1410)は、D114でもほぼ同じものが見られる。

それらは年代幅があるが最も新しい19世紀初頭に、これらが一括してすでに機能を終えていたD114と本井戸跡に投棄されたと考えられる。それらを除いて考えれば、井戸としての主な使用時期は18世紀前半とすることができる。これは、煙管吸い口(5083)の年代観とも一致する。



D108～D112は、道路跡X001の南側に連なる箱形土坑群の東側で、いずれも長1.5m幅1.0m深0.3mほどでそろっている。D109以外は東西走向、またD112は東西走向のものに南北走向のものが重なった状態である。D109は、掘立J029と重複している。

井戸跡の南東10mほどのところに2基の桶埋設土坑D106とD107が並んでいる。前者は径1.0mほど、後者はやや楕円形で1.2×1.0mだが、深は共に0.4mほどで底は平坦。調査時には桶埋設土坑との認識がなかったが、特徴的な2基並列状況からも、後者も本来円形だったと思われる。

D106からは西に45m離れた井戸跡D186出土破片と接合した肥前染付蕎麦猪口(1114)などの18世紀後半の陶磁器と共に、砥石のような円盤状の軽石(4296)そして13,14世紀頃の竜泉窯蓮華弁文青磁(1042)などが出土。D107からは、肥前と瀬戸美濃の18～19世紀の食器類と共に、瓦質土器塀(1736)と瓦灯(1709)が出土。また新寛永通宝(5009)などが見られた。瀬戸美濃灰釉碗(1318)は箱形土坑D124出土片と接合。1736もD186出土片と接合している。両者共に硯が出土したのも興味深い。18世紀後半から19世紀初頭までの年代が考えられる。

D107の西側のD117とD138は、短冊形土坑である。前者は南北走向で長1.6m幅0.8m、後者は東西走向で長1.8m幅0.8mを測り、掘立J030と重なる。D117からは、17世紀前半～中葉の瀬戸美濃の笠原鉢(1454)が出土。

他に掘立の西側でピット状の土坑D115とD116がある。前者は径0.5m深0.5m、後者は径0.7m深0.5mである。D115からは17世紀中葉～後半の瀬戸美濃黒釉碗(1365)が出土。D116からは唐洋写しの瀬戸美濃二彩碗(1324)と18世紀前半の同灰釉小皿(1421)が見られた。1412は南に18m離れた井戸跡D123出土片と接合しているが、この遺構の年代は1324の19世紀初頭を考えたい。

井戸跡D122, D123遺構

土坑D119～D121, D435～D440遺構 (P.86図 PL.11,65,66)

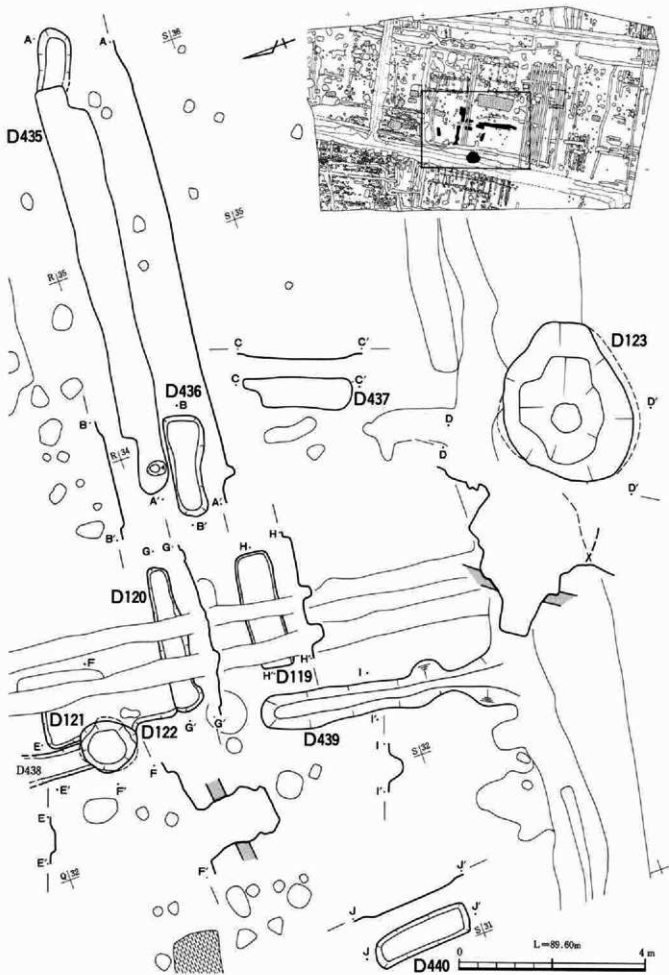
井戸跡D123は南堀跡M050の北岸に重なり、上径3.2m底径0.6mと大きく、深さは3.1mでM050の底より1.8mほど深い。湧水層は海拔87.3m。上径が大きいのは崩落によるものである。大量の遺物が出土しており(P.87～90)、中心をなす陶磁器はⅠ期 17世紀前半～後半、Ⅱ期 18世紀初頭～中葉、Ⅲ期 18世紀後半～19世紀初頭に大きく分けられる。

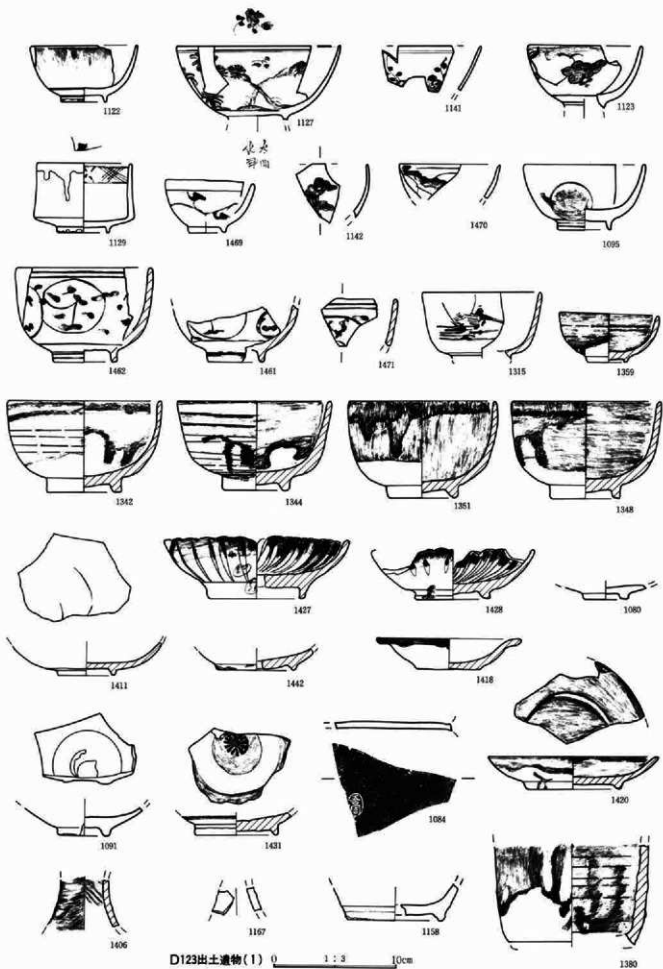
Ⅰ期は、見込折枝文の1660～70年代の肥前染付碗(1127)・17世紀前半の肥前無釉陶器播鉢(1514)・17世紀中葉瀬戸美濃菊皿(1427,28)そして他に肥前に瀬戸美濃の碗(1315)・皿(1442,1431)・瓶(1158)・鉢(1446,1452)など比較的種類と数が多い。Ⅱ期は、肥前磁器碗(1141,1123,1142,1470,1095)・同陶胎染付碗(1462,61,71)・瀬戸美濃碗(1359,42,44,51,48)・同皿(1080,1418,1420)・肥前磁器瓶(1167)・瀬戸美濃香炉(1472,76,93)があり、泉州堺播鉢(1510)もここに含まれるだろう。基本的な食器と調理器が揃っている。Ⅲ期は、肥前磁器碗(1122,1129,1469)・瀬戸美濃徳利(1380)・同盃(1372,1497)・同鉢(1448)・同播鉢(1499～1502)であり、播鉢の固体数が目立つ。

土器類はあまり多くなく、瓦質土器の手持ち灯火器(1680)があった。木器では、3個の蘇民将来護符(3251～53)が特筆される。高2～3cm径2cm弱の載頭角錐八角柱に星印・梵字・「蘇民将来子孫」を墨書したもの。(P.238考察参照) また漆碗片(3288)もあった。

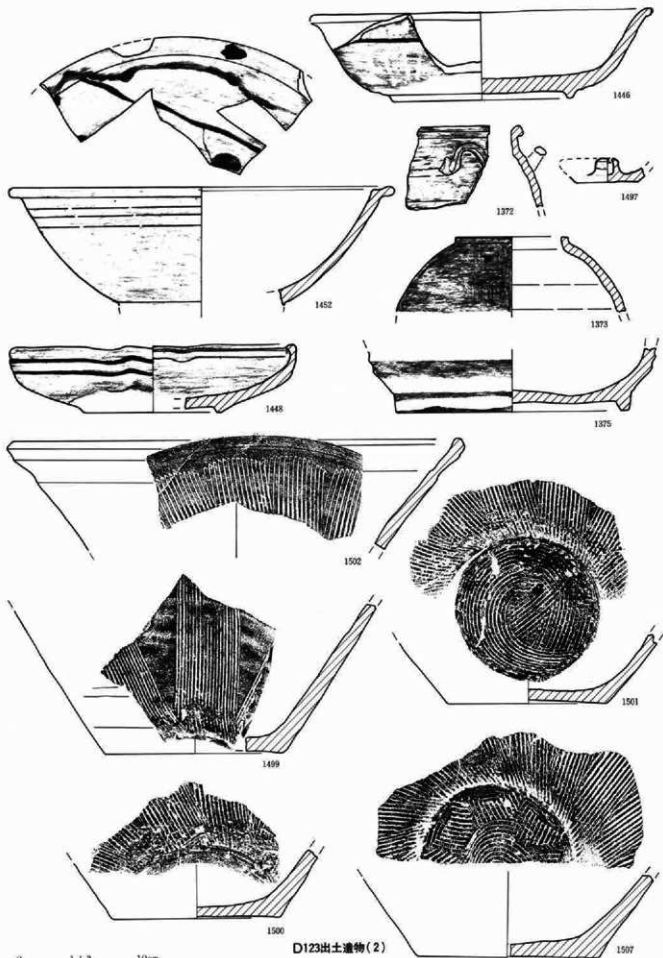
石製品は、櫛歯タガネ加工痕を残す山形と短冊形の砥石が多く見られた。円盤状に加工したもの(4202)も砥石か。また石塔片(4073,74)も出ている。金属器では包丁状の刃物(5074A)があった。

以上の出土状態は、漆碗を含む陶磁器が深1.5mまでより出ており、続いて深さ1.8mまでに蘇民将来護符と他の木器類、そしてそれより下から石製品などが見られた。個々の陶磁器についての出土層位の記録は取れなかったが、深1.5mより上がⅢ期で下がⅠ,Ⅱ期と推定できる。そのため、この井戸の主な使用時期は17世紀中葉頃に始まり、18世紀中葉頃に廃棄されて、19世紀初頭に廃棄(統P.90)

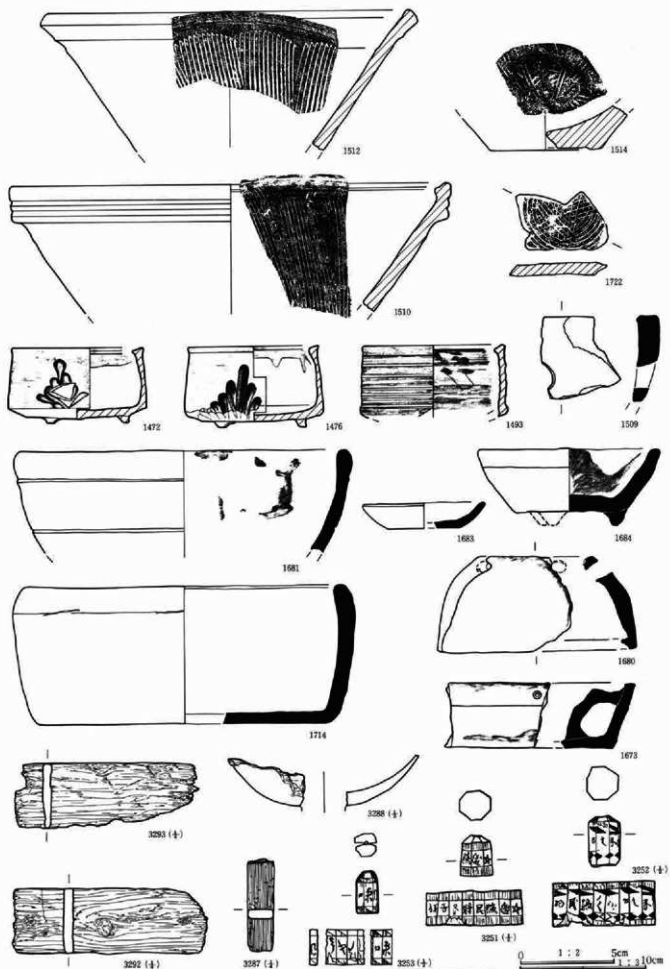




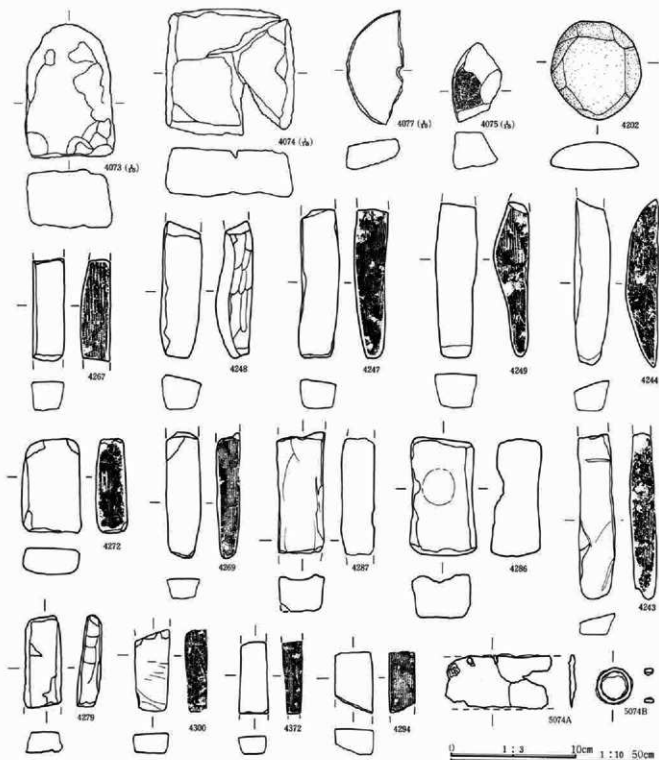
D123出土遺物(1) 0 1:3 [0cm]



D123出土遺物(2)



D123出土遺物(3)

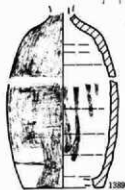
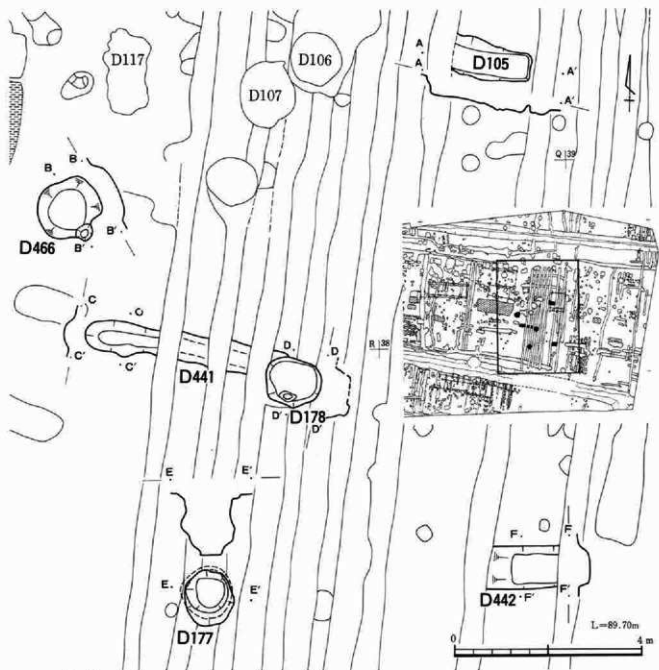


D123出土遺物(4)

(P.85より) 物処理場に使用された。南堀跡は、この井戸の使用前に廃棄されていたであろう。

井戸跡D121は、D123の北約10mほどに位置し、径1.2m深1.8mで海拔88.6mに湧水層がある。鉄軸の碗小片が出土したのみ。

他にここには短冊形土坑が見られた。東西走向は、D119, D120, D435, D436で、南北走向がD121, D437~D440である。その中で、D435は長8mほどのものが2基以上重なった長大なものであり、またD439は長5mで区画溝の可能性もある。畠跡N019と重なるD119から近世陶磁器小片が、D120から近世土器小片が出土。



D105出土遺物



井戸跡D177遺構

土坑D105, D178, D441, D442, D466遺構 (PL. 8, 67)

井戸跡D177は、径1.2m深1.3mで、湧水層は確認できなかったが海拔89.0mにえぐれ部分がある。

同じく高跡N016に重なる土坑には、東西走向の短冊形土坑D105, D441, D442がある。D441は約長4mで、やや長い。D105からは、19世紀前半の瀬戸美濃二彩碗(1325)と同灰軸徳利(1389)及び瓦質土器焙烙(1734)が出土。1389は、南西64m離れた井戸跡D114と50m離れた土坑D144(P. 60)出土片と接合。



II 調査成果

円形土坑のD466とD178は、それぞれ直径が1.2mほどで、深さは0.3mと0.5mである。後者は、桶埋設土坑の可能性もあるが、畠跡N016に重なるため残り悪い。D466からは、灰軸の壺小片が出土。

土坑D174～D176, D193, D306～D319, D445～D449遺構 (PL.10,67,68)

南堀跡が南に屈曲する部分の北側に展開する短冊形土坑群。長4.3mのD314を除く19基は、いずれも東西走向。最大は、長5.6m幅0.8mのD306で、最小は長1.8mのD308である。幅は0.5～0.6mが一般的で、1.2mあるD175は2基重複しているだろう。深さは、D418の0.4mが最も残り良い。1.ローム塊含むしまりない暗褐色土砂質土 2.暗褐色土砂質土 3.黒色土塊含むしまりない暗褐色土砂質土 南北走向の区画溝M074及びM075と重なっている。

D306とD307は、未命名の畠跡と重複。D175からは、18世紀前半の肥前陶器二彩碗(1326)が出土。D306からは18世紀後半の瀬戸美濃灰軸香炉(1487)が見られ、またこれらのいづれかから18世紀代の同長石軸小皿(1437)が検出された。それらの年代が上限と考えられる。

円形土坑D193は、径1.2m深1.2mで、底付近の海拔88.3mに湧水層がある。井戸の想定で掘ったが、人為的に埋め戻したことが判明しただけで、長期間の湧水の痕跡はなかった。D176も円形土坑で、径0.9m深0.2m。形態からは、桶埋設土坑の可能性もあるが、確証はない。

井戸跡D171遺構 土坑D104, D168～D170, D443, D444遺構 (P.94図 P.94～97, PL.12, 69, 70)

土坑D168は、長1.2m幅0.9m深0.2mの浅い長方形で、畠跡N016と走向の似る浅い未命名の溝と重なる。蓋灰軸の菰碗(1329)・硯片(4198)・瓦質土器火鉢(1704)・新寛水通宝(5082)が出土。18世紀以降の廃棄物坑だろう。

井戸跡D171は、径1.0m底は海拔86.5mを測るが、あまり顕著な長期使用の痕跡はなく、湧水層は不明。一括投棄と思われる大量の遺物が出土。

陶磁器は、ほとんど18世紀前半～中葉のものがままとまっていた。

食器では、碗類では12～13世紀の竜泉窯系青磁小片(1013)が唯一の例外で、他は肥前のコンニャク印判碗(1105, 20)・京焼風陶器碗(1310, 13)・瀬戸美濃尾呂碗(1335, 40, 41, 43, 47, 52～55)などである。皿は少なく、肥前波佐見の見込蛇の目軸刺ぎ小皿(1077, 89, 1136)が中心である。鉢は、肥前二彩手印花(1449)や同刷毛目(1402, 91)がある。

瓶類は、1650～80年代の肥前網目文染付(1156)が古いが、瀬戸美濃掛け分け徳利(1378)や同飴軸水注(1483)は18世紀前半～中葉である。同錆軸徳利(1384)も同時期。柿輪徳利(1367)は志土呂産で17世紀後半～18世紀初頭のもの。調理器では、瀬戸美濃二彩片口(1381)や丹波自然軸播鉢(1515)もほぼ同時期である。貯蔵器の常滑甕(1523)は、14世紀と考えられる。調度具では、瀬戸美濃撥絵香炉(1475)
(続P.97)



D175出土遺物

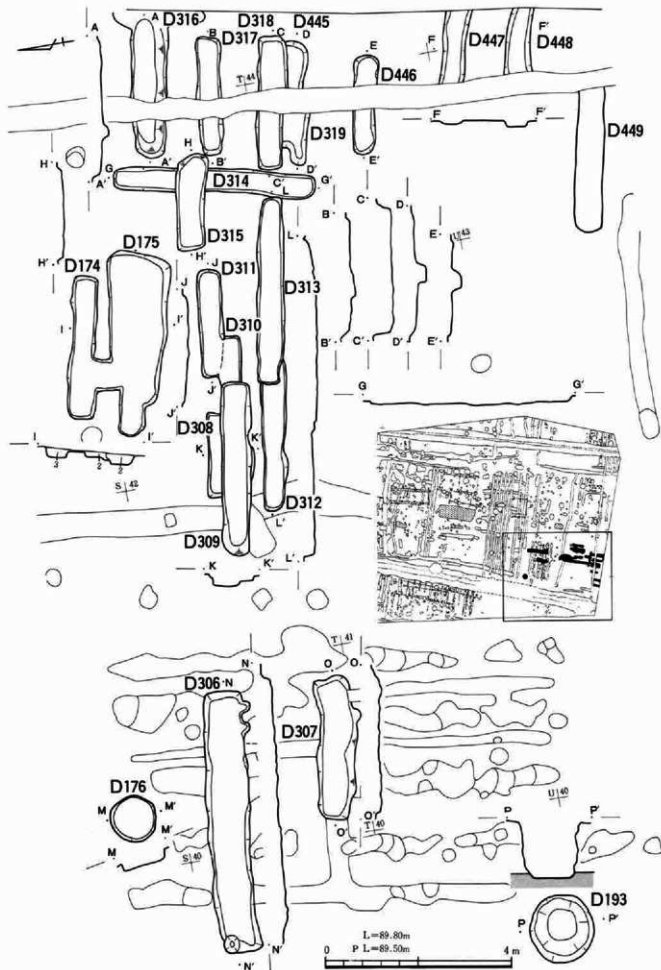


D306出土遺物

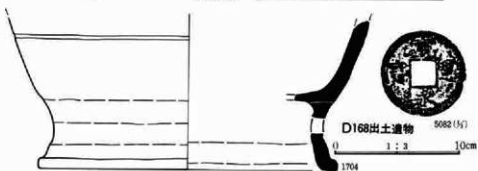
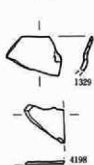
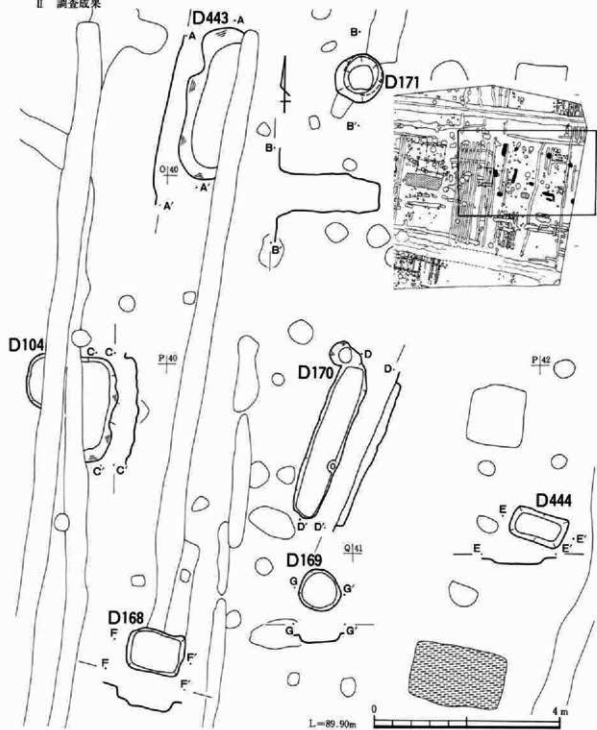


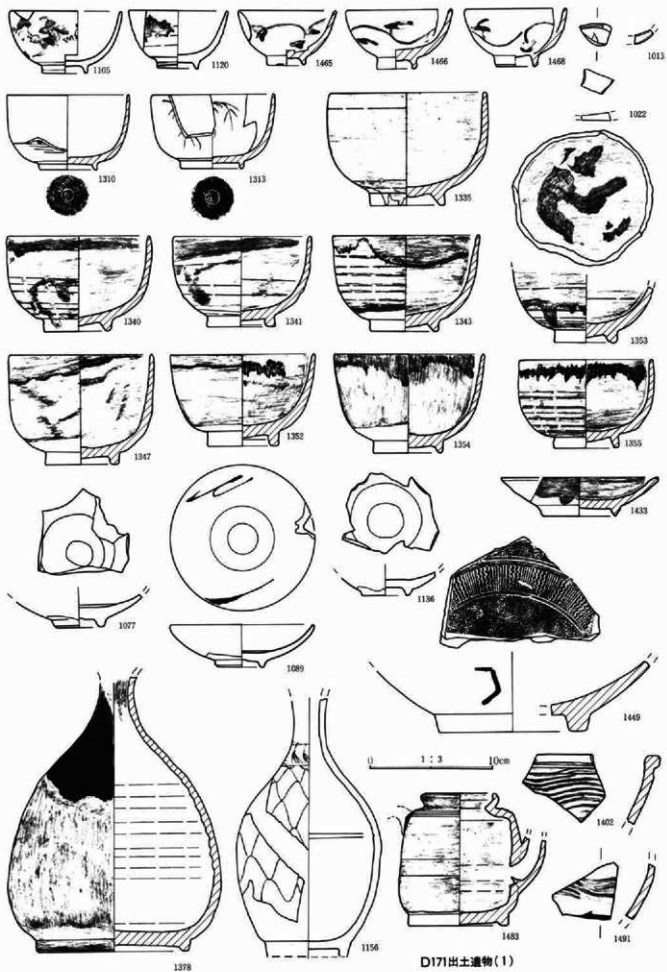
D306～D318出土遺物

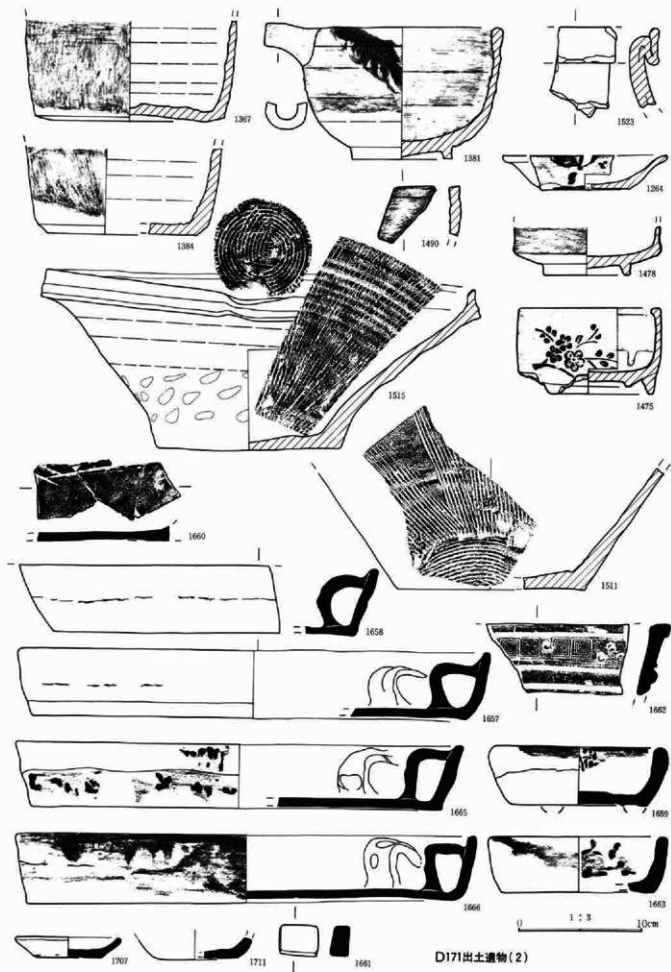
0 1:3 10cm



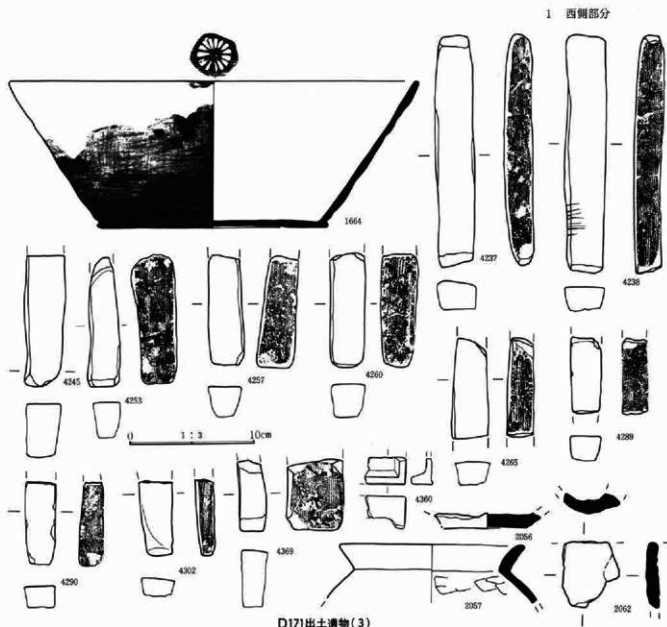
II 調査成果







D171出土遺物(2)



(P.92より)があった。瓦質土器では、焙烙(1657,58,60,65,66)はほぼ同一器形。1660の表面には不明の線刻が見られる。埴(1664)の内面には菊花状の印花が見られた。火鉢(1662)や小型火入れ(1659,63)もある。小型直方体(1661)は、栓か。

石製品は、あまり長期間使用されていない短冊形の橋南タガネ加工痕砥石が10本以上見られた。また脚付きの石鉢(4360)もあった。古代(2056)と古墳時代(2057,62)の土師器の混入もある。

以上のように、一部の混入品は含んではいるが基本的には同じ時期のものでまとまっている。肥前網目文染付瓶(1156)は、伝世品と考えられる。なお、この瓶以外に朝顔文染付碗(1105)・灰釉碗(1335)・尾呂碗(1352)の4点は、南西に37m離れた井戸跡D123からの破片と接合した。

D170は南北走向の短冊形土坑で、長3.4m幅0.6m深0.2mを測る。1.ローム層含むしまりない暗褐色砂質土

D443も同規模の短冊形土坑か。D104は形状不明で、掘立J031と畠跡N016に重なる。D169は径0.8mの円形、D444は長1.2m幅0.6mの長方形で、いづれも浅い。

井戸跡D179～D182遺構

土坑D118, D139～D143遺構 (PL.10,11,71,72)

井戸跡D179は道路跡X001と重なり、径0.8m深1.7mを測る。海拔89.0mの壁に崩落状況が見られる。同じくX001の北側屈曲部分と重なるのが、井戸跡D180とD181である。前者は径1.0m深1.8mで海拔89.1mの壁に崩落状況がある。後者は、径1.0m深1.6mで南側にやや浅いピットが重なる。壁の崩落は見られない。D182は、北堀跡M065の北斜面にあり、径1.0m深1.6mでM065の底より0.3m深い。いずれも湧水層は、底近くで前者は海拔88.4m、後者は海拔88.3mである。

以上の中で、遺物はD181からのみ常滑系自然釉高台付きコネ鉢(1518)と石白類が見られた。前者は12～14世紀頃と考えられる。北堀跡からの混入だろう。

道路X001に重なる箱形土坑は、D118, D139～D141がある。道路跡の南に連なるものとは列が異なる。幅はいずれも0.7mほどで最長のD141は1.7mでやや五角形。このD141からは、17世紀後半～18世紀中葉の瀬戸美濃尾呂碗(1356)が出土。そのため、道路跡より古いと考えられる。

円形のD143は、道路の北側屈曲部に重なり、径1.0mで浅い。短冊形土坑D142は、南北走向で長2.9m幅0.6m深0.5mである。

井戸跡D172, D173遺構

土坑D302～D305, D450～D452遺構 (P.100図 PL.10,73,74)

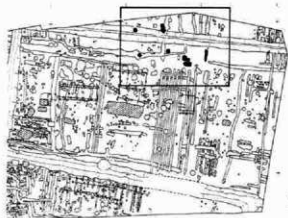
井戸跡D172は、上径1.6×1.2m深3.4mと深い。湧水層は海拔89.4mに見られ、深2.8mより下は径が小さく、増す掘りと思われる。畠跡N039と重なる。

遺物はやや多く、陶磁器では17世紀後半～18世紀前半の肥前二彩印花文鉢(1453)から18世紀後半の同染付湯飲み(1134)そして19世紀前半の瀬戸美濃錆軸小皿(1439)まで幅広い。焼締の摺鉢(1508)は備前系。瓦質土器では、焙烙(1800)と火鉢類の脚部(1713)がある。また石白(4149,50)と共に、木器が少し出た。桶底板(3273)以外は、正確には何の部材かは不明の角材である。そのうち、長80cm近くの角材(3270)は、ホゾとホゾ穴が両側に見られる建築部材である。

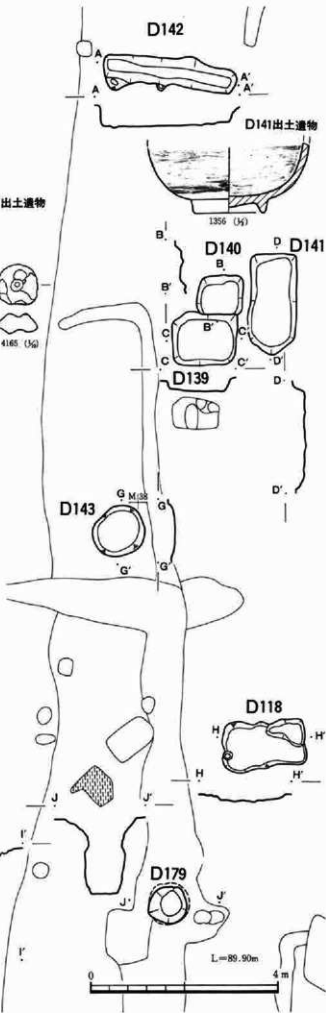
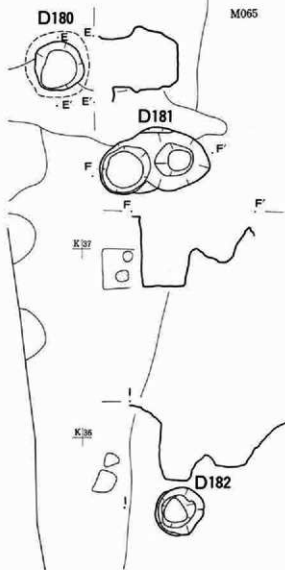
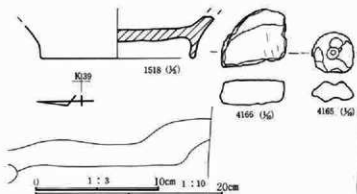
掘り増しも含めて、18世紀前半～19世紀前半の使用が考えられる。

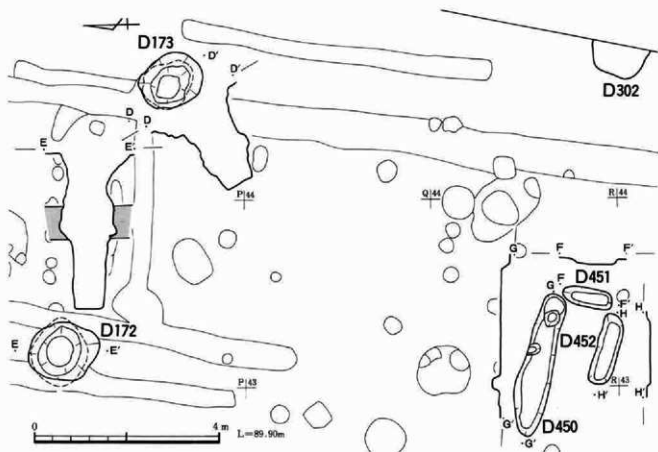
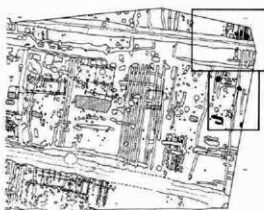
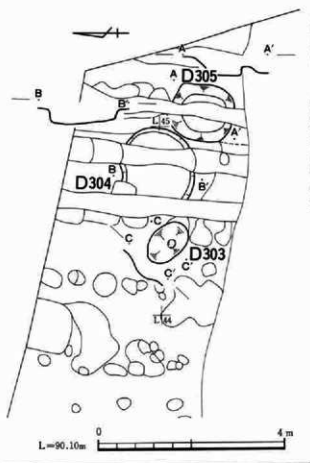
井戸跡D173は、区画溝M075と重複し、上径1.3×1.1m深2.0mを測る。海拔89.4mの壁に崩落状況が見られる。南側に小型で浅い短冊形土坑D450～D452が、東西走向2基と南北走向1基並ぶ。円形土坑のD302は、井戸跡の可能性もあったが、半分が現有道路の下であったため、発掘をしなかった。

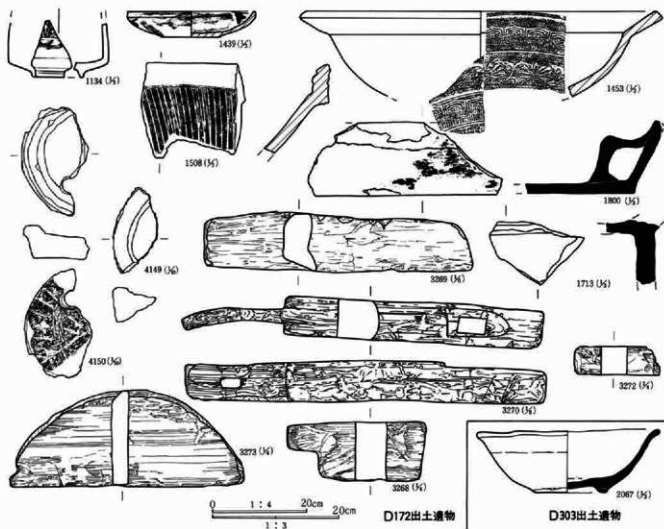
それらの井戸跡と土坑群の北大溝を挟んだ対岸には、畠跡N037に切られながら土坑D303～D305が見られた。D304は径1.6m深0.3mほどで、やや桶埋設土坑に似る。D305は1.4×1.2mの楕円形。以上はいずれも近世の土坑と思われるが、1.0×0.6mの小楕円形のD303からは、古代の須恵器碗(2067)が出土した。



D181出土遺物







畠跡N015, N037~N039遺構 区画溝M072遺構
井戸跡D040遺構 (P.102図 PL.16,74,75)

畠跡N015は、1.2mほどの間隔で、南北走向で7条のサクが検出された。耕作単位は、東西9m南北8m以上となる。南側に浅い未命名の溝が重なる。

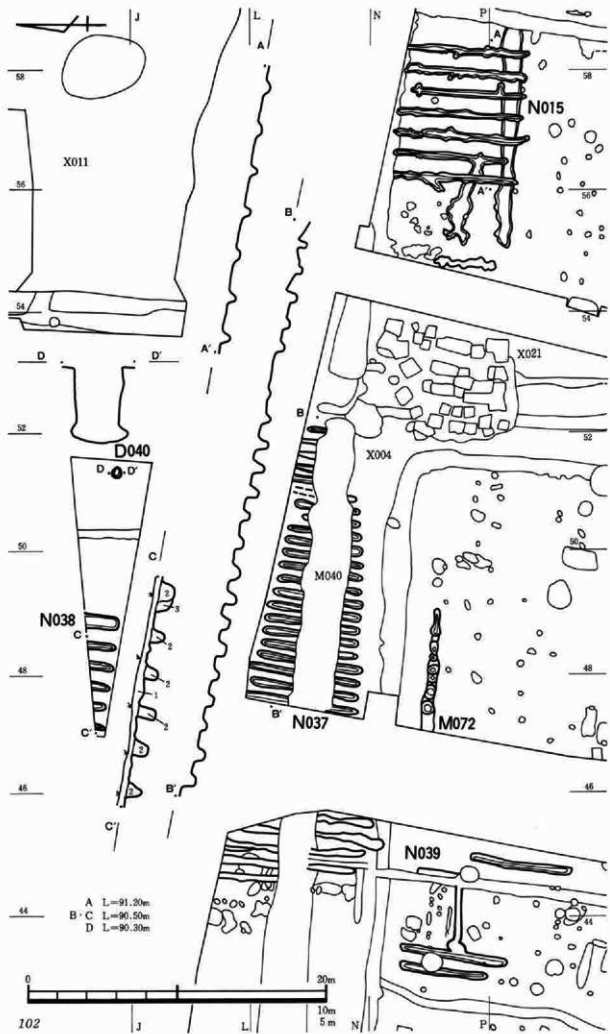
畠跡N037は、南北走向の27条以上のサクからなり、間隔は30cm前後と細かい。耕作単位は、東西30m南北10m以上となる。北大溝M065及び道路跡X001より新しいが、現有道路の下に入っている。この耕作単位内から出土した遺物は、1780~1810年代の肥前柴付湯飲み(1124)と18世紀代の肥前二彩手印花鉢(1308)、そして砥石(4293,4316,17)・鎌(5068)がある。よって、19世紀代の遺構と考えられる。

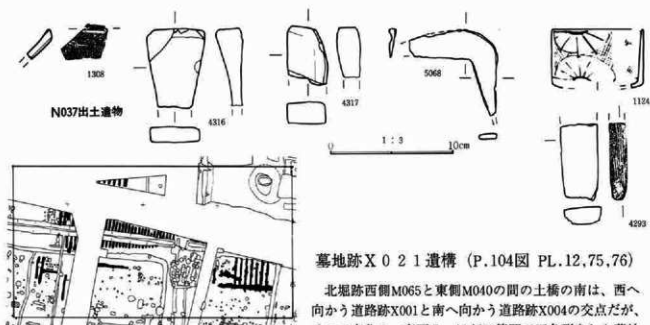
畠跡N038は、南北走向で間隔は60~80cm、6条のサクが検出された。東西は6m以上だが、検出範囲が狭く耕作単位は不明。1.表土 2.しまりない暗褐色砂質土 3.しまりない黒褐色砂質土 この畠跡は南側のN037と間隔が異なっており、両者の間の現有道路の存在を示唆している。そのため、旧道X001の廃絶後に現有道路とこれらの畠跡が形成されたと考えられる。

畠跡N039は、N039の南西側に南北走向の4条のサクが検出されただけである。検出状態は不良だが、間隔は50~70cmほどと思われ、耕作単位は東西8.5m南北11m以上となる。区画溝M075と重なるが、道路X001を意識している。そのため18世紀頃と推定できる。

区画溝M072は、道路跡X001に平行して東西走向で8m確認された。内部はピットの連続であり、排水溝ではなく植栽痕だろう。

井戸跡D040は、径1.6m深2.5mで、底の海拔88.4mに壁の崩落痕があり、湧水層と考えられる。





墓地跡X021遺構 (P.104図 PL.12,75,76)

北堀跡西側M065と東側M040の間の土橋の南は、西へ向かう道路跡X001と南へ向かう道路跡X004の交点だが、そこで南北9m東西7mほどの範囲で五角形をした墓地跡が検出された。

ここは久保田久雄氏家の墓地であったが、改葬が行われた後に調査を行った。しかし水位が高かったため、発掘は底までには行えず、実測も平面のみにとどめざるをえなかった。

平面形が一边0.7~1.3mの正方形で深さが1m以上ある墓塚が35基以上、長1.4~2.0m幅0.8mの長方形で木棺が残る墓塚が3基確認された。長方形墓塚は中央にまとまり、正方形墓塚を壊している。また湧水中に衣服片が見られたため極めて新しいものと考えられた。正方形墓塚は、壙棺の桶を埋設した可能性が大きい。木片の残存はなかった。平面が正方形であることと壙の掘り方がそれほど丁寧でない点、桶埋設土坑と異なっている。正方形墓塚どうしでの重複も少しあるため、ある程度長期間の形成が考えられた。

遺物は、陶磁器と銅銭が主である。食器では、近代の瀬戸美濃染付端反碗(1203)と13~14世紀の竜泉窯蓮弁文青磁片(1005.15)が見られた。調理器では、18世紀前半~中葉の瀬戸美濃錆軸播鉢(1528)・関西系灰軸コネ鉢(1531)そして12~14世紀の常滑自然軸鉢(1532)があった。後者は北大溝M040出土片と接合した。銅銭は、いずれも寛永通宝で古寛永(5100A,E,5101B)と新寛永(5099,5100B~D,F,5101A)で5100Fは裏波文の四文銭である。

他には中世以後の土師器小皿(1745.53)・近世の瓦質土器焙烙片(1748)、そして鎌と石臼片が、見られた。

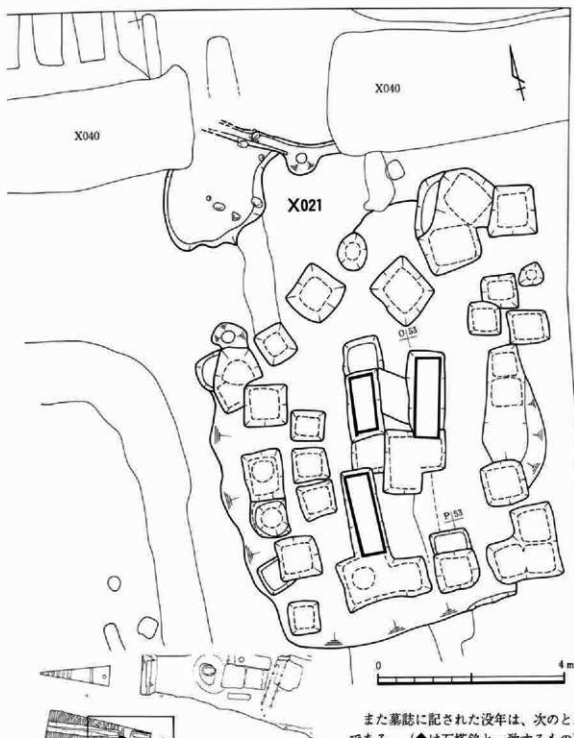
以上の中で、青磁と常滑鉢は中世遺構からの混入で、鎌と石臼片も墓塚への副葬品とは考えにくい。反対に播鉢とコネ鉢は、近隣の二之宮谷地遺跡(当事業団1993)でも見られたように被葬者の頭部にかぶせられていた可能性が考えられる。

道路跡X004の年代が18世紀前半であること、銅銭の中で最も新しい四文銭の初鑄が明和5(1768)年であることを含めて、遺物からは18世紀中頃から近代に至る使用と思われる。

なお、改葬後に調査したこの墓地の石塔銘は、次のとおりであった。

片面加工地藏弥勒像	享保5(1720)	享保6(1721)	享保18(1733)	享和2(1802)
三面加工丸型標塔	宝暦5(1755)	宝暦8(1758)	天明6(1786)	寛政8(1796)
同 角型標塔	明和4(1767)	天明1(1781)	文化12(1815)	天保7(1836)
四面加工丸型標塔	慶応1(1865)	明治22(1889)		嘉永3(1850)
片面加工小標塔	享和2(1802)	不明2		
三面加工小標塔	天保14(1843)	弘化3(1846)	弘化4(1847)	嘉永3(1850)

II 調査成果



また墓誌に記された没年は、次のとおりである。(◆は石塔銘と一致するもの)

17世紀 元禄2,3,5

18世紀 ◆享保5 宝暦3,7,◆8,11

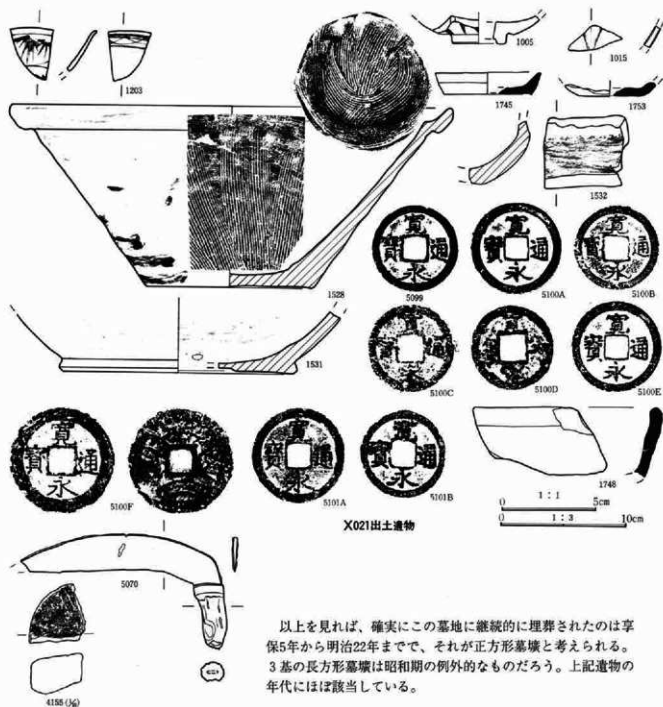
明和2,◆4 天明3,◆6 ◆寛政8

19世紀 享和4 文化9 文政2,6 天保1

嘉永1 明治9,12,14,16,21,26,

28

20世紀 昭和9,38,42,46,47,50



X021出土遺物

以上を見れば、確実にこの墓地に継続的に埋葬されたのは享保5年から明治22年までで、それが正方形墓塚と考えられる。3基の長方形墓塚は昭和期の例外的なものだろう。上記遺物の年代にははた該当している。

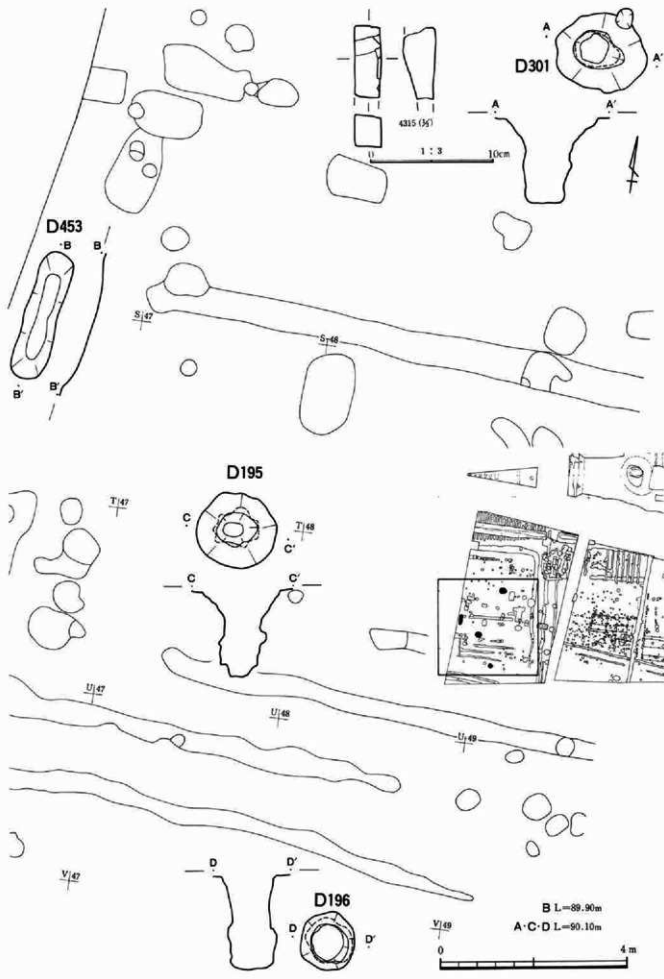
井戸跡D195, D196, D301遺構 土坑D453遺構 (P.106図 PL.76,77)

道路跡X004の西側に散在する遺構群。井戸跡D195は、上径1.7m深1.9mで、海拔89.3mの壁に崩落痕がある。井戸跡D196は、上径1.2m深2.0mで、同じく海拔89.1mより下の壁が崩落。井戸跡D301は、上径2.0×1.7m深1.8mで、やはり海拔89.3mに崩落痕。D301から山形の砥石(4315)が出土したのみ。

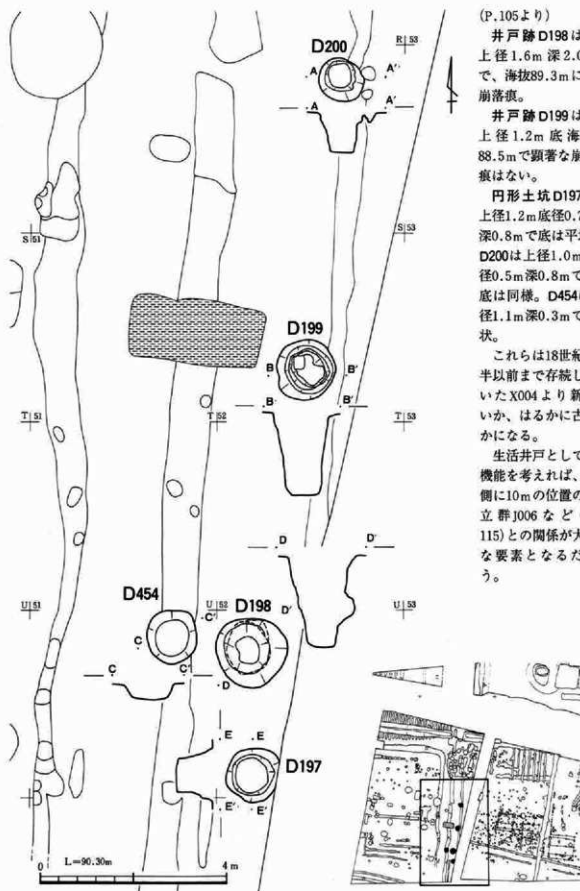
土坑D453は、長2.8m幅0.8mの南北走向の短冊形土坑。形状より近世と考えられる。

井戸跡D198, D199遺構 土坑D197, D200, D454遺構 (P.107図 PL.77)

道路跡X004に重なる遺構群。(続P.107)



1 西側部分



(P.105より)

井戸跡D198は、上径1.6m深2.0mで、海拔89.3mに壁崩落痕。

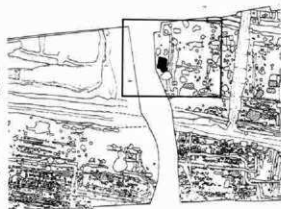
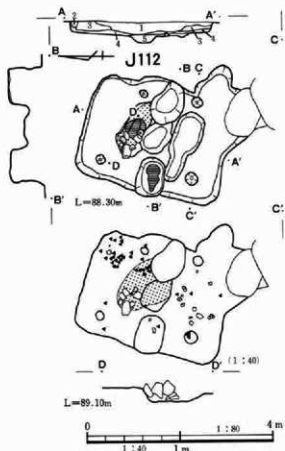
井戸跡D199は、上径1.2m底海拔88.5mで顕著な崩落痕はない。

円形土坑D197は上径1.2m底径0.7m深0.8mで底は平坦。D200は上径1.0m底径0.5m深0.8mで、底は同様。D454は、径1.1m深0.3mで皿状。

これらは18世紀前半以前まで存続していたX004より新しいか、はるかに古いかになる。

生活井戸としての機能を考えれば、東側に10mの位置の掘立群J006など(P.115)との関係が大きな要素となるだろう。

II 調査成果



竪穴住居跡 J 1 1 2 遺構 (PL.78,79)

台地西端に位置し、水田跡N203の低地を望む。東西2.4m南北3.1m深0.3mで、東壁南側にカマドがある。南東角は近世の井戸跡D190及び未命名の土坑に壊されている。1.黒褐色粘質土 2.雑乱 3.暗褐色土粘質土 4.にぶい黄褐色粘質土 ローム粒主体で鉄滓・炭化物多く含み、しまりなし 5.にぶい黄褐色粘質土 ローム粒主体、しまりなし

床面中央に東西方向に3個のピットが並んでいる。そのうち両端は80×50cm深80cm、中央のものは深40cm弱。西側のものは、底に灰が見られた。東端のピットと異なって西端のものの埋土はややしまりがあり、この竪穴の最終使用時には埋まっていた可能性がある。このピット列の北側中央には6個の隙でコ字形に組まれた石組が床の上にあり、灰と焼土がやや広く散布していた。

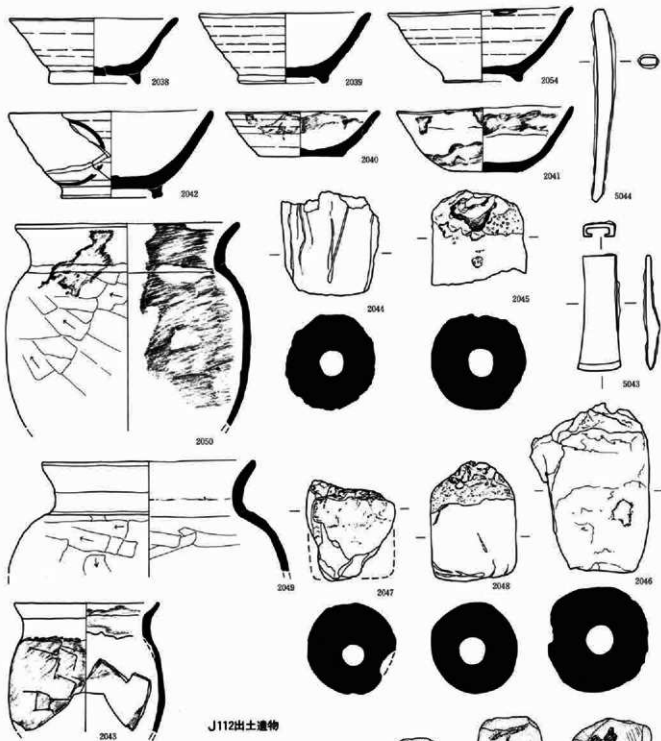
中央ピット列の南側でも1.5×0.5mほどの細長く浅い掘り込みがある。柱穴は4個あるが、竪穴の平面形とは異なって、東片が狭い台形配置になっている。上記各施設はいずれも、この台形内におさまっている。

遺物はかなり多く、特に北東角を中心に鉄滓(▲印)が大量に散っていた。その他に、5個の土製フイゴ羽口(2044~2048)がばらばらに見られた。そのうち完存の2046は13cm、2048は10cmの長さである。また石組に使われていたのは角閃石安山岩の加工石(4362~64)で、10×20×30cm以上の直方体状に作られている。表面には被焼痕がある。

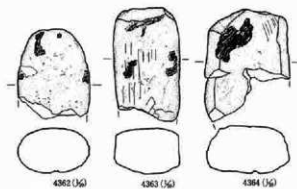
鉄製品では、長9cm幅3.5cmの袋状鉄斧(5043)と長15cm幅1.5cmの棒状のもの(5044)がある。

土器は一般的な食器と煮炊具が揃っている。しかし興味深いことに、須恵器碗の中に外面の大きく丸印の墨書のあるもの(2042)と内外面に線刻で「川」のような字があるもの(2054 参照PL.165)が含まれていた。また須恵器杯(2040)と土師器杯(2041)には内外面にスガが見られた。土師器甕(2043,49,50)にもスガが付着した部分が多い。

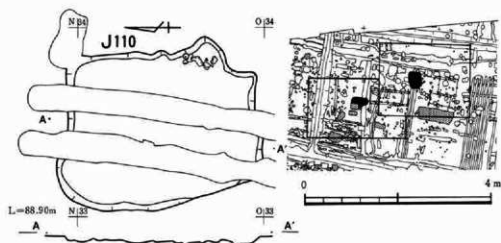
以上の特徴を見ると、この竪穴が小鍛冶生産を専門に行っていた施設であることはほぼ間違いないだろう。中央のピット列は工作用のものであり、石組施設も小鍛冶炉と考えられる。鉄斧や鉄棒も、製品とするのが自然だろう。そしてその施設のため、おそらく通風の処理の必要があって、建物の上屋も一般の竪穴とはかなり異なった構造になったと思われる。土器とカマドの存在から居住もなされていたが、墨書や線刻はこの施設の生業と関係あったのではないだろうか。時期は、土器より9世紀後半頃だろう。



J112出土遺物



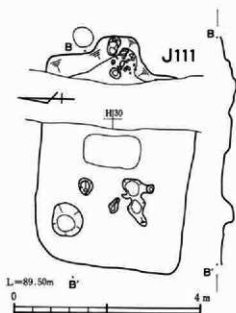
0 1 : 3 10cm



竖穴住居跡 J 1 1 0 遺構 (PL.80)

北大溝の南側で検出された。中央を近世の畠跡N019に壊され、床面は確認できずに掘り方部分のみを調査した。

東西3.4m南北4.2mの長方形で、東辺南側にカマドがある。カマド内には袖の芯材と思われる角柱状の砂岩の小片が大量に散っていた。他には何の遺物もなかった。

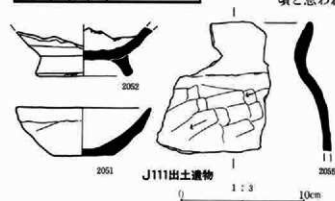


竖穴住居跡 J 1 1 1 遺構 (PL.79,80)

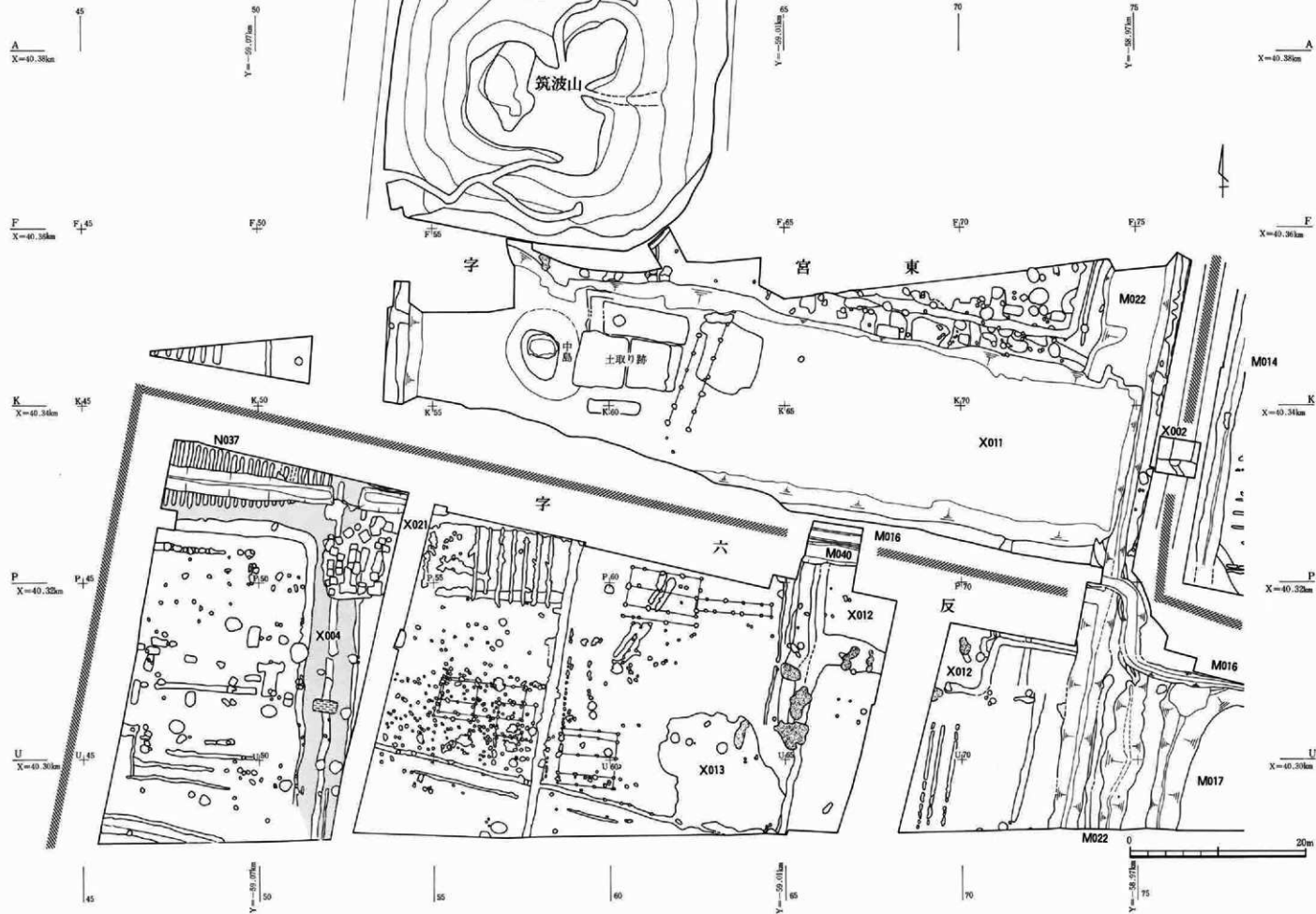
J110の南西約15mに位置する。中央を近世の区画溝M054と未命名の長方形土坑に壊される。床面はやはり確認されず、基本的に掘り方だけの調査であった。

そのため平面形は推定線であって、規模は不明。ただカマドが東辺にあることは間違いない。北西側に浅いピットがあるが、この竖穴と関係あるかは確認できない。

遺物は全てカマド内から出土した。いずれも土師器で厚手の甕(2055)・高足碗(2052)・坏(2051)である。年代は11世紀頃と思われる。



中央部分全体図



2 中央部分

《 概要 》 (PL.81)

この部分は、筑波山の南側一帯の西は無量寿寺参道から東は南北の道路跡X002までで、東西100m南北70mほどの範囲である。東西走向の現存道路の北側が字宮東で南側が字六反である。

西端の南北に走る无量寿寺旧参道跡X004(第1節P.21)から東側は、明確な境がないままに低地性のシルト質土が地山になる。水位はかなり高く、大部分は調査開始前に水田であった。

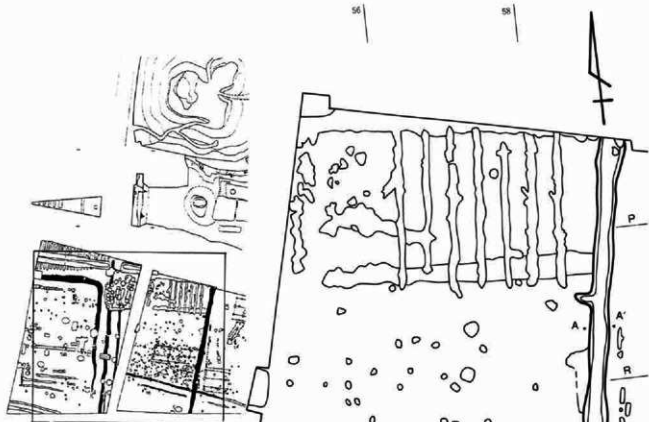
東西二つの道路跡にはさまれたこの部分は、特異な遺構のあり方を示している。筑波山直下の字界の現存道路の北側のほとんどは、東西80m強南北20m強の近世の池跡X011であった。この大池は筑波山を含めて、少なくとも近世の民間信仰の中心地であった。現存道路の下には、北大溝M040と近世の水路M016が走っている。また東端道路跡X002の西側に沿って東大溝M022が南北走向で見られる。そして南側は、方形の園池X012や釣り殿状部分を持つ建物J005など、庭園を意識した中世の居住域としての様相が強い。

基本的には、次のように中世の居住と近世の水利・信仰に関する遺構が主体である。

溝類(M)	堀跡	1条
	区画溝	6条
	水路跡	9条
居住(J)	掘立柱建物跡	4箇所
	礎石建物跡	1棟
土坑類(D)	井戸	16基
	短冊形土坑	2基
	その他土坑	12基
耕作地(N)	畝跡	2箇所
その他(X)	道路跡	1条
	道路側溝	5条
	池跡	3箇所

遺構に伴わない遺物では、古代のものが僅かに見られただけである。

報告は、北大溝の南側・筑波山と池跡周辺・東大溝付近の順で行う。



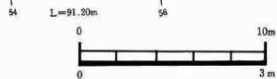
区画溝M036, M038,
M039遺構 (PL.81)

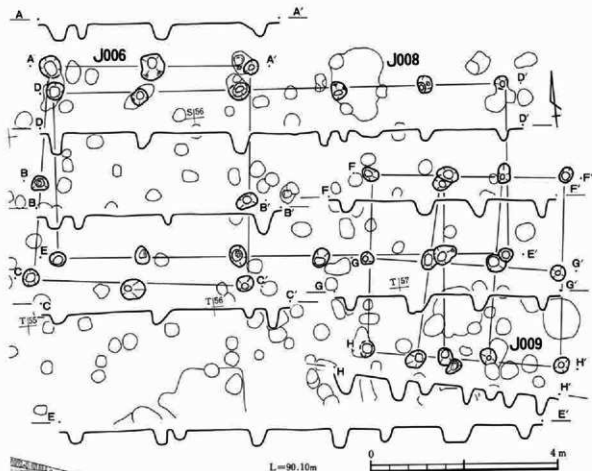
M036は、やや東に偏して南北方向に走る。直線状で34m検出。上幅0.8m深0.3mで、断面U字形。 1.黒褐色砂質土 浅間B軽石含む 2.堅い黒褐色砂質土 3.暗赤褐色砂

M038とM039は、M036に直交の東西走向。さらに東に続き (P.116)、前者は40m強の長さになる。後者も1.5mほどの間隔で平行。しかし西側では、道路跡X004の手前で消滅する。

共に上幅50cm以下の狭い溝で、両者は調査前の水田境界と一致しており、かつ戦後までの地境とは異なる (P.11) ため、現代の大畦の跡であろう。

M036はその地境に似るため、近代以前。





掘立柱建物跡J006,J008,J009遺構 (PL.5.82)

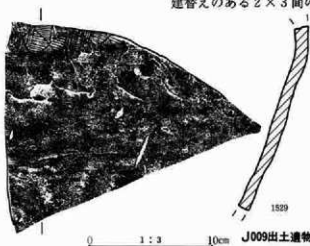
J006は、東西4.5m南北4.6mで2×2間。ほぼ正方形だが、柱穴は南北辺では各中央にあるのに対し、東西辺では南に偏る。柱穴の深さは30cmほどである。面積は21㎡。

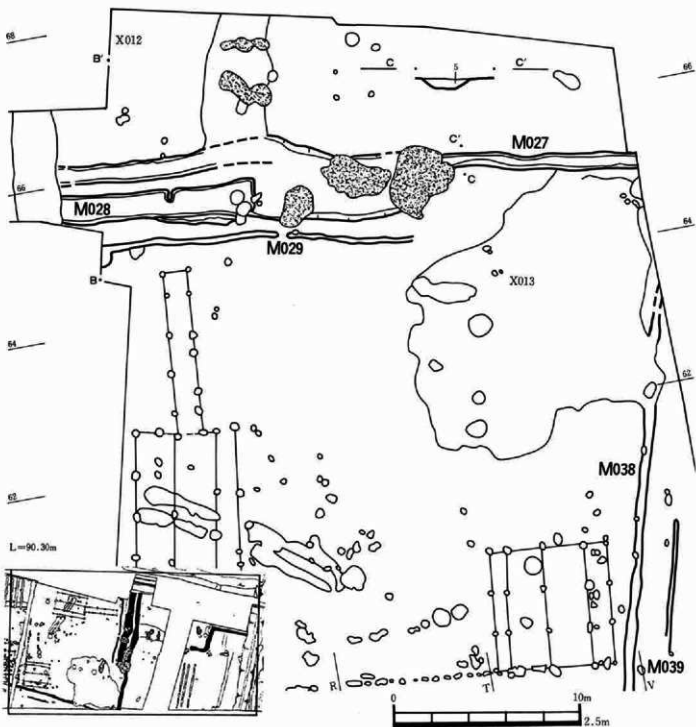
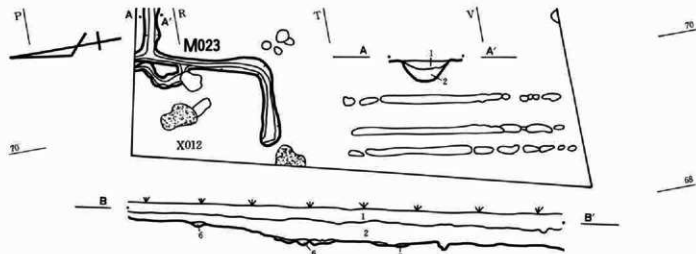
J008は、東西9.6m南北3.6mで1×5間の東西棟。柱間距離は1.7~2.3mである。柱穴の深さは30~40cm。面積は35㎡となる。

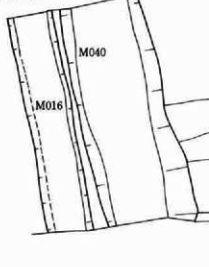
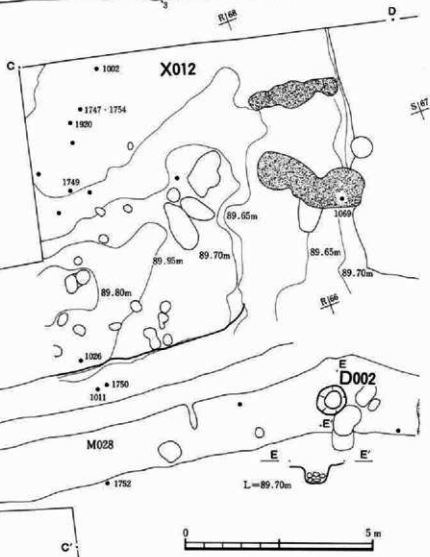
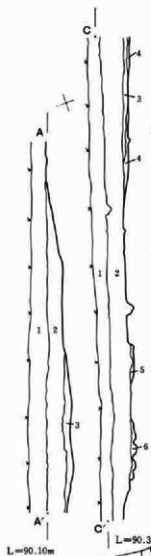
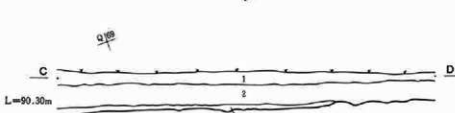
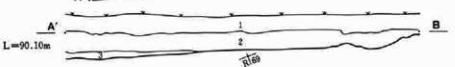
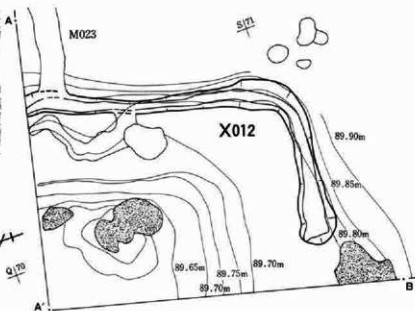
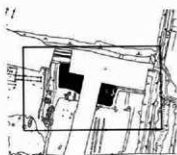
J009は、東西4.1m東辺4.0m西辺3.7mの少し台形さみの正方形。建替えのある2×3間の総柱と考えられる。柱間距離は南辺が1.0~1.5mと最も不揃いだが他はほぼ均等。面積は16㎡。柱穴内より12~14世紀の常滑甍片(1529)が出土。周辺ではまだ多くのピットがあり、この3棟の重複以外にも建物があった可能性は高い。

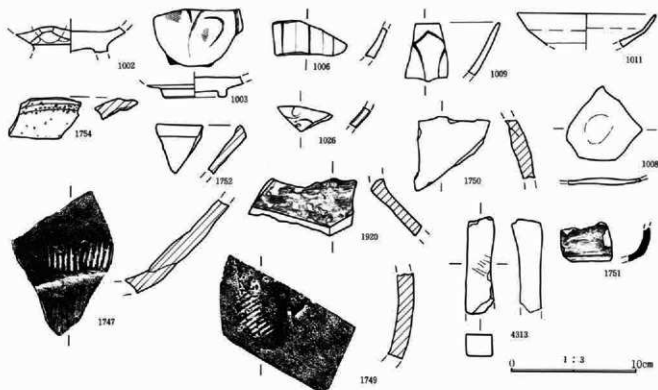
J008と同規模の大型の東西棟の建物は、西側部分でいずれも18世紀代のJ015(P.32)J025(P.77)があるが、それらは柱穴径が40~50cmあり、30cm以下のJ008よりはるかに大きくまた深い。

全体としてこの3棟の柱穴は形状が似ており、12~14世紀の年代と推定できる。









X012出土遺物

池跡X012,013遺構 区画溝M023,027~029遺構 土坑D002~004遺構 (PL.13,82~84)

北大溝の南側の圓池状遺構群。方形の圓池X012は、東西21m南北11m以上で、北側を除く3方の周囲を幅0.4~1.0mの浅い溝が囲んでおり、中央は緩やかに30cmほど低くなっている。北側は方向が揃う状態で北大溝X040が走っているが、同時期か本遺構が古い。1.現水田耕作土 2.暗褐色土砂質土 砂含む 3.暗褐色土粘質土 粘性強い 4.灰黄褐色土 遺物多く含む 5.黒褐色土砂質土 砂と小礫含む 6.黒褐色粘質土 ローム塊含む (M028) (P.116・117・119図)

北大溝と併存していた場合、周囲の浅い溝は増水時にそこから水を取り入れた施設の役割を果たすことになる。

現存道路の関係で、全体の3分の2程度しか調査できなかったが、西側の底から中国陶磁を中心とする多くの遺物が出土した。同安窯系青磁碗(1003)・竜泉窯系青磁碗(1002,06,09,26)・白磁皿(1011)・同鉢(1008)と12~14世紀中葉の間に入る中国陶磁片が本遺跡で最も集中している。さらに国産では12世紀の麗美甕片(1747,49,50)と時期不明常滑甕片(1920)そして産地不明の焼締陶器壺片(1752,54)など、同時期の貯蔵器が見られた。これらは、西に接する掘立J005で使用されていたものが、廃棄されたと考えられる。

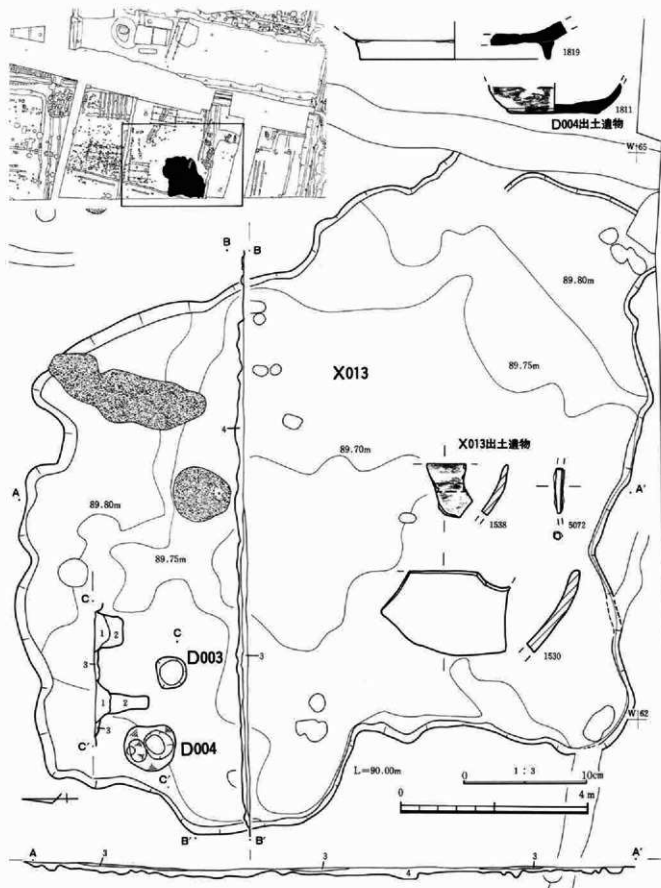
溝M023(P.116,160) 1.黒褐色粘質土 下面是砂 2.暗褐色土粘質土 とM027は、この圓池X012の排水溝と考えられる。前者は上幅60cm深30cmで東に10m走って東端大溝M022に至る。後者は上幅60cm深10cmで南に20m以上伸びている。圓池X012の西辺に平行する小溝M028とM029は、単なる区画であろう。X012の南西角付近のM028内には礫の入った径0.8m深0.5mの円形土坑D002が見られた。

X012から南西に12m離れて不定形の圓池X013がある。長径16m短径12mで最大深20cmで、東側でX012の排水溝M027と重なるが関係不明。北西側でこの圓池より新しい円形土坑D003は径0.6m深0.6m、D004は径0.6m深1.1mを測る。1.黒褐色土砂質土 しまり弱い 2.黒色砂質土 3.暗褐色土砂質土 しまり弱く浅間B軽石含む 4.黒褐色粘質土 しまり弱くローム・黒色土塊含む人為的埋土

遺物は、X013の埋土中より15世紀後半の瀬戸美濃天目碗(1538)と12~14世紀の東北系コネ鉢(1530)そして鉄釘(5072)が出土。またD004からは、瓦質土器高台付きコネ鉢(1819)と土師器小皿(1811)が見られた。したがって人為的に埋められたX013は15世紀後半、二つの土坑はそれ以後と考えられる。

時間的に完全に対応するかは不明だが、X013の西側にも掘立J010がある点は、興味深い。

2 中央部分

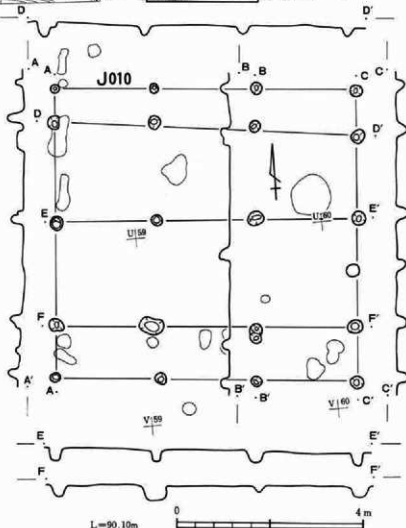
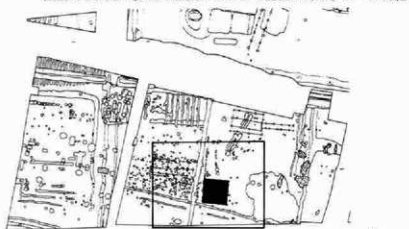


II 調査成果

掘立柱建物跡 J010 遺構 (PL.84)

園池X013の西5m、掘立J009の東4mに位置する。東西6.5m南北6.1mだが、2×3間の東西棟の礎柱建物の南北に庇がついた建物と考えられる。庇も含めた面積は、40㎡。柱間距離は母屋の東西が2.1~2.2mとほぼ等しいが南北は1.7~2.3mである。庇は、南側が1.1m北側が0.7~1.0mでやや不揃いだが、庇を含めた全体の形状は、僅かに南北に長い長方形になっている。柱穴は平均径20cm前後、深は20~30cmである。

走向は、西側の掘立J006、J008、J009とほぼ同様であり、基本的と同じ屋敷構えの建物と考えられる。直接には大形のJ008の延長のものの可能性がある。12~14世紀のJ009と大きく隔たらない時期だろう。

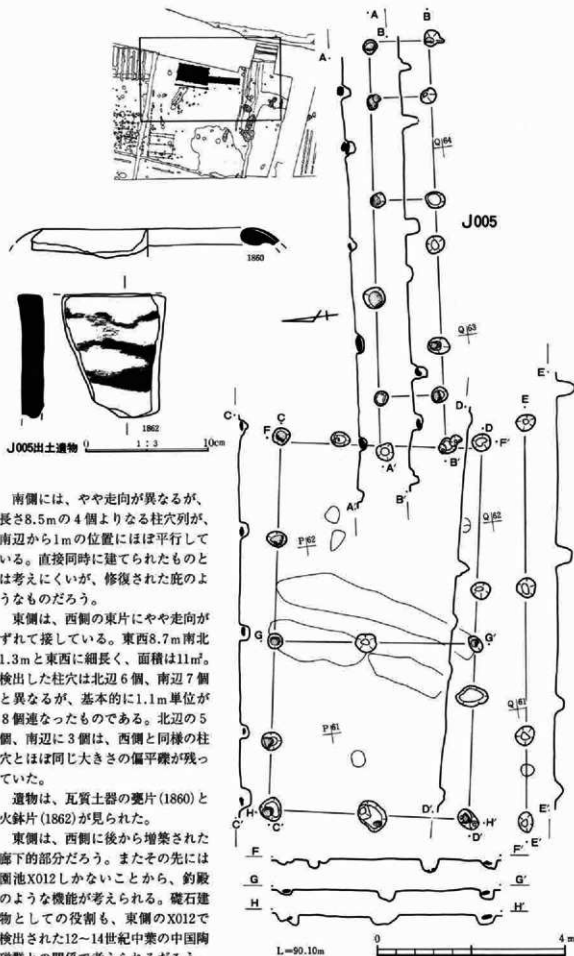


礎石建物跡J005遺構 (PL.85)

園池X012の西側6m、区画溝M029の西僅か1mに位置する特異な建物。

東西両側に大きく分かれる。西側は東西8.1m南北4.1~4.2mで、2×4間の東西棟。この部分の面積は34㎡。ただし、柱間距離は北辺の西端が1.5m以外は2.3mと揃うのに対し、南辺は西から2.6, 1.1, 1.1, 1.3, 1.1mと左右対称的な状態になっている。また南北の中央の柱穴を結ぶ線上の中央にも柱穴がある。

興味深いことに、北と西辺の全てと南片の中央の柱穴には柱止めの偏平礫が入っていた。礫の大きさや厚さに比べ、柱穴はそれほど大きくはない。むしろ柱穴ではなく、礎石の地盤と考えたほうが適当だろう。

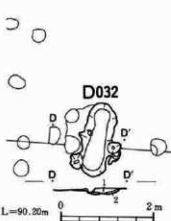
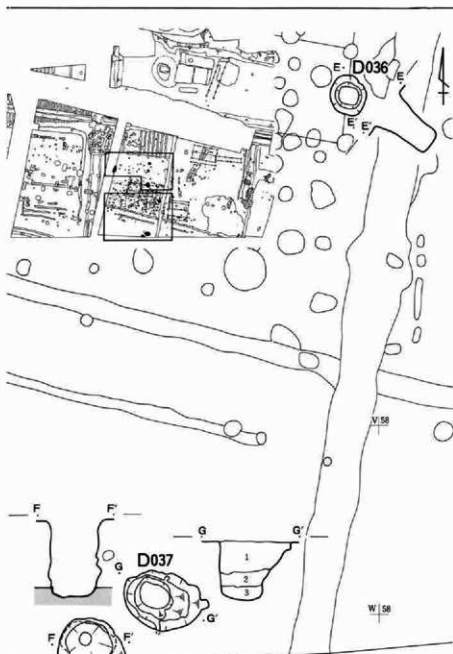
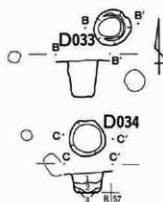
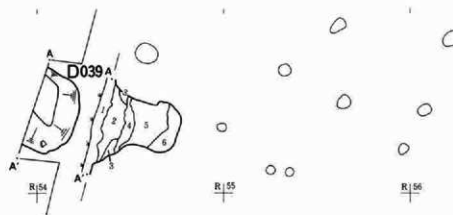


南側には、やや走向が異なるが、長さ8.5mの4個よりなる柱穴が、南辺から1mの位置にはほぼ平行している。直接同時に建てられたものとは考えにくいが、修復された庇のようなものだろう。

東側は、西側の東片にやや走向がずれて接している。東西8.7m南北1.3mと東西に細長く、面積は11m²。検出した柱穴は北辺6個、南辺7個と異なるが、基本的に1.1m単位が8個連なったものである。北辺の5個、南辺に3個は、西側と同様の柱穴とはほぼ同じ大きさの偏平礎が残っていた。

遺物は、瓦質土器の甕片(1860)と火鉢片(1862)が見られた。

東側は、西側に後から増築された廊下的部分だろう。またその先には圍池X012しかないことから、釣殿のような機能が考えられる。礎石建物としての役割も、東側のX012で検出された12~14世紀中葉の中国陶磁群との関係で考えられるだろう。



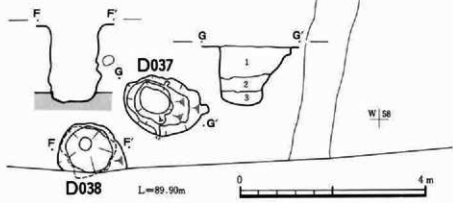
井戸跡D036～D039遺構
土坑D032～D034遺構
(PL.86,87)

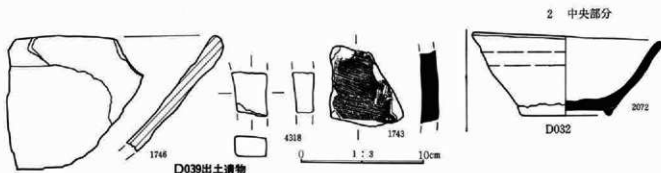
井戸跡D036は、掘立J009と重なって検出された。上径0.8m深1.2mを測る。海拔88.8mの底が僅かにえぐれる他は、あまり顕著な崩落痕はない。

井戸跡D038は、D036の南13m離れ一部調査範囲外にかかる。上径1.2m深1.7mで海拔88.6mより調査時に湧水。

その北東にほぼ接する井戸跡D037は、上径1.8×1.2m底海拔88.7mで、南西側の上部分が広がった形態。1.暗赤褐色粘質土 2.黒褐色砂質土 3.暗赤褐色土 底に砂互層堆積

掘立J006の北西7mの井戸跡D039は、現有水路にかかったため半分しか掘れなかったが、上径1.6m深1.6m。





1.耕作土 2.黒褐色砂質土 3.暗褐色砂質土 しまり弱い 4.黒褐色粘質土 5.黒褐色粘質土 褐色砂質土を含む 6.暗褐色砂質土 砂互層堆積を含む

調査時には湧水はないが、海拔89.0mに崩落痕がある。産地不明無軸焼締コネ鉢(1746)・須恵器甕(1743)そして砥石(4318)が出土。明確な時期は不明だが、中世と推定できる。

土坑D032は、掘立J008と重なって検出された。長1.6m幅0.6mの長方形で深10cmほど。1.暗赤褐色土 しまり良い 2.褐色土 ローム粒混在 北西側の底から10cmで須恵器碗(2072)出土。10世紀か。

D032の北4mに土坑D034、6mに土坑D033がある。共に径0.7mの円形で、深はそれぞれ0.8mと0.5m。D034 1.黒褐色砂質土 浅間B軽石含む 2.黒色砂質土 3.暗赤褐色砂質土 ローム粒含む

D033は円筒形の掘り方で井戸の可能性もある。

井戸跡D008, D035, D101遺構 畠跡N010遺構 (P.124図 PL.87,88)

井戸跡D101は、礎石建物J005の西2mの位置で検出。上径0.8m底海拔88.5mで、掘り方は西から東にやや傾く。井戸跡D035はその南9mに位置し、上径1.3m底海拔89.1mの円筒形。1.暗赤褐色砂質土 浅間B軽石・ローム塊含む 2.褐色砂質土 底に砂互層堆積

浅く湧水痕はないが、人為的な埋土である。両者は礎石建物J005との関係が考えられる。

井戸跡D008は東端大溝M022の西5mの位置で検出された。上径1.1m深1.3m、底海拔90.2mより湧水。1.耕作土 2.しまりない暗褐色砂質土 3.暗褐色砂質土 4.黒褐色砂質土 5.におい黄褐色シルト質土 塊状しまりなし 6.黒褐色粘質土 シルト質土塊含む 人為的な埋土 周辺には居住遺構が見られない。

畠跡N010は、D008の西6mにあり、幅30~40cm深10~20cmの3条のサクで構成。耕作単位は、南北12.4m以上東西3.1m以上で、面積38㎡以上となる。砥石(431)が出土したが、時期不明。

池跡X011遺構 (P.125図 PL.13,14,89~92)

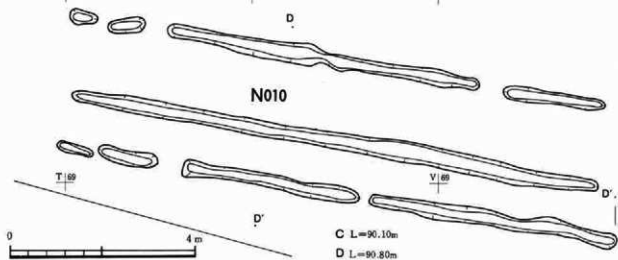
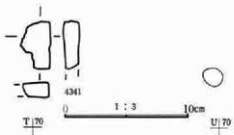
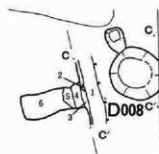
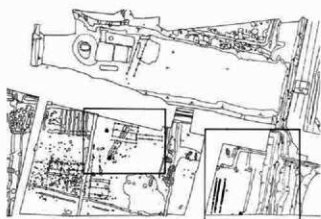
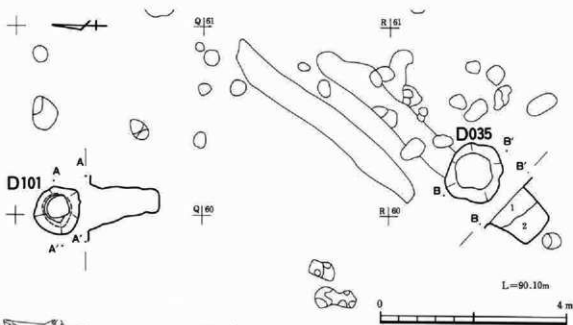
1. 全容

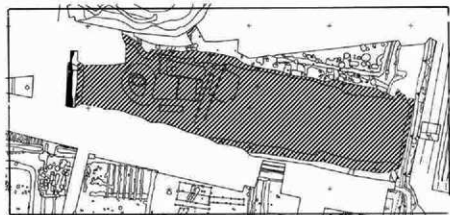
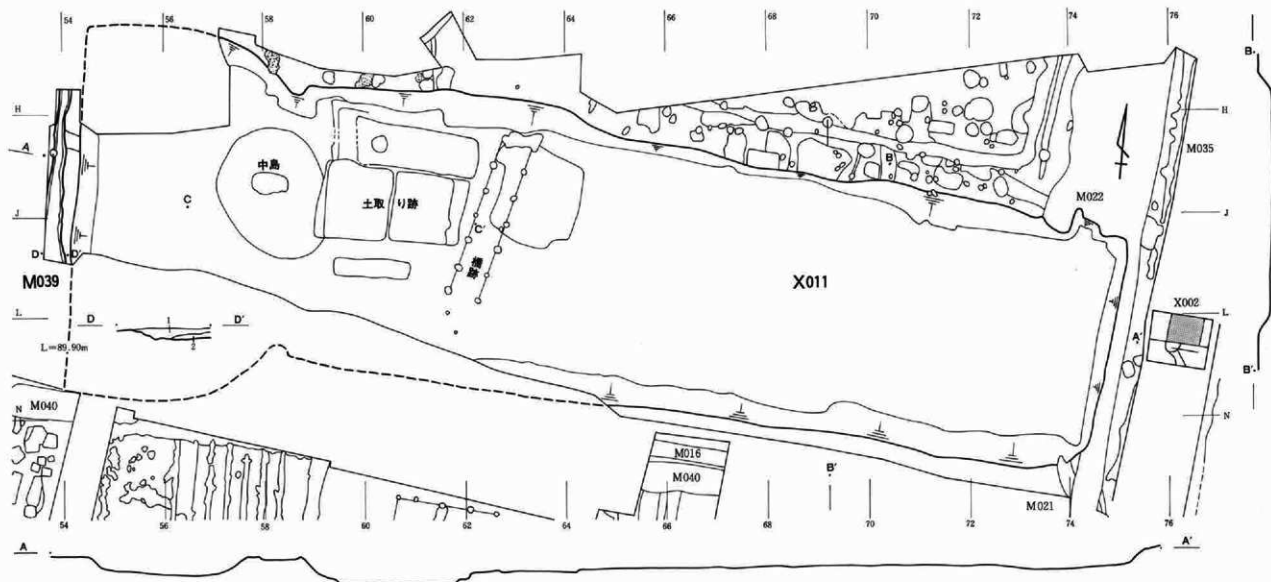
筑波山南側で無量寿寺参道から東端堀跡M022までの間の、東西83m南北20mの東西方向に長い長方形の平面形。深さは、平均1.5mでほぼ底は平坦(海拔88.5m前後)だが、西側中央に10×11mほどの土取りしてさらに1mほど深くなった部分がある。

筑波山直下には、五角形に近い平面形の中島がある。この中島の西側は、岸の大部分が調査できなかったが、東側と異なって半円形に近い形状が推定される。

内部には中島と土取り跡と共に、橋跡がほぼ中央で南北に検出された。東端では、南北大溝M022を壊している。また南西角は北堀跡M040より新しい。南東角には排水溝と思われるM021が出ている。調査範囲外の北西角に取水口があったと、地元では言われている。

調査以前には、湿地状の水田となっていた。戦前には洪水期に塚状の中島ははっきりと見られたが、調査直前はあまり明確ではなかった。





A·B·C L=90.00m



池跡X011遺構

『二之宮村誌』(明治11年)には「筑波山の南麓二池あり」と記され、『荒砥郷土誌』(明治43年)には「(筑波山の)東南に三百六十坪の池あり」と書かれている。また「筑波茸池」との呼称が角田佳一「二の宮の赤城神鎮まる里の風土の史紀」(1986)に見られる。「三百六十坪」は、1,188㎡で、中島の東側にやや足りない面積である。なお全体の呼称は、調査時の「大池」をここでは踏襲する。

検出された平面形を見ると、前述のように明らかに中島を境に形状が異なる。それは、中島北で東側部分の長方形の北西角がでていること、北堀跡を切る南西角は東側の南辺の延長線より広がることから、東と西の両側は別の造作によることが推定できる。推定復元をすれば、東側は、67×20mの長方形で面積は1,340㎡となり、西側は直径30mで西端がまっすぐのやや膨れた半円形で、面積は約800㎡ほどと考えられる。また西側の底は東側より40cmほど深い。

両者が同一時期としては余りに不自然な形状で、後述のように中島が土取り跡からの採土による完全な盛土であり、東側の掘削採土で築造された筑波山南辺の当初の堀が西側より新しいことから、Ⅰ.西側掘削と初期筑波山築造、Ⅱ.東側掘削による筑波山増築、Ⅲ.中島と橋築造、Ⅳ.中島増築、Ⅴ.西側完全埋没の順が考えられる。(P.152参照)

その場合、両側の掘削は共に北堀跡や東端堀跡を壊していること及び無量寿寺参道と道路跡X002を意識していることは重要である。またⅤは、前述の記録のように19世紀末には起きていた。

浅い南北走向の溝M039は無量寿寺参道の、M035は道路跡X002の制溝と考えられる。 M039 1.褐色砂質土 2.不明

2. 中島・土取り跡及び井戸跡D029, D030, D455遺構

中島は東側を底辺とする裾での大きさが東西約9m南北約11mの五角形に近い平面形をしている。頂部は東西約5m南北約6mで、やや北よりに3.8×2.5m深0.5m弱の楕円形の土坑がある。

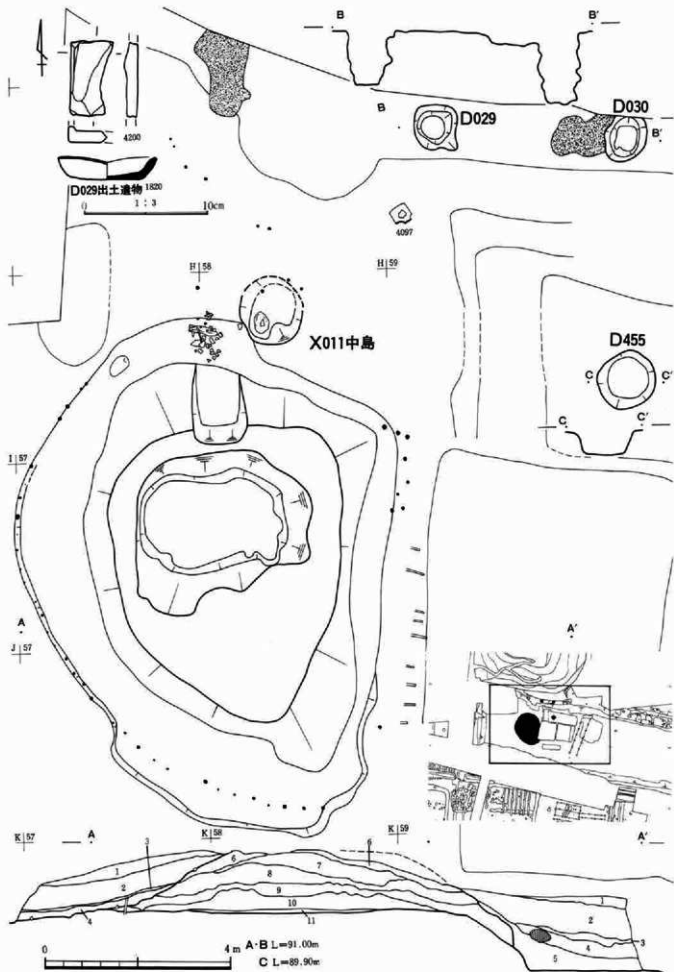
裾部には20cmほどの間隔で土留めの杭が巡っており、69本(垂直60本・水平9本)を確認した。杭は、土取り跡に接して急傾斜の東辺のみ水平方向にさされていた。北側には階段状の掘り込みと石敷きの一部のような稜の集中が杭の間に見られた。この部分では対岸の池本体の北岸にも杭列が残っていた。そのためこの部分は、中島へ渡る橋のような施設があったと思われる。

中島は、完全な盛土によって造成されている。1.灰白色シルト質土 シルト土塊・浅間A軽石混 2.黒褐色粘質土 植物遺存体を多く含む軟らかい 3.浅間A軽石 4.黒褐色粘質土 植物遺存体を多く含む 庚申塔含む 5.黄灰色砂質土 砂粘質土互層にシルト土塊混じる 6.灰褐色シルト質土 7.灰黄褐色シルト質土 砂含む 8.にぶい黄褐色粘質土 しまりよい 9.灰黄褐色砂質土 細砂主体 10.灰黄褐色粘質土 シルト土塊混 11.褐灰色粘土

工程は、Ⅰ.土取りと窪みへの粘土の敷設(11)、Ⅱ.粘質土と砂質土で基盤盛土(8~10)、Ⅲ.裾に土留め杭設置・基盤上にシルト土盛土(6,7)、Ⅳ.埋没後(2~5)二次盛土(1) 当初の造成は浅間A軽石の降下した天明3年よりかなり古く、二次盛土はかなり新しい。また天明以前に筑波山から庚申塔が転落している。

土取り跡は、中島東側に見られる。(P.125) 大小5個の長方形の掘り込みとして見られるが、畦のような境で接する北西側の3個は、底より1.3mの深さで全体は東西12m南北9mほどの規模である。140㎡ほどの体積となり、ほぼ中島の最初の盛土に近い。なお、この土取り跡外側で池の東側部分の北西角の底から流紋岩の有孔直方体製品(4097-P.150)が出土した。南にはなれたものと橋跡と重なるものは、底から10~20cm程度の深さで、二次盛土の採土跡と考えられる。

中島の北東側で3基の井戸跡が確認された。D029とD030は池の北岸で筑波山南麓との間の僅か1m強の幅の部分で検出された。共に上径1mほどで、前者は深1.2mで海拔89.3mに崩落痕があり、後者は深1.5mで崩落痕は海拔89.1mほどの位置にある。後者の南5mの土取り跡の底から発見されたD455は、径1.2mで深0.4m。D030と同じ高さから掘り込まれていれば、底は海拔87.5mで2.4mの深さになる。D029から硯片(4200)と土師器小皿(1820)が出土している。これらの井戸跡は、中島造成以前のものである。



3. 橋跡

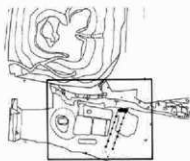
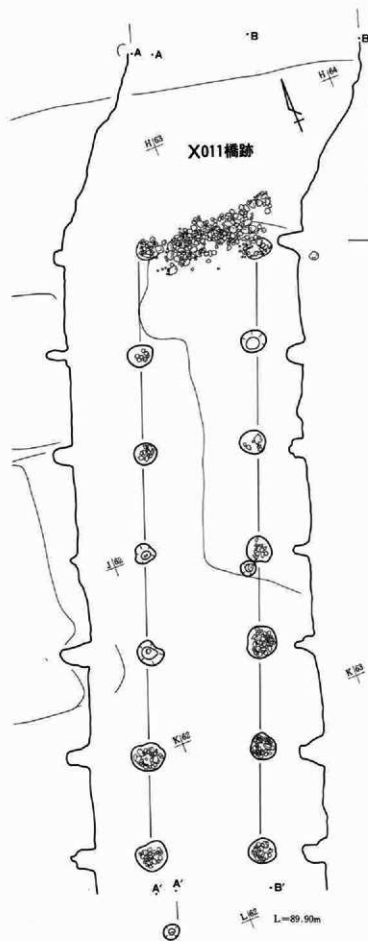
中島の東12mほどの位置で、池の北岸から底にかけて北北東から南南西方向に2列14個の柱穴が確認された。

各柱穴は上径50cmほどだが、径20cm弱の残残片や掘り方が残っており、その周囲には柱止めの土器瓦片が詰められていた。

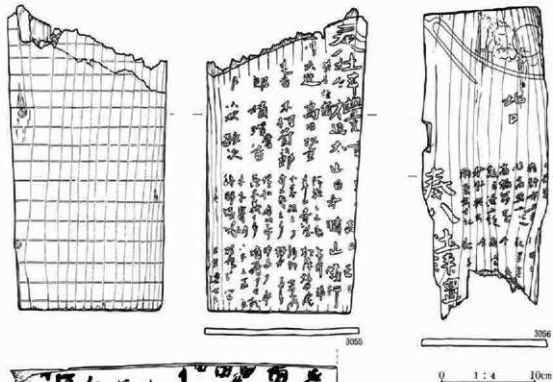
北岸の最初の柱穴の間は、大小の礫が敷き詰められており、柱間距離2.1mほどで12.8mほど伸びている。桁の長さは2.4mほどになる。

これは、北からかけられた橋跡であると思われる。しかし、この橋は、上述の長さで止まっており、推定南岸までの少なくとも7mの間には達していない。そのため、池を渡るためではなく、池中に遊ぶための施設と推定される。なお、北岸側の延長方向は、筑波山の東辺の参道に向かう。

東側の列の北から2～4番目の柱穴は中島二次盛土の土取り跡と重なっているが、他の柱穴より柱止めの残りが悪いことから、この橋跡が古いだろう。



II 調査成果



X011出土遺物(1)

4. X011遺構出土遺物 木製品

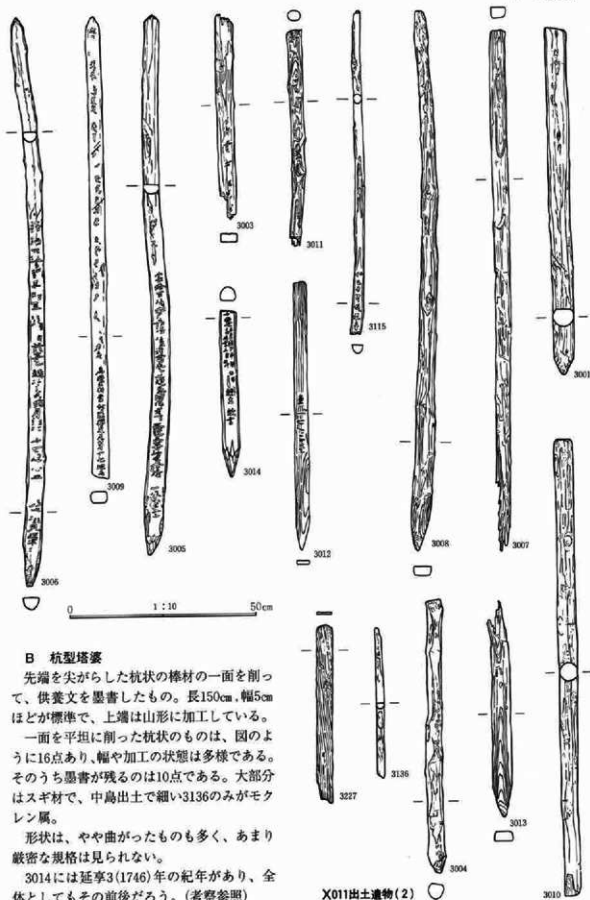
A 特殊品

金泥で人名を数多く連記した祭礼札が2点(3055,56)見られる。いずれもモミ材で、残存量は3055は長32cm,幅17cm,厚さ0.7cm,3056は長32cm,幅13cm,厚さ0.8cmを測る。前者は下端が、後者は上端が残っている。両者は別個体である。

共に表面に「奉八社押札」の文字と人名が書かれ、3055は裏面に1.8から2.4cmほどの間隔で横線が引かれている。3056にはこの横線はないが、表面の上端に「北口」の文字の上に、2条の曲線が描かれている。人名の表現より近代のものと考えられる。(考察参照)

人名を墨書連記したスギ材の祭礼札(3078)は、残存量が長36.0cm,幅7.8cm,厚さ0.6cm。表面には「覚」字の左に「番」と人名が10人以上左上がりて書かれる。裏面にも不明の墨痕がある。中島東側出土。人名の表現より近世のものと考えられる。(考察参照)

象頭の形をした木鼻(3126)はヒノキ属で、中島北側出土。完存で、長18cm,幅11cm,厚さ4.9cmを測る。扁平な形状で象の頭部を表現しており、鼻・牙・耳は明瞭。首側に4.0×1.8×1.4cmのホゾがある。祭礼建築物の軒先の飾りで、近世中期以後のものだろう。



B 杭型塔婆

先端を尖がらした杭状の棒材の一面を削って、供養文を墨書したもの。長150cm、幅5cmほどが標準で、上端は山形に加工している。

一面を平坦に削った杭状のものは、図のように16点あり、幅や加工の状態は多様である。そのうち墨書が残るのは10点である。大部分はスギ材で、中島出土で細い3136のみがモクレン属。

形状は、やや曲がったものも多く、あまり厳密な規格は見られない。

3014には延享3(1746)年の紀年があり、全体としてもその後だろう。(考察参照)

X011出土遺物(2)

II 調査成果

C 杭 (P.133~135図)

大池から出土した杭は76点で、その中で中島の土留めとして使われていたのは42点(P.133とP.134上段と下段3052)である。

形状はさまざまで、先端を尖がらせてあることが唯一の共通点と言える。棒状に加工してあるものでは、最長が完存のスギ材の3264の84cmであり、またクリ材の3143の径8.1cmが最も太い。細いものは、クスノキの3057の径1.9cmやスギの3189の径2.0cmがある。興味深いのは、クリ材の3156やトネリコの3072あるいはコナラの3265のように曲がった材の先端のみを削ってたものが含まれていることである。

原材の種類では、アカガシ2点、アカマツ17点、イヌシデ1点、カバノキ1点、クスノキ2点、クリ9点、コナラ10点、サクラ3点、サワフタギ2点、スギ22点、トネリコ3点、ハリギリ1点、マツ1点、モミ1点、ヒノキ1点となる。スギ・アカマツ・コナラ・クリの順で多い。なお12点の杭が出土した井戸跡D114のものは、サクラ4点が最も多い。

D 漆器 (P.135図)

大部分が碗類で、他に長16cm径2cmの棒3127が1点ある。

碗類は、図示した19点のうち11点が中島周辺、特に北西側で出土した。形態は、いずれも小片であり、変形しているものもあるため明瞭ではないが、高台基部径6cm以上のもの(3088,3101)はあまり多くなく、4.5cmのものが多い。図上で高台のない3091,3092,3102も、本来はあったと思われる。

原材は、ブナ15点、トチノキ2点(3094,97)、モクレン2点(3091,92)となり、ブナが主体である。漆の種類は、両面赤漆9点(3090-92,95,97,3102-05)、同黒漆4点(3093,96,98,3100)、内赤外黒6点(3087-89,94,99,3101)であり、棒は黒漆である。高台内に金字銘が3096と97に見られる。前者は、鍵の手に「吉」と読める。

E 各種生活具類 (P.136,137図)

さまざまな種類のものが見られるが、用途の判明するものは次のようなものに過ぎない。

鉾(3085,3178,3236)、下駄(3032-34,86)、木札(3125)、栓(3124,82)、柄杓(3035,40,43,79,80)3080には刻印がある。桶類部材(3041,44,46,106,129,161,174,243,244,260)、調度具部材(3045,49,81)3045と3081には大きな透かしがある。モミの板材(3034)には、墨で山形線が引かれていた。また半截竹管に線刻文字のあるものも(3038)あった。(考察参照)

F 建具類 (P.138図)

何らかの組み合わせ加工痕のある大形角材。その加工痕とは、ホゾ・ホゾ穴・溝で、10点あった。アカマツ角材3173は表面に溝状のものがあるが、あまり明瞭ではなく、やや疑問も残る。また3259,66,91のような長い角材も建具の可能性が考えられる。薄いスギ角材3259は残存長100cm、クリ材3266は残存長99cm、細長いスギ材3291は同166cmを測る。

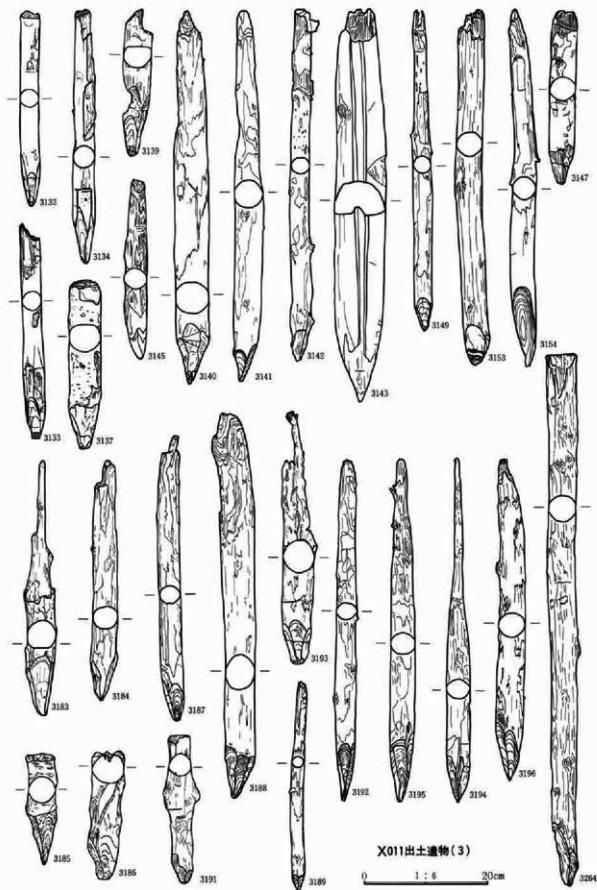
最大のものは、残存長258cm、幅6.6×5.6cmのスギ材3219で、39-42cmの間隔で6個のホゾ穴がある。そのうち3個は貫通していない。残存長177cmのスギ材3220は、両端にホゾとホゾ穴そして間に溝がある。いずれもスギ材の3113,221,245には、同様の加工痕が見られる。

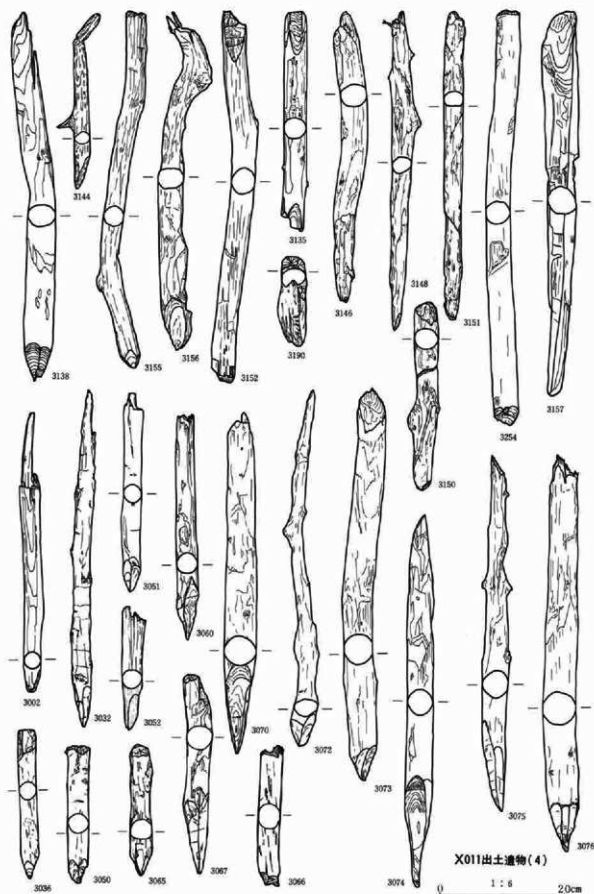
細いスギ丸棒の3258,63は、それぞれ全長79,78cmしかないが、片側はホゾになっている。構造材以外の部分か、あるいは調度具の部材か。3221は、中島からの出土。

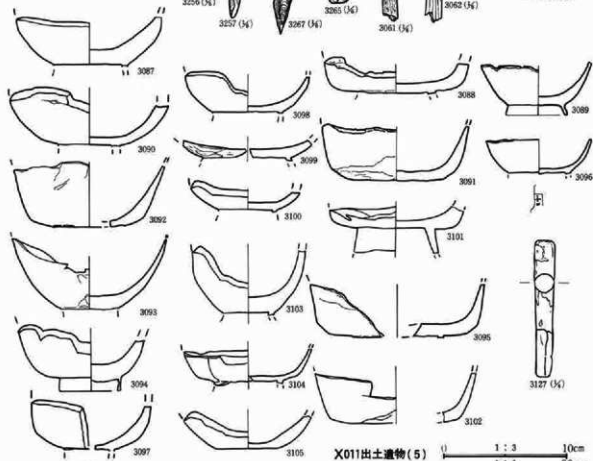
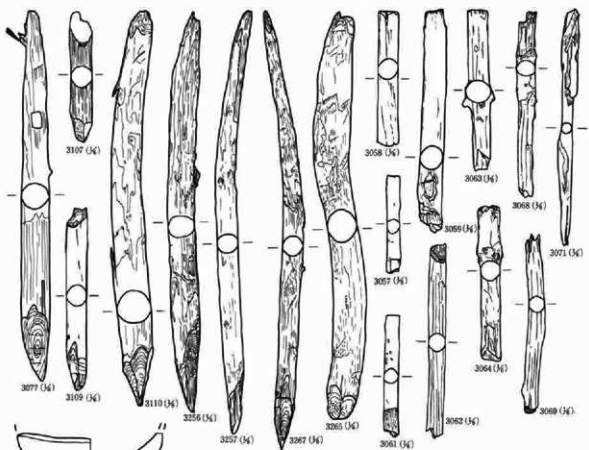
G 不明板材類 (P.139図)

スギ材を中心とする板材。ホゾ穴があるもの(3114,261,262,261はサクラ)、長方形板(3112,128,175,176,181,222,242,222はアカマツ)などである。3128には、墨痕のようなものが見られる。

2 中央部分

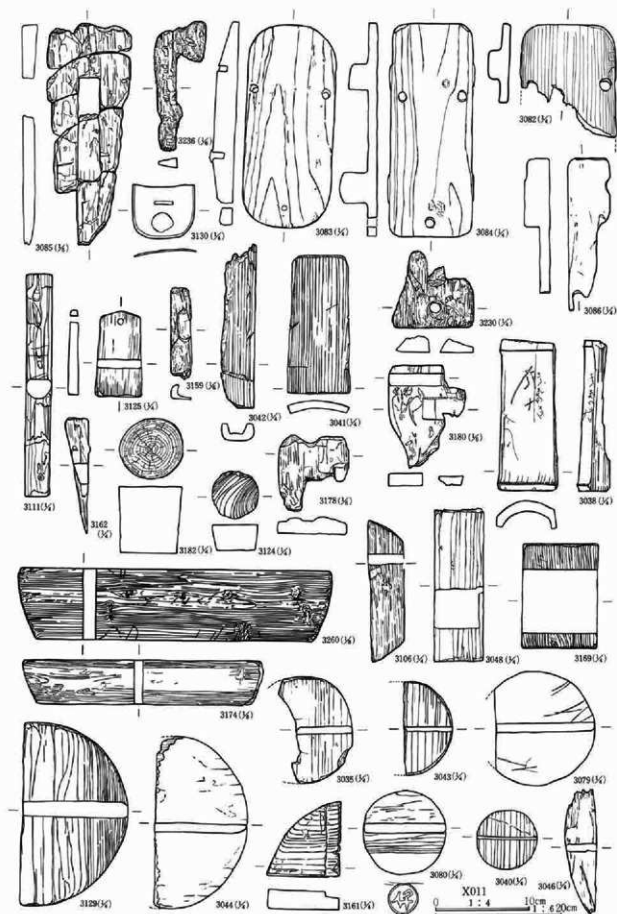




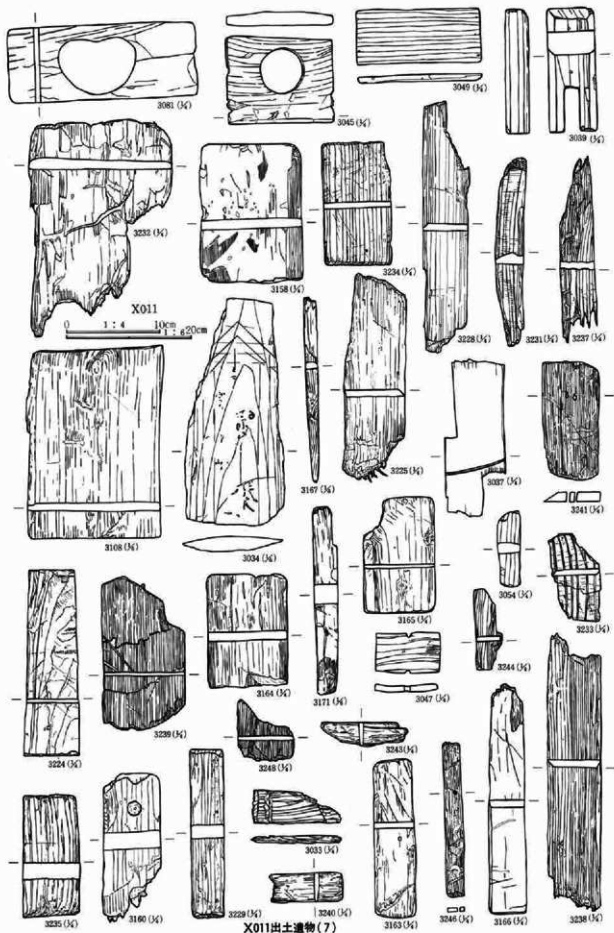


X011出土遺物(5)

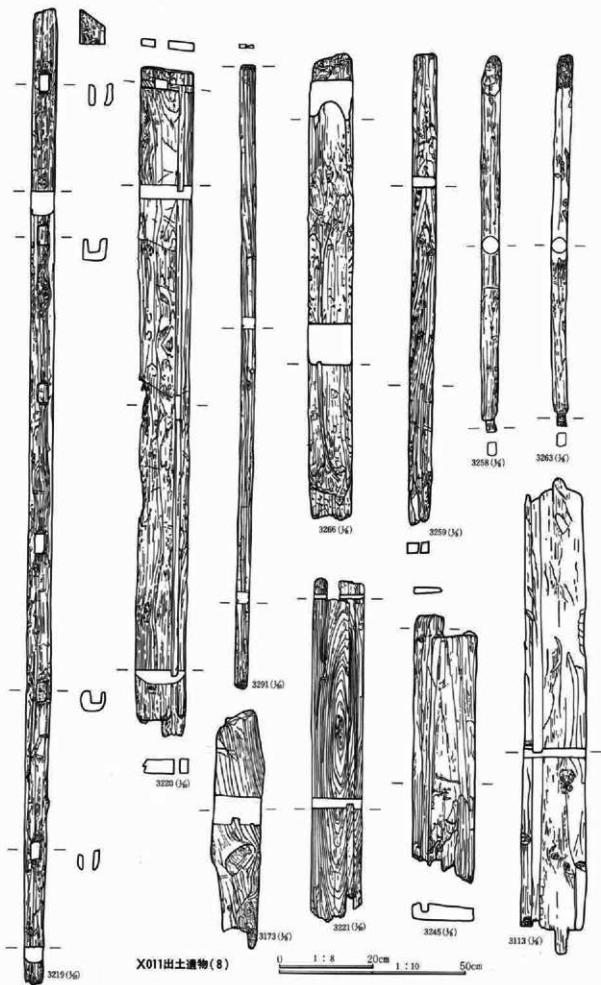
1 : 3 10cm
1 : 6 20cm



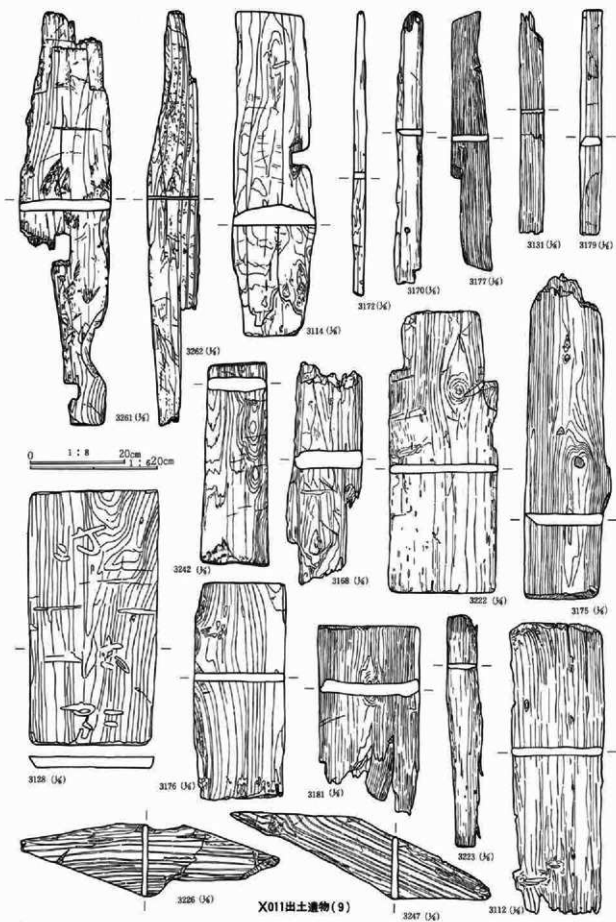
X011出土遺物(6)



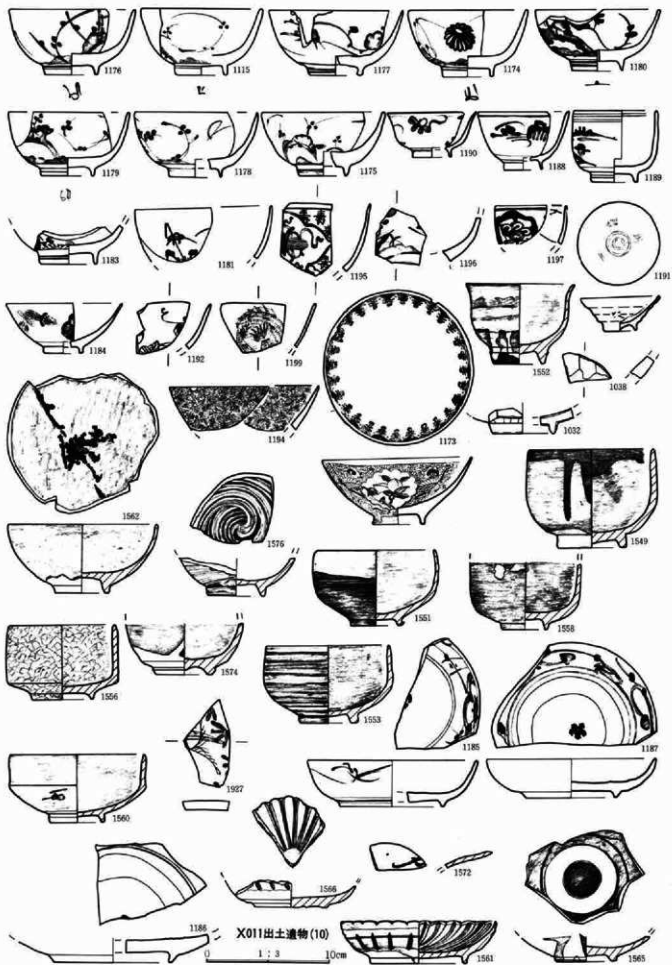
X011出土遺物(7)



X011出土遺物(8)

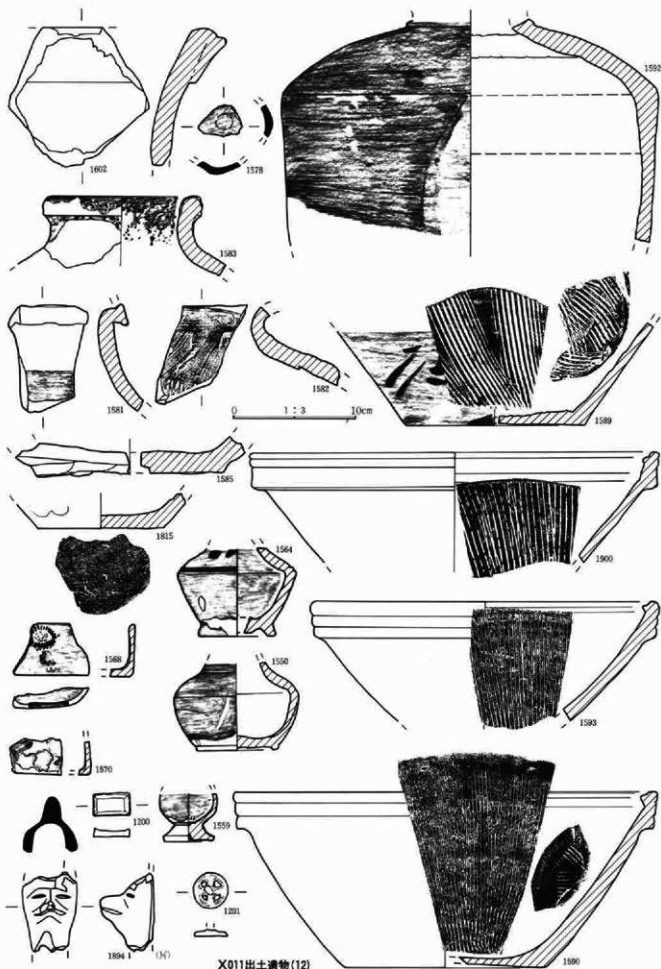


X011出土遺物(9)

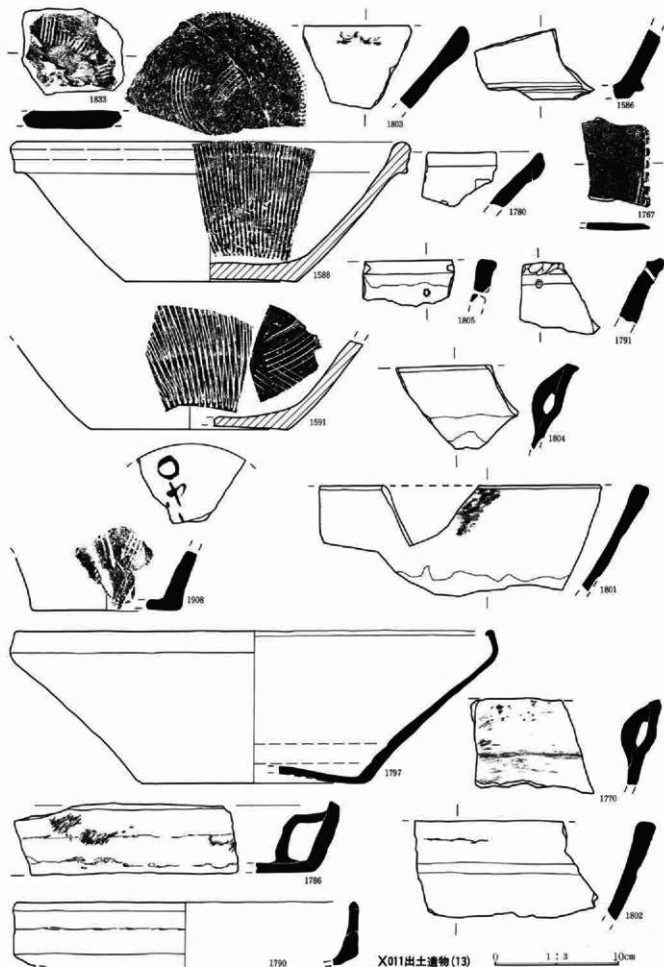


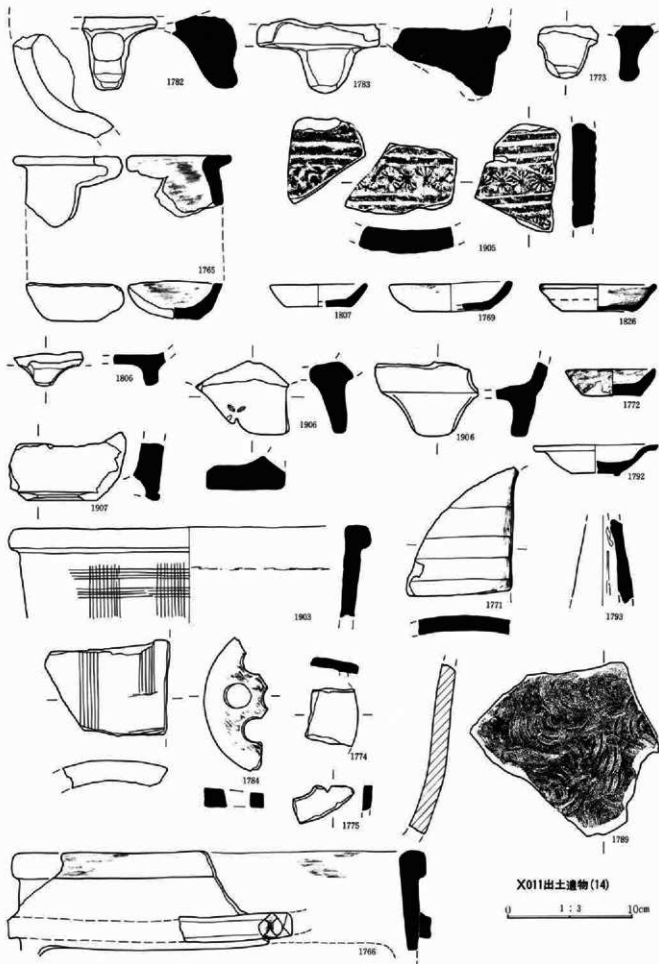
X011出土遺物(11)

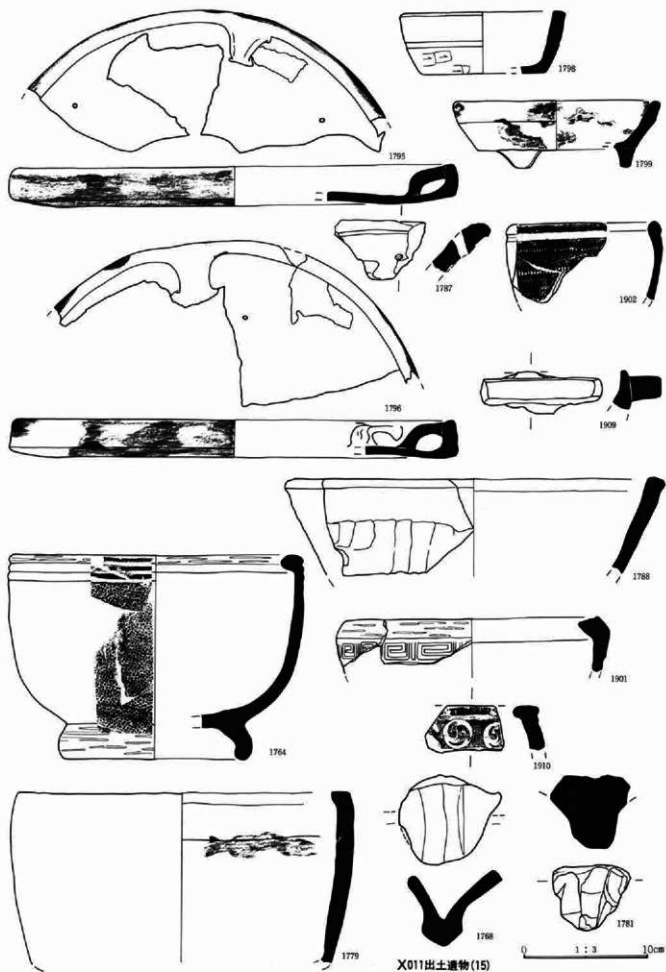




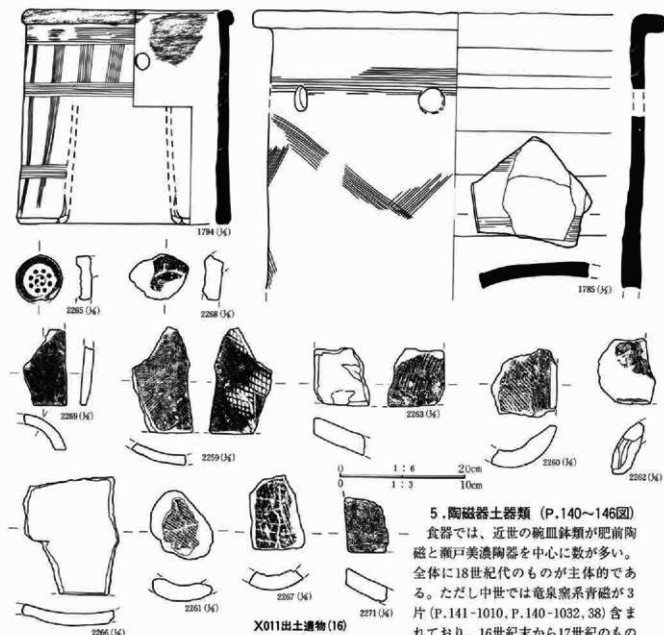
X011出土遺物(12)







II 調査成果



5. 陶磁器土器類 (P.140~146図)

食器では、近世の碗皿鉢類が肥前陶磁と瀬戸美濃陶器を中心に数が多い。全体に18世紀代のものが主体的である。ただし中世では竜泉窯系青磁が3片(P.141-1010, P.140-1032, 38)含まれており、16世紀末から17世紀のものも肥前(P.140-1195, 1574)、瀬戸美濃

X011出土遺物(16)

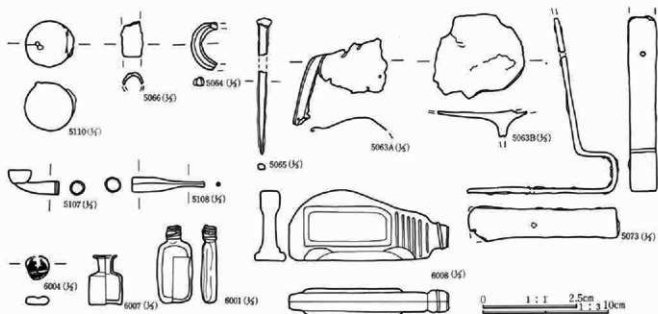
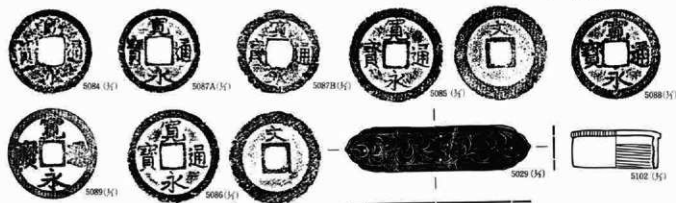
(P.140-1566, P.141-1595, 98)があることは注意を要する。瓶類は、屋号が染付けされた近代の貧乏徳利(P.141-1202)もあるが、やはり13世紀の古瀬戸瓶子(P.140-1567)は注目される。

調理具では、肥前二彩手刷毛目片口鉢(P.141-1599)や泉州堺・備前播鉢(1588, 590, 591, 593, 900)などが陶磁器で、焙烙・塙・コネ鉢などの瓦質及び土師質の中世からの土器が見られる。播鉢(P.143-1591)には、底部に「○ヤ？」の墨書が残る。貯蔵具は、常滑の壺・甕類が中世(1581/83)から近代(1592)までであった。

火処は(P.144~156)、火鉢類と焜炉に大きく別れる。共に瓦質土器で、種類はかなり多様である。印花裝飾のある軟質の火鉢片(1905, 06, 10)は、橋跡の橋脚柱穴の裏込めに使われていた。灯火具は、陶器乗燭(1559)、磁器灯心押さえ(1201)、瓦質土器瓦灯(1771)、そして土師質小皿(1772など)がある。

中世の軒丸瓦片など(2267, 68, 71)は、前記火鉢片と共に橋跡の柱穴より出ている。その他に、化粧具として灰桶びん水入れ(P.142-1568, 70)、また泥人形の狐面(P.142-1894)も注目される。

2 中央部分



X011出土遺物(17)

全体の出土量は大量だが、ここに図示した148点のうち85点は出土グリッドが記録されており、その分布を見ると、大部分が橋跡より西側に集中している。(単純な出土全破片数でも東側は僅かに133片。西側は846片。とりわけ中島北側のグリッドG57～59の上層からは178片が出土。)

時代的には、橋跡の柱穴の裏込めは、12～15世紀のものがまぎらっている。

近世は、西側全体に広まっているが、特に中島と土取り跡そして橋跡の北端にまとまりがある。近代は、中島北側と土取り跡に集中する傾向がある。

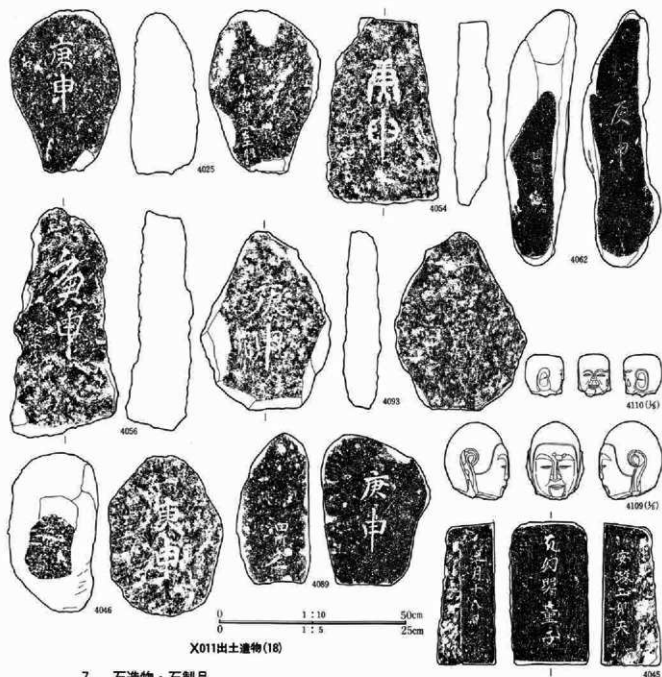
全体としては、13～15世紀、16世紀末～17世紀後半、18世紀中頃～19世紀後半の3時期があり、日常生活品は新しいものが多い。

なお古代以前の遺物は、橋跡から出土した須恵器壺片(1789)と中島北側の土師器高杯片(1793)のみである。

6. 金属・ガラス製品 (P.147図)

銅銭は、寛永通宝が7枚出ているが、分布は橋跡の北端の集石付近より新寛永3枚(5086, 87A, 87B)、土取り跡底より古寛永(5088)、中島と北側より新寛永(5084, 85)そして中島西側より古寛永(5089)となる。

飾り銅板(5029)は土取り跡北側底から、逆L字形の帯状鉄金具(5073)は中央部南側上層また鉛鉄砲玉(5110)は橋跡の東約25m離れた場所からの出土である。キセルは雁首(5107)が中島西側底、吸口(5158)が中島埋土から出た。ガラス製品は、3点が薬瓶類、1点がおはじき(6004)である。



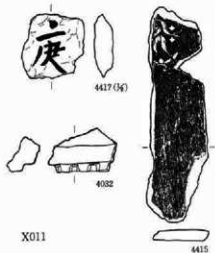
X011出土遺物(18)

7. 石造物・石製品

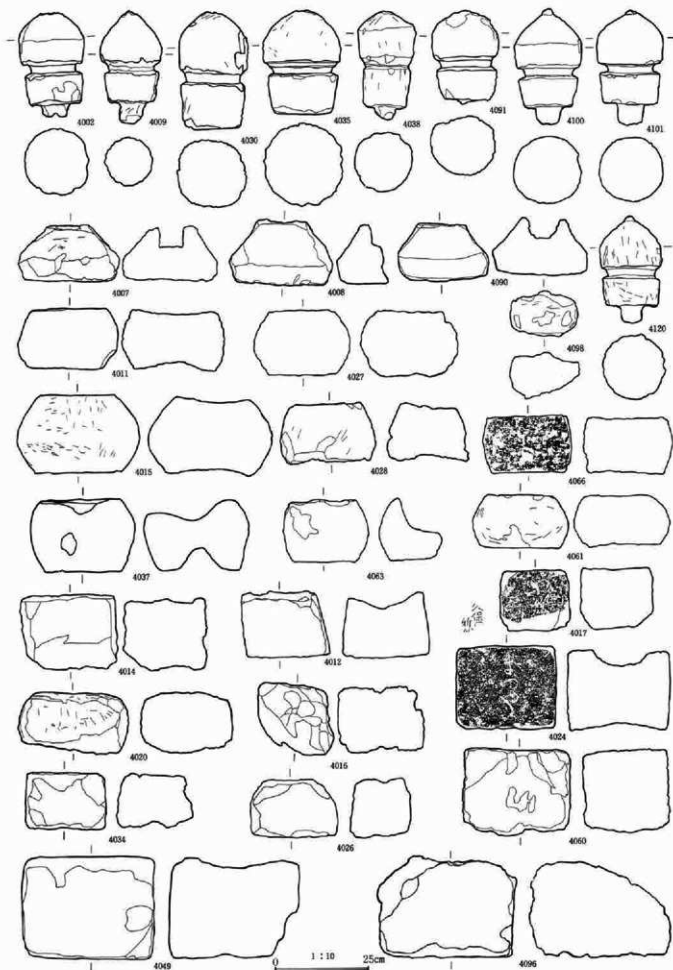
A 特殊品 (P.148図)

まず特徴的なものでは、7基の庚申塔がある。形状は自然の転石にあまり手を加えない状態で、正面に「庚申」の2字を彫り、建立者の銘もいづれかの面に加えられる。「小淵惣右衛門」(4025)、「松井七兵衛」(4046)、「鈴木 ○」(4056)、「岡田 ○」(4062)、「田所 ○」(4089)、「岩上源右衛門 同宅 ○」(4093)が判読できるが、4054は不明。これらは筑波山の南側で出土しており、同山に建てられていたものが転落したと考えられる。なお同山中には少なくとも鈴木2例(No.151,157)・松井1例(No.156)・田所1例(No.149)の銘のある庚申塔状の石塔がある。

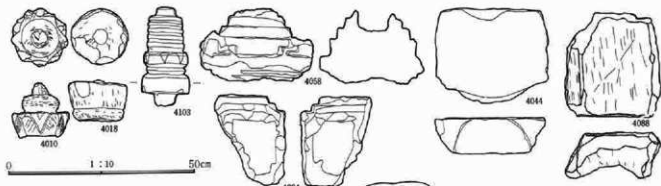
庚申信仰を示すものとしては他に、粗粒安山岩の手の平大の石塔片に「庚」と墨書したもの(4417)がある。仏頭が2体あり、(続P.152)



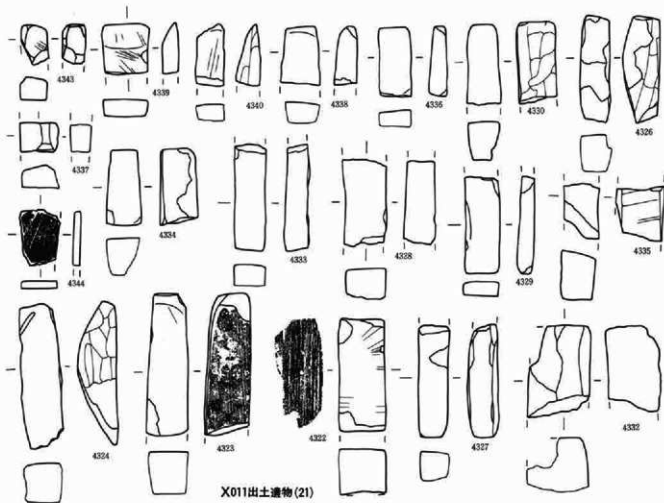
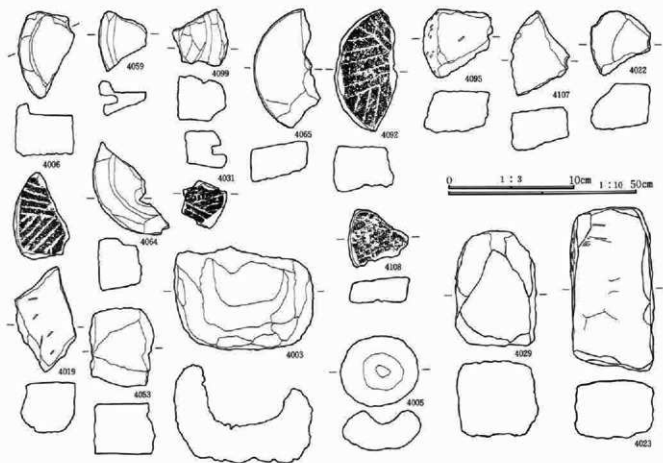
X011



X011出土遺物(19)



X011出土遺物(20)



X011出土遺物(21)

小さいもの(4110)は全体に角張っており、大きいもの(4109)は反対に丸みを帯びた造形である。いずれも地蔵菩薩であろう。小さいものは墓標の可能性もある。

墓標として確実なものは、四面加工の小形標塔(4045)がある。表面に「幻照童子」右側面に「安政二卯天」(1855)年、左側面に「三月十八日」と彫られている。銘と大きさより夭折した子供の墓標だろう。

また石宮の屋蓋端部片(4032)は、筑波山南西角に現存しかつて中島上にあった寛永5(1628)年銘の石宮(No.2)の欠損部である。緑色片岩の板碑片(4415)は、種子は蓮華座のキリークだが、それ以外は判読できない。

B 五輪塔 (P.149図)

五輪塔の各部分と思われるものは、33点出土している。水輪の4066が角閃石安山岩、地輪の4096が流紋岩質凝灰岩である以外は、全て粗粒安山岩である。

空風輪は10基あり、空の形状は側面が半円・三角・五角などに別れる。火輪は3基で、稜線には反りは見られない。水輪は8基あり、形状はかなり差がある。4066には銘があるが判読できない。また4037は上下面が、4063は上面が必要以上に大きくえぐられている。後者は石鉢として転用したと思われる。

地輪と考えられるのは11基あるが、一辺20cm弱の小さなもの(4017)から、最大辺35cmを越えるもの(4049,96)まで含まれる。またかなり扁平なもの(4020)も一応ここに入れたが、厳密には他の石塔の基礎かも知れない。4017には「久保○新○」、4024には「まつや」の銘がある。前者は、大池の南西側の墓跡の埋葬一族の名と同様であれば、「久保田」であろう。

C その他の石塔 (P.150~151図)

宝篋印塔の各部は、宝珠2点(4010,18)、相輪(4103)、笠部(4058)、塔身2点(4004,41)が出ている。宝珠と塔身はそれぞれ形状が異なる。小形の塔身の4041は、四面に円内の梵字の不明種子が彫られている。

その他に14基の石塔の基礎がある。これは平面形状により、六角・四角・楕円に別れる。六角は各側面に格座間がある石幢の基礎(4047)とやや高いもの(4088)がある。四角は、前面に蓮華状浮き彫りを持つもの(4044)、線香立て掘り込みを持つ墓標基礎(4048,51)などがある。楕円のもの、上面に塔身を立てる掘り込みのみを有するもので、規模はさまざまである。4036の前面に銘のようなものがあるが、判読不明。

直方体の石塔未製品が2点(4023,29)ある。前者は流紋岩質凝灰岩、後者は粗粒安山岩で、基礎もしくは墓標であろう。また軟らかい流紋岩質凝灰岩の直方体製品が4点(4021,097,105,106)見られる。そのうち最大の4097は一片40cm以上あり、中央に大きな穴が貫通している。これは、筑波山直下の底で出土した。

D 石臼類と砥石 (P.151図)

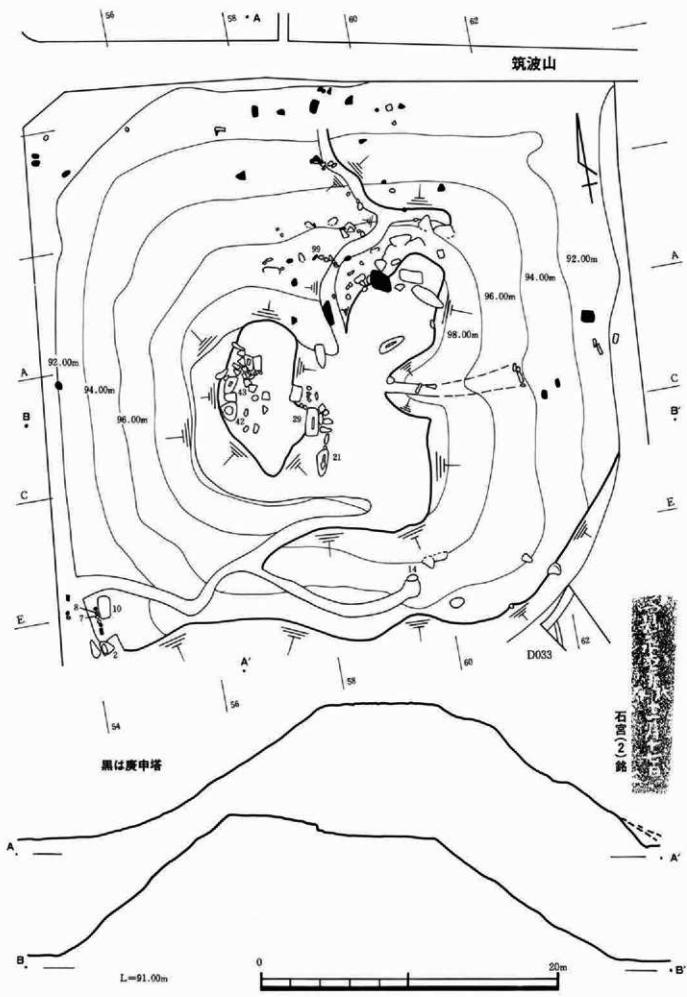
石臼類は、やや非確実なもの1点も含めて、上玉4点・下玉7点の計12点出土している。いずれも粗粒安山岩製である。大きく摩擦したものとあまり摩擦していないものなど、多様である。他に同じ素材による箱形の石鉢(4003)、小形自然形の石鉢(4005)、磨石(4053)がある。

砥石は、計19点出土している。材質は、流紋岩3点(4322,28,35)、変質安山岩2点(4324,33)、頁岩1点(4344)そして残りの13点は砥沢石である。そのうち、流紋岩の4322には鋸加工痕がある。また頁岩の4344は薄く、確実ではない。また細ノミ加工痕のある山形の変質安山岩製の4324は、橋跡の柱穴より出土しており、共存遺物より中世の可能性が考えられる。

大部分が日常生活具であり、上記石臼類とは大きく異なる。大池そのものの性格とは直接結び付くものではなく、破損などの理由で使われなくなったものが、投棄されたものだろう。

8. 大池まとめ

以上を時間的に整理すると、I期 西側掘削と初期筑波山築造：17世紀30年代頃(古寛永以後・続P.154)



筑波山

黒は庚申塔

石宮(2)跡

L=91.00m



(P.152より) 寛永5石宮)、Ⅱ期 東側掘削による筑波山増築・中島と橋築造:18世紀前半頃(天明以前・延享3-1746杭型塔婆)、Ⅲ期 中島増築:18世紀末~19世紀前半(天明以後・安政2墓標)、Ⅳ期 西側完全埋没:19世紀末となる。

Ⅰ期は、17世紀後半があてられる。筑波山への庚申塔奉納とそれに関する信仰儀礼は、Ⅲ期を中心に盛んだったろう。Ⅳ期の時点で排水溝は、東端から南に向かうM021から中島南より東に向かうM016につけ替えられている。(P.160)

なお東側にかつて存在した井戸や瓦葺き建物を含む屋敷は、13~15世紀頃だろう。

筑波山 (PL.93,94) 溝M033遺構 (P.153図)

南東から南辺の裾が削られているが、それを復元すれば、平面は方位に合った一辺約38mの正方形で、高さ8mの截頭四角錐の形状である。頂上は、東辺18m西辺10m両辺間19mの台形状の平坦部であり、西側幅5mほどが1m高い。その反対側の東斜面には、ややまっすぐ伸びた参道がある。南北の斜面にも上り道があるが、かなり曲がった付随的なものである。

筑波山全体で、見えるものだけで次の大小163個の石造物がある。

石宮4 庚申塔36 無縫塔2 五輪塔4 不動明王像1 人物像1 碑4 石柱1 梵字名号碑1 台石11 石段10 保護石48 方形有孔石1 自然石35 不明石4

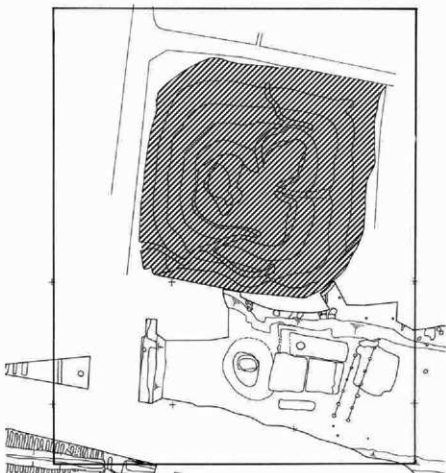
人工の盛土であるこの山の自然石は庚申塔の可能性が高い。庚申塔は大部分が北斜面にある。

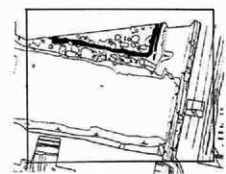
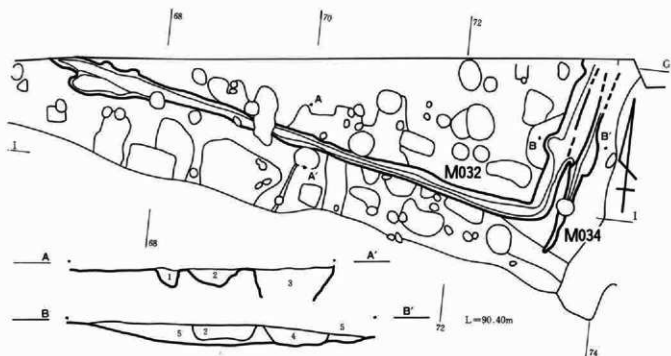
以上の中で紀年銘は、次のとおりである。2.寛永5年石宮 7.寛文10年長海行人銘無縫塔 8.寛〇4年〇〇僧都銘無縫塔 10.昭和31年開田碑 21.明治35年御岳講信徒名 29.大正6年観音寺無量寿寺合寺記念碑 42.明治29年富士山銘石宮 43.明治9年花園銘石宮 99.天保10年横田銘庚申塔 2,7,8,10は南西角麓にあり、2はかつて中島上にあった。21,29,42,43はいづれも頂上西側。99は北斜面。その他の人名など:庚申塔:石川・福田・田中2・三股・神沢・〇原・設楽・田所・鈴木2・松井・岡〇・春三月 石柱:御岳座王大権現 梵字名号碑:東白井内田

南東角の浅い溝M033は、裾の削りに伴うもので、4の開田の時のものだろう。

筑波山の土量は、約6,500m³である。一方、大池の東側は約2,000m³、西側は約1,200m³である。これらの池の掘削量を除いた現状の半分約3,300m³の塚が、大池掘削以前にあったことになる。

筑波山は、元禄の頃に無量寿寺再興に伴い築造された、あるいは天保年中に増築された(明治43年「荒砥郷土誌」考察参照)と言われ、またもともと古墳であったとの考えもある。ただ現状の形状は、筑波山信仰に基づいたもので、内部の塚とは別と考えたほうが妥当である。





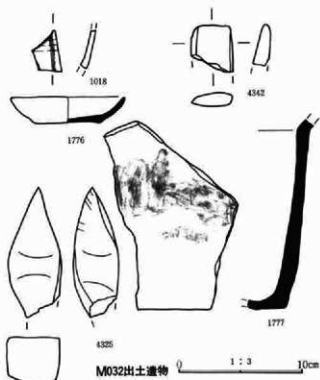
区画溝M032, M034遺構 (PL.15, 108)

大池北岸の井戸跡群をめぐる区画溝。M032は、大池上端から3mの位置を同じ東西方向に27m以上走り、直角に曲がって東端堀M022の西岸にそって北に向かっている。上幅0.7~0.9m深0.2mほどで、断面形はU字形。1.褐色砂質土 2.暗褐色砂質土 炭化物・ローム塊含む 3.暗褐色砂質土 しまりない D018埋土 4.にぶい黄褐色砂質土 ローム塊多く含む 5.褐色砂質土 ローム塊含む

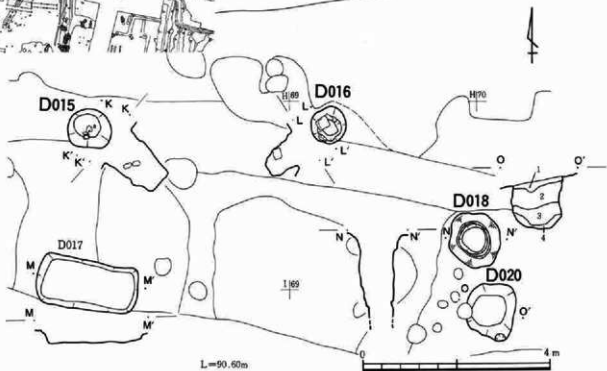
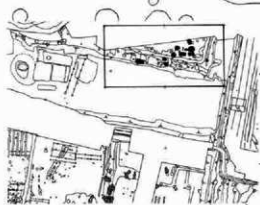
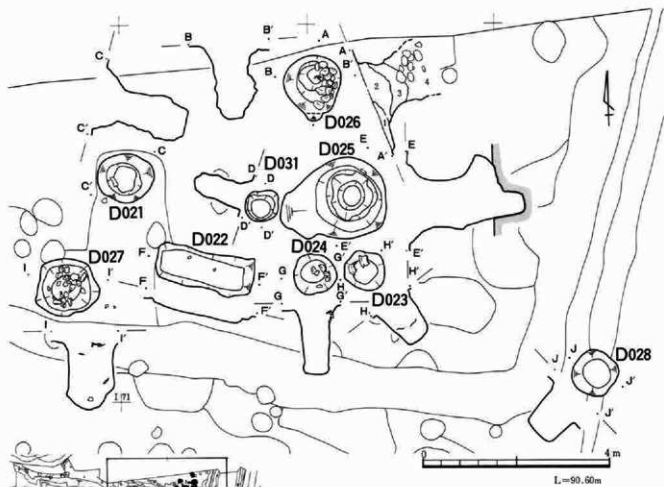
南北走向の溝M034は、M032の東にほぼ接している。M032の東端での掘り返し部分と考えられるが、B断面周辺は土質の似た褐色砂質土の掘り込みの中に両者が入っており、新旧関係は不明。

M032は、井戸跡D015・土坑D016と、M034は土坑D028と重なるが、関係は把握できていない。

M032埋土より竜泉窯系編蓮弁文青磁碗片(1018)、瓦質土器埴(1777)、土師器小皿(1776)そして砥石(4342, 4345)が出土。青磁は13~14世紀中頃の年代が考えられるが、M032の東西走向は全く大池北岸と平行のため、17世紀後半頃の掘削と思われ、遺物は重複遺構のものだろう。形状・走向の似るM034も同じ頃の可能性がある。



M032出土遺物 0 1:3 10cm



井戸跡D015, D018, D021, D025～D027遺構 土坑D016, D017, D020, D022～
D024, D028, D031遺構 (P.156図 PL.15, 109～113)

大池北岸に集中する6基の井戸跡と6基の円筒形土坑そして2基の短冊形土坑。

井戸跡D015は上径0.9m深1.2mで海拔89.7m付近に崩落痕。溝M032と重なる。瓦質土器小鉢(1808)と茶臼上玉(4357)が埋土中位から出土。井戸跡D018は、上径1.3m深1.7m以上で下側は径0.5mほどにすままる。底は海拔89.3m。溝M032に近接。瓦質土器火鉢(1824)同壺(1825)丸瓦(2264)片口石鉢(4358)宝篋印塔相輪状片(4361)が出土。壺の特徴より16世紀頃と思われる。井戸跡D021は、上径1.2m深2.0mで海拔88.4mに崩落痕がある。遺物は比較的多く、瀬戸美濃黒釉壺片(1928)瓦質土器不明器形片(1818, 34)土師器小皿(1814)板碑(4348)五輪塔火地輪(4039, 42, 43, 4104)が見られた。1928は16～17世紀代とされ板碑の存在も考えれば、16世紀後半頃かと一応想定する。

井戸跡D025は、上径1.8×2.3m底径0.4mで深2.7m、海拔88.7mより湧水。上面は西側が大きく広がり、湧水層下の底は小さい。西側に土坑D031、南側に土坑D023, D024が近接している。これらの土坑はそれぞれ、D023が上径0.8m深1.0m、D024が上径0.9m深1.3m、D031が上径0.7m深1.3mを測り、規模形状が似ているため、D025と関係する施設の可能性がある。D025からはやや多く遺物が見られた。土器は土師器小皿(1817)だけだが、丸瓦が5点(2254～2258)そして石製品が板碑(4349)・茶臼(4350, 52)・石臼(4351, 53)・石鉢(4354, 56)そして直方体の流紋岩(4365)と銅型片(4366)と多かった。D023には、中位にはほ完存の瓦質土器壺(1778)が投棄されており、D024では埋土上位に瓦質土器壺片(1823)と砥石(4331)が見られた。壺1778は、1823やD018の1825より古いと思われるため、これらD025をめぐる遺構群は15世紀代かと考えられる。

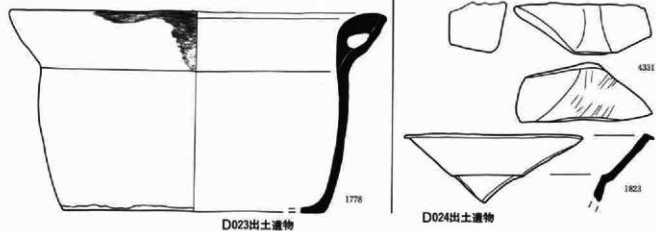
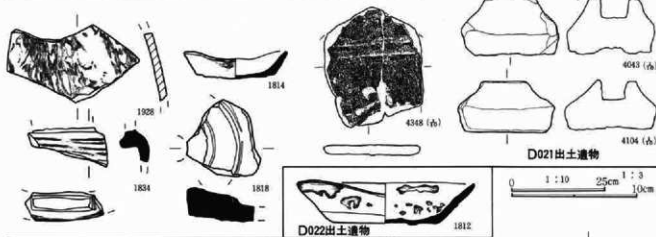
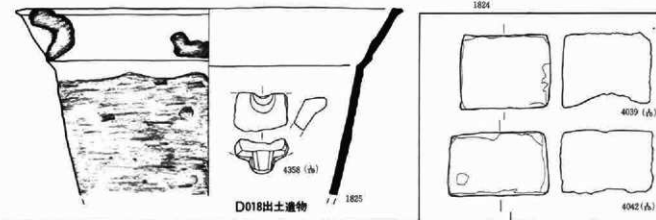
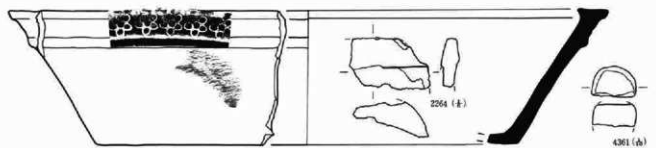
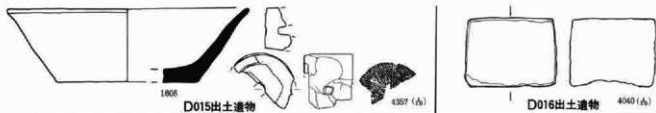
井戸跡D026は、上径1.4×1.2mで底は海拔88.9mより深い。南側がやや広いのは重なった浅い土坑のためである。1.褐色砂質土 2.暗褐色砂質土 小礫含む 3.黒褐色砂質土 砂・小礫含みしり弱い 4.黒褐色砂質土 礫多く含みしり弱い 人為的に埋め戻されている。遺物は土師器小皿(1821)のみ検出。井戸跡D027は、上径1.2m深1.4mで海拔89.5mほどに僅かな崩落痕がある。埋土上層に瓦質土器壺(1809)と播鉢(1810)が投棄され、中層からは土師器小皿(1813, 22)と小形板碑(4347)が多くの自然礫と共に見られた。壺はD018の1825に似ており、16世紀代と想定される。

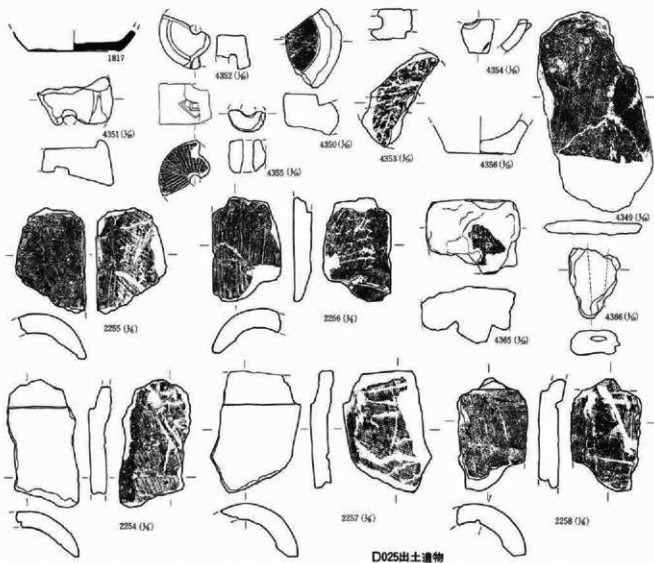
円筒形土坑D016は、上径0.7m深1.0mで、溝M032と重なる。埋土中位に五輪塔地輪(4040)が投棄されていた。やや大きめの円筒形土坑D020は、上径1.0m深1.0mで、井戸跡D018に近接。1.暗褐色砂質土 2.褐色砂質土 しりまない 3.黒褐色粘質土 小礫混じる 4.褐色粘質土 砂少し混じる 上位は人為的な埋土。東端の円筒形土坑D028は、上径0.9m深1.0mで、溝M034と重なる。

大池際の短冊形土坑D017は、東西走向で長2.1m幅1.0m深0.2mを測る。東側の短冊形土坑D022は、長2.1m幅0.7m深0.2mで、同じく東西走向。土師器小皿(1812)が出土。

以上のように、この部分は15世紀頃から16世紀頃まで井戸の場所として絶えず使われていたことが、判明した。またその井戸を利用した生活の主体は、瓦葺き建物と関係があった。火鉢や茶臼を使う生活でもあった。板碑や五輪塔による信仰も持っていた。

その後、17世紀後半に大池の掘削に伴って、井戸地としての利用はなくなったことが分かる。

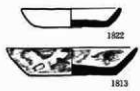




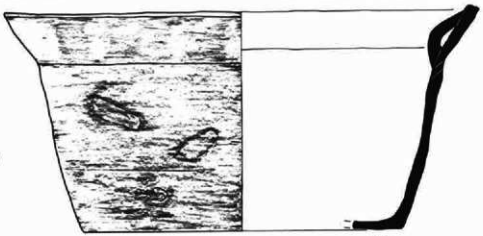
D025出土遺物



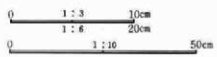
1821
D026出土遺物



4347 (3g)

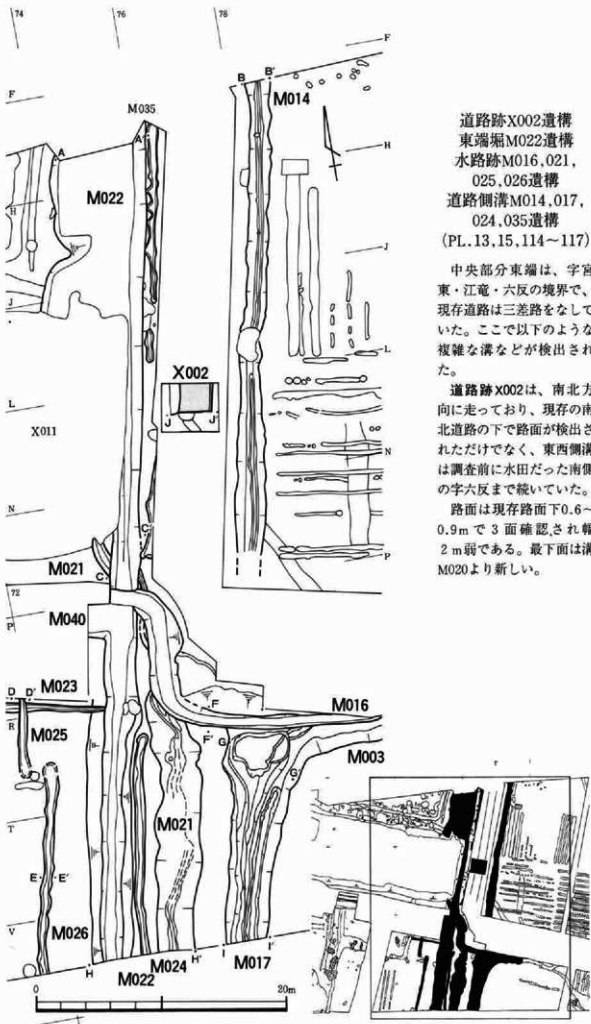


1809



1810

D027出土遺物



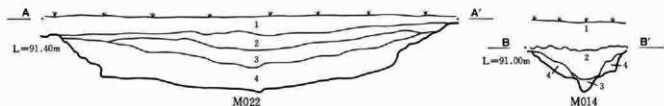
道路跡X002遺構
 東端堀M022遺構
 水路跡M016, 021,
 025, 026遺構
 道路側溝M014, 017,
 024, 035遺構
 (PL. 13, 15, 114~117)

中央部分東端は、字宮東・江竜・六反の境界で、現存道路は三差路をなしていた。ここで以下のような複雑な溝などが検出された。

道路跡X002は、南北方向に走っており、現存の南北道路の下で路面が検出されただけでなく、東西側溝は調査前に水田だった南側の字六反まで続いていた。

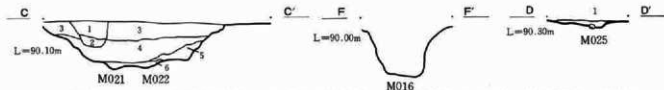
路面は現存路面下0.6~0.9mで3面確認され幅2m弱である。最下層は溝M020より新しい。

2 中央部分



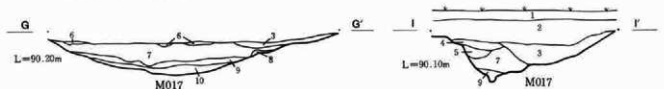
A A'断面 (M022) 1.耕作土 2.暗褐色砂質土 しまりなし 3.褐色砂質土 黒褐色土塊含みしまりない 4.黒褐色粘質土 植物根多く含む泥状

B B'断面 (M014) 1.耕作土 2.暗褐色砂質土 小礫混じりしまり弱い 3.黒褐色砂質土 黄色シルト粒含む 4.暗褐色シルト質土 地山シルト粒多く含む

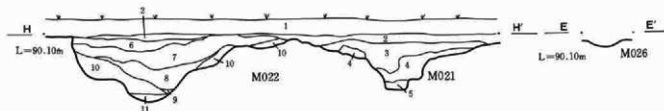


C C'断面 (M021, M022) 1.黒褐色砂質土 シルト土塊含みしまり弱い 2.暗褐色砂質土 砂・小礫多く含みしまりない 3.暗褐色粘質土 シルト土塊・小礫多く含む 4.黄褐色砂 小礫含む互層 下層25cmはシルト質土 5.黒褐色砂 小礫含む 6.灰黄褐色砂礫

D D'断面 (M025) 1.暗褐色砂質土



G G'・I I'断面 (M017) 1.耕作土 2.暗褐色砂質土 小礫混じる 3.暗褐色粘質土 4.黒褐色砂質土 粘質土・シルト質土塊混在 5.にぶい黄褐色砂質土 砂・シルト質土混在 6.にぶい黄褐色シルト質土 鉄分凝塊含む 7.にぶい黄褐色シルト質土 砂含む 8.褐色砂 9.黒褐色砂 小礫混在 10.にぶい黄褐色砂 砂混在



H H'断面 (M021, M022) 1.耕作土 2.暗褐色砂質土 3.暗褐色粘質土 4.灰黄褐色シルト質土 下位砂互層 5.黒褐色シルト質土 砂含む 6.にぶい黄褐色シルト質土砂混在 7.暗褐色シルト質土 砂含む 8.黒褐色シルト質土 砂シルト塊混在 9.灰褐色砂 10.黒褐色シルト質土 礫砂含む 11.黒褐色砂 小礫混在



J J'断面 (X002) 1.暗褐色砂質土 浅間B軽石含みや軟質、上面が路面 2.茶褐色砂質土炭酸硬化層 上面が路面で一部小礫を敷く 下層5cmは砂層 3.暗褐色砂質土 漢M020埋土 4.暗褐色砂質土硬化層 上面が路面 5.黒褐色粘質土 浅間C軽石含む 6.褐色粘質土 地山

東端堀M022は、南北走向で65m以上走るが、大池X011北側の上幅7.5m深1.3mで断面U字形に対し、南側は上幅2.5m深1.5mで断面V字形と大きく異なる。その境は、大池と重なった中央部分にあるようであり、現存道路の下では西から来た北側堀M040とT字形に交差している。

II 調査成果

北側に比べ南側は水流痕が明瞭である。遺物(P.164)は、常滑播鉢(1594)・瓦質土器壺(1631)同コネ鉢(1584)また丸瓦(2275)など15世紀前後のもの、肥前系染付湯飲碗(1182)・肥前京焼風染付皿(1575)及び西に10m強離れた井戸跡D021出土と同一個体の瀬戸美濃黒軸壺片(1928-P.158)のように新しいものも見られた。後者はいづれも北側の出土であるため、北側は近世に拡幅され大池への導水路として19世紀まで使われてたのだろう。調査範囲外北側の地割は、同じ幅でまだ25m延びている。また北側西岸に見られるやや突出した部分は、橋構造の跡かもしれない。15世紀頃にM040とほとんど同じ規模で掘られた堀の北側のみが17世紀後半頃に西に拡大されたと考えられる。

水路跡M016は、上幅1.8m深1.3mで断面はU字形。この部分では鍵の手状の特異な走向を示す。西に30m離れた部分でもM040と平行して見られた。(P.117,125) その走向と中島の南側の大池の南岸推定線との交点からの排水溝だろう。掘り込みはしっかりし、埋土中にはあまり砂礫やノロが多くはなかったため、常時多くの水流があったと思われる。

ここからは、比較的多くの遺物が出土した。確実に下層から出たものは肥前陶胎染付碗(1546)だけで、これに対し埋土層に一括して投棄されていた(PL.115)ものは、肥前染付湯飲碗(1207.09.10, 12)・肥前系染付湯飲碗(1208)・同染付蓋(1048,1211)・瀬戸美濃燻反碗(1206)・同腰餅碗(1543)・東北系藁灰軸土瓶(1542)・肥前黒軸油瓶(1545)・瓦質土器焙烙(1756)・同火入れ(1757)そして寛永通宝銅銭(5010AB)・同鉄銭(5100CDE)・砥石(4201,21)があった。他に層位不明で北宋銭1枚(5006)と寛永通宝銅銭8枚・同鉄銭約13枚が出ている。それ以外の竜泉窯系青磁碗片(1023)・須恵質コネ鉢(1760)・同壺(1758)・遠州湖西系灰軸瓶(1548)・瓦(2273)・埴輪(2248)は、混入だろう。18世紀前半が使用開始時期で、幕末には完全に埋没していたことになる。この水路が鍵の手に掘削された時には、道路跡X002はここで東に折れていたことが分かる。

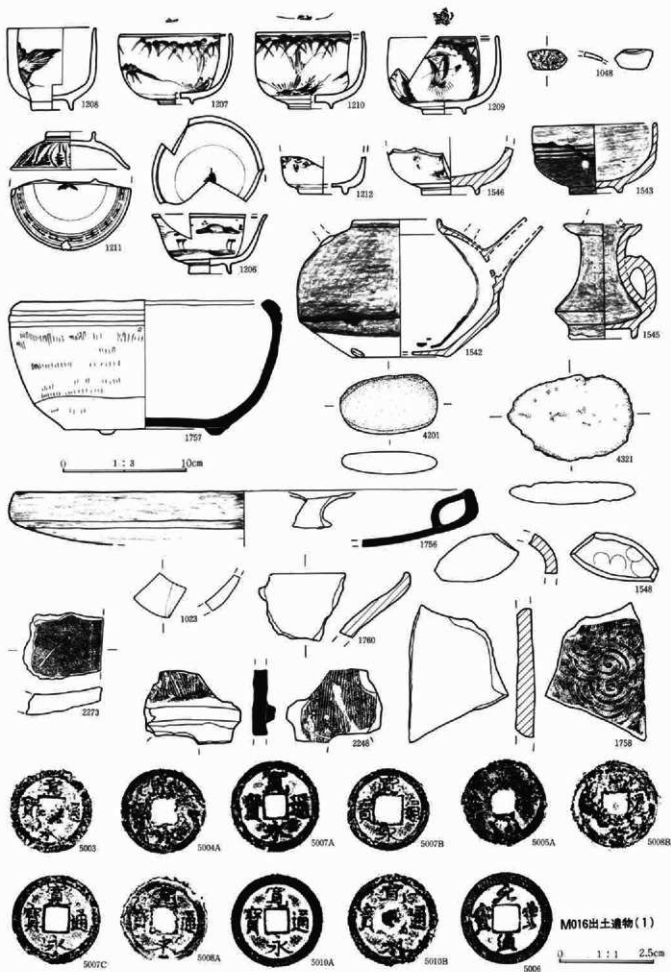
水路跡M021は、大池南東角からの排水溝で、やや蛇行しながら道路跡X002の南側の中央を南に走っている。上幅3.2m深1.3mで断面V字形である。M016と重なった南側のみ良く検出された。遺物は、中世の時期不明の無軸コネ鉢類(1587,1627)などが出ているが、混入の可能性がある。

M025とM026は、南北走向の直線的な浅い溝で、上幅0.7m深0.2~0.3m、断面形はU字形である。前者は6m以上、後者は17m以上延び、両者の間隔は1mほどである。水流痕も明瞭でないため、西に7m離れた畠跡N010(P.124)と同様の畠跡の可能性もある。

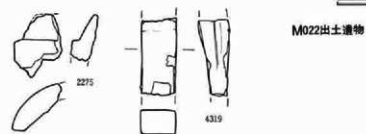
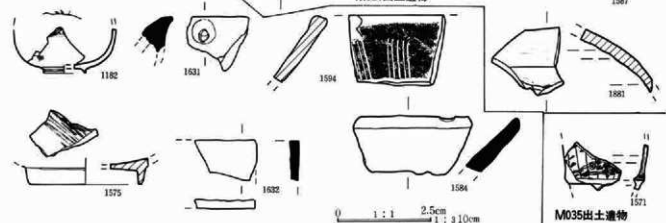
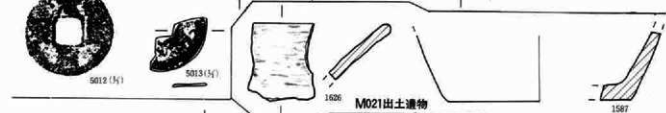
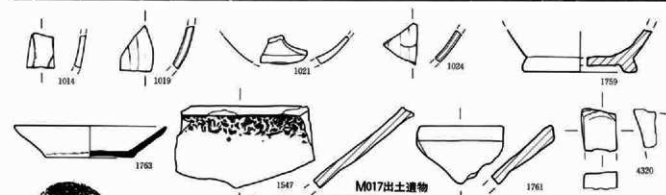
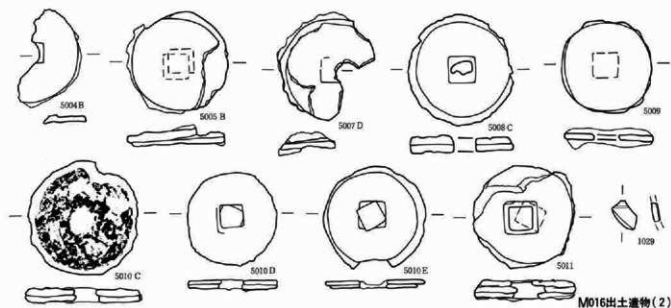
道路跡X002の東側溝M014は、上幅1.9m深0.7mで断面はV字形。一部で掘り返し痕があるが、砂の堆積は不明瞭。37m以上直線状に延びる。M014の南は現存道路などで不明の15mほどを挟んで、同様のM017が延びる。上幅2.4mほど深0.7~0.9mで、断面はV字形。3回の掘り返し痕があり、北側は東からの溝M003と合流あるいは重複する部分だが、上幅が6mほどの皿状落ち込みになっている。M017からは、竜泉窯系青磁碗片(1014,19,24)・白磁碗片(1021)と、4片の中国陶磁片が見られた。また常滑コネ鉢(1547)・須恵質コネ鉢片(1761)・同瓶(1759)・土師器小皿(1763)と共に銅銭(5012,13)と砥石(4320)があった。以上により14~15世紀頃の使用年代が考えられる。

西側のM024とM035は、確認面では上幅0.6m前後深0.1mほどの浅い溝。後者は層位的には道路跡の第二次路面より新しく、近代の練上げ湯飲み(1571)が出土した。東側の側溝に対応するのはM022であろう。

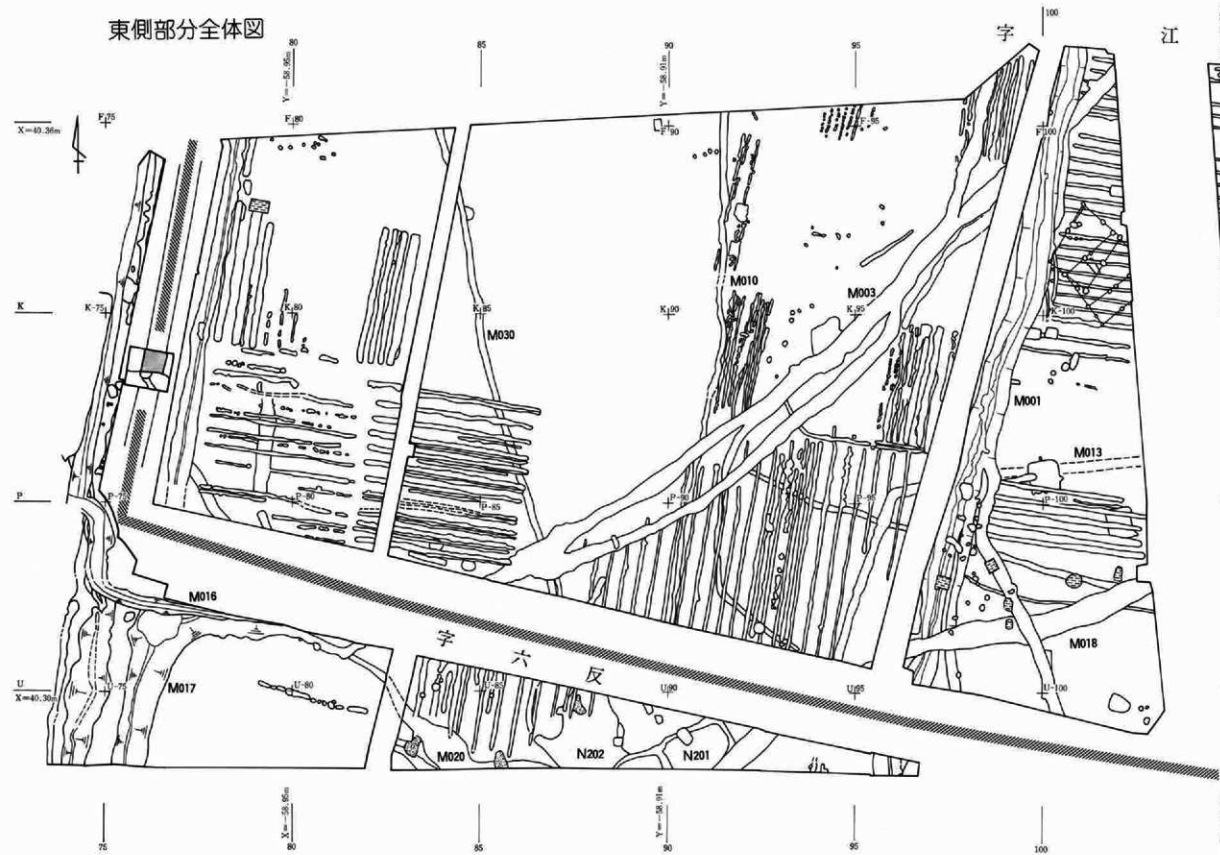
以上の各遺構の新旧関係は、M022→X011・M021→M016、M040→M016、(M003)→M017→M016、M023→M025となる。まとめれば古代起源の水路M003(P.183)の一部を利用して、北側堀M040と関係する南北道路の側溝が14~15世紀頃作られる。17世紀後半の大池の掘削に伴い西側溝の北側は拡幅され、排水溝が掘られ、道路は鍵の手に東に方向を変える。そして18世紀前半に南から東へ導水方向を完全に変えた水路M016が形成され、約1世紀利用されたことになる。



M016出土遺物(1)



東側部分全体図



江



3 東側部分

《 概要 》 (PL.1,118)

この部分は、南北走向道路X002の東側から調査範囲東端の江竜川際までで、東西210mほど南北は70～80mである。大部分は字江竜(えりゆう)だが、西から東に走る現存道路の南側は字六反(ろくたんに)にかかる。

調査前の状態は、南北の現存道路の西側が水田で、東側は畠地であり、この道路に面し2軒の人家があっただけである。地山は暗褐色のシルト質土で、溝埋土などに最大30cmの浅間B軽石の一次堆積が見られる。

検出された遺構は、東端側で南北に流れる江竜川の旧河道3本があった。その西は、広大に広がる近世の畠跡の下から、複雑に走る中世と古代の水路、そして小規模な古代の水田跡と集落が確認された。水に関係する旧河道M103, M201, M202と中世水路M001・古代水路M003が、この部分の景観を形成している。

全体としては、古代には水辺の居住域と小規模な生産域、中世には水路そして近世には広大な生産域と変化した。検出遺構は次のように多様だが、特に畠跡が多いことは注目に値する。

溝類(M)	旧河道	4条
	大水路跡(70m以上)	6条
	水路跡	47条
居住(J)	掘立柱建物跡	5棟
	竪穴住居跡	14棟
土坑類(D)	井戸	4基
	短冊形土坑	5基
	その他土坑	70基
耕作地(N)	畠跡	25箇所
	水田跡など(含む池湿地)	3箇所
その他(X)	道路跡	2条
	製鉄炉跡	1箇所
	小皿廃棄場跡	1箇所

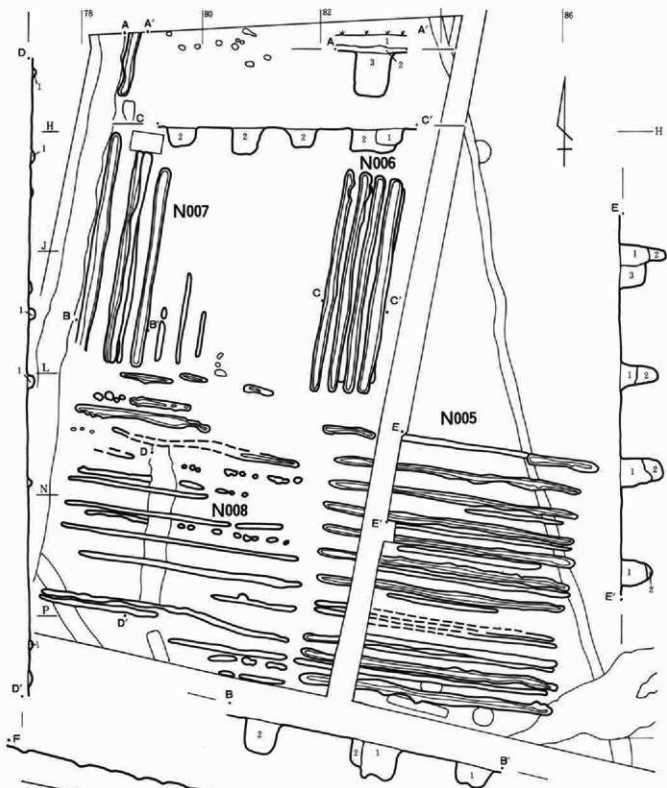
なお、旧河道の一つは古墳時代前期～後期のもので、自然遺構だが同時代では唯一検出されたものである。また縄文時代の遺物が数基の土坑から少し見られているが、同時代の遺構は断定できない。調査は南北走向の現存道路を境に別個に行った。報告は、新しい順に西から行う。

畠跡N005～N009遺構 (P.168 PL.119)

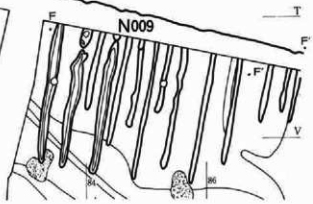
畠跡N005は、東西走向のサク痕が19条、耕作単位は 17×17 mの289 m^2 。サクは大小2種類が重なるが、大きいものは間隔1.2m上幅0.3～0.4m深0.6～0.7m。1.灰黄褐色粘質土シルト土塊含みしまりない 2.明黄褐色砂質土 黒褐色土塊含む 3.灰黄褐色粘質土 黒褐色土塊多く含む 肥前染付皿(1216)・同三高手皿(1607)そして関西系白化粧徳利(1606)が出土しており、18世紀後半～近代の使用時期が考えられる。14～15世紀の瀬戸美濃灰釉碗(1037)は混入。鉄滓(5011)もあった。

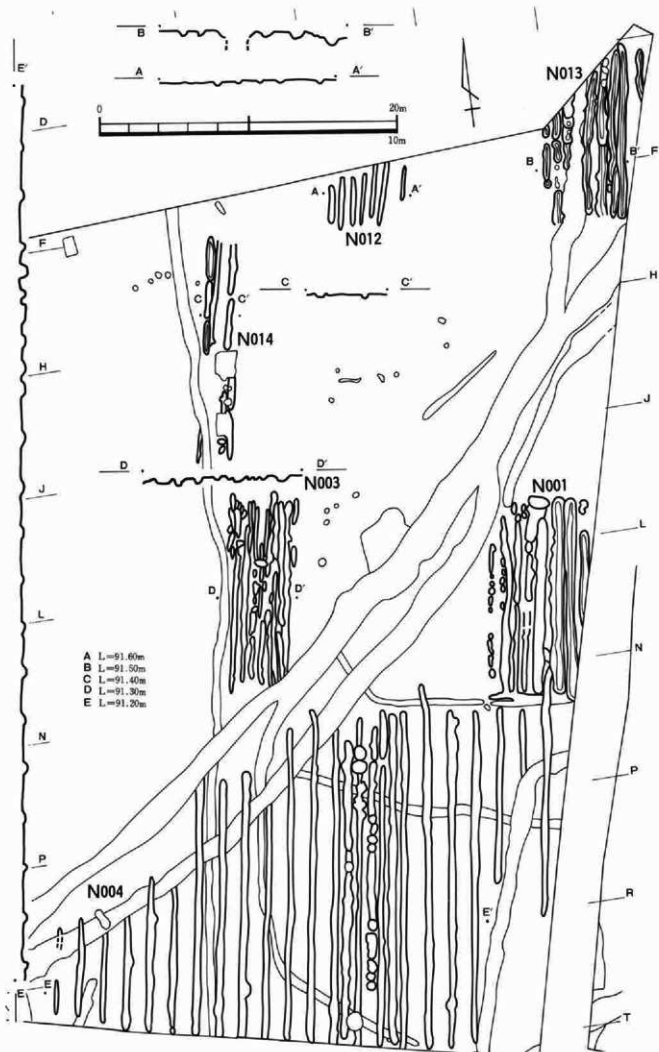
畠跡N006は、南北走向のサク痕が6条、耕作単位は 17×4 mの68 m^2 。サクは大小2種類が重なるが、大きいものは間隔0.4～0.6m上幅0.5m深0.3～0.4mで、断面形は方形。1.暗褐色砂質土 黒褐色土塊含みしまり弱い 2.黒褐色粘質土 ローム塊含みしまり弱い 個々のサクは、長大な短冊形土坑と見えなくもない。南側のN005との間に2.2mほどの空間。18世紀中頃の瀬戸美濃給輪徳利(1610)が出土。

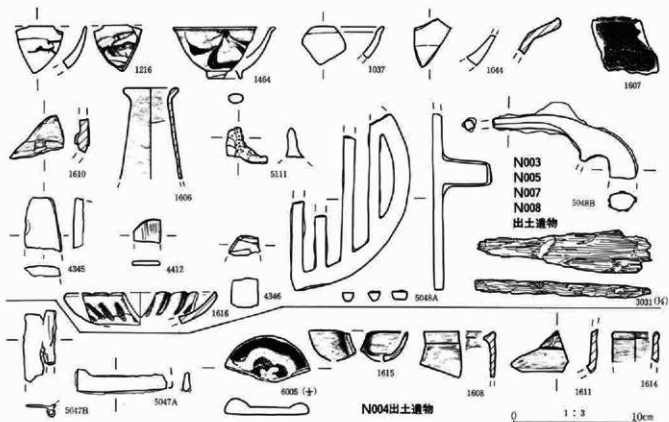
畠跡N007は、南北走向のサク痕が大小7条、耕作単位は大が 17×4.5 mの77 m^2 。小が 10×5.5 mの55 m^2 。



- A L=90.80m
- B L=91.10m
- C L=90.90m
- D L=90.80m
- E L=91.00m
- F L=90.70m







大は間隔0.9~1.1m上幅0.6m深0.6mほどで断面形は方形。4条は2条単位で作られ重なっている。小は間隔約2m上幅0.2mで浅い。1.暗褐色砂質土 黒褐色土塊含みしまり弱い 2.灰黄褐色砂質土 黒色土塊と小礫含む 北に2.2m離れて大と同様のサク1条がある。1.耕作土 2.にぶい黄褐色砂質土 しまり弱い 3.灰黄褐色砂質土 黒色土塊と小礫含む 鉄五徳(5048AB)・砥石類(4345,4412)そしてスギ板材(3031)が見られた。

畠跡N008は、東西走向のサク痕16条、耕作単位は19×17mの323㎡。間隔は1.5mほどで上幅0.2m深0.1m。1.にぶい黄褐色砂質土 鉄分・浅間B軽石含む 同一単位内で2種のサクが重なる。東のN005との間に約1mの空間。幕末明治前期の関西系青磁鉄絵壺(1464)が出土。竜泉窯系青磁碗(1044)は混入。

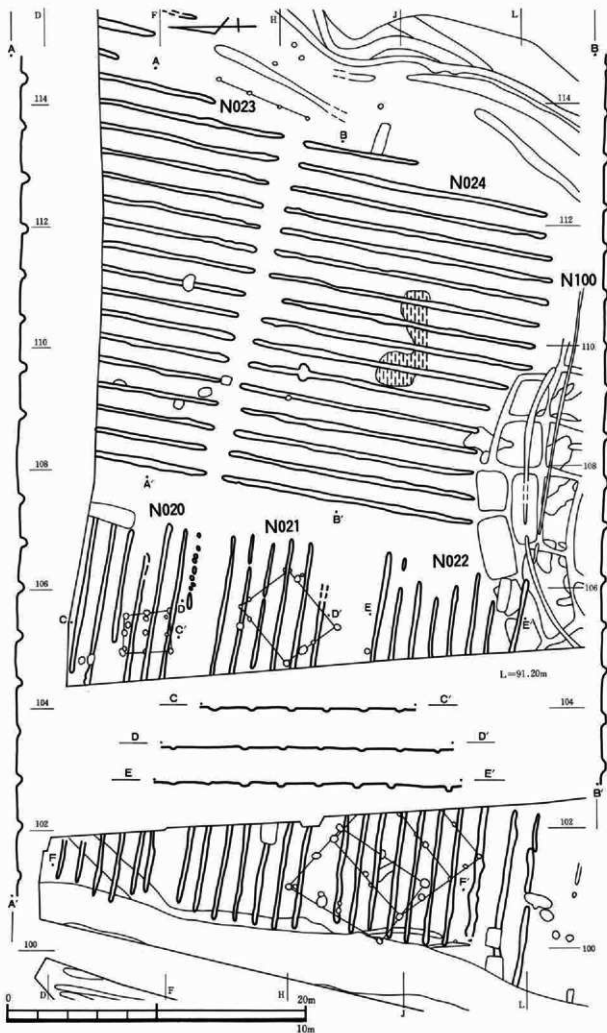
畠跡N009は、南北走向のサク痕15条、耕作単位は18×9m以上で162㎡以上。2種以上重なるが、間隔は約1~1.5mで上幅約0.3m深約0.2m。

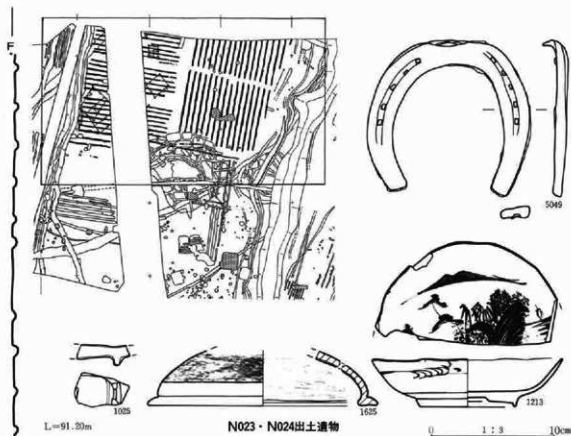


畠跡N001, N003, N004, N012~N014 遺構(P.169図 PL.15,120,121)

畠跡N001は、南北走向のサク痕が9条ほど集中。耕作単位は13×7m以上で91㎡以上。狭い間隔で上幅約0.3mと約0.6mのものが重なる。深はいづれも約0.2m。

畠跡N003は、南北走向のサク痕が9条集中し、耕作単位は13×4mで72㎡。間隔は狭く、上幅約0.3m深約0.2m。17世紀中頃の瀬戸美濃菊皿(1616)と砥石(4366)が出土。





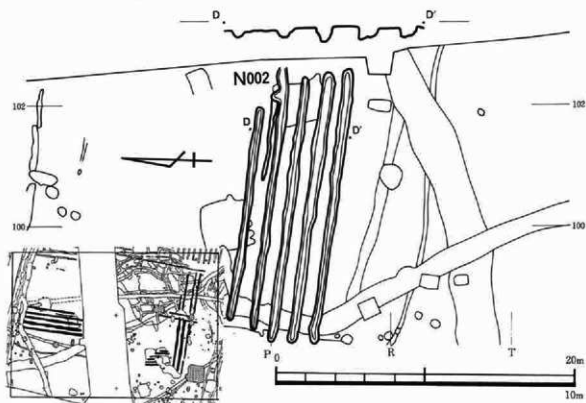
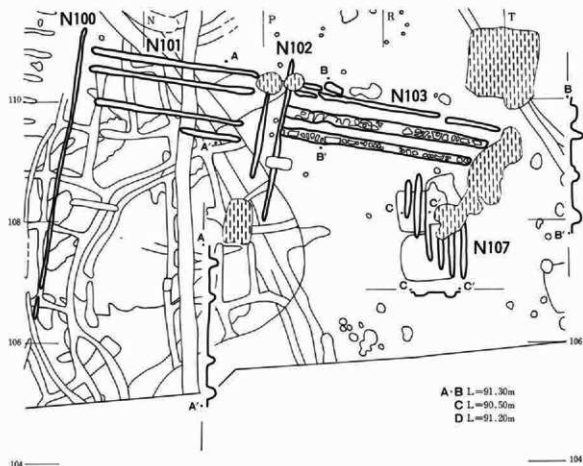
畝跡N004は、南北走向のサク痕が25条以上。検出は北西側があまり十分ではなかったが、本来方形の耕作単位で33×22m以上の726㎡以上と推定。中央で一部狭い間隔のものが重なるが、主体は1.2mの間隔で上幅0.3m深0.2mのもの。瀬戸美濃灰軸型打皿(1615)・同軸軸香炉(1608)・同軸徳利(1614)・関西系象嵌湯飲碗(1611)・火打金(5047)・ガラスおはじき(6005)などが出土。18世紀後半～近代の使用時期が考えられる。

いずれも南北走向で、畝跡N012はサク痕が7条。耕作単位は5×4m以上で20㎡以上。間隔約0.5mで上幅0.2m深約0.1m。畝跡N013はサク痕が8条。耕作単位は12×7m以上で84㎡以上。間隔0.5m上幅0.4m深約0.2mのものが、2種類重なった状態。畝跡N014はサク痕が3条。耕作単位は15×2mで30㎡。1.2mの間隔で上幅0.2m深0.2m。南のN003との間に2m幅の空間がある。

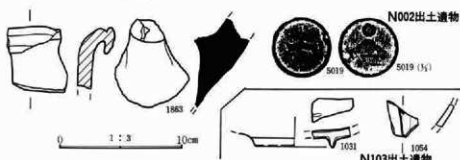
畝跡N020～N024遺構 (P.171図 PL.15,120,121)

いずれも東西走向で、畝跡N020はサク痕が7条。耕作単位は25×8m以上で200㎡以上。間隔1.0mで上幅0.2m深0.2m。畝跡N021はサク痕が7条。耕作単位は26×8m以上で、208㎡以上。間隔は北側のN020と同様で、2mほどの空間がある。畝跡N022も7条のサク痕よりなる耕作単位で、南側に同規模のサク痕3条が付随。N021との空間も約2m。

いずれも南北走向で、畝跡N023はサク痕が20条。耕作単位は30×18m以上で540㎡以上。間隔は約1.2mで上幅0.3m深0.2m。西側のN020との間に約3.5mの空間があり、南西角側に未検出の部分がある。鉄馬蹄(5049)が出土。畝跡N024は、サク痕が16条。耕作単位は23×18mで414㎡。周囲との空間は北側が1.2m、西側が3.0m前後、南側が約2.2m。肥前染付輪花瓶(1213)・関西系船輪行平蓋(1625)そして竜泉窯青磁碗(1025)が出土。近代が使用の中心だろう。



II 調査成果



島跡N002,100~103,
107遺構 (PL.15,120,122)

島跡N002は、東西走向のサク痕が5条。耕作単位は 18×6 m以上で 108 m^2 以上。間隔は約0.8 mで上幅0.5 m深0.5 m。昭和17年銘アルミー銭(5019)などが出土。

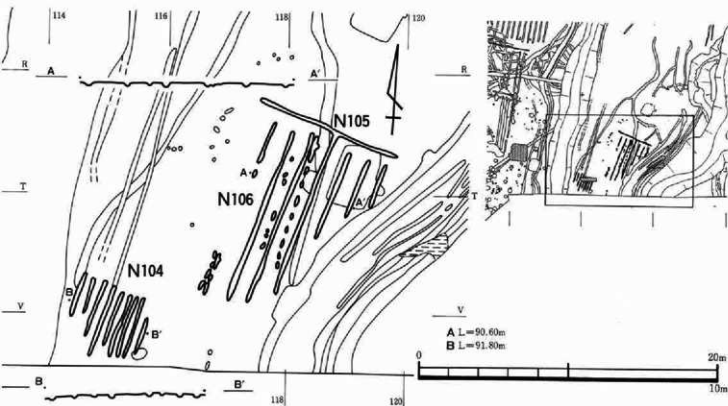
島跡N100は、東西走向の上幅0.2 m深0.2 mで20 m伸びたサク1条。島跡N101は、南北走向のサク痕が4条。耕作単位は 11×5 mで 55 m^2 。約0.8 mの間隔で上幅0.3 m深0.2 m。北側のN100との空白は約0.5 m。島跡N102は、東西走向のサク痕2条。耕作単位は 11×1.5 mで 17 m^2 。島跡N103は、南北走向2種類のサク痕4条。耕作単位は 14×4 mで 56 m^2 。東側の2条は間隔は狭く、西側の2条は0.8 mの間隔で上幅0.5 m深0.3 m、底は根痕が連なる。竜泉窯系青磁碗片(1031,54)が出土。

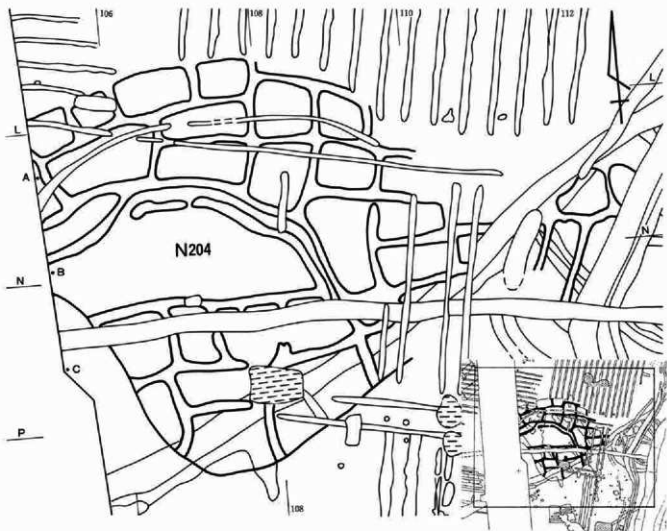
島跡N107は、浅間B軽石下の東西走向のサク痕6条。耕作単位は 7×4 mで 28 m^2 。間隔0.5 mで上幅0.3 m深0.2 m。走向は他とは異なる。同じ軽石下から検出された北側の水田跡N204まで7 mの空間。

島跡N104~N106遺構 (PL.122,123)

島跡N104は、10 mの東西走向のサク痕1条。島跡N105は、南北走向サク痕2種10条が重なる。耕作単位は 12×8 mの 96 m^2 。共に間隔1.0 m強、上幅0.2 m深約0.1 mだが、3条は根痕が連なった状態。北側のN104まで約1 mの空間。島跡N106は南北走向サク痕9条。耕作単位は 5×5 mの 25 m^2 、間隔約0.4 m上幅0.2 m深約0.1 m。

☆ 遺物より大部分が18世紀後半~近代の継続的使用が判明。N003などの間隔の細かいものは17世紀中頃まで上がる可能性。N005、N008、N024、N103からの中国陶磁中心の中世遺物出土は要注意。N107は12世紀初頭。



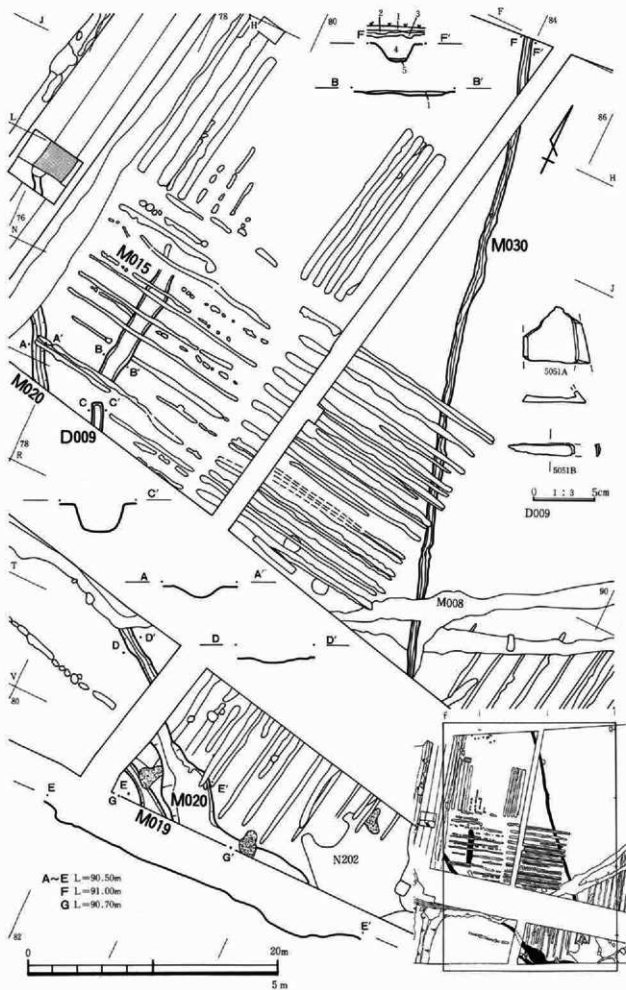


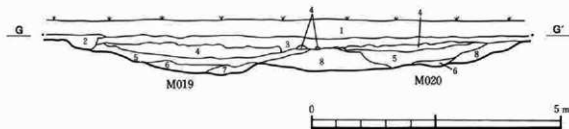
水田跡N204遺構 (PL.5,123)

浅間B軽石の直下で確認。上層には畝跡や溝が乗っている。32×22mの範囲で、高5cm上幅20cm下幅30~40cmの畦状の高まりが軽石下で検出された。それらに囲まれた区画は、中央の14×5mの半円形区画を除いて、最小で2×2m、最大で5×3m程度のものが約27個ほど。半円形区画は、北東外側に幅40cmほどの水路状の部分が巡っている。そこから南側の区画には、水口状の切れ目が畦に見られる。

ただしこの水田部分と直接つながる水路は、全く確認されていない。南に7m離れて同じ軽石の下で確認された畝跡N107がある。そのため、この水田は検出した以上に大きく広がる可能性はなく、周囲から僅かに低い小さな窪地に営まれたことになる。

B軽石下の水田耕作土は黒みが強くグライ化していないため、短期の耕作であろう。そこから検出のイネのプラント・オパールは、1,200~3,000/cc程度でタケやウシクサの方が多かった。(分析報告参照) 土師器釜片(2119)が出土。他に周辺から肥前白磁小碗(1033)・埴輪片(2249)が見られた。





水路跡M015, M019, M020, M030遺構 土坑D009遺構
(P.176図 PL.124,125)

水路跡M015は、上幅1.5m深約5cmで南北方向に10m走る。B軽石降下後の水路。畠跡N008より古い。1.褐色砂質土 二次堆積の浅間B軽石と砂混在

水路跡M020は、道路跡X002の下から南東方向にやや蛇行しながら55m以上走る。底幅1m弱深0.7mで、南東側でほぼ同規模のM019が平行する。共に断面U字形。二つの水路は、本来一つの大きなものが埋まった後に掘り返され、B軽石の降下時にはすでに機能しなくなっていた。大水路跡M003より古い。1.現水田耕作土・床 2.褐色砂質土 しまりやや弱い 畠跡N009埋土 3.暗褐色砂質土 4.浅間B軽石 5.黒褐色粘質土 粘性強い 6.暗オリーブ褐色砂質土 下面に砂含む 7.暗褐色砂質土 砂・小礫含む 8.暗褐色シルト質土 砂互層堆積

水路跡M030は、北北西から南南東に60m以上ほぼ直線状に走り、水田跡N202に入る。上幅0.8m深0.4mで断面はU字形。B軽石降下時には完全に埋没。大水路跡M003より別れたM008より古い。1.現水田耕作土 2.現水田床 3.浅間B軽石 4.黒褐色粘質土 5.褐色砂 やや凝固

短冊形土坑D009は、長2.2m以上幅0.8m深0.4m。鉄製農具(5051A)同刀子類(5051B)が出土。近世以降。

池跡N201遺構 湿地N202遺構 土坑D005～D007遺構
(P.178図 PL.125,126)

池跡N201は、大水路跡M018の北西側に接する掘り込みで、12m以上×5m以上の長方形で中央に下幅70cm上幅50cm比高10cmの畦状の高まりがある。東側は約28㎡。この高まりの西側は東側より10cmほど低い。深40cmほどだが、底も完全に平坦ではなく10cm程度の高低差が見られる。浅間B軽石の降下より以前にM018とは同時に埋没しており、その底より約30cmほど浅い。(P.185参照)

埋土中より土師器坏(2075～78)・高足碗(2074)が出土。形態としては水田に似るが、底土は断面ではあまり鉄分の沈着が見られず、底が平坦でないことも含め、M018の調整池のようなものだろう。

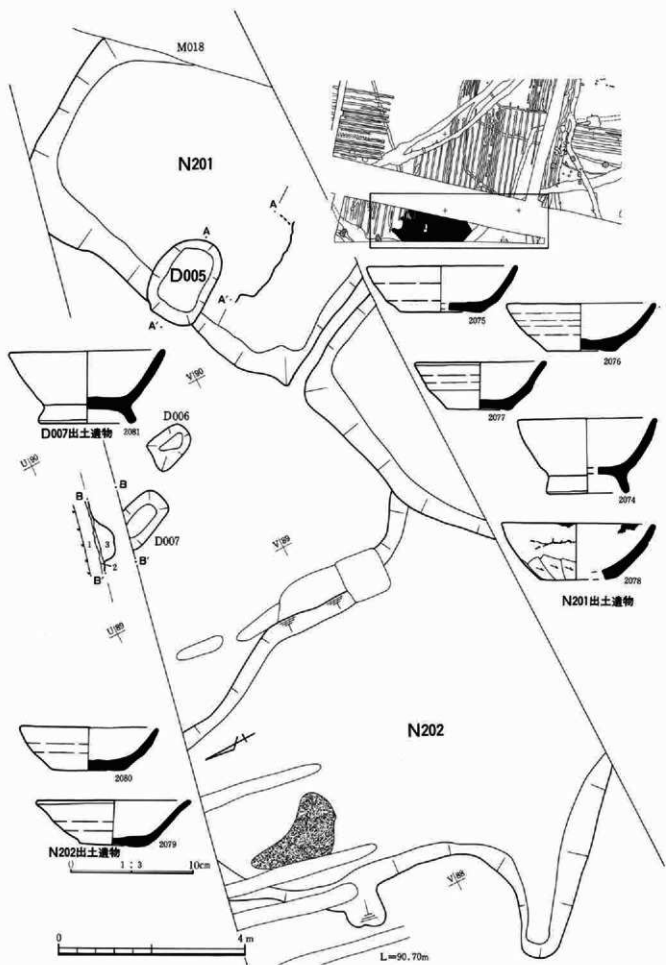
湿地N202は、N201の北西側で東西南北各8m以上の不整形で、深約30cmを測る。底の北側は平坦さみだが、南側はそれより10cmほど低くあまり平でなく、底に砂が溜まる。少なくとも南側は、N201及び溝M019、M020より古い。畠跡N009より古い北側はほぼ間違いなく溝M030からの水の供給を受けている。

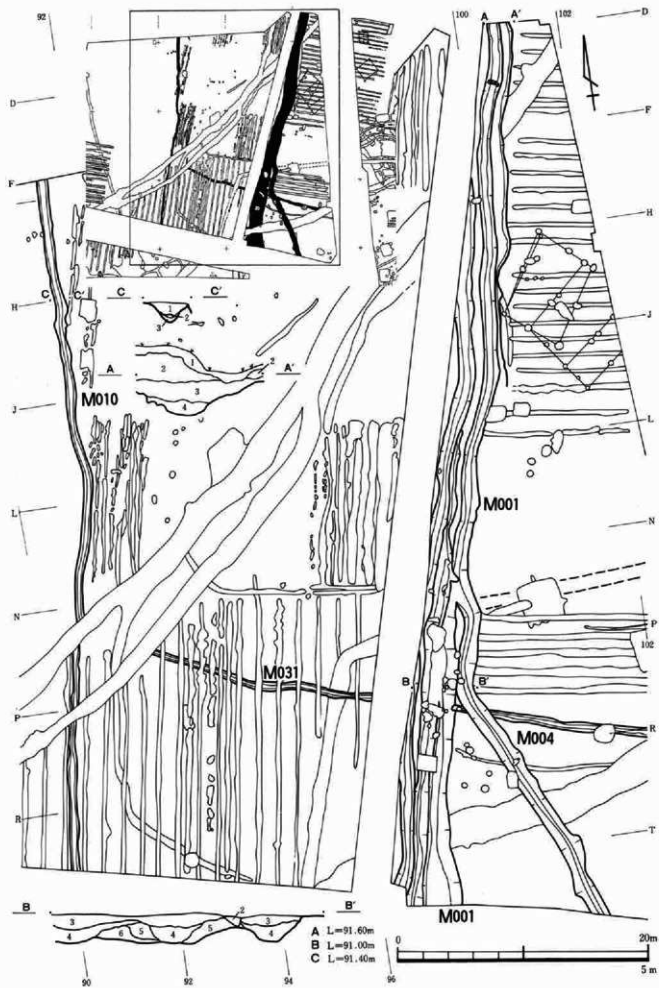
須恵器坏(2079)・土師器坏(2080)が埋土中より出土。水田利用の可能性もありうる。

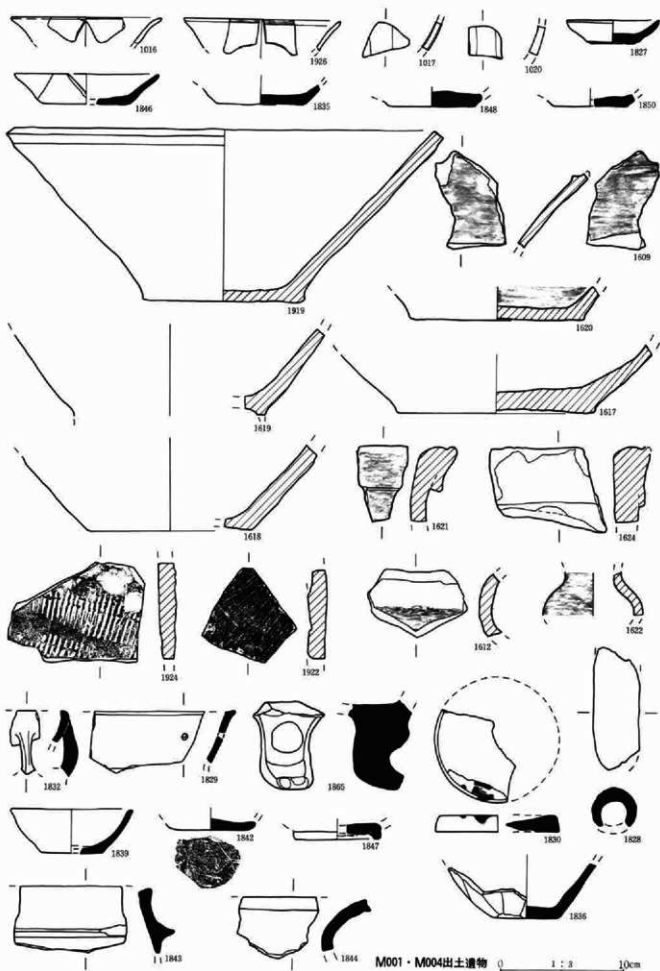
楕円形土坑D005は、N201と重なるが関係不明。長1.8m幅1.2mで、N201の底より約10cm深い。

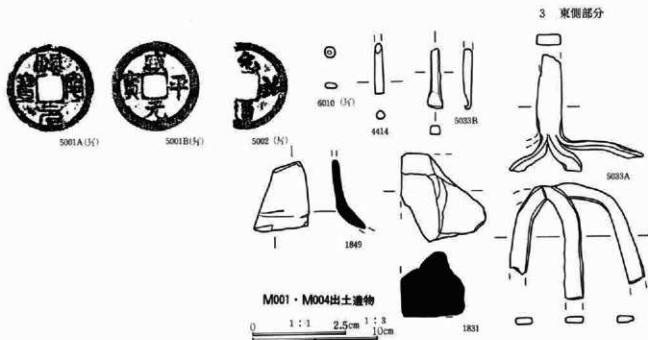
土坑D006は、D005の北西2mの位置で、長1.0m幅0.6mほどの不整形だが、深は0.5mと深い。縄文土器(P.232-2281,87)が出土したが、同時期かは不明。

土坑D007は、D006の北西にほぼ接し、長1.0m以上幅0.6m深0.3mの長方形。土師器高足碗(2081)が出土。1.現水田耕作土 2.暗褐色砂質土 3.黒褐色砂質土 しまりやや弱い 浅間B軽石降下より新しい可能性もある。









水路跡M001, M004, M031, M010遺構 (P.179図 PL.2, 15, 127, 128)

水路跡M001はほぼ直線状に70m南北方向に走り上幅4m前後あるが、少なくとも2回以上の掘り直しの結果の幅である。北側に堰状のような板状のものを打ち込んだ跡があった。水流跡も顕著に見られた。1.耕作土 2.褐色砂質土 3.暗褐色砂質土 4.暗褐色砂質土 しまりやや弱く砂含む 5.褐色シルト質土 互層堆積砂・浅間B軽石粒含む 6.灰黄褐色砂 シルト質土含む互層堆積

南側で南東方向に水路跡M004が分岐するが、南下するものとの新旧関係は不明。

出土遺物はやや多く、中国陶磁では口刺げ白磁皿(1016, 1926)・竜泉窯系青磁碗(1017, 20)があり、国産陶磁では渥美甕(1922, 24)・常滑甕(1612, 21, 24)・同コネ鉢類(1609, 17~20, 1919)などがある。また土師器小皿類(1827, 35, 46, 48, 50)・瓦質土器塀(1829, 32)が見られた。M004からは、瀬戸美濃灰釉水注(1622)・瓦質土器火鉢脚部(1865)・同不明円盤(1830)が出土。金属器は、3枚の北宋銭(5001A・B, 5002)があるが、他は近世以降のものであろう。古代の土師器・須恵器(1832, 36, 42, 47, 43, 44)・古墳時代土師器(1849)とガラス玉(6010)が混入している。

この水路跡は、北に約100m伸びると江竜沼の屈曲部にあたり、走向は沼の西側と一致している。(P.111図参照) またすぐ西に同一走向の現在の水路があった。そのため、中世居館と推定される同沼の排水路であり、現在の水路と走向の異なるM004がより古いと思われる。上記遺物より12~15世紀が使用年代だろう。

水路跡M031は、上幅0.7m底幅0.3m深0.3mほどで、水路跡M007とM018の間を東西走向で約40m走っている。水路跡M001, M004, M007より古く、M013より新しい。底が50cm高い状態でV字形に合流するM018とはあまり時期差はないと思われる。浅間B軽石降下よりかなり古い。

水路跡M010は、上幅0.8m深0.4mの断面V字形で南北方向に55m以上走る。水路跡M003及びM007と重なるが関係不明。1. 灰黄褐色砂質土 2. 浅間B軽石 3. 褐色粘質土 しまり弱い 浅間B軽石降下の直前まで使用されている。

II 調査成果

水路跡M003, M007~M009, M011, M012遺構 (P.183図 PL.129,130)

水路跡M003, M007~M009, M011, M012 北東から南西方向に100m以上走る長大なもので、主流はM003よりM007が新しく、M012はM007と同一の可能性もある。またM008とM009はM003からの分流で、前者は南に後者は南から南東へ走っている。

本流のM003とM007は、上幅約2m深0.5mの断面V字形で、重複する他の水路跡で古いものはM020・M030・M031であり、M010とは関係不明。また末端はM017に重なっているだろう。明瞭な水流痕がある。北からのM012は上幅0.4m深0.3mほどで重複する畠跡N013に大きく壊されており、底はM003より僅か高い。M011は上幅0.8m深0.1m弱で浅いが、M003に平行している。1.耕作土 2.暗褐色砂質土 砂塊含む 3.褐色砂 4.褐灰色砂礫 5.暗褐色砂質土 砂含む 6.黒褐色砂質土 浅間B軽石多く含む 7.褐灰色砂 8.にぶい褐色砂質土 鉄分・砂塊含む

M006より須恵器碗坏類(1837, 38, 40)、M007より土師器坏(1851)が出土。またM012には畠跡からの混入の近世近代磁器(1214, 15)と泥人形(1895)・ガラス円盤(6006)が混じる。

水路跡M008はM003の分流でM030より新しく、上幅0.6m底幅0.3m深0.2mで、南に20mほど走る。完全に浅間B軽石で埋没していた。

水路跡M009は同じくM003の分流で、上幅0.6m底幅0.3m深0.1mで、ほぼ浅間B軽石で埋没。南に17m走った後南東に10m流れる。1.にぶい赤褐色砂と浅間B軽石 鉄分含む

以上のようにこれらの水路跡は、浅間B軽石の降下直前頃に使用されて本流にはかなり水流があった。本流の付け替えや分流を持つ本格的な灌漑システムと考えられる。

水路跡M018, M125, M131, M133~M140, M142, M143, M151, M152遺構 区画溝M013, M121遺構 (P.185図 PL.4, 130~133)

水路跡M018は、上幅約3m深0.9~1.1mの断面V字形で、江竜川旧河道のM202より南西方向に緩く蛇行しながら約130mにわたって検出された。ほとんど同じ位置で掘り返されているが、取水部の旧河道近くは両者がやや別れる。水流痕は明瞭である。1.耕作土 2.暗褐色砂質土 3.浅間B軽石 4.黒褐色粘質土 底に砂礫 5.暗褐色粘質土 黄褐色シルト質土塊含む 6.黒褐色粘質土 砂礫混在し固い 7.暗褐色土粘質土 底に砂 8.灰黄褐色粘質土 9.黒褐色土と砂の互層 10.黒褐色砂礫 固い 11.暗褐色粘質土 (M031埋土)

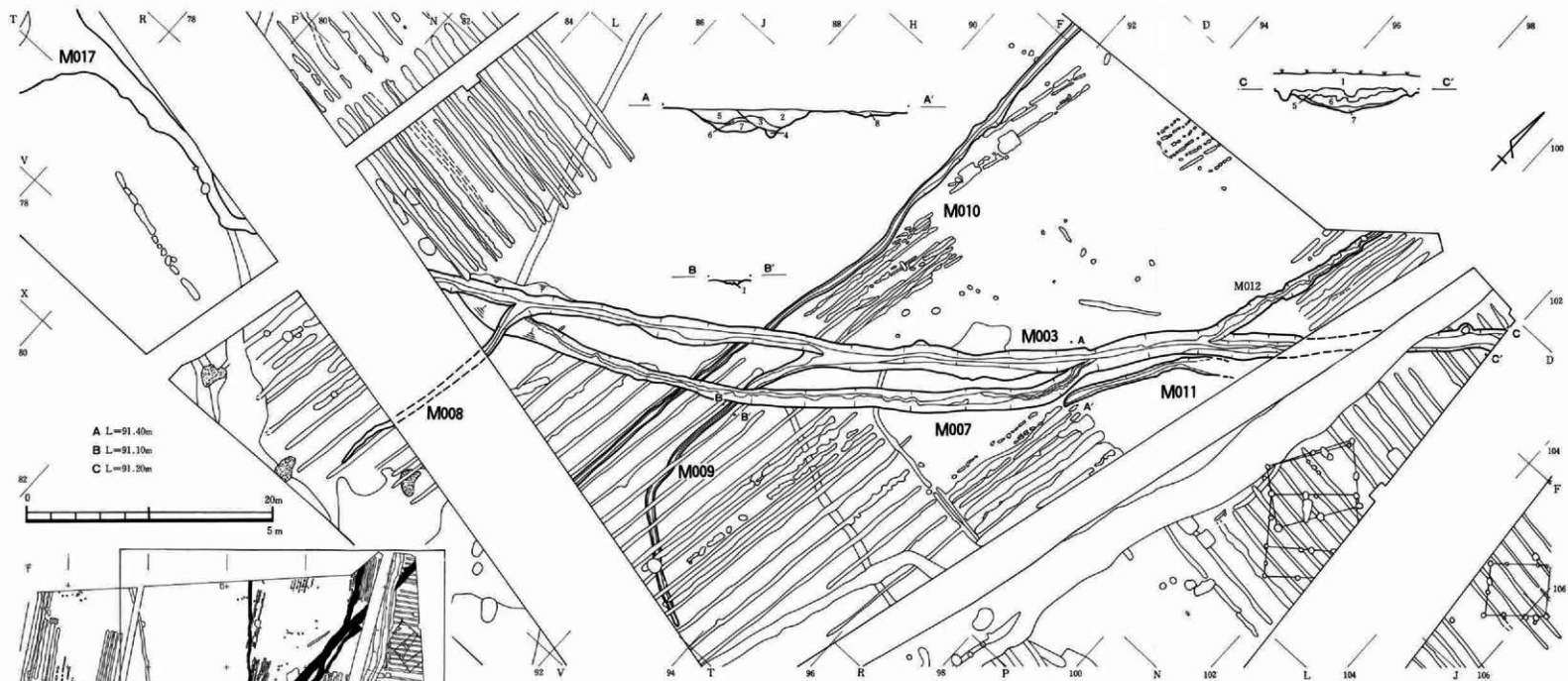
重複する水路跡でより新しいのはM001, M004, M013で、その他とは関係は不明だが、特にM031や池N201とは同時期と思われる。M003のような分水路は見られないが、南西端の池N201は水量調節のための施設かもしれない。時期は、浅間B軽石降下よりかなり以前の使用である。

遺物は、灰軸壺片(1883)と須恵器碗(2095)坏(2163)以外は大部分が土師器で、高足碗(1852, 2093, 2094)・坏(2083)・壺(1762)・甕(1841, 45)がある。このうち、1852と1762は上層より出土。他に土玉(1891)・鉄鏃(5034)は時期不明で、中世の丸瓦(2274)は混入。

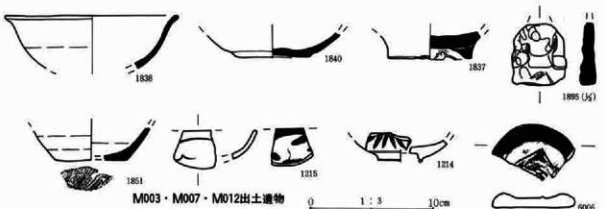
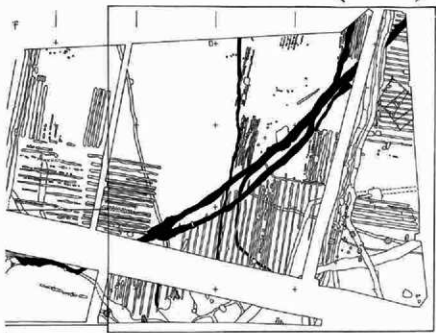
区画溝M013は、東西方向に約73m走った後やや鈍角で南に向きを変え30m以上伸びる。上幅1.2m底幅0.7mで断面はU字形。あまり顕著な水流痕はない。重複する水路跡M018, M125, M142などいづれよりも、また堅穴住居J102より新しいが、畠跡N101, N004より古い。また水路跡M001との関係は不明。1.耕作土 2.にぶい褐色砂質土 3.黒褐色砂質土 浅間B軽石混じる

走向方向また埋土状態より、旧河道M202と組み合わせた集落を区画する用途と思われる。時期は浅間B軽石降下より新しく18世紀後半以前。

区画溝M121は、水田跡N204の上で緩く南側に湾曲し24m以上走り、上幅0.5m底幅0.3m深0.1mと浅い。浅間B軽石降下より新しく、埋土はにぶい黄褐色砂質土。畠跡N100と重なるが関係不明。水田跡N204の跡地の湿地を区画したのか。



A L=91.40m
 B L=91.10m
 C L=91.20m

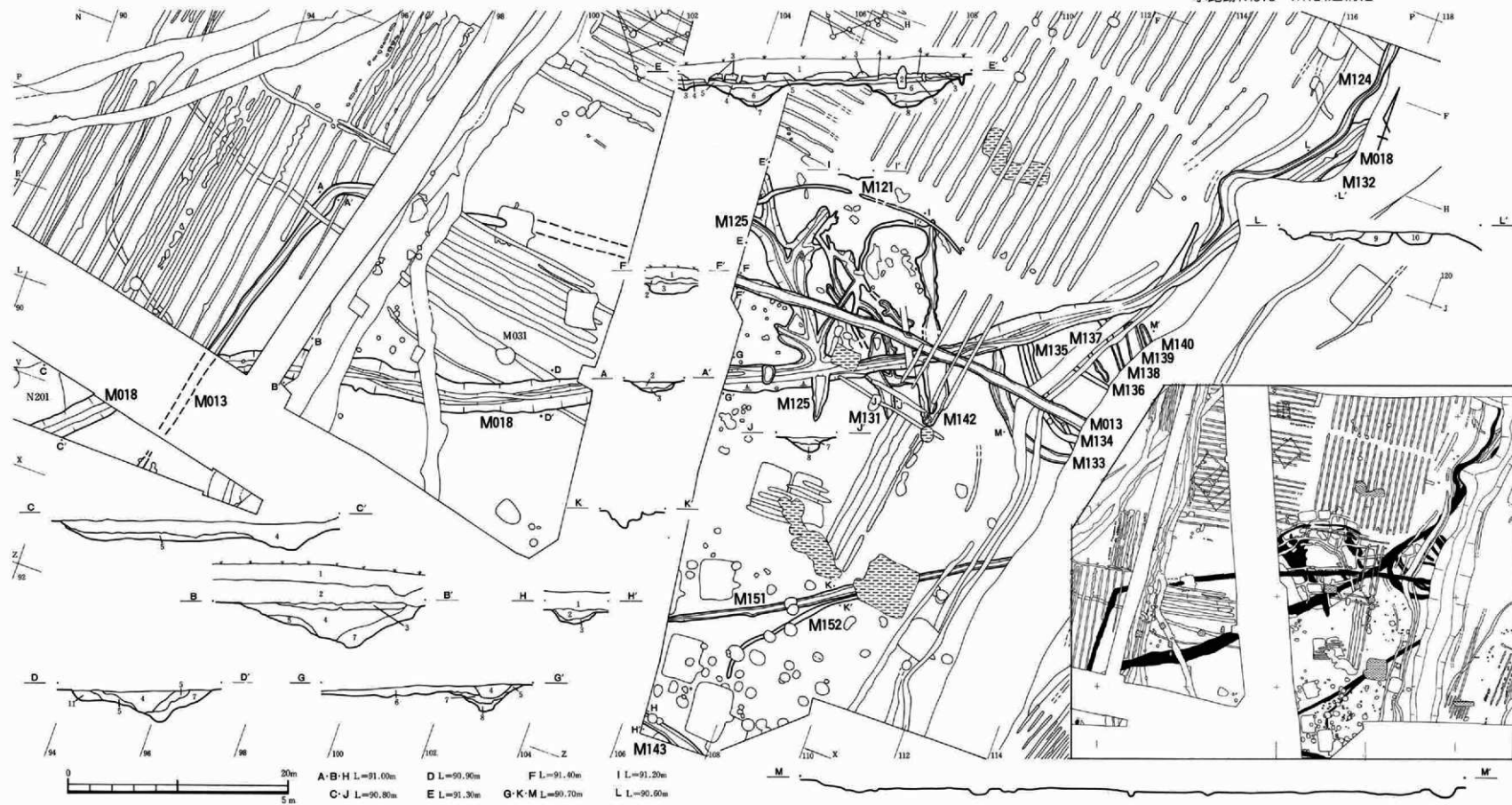


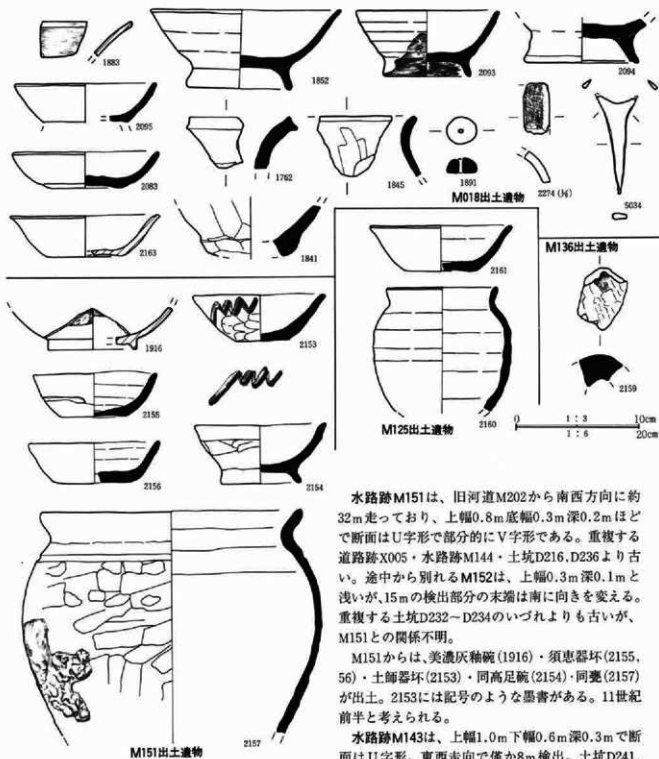
M003・M007・M012出土遺物



水路跡M003・M007遺構他

水路跡M018・M124遺構他





水路跡M151は、旧河道M202から南西方向に約32m走っており、上幅0.8m底幅0.3m深0.2mほどで断面はU字形で部分的にV字形である。重複する道路跡X005・水路跡M144・土坑D216、D236より古い。途中から別れるM152は、上幅0.3m深0.1mと浅いが、15mの検出部分の末端は南に向きを変える。重複する土坑D232～D234のいづれよりも古い。M151との関係不明。

M151からは、美濃灰釉碗(1916)・須恵器杯(2155、56)・土師器杯(2153)・同高足碗(2154)・同壺(2157)が出土。2153には記号のような墨書がある。11世紀前半と考えられる。

水路跡M143は、上幅1.0m下幅0.6m深0.3mで断面はU字形。東西走向で僅か8m検出。土坑D241、D265より古い。水流痕があり、浅間B軽石降下より

新しい。1.耕作土 2.黒褐色砂質土 浅間B軽石多く含む 3.黒褐色砂質土 浅間B軽石と砂含む

水路跡M125、M131、M142は水田跡N204の下から発見されたもので、主に北西から南東方向へ走るが、かなり複雑に多くの分流が集まっている。これらは厳密な新旧関係があるかは不明で、低地に向かった自然の流路が重なったものだろう。

ただし西側のM125は最も掘り込みがはっきりしており、上幅1～2m深0.5mほどの断面V字形で、水流痕は明瞭。1.耕作土 2.擾乱 3.にぶい黄褐色砂質土 4.浅間B軽石 5.黒色粘質土 6.黒褐色粘質土 砂含む 7.黒褐色粘質土 砂混在 8.褐色砂 凝固 須恵器杯(2161)・土師器小形壺(2160)が出土。浅間B軽石降下よりはるかに古い。

II 調査成果

水路跡M133～M140は、水路跡M018と旧河道M202との間を結びやや湾曲した短い水路群で、上幅0.4～0.8m深0.1～0.2mで断面はU字形が多い。水路跡M013及び道路跡X005より古い。このうち中央のM136より土製輪片(2159)が出土。走向より、これらの大部分はM018の水量調節の機能かと考えられる。

旧河道M103, M201～203遺構 道路跡X005, 006遺構

水路跡M101, M102, M106, M107, M109, M110, M113, M115, M117～M119, M122, M123, M141, M144, M148, M150, M154, M157～M159遺構 (PL.4, 133～137)

江竜川に面する調査範囲の東端で、3本の旧河道と2条の道路跡そして多くの水路跡が重なっていた。

旧河道M202は、最大上幅11m深2.4mで北東から南西方向にほぼ直線状に80mほどを検出した。浅間B軽石の降下以前に形成されるが、降下後もまだ流れていた。1.黒褐色シルト質土 砂多く含む 2.浅間B軽石 3.黒色粘質土 下層では砂互層

水路跡M018, M151は、早い時期にこの河道から水を引いたと思われる。遺物は、最下層から須恵器坏(2110)・土師器碗類(2104, 2118)・同坏類(2109, 2108)及び円筒埴輪(2247)が出土。その他に猿投灰釉碗(1888)・須恵器碗(2103, 2111)・同陶質の坏(2107)・同埴(1912)そして土師器模倣坏(2106)が見られた。なおB軽石直下で刻書のある須恵器碗(2105)が出土。古墳時代後期から11世紀まで、この河道に沿った生活があったと思われる。

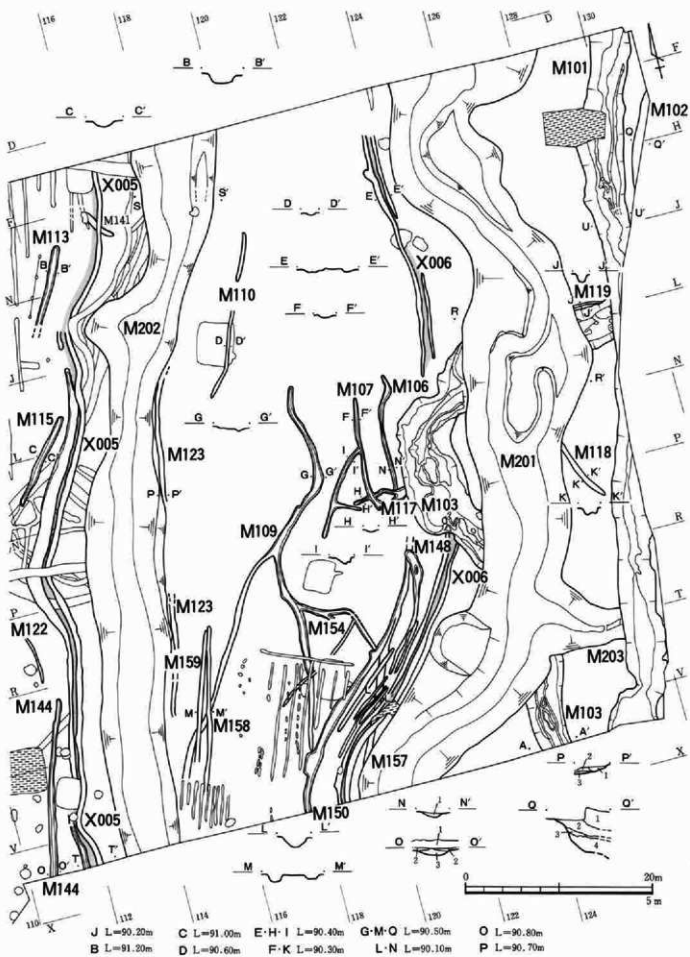
旧河道M201は、最大上幅14mで蛇行しながら延長90m以上北東から南西に向かって流れる。南側で上幅3mのM203が東から合流している。何回も流れの強弱があったことが埋土より見られた。1.黒褐色粘質土 砂含む 2.灰黄褐色シルト質土と砂互層 3.灰黄褐色シルト質粘土 4.砂礫と砂・シルト質土互層 5.砂礫とシルト質土塊の混在土 6.砂礫 4層より古代土器出土。また1層の上に浅間B軽石の堆積がM202と同様に見られ、その前後の時期は併存していたと思われる。遺物は、最下層より土師器坏(2117)が、その上から美濃灰釉碗(1889)・土師器壺(2112, 13)・同坏(2116)が見られた。2116には墨痕がある。9世紀頃が中心のため、M202より流入開始は新しい。

旧河道M103は、最大上幅6mで東から来て直角に南に延長60mほど流れる。旧河道M101及びM201より古い。新旧2回の流れが見られる。1.耕作土 2.褐色砂質土 3.にぶい黄褐色シルト質土 4.黒褐色粘質土 5.細砂 6.粗砂 7.黄褐色細砂 8.砂礫 9.明黄褐色粘質土 10.黄褐色細砂 11.黒褐色シルト質土 12.細砂 13.礫 遺物は出土層位の記録はとれなかったが、土師器坏類(2140, 41, 44)・同高坏(2150, 51)・同壺類(2168, 42, 43, 46～49)・同壺(2145)・同器台(2152)がある。いずれも著しく摩耗していた。そのため、古墳時代前期から後期の河道で、上流には同時期の集落と古墳があった可能性が高い。

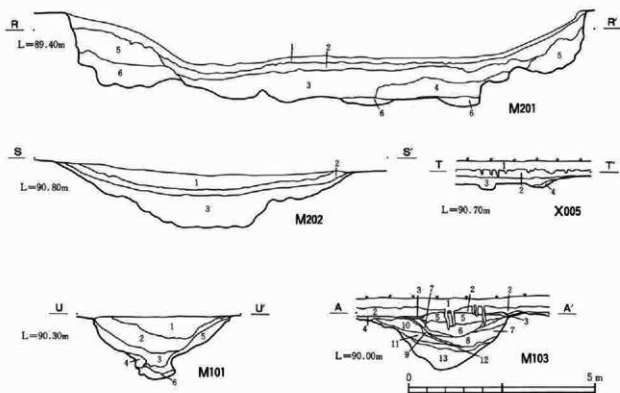
水路跡M101は、調査範囲の東端で上幅約4m深1.6m断面V字形で、ほぼ南北に直線で70m流れる。人為的に埋められている。1.黒色粘質土 にぶい黄褐色土塊含む 2.灰白色シルト質土 砂含む 3.褐色砂質土 灰白色土塊含む 4.にぶい黄褐色粘質土塊 5.褐色シルト質土 砂含む 6.砂礫互層 M102 1.耕作土 2.褐色砂質土 砂含む 3.明褐色砂 4.灰黄褐色砂質土 砂礫含む すぐ東に水路跡M102の肩のみを検出した。M101の東10m強で江竜川の現在の河道が、ほぼ平行して流れている。

遺物は、古代の美濃灰釉碗(1914)・同碗(2131)に古墳時代の土師器壺類(2133, 34)・同壺(2139)・同高坏(2135)・須恵器壺(2132)・同埴(2138)・埴輪片(2136, 37)が見られた。古墳時代のものは全て摩耗しており、重なる旧河道M103からの混入だろう。10世紀末～11世紀の使用と考えられる。

道路跡X005は、旧河道M202の右岸に平行して走っている。両側に上幅0.4mほどの浅い側溝があり、路面幅は約0.8mで、70mほど走っている。硬化面は確認されていない。1.耕作土 2.暗褐色粘質土 3.黒褐色砂質土 4.黒褐色砂 水路跡M018より新しく、区画溝M013より古い。堅穴住居J156及び水路跡M151との関係は不明。土師器小皿(2162)・同坏(2165)が側溝より出土。9世紀頃から浅間B軽石の降下前後が主な使用時期と思われる。



II 調査成果



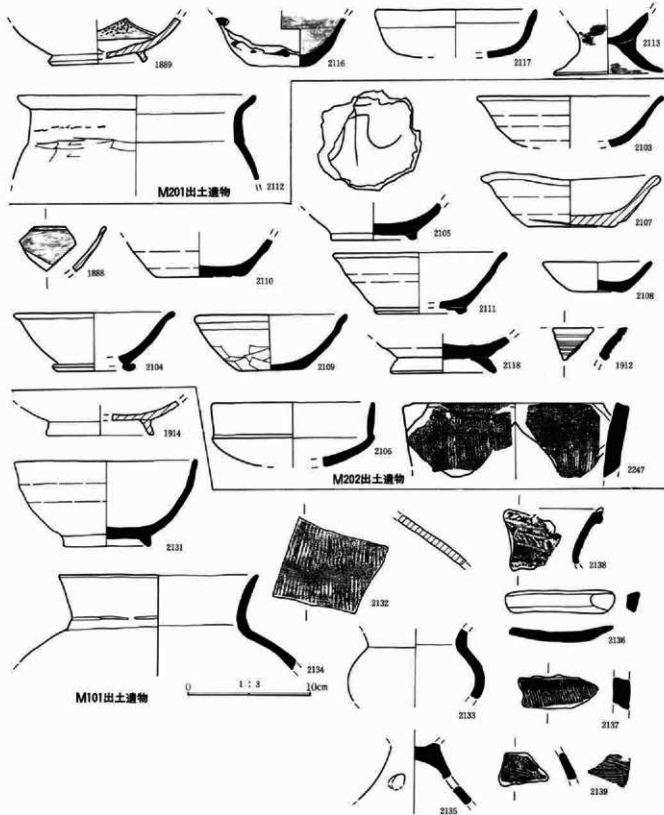
道路跡X006は、旧河道M201の右岸に平行して走っている。規模はX005とほとんど同じで両側溝含めて幅は最大1.6mである。やはり硬化面は未検出。土坑D209(P.217)より新しく、西側側溝は水流痕がある。旧河道M013及び水路跡M157より新しい。時期は、M201と併向するだろう。

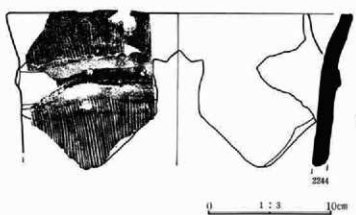
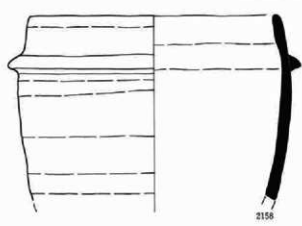
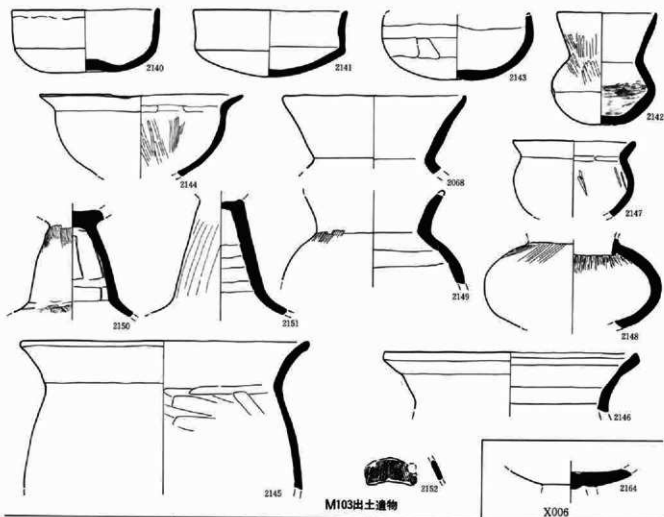
旧河道M202西側には、ほぼ同走向で上幅1m弱深0.2m弱の水路跡として、M113, M115, M122, M141, M144がある。M141は道路跡X005より古く、M115は水路跡M018より新しく、M144と水路跡M151の関係は不明。少なくともM144には水流痕がある。1.暗褐色砂質土 2.暗褐色砂 3.褐色砂質土 砂含む M144より土師器羽釜(2158)と円筒埴輪(2244)が出土するが、10世紀頃か。その他は、M141を除いて道路跡X005と似た時期だろう。

旧河道M201とM202の間には、やはり上幅1m弱深0.2mの水路跡として、M106, M107, M109, M110, M117, M123, M148, M150, M154, M157, M158, M159がある。このうち、M109とM107は両側でいくつか分岐している。M123は浅間B軽石の降下より新しい。M110は堅穴住居J151より新しい。M158, M109, M154は畠跡N104-106より古い。M157は道路跡X006より古い。少なくともM106とM123には水流痕がある。M106 1.暗灰黄色砂質土 砂含む M123 1.浅間B軽石含む砂 2.にぶい黄褐色砂質土 3.浅間B軽石屈曲するM109は、堅穴住居J154とJ155を意識して分岐しているようである。いづれも湿地の排水路ではないだろうか。

旧河道M201の東側には、重複して水路跡M118とM119がある。上幅0.2-0.4m深0.1-2mと小規模である。

3 東側部分





M114出土遺物

0 1 : 3 10cm

掘立柱建物跡 J 0 0 1, J 0 0 2, J 0 4 0 遺構 (P.194図 PL.137,138)

畠跡N021、N022、N023の下から検出されたもの。

建物跡 J002は、畠跡N021の下に位置し、東西2.6～2.7m南北3.0～3.3mの規模で、面積は8.3㎡となる。2×2間の南北走向の総柱建物である。柱穴は径0.3m深0.2m程度で、柱間距離は南北辺が1.3～1.6m東西辺が1.2～1.4mを測る。

単独の小規模な建物だが、周辺にまだピットがあるため、他にも建物があった可能性は残る。同一走向の他の遺構は、この周辺では西に15m離れた水路跡M001がある。それ以外には時期を想定する資料がないため、それらと近い12～15世紀のものと考えたい。

建物跡 J001は、畠跡N022の下に位置し、短辺4.1m長辺5.0～5.4mの規模で、面積は21.3㎡となる。2×3間で長辺の走向は、北東から南西となる。柱穴は径0.2～0.3m深0.1～0.3mで、柱間距離は長辺が1.6～1.7mが大部分であるのに対し、短辺は1.6mと2.6mに別れる。そのため、短辺中央の柱穴が棟筋とするなら、南東側への張り出しがかなり大きい。

長辺の走向を南西に10m少し延ばすと、ほぼ同一走向の掘立柱建物J004に至る。J004と重複するJ003も含めて、同一の時代の建物群と考えられる。

この長辺の走向は、北西側の水路跡M003及び南東側の水路跡M018の流れにかなり似ている。そのため、それらの水路跡の使用時期である10,11世紀の建物群とするのが自然であろう。

欄柵 J040は、畠跡N023の東側下面に位置し、全長6.5mで4個の柱穴より構成される。柱穴は径0.2m深0.1～0.2mと小さい。柱間距離は、2.0～2.3mである。

北北東から南南西への走向であるが、これは東側7mほどに流れている旧河道M202に平行させたと考えるのが自然であろう。そのため、10,11世紀頃の遺構と想定できる。

掘立柱建物跡 J 0 0 3, J 0 0 4 遺構 (P.195図 PL.138)

共に畠跡N022の西側下から検出された。

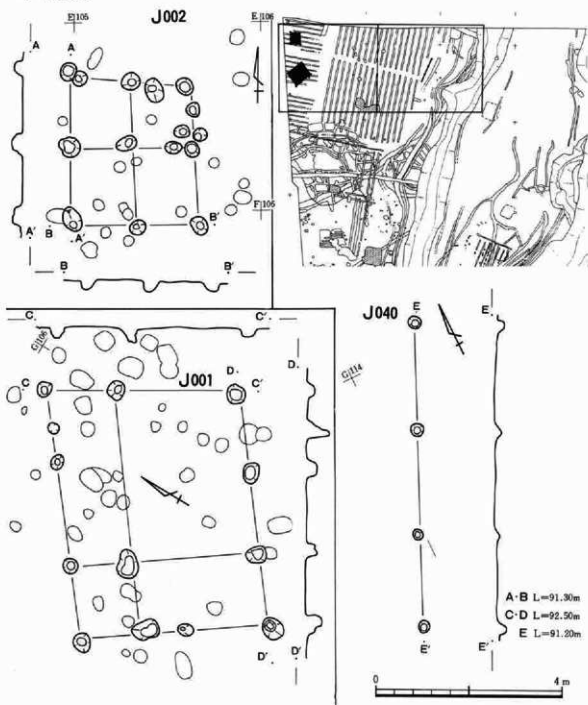
建物跡 J003は、短辺4.8～5.2m長辺6.7～7.0mの台形で面積は34.3㎡となる。2×2間で、長辺の走向は北東・南西だが、J004よりは南北方向にやや近い。柱穴は、径0.2～0.6m深0.2～0.3mで、柱間距離は長辺が3.3～3.8m短辺が2.1～2.8mを測る。

建物跡 J004は、短辺6.9m長辺6.8m以上の正方形か長方形で、面積は47㎡以上と考えられる。北東側が現存道路のため調査できなかったが、1×2間以上の主屋の南東側に庇が付いた形で、それに建替え重複の柱穴が出ていると推定される。長辺の走向は北東・南西である。柱穴は、径0.3～0.4m深0.2～0.4mを測り、柱間距離は短辺が主屋4.4m庇2.4m、長辺は2.7mが中心でそれに3.3～3.5mも見られる。

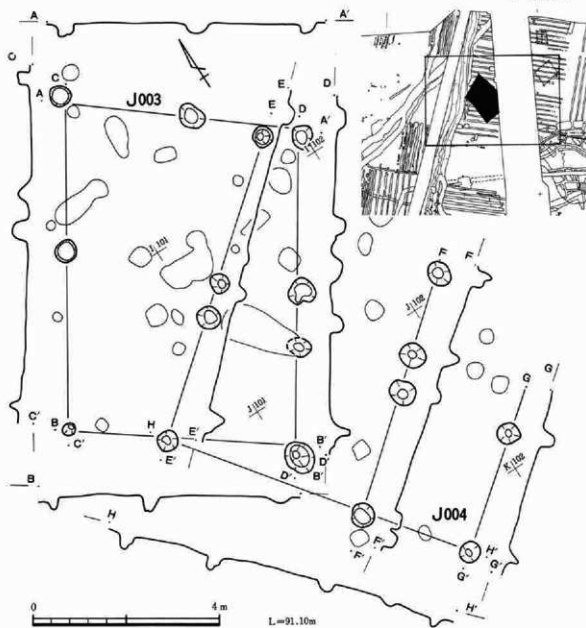
重複するJ003とJ004の新旧関係は不明で、また周辺には他にも柱穴があるため、さらに多くの建物が重なっていた可能性がある。

走向は、J001を含めて前述のように水路跡M003及びM018と同様であり、10,11世紀頃と想定できる。その内、J004が最も中心的な建物であろう。

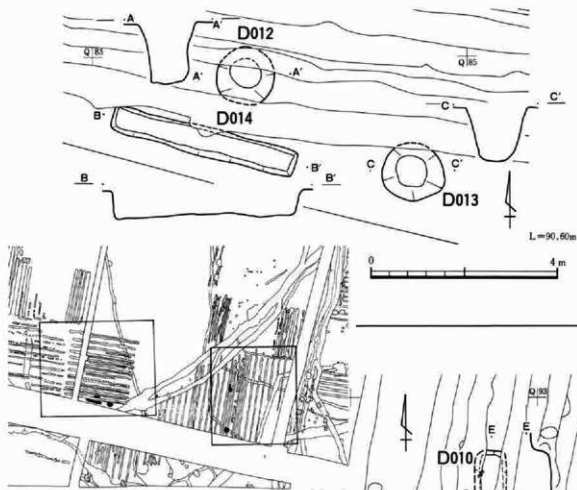
II 調査成果



3 東側部分



II 調査成果



短冊形土坑D014遺構

円形土坑D012,013遺構 (PL.139)

畠跡N005の下から検出された。

短冊形土坑D014は、長4.0m幅0.5m深0.5mを測る。単独で確認されたが、南側は現存道路で未調査のため、他にも同様のものがあった可能性は残る。

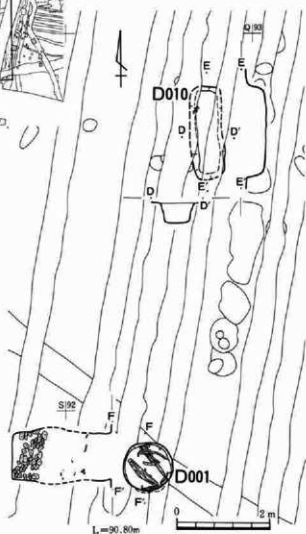
円形土坑D012は上径1.2m底径0.7m深1.2m、同D013は上径1.3m底径0.6m深1.1mである。井戸跡の可能性もある。

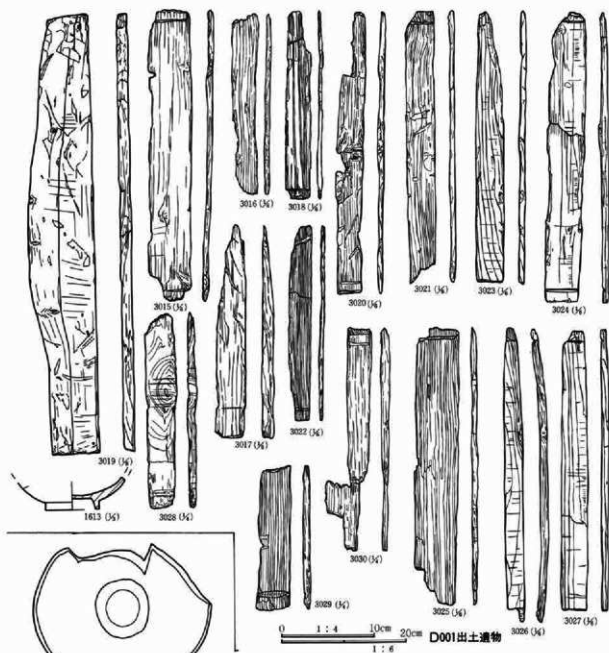
共に19世紀前半以前のものであろう。

井戸跡D001遺構 短冊形土坑D010遺構 (PL.139,140)

共に畠跡N004の下から発見された。

井戸跡D001は、上径1.0m底径1.0m深2.3m底海拔88.7mである。下位に崩落痕がある。

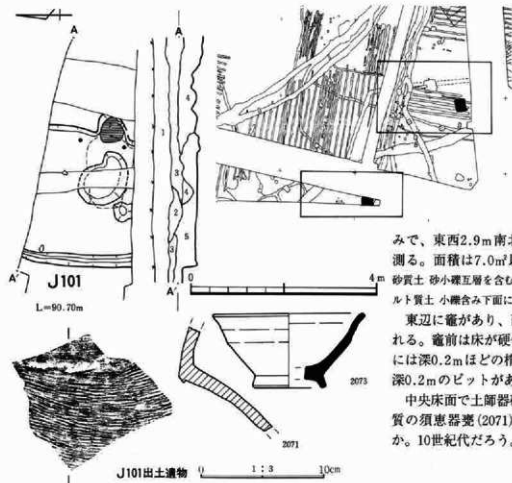




深0.6~1.0mの間に多量の板材が投棄され、また深1.5mから底までには、礫が投入されていた。

遺物は、肥前陶器灰釉碗(1613)があり、15点の板材はいずれも両端に狭いアテ痕があるスギ材で、長30~45cmほどのものが多い。これらの板材は箱形容器の部分と考えられるが、検出状態は雑然と投棄された感じで、井戸枠には見えなかった。水路跡N009より新しい。18世紀の使用である。

短冊形土坑D010は、長2.0m幅0.7m深0.4mを測る。人為的な埋土である。1.暗褐色砂質土 黄褐色土塊含みまじりない 口縁が大きく歪み墨書がある須恵器碗(2092)が出土したが、混入であろう。やはり18世紀代の遺構と推定される。



竪穴住居跡 J101遺構 (PL.140,141)

東側は水路跡M001に壊され、北側は現存道路で南側は調査範囲外になり、さらに中央は未命名の水路跡に切られる。調査は中央部の

みで、東西2.9m南北2.4m以上深0.3mを測る。面積は7.0㎡以上。1.新作土 2.暗褐色砂質土 砂小礫互層を含む 3.暗褐色砂質土 4.褐色シルト質土 小礫含み下面に砂層 5.黒褐色粘質土

東辺に竈があり、西辺壁際に周溝が見られる。竈前は床が硬化しており、その床下には深0.2mほどの楕円形の土坑と径0.4m深0.2mのピットがあった。

中央床面で土師器碗(2073)が出土。陶器質の須恵器甕(2071)は埋土中のため混入か。10世紀代だろう。

竪穴住居跡J103遺構 (PL.140,141)

畠跡N002の下より検出。南北3.0m東西2.5m深0.2mほどで北東角が0.3m東へ張り出す。面積は約7.7㎡。1.暗褐色粘質土 2.褐色粘質土 黄褐色シルト土塊含む

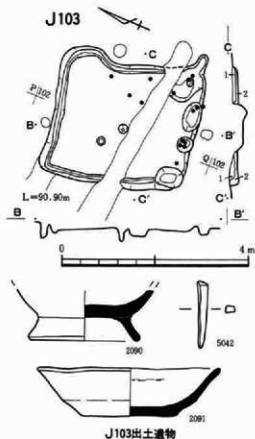
南東角に竈があり、南を除く三辺では周溝が確認された。中央に上径0.2m深0.3mの柱穴があり、その延長線上の壁外にやや浅い柱穴がある。南辺には壁際に深0.2mほどの掘込みが3箇所見られた。

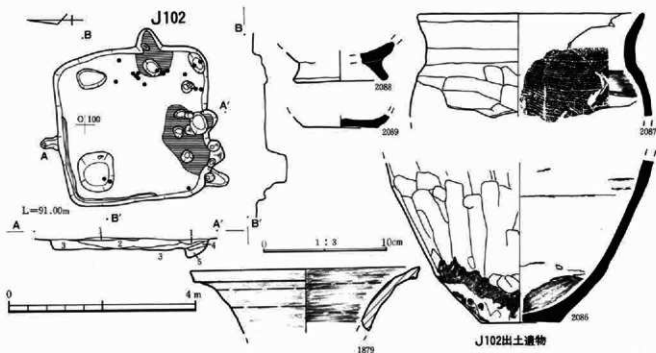
竈付近で土師器高足碗(2090)、南壁際掘込み中で同坏(2091)が見られた。鉄釘(5042)は確認面近くで混入だろう。11世紀代か。

竪穴住居跡J102遺構 (PL.141,142)

畠跡N022の下で竪穴住居跡J103の北西6mの位置で確認された。水路跡M013に切られるが、残存状態は良好。東西3.0~3.2m南北3.0~3.3m深0.2mの規模のやや台形ぎみの方で、面積は約9.8㎡。

1.擾乱 2.暗褐色粘質土 3.褐色粘質土 炭化物含む 4.黒褐色粘質土 浅間C軽石多く含む 5.褐色粘質土 地山塊含む 竈は東辺南よりと南辺西よりの2箇所があり、前者が最終使用されていた。北西角に0.7×0.7×0.5mの方形の貯蔵穴があり、周溝も見ら

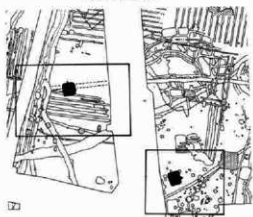




J102出土遺物

れた。南辺壁際には深0.1~0.2mのピットが5個弧状に並ぶが、柱穴とは決めにくい。同様の深さだが、北辺の壁外と南辺中央の壁にかかるものが、位置的に柱穴の可能性を考えられる。

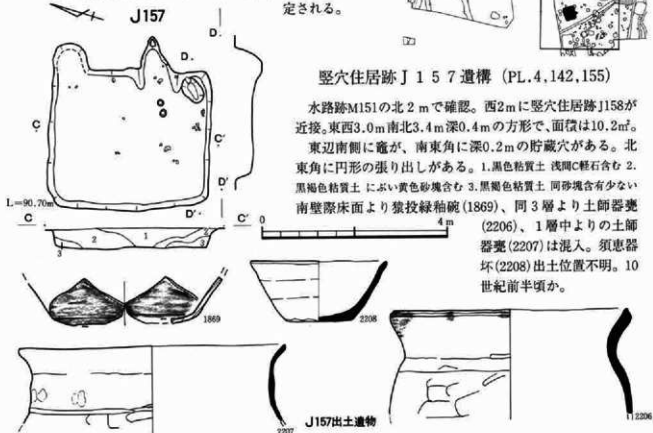
埋土3層から須恵器坏(2089)・土師器高足碗(2088)・同甕(2086)が出土。2層と新甕から土師器甕(2087)そして美濃灰軸壺(1879)は1層で混入。11世紀頃と推定される。



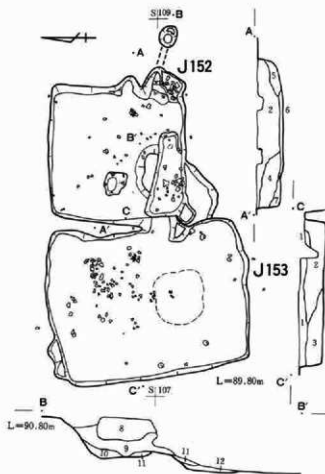
竪穴住居跡J157 遺構 (PL.4,142,155)

水路跡M151の北2mで確認。西2mに竪穴住居跡J158が近接。東西3.0m南北3.4m深0.4mの方形で、面積は10.2㎡。

東辺南側に竈が、南東角に深0.2mの貯蔵穴がある。北東角に円形の張り出しがある。1.黒色粘質土 浅間C軽石含む 2.黒褐色粘質土 ぶい黄色砂埃含む 3.黒褐色粘質土 同砂埃含有少ない 南壁際床面より猿投緑釉碗(1869)、同3層より土師器甕(2206)、1層中よりの土師器甕(2207)は混入。須恵器坏(2208)出土位置不明。10世紀前半頃か。



J157出土遺物



竪穴住居跡 J152, J153遺構
(PL.4, 142~144, 146)

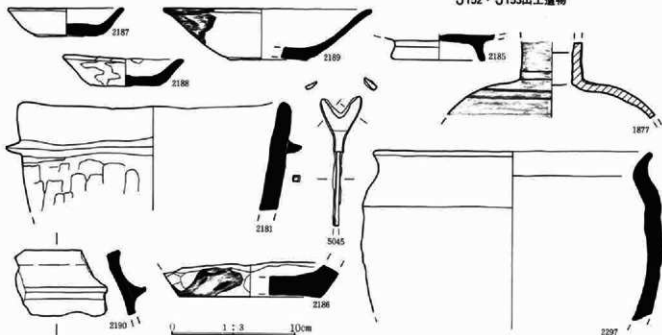
畠跡N107の下で確認された。東側のJ152が古く、西側のJ153が新しい。南側には浅い攪乱があった。

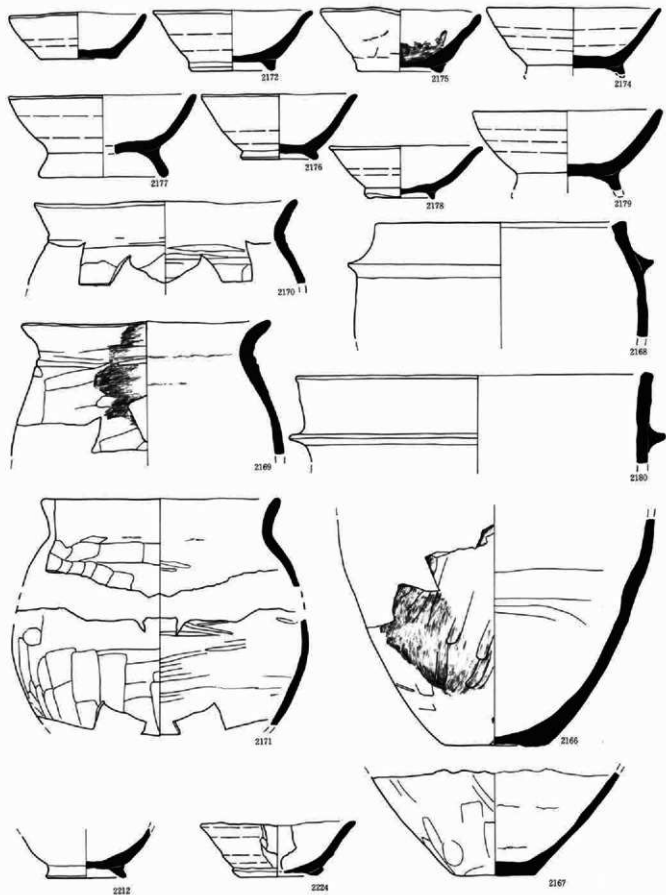
J153は、東西3.0m南北4.3m深0.5mの長方形で、北東角がやや膨れる。面積約12.3㎡。東辺南寄りに竈があり、2mほど掘り方が伸びる。調査時には新旧関係を誤ったため検出は不良。また竈前には径

1m深0.2mの隅丸方形の掘り方土坑がある。柱穴類は検出できなかった。

J152は、東西2.9m南北2.9m深0.5mの正方形で、面積は8.4㎡。東辺南寄りに竈があり、煙道が1.2mほどトンネル状に伸びた状態で検出された。焚き口右側はテラス状になっている。床中 (続P.202)

J152・J153出土遺物





J153出土遺物

0 1 : 3 10cm

II 調査成果

(P.200より) 央西寄りには径0.5m深0.25mのピットがあるが、柱穴かは不明。

1.オリーブ黒色粘質土 浅間C軽石含む 2.黒褐色粘質土 浅間C軽石含む 3.暗オリーブ褐色粘質土 黄褐色砂塊含む 4.褐灰色粘質土 小礫・砂塊含む 5.黒褐色粘質土 灰焼土炭化粒含む 6.黒褐色粘質土 砂含む 7.褐灰色粘質土 黒褐色土塊・小礫含む 8.地山黒色粘質土 9.黒褐色粘質土 焼土多く含む 10.暗赤褐色粘質土 焼土含む 11.焼土塊 12.黒色灰

遺物は比較の出土量が多いが、大部分はそれぞれの廃棄後に投棄されたものである。また、前述のようにJ153の竈を調査時にJ152の一部として掘ったため、遺物の扱いがやや混乱した。それを整理すると次のようになる。

J153の竈からは、土師器皿類(2187~89)・同羽釜(2181,90)また竈右前の3層中より同碗類(2175,78,79)・須恵器碗(2172)、そして中央やや東寄りからは2層中より土師器杯(2173)、1層中より土師器碗類(2174,76,77,2212,2224)・同壺羽釜類(2166~71,80)が見られた。羽釜(2190)はJ152の可能性もある。

J152では、竈脇のテラスに焼成不良の土師器壺(2297)が見られた他は、いずれも2層中より土師器高足碗(2185)・同壺(2186)・猿投灰釉瓶(1877)・鉄鉢(5045)が検出された。

以上の中で1・2層から出土したものは、いずれも竈穴廃棄後の投棄遺物だが、それは浅間B軽石の降下で埋没した重複する島跡N107よりは古い時期のものである。そのため、やや混乱はあるが、J153は11世紀代、J152はそれよりやや古い10世紀後半頃と考えたい。

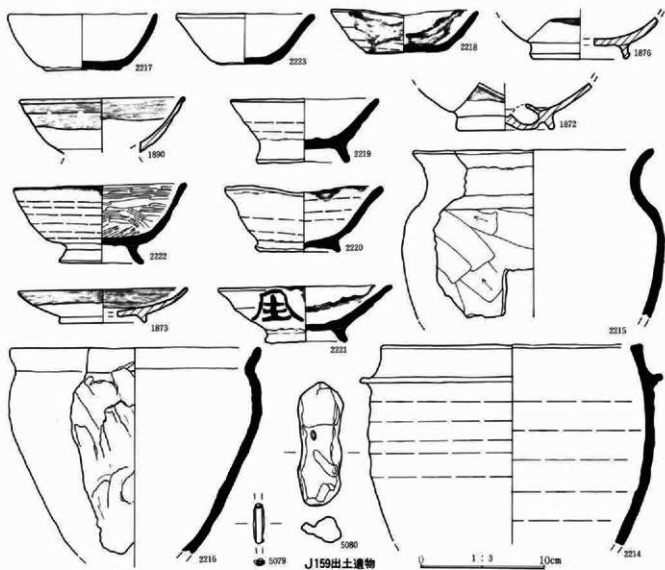
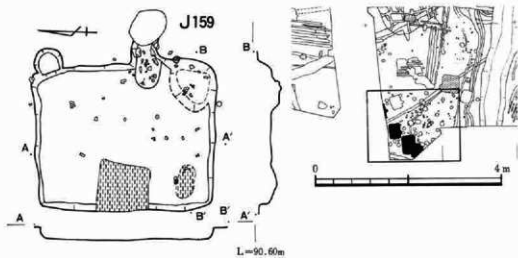
竈穴住居跡J159遺構(PL.4.145)

水路跡M151の南1.5mで確認された。南東側0.5mで竈穴住居J160が北西側2.0mで同J158が近接する。また円形土坑D239が中央でD252が竈脇で重なり、この竈穴より新しい。

東西3.1~3.2m南北3.8~3.9m深0.25mの長方形で、面積12.1㎡。北東角に径0.6mの浅い円形部分があるが、張り出しかは不明。南東角に径0.8m深0.2mの貯蔵穴がある。柱穴は不明。埋土状態は、水平に上下2層が堆積していたが、土質の記録はできなかった。

遺物は、主に竈と貯蔵穴付近から出土した。下層からは、猿投灰釉碗(1890)・美濃灰釉皿(1873)・土師器杯(2217)・同皿(2221)・須恵器羽釜(2214)そして短冊形鉄製品(5080)が見られた。2221には墨書がある。上層からは、須恵器碗(2220)・黒色土器碗(2222)・土師器杯(2223)・同高足碗(2219)・同壺類(2215,16)そして竈穴壁外から猿投灰釉碗(1872)・土師器杯(2218)、また出土位置不明で猿投灰釉碗(1876)と棒状鉄製品(5079)が見られた。

以上のうち下層の遺物より、10世紀中頃の年代が考えられる。2221の風構え状の墨書については、まどめの高島論考(P.238)を参照されたい。短冊形鉄製品は摩耗しており、攪乱に接しての出土のため、混入の可能性もある。

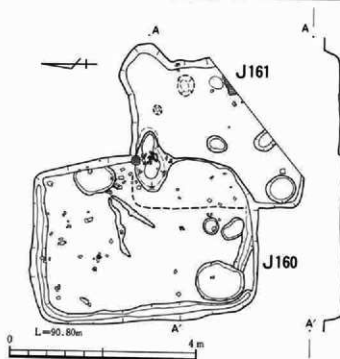
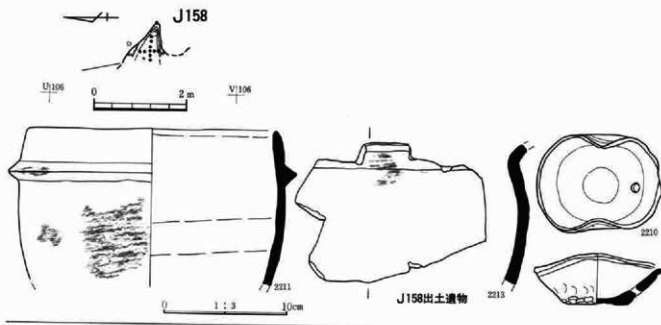


II 調査成果

竪穴住居跡 J 1 5 8 遺構 (PL.145,146)

竪穴住居跡 J157の西1.5m、J159の北西2.0mで東辺の竈先端部のみが検出された。中心部は現存道路のため、調査できなかつた。J159との間には、水路跡M151が走っている。

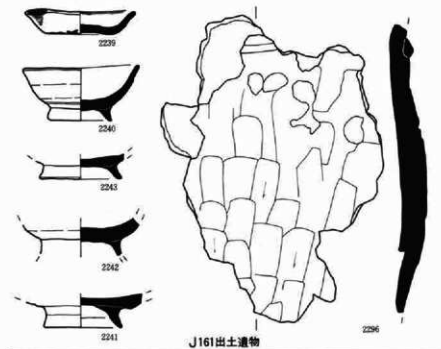
須恵器羽釜(2211)・阿曇(2213)・土師器有孔耳皿(2210)が見られた。10世紀後半頃か。



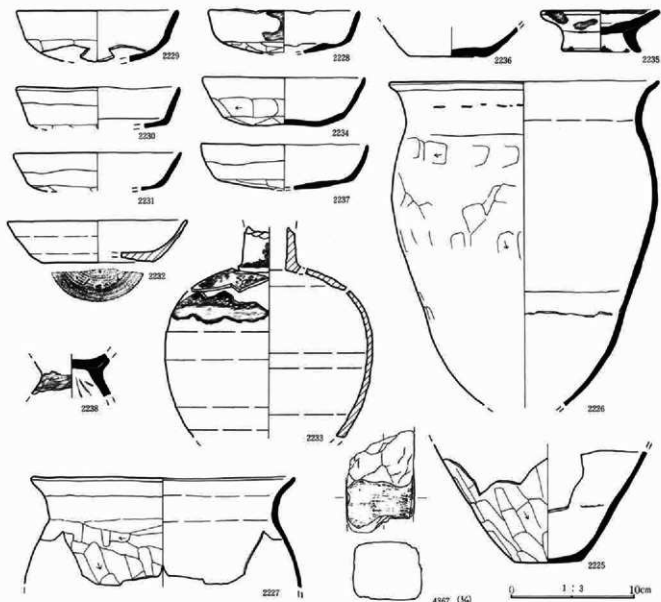
竪穴住居跡 J 1 6 0, J 1 6 1 遺構 (PL.4,146,147)

調査範囲南端の水路跡M143の1m北で重複して確認された。北西側で竪穴住居跡 J159、北側で水路跡M152と1m弱で近接している。円形土坑D266は、J160と北側で重なるが、関係不明。

北西側のJ160が古く南東側のJ161が新しいが、調査時には反対に誤認した。埋土は共に浅間C軽石を含む黒褐色粘質土。(続P.206)



J161出土遺物



J160出土遺物

II 調査成果

(P.204より) J161は、南東側が調査範囲外になるが、東西3.2m南北3.8m深0.35mの長方形で北東角に直径1mの半円形の張り出しがある。面積は、約13㎡。竈は調査範囲外にあるだろう。いくつかの浅い掘り込みが見られるが、柱穴とは考えにくい。張り出し部とは段差がない。

竈想定部分の前の床面で焼土と共に未焼成の土師器羽釜片(2296)が、見られた。また掘り方から土師器高足碗(2243)、床より10cm以内から同(2240~42)・同小皿(2239)が竈想定部分前面と西壁際で出土した。11世紀代と考えられる。

J160は、東西3.5m南北4.9m深0.4mの長方形で、面積は約17.2㎡。東辺中央に竈がある。竈は、J161に切られているため、基底部が検出されたのみである。

また東辺以外に周溝が見られる。南辺は壁からやや離れる。南辺中央内より径0.3m深0.2mの柱穴状のものが、その他に東辺に深0.2mと南東角に深0.15mなどの掘り込みがある。

遺物は、上記柱穴状の掘り込みから直方体の石(4367)が、床より10cm以内で西側中央で猿投灰軸壺(2233)が、竈左と北壁際で土師器杯(2228,31,34,37)そして竈内より同壺(2225~27)が見られた。また上層では須恵器杯(2236)と土師器高足小皿(2235)が混入している。埋土中で他に須恵器杯(2232)と土師器杯(2229,30)が出ている。以上により、9世紀代の時期が考えられる。

竪穴住居跡 J 1 5 4 遺構 (P.207 PL.147)

水路跡M109に半円形に北東以外を囲まれた範囲で確認された。最小2mの間があいている。

南西側で5cm程度の壁が検出されただけで、東側は僅かな掘り込みがあったにすぎず、北側は全く検出できなかった。そのため東西約3m南北3m以上で、面積は9㎡以上と推定される。1.灰黄褐色粘質土 2.暗黄褐色粘質土 1層塊が地山土と混在

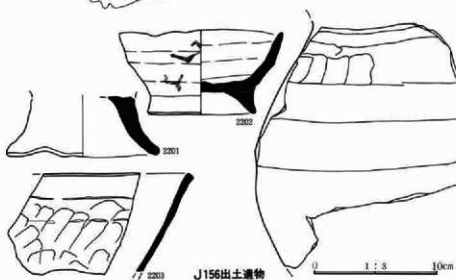
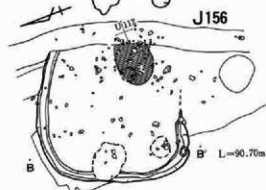
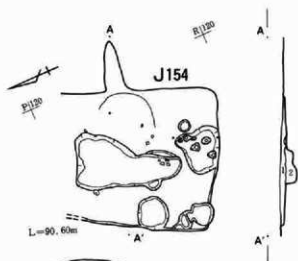
東辺に僅かに竈の突起した痕跡があったが、内部は深0.2~0.3mの不定形の床下掘り込みのみしか検出できなかった。竈前の床面より陶器質の須恵器甕(2196)そして床下より墨書のある土師器碗(2191)が、見られた。9世紀代と考えられる。

竪穴住居跡 J 1 5 6 遺構 (P.207 PL.147.148)

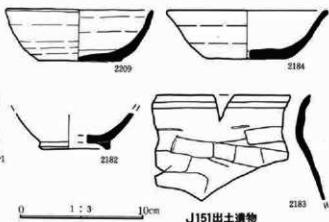
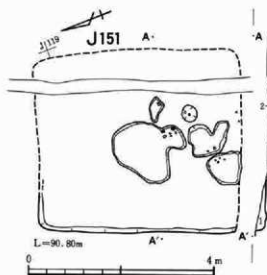
旧河道M202の右岸南約2m西で確認された。東側で道路跡X005に壊され、西側では水路跡M144と重なる。

東西3.0m以上南北3.2m深約0.3mで、面積は9.2㎡以上である。X005に切られた東辺に竈があったと思われ、焼土が散っていた。北辺から南西角まで周溝が検出されたが、やや深い床下の掘り込みを除いて、確実な柱穴などは検出できなかった。

陶器質の須恵器壺(2204)・土師器台付甕(2201)・同鉢(2203)・同高足碗(2202,05)が、いづれも床下の掘り込み中に散乱していた。11世紀代と考えられる。



II 調査成果

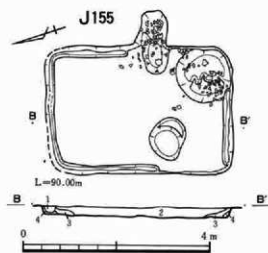


竪穴住居跡 J 1 5 1 遺構 (P.208 PL.148)
旧河道M202の左岸約2m東で確認された。水路跡

M110が東側を切っている。

僅かに西壁北西角が残っていただけで、正確な規模は不明だが、南北4.3m程度東西は3.5m以上かと推定される。そのため面積は、約15㎡以上だろう。1.黒色粘質土 2.黒褐色粘質土 焼土炭化物少量含む

不定形の5cm程度の浅い掘り込みがいくつか見られたが、そこから須恵器壺(2184,2209)・同瓶類(2182)そして土師器壺(2183)が検出された。9世紀代と考えられる。

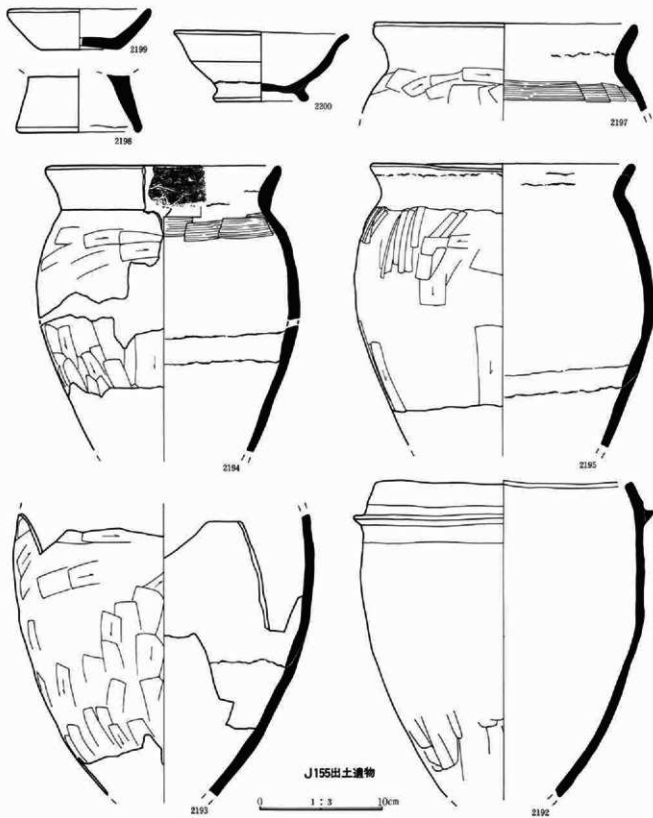


竪穴住居跡 J 1 5 5 遺構 (PL.148,149)

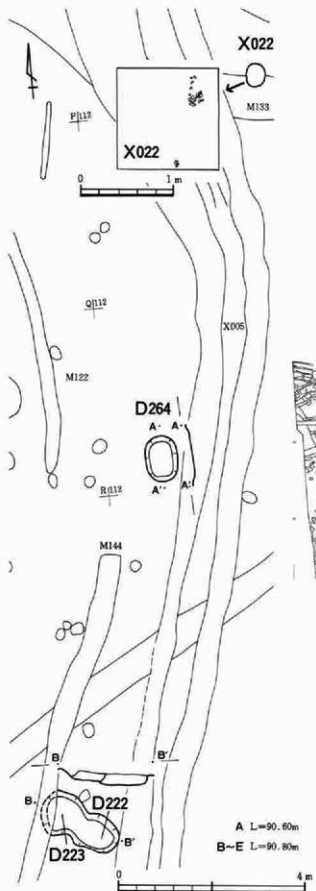
旧河道M201の右岸6m西で確認された。畠跡N105とN106の下で、水路跡M154及びM150と重なるが関係不明。西側1mを水路跡M109が走っており、同水路の分岐が北から東にも回っている点は、北に7m離れた竪穴住居跡J154と同様のあり方である。

東西2.8m南北4.0m深0.2mの長方形で、面積は11.2㎡である。東辺に竈が見られ、南西角を除いて周溝が回っている。南東角には径1.2m深0.3mの貯蔵穴がある。中央西寄りには床下の掘り込みがある。1.暗灰黄色砂質土 砂多く含む 畠跡N105埋土 2.黒褐色粘質土 浅間C軽石含む 3.にぶい黄褐色粘質土 砂少量含む 4.黒褐色粘質土 砂含む

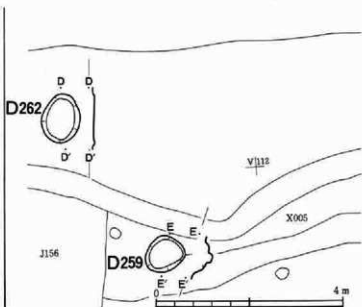
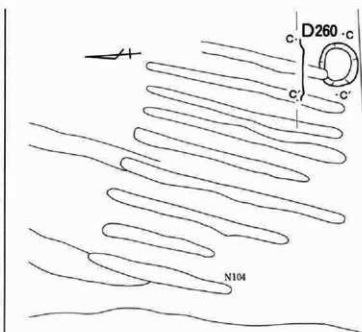
竈と貯蔵穴に散乱した状態で、須恵器羽釜(2192)・土師器壺類(2193-95,97,98)・同碗(2200)・同小皿(2199)が出土した。10世紀代と考えられる。

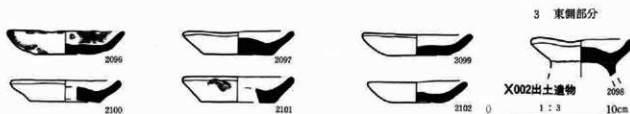


II 調査成果



A L=90.60m
B~E L=90.80m





小皿廃棄場跡X022遺構 土坑D222, D223, D264遺構
(PL.149,150)

小皿廃棄場跡X022は、旧河道M202の右岸2m西、道路跡X005の1m東で確認された。

水路跡M133の埋土中に7個体以上の粗製の土師器小皿(2096~2102)が集中して廃棄されていた。特定の掘込みなどは検出できず、M133の埋没土中にまとめて投げ捨てられた状態で出土した。

高台のある碗形の2098も含めてほとんど同型の小皿で、内外面に煤の付着していたものがいくつか見られる。深さに比べ底部がかなり厚手に作られ、口縁の歪みも大きい。

何らかの信仰儀礼に伴う廃棄場なのかは不明だが、最も近い竪穴住居跡からは20m離れている。11世紀代のものと考えられる。

土坑D222は、径1.2×0.7m深0.2mの楕円形で、道路跡X005に接する。それより新しい土坑D223は径1m深1.5mの円形で、水路跡M144より古い。埋土の記録はとれなかった。M144は11世紀後半以後であり、X005も同様であるため、これらの土坑は11世紀前半以前だろう。

土坑D264は、径0.9×0.7m深0.1mの楕円形で、道路跡X005に接する。顕著な特徴はない。

土坑D259, D260, D262遺構 (PL.149,151)

これらの土坑は、いずれも顕著な特徴も遺物もない。

土坑D259は、径0.8×0.7m深0.3mの不整形で底中央がピット状にくぼむ。道路跡X005と重なるが、関係は不明。

土坑D262は、D259の北東3mにあり、径1.0×0.8m深0.1mの楕円形である。

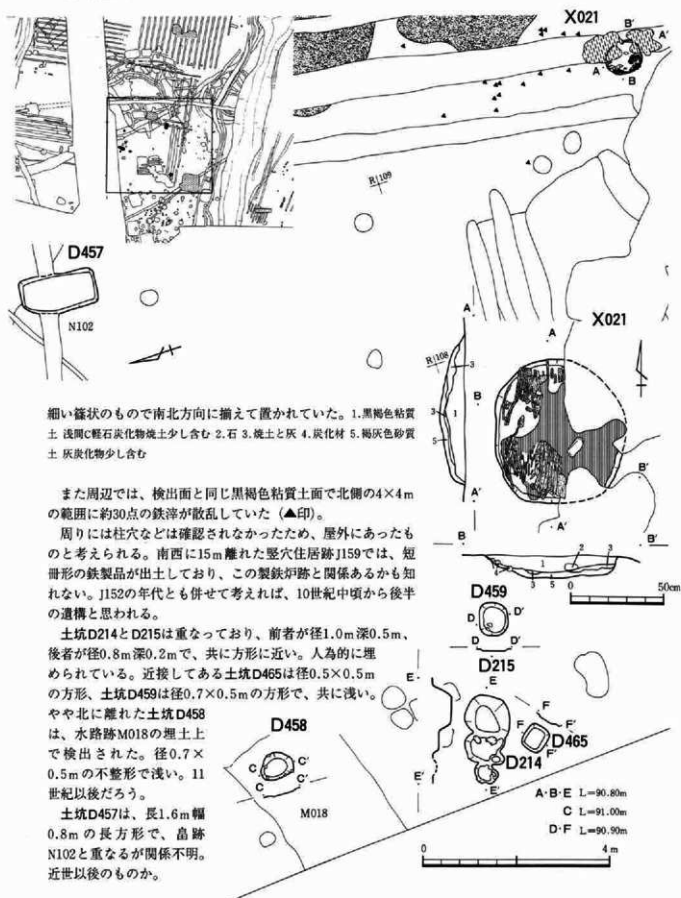
土坑D260は、畠跡N104の下から検出された。径0.9×0.8m深0.1mの楕円形。

製鉄炉跡X021遺構 土坑D214, D215, D457~D459,
D465遺構 (P.212図 PL.151)

製鉄炉跡X021は、畠跡N013の下で竪穴住居跡J152の東3.5mの位置で検出された。検出面は、J152と同様の浅間B軽石純層の10cmほど下の面である。

径0.8×0.7m深0.15mの楕円形の掘り込み内に、焼土とその下に炭化材層が見られた。炭化材は、

II 調査成果



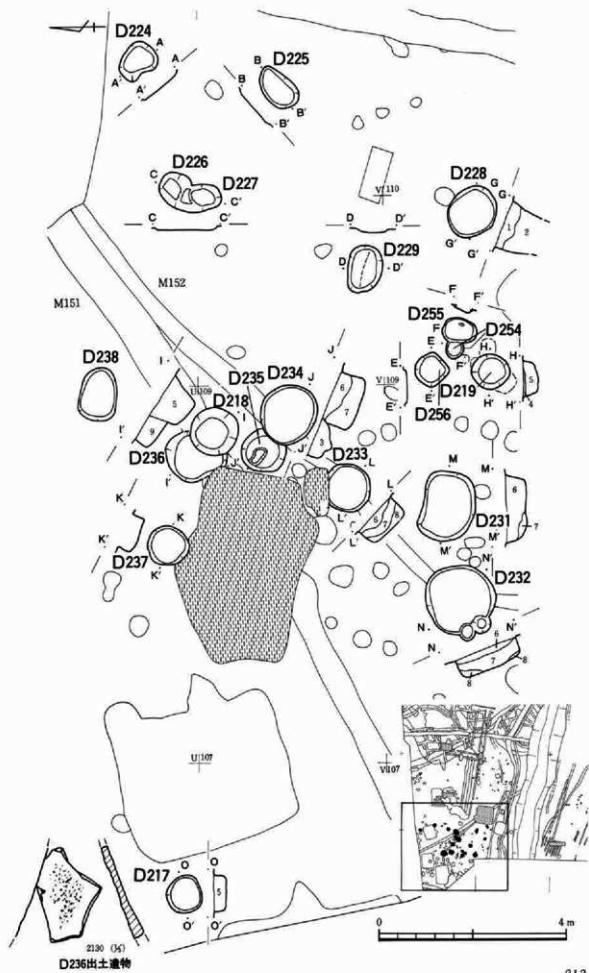
細い篠状のもので南北方向に揃えて置かれていた。1.黒褐色粘質土 浅間C軽石炭化物焼土少し含む 2.石 3.焼土と灰 4.炭化材 5.褐色砂質土 灰炭化物物少し含む

また周辺では、検出面と同じ黒褐色粘質土面で北側の4×4mの範囲に約30点の鉄滓が散乱していた(▲印)。

周りには柱穴などは確認されなかったため、屋外にあったものと考えられる。南西に15m離れた竪穴住居跡J159では、短冊形の鉄製品が出土しており、この製鉄炉跡と関係あるかも知れない。J152の年代とも併せて考えれば、10世紀中頃から後半の遺構と思われる。

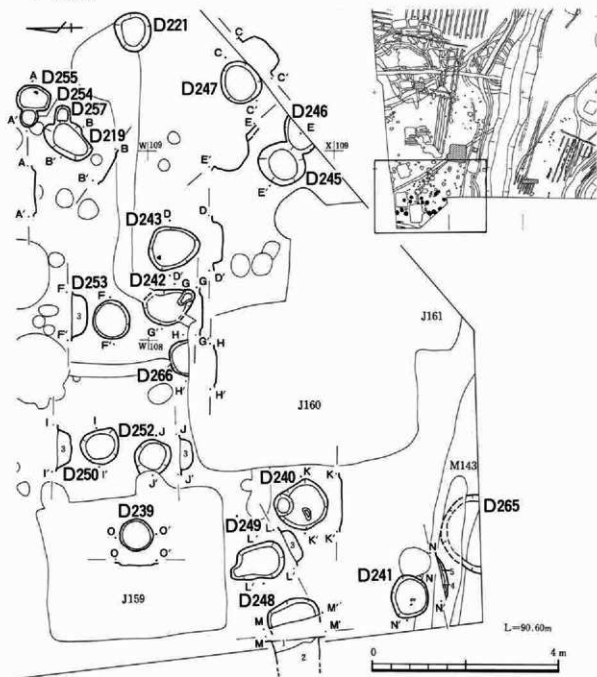
土坑D214とD215は重なっており、前者が径1.0m深0.5m、後者が径0.8m深0.2mで、共に方形に近い。人為的に埋められている。近接してある土坑D465は径0.5×0.5mの方形、土坑D459は径0.7×0.5mの方形で、共に浅い。やや北に離れた土坑D458は、水路跡M108の埋土上で検出された。径0.7×0.5mの不整形形で浅い。11世紀以後だろう。

土坑D457は、長1.6m幅0.8mの長方形で、畚跡N102と重なるが関係不明。近世以後のものか。



D236出土遺物

II 調査成果



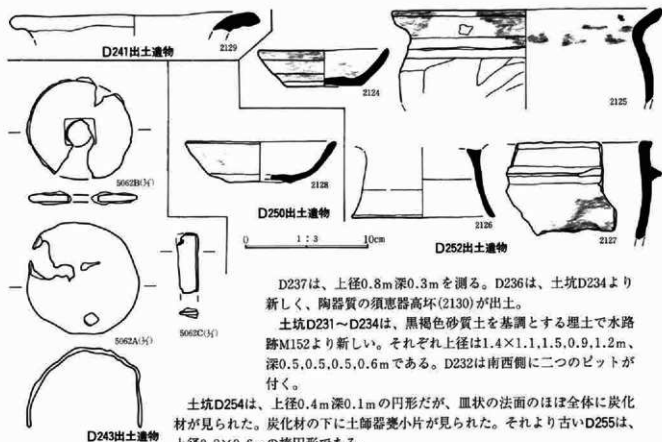
井戸跡D228遺構 土坑D217～19, 24～27, 29, 31～38, 54～56遺構 (PL. 152～154, 158)

旧河道M202と堅穴住居群の間に群集する井戸跡と土坑群の北側部分である。(P. 213図)

井戸跡D228は水路跡M144の西3m、堅穴住居跡J161の北東8mで確認された。上径1.2×1.0mを測り、深0.8mで湧水層にあたって、それより下は調査できなかった。明確な時期は不明だが、周辺の堅穴住居跡群に伴うものと考えられ、9～11世紀の年代が想定できる。

土坑D217～D219は、いづれも円形土坑で、それぞれ径0.8, 1.0, 0.8m深0.2, 0.7, 0.3mを測る。共に浅間B軽石が埋土の大部分となっており、軽石降下直前に使われていた。D217は堅穴住居跡J157とJ158の間にあり、D218は水路跡M151及び土坑D236より新しい。D219は土坑D257を切る。

土坑D235～D237は、浅間B軽石降下以前に埋没したが、11世紀前半の水路跡M151及びM152より新しい円形土坑である。D235は上径1.2m深0.4m、D236は上径0.9m深0.5mで底は平らでない。



D237は、上径0.8m深0.3mを測る。D236は、土坑D234より新しく、陶器質の須恵器高坏(2130)が出土。

土坑D231～D234は、黒褐色砂質土を基調とする埋土で水路跡M152より新しい。それぞれ上径は1.4×1.1、1.5、0.9、1.2m、深0.5、0.5、0.5、0.6mである。D232は南西側に二つのビットが付く。

土坑D254は、上径0.4m深0.1mの円形だが、皿状の法面のほぼ全体に炭化材が見られた。炭化材の下に土師器甕小片が見られた。それより古いD255は、上径0.8×0.6mの楕円形である。

その他の土坑D224～D227, D229, D238, D256は、いずれも浅く形状も不整形である。D225から土師器甕胴部片、D227から同坏口縁片、D238から同胴部片の小片が見られた。古代のものだろう。

1.黒褐色粘質土 2.黒色砂質土と明褐色砂質土の混在土 しまりなし 3.黒色粘質土 浅間C軽石多く含む 4.黒褐色砂質土 浅間B軽石多く含む 5.浅間B軽石 上面は黒色土が混じる 6.黒褐色砂質土 7.黒色砂質土とにぶい黄色粘質土の混在土 8.黒褐色砂質土 にぶい黄色粘質土を含む 9.黒色粘質土 浅間C軽石含む

井戸跡D248遺構 土坑D219, 21, 39～43, 45～47, 49, 50, 52, 53, 57, 65, 66遺構 (P.214図 PL.155～158)

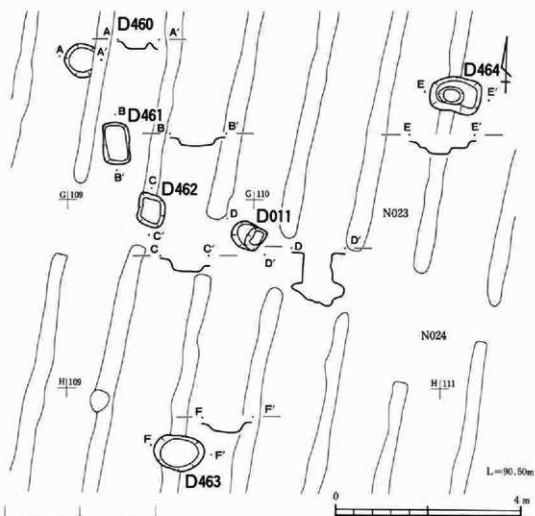
旧河道M202と竪穴住居群の間に群集する井戸跡と土坑群の南側部分である。

井戸跡D248は、竪穴住居跡J159の南僅か1mで検出した。現存道路にかかるため一部しか掘れず、少なくとも上径1.0m深0.5m以上である。人為的に埋められている。距離的に見れば、J159との共存は考えにくい。

土坑D241とD265は、浅間B軽石で埋没した水路跡M143に壊されて検出された。前者は径0.9m深0.1mで焼成穴と思われるが、土師器甕(2129)が出土。後者は径1.6mである。共に11世紀代と考えられる。

竪穴住居跡J159とJ160の間で検出された土坑D250, D252, D253, D248は、共に同一の埋土である。前3者は径0.7m深0.3mであり、D248は径1.2×0.7mの不整形である。D252はJ159より新しく、須恵器羽釜(2127)・同脚部(2126)・土師器甕(2125)・同坏(2124)が出土。隣接するD250からは、土師器坏(2128)が見られた。11世紀代のものになる。

他に径0.7～1.0mの円形土坑としてD239, D240, D245, D246, D247, D266がある。このうち、D239はJ159より新しい。D266とJ160の新旧関係は不明で、D245はJ161の張り出し部にほぼ接している。これらは、そのため11世紀代のものとして少し古いものが混在していると思われる。小片では、D240から須恵器甕胴部と土師器碗体部、D247から須恵器碗体部と土師器碗甕類体部が見られた。



土坑D243は、上径1.1×0.9m深0.2mの楕円形で、鉄鈴(5062A)・鉄刃物(5062C)・鉄銭(5062B)が出土。18世紀後半の埋納土坑と思われるが、詳細は不明。

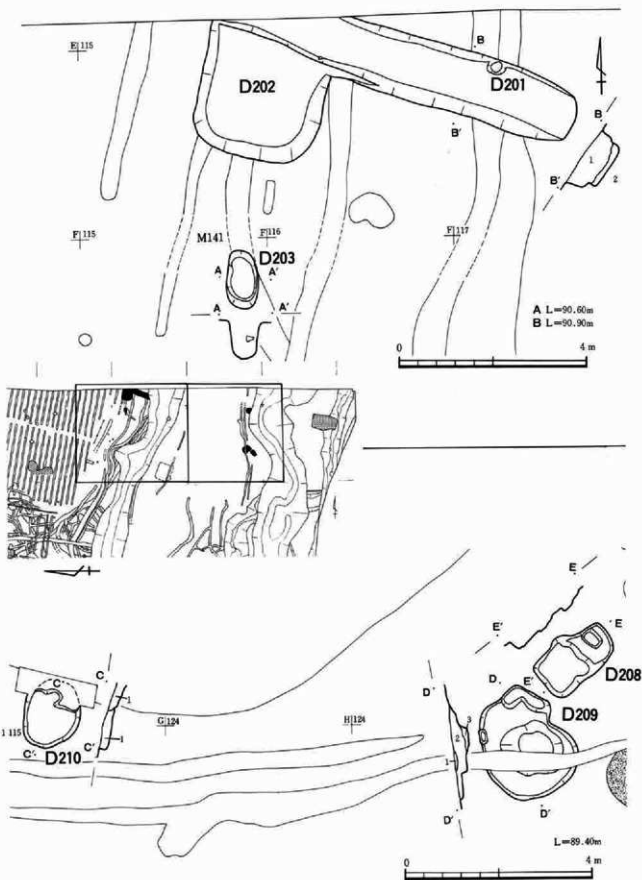
土坑D219, D221, D242, D257は不整形で、詳細は不明。D242から土師器壺口縁小片が出ている。1.黒褐色粘質土 しまりなし 2.黒褐色粘質土 明黄褐色粘質土塊混在 人為的埋土 3.黒色粘質土 浅間C軽石炭化物焼土にふい黄褐色砂質土粒を含む 4.黒褐色粘質土 5.4層と炭化物の混在土

以上のようにこの周辺では、11世紀代から12世紀初頭を中心とする円形土坑が群集しているが、特定の用途を想定させる遺物は見られず、また配置も規則性は伺われない。

井戸跡D011遺構 土坑D460～D464遺構 (PL.158)

畠跡N023とN024の下から発見された。井戸跡D011は、上径0.6m深1.2m湧水層は海拔90.70mである。西側の掘立柱建物跡のJ002まで17m、J001まで15mの距離である。中世以前のどちらかの掘立と関係するものだろう。

土坑D460～D464も畠跡の下から検出された。長径0.6～1.0m深0.2m程度で、形状は長方形がD461, D462, D464、楕円形がD460, D463である。遺物は見られず、他に顕著な特徴は不明である。



II 調査成果

土坑D201～D203遺構 (P.217図 PL.159)

畠跡N023の東端の下で旧河川M202の右岸で検出された。

土坑D201は、上幅1.4m下幅1.0m深0.6m長8m以上の長い長方形で、北西から南東に向けてM202の岸まで走る。1.褐色砂質土 浅間B軽石小礫多く含む 2.褐色砂質土 やや粘性あり 底はほとんど平坦で、大形の短冊形土坑に似ているが、断面形はやや異なる。中世から近世のものである。

土坑D202は、上径2.6×2.6m以上の方形で深0.3～0.4mを測る。底は中央がやや深く、D201と重なるが0.2～0.3m高い。水路跡M141と重なるが関係は分からない。詳細は不明だが、D201とそれほど変わらない時期か。

土坑D203は、上径1.2×0.6mの楕円形で深0.8mを測る。やはり水路跡M141と重複するが、関係不明。時期も分からない。

土坑D208～D210遺構 (P.217図 PL.158～160)

旧河道M201の右岸と道路跡X006の間で確認された。

土坑D208は、長1.7m幅1.0m深0.3mの長方形に似た不整形で、底も平坦でない。時期不明。

土坑D209は、道路跡X006より古く、径2.0m深0.4mでやや歪んだ円形。底は二段になっている。
1.暗灰黄色砂 2.黒色粘質土 浅間C軽石含む 3.ぶい黄褐色粘質土 11世紀以前だが、性格不明。

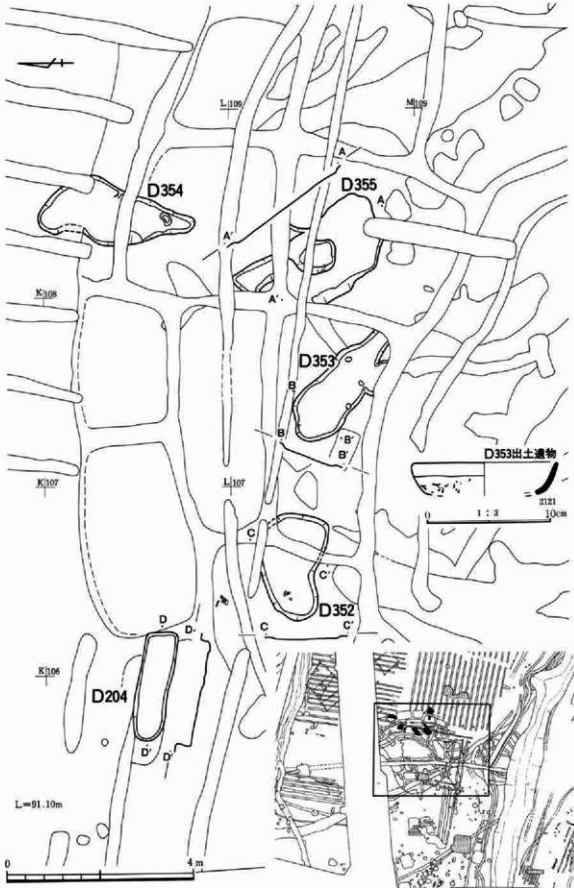
土坑D210は、径1.4×1.2m深0.2mの楕円形。1.褐色粘質土 浅間C軽石・砂含む M201より古いため、11世紀以前だが、性格不明。

土坑D204, D352～D355遺構 (P.219 PL.160)

土坑D204は、畠跡N022と重なって確認された。長2.2m幅0.7m深0.3mの短冊形土坑である。N204との新旧関係は不明だが、同一の東西走向であるため大きく時期の異なりはなく、19.20世紀のものだろう。

土坑D352～D355は、水田跡N204の下で確認された。形状はいづれも不定形で、最大長3.4m最大幅2.4m最小長2.1m最小幅1.0m深0.1m程度である。走向もまばらであり、人為的な遺構とは考えにくい。水路跡M125, M131, M142と重なるが、新旧関係不明。

D353から土師器坏(2121)が、D353とD355から縄文土器片(P.227参照)が出土している。この部分はやや低地であるため、11世紀より古い自然の落込みだろう。



4 歴史時代遺構外出土遺物

遺構に伴わない状態で出土した遺物は、陶磁器土器を中心にかなり多い。基本的には全て出土グリッドの記録があるが、大きく出土位置をまとめるとその概要は次の通りである。(数字は、時代の異なる遺物の出土遺構数及び出土グリッド数の合計で、破片数ではない。)

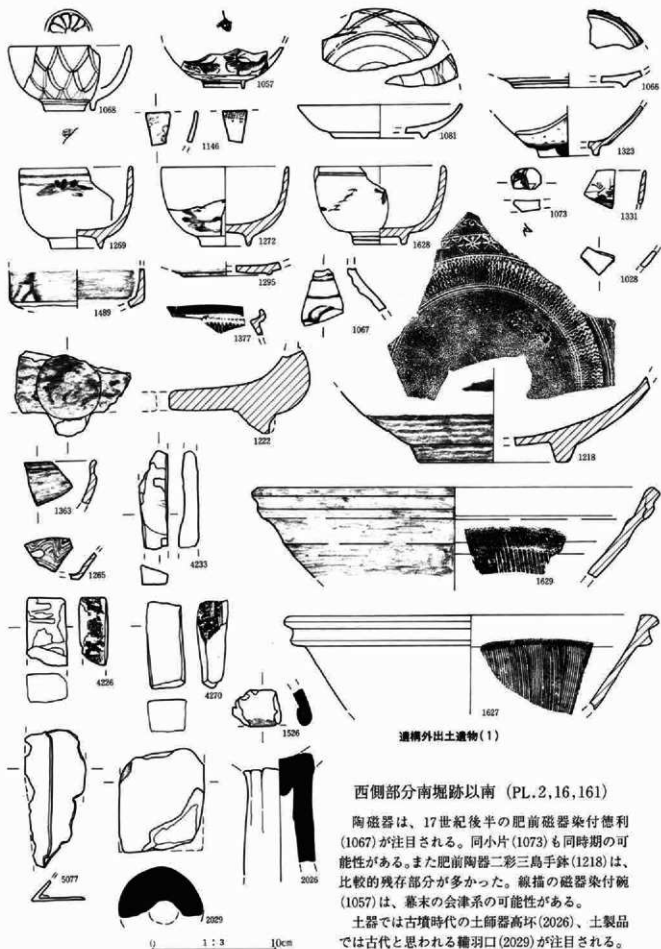
	西側部分		中央部分	東側部分
	南側大堀以南	南側大堀以北		
磁器	26 (32%)	41 (50%)	4 (5%)	11 (13%)
施釉陶器	63 (36%)	89 (51%)	5 (3%)	17 (10%)
焼締陶器	12 (27%)	25 (55%)	3 (7%)	5 (11%)
瓦質土器	93 (30%)	160 (52%)	28 (9%)	27 (9%)
灰釉陶器(古代)	12 (25%)	8 (17%)	4 (8%)	24 (50%)
須恵器	43 (29%)	35 (23%)	10 (7%)	61 (41%)
土師器/黒色土器(古代)	56 (22%)	35 (14%)	9 (4%)	156 (60%)
埴輪	2 (9%)	4 (17%)	1 (4%)	16 (70%)
砥石	9 (43%)	12 (57%)	0	0
瓦	12 (44%)	12 (44%)	1 (4%)	2 (8%)
板碑	8 (58%)	3 (21%)	1 (7%)	2 (14%)

大部分が近世である磁器・施釉陶器・瓦質土器・砥石は、同時期の遺構が多いせいもあって、圧倒的に西側部分に8割以上集中している。多くが中世と考えられる焼締陶器・瓦・板碑も、同様の傾向が見られる。

一方、主に古代の灰釉陶器・須恵器・土師器類は、反対に東側部分が4～6割を占めるに至っている。古墳時代も東側部分が多い。

地域別に見れば、西側部分はこれまで報告したように全体が基本的に各時代の居住域であったため、遺物が多いのは当然だが、南側大堀以南は以北に比べ比較的古代の様相が強い。中央部分は、面積的に大きな割合を占める大池の存在のため、ここでの数字は全体に小さくなっているが、その中ではやや中世のものが多い。東側部分は、居住が古代中心のこともあって、古代の遺物が集中している。古墳時代が多いのは、旧河道の報告で述べたように、上流の調査範囲外のどこかに存在していたものからのものだろう。

以下、各地域ごとに代表的な遺物を報告する。

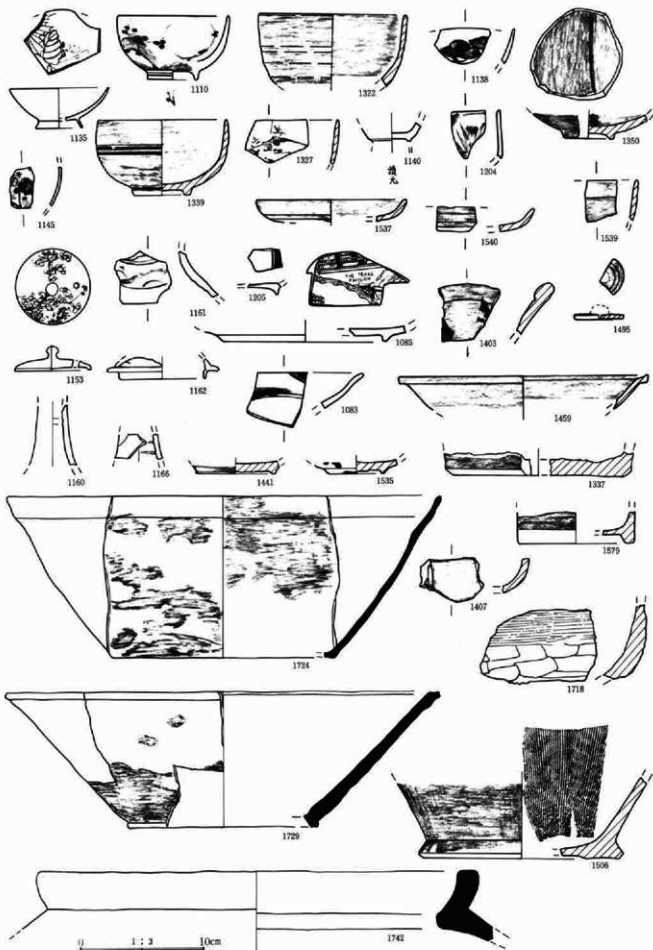


遺構外出土遺物(1)

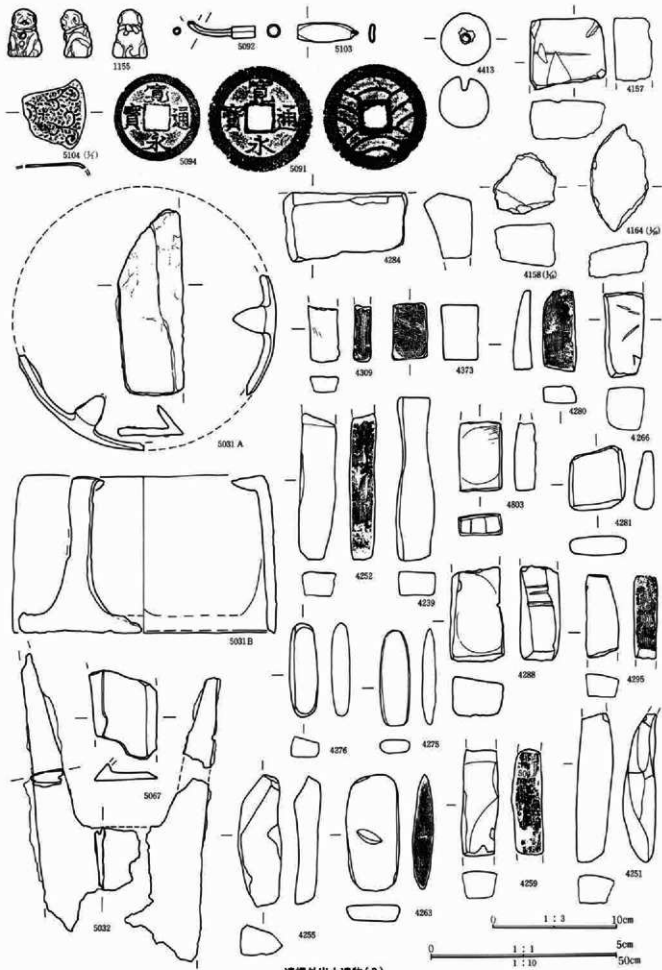
西側部分南堀跡以南 (PL.2, 16, 161)

陶磁器は、17世紀後半の肥前磁器染付徳利(1067)が目目される。同小片(1073)も同時期の可能性がある。また肥前陶器二彩三鳥手鉢(1218)は、比較的残存部分が多かった。線描の磁器染付碗(1057)は、幕末の会津系の可能性がある。

土器では古墳時代の土師器高坏(2026)、土製品では古代と思われる籬羽口(2029)が目目される。

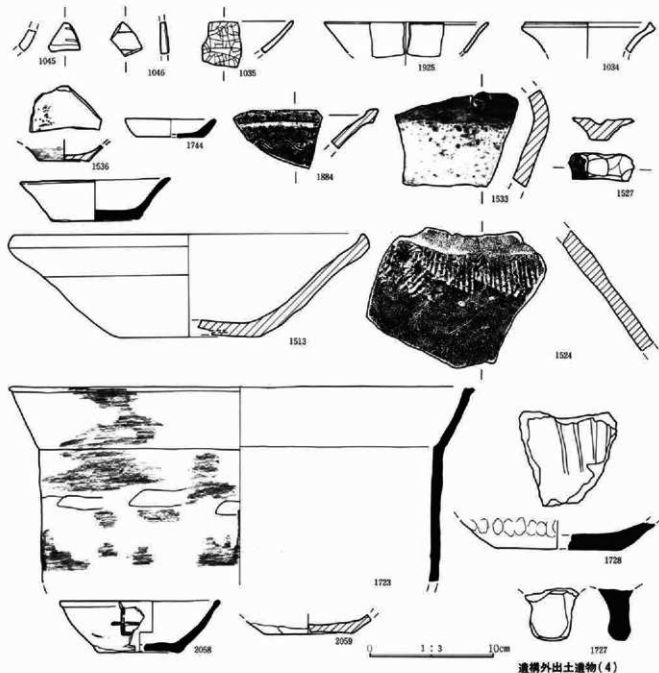


遺構外出土遺物(2)



遺構外出土遺物(3)

II 調査成果

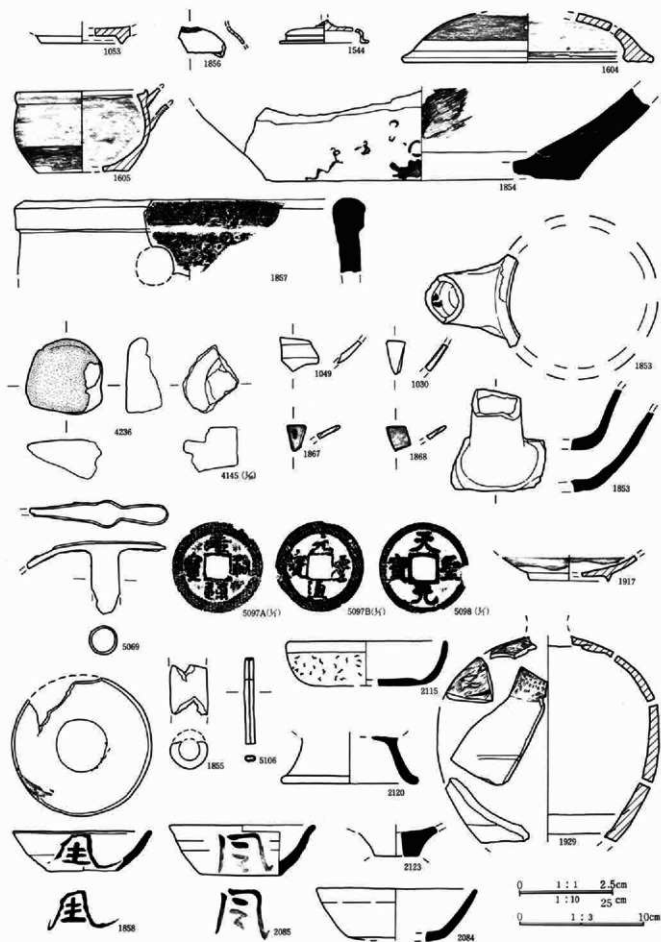


西側部分南堀跡以北 (PL.16,161,162)

前述のように最も遺構外遺物の出土量の多い地域である。

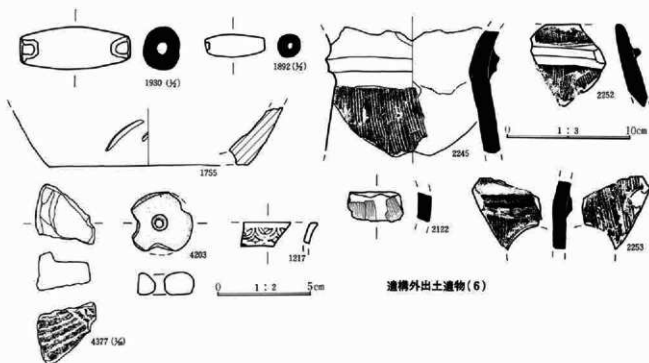
近世以降では、陶磁器は16世紀代の瀬戸美濃大窯船軸皿(1441)が最も古く、続いて16世紀末～17世紀初頭の越中瀬戸鉄軸皿(1535, PL.16-58)が見られ、また1640～50年代の肥前染付皿(1083)も注目される。越中瀬戸窯の製品は、当地域では極めて珍しい。

肥前磁器・瀬戸美濃陶器による18世紀代のものが量的に多いが、肥前青磁碗(1034)を除いて、あり方は一般的である。19世紀では、貫入のある肥前白磁碗(1035)が見られる。近代では産地は多彩になり、関西系染付急須蓋(1153)は当地で比較的多く見られる。国内産地不明の染付大皿(1085)には銅版転写でTHE TEXAS PAVILIONと書かれてある。極めて限定された時期の製品だろうが、詳細は不明。瀬戸美濃色絵の犬人形(1155)も興味深い。(続P.226)



遺構外出土遺物(5)

II 調査成果



(P.224より) 金属製品は、17世紀代と思われるキセル雁首(5092)、唐草文を陽刻した銅容器(5104)そして鉄製五徳(5031B)が目目される。銅銭は、新寛永通宝2枚(501,94)があった。石製品は、片側に孔のある球形の砥沢石製品(4413)がまず目を引く。重りだろうか。また櫛歯状調整痕の残るものを中心とする数多くの砥石が見られた。他に石臼類や石塔基部などが見られた。

中世のものは、舶載陶磁としては竜泉窯青磁碗類で明代のもの(1046)・南宋一元のもの(1045)、そして後者と似た時期の口割げ白磁碗(1925)があった。国産では常滑系甕類片がいくつかあるが、焼締陶器コネ鉢(1513)は産地不明。山皿に似た遠江湖西窯皿(1536)は、12世紀後半とされる。土器では、土師器の小皿(1744,1816)と瓦質土器の塙(1723)・搥鉢(1728)・火鉢脚部(1727)がある。

古代では、不明墨書の土師器坏(2058)と陶器質の須恵器坏(2059)があった。

東側部分・出土位置不明 (P.186,187 PL.16,162,163)

近世のものはほとんどなく、万古急須蓋(1544)など近代のものが多い。土器では瓦質の火鉢(1857)と土師器質の練炭起こし(1853)があった。ピッケル形鉄製品(5069)も見られた。

中世では、南宋元の竜泉窯青磁碗(1030,49)、茶臼片(4185)、北宋銭(5097AB,98)がある。

古代のものは、同一個体かもしれない蒙投緑釉碗片(1867,68)・同灰釉皿(1917)・同壺(1929)と10世紀前後のものがあった。また風摺え状の墨書のある須恵器坏(2085)・同土師器坏(1858)が見られた。土鉢(1892,1930)も出土している。

古墳時代では、埴輪と土師器甕(2122)がある。

出土位置不明のものは、栓のような有孔円盤(4203)が目立つ。須恵器コネ鉢(1755)は、無量寿寺北側の堀跡で表面採集したもの。

5 縄文時代遺物

山口逸弘

本遺跡の調査範囲からは数十点あまりの縄文時代の遺物が出土している。いずれも中～近世遺構覆土や平面確認作業などによる出土であり、縄文時代の遺構からの出土ではない。また、包含層出土とするには、余りにも希薄な出土であり、層位も安定していない。しかしながら、出土した土器片などに、当地域の特徴的な様相もみられることから、残存状態の良い数点を選び、特徴を概観しておきたい。

石器 (P.221～231)

33点を図示した。土器と比較して依存度は高く、形態、調整技法などは、前期～中期の石器群に共通性は認められるが、土器との共伴例はなく、その帰属時期などは特定できない。

1. 石鏃

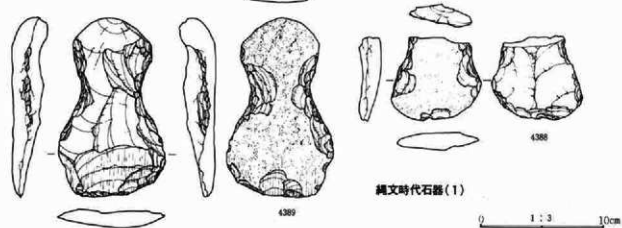
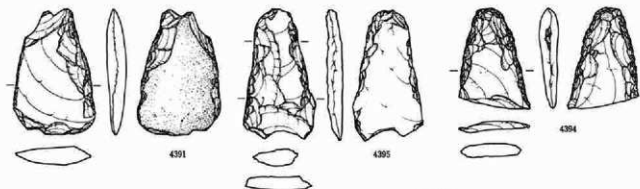
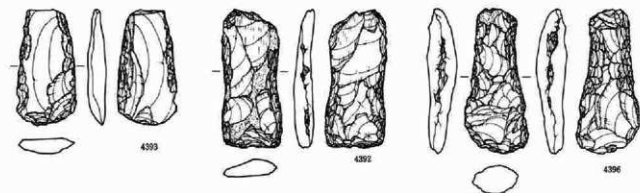
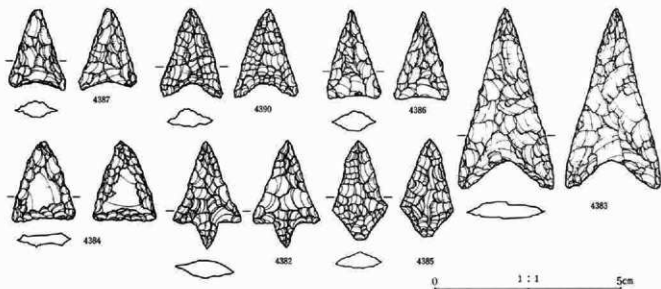
6点を図化した。4387は凹基鏃で、比較的雑な調整で縁辺を作出する。先端部僅かに欠損。黒色頁岩製。4390は黒曜石製の凹基鏃。特に凹部分の調整は丁寧である。4386は僅かに内湾するが平基鏃の範疇に入りたい。縁辺の調整は丁寧である。4384も平基鏃で、前三者とは違い中央の高まりを持たない。チャート製。4383は長身の凹基鏃ながら、側縁は直線的で左右の対称が保たれている。薄手の横長剥片を素材としたのであろうか。縁辺の調整は比較的丁寧である。黒色頁岩製。4382・4385は凸基鏃。4382、中子部分を脚部内湾によって突出させる。側縁下位は緩やかに湾曲する。黒色頁岩製。4385はチャート製で、中子部分が欠損するが4382に比して直線的に突出する。

2. 打製石斧

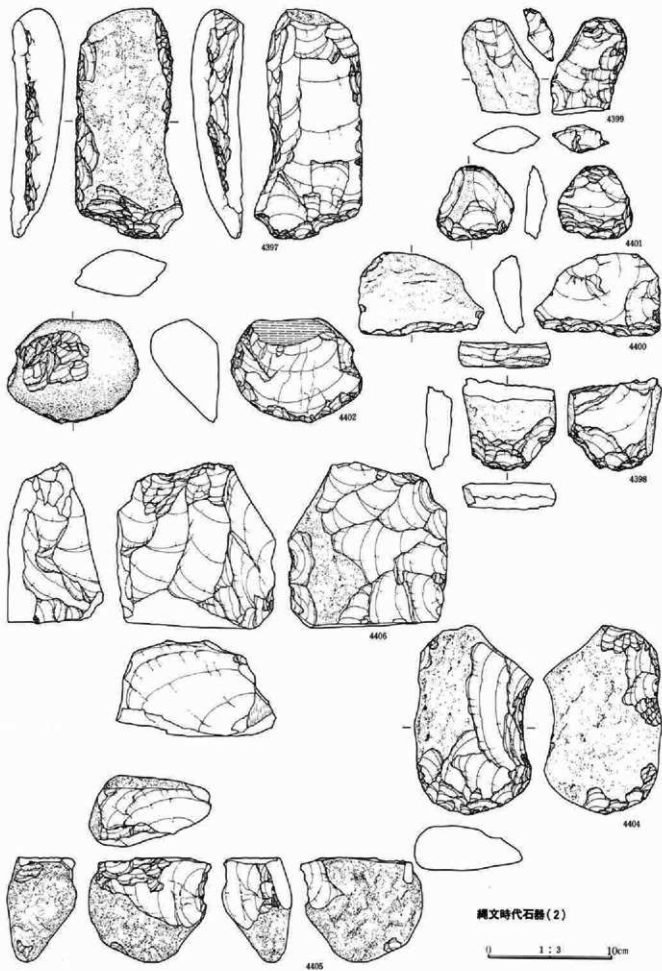
4392・4393・4396は短斧形。いずれも、刃部を中心に長軸方向の摩滅痕が認められる。4393は薄手の横長剥片を素材として直線的な側縁形状である。4392は頭部に厚みを残し側縁中位に入念な調整を施し、緩やかに湾曲させる。右側縁のツブレが顕著である。刃部の摩滅も著しい。4396の側縁もやや湾曲する。また、頭部周縁を細かな調整で方形に仕上げている。4391・4394・4395は刃部が闊く撥形を集めた。4391は大きく礫面を残す。大形の横長剥片を素材とし、側縁上半は、大きな剝離が及ぶが下半は細かな調整を施している。4395の刃部は欠損する。素材形状を残し、比較的雑な調整で作出するが、側縁中位は直線的でツブレが見られる。4394の刃部も欠損する。周縁の調整は丁寧で特に頭部に及ぶ。4389・4388は分銅形。4389は大形で完形である。表面の礫面を残し、素材の円みを頭部に設けている。裏面刃部に摩滅痕が縦位に見られ、側縁中位の凹部にも使用痕があり、頻繁な装着・使用を物語る。4388は上半を欠損する。比較的厚手の刃部だが、縦位の摩滅痕が僅かに看取できる。

3. スクレイパー類

7点を図示した。素材剥片にある程度の規則性・目的性を持ち、刃部を作出しているものを集めた。4397は厚手で大形の縦長剥片を素材とし、剥片端部を両面からの調整により刃部としている。表面の礫面を大きく残し、素材の湾曲を利用している。4399も縦長剥片を素材とし、下半を欠損する。主に表面からの調整が両側縁に及び、刃部としている。4401は三角形の横長剥片が素材。端部の調整で比較的鈍角な刃部を作出する。4402、円礫を半割し、剥片端部に半円状の刃部を作る。刃部稜上に摩滅痕が認められる。4400は横長剥片端部を直刃状の刃部としている。礫面を大きく残し、裏面の調整が段を持つ鋭角な刃部を作る。4398、楕円状の礫を縦位に半割した剥片端部を刃部としている。両面からの入念な調整で鋭角な刃部を作る。上半欠損。4404は偏平な礫をそのまま素材とし、側縁と端部の2辺を刃部としている。側縁の刃部は凹状をなし、稜上に僅かな歯こぼれが認められる。端部は凸状で比較的鋭角な刃部だが、使用痕は見られない。



縄文時代石器(1)



II 調査成果

4. 石核

4406は大形の黒色頁岩が原石で、周縁に打点を転移させながら、比較的大形の縦長剥片を剥き取っている。4405は黒色頁岩製の円盤を原石としているが、数回の剝離を行ったのみで、目的性を持った剥片数は少ない。

5. 三角錐形石器

1点のみ出土している。出土地点は東側部分の旧河道M202からで、層属時期が予測される早期の遺物・遺構などは周辺にはない。4403は完形で、乳棒状の緻密な黒色頁岩製。下縁の平坦面や頸部に使用痕はない。平坦面と言えども安定はせず長軸方向の剝離により凹凸が見られる。握り部ともいえる上半の側縁は摩滅しているが、使用による摩滅とは捉えがたい。

6. 不定形剥片石器

通常縄文時代の石器には、上記の定形石器以外に、不定形な剥片を素材にした石器が多く見られる。これらの不定形剥片石器も、報告例が増すにつれ、刃部形状や調整技法など共通性を持った一群が見いだされるべきであり、集成・研究の進展を期待したい。本遺跡では思いのほか、不定形な剥片石器が少なく、4点を図示したのみだが、今後もこの石器群の資料化を努めて行きたい。

7. 加工痕のある剥片石器

4381、上半を欠損する横長剥片を素材とし、端部を凹状の刃部に作出している。調整は比較的入念で、刃部角度は鈍い。4380、小形の縦長剥片を素材とし、端部を先鋭に尖らせる。両側縁に調整が及び、鋭角な刃部を作る。

8. 使用痕のある剥片石器

4378は縦長剥片を素材とし、左側縁を刃部とし、微細な歯こぼれが認められる。4379も縦長剥片が素材で、刃部の両側縁に歯こぼれが認められる。以上4点は黒色頁岩製。

9. 磨石類

本遺跡は近世一現代にかけての遺構群が濃密に分布しており、例えば井戸、溝、池からは多くの石が出土しており、その中には縄文時代の磨石類が混在していた。しかしながら、後世の二次利用や水流などによる摩滅によって、自然石と磨石との判別は非常に困難な場合もあり、ここでは、厳密に磨石類と判断できたもの4点を図示した。4411は表面に僅かな光沢を持ち、摩滅痕と考えた。4407は偏平で、周縁に叩打痕が見られる。4408、小形で偏平である。表面に摩滅痕が見られ、かつ凹みが数ヶ見られる。凹み石としては、消極的な凹凸みであり、磨石類とした。4410、表面に広く凹部を持つ。但し石皿様の凹みではなく、明確な稜線や変換線をもたない。しかし、摩滅痕はこの凹みを中心に見られ、用途に伴う凹みと判断した。周縁には僅かな叩打痕が見られる。

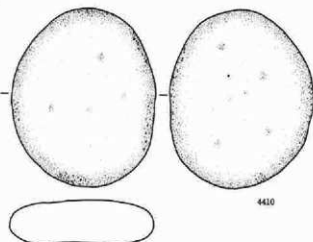
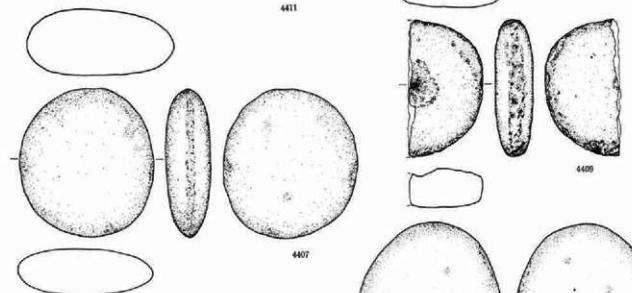
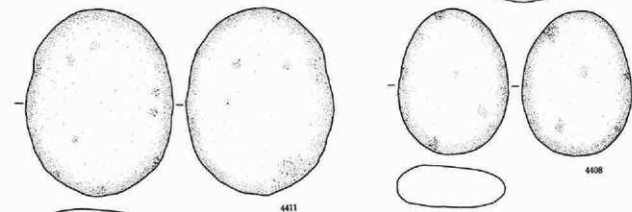
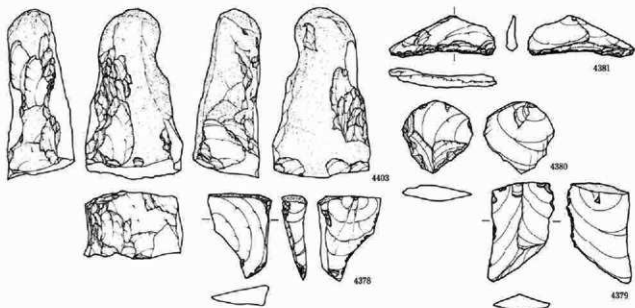
土器 (P.232)

出土点数は少なく、すべて破片状態である。復元図示した個体も1個体のみで、残存率は良くない。出土時期も早期から後期と散漫であり、また、出土地点も集中的な偏りはみられない。

2278・2285は条痕文系土器群。2点とも厚手で、2285の内面の条痕は顕著だが、2278の内面はやや摩滅しており判然としない。貝殻条痕であろう。早期。

2276・2283以外は前期の土器片。諸磯b式後半段階の所産。2291は平行沈線に矢羽状の刻みが沿う。2290は横位のナデを平行させ、僅かな高まりに矢羽状の刻みを沿わせる。浮線文の効果といえよう。

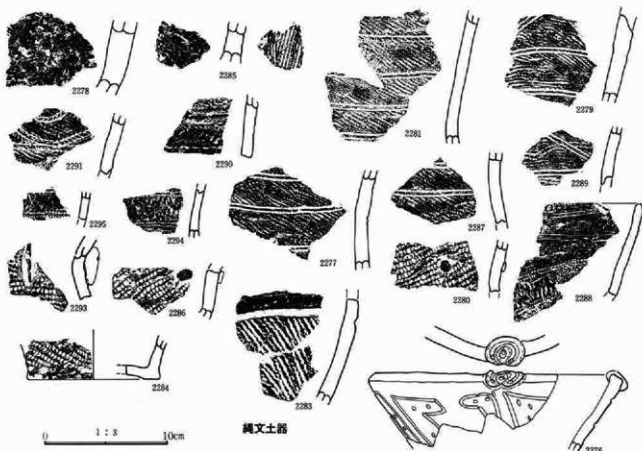
2277・2279・2281・2287は同一個体か。平行沈線による横位分帯構成だが、沈線に沿って矢羽状の刻みを施すものと、刺突列を沿わせる要素が共存している。2281の上位の平行沈線は刻みであり、下位の平行沈線には刺突が沿う。2279・2277・2287は刺突が沿うが、この刺突も押し引き施文ではなく、支点を交互に移動させながら刺突する手法である。おそらく、矢羽状の刻みから変化したものと捉えられる。また、2289も同様な施文である。これらは、諸磯b式に顕著な浮線文構成を取りながら、浮線を省略した一群であり類例をあまり見ない。検討を要する。



縄文時代石器(3)

1 : 3 10cm

II 調査成果



2288・2294・2295も同一個体。口唇部は僅かに内屈する光しを見せ、端部には刺突が施される。口縁部とその下位には浅い平行沈線が施され、胴部上半には、2条一組の刺突列が施される。この刺突列は前述の2277などに見られた交互施文ではなく、単列づつの施文である。薄手であり胎土は緻密、色調は淡黄褐色を呈し異質な感を受けるが、文様構成は横位文様帯構成であり、諸磯b式の範疇として考えて良いだろう。

2280・2284・2286・2293は地文に単節縄文を施す一群。2280・2286・2293のように、口唇部～胴部上半に耳状・ボタン状の貼付を装飾する例が多い。装飾要素としての貼付文であるが、胴部横位文様帯構成の土器群が縦位一帯構成に変化する過程で、本資料のように縄文を主体的に施文する土器群にも貼付を施す様相は注意しなければならないだろう。2284は若干干上り底気味の底部で、底面周縁は平滑である。

2283は2条の凹線下に燃糸文を施す。中期加曾前E3式段階の連弧文系土器の変化であろうか。

2276は後期称名寺2式。口縁部を大きく開く深鉢。突起を口縁上に設け、体部は反転した銚先状モチーフの外側に刺突を施す。

以上のように、本遺跡出土の縄文時代の遺物は量的に貧弱であり、多くを語ることは控えなければならない。今回は、前期諸磯b式土器後半期の特徴などを問題提起しておきたい。周辺遺跡の調査・報告例が増加するに従い、この地域の該期様相も明らかになろう。

Ⅲ ま と め

1 二之宮環濠遺構群

(故) 山崎 一

前橋市二之宮町には三つの環濠遺構が鼎座している。中央に赤城神社、その西南350mに宮下西館(仮称)、東南400m(何れも中心部相互の距離)に無量寿寺を配し、東西800m、南北450m地域に展開する。各々性格を異にするのも面白い。以下、[社][寺][館]と略して記述する。

この地帯は、赤城山南麓、粕川・江竜川間の標高90m程の波状地で、[社]と[館]との間は、無名川(仮称)の流れる幅50m乃至100mの低湿地帯(現在は水田)を挟んでいるが、[社]と[館]とは同一微台地上にある。三遺構ののっている微台地及び付近の低湿地、水流は、いずれも北微東に高く、南微西に低い傾斜を示す。

北側には、古代からの上野国府と下野国府を結ぶ京からの主要路「あづま道」と推定されている道が、東西に走り、[社]の北では外堀との間50mに迫っている。従って、諸遺構を考えるにはつねにこの古道を意識に置く必要がある。

[社]は、一辺70mの、堀で囲まれた正方形の内郭と、それを囲む東西最大150m、南北125mの囲堀を備えた外郭とから成っているが、内郭、外郭の構造軸は僅かに不一致である。外郭の東北部は大きく「角欠き」となっている。そこは東北の鬼門に当たっているが、「鬼門欠き」としては規模が大きすぎる観がある。東西30m、南北50mの角欠きは、基本的な築造計画によるものと考えなければならない。このような「折」は、中世城館の戸口に対する大横矢(側防設備)の手法である。そこに現存する戸口は、斜に堀と土居を切って設けられていて、勿論後代の変更であるが、本来は直角にそれらを切っていたのでなければならない。郭外の通路も現在のような東から導入されるものではなく、北の「あづま道」から南進して、北面する戸口に入り、そのあと西に折れて内郭に向かっていたのであるまいか。「あづま道」の南に大きく湾曲していることはそれを示唆する。

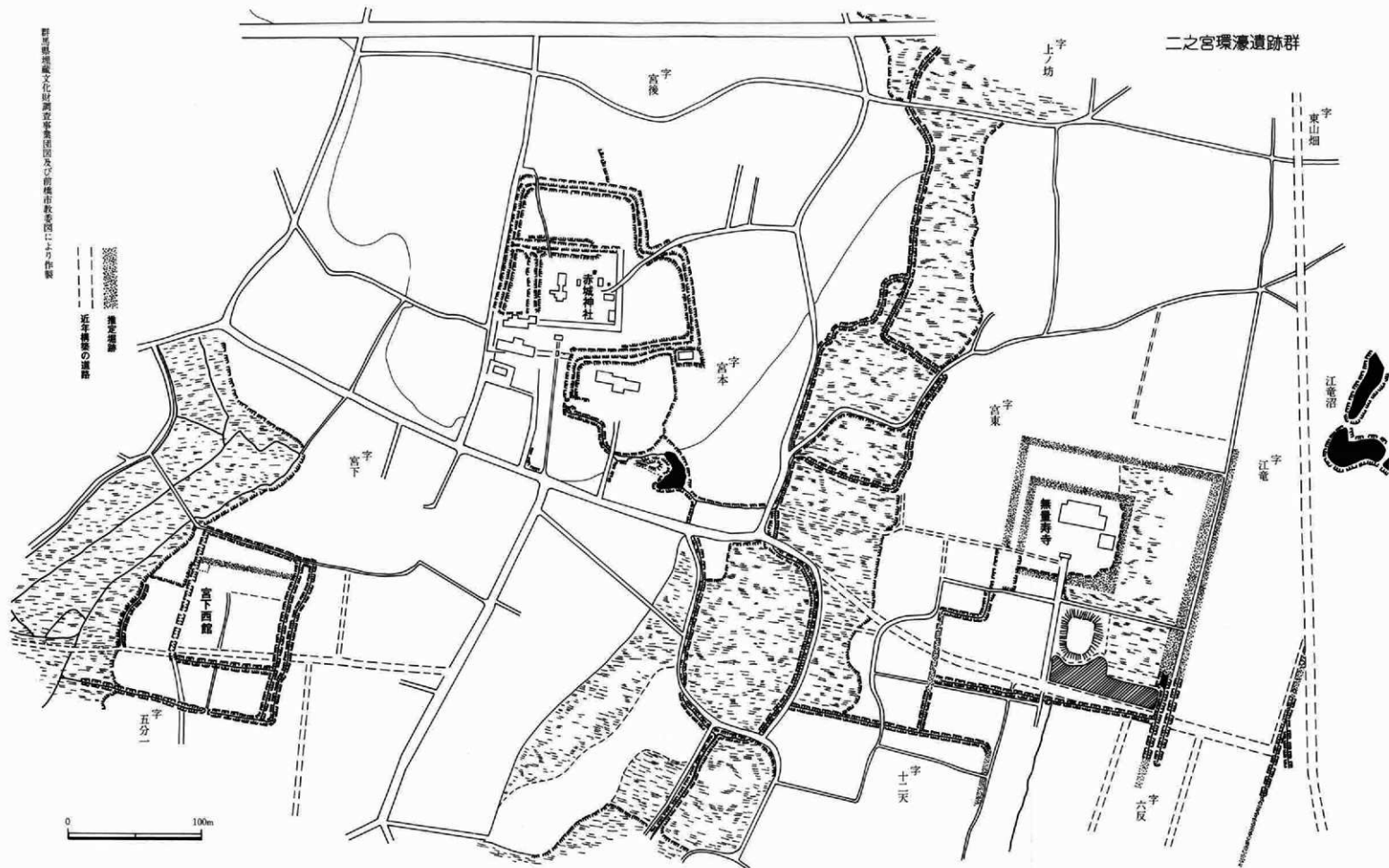
この赤城神社には、いくつかの疑問がある。(1)、三夜沢の赤城神社には、多数の古文書が現存するのに、ここには一通もないのはなぜであろう。火災等による亡失も考えに入れねばならぬが、三夜沢等他所に関連文書も見当たらないのである。(2)、鎌倉時代のもので推定されている塔址は、内郭の東北部、現本殿の東北、やや後方にあり、かつての本殿は東に向かっていたのではないかと疑われる。(3)、この社は東方からここに移ったという説もある。ここには、古い石造物もあり、それらの疑問の反証となるかも知れないが、移動可能のものであり、殊に土居上にあることとて、その可能性充分といえよう。

これらから、当社は、囲堀と同時に成立したのではなく、或は、古館址に移築されたものか、本来の社域(内郭)の外側に、後になって外郭が増築されたのではないかとその想像に達する。内郭、外郭の構造軸が一致していないこともそれを裏付けるかも知れない。

「当社年代記(勢多郡誌掲載)」には、「天正四年(1577)八月八日、南方(北条)氏政打破ルナリ、神主ハ無力ト云ニ大軍ヲ恐マモ出持無宮ナラハ可打破ト云々」とあり、欠文もあるらしく難解であるが、北条氏政に攻められたらしいことを伝えている。もっともこの年には、金山城主由良成繁も、上杉謙信もまだ健在であり、氏政の東上州作戦は考えられず、或は天正十一年の誤りではないであろうか。

宮下西館は、昭和六十一年の発掘調査で遺構の一部が確認された中世環濠館址だが、既に、地籍図によってその存在が推定されていた。内郭は一辺75mの正方形に近い形で、南面やや西寄りと東面北寄りに戸口があったと推定される。南面東寄りに発見された架け橋の脚穴は、その南側にあった現代住居のものではあるまいか。東面の堀にはそれに添って東側にやや狭い少し屈曲した外堀があり、共に南に18mのび、南面の外堀に達している。南外堀は東西150mに及ぶが、西部は次第に浅くなり、低湿地中に没する。北面外堀は、今道路となっている部分で、東西110m程である。西面は低湿地に

二之宮環濠遺跡群



群馬県歴史文化財調査団調査及び群馬県教育委員会により復原

1 二之宮環濠遺構群

面した高さ2m内外の急斜面が120mにわたってつづく。その低湿地は現在水田となり、幅75m程で、[館]の北100mで東南方向から西南に向かって屈折してつづく。

無量寿寺も環濠遺構と推定されるが、数十年前まで堀があったと伝えられるばかりで確認されてはいない。東外堀の外側に道を挟んで更に一筋の堀が添い、南北にのびていたようである。今次の発掘調査で、東西170mの南外堀が検出された。直線に近いその堀の中央よりやや西寄りに土橋があり、そこを通る道は直角に北に進み、無量寿寺の参道となっている。

南外堀の南側東部には、中世の掘立建物の柱跡群が検出され、南側西部には、外堀と並走する長さ150mの直線堀が発見された。両堀の間隔は20m程で、東端は南に折れてつづき、西端は無名川に達している。外堀東端にはこれと直交する堀があり、南端はこの堀に達し、北は西外堀につづいていたらしい。但し、両者は17m程喰い違っていて、途中に「折」があったと思われる。

このように無量寿寺の南には、通常の環濠遺構とは異なる環濠集落が展開していたらしく、今後の調査でその確認がのぞまれる。東外堀から東90mの所にも、それと並走する堀址が認められるが、無量寿寺附近の地形は、東北が高く、西南下りとなっていて、外堀東側に添う堀は、最高所軸を走り灌漑用水路の観が濃く、最東側の堀も亦同様である。

また宮下西館の外堀も同じ用途が考えられ、湿地帯間の中世遺濠の性格を示唆するといえまいか。伊勢崎市上植木地区の貯水池を別に設けたもの、柏川地区、高崎市大類地区等の囲堀と貯水池の併用等と比較し、中世遺濠と灌漑についての考察も、重要な研究部面として見のがすことはできない。

(1987年7月)

2 二之宮宮東遺跡出土の文字資料

高島 英之

A はじめに

本遺跡からは、墨書木札4点、杭形塔婆6点、板塔婆2点、蘇民将来符3点、半載竹管に刻字のあるもの1点、墨書・刻書土器19点、の合計35点の文字資料が出土している。墨書土器中に古代のものが16点含まれるほかは、近世・近代のものであるが、特に墨書木製品の類には近世村落社会の信仰形態の一端を知る上での手掛かりとなり得るような事例がみられ、非常に興味深い史料と言えるだろう。またここに掲げるような墨書木札類や卒塔婆・蘇民将来符などは、現在の学界の趨勢では広い意味における木簡の一類型として取り扱われるようになっており、そのような意味では、近世木簡の史料例を加えるという意義も存するであろう。以下、順を追って釈文を掲げ、コメントを付することにした。なお文字資料全点の釈読は筆者の責任において行った。

B 墨書木札類

<1号> (3078)

[釈文]

× 香 × 香 × 香 × 香 ×
 ×
 社
 ・× □ □ 卯之助 長作 佐吉 信藏 伴六 源藏 「信吉」 □ 覚
 ・× □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
 □

(362) × (78) × 6 019

大池から出土した墨書木札で、江戸時代初期ころのものと考えられている。長方形の板目材を横に木取りする。上辺は二次的に割られており、左側面は欠損しているが、右側面および下辺は現形をとどめるものと思われる。裏面にも若干墨痕が残っているが現状では全く判読できない。

冒頭に「覚」とあり、その後現状で十人分の人名が列記されている。最初から四人目までの人名の上には「香」という記載がみられ、全体としては「某香+人名」という書式で、一列に人名が列記されていたものと推測できる。内容的にはあまり明確ではないが、信仰に関わる何らかの名簿様のものではないかとみられる。この木札が出土した大池の北側にある「筑波山」と称されている人工の塚の上やその周辺には庚申信仰に関わる石造物が数多くみられるという点から考えれば、庚申講の講中における番付表と推測することも可能であろう。よく知られているように庚申講では庚申の日の夜に講のメンバーの一人の家に集まっていゆる「庚申待」をするが、その世話役当番、すなわち「頭屋」の順番を示した番付表とみるのも一案であろうが、勿論、確たる証左があるわけではない。

何も庚申講に限らずさまざまな講において、世話役の順番を番付表にして掲出する例はまま見受けられることであり、信仰関係の石造物などにもこうした講中の番付表が彫りこまれている例も存在している。

これまでの各地における出土品の類例にはこれに類似したものはなく、また、こうした近世期の墨書木札の例自体少ないので、そうした意味からも非常に貴重である。

<2号> (3055)

[釈文]

×奉八社拝禮

先言□□□森田正□

×	□□住直	達	太山白□	晴山儀行
×	×川六道	高田政重	□□□之助	□井準
×	×□宅吉	木村菊次郎	春山秀雄	加藤□藏
×	×□郎	横沢倉吉	小暮政之助	狩野□
×	×郎	小林敏次	井上恭之助	中□平
			佐和宅次郎	寿□藏
			茂木義之助	□□辰
			本木豊明	□□
			狩野□為	□□

(323) × (165) × 6 081

大振りのモミ属の板目材を用いるが、墨痕の残り具合からみて、四辺とも二次的に切断されたものとみられる。元来は相当に大きな板材であったと推定できる。大池からの出土である。

文字は金泥を用いて記された痕跡があり、金色は殆ど失われているが、文字の部分は盛り上がっている。現状の右端部にひときわ大きな文字で「奉八社拝禮」とあるが、次に掲げる3号とも比較すると、この部分が本来この木札の中央部分にあっていたのだろう。その「奉八社拝禮」の両側に人名を列記する書式とみられ、「奉八社拝禮」の文言のすぐ下には「先達」とあり、他の人名に比べてやや大きめの文字で記されたその下の四人分の人名はこの信仰に関する指導者であるとみられる。また、現状での上二段の人名と下二段の人名とでは文字の大きさが異なり、この点もそれぞれの人々の格付けの差を示しているのだろう。内容的には不明確な点が多く、具体的に何を物語るのかは不明であるが、祭礼に際しての何らかの出资日期・寄進などをした人々やあるいは氏子、講中などの名簿のような類のものともみるのがまず妥当なところであろう。また年代的にも、人名の記し方などからみて、近代に属するものと考えられる。

< 3号 > (3056)

[釈文]

□西□□	□□□×
狩野市二郎	[塚方]
小高典二郎	飯□□×
高橋与恵	□□茂×
飯塚清□郎	南雲×
狩野典高	□□×
南雲高紀	□□×

奉 八 社 拝 禮 ×

(330) × (133) × 8 081

2号と同様、モミ属の板目材を使用する。原形をとどめているのは上端部のみで、左辺・右辺・下端部とも切損している。文字は金泥で記してあり、書式は2号と全く同様であり、2号と同種・同形態のものともみてよいだろう。同じく大池からの出土である。

なお、信仰の対象と言える「八社」についてはいく通りかの解釈が可能であろう。まず一つには何らかの講のようなものが選擇したであろう文字通り八つの神社の意。二つには「八坂神社」を略記したとする見方。現存するところでは尾高町に八坂神社があることが知られている。三つめには牛頭天王の八人の王子、八王子（八将神）をまつる神社という意味。実際のところそうした神社も特定できるわけではなく、またこれらの木札から直接、そのいずれのケースとも判別できないが、八坂神社にしろ八王子にしろ牛頭天王の信仰と関わってくるわけであり、もしそのような想定が可能であるならば、後述するような蘇民将来符とも関連で興味深いところである。2号と同様、近代のものと考えられる。

< 4号 > (3034)

[釈文] (不明)

(358) × (155) × 22 081

<9号> (3014)

【釈文】 万至膳□平□太□
 ×善提也 施主?言
 千時延亨三寅天□

(443) × 42 × 35 061

杉の杭状材の一面を偏平に整形し、断面は半円形を呈する。杭形塔婆の下端部の断片で、末端を削り尖らせ、地中に刺し立てられた部分が残存している。文言は、塔婆に記した供養願文の書き止めの部分にあたり、「延亨三年」(1746)の紀年銘が判読できる点は特筆に値する。本遺跡出土の文字資料で実年代を明確に知り得るものはこれが唯一であり、ここに掲げる一連の塔婆の年代は、ほぼこれに近いところに求めて大過ないだろう。

<10号> (3115)

【釈文】 (梵字)
 × □□□□□□□ ×

(853) × 34 × 24 061

杭状の杉材で、一面を偏平に整形し、文字を書き込んでいる。墨痕は梵字七文字分が確認でき、杭形塔婆の上方部分の断片とみられる。

<まとめ>

以上、本遺跡の大池からは6点の杭形塔婆が出土している。いずれも上下端を削り尖らせた杭状の材を用い、供養の文言と供養対象者などの文言が記されている。殆どのものには明確にできないが、7号では供養文の上になりに長々と梵字を書き連ねており、また断片的に梵字が確認できるものもあるので、ほぼ全例に上半部には梵字が記され、そのあとに供養文や供養対象者などが記載されるような書式のものであったとみられよう。

卒塔婆とはそもそも死者の供養のために墓地の墓標の前後に立てられるものであるが、やや特殊な事例として、雨乞いの際にその法要が行われた場所に立てられるとか、あるいは川施餓鬼供養の際に川辺に立てられることがあるという。また最もポピュラーなのは、上端部を三角の山形に整形した板状のもので、梵字や経文・供養対象者の名前などが記されたもので、後掲する11・12号のようなタイプのものであるが、中世の絵巻物などをみると角柱状を呈するものが多く散見できるし、また頭部を五輪塔状に整形するものも少なくはない。

しかしながらこれまでみてきた5-10号のように、ほとんど生木の樹皮や枝をはらっただけの杭状の材を用いる例は非常に稀である。

今日までの出土事例で、本遺跡出土のものに最もよく類似しているのは静岡県袋井市土橋遺跡出土の杭形塔婆である。土橋遺跡は、静岡県の西部、磐田原台地の東縁部の太田川左岸に位置する集落遺跡で、断片を含めて15点の杭形塔婆が、溝の堰の杭列中より出土している。それらは杭形の材の上端部を三角の山形に削り尖らせ、また下端部も若干削り尖らせた長さ2.1m・径12~3cmほどのもので、記載内容には、観音経の一節や供養者の住所などを示す文言がみられる。また「宝永七年寅正月廿九日」(1710年)や「正徳四年□月廿日」(1714年)などの紀年銘があり、本遺跡出土の杭形塔婆の年代(9号に延亨三年=1746年の紀年銘)にも近接している。細部の整形のしかたや文言などの内容はやや異なるというものの、形状・大きさなどを含めて、非常に共通した要素を有している。

なお、こうしたあまり類例を見ることの少ない杭形塔婆と、現在でも通例よくみられる板塔婆とが異なった目的で使用されるものであるのか、あるいは用途・目的とするところは同一で、ただ単に形態が異なるだけであるのかは、現時点では明確にしがたい。いずれにしても後掲する二点の板塔婆と同様、本遺跡に隣接する元禄年間中興と伝えられる無量寿寺との関連が考えられるところであろう。

III まとめ

D 板塔婆

<11号> (3012)

[釈文]
×□□□□□□□□□□ 一七廻忌□□□□□□□□□□□□□□□□
(710)×34×10 061

杉の柁目材を札状に整形し、下端部を削り尖らせたもの。上方は折損している。現状で文字は片面のみに少しだけ残存している。杭形塔婆の例と同じく「一七廻忌」の文言がみえるので、それらと同様の字句が記された、同種のものともみられよう。杭形塔婆同様、大池から出土した。

<12号> (3227)

[釈文]
□□□□□□□□×
(474)×41×6 061

杉の扁平な札状材である。上端部は原形を保っており、緩やかな山形に整形されている。下端部は欠損している。墨は現状でごくわずかししか残存しておらず、釈読はできない。年代は明確ではないが、ほぼ杭形塔婆と同時代のものともみてよいだろう。同じく大池からの出土である。

E 蘇民将来符

<13号> (3251)

[釈文]
☆ (梵字) 蘇民将来子孫
23×17×15.5 061

トチノキの材を用い、八角柱状を呈し、上端部は錘形に斜めに削り出しており、完全に原形を保っている。八角の各面に、五行押点「☆」・梵字（牛頭天王の種子）と「蘇民将来子孫」の文言を各一字ずつ記し、その上下両端に線刻で縦線が入る。

<14号> (3252)

[釈文]
□□蘇民将来子孫
27×17×17.5 061

13号と全く同形で、八角の各面に一文字ずつ記すが、摩耗が甚だしく二面分（13号で五行押点【☆】と梵字【牛頭天王の種子】にあたる）が判読できない。前例と異なる点は、文字の上下両端に三角形の紋様が墨で記されている点で、さらにその両外側には線刻による縦線が入る。

<15号> (3253)

[釈文]
□□蘇□将来子□
23×12×12 061

前二例13・14号と全く同種・同形であるが、二面分が欠失している。文字は全体に減失が著しい。また、本例には材の中心部に穴が貫通しており、紐状のもので吊されていたものとみられる。文字の上下両端には三角形の紋様が線刻で記されている。

<まとめ>

以上三点の蘇民将来符は、西側部分の近世屋敷跡に伴う井戸跡D123号遺構からまとまって出土した。時期は18世紀代のものとみられる。

蘇民将来符の起源やその説話についてはすでに多く述べられているところであるが、まず、ごく簡単にその概要を述べてみよう。〔備後国風土記〕逸文に、

昔、北海坐志武塔神、南海神女子乎與波比爾出生爾日暮。彼所将来二人在伎。兄蘇民将来、甚貧窮、弟将来富饒、屋倉一百在伎。爰武塔神、借二宿處一借而不レ借、兄蘇民将来借奉。即以二粟柄

一為レ座、以ニ粟飯等饗奉。爰畢出坐。後爾經レ年、率ニ八柱子一還來天詔久、我將來之為ニ報答一。汝子孫其家嗣在哉止問給。蘇民將來答申久、己女子與ニ斯婦一待止申、即詔久以ニ茅輪一、令レ着ニ於腰上一。即夜爾蘇民之女子一人手置天皆悉許呂志保呂保志天伎。即詔久、吾者、速須佐雄能神也。後世爾疫氣在者、汝蘇民將來之子孫止云天、以ニ茅輪一着レ腰在人者、將レ免止詔伎。とあり、妻を求めて南海に赴いた武塔神が、途中、宿を求めたところ、裕福な弟の将来はこれを断つたが、兄の蘇民将来は貧しいにもかかわらず接待した。帰途、再び立ち寄った武塔神は、弟の家で使われる蘇民将来の娘に茅の輪をつけさせてこれを救い、弟の将来とその家人たちは宿を貸さなかったという理由で報復をうけ、ことごとく滅されてしまったという。その際に、武塔神は、蘇民将来の子孫と云って茅の輪を腰に着ければ疫病からまぬがれると言ったということであり、ここに除災の呪文としての「蘇民将来子孫」という文言や、その呪符の由来が示されている。

蘇民将来符は、現在でも護符として全国各地の神社や寺院で頒布されているが、近年では発掘調査による出土例も増加している。現在頒布されているものは、木製と紙製のものがあり、その形態も多種多様である。出土例からみると、現在のところ最も古く遡り得るもので中世の事例が存在するが、中世のものでは殆どが札状のものであり、呪符木簡の一類型としての位置を占めている。現行のものでは札状のものも多くみられる一方、柱状のものも少なからず存在しており、円形・四角形・六角形・八角形などの例がみられる。著名な例としては、長野県上田市の信濃国分寺八日堂で頒布されているもので、六角錐形で、頭部のすぐ下に切り込みを入れ、頭部を笠形に整形する。上部と下部に「アミ」と呼ばれる図柄が描かれている。笠形の頭部の六角錐状の部分に三角が六個並んでおり、魔除けの紋様とされている。

また、本遺跡出土の事例と同じく、八角柱状の例としては、宮城県仙台市陸奥国分寺や名取市道祖神社、山形県米沢市笹野観音、京都市八坂神社などで頒布しているものが挙げられる。このうち陸奥国分寺・道祖神社・八坂神社の事例は、八角形の材の中心部に穴があげられ、紐が通してあり、吊り下げられるようになっており、本遺跡出土の15号もおそらくはこのような形で用いられたものと言えるだろう。

なお、こうした柱状の蘇民将来符の原形として、卯槌や卯杖の形が考えられるということである。卯槌・卯杖は平安時代に宮中などで、正月上卯の日の祝に、邪気を払うために使用したもので、卯槌は桃の材を用い、一寸角で長さ三寸に作り、中心の軸に穴をあけて五色の組糸を通し、下方へ総のように下げたものである。さらにこれは中国・漢代の官吏が正月卯の日に腰に吊り下げた剛卯を模したものとされている。実際に、本遺跡出土の15号や、陸奥国分寺・京都八坂神社で頒布されているような、中心部に穴が貫通して紐が通してある事例は、漢の剛卯、あるいはそれに由来するわが国の卯槌によく類似している。

また信濃国分寺の事例をはじめ現在頒布されている蘇民将来符では、材としてドロヤナギや柳・ヌルデなどを用いた例が多いようであるが、本遺跡出土の事例ではいずれもトチノキの材を使用している。

なお、尾島町の安養寺森西遺跡からは、18世紀代のものと考えられる蘇民将来符が井戸跡より6点出土しているが、時期・形状ともに本遺跡の出土事例に全くよく類似しており、同該期の上野地方における蘇民将来符に関わる信仰形態やその特色を考える上で非常に興味深い。

F 半裁竹管刻書

<16号> (3038)
 [呪文]
 きまのき
 今 十

158×63×10 061

大池から出土したもので、ほぼ一節分の半裁竹管の表面に刻字されている。何に用いるものであるか、何の為に刻書されたのか、現段階においては全く不明である。

III まとめ

G 墨書・刻書土器

古代の集落跡にともなう墨書・刻書土器が17点(17-31,35,36)、大池から出土した底部外面に墨書が記された近世陶器が3点(32-34)ある(表参照)。

近世陶器の墨書はいずれも殆ど判読できず、意味不明である。

古代の墨書・刻書土器は、平安時代の堅穴住居跡や低湿地から出土したもので、9-10世紀のものである。「？」(23=2042)や「？」(28=2153)など全く文字の体をなさず記号様を呈するものが含まれている点は注意すべきであろう。また「？」(18=1858, 30=2221)や「？」(25=2085)など「几」の構えを有する文字は、近年各地で確認されつつあり、道教の符や則天文字にみられる構えの影響を受けたもので、この構えが人々に強烈な印象を与え、わが国においてこの構えの中に別の漢字を入れ、一種の吉祥または呪術的な意味を含めた特殊な字形を考案し、使用していたのではないかと考えられている。「？」(27=2105)は「万」の字の異体字である可能性が高い。いずれにしてもこれらの墨書土器は、すべて一字書きのものであり、意味するところはいかにようにも解釈できるので、今回は釈文の提示のみにとどめておく。

註

- (1) 「木簡研究」各号参照。
- (2) 窪徳忠『庚申信仰』1956。
- (3) 袋井市教育委員会『土橋遺跡』1985、永井義博『静岡・土橋遺跡』(『木簡研究』9)1987。
- (4) なお、呪符や蘇民将来符のようなものにも、これら杖形塔婆のように自然木の枝をはらっただけの杖状の材の一面を偏平に整形し、そこに文字を記した例が存在している。それらの事例では、他の形態を呈する同種・同内容の呪符などと同用途や目的が異なるというわけではなく、自然木に近い形の材が使用されたのは、木そのものの有する靈性を重視してのことと言われており、あるいは杖形塔婆使用の背景にもそのような理由が存在していた可能性も想定できよう。
- (5) 例えば千葉県銚子市門福寺の例(『梵字』蘇民将来子孫之門也)199×3×6)や長野県佐久市妙楽寺の例(『梵字』蘇民将来子孫之門也)160×25×5)、愛知県名古屋市洲崎神社の例(七福印生『蘇民将来子孫繁栄』212×66×10)、三重県二見町松下社の例(『蘇民将来子孫家門』七難即滅170×100×10)など。(川上元『全国各地の蘇民将来符』[上田市立信濃国分寺資料館『蘇民将来符—その信仰と伝承—』1989])
- (6) 倉沢正幸『蘇民将来符の製作過程』(上田市立信濃国分寺資料館誌(5)前掲書)、同『蘇民将来符の一考察—信濃国分寺の事例を中心にして—』(『信濃』42-8)1990。
- (7) 川上元氏註(5)前掲論文。
- (8) 倉沢正幸氏註(6)前掲論文によるとすでに太田南嶽(蜀山人)の「一語一言」巻24にこの考えが示されている。
- (9) 藤原勉『蘇民将来と牛頭天王』(『東北福祉大学論叢』7)1967。
- (10) 倉沢正幸氏註(6)前掲論文。内田律雄『隠岐島に残る蘇民将来符』(『季刊文化財』75)1992。
- (11) 群馬県埋蔵文化財調査事業団『安楽寺森西遺跡現地説明会資料』1983。
- (12) 平川南『則天文字を追う』(『歴史』34)1989)、同氏『下神遺跡出土の墨書土器について』(長野県埋蔵文化財センター『中央自動車道長野線埋蔵文化財調査報告6—松本市下神遺跡』1990)、同氏『墨書土器とその字形』(国立歴史民俗博物館研究報告)35)1990)、拙稿『則天文字を記した墨書土器について』(『信濃』43-10)1990)など。なお、「？」は太田市清水田遺跡から(群馬県埋蔵文化財調査事業団『太田東部遺跡群』1985)、「？」は多野郡吉井町矢田遺跡からも(群馬県埋蔵文化財調査事業団『矢田遺跡』1992)、それぞれ類似のものが出土している。
- (13) 東野治之『墨書・刻書土器の意義』(群馬県史編纂室『群馬県出土の墨書・刻書土器集成』2)1992。
- (14) 平川南・天野努・黒田正典『古代集落と墨書土器』(国立歴史民俗博物館研究報告)22)1989)

上記以外の文字資料

No	遺物番号	遺 構	釈 文	種別	器種器形	時 期	文字部住	呼称頁	備 考
17	1719	M051	□	墨書	土師質小皿	中世か	底部外面	77	
18	1858	不明	「?」	墨書	土師器坏	古代	体部外面正位	225	太田市清水田遺跡より類似例出土
19	1870	N203	庚	墨書	陶器灰釉皿	古代	底部外面	22	
20	2030	N036	□	墨書	土師器坏	古代	体部外面	27	
21	2033	M048	□	墨書	土師器碗小	古代	体部外面	24	
22	2034	N203	□	墨書	土師器坏	古代	底部内面	22	
23	2042	J112	「?カ」	墨書	須恵器碗	古代	体部外面正位	109	
24	2058	西側遺構外	□	墨書	土師質	古代	体部外面正位	224	
25	2085	東側遺構外	「?」	墨書	土師器	古代	体部外面正位	225	吉井町欠田遺跡より類似例出土
26	2092	D010	「倍」	墨書	須恵器碗	古代	体部外面正位	197	
27	2105	M202	「?」	墨書	須恵器碗	古代	底部内面	191	「万」の異体字
28	2153	M151	?	墨書	土師器小坏	古代	底部外面	187	
29	2191	J154	□□	墨書	須恵質碗	古代	体部内面	207	
30	2221	J159	「?」	墨書	土師器皿	古代	体部外面正位	203	太田市清水田遺跡より類似例出土
31	2116	M201	□□	墨書	黒色土器坏	古代	体部外面	191	
32	1221	D041	「□□□□」	墨書	陶器灰釉片口鉢	近世	底部外面	41	
33	1474	D114	□	墨書	陶器鉛釉香炉	近世	底部外面	55	
34	1591	X011	「○ヤ□」	墨書	陶器焼締掬鉢	近世	底部外面	143	
35	2054	J112	「川」	墨書	須恵器碗	古代	体部内外面	109	
36	2009	J108	□	墨書	土師器碗	古代	体部内面	65	



信濃国分寺（長野県上田市）販布の蘇民符来符

(写真：上田市立信濃国分寺資料館提供)

3 陶磁器胎土・鉄滓分析

A はじめに

本遺跡出土の磁器は、17世紀以降のものは大部分が肥前産であるが、例外的な存在として中国福建広東系のもの（No.1065）も見られた。近年の調査研究により、従来考えられていたよりかなり多くの明末から清の中国磁器が日本国内にもたらされていることが判明しつつある。しかし、多くの場合、類似傾向が強く肥前磁器との肉眼での識別が容易でない。また、19世紀以降肥前磁器の技術が地方圏に広まり、各地で磁器生産が開始され、上野地方でも瀬戸美濃からの二次的な技術の流れとして皆沢や高浜で小規模ながら生産が見られる。この場合も、識別が簡単ではないものが多い。

そのような問題の解決に向けた試みとして、ここで胎土ならびに釉の化学分析を行った。この分析は下記に示すように、大西雅広らがかつて行ったものを比較し、また今後に向けての資料蓄積として広範囲な資料を用いた。分析資料は、次のものを用いた。

- 窯跡出土資料 8点： 肥前百間窯、肥前天狗谷窯、上野皆沢窯、上野高浜窯、瀬戸王子窯
消費地資料 49点： 肥前・瀬戸など 本遺跡、五目牛南組遺跡（群馬県佐波郡赤堀町）
景徳鎮・福建広東諸窯など インドネシアの各遺跡

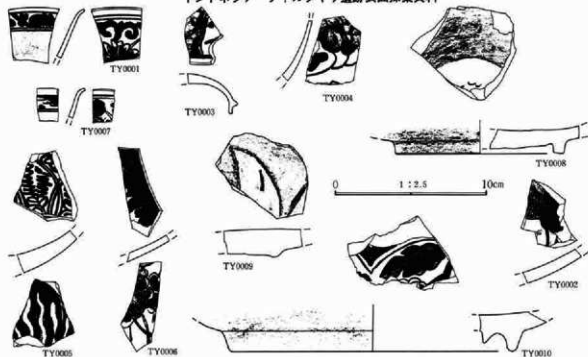
なお消費地資料は、今回窯跡資料と比較できない会津系諸窯そして中国諸窯のものの場合、肉眼での同定が必ずしも的確には行えていない状態で分析をした。そのため、分析報告での産地名称は、やや混乱したままなされたが、内容にかかわるため一部訂正したのみである。そのため最終的な同定による下記の分析資料一覧と分析結果を対比されたい。なお本遺跡出土以外の資料の多くは、次の参考文献に図が掲載されている。

その他に製鉄炉X023遺構出土及び堅穴住居J112遺構出土の鉄滓の成分分析を行った。

参考文献

- 大西雅広 1988：「皆沢焼物場所出土の資料について」『群馬の考古学』、当事業団
大西雅広他1992：「五目牛南組遺跡陶磁器胎土分析」『五目牛南組遺跡』、当事業団
坂井 隆 1988：「北スマトラ、コタチナ遺跡の在土器」『古代集落の諸問題』、玉口雄雄先生古稀記念考古学論文集
1991：「マラッカ海峡沿岸港市の外来文化と伝統生活」『社会科学討究』107、早稲田大学社会科学研究所

インドネシア・ティルタヤサ遺跡表面採集資料



分析資料一覽

分析番号	宮東1	宮東2	宮東3	宮東4	宮東5	宮東6	宮東7	宮東8	宮東9	宮東10	宮東11	宮東12
出土遺跡	STY	STY	STY	STY	STY	STY	STY	STY	STY	STY	KMZ	KMZ
種類	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器
形状	染付碗	染付皿	染付盃	染付鉢	染付鉢	染付皿	染付碗	青磁皿	青磁皿	染付大皿	小片	染付皿
産地	京原鎮	肥前	肥前	福達広東	京原鎮	京原鎮	京原鎮	泉原系	泉原系	京原鎮	上野音沢	上野音沢
遺物番号	TY0001	TY0002	TY0003	TY0004	TY0005	TY0006	TY0008	TY0009	TY0010	GMB521	GMB522	MY1063
年代	17C前	17C後	17C後	17C前	17C後	17C後	17C前	15C	17C後	17C後	19C前	19C前
分析番号	宮東13	宮東14	宮東15	宮東16	宮東17	宮東18	宮東19	宮東20	宮東21	宮東22	宮東23	宮東24
出土遺跡	KSO	KSO	KHH	KHH	KHT	SSP	SSP	SSP	SSP	SGE	KTK	SNM
種類	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器
形状	染付碗	染付碗	染付鉢	染付碗	染付皿	染付皿	染付皿	染付皿	染付碗	染付碗	染付碗	染付碗
産地	瀬戸王子	瀬戸王子	肥前百間	肥前百間	肥前百間	京原鎮	京原鎮	京原鎮	京原鎮	福達広東	上野高浜	肥前
遺物番号	GMB903	GMB904	GMB907	GMB908	GMB909	GMB910	GMB911	GMB912	GMB913	GMB914	GMB915	MY1063
年代	幕末明治前	幕末明治前	17C	17C	17C	16,17C前	17C前	17C後	15,16C	KC17C	19C前	17C前
分析番号	宮東25	宮東26	宮東27	宮東28	宮東29	宮東30	宮東31	宮東32	宮東33	宮東34	宮東35	宮東36
出土遺跡	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM
種類	磁器	磁器	陶器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器
形状	染付皿	染付皿	染付皿	染付碗	染付碗	染付碗	染付皿	染付皿	染付皿	染付皿	染付皿	染付皿
産地	肥前系	肥前	不明	肥前系	肥前	肥前	肥前系	肥前	瀬戸美濃	肥前	肥前	肥前
遺物番号	MY1066	MY1067	MY1065	MY1139	MY1141	MY1145	MY1153	MY1195	MY1197	MY1911	MY1212	MY1215
年代	18C前	17C後?	明治大正	18C後	17C後	18C前	明治	17C後	幕末	17C中	幕末	18C前
分析番号	宮東37	宮東38	宮東39	宮東40	宮東41	宮東42	宮東43	宮東44	宮東45	宮東46	宮東47	宮東48
出土遺跡	SNM	SGM	SGM	SGM	SGM	SGM	SGM	SGM	SGM	SGM	SGM	SGM
種類	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	陶器	磁器
形状	染付皿	染付碗	染付碗	染付皿	白磁壺	染付湯呑	染付碗	染付蓋	染付蓋	染付壺	染付皿	染付皿
産地	肥前	瀬戸美濃	会津?	肥前	会津?	会津?	会津?	瀬戸美濃	瀬戸美濃	瀬戸美濃	上野音沢	上野音沢
遺物番号	MY1216	GM1010	GM1011	GM1049	GM1112	GM1117	GM1127	GM1137	GM1153	GM1161	GM1224	GM1282
年代	18C後	明治初	明治初	18C前	明治?	明治?	明治?	明治初	明治?	明治?	19C前	明治大正
分析番号	宮東49	宮東50	宮東51	宮東52	宮東53	宮東54	宮東55	宮東56	宮東57			
出土遺跡	SGM	SGM	SGM	SBL	SBL	SBL	SBG	SGE	SKC			
種類	磁器	磁器	磁器	磁器	陶器	陶器	土器	土器	土器			
形状	染付鉢	染付碗	染付瓶	染付鉢	染付皿	竜崎小皿	泥瓦精製	泥瓦精製	泥瓦精製			
産地	肥前	不明	京原系?	福達広東	福達広東	江蘇直隸?	不明	福達広東	不明			
遺物番号	GM1285	GM1418	GM1422	BL0001	BL0002	MLK097	MLK099	MLK081	KCN012			
年代	18C前	19C中後	明治	17,18C	17,18C	16~18C	11~13C	17C前	11~13C			
略号	出土遺跡	KHH	肥前百間窟跡	KHT	肥前天狗谷窟跡	KMZ	上野音沢窟跡	KSS	瀬戸王子窟跡			
		KTK	上野高浜窟跡	SBG	パンテン・ギラン遺跡	SBL	パンテン・ラマ遺跡					
		SGE	ギエン遺跡	SGM	五日牛南組遺跡	SKC	コタチナ遺跡	SNM	二之宮宮東遺跡			
		SSP	サムドゥラ・バサイ遺跡	STY	テイルタヤサ遺跡							
		BL	パンテン・ラマ遺跡表探資料(前頁図)									
		GM	「五日牛南組遺跡発掘調査報告書」報告番号									
		GMB	同上 陶磁器胎土分析番号									
		KCN	「北スマトラ、コタチナ遺跡の在土器」報告番号									
		MLK	「マラッカ海峡沿岸市の外来文化と伝統生活」報告番号									
		MY	「二之宮宮東遺跡発掘調査報告書」(本書)									
		TY	テイルタヤサ遺跡表探資料(前頁図)									

B 二之宮宮東遺跡陶磁器胎土分析報告

井上 巖 (第四紀地質研究所)

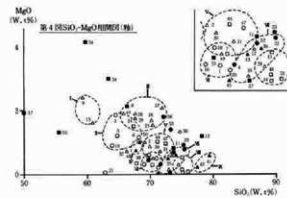
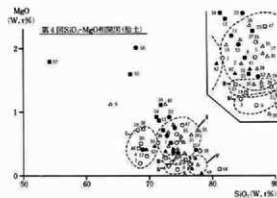
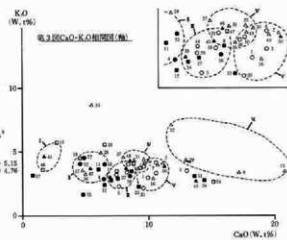
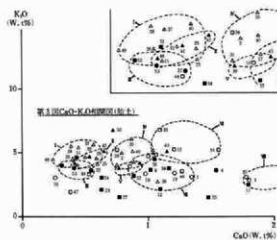
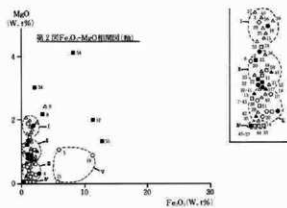
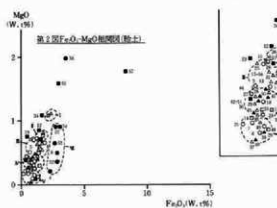
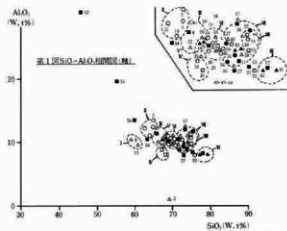
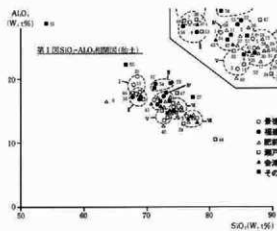
1 実験結果

57点の資料に対しては胎土の部分と表面の軸の部分の両方に対して分析を行なった。分析結果は化学分析表に示す通りである。化学分析は日本電子製JED-2001エネルギー分散型X線分析装置で行なった。実験条件は15KV, WD:20mm, INS:16mm, 倍率:200倍である。

分析結果に基づいて第1図~第4図を作成し、検討した。各図の上段には胎土、下段には軸の分析値に基づく相関図が記載されている。

1) $SiO_2-Al_2O_3$ の相関について

目 目 目



【胎土】 胎土は SiO_2 が68%～78%、 Al_2O_3 が12%～20%の領域にその大半が分布し、I～VIIのグループと“その他”に分類された。Iグループは景德鎮、IIグループは瀬戸美濃と福建広東系、IIIグループは“その他”、IVグループは肥前、福建広東系、“その他”、Vグループは瀬戸美濃、VIグループは肥前、景德鎮、VIIグループは会津、景德鎮、肥前で構成される。

【釉】 釉は SiO_2 が60%～80%、 Al_2O_3 が8%～14%の範囲に分布し、I～IXのグループと“その他”に分類された。Iグループは肥前、IIグループは景德鎮、IIIグループは肥前、IVグループは瀬戸美濃、Vグループは会津、VIグループは景德鎮と肥前、VIIグループは福建広東系、肥前、会津、VIIIグループは瀬戸美濃、IXグループは会津で構成されている。

以上の結果から明らかなように、釉では、景德鎮は明瞭に2グループに分かれるが、福建広東系は1つのグループに集中する。胎土では景德鎮は3つのグループに分散し、福建広東系も2グループに分散する。肥前は胎土、釉ともに3グループに分散し傾向は似ている。会津も胎土、釉ともに3グループに分散する。この様みにてみるとその分布形態は胎土と釉において傾向が類似しているように見受けられる。

2) Fe_2O_3 - MgO の相関について

【胎土】 胎土は Fe_2O_3 が0%～3%、 MgO が0%～1.2%の範囲に分布し、I～VIのグループと“その他”に分類された。Iグループは肥前、IIグループは肥前と瀬戸美濃、IIIグループは景德鎮と瀬戸美濃、IVグループは会津、肥前、瀬戸美濃、Vグループは景德鎮、会津、肥前、VIグループは福建広東系で構成される。

【釉】 釉は Fe_2O_3 が0%～10%、 MgO が0%～2%の範囲に分布し、I～Vグループと“その他”に分類された。Iグループは肥前、IIグループは福建広東系、肥前、瀬戸美濃、IIIグループは景德鎮、肥前、瀬戸美濃、会津で構成される。

以上の結果から明らかなように、胎土では福建広東系は Fe_2O_3 が2～3%と高く、明らかに他とは異質である。肥前は胎土と釉ともに MgO の値が高い。景德鎮は胎土と釉ともに MgO が2%以下の領域と2%以上の領域の2グループと Fe_2O_3 が2%以上の領域に分布する。会津は MgO が1～3%の領域に分布し、比較的集中度がいい。特に胎土では福建・広東系が明瞭に分かれるのが特徴である。

3) CaO - K_2O の相関について

【胎土】 胎土は CaO が0.2%～3%、 K_2O が1～7%の領域に分布し、I～VIIIグループと“その他”に分類された。Iグループは肥前、IIグループは会津、IIIグループは福建広東系、IVグループは肥前、Vグループは会津、VIグループは瀬戸美濃、VIIグループは景德鎮、VIIIグループも景德鎮で構成される。

【釉】 釉は CaO が0～22%、 K_2O が2～7%の領域に分布し、I～VIグループと“その他”に分類された。Iグループは瀬戸美濃、IIグループは福建・広東系、肥前、瀬戸美濃、IIIグループは景德鎮、会津、IVグループは肥前、瀬戸美濃、Vグループは景德鎮、VIグループは肥前で構成される。

以上の結果から明らかなように、景德鎮は胎土と釉ともに2グループに分かれ、福建広東系は1つのグループの形成と他は分散傾向という特徴が認められた。肥前は胎土と釉ともに2グループに分かれる。瀬戸美濃は釉では3グループに分かれるが胎土では1グループを形成し、他は分散する。会津は胎土では2グループに分かれるが、釉では1グループを形成し、他は分散する。景德鎮の胎土は CaO が多く、 K_2O が少なく、肥前の胎土は CaO が少なく、 K_2O が高いという特徴がある。肥前の釉のうちの一部は CaO の値が非常に高いものが認められる。

4) SiO_2 - MgO 相関について

【胎土】 胎土は SiO_2 が68%～80%、 MgO が0～1%の領域に分布し、I～Vグループと“その他”に分類された。Iグループは景德鎮、瀬戸美濃、会津、IIグループは肥前、福建広東系、会津、IIIグループは瀬戸美濃、IVグループは景德鎮、Vグループは会津で構成される。

【釉】 釉は SiO_2 が60%～80%、 MgO が0～2.2%の領域に分布し、I～IXグループと“その他”に分類された。Iグループは肥前、IIグループは景德鎮、IIIグループは肥前、IVグループは会津、Vグループは肥前と瀬戸美濃、VIグループは景德鎮、VIIグループは福建広東系、肥前、VIIIグループは瀬戸美濃、

Ⅲ まとめ

Xグループは会津で構成される。

以上の結果から明らかなように、胎土では肥前の集中度が高く1つのグループを形成する。景德鎮は3グループ、福建広東系は分散、瀬戸美濃は2グループ、会津は3グループに分かれる。これに対して、釉では肥前は4グループ、景德鎮は2グループ、福建・広東系も2グループ、瀬戸美濃も2グループ、会津は3グループに分かれる。釉の方が各土器が各々独自のグループを形成する傾向が認められる。

2 まとめ

SiO₂-Al₂O₃の相関では、景德鎮の胎土は全体に分散傾向が強いが、釉は2グループに集中する。福建・広東系も胎土は分散傾向であるが、釉は1つのグループに集中する。胎土として使われている原石は2～3種類があるように見受けられる。これに対して、釉は景德鎮では2種類、福建広東系では1種類であるように見受けられる。

肥前の胎土は3つのグループを形成し、釉は4つのグループに分散する。瀬戸美濃も胎土は2～3グループ、釉も2～3グループを形成している。会津の胎土は2グループ、釉は3グループを形成している。この様みにてみると、景德鎮、福建広東系、肥前、瀬戸美濃、会津の各陶磁器は各々数種類含まれると考えるのが妥当であろう。

“その他”の土器はこれらの陶磁器とは同じグループを作るのではなく、周辺に分布しており、異質であることがわかる。27は産地不明の近代の陶器であるが、明瞭に分かれて分布している。釉でも同じ傾向がある。54の宜興と57の泥質精製土器も明らかに異質である。54の釉の組成も異質である。

Fe₂O₃-MgOの相関では、福建広東系の胎土が明らかに異質で、景德鎮とは明瞭に分かれている。景德鎮はFe₂O₃の少ない領域で2つのグループを作る。肥前は3グループ、瀬戸美濃は2グループ、会津も2グループに分かれ、SiO₂-Al₂O₃の相関とよく類似していることがわかる。釉では福建広東系はFe₂O₃の低い領域に分布し、あまり明瞭ではない。これに対して景德鎮はFe₂O₃の高い領域に分布するものと低い領域のもので2グループを作る。肥前は3グループ、瀬戸美濃は2グループ、会津も2グループに分かれる。この様な傾向は胎土と類似する。54,55,57の胎土と釉は明らかに異質で、前記のグループとは離れて分布する。

CaO-K₂Oの相関では、景德鎮の胎土は2グループ、福建広東系も2グループ、肥前も2グループ、瀬戸美濃も2グループ、会津も2グループに分かれて分布する。景德鎮の釉は2グループ、福建広東系も2グループ、肥前は3グループ、瀬戸美濃は3グループ、会津は1グループとその他に分かれて分布する。27,54,55,57は胎土、釉ともに異質で、異なる領域に分布する。

C 二之宮宮東遺跡出土鉄滓の化学分析報告

井上 巖 (第四紀地質研究所)

1 分析結果

二之宮宮東遺跡出土の鉄滓2個を二之宮宮下東遺跡出土鉄鉱石と共に日本電子製エネルギー分散型X線分析装置JED-2001で分析した。実験条件は15KV, WD:20mm, INS:16mm, 倍率:200倍で行なった。分析結果は第1表化学分析結果表に示す通りである。分析結果に基づいて第1図Fe₂O₃-SiO₂相関図を作成した。(図と表は、『二之宮宮下東遺跡発掘調査報告書』当事業団に掲載)

二宮-8、9について

試料二宮-8(製鉄炉X023遺構出土 P.212)、二宮-9(堅穴住居J112遺構出土 P.108)は鉄滓である。鉄滓の鉄分の多いところを分析すると二宮-8はFe₂O₃が65.63%、TiO₂が0.45%、CuOが0.21%である。二宮-9はFe₂O₃が65.63%、TiO₂が0.19%、CuOが0%である。

2 まとめ

二宮-8と9は、Fe₂O₃の含有量が65～70%の領域にあり、鉄の粗鉱的である。

3 陶磁器胎土・鉄滓分析

第1表 化学分析表

Oxide	宮東1	宮東1Y	宮東2	宮東2Y	宮東3	宮東3Y	宮東4	宮東4Y	宮東5	宮東5Y
	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	3.910	1.610	0.670	1.470	0.710	1.670	4.130	3.000	1.910	1.720
MgO	0.510	0.290	0.460	1.030	0.150	1.840	0.410	0.300	0.520	1.190
Al ₂ O ₃	16.750	10.230	16.260	10.020	13.490	12.360	16.730	10.560	15.250	13.440
SiO ₂	71.310	70.410	73.110	69.100	72.940	64.790	69.080	71.770	74.440	64.810
K ₂ O	2.820	2.850	4.960	4.000	4.760	3.490	3.530	2.810	3.390	2.260
CaO	1.800	9.960	0.790	11.210	5.150	13.050	1.540	6.420	2.170	7.620
TiO ₂	0.060	0.300	0.000	0.050	0.000	0.120	0.500	0.420	0.000	0.120
MnO	0.060	1.150	0.030	0.170	0.110	0.720	0.220	0.660	0.010	0.640
Fe ₂ O ₃	1.280	1.670	1.230	1.230	1.010	1.070	2.270	2.660	0.740	5.870
CoO	0.200	0.080	0.080	0.300	0.000	0.190	0.280	0.000	0.000	0.010
CuO	0.100	0.330	0.430	0.510	0.000	0.170	0.000	0.320	0.200	1.140
SnO ₂	0.000	0.180	0.810	0.700	0.740	0.000	0.340	0.470	0.380	0.470
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.080	0.980	1.140	0.850	0.940	0.530	0.970	0.610	0.980	0.710
SO ₂										
Total	100.000	100.020	99.990	100.840	100.000	100.000	100.000	100.000	99.990	100.000
Oxide	宮東6	宮東6Y	宮東7	宮東7Y	宮東8	宮東8Y	宮東9	宮東9Y	宮東10	宮東10Y
	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	1.500	2.620	4.040	2.110	0.000	0.960	2.380	0.000	1.440	0.400
MgO	0.090	1.170	0.180	0.470	0.500	2.150	1.090	2.440	0.700	0.280
Al ₂ O ₃	16.100	9.720	17.610	9.560	14.700	11.430	16.370	10.210	19.030	10.950
SiO ₂	74.310	69.170	68.540	70.870	73.410	66.290	63.840	59.270	68.180	69.150
K ₂ O	4.670	4.070	2.980	3.270	3.670	3.400	6.350	3.300	3.910	3.860
CaO	1.000	10.590	1.340	10.600	1.020	8.760	2.350	17.190	0.850	9.650
TiO ₂	0.080	0.000	0.000	0.000	0.130	0.180	0.290	0.730	0.180	0.000
MnO	0.000	0.050	0.380	0.080	0.090	0.420	0.280	0.630	0.290	1.740
Fe ₂ O ₃	0.900	0.390	0.490	0.730	2.870	3.200	2.000	3.700	0.960	2.110
CoO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.410	0.110	0.580	0.530	0.410	0.000
CuO	0.680	0.410	1.250	0.770	1.290	1.650	1.350	0.000	0.950	0.000
SnO ₂	0.210	0.570	1.580	0.330	1.040	0.990	2.550	0.000	1.790	0.290
HgO	0.000	0.000	0.290	0.600	0.000	0.000	0.000	0.250	0.170	0.240
PbO	0.480	1.250	1.310	0.600	0.860	0.450	0.560	1.770	1.150	1.320
SO ₂										
Total	100.000	100.010	99.990	99.980	99.990	99.990	100.000	100.020	100.010	99.990
Oxide	宮東11	宮東11Y	宮東12	宮東12Y	宮東13	宮東13Y	宮東14	宮東14Y	宮東15	宮東15Y
	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	1.390	2.870	0.460	1.430	2.720	3.060	2.060	2.310	0.680	0.930
MgO	0.720	0.820	0.850	1.220	0.290	0.560	0.210	0.030	0.610	1.580
Al ₂ O ₃	16.480	8.740	19.170	8.270	16.750	9.820	13.840	10.820	15.990	9.630
SiO ₂	72.240	73.770	71.600	78.190	69.560	75.010	73.390	75.170	74.900	60.910
K ₂ O	2.430	3.520	2.100	2.330	5.250	5.720	5.240	4.410	3.990	3.370
CaO	1.790	6.010	1.090	6.470	1.200	2.720	1.560	4.560	0.330	20.840
TiO ₂	0.000	0.280	0.460	0.000	0.000	0.000	0.400	0.080	0.060	0.100
MnO	0.490	0.100	0.100	0.440	0.000	0.530	0.310	0.070	0.000	0.270
Fe ₂ O ₃	1.410	1.340	1.350	0.610	1.360	0.450	0.480	1.300	1.410	1.500
CoO	0.170	0.000	0.150	0.000	0.000	0.250	0.000	0.000	0.000	0.000
CuO	0.580	0.750	0.000	0.000	0.250	0.030	0.280	0.000	0.000	0.000
SnO ₂	1.040	0.230	1.520	0.000	1.540	0.740	0.860	0.120	0.840	0.000
HgO	0.000	0.050	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.290	1.550	1.140	1.030	1.090	1.090	1.370	1.020	1.060	0.860
SO ₂										
Total	99.980	100.010	99.990	99.990	100.010	100.010	100.000	99.990	100.000	99.990
Oxide	宮東16	宮東16Y	宮東17	宮東17Y	宮東18	宮東18Y	宮東19	宮東19Y	宮東20	宮東20Y
	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	0.530	0.700	1.000	2.290	0.560	1.860	0.420	0.760	2.450	2.690
MgO	0.620	1.660	0.540	0.610	0.370	0.600	0.650	0.860	0.490	0.200
Al ₂ O ₃	16.820	11.030	14.100	12.490	13.810	10.420	16.090	11.050	20.340	10.010
SiO ₂	71.870	70.240	74.900	73.460	78.110	69.910	74.320	63.910	68.620	71.370
K ₂ O	5.180	2.750	4.200	3.480	3.310	3.430	3.430	3.120	2.970	2.150
CaO	1.040	10.370	0.690	4.770	0.980	8.300	1.210	7.440	1.770	9.620
TiO ₂	0.210	0.150	0.100	0.060	0.100	0.070	0.180	0.180	0.000	0.130
MnO	0.000	0.280	0.090	0.080	0.000	1.510	0.080	0.160	0.000	0.130
Fe ₂ O ₃	1.430	1.610	1.620	1.540	1.000	2.080	1.830	11.180	1.310	1.210
CoO	0.070	0.000	0.000	0.060	0.000	0.250	0.000	0.000	0.000	0.010
CuO	0.400	0.010	0.600	0.000	0.000	0.240	0.000	0.240	0.500	0.240
SnO ₂	0.610	0.140	0.660	0.370	0.390	0.310	0.680	0.210	0.500	0.120
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	1.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.230	1.070	1.310	0.780	1.370	1.030	1.110	0.910	0.960	1.090
SO ₂										
Total	100.010	100.010	100.010	99.990	100.000	100.010	100.000	100.000	100.000	99.990

III まとめ

Oxide	宮東21	宮東21Y	宮東22	宮東22Y	宮東23	宮東23Y	宮東24	宮東24Y	宮東25	宮東25Y
	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	2.250	3.950	0.170	0.250	1.350	1.310	1.060	0.850	0.090	0.800
MgO	0.170	0.000	0.900	0.790	0.750	0.890	0.250	1.460	0.690	1.530
Al ₂ O ₃	14.000	12.180	17.700	11.640	19.120	8.270	13.020	8.850	14.240	9.860
SiO ₂	76.440	62.890	73.180	75.500	74.060	75.380	75.830	67.340	77.510	70.500
K ₂ O	2.990	3.930	3.540	4.380	2.040	2.220	4.860	2.600	4.090	4.310
CaO	0.250	8.430	0.530	4.850	0.620	9.210	1.060	15.110	0.590	9.650
TiO ₂	0.410	2.710	0.080	0.130	0.180	0.230	0.090	0.000	0.150	0.110
MnO	0.190	0.000	0.240	0.090	0.270	0.000	0.000	0.710	0.000	0.670
Fe ₂ O ₃	0.130	5.620	2.790	1.190	0.390	0.870	0.950	1.220	0.750	0.730
CoO	0.360	0.000	0.000	0.000	0.000	0.030	0.000	0.610	0.000	0.070
CuO	1.080	0.000	0.000	0.010	0.000	0.400	0.450	0.460	0.220	0.500
SnO ₂	0.650	0.000	0.440	0.010	0.140	0.000	0.820	0.430	0.600	0.270
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.030	0.290	0.420	1.170	1.070	1.220	1.610	0.370	1.100	1.010
SO ₂										
Total	100.000	100.000	99.990	100.010	99.990	100.000	100.000	100.010	100.000	100.010

Oxide	宮東26	宮東26Y	宮東27	宮東27Y	宮東28	宮東28Y	宮東29	宮東29Y	宮東30	宮東30Y
	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	1.180	1.520	0.760	5.950	0.570	1.410	0.490	0.550	0.640	1.400
MgO	0.620	1.900	0.380	0.000	0.400	0.290	0.340	1.740	0.280	0.860
Al ₂ O ₃	13.160	11.030	16.970	8.090	15.280	9.420	15.560	9.250	14.800	10.100
SiO ₂	76.520	67.890	77.440	72.980	74.400	74.480	75.470	67.730	74.750	69.920
K ₂ O	4.500	3.630	1.470	3.050	5.470	4.900	4.500	4.340	5.600	4.270
CaO	0.390	9.240	0.760	7.460	0.380	6.260	0.590	13.010	0.560	10.040
TiO ₂	0.030	0.190	0.310	0.300	0.330	0.000	0.220	0.110	0.040	0.180
MnO	0.090	1.090	0.000	0.000	0.090	0.960	0.220	0.250	0.220	0.080
Fe ₂ O ₃	1.280	2.300	0.400	0.170	0.580	0.830	0.580	1.520	0.750	0.860
CoO	0.000	0.010	0.000	0.000	0.020	0.020	0.000	0.000	0.000	0.000
CuO	0.360	0.140	0.130	0.360	0.230	0.270	0.340	0.130	0.540	0.800
SnO ₂	0.640	0.210	0.250	0.410	1.270	0.000	0.560	0.470	0.830	0.230
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.240	0.840	1.120	1.230	0.890	1.160	1.130	0.900	0.980	1.260
SO ₂										
Total	100.010	99.990	99.990	100.000	99.990	100.000	100.000	100.010	99.990	100.000

Oxide	宮東31	宮東31Y	宮東32	宮東32Y	宮東33	宮東33Y	宮東34	宮東34Y	宮東35	宮東35Y
	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	0.140	0.790	0.510	1.130	0.950	0.310	0.950	1.320	0.430	0.510
MgO	0.520	0.750	0.000	0.700	0.280	0.070	1.090	3.010	0.290	0.080
Al ₂ O ₃	15.110	9.920	15.200	10.070	14.980	7.910	16.120	10.450	14.460	8.320
SiO ₂	75.370	71.370	75.490	66.170	72.460	76.050	71.920	65.540	74.190	73.070
K ₂ O	3.930	4.340	4.620	7.100	6.240	5.510	3.720	2.700	6.040	8.560
CaO	0.750	8.920	0.510	11.850	1.090	6.470	1.160	14.360	0.870	5.490
TiO ₂	0.130	0.000	0.000	0.050	0.380	0.130	1.700	0.520	0.390	0.350
MnO	0.000	0.380	0.130	0.180	0.000	0.220	0.050	1.350	0.000	0.000
Fe ₂ O ₃	1.460	1.920	0.470	1.160	0.880	1.000	1.600	1.970	0.800	0.930
CoO	0.000	0.000	0.010	0.090	0.000	0.000	0.000	0.140	0.000	0.200
CuO	0.220	0.080	1.030	0.000	0.160	0.310	0.000	0.300	0.270	0.330
SnO ₂	0.930	0.420	0.810	0.560	1.020	0.890	0.550	0.000	1.280	1.040
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.440	1.130	1.210	0.940	0.970	1.130	1.140	0.340	1.020	1.120
SO ₂										
Total	100.000	100.000	99.990	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.010	100.000

Oxide	宮東36	宮東36Y	宮東37	宮東37Y	宮東38	宮東38Y	宮東39	宮東39Y	宮東40	宮東40Y
	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	0.370	1.490	0.870	0.280	2.090	1.880	1.360	1.790	1.280	2.780
MgO	0.790	1.330	0.660	2.060	0.720	0.380	0.120	0.580	1.100	1.880
Al ₂ O ₃	17.150	11.130	15.520	10.270	17.850	8.130	13.830	9.950	12.630	12.180
SiO ₂	73.880	74.680	72.860	72.070	69.070	67.810	76.660	74.220	72.700	65.910
K ₂ O	2.590	3.190	5.330	4.500	5.240	3.710	3.820	2.890	5.090	3.950
CaO	1.070	5.030	0.440	8.050	0.750	9.350	0.760	6.940	0.870	10.680
TiO ₂	0.460	0.140	0.000	0.110	0.330	0.410	0.240	0.150	0.910	0.000
MnO	0.080	0.130	0.000	0.380	0.200	0.200	0.500	0.020	0.140	0.400
Fe ₂ O ₃	1.700	1.670	1.790	0.770	1.200	0.880	1.000	0.630	2.310	1.170
CoO	0.000	0.090	0.000	0.000	0.140	0.000	0.130	0.450	0.150	0.000
CuO	0.340	0.130	0.250	0.060	0.600	0.000	0.000	0.950	0.660	0.000
SnO ₂	0.370	0.070	1.210	0.640	0.590	0.000	0.420	0.040	1.660	0.000
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.160	0.000	0.000
PbO	1.200	0.910	1.060	0.800	1.220	7.250	1.170	1.230	0.510	1.040
SO ₂										
Total	100.000	99.990	99.990	99.990	100.000	100.000	100.010	100.000	100.010	99.990

3 陶磁器胎土・鉄薄分析

Oxide	宮東41 W t %	宮東41Y W t %	宮東42 W t %	宮東42Y W t %	宮東43 W t %	宮東43Y W t %	宮東44 W t %	宮東44Y W t %	宮東45 W t %	宮東45Y W t %
Na ₂ O	1.130	1.130	1.970	0.950	2.420	2.020	0.890	1.460	0.450	0.570
MgO	0.390	0.630	0.360	0.210	0.470	0.480	0.100	1.020	0.270	0.000
Al ₂ O ₃	14.800	8.010	15.540	8.010	16.000	9.720	10.470	10.190	13.990	9.730
SiO ₂	74.070	79.520	72.510	77.370	70.800	72.930	80.970	71.150	77.250	71.310
K ₂ O	4.570	4.610	5.060	3.590	5.090	3.670	3.360	3.440	4.180	2.670
CaO	0.520	1.660	0.640	5.340	1.150	8.200	0.530	7.450	0.930	13.850
TiO ₂	0.320	0.140	0.410	1.670	0.290	0.310	0.110	0.130	0.300	0.120
MnO	0.030	0.250	0.190	0.090	0.080	0.000	0.230	0.190	0.000	0.220
Fe ₂ O ₃	1.200	0.630	0.930	0.790	1.130	0.710	1.040	1.530	0.750	0.280
CoO	0.000	0.000	0.000	0.070	0.000	0.300	0.000	2.240	0.040	0.200
CuO	0.650	0.610	0.250	0.070	0.320	0.390	0.270	0.080	0.420	0.000
SnO ₂	0.820	1.070	0.920	0.240	1.020	0.000	0.670	0.000	0.550	0.220
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.010	0.000	0.000
PbO	1.500	1.730	1.220	1.610	1.230	1.270	1.370	1.110	0.880	0.820
SO ₂										
Total	99.990	99.990	100.000	100.010	100.000	100.000	100.010	100.000	100.010	99.990
Oxide	宮東46 W t %	宮東46Y W t %	宮東47 W t %	宮東47Y W t %	宮東48 W t %	宮東48Y W t %	宮東49 W t %	宮東49Y W t %	宮東50 W t %	宮東50Y W t %
Na ₂ O	5.160	6.140	0.000	0.230	1.040	1.760	0.130	0.270	1.940	0.860
MgO	0.400	0.060	0.780	0.950	0.030	0.170	0.170	0.510	0.410	0.970
Al ₂ O ₃	17.730	11.240	17.740	10.700	13.290	10.430	14.220	9.850	17.520	10.980
SiO ₂	68.300	75.130	74.880	72.400	78.140	67.870	77.490	70.760	69.160	68.330
K ₂ O	3.620	3.480	1.920	4.140	4.080	4.110	4.410	4.010	6.820	3.910
CaO	1.260	1.540	0.370	8.840	0.420	8.670	0.240	9.710	0.720	11.280
TiO ₂	0.820	0.000	0.950	0.120	0.090	0.130	0.140	0.090	0.230	0.050
MnO	0.000	0.020	0.180	0.000	0.000	0.520	0.000	0.000	0.000	0.390
Fe ₂ O ₃	0.660	0.750	1.610	1.070	0.590	1.450	0.880	1.080	0.770	2.110
CoO	0.040	0.100	0.000	0.160	0.000	3.070	0.060	0.190	0.000	0.030
CuO	0.460	0.090	0.100	0.290	0.650	0.130	0.270	0.250	0.410	0.110
SnO ₂	0.450	0.490	0.490	0.160	0.610	0.280	0.700	0.090	1.110	0.190
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.120	0.960	0.980	0.930	1.070	0.840	1.290	3.210	0.880	0.800
SO ₂										
Total	100.020	100.000	100.000	99.990	100.010	100.020	100.000	100.020	99.970	99.990
Oxide	宮東51 W t %	宮東51Y W t %	宮東52 W t %	宮東52Y W t %	宮東53 W t %	宮東53Y W t %	宮東54 W t %	宮東54Y W t %	宮東55 W t %	宮東55Y W t %
Na ₂ O	0.620	0.270	0.290	0.410	0.060	0.070	0.670	1.480	0.290	0.580
MgO	0.380	0.440	0.340	0.740	0.650	1.410	0.900	4.170	1.580	1.290
Al ₂ O ₃	16.440	10.450	15.090	12.370	17.470	9.600	18.580	13.470	22.160	19.620
SiO ₂	73.940	69.760	74.680	73.800	72.830	73.240	71.200	59.930	66.910	55.610
K ₂ O	4.560	2.980	4.100	4.000	3.800	3.980	3.010	2.750	1.480	1.580
CaO	0.420	13.620	0.310	4.820	0.410	6.520	0.630	6.970	1.470	4.750
TiO ₂	0.190	0.190	0.640	0.120	0.520	0.110	0.620	0.990	1.170	1.830
MnO	0.160	0.030	0.030	0.210	0.010	1.970	0.080	2.050	0.440	0.300
Fe ₂ O ₃	0.720	0.880	2.810	1.410	2.680	1.060	2.980	8.190	2.950	12.720
CoO	0.000	0.000	0.040	0.080	0.010	0.280	0.000	0.000	0.040	0.000
CuO	0.630	0.080	0.290	0.340	0.540	0.250	0.320	0.000	0.140	0.000
SnO ₂	0.740	0.060	0.250	0.640	0.210	0.560	0.050	0.000	0.180	0.000
HgO	0.000	0.000	0.000	0.030	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.200	1.230	1.130	1.230	0.820	0.950	0.980	0.000	1.190	1.730
SO ₂										
Total	100.010	99.990	100.000	100.000	100.010	100.000	100.000	100.000	100.000	100.010
Oxide	宮東56 W t %	宮東56Y W t %	宮東57 W t %	宮東57Y W t %						
Na ₂ O	1.570	1.540	0.250	0.570						
MgO	1.990	1.810	1.780	1.990						
Al ₂ O ₃	17.280	8.670	28.690	30.320						
SiO ₂	67.980	72.170	54.210	49.690						
K ₂ O	4.620	3.090	3.130	3.110						
CaO	1.050	8.530	0.880	0.810						
TiO ₂	0.240	0.060	1.140	1.370						
MnO	0.080	0.940	0.260	0.320						
Fe ₂ O ₃	3.510	1.830	8.330	11.240						
CoO	0.000	0.420	0.000	0.000						
CuO	0.400	0.000	0.460	0.240						
SnO ₂	0.470	0.000	0.470	0.160						
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000						
PbO	0.800	0.930	0.390	0.180						
SO ₂										
Total	99.990	99.990	99.990	100.000						

4 土坑D124号遺構出土馬歯について

宮崎 重雄

本資料は、馬の左第三後臼歯である。赤っぽい色をしているのは、土坑の中に投入する前に、何等かの理由があって人工的に着色したのか、埋存中に酸化鉄等で変色されたのか検討してみる必要がある。

この歯は保存状況が極めて良好で、単独で投入されたことは疑いない。もし歯の生えた下顎あるいは顎蓋骨をそのまま投入したとすれば、この歯の保存状況からして、他の部分が残らないはずはない。

歯髓腔内には水性堆積物と思われる砂粒が付着しており、おそらく土坑の埋土でなく、井戸などの底に埋まっていたもの、すなわち、井戸の使用時に投入されたものと考えられ、何か意図をもって投入されたものであろう。

この歯は、顎の最も奥に生えていて、生きている馬から引き抜くことはできない。死んで白骨化した下顎骨からならば、臼歯はごく簡単に引き抜くことができるが、歯肉のついたままの下顎からは、顎を壊すか、ベンチのようなもので強力な力を加えて抜き取るかするしかなく、そのときには歯にも破損が及ぶ可能性が高い。出土した歯の近心側（前側）の頰側（外側）と歯根部に破損があるのは、この時の傷の疑いもあり、この傷跡を詳しく検討して見る必要がある。これを歯の抜去時の傷跡とみるならば、上記の理由で生きた馬から引き抜くことができないのであるから、馬を殺して抜き取ったと考えるしかなく、その意図を推測した場合、江戸時代のものといえども、動物犠牲との関連が強く浮かび上がってくる。

この歯は第三大白歯でありながら、舌側歯冠高が41.0mmあり、咬耗はあまり進んでいない。この歯冠高からは、馬の年齢は10~13才程度の壮令馬で、老衰で死亡する年齢にはまだ達してはいない。歯の大きさからは体高120~130cmほどが推定される。これは日本在来馬に照らすと小型馬と中型馬の中間的なものである。歯の舌側には歯根部から28.3mmの所に前後（近遠心）に走る溝があり、これは1種の Hypoplasia と考えられ、幼令馬の頃に栄養障害のあった可能性を示している。

下顎左第三後臼歯計測値（単位mm）

歯冠長	28.6	歯冠幅	11.2
歯冠高 頰側	39.4		
舌側	41.0		
下後錘谷長	—	下内錘谷長	9.9
double knot 長	12.2	咬合面の傾斜	75°
下内錘幅	3.7		

5 プラント・オパール分析報告

古環境研究所

A はじめに

浅間Bテフラの下層から水田跡と見られる面 (N204遺構 P.175) が検出されていた。この面の稲作の分析的検討を主目的として分析を行った。

現地調査は、昭和61年6月24日に行った。試料の採取は、ABC3箇所です掘調査担当者が行った層位区分に従い、採土管ならびにポリ袋を用いて各層ごとに5~10cm間隔で行った。

B 分析結果

イネ・キビ族 (ヒエなど) ・ヨシ属・タケ亜科 (竹笹類) ・ウシクサ族 (ススキなど) について同定・定量を行い、数値データを表に示した。イネ・ヨシ属・タケ亜科について、植物生産量を推定し、図にグラフで示した。

試料名	イネ (O.sati)	キビ族 (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ亜科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Andro.)
A 4層	1,743	0	0	7,803	1,734
5層	3,041	0	760	29,646	3,801
6-1層	1,596	798	1,596	27,932	4,788
6-2層	2,190	0	2,190	27,006	3,650
B 1層	5,471	0	2,052	12,993	684
2層	4,760	0	680	10,881	4,080
3層	2,944	0	981	11,774	3,925
4層	879	0	0	6,150	879
5層	2,044	0	2,044	26,571	3,407
6層	0	0	627	26,314	1,253
C 4層	0	0	0	6,749	0
5層	1,248	0	1,872	29,949	1,248
6層	0	0	634	24,722	2,536

C 考察

(1) 稲作の可能性について

土層は、1~6層の6層に分層された。このうち、4層は浅間Bテフラを含む層であり、5層はその直下層である。

分析の結果、5層からはABC全ての地点でイネのプラント・オパールが検出された。プラント・オパール密度は1,000~3,000個/ccと少ないものの、4層よりは多いため上層からプラント・オパールが混じりこんだことは考えにくい。このことから、同層で稲作が行われていた可能性があるが、当時の周辺水田からプラント・オパールが流れ込んだことも考えられる。

6層からは、A地点を除いてイネのプラント・オパールは全く検出されなかった。A地点は、溝状の遺構の内部であるため、人為的な攪乱によってプラント・オパールが混じり込んだものと考えられる。

(2) 稲穂生産量の推定

藤原宏志による植物生産量の推定方法により、稲穂の生産総量 (面積10a当たり換算) を算出した。また、当時の年間収量を100kg/10aであったと仮定して、稲作の行われていた期間を推定した。

地点	層位	生産総量 (t/10a)	期間 (年間)
A	5	3.7	37
B	5	1.7	17
C	5	1.5	15

以上のように、5層ではA地点でおよそ40年間、BC地点でおよそ15年間と比較的短期間であることが推定された。なお、この推定は、あくまでも目安として考えられたい。

6 古代から近世への土地利用

A 時期別の変遷

今回の調査で検出された遺構は、これまで報告してきたように長い時代にまたがった多種類のものが見られた。ほとんど遺物のみしか検出されなかった縄文・古墳時代を除いて、時代ごとの年代が想定できる検出遺構の変化により、宮東地区の土地利用変化を考えてみたい。

1. 9世紀まで

西側部分と東側部分の両方に堅穴住居集落が、形成された。両者の間は320mほどの距離がある。

無名川に沿う西側部分では低地にあまり広くない水田(N203遺構)も営まれると共に、鍛冶専門の作業堅穴(J112遺構)が見られる。ここではかなり集中して鉄斧などを生産していたようで、この集落は稲作を含めた農業生産以外の比重が大きかった可能性が考えられる。水田中から出土した二彩陶片は、二之宮赤城神社との何らかの関係を想定せざるをえない。

東側部分では、すでに古墳時代より江竜川の流が少なくとも2回の変化があった。この時期には、東側の流路(M201遺構)が新たに大きな流れとして現れたが、西側の古くからの流路(M202遺構)も残っていた。出水期にはかなり水の影響を受けていた川沿いに堅穴住居集落が出現した。それは、新たな流路の誕生と関係があっただろう。西側に比べ、あまり際立った特徴の少ない集落である。

2. 10世紀

西側部分と東側部分の堅穴住居集落が発展する。

西側部分の集落は、前代の鍛冶堅穴とは離れて、水田低地のすぐ南側台地に近接した状態で堅穴住居が建てられる。やや人口が増えた可能性があり、生業は鍛冶産業の痕跡がほぼ消えてしまう。

東側の集落は、大きく変化を上げる。まず堅穴住居の範囲が東西100mまで広がり、そして北側では掘立柱建物が建設され始める。そして突然、製鉄炉遺構(X023遺構)が生まれている。これは、前代に西側にあった鍛冶産業が移転してきた可能性が考えられる。

またこの時期の終わりには東側の江竜川の流れのさらに東側に新たな流路(M101遺構)が出現している。

3. 11世紀

東側部分で水路の築造が盛んになる。

西側部分の集落は、集中度がかなり低くなり、人口が低下したと思われる。

これに対し東側の集落は、江竜川から西に少し離れて堅穴住居や掘立柱建物が60×60mほどの範囲でまとまって見られようになる。同時に最も古くからあった最西端の流路(M202遺構)から、南西方向への長大な水路(M018遺構)が掘削されている。この水路の先では、北から(M030遺構)と北西から(M020遺構)の2条の水路が合流しており、調査範囲の南側に想定される農地に向けての統合的な大規模な灌漑施設と考えられる。

4. 12世紀

東側部分で水路建設が繰り返され、中央部分では居館が築造される。

この時期の初めにあった浅間山の噴火により大きな被害があったが、東側部分での変化はそれほど劇的なものではないようだ。噴火により堅穴住居集落は移転し、小規模な水田(N204遺構)が壊滅するが、前代からの大規模水路はさらに何回も掘り代えされる。北東から南西に向けて流れていた水路は全体に40mほど北西に移動して同方向の水路(M003遺構)が築かれ、南方向に移転した可能性が考えられる集落を囲んでいたかもしれない方形の溝(M013遺構)が作られる。しかし、江竜川の流路がまた大きく変わったことにより、今度は南北走向の水路(M001遺構)が新しく掘られることになる。この水路の取水口は、居館の堀と推定される江竜沼である。

そして水路群の西の中央部分では、大規模な居館が形成され始めた。前述の北東からの水路(M0

0 3 遺構)の廃棄に伴い、その南側(M017遺構)に向けての堀(M014遺構)が掘られる。さらにその西にはこの時期から14世紀までに礎石建物(J005遺構)掘立柱建物群と池を持つ庭園(X012遺構)が誕生していた可能性がある。

この居館の主は、早くから高価な中国陶磁を所有できる財力があつた。

5. 13・14世紀

居館はさらに大規模に群をなし、中央部分だけでなく西側部分まで範囲に取り込む。

200m近くも直線状に東西に走る2本の堀(M040、M050、M065遺構)そして西側で両者を南北に結ぶ堀(M064遺構)が掘削される。北側の堀には土橋があり、現在の無量寿寺の本堂付近に一つの中心的な建物群が存在したと思われる。また南側の堀が東端で壁の手にさらに南に向かうことから、これらの堀は単独の中心を同心円的に囲むのではなく、有機的な関係のある複数の中心の外郭の結合体として考えられる。

調査範囲内では、前代からの庭園を持つ建物群を除いて、中心部分があつていないため、これらの居館の性格特に居住状況はあまり明確ではない。ただこれらの堀がその後長くこの地域の社会のあり方と大きく関係していたことは間違いない。

6. 15・16世紀

中央部分北側で居住が始まる。居館群東端に南北走向の道路が生まれる。

居館群の東端部では、従来の堀に加えて内側に平行してもう1条の堀(M022遺構)が掘られ、その間は南北に走る道路となった。また庭園部分でも新たな池(X013遺構)が掘られ居住が続いている。しかし、北側の範囲外に瓦葺建物を含む新たな居住施設が生まれたようで、上記堀に接した北側では、井戸の築増が始まっている。

東側部分で12世紀末以来使われてきた南北走向の水路(M001遺構)は、15世紀中に基本的に廃棄されている。

7. 17世紀

中央部分で大池と筑波山が築増され、西側での居住と東側での畠作が始まる。

今回の調査での最大の遺構である池跡(X011遺構)が中央部分で掘削され、その廃土をもって筑波山の形が整えられた。筑波山は、この時期以前にすでに低い塚であった可能性が高いが、現在見られるような載頂ピラミッド形の形状は、大池の造成に伴って生まれている。極めて大規模な工事であり、また大池内部には庭園的景観を構成する橋も架けられていることから、強い権力的な意志によるものと考えられる。関東特に農村地帯ではかなり珍しいこの時期の中国陶磁や肥前陶磁が、少なからず出土していることは、その反映であろう。それは、前橋藩主酒井家とつながった無量寿寺の可能性が高い。

西側部分では南側堀の南側で居住が始まっている。特に西端部では、区画溝で囲まれた掘立柱建物群で構成される明瞭な屋敷地が生まれている。また堀はようやく機能を止めようとしており、最初に南北走向のものが埋められた。

東側部分での畠作が開始されている。

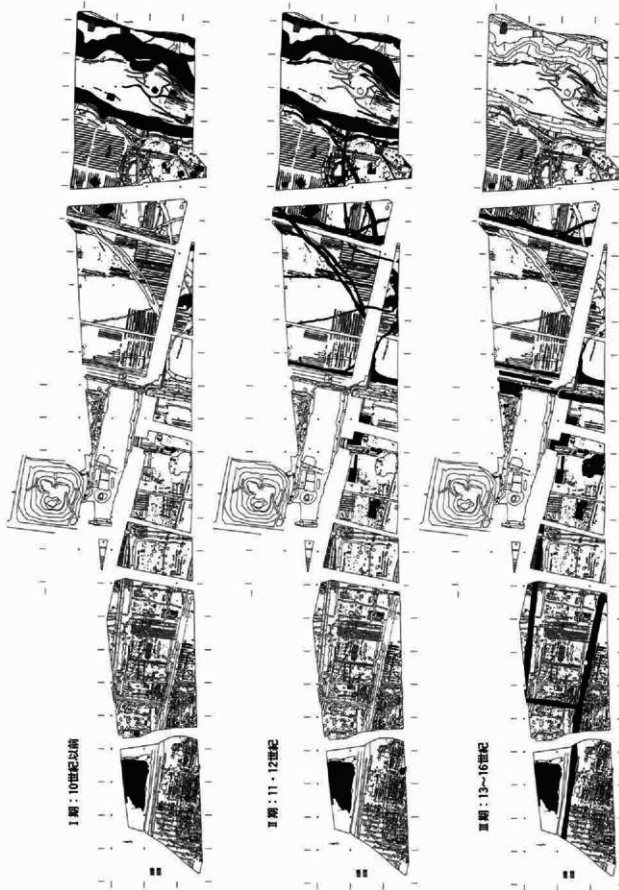
8. 18世紀

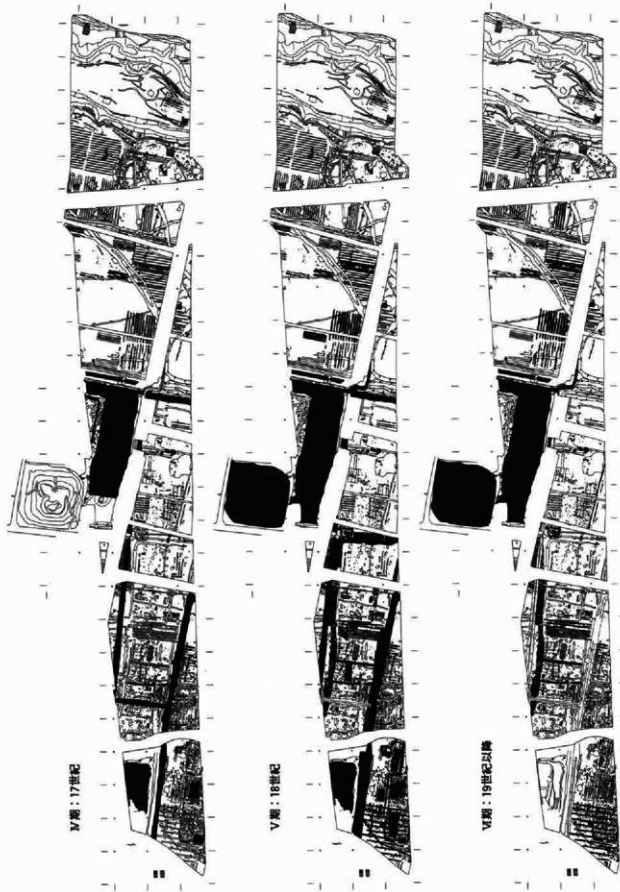
西側部分で無量寿寺参道と堀の廃棄があり、中央部分での池、東側での畠地の拡大が見られる。

最も劇的な変化は、長年この地域の中心であった無量寿寺本堂への参道が墓地(X021遺構)が形成されたことである。そしてそれに伴い2条の東西走向の堀も埋められる。ただこれらの堀に沿って道路が生まれており、前代南側から始まった屋敷地の造成は、東西の旧堀及び道路の走向に大きく規制されている。

屋敷地は、いづれも多くの井戸を掘っており、単に一般的な生活用水の汲み上げ以上の役割も考えられる。建物は、東西棟の掘立柱建物で、他地域と同じように膨大な量の陶磁器の使用が見られる。一部墨書されたものもあることから、これらの屋敷の居住者は寺とのつながりも残っていたのだろう。

III まとめ





Ⅲ まとめ

池は西側が拡大され、東へ延びる用水路（M016遺構）の取水口になるなど、用水池としての役割が強まった。同時に、中島への供養塔婆などの供献、そして筑波山への庚申塔の献納など、民間信仰の中心的な聖域としての要素も極めて強まった。

東側部分では、大規模な畠作が展開している。

9. 19世紀以降

西側部分の畠地化。

前代に居住が拡大した西側部分は、一転して全体が急激に畠地化している。東西走向の道路遺構（X001遺構）とこれに接した部分に小規模な居住の痕跡が見られるだけで、大部分は畠地に転じている。前代の居住者たちが、一般的な農民ではなかったかもしれないことと関係するだろうか。

東側部分ではさらに、大規模な畠作が拡大している。

两部分でのそれらの景観は、その後現在までほぼ継続した。

以上をまとめれば、Ⅰ期. 製鉄・鍛冶集落時代（9,10世紀）、Ⅱ期. 用水施設時代（11,12世紀）、Ⅲ期. 居館時代（13~16）、Ⅳ期. 大池時代（17世紀）、Ⅴ期. 屋敷地時代（18世紀）、Ⅵ期. 畠作時代（19世紀以降）のような区分に大別することができる。

B 井戸・水路及び池の水利について

調査で検出された井戸跡は、計58基に達する。井戸跡としたものは、土坑の中で円筒形の断面形を持ち、底の深さが2m以上か、側面に湧水痕が残るものをさしている。これらは、埋没年代別に次のように分類できる。

	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	Ⅴ期	Ⅵ期	不明	計
西側部分	1	0	0	2	12	4	19	38
中央部分	0	0	4	0	0	0	12	16
東側部分	0	1	0	0	1	0	2	4
合計	1	1	4	2	13	4	33	58

即ち、全体の半分ほどが西側部分で発見されており、その中心はⅤ期になる。一方、全体の3割ほどを占める中央部分の中心は、Ⅲ期になる。もちろん、それは各部分の居住時期に重なっている。ただ、比較的多くの堅穴住居集落が展開したⅠ期とⅡ期のものが少ないのは、生活用水を井戸ではなく水路や川の流路に依存していたためだろう。

次に時期別に湧水層の深さを海拔高度ごとに分類すると次のようになる。（ ）内は湧水層が不明のもの底の深さ。Ⅴ期及び時期不明の各1基は、二つの水位がある。

	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	Ⅴ期	Ⅵ期	不明	計
85.0m以上	0	0	0	0	2	0	0	2
86.0m以上	0	0	0	0	4	2	1	7
87.0m以上	1	0	0	0	6	1	5(1)	13(1)
88.0m以上	0	0	2	0(1)	1(1)	0	11(2)	14(4)
89.0m以上	0	0	1	1	0	1	11	14
90.0m以上	0	0	0	0	0	0	2	2
水位不明	0	1	1	0	0	0	1	3
合計	1	1	4	1(1)	13(1)	4	31(3)	55(5)

以上のように湧水層の深さは、海拔87.0~89.9mの間に集中している。時期不明のものが多く古いもので水位が分かるものが少ないため必ずしも明瞭ではないが、時期的にはⅠ期は87.0m~87.9m、Ⅲ期は88.0~89.9mに分布している。量的に最大のⅤ期は、86.0~87.9mのものが多い。Ⅰ期、Ⅲ期、Ⅴ期の間に湧水水位の変化があるのかも知れない。なお、Ⅳ、Ⅴ期の池（X011遺構）の底は海拔88.5m前後であり、池造成による水位の低下がⅢ期とⅣ期の間に見られたのだろう。

調査で検出された水路跡は、大小計71条に達する。そこには、各種溝状遺構の中で恒常的な水流量のあるもの及び概ね100m以上の長さを持つもの、さらに堀とした上幅3m以上のものを含めている。それらの時期的な分布は、掘削開始時期によれば次の通りである。

	I期	II期	III期	IV期	V期	VI期	不明	計
西側部分	0	0	4	2	2	0	0	8
中央部分	0	1	1	0	1	0	7	10
東側部分	5	27	0	0	0	0	21	53
合計	5	28	5	2	3	0	28	71

時期の判明しているものでは、圧倒的に東側部分でII期に掘られたものが、大半をしめている。それに対し、埋没時期を見ると、次のようになる。

	I期	II期	III期	IV期	V期	VI期	不明	計
西側部分	0	0	0	1	7	0	0	8
中央部分	0	0	1	0	0	2	7	10
東側部分	5	25	2	0	0	0	21	53
合計	5	25	3	1	7	2	28	71

以上のように、掘削開始時期に比べて、埋没時期がかなり遅れるものが西側及び中央部分が多い。つまり、現象としてはII期を中心に東側部分で水路が数多く掘られるが、それは多くが短期的に廃棄され、その後西側及び中央部分でIII期からV期にかけての長期間の存続する堀が形成されている。

それは、現象的には前述のIII期以降の中央・西側部分での井戸の増加に対応している。短期的な水路の掘削を繰り返す時代から、堀の形成と井戸を依存させる時代への変化である。本質的に当遺跡地域は水が豊富であり、各種の利用形態が歴史的に継続されたが、川から水を引いて流すという水路形態から掘削した水を貯めるという堀・井戸形態への変化がそこに見られる。

その場合、農業との関係はもちろん重要な要素である。ただ常識的に水路形態と結び付くと思われる水田耕作の痕跡は、少なくとも今回の調査範囲内では極めて狭い範囲でしか確認されていない。それに対し、堀・井戸形態に直接対応するわけではないが、V期とVI期には広大な畠地が見られた点が大きな問題となろう。

池跡X011遺構が、そのような水と当遺跡との歴史的な関係の中で、最も象徴的かつ大規模な施設として登場したことは明記すべきことである。即ち、庭園施設として堀の拡張から出発したと思われるこの池は、結果的には水路跡M016遺構などの用水路のための貯水池としての機能が大きな割合を占めるようになった。水路形態が農業用水と居住生活用水を併せた施設であるのに対し、堀・井戸形態は農業水利施設そのものではなく、基本的には防衛・居住施設である。そのような施設が主体を占める時代にあつて、池は農業用水としての機能を専門に分化させて使われていた。当遺跡地における水利の特徴を最も端的に現したものである。

なお近世における二之宮村と隣接する村々の石高は、次の通りである。

		二之宮	飯土井	新井	波志江	増田	今井	荒口	荒子
寛文8(1668)年	田(石)	614.9	132.0	230.6	711.0	806.5	170.5	182.8	165.8
	畠(石)	458.5	51.4	184.2	592.0	686.5	49.1	27.0	108.4
天明2(1782)年頃	田(町)	52.3	15.3	—	72.0	35.8	17.1	—	22.1
	畠(町)	128.2	52.1	—	59.0	70.1	32.5	—	60.5

平凡社1987「群馬県の地名」所収の「寛文郷帳」・「前藩藩領村々明細」による。

周辺村の中では、増田(天明以前に上下に分村 下欄は上増田村分)・波志江に続く収量が寛文に見られるが、耕地面積全体は天明一弘化では最大である。また畠作の割合が特に面積で高いことが分かる。

池からの用水は、方向的には東の飯土井村に向かっている。実際にどのような水利関係があつたかは不明だが、それは二之宮村の川東地区以外にも及んでいた可能性は考えられる。

7 庚申信仰を中心とする信仰資料

すでに第2節などで述べられたように、当遺跡では文字資料が少なからず出土しているが、中には各種の信仰に関する遺物は次のように見られる。

A 庚申塔及び関係遺物

1. 池跡X011遺構出土(P.148)

7基の庚申塔(P.148)がある。建立者銘として「小辨惣右衛門」「松井七兵衛」「鈴木 ○」「岡田 ○」「田所 ○」「若上源右衛門 同宅 ○」が判読できる。

これらは筑波山の南側で出土しており、同山に建てられていたものが転落したと考えられる。

「庚」字墨書石塔片も見られる。

2. その他出土

筑波山には、表面に現れているものだけで36基が、確認できている。その中で建立者銘は、次の通りである。石川・福田・田中(2例)・三股・神沢・□原・設楽・田所・鈴木(2例)・松井・岡□・横田 最後の横田銘のものには天保10(1839)年銘が読める。その他、山中の盛土中には、まだ大量の庚申塔が埋まっている可能性が高い。

西側部分の水田跡N203から出土した灰釉陶器皿の高台内にも「庚」字の墨書が見られる。(P.22) この陶器の製作年代は、9世紀後半から10世紀初頭である。しかし、ここでは17世紀前半から18世紀前半の陶磁器も出土しているため、二次的な墨書とするのが妥当であろう。

3. 出土状態の傾向

以上のような出土状態から、庚申信仰関係に直接関係する遺物は、本来筑波山に献納された庚申塔が中心であることはほぼ確実である。その年代が19世紀前半を中心とする時代であることも、間違いないだろう。

そのような石塔を建立するものに対して、「庚」字を墨書した石塔片と灰釉陶器片の2例は、あり方が異なっている。離れた場所でのこの2例は、廃棄物に「庚」字を墨書し、共に池あるいは湿地より出土したことに共通点がある。石塔を建立する以前の恐らく17世紀から18世紀の間での庚申信仰の形態は、このような廃棄物に「庚」字を墨書して水辺に投棄するものであった可能性が考えられる。

B 墓標類

1. 池跡X011遺構出土

杭状塔婆(P.131)

中島周辺で16点出土。先端を尖がらした杭状の棒材の一面を削って、供養文を墨書したもの。延享3(1746)年の紀年銘のものがあり、18世紀前半～中頃のものだろう。

四面加工小形標塔(P.148)

小型の幼児墓標。「安政二卯天」(1855)年銘。

五輪塔(P.149)

各部33点が出土。「久保○新○」と「まつや」の銘が見られる。

その他の石塔(P.150～151)

宝篋印塔の各部分は、6点出土。小形の塔身1点に、不明種子がある。その他に14基の石塔の基礎と石塔未製品が2点ある。後者は、ここでの石塔製作を示している。

寛永5(1628)年銘の中島上にあった石宮の屋根破片も出土している。

板碑(P.148)

1点出土。

2. その他出土

五輪塔類

池跡北側の井戸跡群(P.158)より、6点の五輪塔各部の出土が見られる。その他に西側部分の井戸跡D076(P.46)より5点、D114(P.58)より6点、D192(P.72)より1点、D194(P.84)より2点、箱型土坑D135(P.81)より1点出土している。

また筑波山には無縫塔2基・五輪塔4基が見られる。無縫塔は、いずれも僧侶の墓標で、一つには寛文10(1670)年の銘がある。

板碑(P.158,159)

池跡北側の井戸跡より2点破片が出ている。

3. 出土状態の傾向

池跡からの出土したものは、年代が明確なものは石宮(1628年)・杭型塔婆(1746年)・四面加工小形標塔(1855年)がある。その他に板碑・五輪塔があるが、前者が15,16世紀頃と推定される北側井戸群のみに見られるのに対し、後者はそれらと共に西側部分の18世紀前半を中心とする井戸跡から少なからず出土している。

もちろん、五輪塔部分としたものの中には、特に地輪の場合は他の石塔と区別できないが、全体に五輪塔は15世紀頃～18世紀までの長期間の使用が考えられる。また、本来の設置位置も池跡の周辺に限らないようである。

ここで問題になるのは、池跡南東角に接する久保田家の墓地跡X021(P.104)である。この遺構は、出土遺物からは18世紀中頃から近代に至る使用が認められたが、改葬後の墓石で最も古いものは、享保5(1720)年銘の片面加工地藏弥勒像であり、また墓誌に記されたそれ以前の没年は、元禄2(1689)・3(1690)・5(1692)各年がある。そのため、この墓地は遅くとも1720年以降の継続的な使用が考えられる。

そのため、上記の杭型塔婆はこの墓地に献納された供養塔婆である可能性が、極めて高い。また「久保○新○」銘五輪塔と安政の四面加工小形標塔も、この墓地の墓標であったと思われる。

C その他の信仰遺物

1. 池跡X011遺構出土

人名連記札(P.130) 人名連記祭札札が3点見られた。墨書した1点は近世、金泥書の2点は近代のものである。近世のものは、人名が同じ大きさで何らかの順番を示した「覚え」だが、近代のものは大きさに差がある寄付名簿のようなものである。

祭礼建築物部材(P.130,138) 中島周辺より象頭形のをした木鼻が見られた。近世中期以後と考えられる。また建築物の構造材も出土。

漆椀(P.135) 中島北西側池底より19点以上が集中して出土。

偶像類その他(P.142,148) 土製狐面が見られる。また2体の石仏頭部も出土。1対は幼児墓の標識の可能性もある。

2. その他出土

筑波山の表面に見える163個の石造物の中の、石宮3基(もと中島にあったものを除く)・不動明王像1基・人物像1基・梵字名号碑1基は、明らかな信仰対象物である。その中では、石宮は明治9年花園銘及び明治29年富士山銘がある。また梵字名号碑には、内田の姓名が記される。その他に、明治35年御岳講信徒名碑及び御岳座王大権現銘の石柱がある。

西側部分の道路跡X001遺構の側溝からは、泥人形仏像が見られる。(P.25) 同様のものは畠跡N036遺構(P.27)・区画溝M044遺構(P.29)でも出土しており、基本的には18世紀代の屋敷内部で使われたものだろう。

西側部分の井戸跡D123遺構からは、木製の蘇民将来符が3点出土している。(P.89)ここからは大量の陶磁器・土器を中心とする遺物が出土しているが、ほとんど全ては一般の生活具である。そのため、この蘇民将来符も井戸の本来の使用目的から離れた状態で検出されたのだろう。上記泥人形と

Ⅲ まとめ

同様に18世紀代の屋敷で使用されていたと考えられる。

馬歯が、西側部分の箱型土坑D124遺構から出土している。(P.80) この遺構は、近代の廃棄物処理場所で、他の遺物のあり方は特定の信仰状況と結びつきにくい。

東側部分には、11世紀頃の土器小皿廃棄場跡X022遺構が野外に見られる(P.210)。単なる廃棄場所ではなく、特定の祈禱行動を伴ったものと思われる。

3. 出土状態の傾向

以上のような点から、まず筑波山がその名も示すように疑似神体山として信仰対象であったことが伺われる。その変化は、18世紀においては筑波山であり、近代になってからは富士山・御岳山との関係が深かったことは確実である。また不動明王像など密教的な石像なども見られ、山岳信仰との結びつきが見られる。

その筑波山の直下の大池中島には、近世中期以降何らかの信仰対象の建物が建っていた可能性が高い。その建物には、象形の木鼻がついていた。大池内から検出された3点の人名連記板そして集中的に投棄された漆椀は、その建物の信仰と関係が深いとするのは、無理がないだろう。

すでに第2節で触れられたように、近代の人名連記板に記された「八社」については、牛頭天王と関係のある八坂神社あるいは八王子と結び付けて考えることができる。これは蘇民将来信仰と深くつながっている。

次に18世紀代の屋敷地の信仰に関係するものとして、泥人形と共に蘇民将来符が注目される。同様の角柱状の蘇民将来符は、第2節で記述のように八坂神社のある尾島町の安養寺森西遺跡の幕末の井戸跡から6点出土している(木簡研究会1993)他に、足利市の板倉城跡の18世紀代の井戸より4点(足利市教育委員会1990)、埼玉県騎西町の16世紀中頃の私市城武家屋敷跡の井戸から1点(行田市立博物館1998、東国土器研究会1988)見られる。いずれも中世城館及びそこから継続する近世屋敷跡の井戸から出土している点が、共通している。

近世井戸の多い当遺跡でもD123遺構からのみの出土であり、この蘇民将来符が井戸の廃絶に伴うものとは断定がたい。しかし、注意すべきは、安養寺森西は明王院、板倉城跡は霊山寺と当遺跡と同じように近世には寺院になっている点と同じである。もともと、蘇民将来符は寺院・神社で頒布されていることが多いため、そのような出土状態は特に注意すべきではないかもしれないが、私市城例を除けば、現状では頒布元の寺社と密接な関係のある屋敷地からの出土に限定されているのは、確かである。

現在も続いている蘇民将来符の頒布は、次のような分布がある。そのうち、角柱状のものは京都から青森まで、主に旧東山道地域に中心があるようである。群馬の紙の例は高崎市の妙音寺のもの。現在は残っていないが、かつて尾島町世良田の八坂神社でも紙のものが配られていた。(版木が、八坂神社近隣の長楽寺と近世に本山末寺関係のあった信濃国分寺に残っている。)

現在頒布されている蘇民将来符の形状		上田市立信濃国分寺資料館1988による		
		角柱	板	紙
東北	岩手	3	1	0
	宮城	3	0	0
	青森	1	0	0
	秋田	0	0	0
関東	山形	1	0	0
	千葉	0	1	0
	埼玉	1	0	0
	群馬	0	0	1
甲信越	新潟	0	1	14
	長野	1	1	0
	群馬	0	0	1
東海	愛知	1	2	1
	三重	0	2	0
近畿	兵庫	1	0	0
	京都	1	0	0
九州	滋賀	0	0	1
	長崎	0	1	0

その他1

なお11世紀の小皿廃棄場は、興味深い遺構であるが、現状ではその意味や他の遺構との関係を明確にすることはできない。また西側部分の水田跡N203遺構で発見された8世紀頃の二彩陶器(P.22)の意味についても二之宮赤城神社と何らかの関係があったかと推定できる程度である。

D 二之宮地域の中世・近世の信仰形態

これまで見てきたように、各種の信仰遺物が今回の調査で検出された。内容が不明瞭な古代部分を除いて考えると、概ね次のような変化をたどることができる。

一般信仰		埋葬信仰	
富士塚の信仰	17世紀前半～19世紀後半	板碑	15,16世紀
庚申信仰	17世紀頃～19世紀前半	五輪塔	15世紀～18世紀
蘇民将来信仰	18世紀前半～19世紀後半	墓地	17世紀末～現代

富士塚的な信仰は、大池の掘削による筑波山の造成に始まっている。ただそれ以前もここに何らかの塚があったことは間違いなく、その塚と板碑・五輪塔の埋葬信仰が関係していた可能性も十分に考えられる。内容的には、17世紀末～18世紀前半の筑波山、19世紀後半の富士山・御岳と変わっているが、山を模倣したものであることは間違いない。本質的には、赤城山への信仰の現れであろう。

庚申信仰は、初期にはその大池と西の無名川に対して、投棄的な献納がなされている。この地域の水との深い関係と結び付くものとも考えられる。やがて19世紀前半には筑波山への庚申塔と中島に何らかの社殿を建立した記念碑的な献納に大きく変わる。

蘇民将来信仰は、泥人形などに代表されるようなどこにも見られる屋敷地内での信仰というより、この屋敷地の性格を示す特異なものと考えた方が妥当である。蘇民将来符を使っているものから、近代には八社への集団的な奉納というような形に発展している。

以上のような流れを見ると、全体としては無量寿寺の果たした役割が極めて大きかったと言わざるをえない。全てのものが何らかの形で無量寿寺の存在と関係している。

無量寿寺は、10世紀初頭の延喜年間創建の伝承もあるが、さらに15世紀末の明応年間、あるいは17世紀後半の天和～元禄年間の中興開基との説もある。最後のものは、徳川綱吉と深い関係のあった江戸護持院隆光との関係や前橋藩主酒井家とのつながりも説かれている。隆光は筑波山との山号を持っていたと言う。) 今回の調査成果から見れば、上述のように17世紀初頭にはすでに寺院としての体裁をとっていた可能性は高い。

なお、二之宮赤城神社近くの礎部家には、文明17(1485)年銘の石宮が現存している。そして「明治初年の廃仏毀釈に際し、村内の石仏が筑波山に集められたが、この石宮はその後戻した。」と伝えられている。(角田1986) 筑波山の役割を考える上で、興味深い伝承である。

また字十二天には「大山祇神」を祭る「十二天楼」との社があり、南隣の新井村分になる「十二天郭」祭っていたが、明治に赤城神社に合併されたとされている。(角田1986) 現在も赤城神社境内には十二天堂が見られる。すでに報告したように、この「十二天郭」に相当する部分の、北側が今回の調査で検出された南堀跡で、走向よりこの「十二天郭」の三方を囲っていたと思われる。無量寿寺と同様に居館から神社への変化となっている。ただそこに「十二天」なる名称が後世まで残ったことは興味深い。

以上のように、本遺跡地域は近世においてかなり特殊な信仰地の領域としてあったことは、間違いなく、そのシンボルが赤城山信仰から生まれた筑波山であったと思われる。赤城山信仰の近世的な展開が、このような多様な信仰形態を示したと考えることができる。

Ⅲ まとめ

参考文献

- 足利市教育委員会1990『板倉城跡』
上田市立信濃国分寺資料館1988『蘇民将来符—その信仰と伝承—』
行田市立博物館1988『企画展 埋もれた戦国時代』
角田佳一1986『二の宮の赤城神社鎮まる里の風土の史紀』
東国土器研究会1988『東国土器研究』1
木筒研究会1993『木筒研究』

IV 資 料

IV 資料

1. 遺構一覽表

番 号	旧 番 号	種 類	地区	時代	開始年代	埋没年代	埋藏量	厚 真	遺物	備 考
D 0 0 1	1 土坑	井戸跡	東側	近世		1 8 C	196	139	197	底88.7m
D 0 0 2	2 土坑	土坑	中央	中世	不明	不明	117	83		
D 0 0 3	3 土坑	土坑	中央	中世	1 5 C	1 5 C	119	84		
D 0 0 4	4 土坑	土坑	中央	中世	1 5 C	不明	119	84	119	
D 0 0 5	5 土坑	土坑	東側	近世	不明	不明	178	126	178	
D 0 0 6	6 土坑	土坑	東側	近世	不明	不明	178	126		
D 0 0 7	7 土坑	土坑	東側	近代	不明	不明	178	126	178	
D 0 0 8	8 土坑	井戸跡	中央	中世	不明	不明	124	88		潜水90.2m
D 0 0 9	9 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	176	124		
D 0 1 0	10 土坑	東側	近世	不明	1 8 C 少	不明	196	139	197	不明遺物土器
D 0 1 1	11 土坑	井戸跡	東側	中世	不明	不明	216	158		潜水90.7m
D 0 1 2	12 土坑	土坑	東側	近世		1 9 C 以前	196	139		
D 0 1 3	13 土坑	土坑	東側	近世		1 9 C 以前	196	139		
D 0 1 4	14 土坑	東側	近世	不明	不明	196	139			
D 0 1 5	15 土坑	井戸跡	中央	中世	不明	不明	156	109	158	潜水89.7m
D 0 1 6	16 土坑	土坑	中央	中世	不明	不明	156	109	158	
D 0 1 7	17 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	156	109		
D 0 1 8	18 土坑	井戸跡	中央	中世		1 6 C 少	156	109		潜水不明
D 0 2 0	20 土坑	土坑	中央	中世	不明	不明	156	109		
D 0 2 1	21 土坑	井戸跡	中央	中世		1 6 C 少	156	109	158	潜水88.4m
D 0 2 2	22 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	156	110	158	
D 0 2 3	23 土坑	土坑	中央	中世		1 5 C 少	156	110	158	
D 0 2 4	24 土坑	土坑	中央	中世		1 5 C 少	156	110	158	
D 0 2 5	25 土坑	井戸跡	中央	中世		1 5 C 少	156	110	159	潜水88.7m
D 0 2 6	26 土坑	井戸跡	中央	中世	不明	不明	156	110	159	潜水88.9m以下
D 0 2 7	27 土坑	井戸跡	中央	中世		1 6 C 少	156	110	159	潜水89.3m
D 0 2 8	28 土坑	土坑	中央	中世	不明	不明	156	111		
D 0 2 9	29 土坑	井戸跡	中央	中世	不明	不明	128	108	128	潜水89.3m
D 0 3 0	30 土坑	井戸跡	中央	中世	不明	不明	128	108		潜水89.3m
D 0 3 1	31 土坑	土坑	中央	中世		1 5 C 少	156	111		
D 0 3 2	32 土坑	土坑	中央	近代	1 0 C	1 0 C	122	86	123	
D 0 3 3	33 土坑	土坑	中央	中世	不明	不明	122	86		
D 0 3 4	34 土坑	土坑	中央	中世	不明	不明	122	86		
D 0 3 5	35 土坑	井戸跡	中央	中世	不明	不明	124	88		潜水89.1m
D 0 3 6	36 土坑	井戸跡	中央	中世	不明	不明	122	87		潜水88.8m
D 0 3 7	37 土坑	井戸跡	中央	中世	不明	不明	122	87		潜水88.6m
D 0 3 8	38 土坑	井戸跡	中央	中世	不明	不明	122	87		潜水89.0m
D 0 3 9	39 土坑	井戸跡	中央	中世	不明	不明	122	87	123	潜水89.0m
D 0 4 0	40 土坑	井戸跡	西側	近世	不明	不明	102	75		潜水88.4m
D 0 4 1	41 土坑	井戸跡	西側	近世	1 8 C	1 9 C	40	31	41-42	東側開削 潜水86.5m
D 0 4 2	42 土坑	東側	近世	1 9 C	1 9 C	39	30			
D 0 4 3	43 土坑	東側	近世	1 9 C	1 9 C	39	30	39		
D 0 4 4	44 土坑	東側	近世	1 9 C	1 9 C	39	30			
D 0 4 5	45 土坑	東側	近世	1 1 C	1 1 C 以後	43	33	44		
D 0 4 6	46 土坑	土坑	西側	近世	1 8 C	1 9 C	43	33	44	
D 0 4 7	47 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	43	33		
D 0 4 8	48 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	43	33		
D 0 4 9	49 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	43	33		
D 0 5 1	51 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	43	33	44	2基重複
D 0 5 4	54 土坑	井戸跡	西側	近世	1 8 C	1 8 C	40	31	42	潜水86.6m
D 0 5 5	55 土坑	井戸跡	西側	近世	1 7 C	1 8 C	43	33	44	潜水86.8m
D 0 5 6	56 土坑	井戸跡	西側	近代	不明	1 0 C	43	34	44	潜水87.3m
D 0 5 7	57 土坑	埋設	近代	不明	2 0 C	不明	43	34		
D 0 5 8	58 土坑	土坑	西側	近世	不明	不明	43	33		
D 0 5 9	59 土坑	埋設	近世	不明	不明	不明	43	34		
D 0 6 0	60 土坑	土坑	西側	近代	1 7 C	1 9 C	43	34	44	
D 0 6 1	61 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	43	34		
D 0 6 2	62 土坑	土坑	西側	近世	不明	不明	48	37		
D 0 6 3	63 土坑	土坑	西側	近世	不明	不明	45	35		
D 0 6 4	64 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	45	35		
D 0 6 5	65 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	48	37		
D 0 6 6	66 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	48	37		
D 0 6 7	67 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	48	37		
D 0 6 8	68 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	48	37		
D 0 6 9	69 土坑	土坑	西側	近世	不明	不明	48	37	49	
D 0 7 0	70 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	48	38		
D 0 7 1	71 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	48	38		
D 0 7 2	72 土坑	埋設	近世	不明	不明	不明	48	38		
D 0 7 3	73 土坑	土坑	西側	近世	不明	不明	48	38		
D 0 7 4	74 土坑	埋設	近世	不明	不明	不明	48	38	49	
D 0 7 5	75 土坑	井戸跡	西側	近世	1 8 C	1 8 C	45	35		潜水86.8m
D 0 7 6	76 土坑	井戸跡	西側	近世	1 8 C	1 8 C	45	35	46-47	潜水86.8m
D 0 7 7	77 土坑	井戸跡	西側	近世	不明	不明	20	27		潜水86.5m
D 0 7 8	78 土坑	土坑	西側	近世	1 8 C	1 8 C	45	35	47	
D 0 7 9	79 土坑	東側	近世	不明	1 8 C	不明	50	39	49	
D 0 8 0	80 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	50	39		
D 0 8 1	81 土坑	井戸跡	西側	近世	1 8 C	不明	50	39	51	潜水85.4m
D 0 8 2	82 土坑	井戸跡	西側	近世	1 8 C	不明	50	39	51	潜水85.4m
D 0 8 3	83 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	50	39		
D 0 8 4	84 土坑	東側	近世	不明	不明	不明	50	39		

1 遺構一覽表

番号	旧番号	種類	地区	時代	開始年代	消失年代	高さ	長さ	遺物	備考
D085	85	土坑	原簿部土坑	西暦	近世	17C	1.8C	50	40	49
D086	86	土坑	原簿部土坑	西暦	近世	17C	1.8C	50	40	49
D087	87	土坑	原簿部土坑	西暦	近世	17C	1.8C	50	40	49
D088	88	土坑	原簿部土坑	西暦	近世	17C	1.8C	50	40	49
D089	89	土坑	原簿部土坑	西暦	近世	17C	1.8C	50	40	49
D090	90	土坑	原簿部土坑	西暦	近世	17C	1.8C	50	40, 41	49
D091	91	土坑	原簿部土坑	西暦	近世	17C	1.8C	50	41	49
D092	92	土坑	原簿部土坑	西暦	近世	不明	不明	50	41	
D093	93	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	1.8C	50	41	49
D094	94	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	50	42	
D095	95	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	50	42	
D096	96	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	50	42	
D097	97	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	50	42	
D098	98	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	43	34	
D099	99	土坑	土坑	西暦	近世	不明	不明	40	31	
D100	100	土坑	井戸跡	西暦	近世	19C	19C	40	31	42 溝木86.8m
D101	101	土坑	井戸跡	中央	中世	不明	不明	124	88	溝木88.5m
D102	102	土坑	土坑	西暦	古代	1.1C	1.1C	40	30	
D103	103	土坑	土坑	西暦	古代	1.1C	1.1C	40	30	42
D104	104	土坑	土坑	西暦	近世	不明	不明	91	66	
D105	105	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	1.9C	81	67	91
D106	106	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	1.8C	82	62	83
D107	107	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	1.8C	1.9C	82	62	83
D108	108	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	82	62	
D109	109	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	82	62	
D110	110	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	82	62	
D111	111	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	82	62	
D112	112	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	82	63	
D114	114	土坑	井戸跡	西暦	近世	1.7C	1.8C	52	43	53-59 遺物大量
D115	115	土坑	土坑	西暦	近世	不明	1.8C	63	83	
D116	116	土坑	土坑	西暦	近世	不明	1.8C	82	63	83
D117	117	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	1.7C	82	63	87
D118	118	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	99	71	
D119	119	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	86	65	
D120	120	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	86	65	
D121	121	土坑	土坑	西暦	近世	不明	不明	86	65	
D122	122	土坑	井戸跡	西暦	近世	不明	不明	86	65	溝木86.6m
D123	123	土坑	井戸跡	西暦	近世	1.7C	1.8C	86	65	87-90 溝木87.3m 堀河段遺物
D124	124	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	1.9C	1.9C	79	58, 69	80
D125	125	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	79	59	
D126	126	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	79	59	
D128	128	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	1.9C	73	54	73
D129	129	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	73	54	
D130	130	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	73	54	
D131	131	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	73	54	
D132	132	土坑	土坑	西暦	近世	不明	不明	73	54	
D133	133	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	72	52	
D134	134	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	73	54	
D135	135	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	79	59	81
D136	136	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	79	80	
D137	137	土坑	土坑	西暦	近世	不明	不明	79	60	
D138	138	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	82	63	
D139	139	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	99	71	
D140	140	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	99	71	
D141	141	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	1.8C	99	71	99
D142	142	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	99	71	
D143	143	土坑	土坑	西暦	近世	不明	不明	99	71	
D144	144	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	61	47	
D145	145	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	1.9C	61	47	
D146	146	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	52	43	
D147	147	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	52	44	
D148	148	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	52	44	
D149	149	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	52	44	
D150	150	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	52	44	
D151	151	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	61	47	
D152	152	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	1.7C	1.8C	61	48	60
D153	153	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	61	48	
D154	154	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	52	44	
D155	155	土坑	方石堀段土坑	西暦	中世	不明	不明	81	48	
D156	156	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	81	48	
D157	157	土坑	土坑	西暦	近世	不明	不明	61	48	
D158	158	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	1.8C	61	48	60
D159	159	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	81	48	
D160	160	土坑	井戸跡	西暦	近世	不明	不明	82	49	62 溝木87.9m
D161	161	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	62	49	
D162	162	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	62	49	
D163	163	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	62	49	
D164	164	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	62	49	
D165	165	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	62	49	
D166	166	土坑	堀河段土坑	西暦	近世	不明	不明	61	48	
D167	167	土坑	土坑	西暦	近世	不明	不明	61	48	
D168	168	土坑	土坑	西暦	近世	不明	1.8C以後	94	69	94

N 資料

番号	旧番号	種類	地区	時代	開始年代	埋没年代	掲載頁	写真	遺物	備考
D169	169	土坑	西側	古世	不明	不明	94	69		
D170	170	土坑	西側	古世	不明	不明	94	69		
D171	171	土坑	西側	古世	不明	1.8 C	94	69	95-97	溝水87.5m
D172	172	土坑	西側	古世	1.8 C	1.9 C	100	73	101	溝水89.4m
D173	173	土坑	西側	古世	不明	不明	100	73		溝水89.4m
D174	174	土坑	西側	古世	不明	1.8 C	93	68		
D175	175	土坑	西側	古世	不明	1.8 C	93	68	92	
D176	176	土坑	西側	古世	不明	不明	93	68		
D177	177	土坑	西側	古世	不明	不明	91	67		溝水89.0m
D178	178	土坑	西側	古世	不明	不明	91	67		
D179	179	土坑	西側	古世	不明	不明	99	71		溝水89.0m
D180	180	土坑	西側	古世	不明	不明	99	72		溝水89.1m
D181	181	土坑	西側	古世	不明	不明	99	72	99	溝水88.4m
D182	182	土坑	西側	古世	不明	不明	99	72		溝水88.3m
D183	183	土坑	西側	古世	不明	1.8 C	79	60	81	溝水87.7m
D184	184	土坑	西側	古世	不明	1.8 C分	79	60		溝水87.7m
D185	185	土坑	西側	古世	不明	不明	73	55		
D186	186	土坑	西側	古世	1.8 C	1.9 C	73	55	74, 75	溝水87.7m
D187	187	土坑	西側	古世	不明	不明	73	55		溝水88.2m
D188	188	土坑	西側	古世	不明	不明	70	53		溝水87.5m
D189	189	土坑	西側	古世	不明	不明	72	53		溝水87.5m
D190	190	土坑	西側	古世	不明	不明	70	53	70	溝水87.4m
D191	191	土坑	西側	古世	不明	不明	73	55		溝水88.2m, 87.1m
D192	192	土坑	西側	古世	不明	不明	72	53	72	溝水88.3m
D193	193	土坑	西側	古世	不明	不明	63	68		溝水88.3m井口は不明
D194	194	土坑	西側	古世	不明	1.8 C	82	58	84	溝水88.1m, 87.4m
D195	195	土坑	西側	古世	不明	不明	106	76		溝水88.3m
D196	196	土坑	西側	古世	不明	不明	106	77		溝水89.1m
D197	197	土坑	西側	古世	不明	不明	107	77		
D198	198	土坑	西側	古世	不明	1.7 C以前	107	77		溝水89.3m
D199	199	土坑	西側	古世	不明	1.7 C以前	107	77		溝水89.3m
D200	200	土坑	西側	古世	不明	不明	107	77		溝水88.5m
D201	201	土坑	東側	不明	不明	不明	217	159		
D202	202	土坑	東側	不明	不明	不明	217	159		
D203	203	土坑	東側	不明	不明	不明	217	159		
D204	204	土坑	東側	不明	不明	不明	219	160		
D208	208	土坑	東側	不明	不明	不明	217	158		
D209	209	土坑	東側	古世	不明	1.1 C以前	217	159		
D210	210	土坑	東側	古世	不明	1.1 C以前	217	160		
D214	214	土坑	東側	古世	不明	不明	213			
D215	215	土坑	東側	古世	不明	不明	212			
D217	217	土坑	東側	古世	不明	1.2 C	213	152		浅間百軒石
D218	218	土坑	東側	古世	不明	1.2 C	213	152		浅間百軒石
D219	219	土坑	東側	古世	不明	1.2 C	213	152		浅間百軒石
D220	220	土坑	東側	古世	不明	不明	214			
D221	221	土坑	東側	古世	不明	不明	214	155		
D222	222	土坑	東側	古世	不明	1.1 C以前	210	150		
D223	223	土坑	東側	古世	不明	不明	210	150		
D224	224	土坑	東側	古世	不明	不明	213			
D225	225	土坑	東側	古世	不明	不明	213	152		
D226	226	土坑	東側	古世	不明	不明	213	152		
D227	227	土坑	東側	古世	不明	不明	213	152		
D228	228	土坑	東側	古世	不明	不明	213	152		
D229	229	土坑	東側	古世	9 C	1.1 C	213	152		
D230	230	土坑	東側	古世	不明	不明	213	153		
D231	231	土坑	東側	古世	不明	不明	213	153		
D232	232	土坑	東側	古世	不明	不明	213	153		
D233	233	土坑	東側	古世	不明	不明	213	153		
D234	234	土坑	東側	古世	不明	不明	213	154		
D235	235	土坑	東側	古世	不明	1.1 C	213	154		
D236	236	土坑	東側	古世	不明	1.1 C	213	154	213	
D237	237	土坑	東側	古世	不明	1.1 C	213	154		
D238	238	土坑	東側	古世	不明	不明	213	154		
D239	239	土坑	東側	古世	不明	1.1 C以前	214	155		
D240	240	土坑	東側	古世	不明	1.1 C以前	214	155		
D241	241	土坑	東側	古世	不明	1.1 C	214	156	215	
D242	242	土坑	東側	古世	不明	不明	214	156		
D243	243	土坑	東側	古世	不明	1.8 C	214	156	215	
D245	245	土坑	東側	古世	不明	1.1 C以前	214			
D246	246	土坑	東側	古世	不明	1.1 C以前	214			
D247	247	土坑	東側	古世	不明	1.1 C以前	214	156		
D248	248	土坑	東側	古世	不明	不明	214	157		
D249	249	土坑	東側	古世	不明	1.1 C	214	157		
D250	250	土坑	東側	古世	不明	1.1 C	214	157	215	
D252	252	土坑	東側	古世	不明	1.1 C	214	157	215	
D253	253	土坑	東側	古世	不明	1.1 C	214	158		
D254	254	土坑	東側	古世	不明	不明	214	158		
D255	255	土坑	東側	古世	不明	不明	214			
D256	256	土坑	東側	古世	不明	不明	213			
D257	257	土坑	東側	古世	不明	不明	214			
D258	258	土坑	東側	古世	不明	不明	210	151		
D260	260	土坑	東側	古世	不明	不明	210	149		
D262	262	土坑	東側	古世	不明	不明	210	151		

1 遺構一覽表

番号	旧番号	種類	地区	時代	開始年代	埋没年代	掘削範囲	写真	遺物	備考
D264	264	土坑	東側	古代	不明	不明	210	190		
D265	265	土坑	東側	古代	不明	11C末	214	158		
D266	266	土坑	東側	古代	不明	11C以前	214			
D301	301	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	106	76	106	清水跡, 3m
D302	302	土坑	西側	近世	不明	不明	100	73	101	未掘 井戸か
D303	303	土坑	西側	古代	不明	10C末	100			
D304	304	土坑	西側	近世	不明	不明	100			
D305	305	土坑	東側	近世	不明	不明	100			
D306	306	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93		92	
D307	307	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93			
D308	308	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93			
D309	309	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93			
D310	310	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93			
D311	311	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93			
D312	312	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93			
D313	313	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93	67		
D314	314	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93	67		
D315	315	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93	67		
D316	316	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93	67		
D317	317	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93	67		
D318	318	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93	67		
D319	319	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93			
D352	2番式	土坑	東側	不明	不明	不明	219	160		
D353	3番式	土坑	東側	近代	不明	不明	219	160	219	
D354	4番式	土坑	東側	不明	不明	不明	219	160		
D355	5番式	土坑	東側	不明	不明	不明	219			
D401	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	19C	19C	39			
D402	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	19C	19C	39			
D403	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	19C	19C	39			
D404	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	30			
D405	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	30			
D406	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	43			
D407	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	43			
D408	女1	土坑	西側	不明	不明	不明	45			
D409	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	48			
D410	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	48			
D411	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	48			
D412	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	50			
D413	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	50			
D414	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	50			
D415	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	50			
D416	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	50			
D417	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	61			
D418	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	61			
D419	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	62			
D420	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D421	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D422	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D423	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D424	女1	土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D425	女1	土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D426	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D427	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D428	女1	土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D429	女1	土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D430	女1	土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D431	女1	土坑	西側	近世	不明	不明	72			
D432	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	79			
D433	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	79			
D434	女1	土坑	西側	近世	不明	不明	79			
D435	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	86			
D436	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	86			
D437	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	86			
D438	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	86			
D439	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	86			
D440	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	86			
D441	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	91			
D442	女1	土坑	西側	近世	不明	不明	91			
D443	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	94			
D444	女1	土坑	西側	近世	不明	不明	94			
D445	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93			
D446	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93			
D447	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93			
D448	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93			
D449	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	18C	93			
D450	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	100			
D451	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	100			
D452	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	100			
D453	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	106			
D454	女1	土坑	西側	近世	不明	不明	107			
D455	女1	井戸跡	中心	不明	不明	不明	128			幅8.5m
D456	女1	瓦葺形土坑	西側	近世	不明	不明	43			
D457	女1	瓦葺形土坑	東側	近世	不明	不明	21			
D458	女1	土坑	東側	古代	不明	11C以後	212			
D459	女1	土坑	東側	古代	不明	不明	212			

IV 資料

番号	旧番号	種類	地区	時代	開始年代	建造年代	総職員	容 積	遺物	備 考
D460	なし	土塚	東側	不明	不明	不明	216			
D461	なし	土塚	東側	不明	不明	不明	216			
D462	なし	土塚	東側	不明	不明	不明	216			
D463	なし	土塚	東側	不明	不明	不明	216			
D464	なし	土塚	東側	不明	不明	不明	216			
D465	なし	土塚	東側	不明	不明	不明	216			
D466	なし	土塚	西側	不明	不明	不明	91			
M001	1層立	竪立柱建物	東側	古代	10Cか	11Cか	194	137		
M002	2層立	竪立柱建物	東側	中世	12Cか	13Cか	194	138		
M003	3層立	竪立柱建物	東側	古代	10Cか	11Cか	195	138		
M004	4層立	竪立柱建物	東側	古代	10Cか	11Cか	195	138		
M005	5層立	礎石建物跡	中央	中世	12C	14C	121	82, 85	121	
M006	6層立	竪立柱建物	中央	中世	12Cか	14Cか	115	82		
M008	7・8層立	竪立柱建物	中央	中世	12Cか	14Cか	115	82		
M009	9層立	竪立柱建物	中央	中世	12Cか	14Cか	115	82	115	
M010	10層立	竪立柱建物	中央	中世	不明	不明	120	82, 84		
M011	11層立	竪立柱建物	西側	古世	17C	17C	33	28	33	
M012	12層立	竪立柱建物	西側	古世	17C	17C	33	28	33	
M013	13・14・15層立	竪立柱建物	西側	古世	不明	18C	32	27	31	
M014	なし	竪立柱建物	西側	古世	不明	18C	32	27	31	
M015	なし	竪立柱建物	西側	古世	18C	18C	32	27, 33	31	
M016	16・19層立	竪立柱建物	西側	古世	18C	18C	34	28	35	
M017	18層立	竪立柱建物	西側	古世	17C	18C	34	28	35	
M018	なし	竪立柱建物	西側	古世	17C	18C	34	28	35	
M019	なし	竪立柱建物	西側	古世	18C	18C	34	28	35	
M020	20層立	竪立柱建物	西側	古世	不明	18C	35	28	35	
M021	21層立	竪立柱建物	西側	古世	18C	18C	36	29	37	
M022	22層立	竪立柱建物	西側	古世	不明	18C	36	29		
M023	24層立	竪立柱建物	西側	古世	不明	18C	36	29		
M024	なし	竪立柱建物	西側	古世	不明	18C	36	29		
M025	25・27層立	竪立柱建物	西側	古世	不明	18Cか	37	37	77	
M027	なし	竪立柱建物	西側	古世	17C	17C	38	38	57	
M029	29層立	竪立柱建物	西側	古世	不明	不明	78	58		井戸跡D194と同一か
M030	30層立	竪立柱建物	西側	古世	不明	不明	78	58		
M031	31層立	竪立柱建物	西側	古世	不明	18Cか	78	58		
M040	40層立	竪立柱建物	東側	古代	10Cか	11Cか	194	138		
M041	なし	竪立柱建物	西側	古世	不明	18C	33	28		
M043	なし	竪立柱建物	西側	古世	不明	18C	36	29		
M043	なし	竪立柱建物	西側	古世	不明	18C	36	29		
M044	なし	竪立柱建物	西側	古世	18C	18C	36	29	37	
M045	なし	竪立柱建物	西側	古世	不明	18C	33			
M046	17層立	竪立柱建物	西側	古世	18C	18C	34			
M046	なし	竪立柱建物	西側	古世	不明	不明	78			
M101	1住	竊穴住居跡	東側	古代	10C	196	141	198		
M102	2住	竊穴住居跡	東側	古代	11C	199	141	199	灰桶陶器	
M103	3住	竊穴住居跡	東側	古代	11C	198	141	198		
M104	4住	竊穴住居跡	西側	古代	10C	63	50	63	灰桶	
M105	5住	竊穴住居跡	西側	古代	不明	不明	64	51	64	
M106	6住	竊穴住居跡	西側	古代	10C	63	50	63	灰桶	
M107	7住	竊穴住居跡	西側	古代	10C	64	50	64	灰桶	
M108	8住	竊穴住居跡	西側	古代	9Cか	10Cか	65	51	65	
M109	9住	竊穴住居跡	西側	古代	11Cか	12Cか	65	51	65	環輪古墳前庭裏
M110	10住	竊穴住居跡	西側	古代	不明	不明	110	80		
M111	11住	竊穴住居跡	西側	古代	11C	110	80			
M112	12住	竊穴住居跡	西側	古代	09C	106	78	109	靑銅鏡	
M151	51住	竊穴住居跡	東側	古代	09C	208	148	208		
M152	52住	竊穴住居跡	東側	古代	10C	200	144	200	灰桶陶器	
M153	53住	竊穴住居跡	東側	古代	11C	200	144	200		
M154	54住	竊穴住居跡	東側	古代	09C	207	147	207	不明土器土器	
M155	55住	竊穴住居跡	東側	古代	10C	208	148	209		
M156	56住	竊穴住居跡	東側	古代	11C	207	147	207	灰桶陶器	
M157	57住	竊穴住居跡	東側	古代	10C	199	142	199		
M158	58住	竊穴住居跡	東側	古代	10C	204	145	204		
M159	59住	竊穴住居跡	東側	古代	10C	203	145	203	灰桶陶器墨書土器	
M160	60住	竊穴住居跡	東側	古代	09C	204	146	205	灰桶陶器	
M161	61住	竊穴住居跡	東側	古代	11C	204	146	205		
M001	1・3溝	水跡跡	東側	中世	12C	15C	179	127, 128		浅間日輪石降下直前
M003	3・5溝	水跡跡	東側	古代	12C	183	129	183		浅間日輪石降下直前
M004	4溝	水跡跡	東側	中世	12C	15C	179	127	180	
M007	7溝	水跡跡	東側	古代	12C	183	129	183		浅間日輪石降下直前
M008	8溝	水跡跡	東側	古代	12C	183	129	183		浅間日輪石降下直前
M009	9溝	水跡跡	東側	古代	12C	183	129	183		浅間日輪石降下直前
M010	10溝	水跡跡	東側	古代	12C	179, 183	127	183		浅間日輪石降下直前
M011	11溝	水跡跡	東側	古代	不明	不明	183	129		
M012	12溝	水跡跡	東側	古代	12Cか	183	130	183		
M013	13・120溝	水跡跡	東側	古代	12C	185	131			浅間日輪石降下直後
M014	14溝	溝内溝溝	中央	中世	不明	不明	160	114		
M015	15溝	水跡跡	東側	中世	不明	不明	176	124		浅間日輪石降下直後
M016	16溝	水跡跡	中央	古世	18C	190	114, 115	163		
M017	17溝	水跡跡	中央	中世	12Cか	15C	160	115, 164		
M018	18・124・132溝	水跡跡	東側	古代	11C	185	130, 131	187		浅間日輪石降下直前
M019	19溝	水跡跡	東側	古代	11C	176	125			浅間日輪石降下直前

1 遺構一覧表

番号	旧番号	種類	地区	時代	開始年代	埋没年代	総延長	写真	遺物	備考
M020	20溝	水路跡	東側	古代	11C		178	125		浅間川石降下以前
M021	21溝	水路跡	中央	近世	不明	不明	160	115	164	
M022	22溝	堀跡	中央	中世	15C	19C	160	114~116	164	南北方向
M023	23溝	水路跡	中央	中世か	不明	不明	116	160	83	
M024	24溝	区画溝	中央	近世か	不明	不明	160	115		高塚の可能性あり
M025	25溝	区画溝	中央	近世	不明	不明	160			高塚の可能性あり
M026	26溝	区画溝	中央	近世	不明	不明	116		82	
M027	27溝	水路跡	中央	中世	不明	不明	116		82	
M028	28溝	水路跡	中央	中世	不明	不明	116		82	
M029	29溝	水路跡	中央	中世	不明	不明	116		82	
M030	30溝	水路跡	東側	古代	11C		176	124		浅間川石降下以前
M031	31溝	水路跡	東側	古代	11C		179	127		浅間川石降下以前
M032	32溝	区画溝	中央	中世	12Cか	17C	155	108	156	
M034	34溝	区画溝	中央	中世	12Cか	17C	155	108		
M035	35溝	区画溝	中央	古代	不明	19C	160	116	164	
M036	36溝	区画溝	中央	現代	不明	不明	114		80	
M037	37溝	区画溝	中央	現代	不明	不明	114			
M039	39溝	区画溝	中央	現代	不明	不明	114			
M040	40溝	堀跡	西側	近世	18C	18C	19	20		東西方向
M041	41・43溝	区画溝	西側	近世	18C	18C	28	25	29	
M042	42溝	区画溝	西側	近世	17C	19C	28	25	29	
M043	50土坑	区画溝	西側	近世	17C	19C	28			
M044	44溝・53土坑	区画溝	西側	近世	18C	18C	28	25	29	
M045	45溝	区画溝	西側	近世	17C	18C	28	28	29	
M046	46溝	区画溝	西側	近世	不明	18C	30	27	31	
M047	47溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	30	27		
M048	48溝	水路跡	西側	近世	17C	18C	19	19, 20	24	
M050	50溝	堀跡	西側	近世	18C	18C	19	19, 20	23	東西方向
M051	51溝	区画溝	西側	近世	18Cか	18Cか	76	57	77	堀書土器
M052	52溝	区画溝	西側	近世	18Cか	18Cか	76	57	77	
M054	54溝	区画溝	西側	近世	17C	19C	68	52	69	
M057	57溝	水路跡	西側	近世	17C	18C	19	24		
M059	59溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	76	57	77	
M060	60溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	30	27		
M061	61溝	区画溝	西側	近世	17C	18C	30	27	31	
M062	62溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	30	26		
M063	63溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	30	27	31	
M064	64溝	堀跡	西側	近世	13C	17C?	19	19, 20	23	南北方向
M065	65溝	堀跡	西側	近世	13C	18C	19	20, 21	23	東西方向
M066	66溝	水路跡	西側	中世	12Cか	18C?	102			
M072	72溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	102			
M074	74溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	19	24		
M075	75溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	19	24		
M101	101溝	水路跡	東側	古代	10C	11C	189	134, 135	191	
M102	102溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M103	103溝	河溝跡	東側	古墳	04C	07C	189	134, 135	192	
M106	106溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189	135		
M107	107溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189	135		
M109	109・155・156溝	水路跡	東側	古代	9Cか	10Cか	189	135		
M110	110溝	水路跡	東側	古代	10C以後	10C以後	189			
M113	113溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M115	115溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M117	117溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M118	118溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M119	119溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M121	121溝	水路跡	東側	古代	11C	不明	189			浅間川石降下以後
M122	122溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M123	123溝	水路跡	東側	古代	12C	12C	189			浅間川石降下以後
M125	125・126溝	水路跡	東側	古代	11C	不明	185	132	187	浅間川石降下以前
M131	131溝	水路跡	東側	古代か	不明	不明	185			
M133	133溝	水路跡	東側	古代	10C	不明	185	131		
M134	134溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	185	131		
M135	135溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	185	131		
M136	136溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	185	131	187	
M137	137溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	185	131		
M138	138溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	185	131		
M139	139溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	185	131		
M140	140溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	185	131		
M141	141溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M142	142溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M143	143溝	水路跡	東側	古代	12C	不明	185	132		浅間川石降下以前
M144	144溝	水路跡	東側	古代	11C	11C	189		192	
M148	148溝	水路跡	東側	古代	11Cか	11Cか	189			
M150	150溝	水路跡	東側	古代	11C以後	11C以後	189	135		
M151	151溝	水路跡	東側	古代	11C	不明	185	132	187	
M152	152溝	水路跡	東側	古代	11C	不明	185	132		
M154	153・154溝	水路跡	東側	古代	11C以後	11C以後	189			
M157	157溝	水路跡	東側	古代	10Cか	10Cか	189			
M158	158溝	水路跡	東側	古代	11Cか	11Cか	189			
M200	1河溝	河溝跡	東側	古代	9C	11C	189	133, 134	191	
M202	2河溝	河溝跡	東側	古代	6C	11C	189	133, 134	191	
M203	3河溝	河溝跡	東側	古代	不明	不明	189	134		

IV 資料

番号	旧番号	種類	地区	時代	開始年代	建設年代	掲載頁	写真	遺物	備考
M204	なし	区画遺跡	西側	近世	不明	不明	68			
M301	なし	区画遺跡	西側	近世	不明	不明	30	26		
M302	なし	区画遺跡	西側	近世	不明	不明	68			
M303	なし	区画遺跡	西側	近世	不明	不明	68			
N001	4サク	高砂	東側	近世	不明	不明	169			南北走行
N002	2サク	高砂	東側	近代	不明	2.0C	173	130	174	東西走行
N003	3サク	高砂	東側	近代	不明	1.7C	169			170)南北走行
N004	4サク	高砂	東側	近代	1.8C	1.9C	169	119	170	170)南北走行
N005	5サク	高砂	東側	近代	1.8C	1.9C	168	119	170	170)南北走行
N006	6サク	高砂	東側	近世	1.8C	1.8C	168	119	170	170)南北走行
N007	7サク	高砂	東側	近世	不明	不明	168			170)南北走行
N008	8サク	高砂	東側	近代	不明	1.9C	168			170)東西走行
N009	9サク	高砂	東側	近世	不明	不明	168	130		南北走行
N010	10サク	高砂	中央	近世	不明	不明	124	87	124	
N012	12サク	高砂	東側	近代	不明	不明	169			
N013	13サク	高砂	東側	近代	不明	不明	169			南北走行
N014	14サク	高砂	東側	近代	不明	不明	169			南北走行
N015	15サク	高砂	中央	近代	不明	不明	102	70		南北走行
N016	16-18サク	高砂	西側	近世	1.8C	1.9C	66		67	
N019	19サク	高砂	西側	近世	1.8C	1.9C	66			
N020	1-20サク	高砂	東側	近代	不明	不明	171	121		東西走行
N021	1-21サク	高砂	東側	近代	不明	不明	171	119, 121		
N022	1-22サク	高砂	東側	近代	不明	不明	171	121		
N023	23サク	高砂	東側	近代	1.9C	2.0C	171	121	172	南北走行
N024	24サク	高砂	東側	近代	1.9C	2.0C	171	121	172	
N031	31サク	高砂	西側	近世	1.7C	1.7C	66		67	
N032	32サク	高砂	西側	近世	不明	不明	66			
N033	33-36サク	高砂	西側	近世	1.9C	1.9C	26		27	
N034	なし	高砂	西側	近世	1.8C	1.8C	26		27	
N036	36サク	高砂	西側	近世	1.8C	1.9C	26		27	
N037	37サク	高砂	西側	近世	1.8C	1.9C	102	74	103	
N038	38サク	高砂	西側	近世	不明	不明	102			
N039	なし	高砂	西側	近世	1.5Cか		102			
N100	116溝	高砂	東側	近代	不明	不明	173			
N101	101サク	高砂	東側	近代	不明	不明	173	122		南北走行
N102	102サク	高砂	東側	近代	不明	不明	173	122		東西走行
N103	103サク	高砂	東側	近代	不明	不明	173	122	174	南北走行
N104	104サク	高砂	東側	近代	不明	不明	174	123		南北走行
N105	105サク	高砂	東側	近代	不明	不明	174	122		東西走行
N106	106サク	高砂	東側	近代	不明	不明	174	122		南北走行
N107	107サク	高砂	東側	近代	不明	1.2C	173	122		東西走行 浅瀬日観石直下
N201	1水田	池跡	東側	近代		1.1C	178	125	178	浅瀬日観石直下以南
N202	2水田	池跡	東側	近代	1.0C	1.1C	178	125	178	
N203	3水田	水田跡	西側	近代	9C	1.8C	19	23	22	墓蓋灰函
N204	4水田	水田跡	東側	近代		1.2C	175	123	175	
X001	5.3-5.5溝	道路跡	西側	近世	不明	1.9C	19	21	23	
X002	1溝跡	道路跡	中央	中世	不明	不明	180	22, 116		
X003	6.7-6.8溝	道路跡	東側	近代	1.8C	1.8C?	19	21	24	
X004	6.9-7.1溝	道路跡	西側	近代	1.8C	1.8C	19	22	24	
X005	11.1-11.4溝	道路跡	東側	近代	1.1C	1.1C	189	135	192	
X006	10.4-10.5溝	道路跡	東側	近代	1.1Cか	1.1Cか	189	135	192	
X011	大池	池跡	中央	近世	1.7C	1.9C	126	130, 89-130-1		
X012	1遺跡	池跡	中央	中世	1.2C	1.4C	117	82, 83	118	
X013	2遺跡	池跡	中央	中世	1.2C	1.5C	119	83	119	
X021	墓池跡	墓池跡	西側	近代	1.8C	1.9C	104	76, 78	105	
X022	1祭肥	小皿墓池跡	東側	近代		1.1C	210	149	211	
X023	小祭池	祭池跡	東側	近代		1.0C	212	151		
筑波山	なし	塚	中央	近代		1.8C	180	89, 91, 93, 94		

2. 遺物一覽表

番号	地区	遺物	種類	輪絵	器形	数量	産地	時代	本文	写真	備考
1001	西側 X203北土	磁器	青磁	輪花皿	口-高-底7.0	6	肥前	近世1830/40	22	2-4-7, 5-16	大塚文型灰土
1002	中央 X012 No.2	磁器	青磁	碗		1	肥前	中世13/14C	118	2-4-5, 13-48	織津弁文高台無胎
1003	中央 X012, (R-096G)	磁器	青磁	碗	底5.2	1	尾島系	中世13/14C	118	2-4-5, 13-48	見込磨洋子高台無胎輪花灰土色
1004	西側 D14	磁器	灰釉	碗	底6.0	1	厚戸奥濃	近世	54	9-32	高台下無胎灰土色
1006	西側 X021	磁器	青磁	碗	口-高-底4.2	1	福建立東	中世13C	105	2-4-5, 12-47	薄弁形丸形高台無胎輪花灰土色
1006	中央 X012	磁器	青磁	碗		1	尾島系	中世13/14C	118	2-4-5, 13-48	織津弁文高台丸形無胎
1007	西側 X022磁器田	磁器	青磁	碗		1	尾島系	中世13/13C	22	2-4-5, 5-18	内高外低型
1008	中央 X012	磁器	白磁	鉢		1	中国	中世13C	118	2-4-5, 13-48	見込印在外文無高台底部無胎薄手
1009	中央 X012 No.16	磁器	青磁	碗	口12.0	1	尾島系	中世13/14C中	118	2-4-5, 13-48	織津弁文彫花輪花口切脚輪花灰土色
1010	中央 X012東側, (G-059G)	磁器	青磁	皿/小鉢	口12.0	1	尾島系	中世14C/15C	141	2-4-5, 14-52	外織津弁文彫花彫花口切脚輪花灰土色
1011	中央 X012 No.11	磁器	白磁	皿	口(11.0)	1	中国	中世13/14C	118	2-4-5, 13-48	外下無胎彫花灰土色
1013	西側 D171	磁器	青磁	皿		1	尾島系	中世13/13C	95	2-4-5, 12-44	見込磨洋子形彫花彫花灰土色
1014	中央 X012	磁器	青磁	碗		1	尾島系	中世13/14C中	184	2-4-5, 15-98	外織津弁文高台丸形無胎輪花灰土色
1015	西側 X022中層	磁器	青磁	碗		1	尾島系	中世13/14C中	105	2-4-5, 15-47	外織津弁文高台丸形無胎輪花灰土色
1016	東側 M001下層	磁器	白磁	碗	口(12.0)	1	中国	中世13/14C中	180	2-4-5, 15-99	口色無胎灰土色
1017	東側 M001	磁器	青磁	碗		1	中国	中世13/14C中	180	2-4-5, 15-99	外織津弁文彫花輪花輪花口切脚輪花灰土色

番号	地区	遺物	種類	物産地	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1018	中央	M032	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世12/14C中	106	2-4/5, 15-56	外縁唐弁文菊花丸彫筋外縁灰白色
1019	中央	M017蒙部下層	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C中	164	2-4/5, 15-56	外縁唐弁文菊花丸彫筋外縁灰白色
1020	東海	M001 No. 5	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C中	180	2-4/5, 15-59	外縁唐弁文菊花丸彫筋外縁灰白色
1021	中央	M037	磁器	白磁	碗		中国	中世15C	184	2-4/5, 15-56	切高台目縁内面白色黒色線粒
1022	西京	D171	陶器	灰胎	皿		肥前	近世18C前	95	12-45	京焼系 陶胎灰白色
1023	中央	M038	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世14/15C前	163	2-4/5, 13-48	外縁唐弁文菊花丸彫筋外縁灰白色
1024	中央	M017	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C中	164	2-4/5, 15-56	外縁唐弁文菊花丸彫筋外縁灰白色
1025	東海	N034	磁器	青磁	鉢		竜泉系	中世14/15C前	172	2-4/5, 15-58	高台内縁筋外縁灰白色
1026	中央	X012 No.10	磁器	青磁	鉢	高(8.0)	竜泉系	中世12/13C	118	2-4/5, 13-48	足込唐花外縁灰白色
1027	西京	X003	陶器	灰胎	小鉢		瀬戸美濃	近世	24	5-18	足込目縁筋ナリフ灰白色
1028	西京	(X-053G)	磁器	白磁	小鉢		肥前	近世17/18C	221	16-60	瓢土白台
1029	中央	M016	磁器	青磁	碗		不明	近代	164	13-49	唐土白台
1030	東海	(不明)	磁器	青磁	碗		不明	近代	164	13-49	唐土白台
1031	東海	N103	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	225	2-4/5, 16-62	外縁唐花外縁灰白色
1032	中央	X011中島, (H-058G)	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C中	174	2-4/5, 15-51	外縁唐弁文菊花丸彫筋外縁灰白色
1033	東海	N204付近表土	磁器	白磁	小碗		肥前	近世18C	145	5-18	唐付灰白色
1034	中央	(H-057G)	磁器	青磁	皿		肥前	近世18C	234	16-62	上手彫灰白色
1035	中央	(R-047G)	磁器	白磁	碗		肥前	近世19C前/幕末	224	16-62	唐付灰白色
1036	西京	M852	陶器	灰胎	小皿		美濃	近世	77	5-17	二丁皿唐付青丸 瓢土丸
1037	東海	N005	磁器	灰胎	碗		瀬戸美濃	中世14/15C	170	15-57	灰白色
1038	中央	X011, (L-083G)	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	140	2-4/5, 13-50	外縁唐弁文菊花丸彫筋外縁灰白色
1039	西京	M44, M045	磁器	青磁	碗		肥前系	近世17C?	29	6-20	1041(N203)と同一
1040	西京	N036-11層, (V-W-611G)	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	27	2-4/5, 8-22	外縁唐弁文菊花丸彫筋外縁灰白色
1041	西京	D108	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	83	2-4/5, 8-29	外縁唐弁文菊花丸彫筋外縁灰白色
1042	西京	N036-8層	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	27	2-4/5, 8-22	外縁唐弁文菊花丸彫筋外縁灰白色
1043	東海	N005	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	170	2-4/5, 15-57	唐土白台
1044	西京	(L-083G)	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	224	2-4/5, 16-61	内面文外縁灰白色
1045	中央	(R-050G)	磁器	青磁	香炉		中野明	224	2-4/5, 16-62	外縁唐花外縁灰白色	
1047	西京	D060	磁器	青磁	蓋		肥前	近世17C	44	2-6/7, 7-26	1052(中央)と同一彫灰白色
1048	中央	M016上層	磁器	金付	茶		肥前系	近世1820/90	163	13-49	扇縁唐花外縁灰白色
1049	東海	(不明)	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	225	2-4/5, 16-62	唐土白台
1050	西京	X128 6層	磁器	青磁	碗		肥前	近世17C	37	6-22	瓢土丸
1051	東海	N036	磁器	灰胎	碗		瀬戸美濃	近世	27	6-22	1051, 1044の一部
1052	東海	(不明)	陶器	灰胎	碗	底(6.4)	瀬戸美濃	近世	225	16-62	高台無彫灰白色軟質
1053	東海	M103	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	174	2-4/5, 15-58	外縁唐弁文菊花丸彫筋外縁灰白色
1054	西京	D081	磁器	金付	碗	口10.0高5.2腹4.0	肥前	近世18C後	51	8-28	雲輪唐文
1055	西京	M044, M045	磁器	金付	鉢	底6.5	肥前	近世19C前/幕末	29	6-20	二次焼成土紅絵紺目四股高台
1057	西京	(F-011G)	磁器	金付	碗	底3.5	近代/東野明徳	221	16-60	牡丹文足込唐文	
1058	西京	D078	磁器	金付	小瓶	口7.4高3.7腹3.0	肥前	近代	7-27	26-27	唐文
1059	西京	N036	磁器	小片	碗		肥前	近世18C/19C	27	6-22	唐文
1060	西京	D091	磁器	金付	広家調	口11.4	肥前系	近世1780/19C前	49	8-28	牡丹文
1061	西京	D076	磁器	金付	楕圓口	口7.6高3.8腹3.0	肥前	近世18C	46	7-27	雲輪唐文高台砂
1062	西京	J016/J048	磁器	金付	瓶	小片	肥前	近世17C後	35	6-23	1062文
1063	西京	D088	磁器	金付	瓶	小片	肥前	近世17C後	19	2-6/7, 8-28	唐文
1064	西京	X232上層	磁器	金付	碗	底5.4	近代	22	16-60	扇縁唐文	
1065	西京	M048上層, (Q-023G)	磁器	金付	皿	小片	中国製唐文	近世1580/17C前	24	2-4/5, 15-19	唐文手書手彫唐文
1066	西京	(不明)	磁器	金付	碗	底5.8	肥前系	近世1690/18C前	221	16-60	雲輪唐文?
1067	西京	(X-056G)	磁器	金付	瓶	小片	肥前	近世17C後	221	2-6/7, 16-60	雲輪唐文?
1068	西京	(F-011G)	磁器	金付	碗	口9.8高5.2腹4.0	肥前	近世18C中末	221	16-60	二重唐文足込唐文文通
1069	西京	D076	磁器	金付	漆喰調	小片	肥前系	近世18C後	46	7-27	唐文
1070	西京	D061	磁器	金付	碗	小片	肥前	近世18C中末	41	7-25	扇縁唐文五弁花
1071	西京	N036	磁器	金付	漆喰調	小片	肥前系	近世1820/18C前	27	6-22	人物文
1072	西京	D068, D047	磁器	白磁	口φ7.2 高3.2腹1.9高0.6		肥前	近代	44	7-26	方形皿
1073	西京	(不明)	磁器	金付	碗?	小片	肥前	近世17C後	221	16-60	松竹梅文?大明鏡
1074	西京	D100	磁器	金付	瓶	口8.4高1.8腹1.4	肥前	近世18C前	42	8-28	高森唐文
1075	西京	D031	磁器	金付	碗	小片	肥前	近世17C後	41	7-25	彩色不具
1076	西京	D082	磁器	金付	碗	小片	肥前	近世18C前	51	8-28	雨降文彩色不具唐文
1077	西京	D171	磁器	白磁	小皿	底4.0	肥前	近世18C	96	12-45	足込彫目縁唐文
1078	西京	D194, D114	磁器	金付	皿	口13.2高3.8腹3.0	肥前唐佐佐見系	近世18C後	84	10-29	雲輪唐文足込五弁花通高台砂
1079	西京	D194	磁器	金付	皿	口12.2高3.6腹2.7	肥前唐佐佐見系	近世18C後	84	10-29	雲輪唐文高森五弁花通高台砂
1080	西京	D123	磁器	白磁	蓋付小鉢	底3.6	肥前	近世18C前	87	11-43	輪高台
1081	西京	(X-028G)	磁器	金付	小皿	口13.2高3.6腹2.4	肥前唐佐佐見系	近世18C後	221	16-61	格子目文足込目縁唐文高台砂
1082	西京	D114	磁器	金付	皿	口14.4高3.6腹2.2	肥前唐佐佐見系	近世18C中末	53	9-35	雲輪唐文足込五弁花通高台砂
1083	西京	(X-022G)	磁器	金付	皿	小片	肥前	近世1640/1650	222	6-7, 16-60	雲輪唐文五弁花通高台砂
1084	西京	D123	磁器	白磁	小皿	底4.0	瀬戸美濃	近代	87	11-40	扇縁唐文
1085	西京	(L-026G)	磁器	金付	皿	底13	近代	222	16-61	扇縁唐文	
1086	西京	X001	磁器	金付	輪縁皿	口14	肥前系	近世19C前/幕末	25	5-17	口縁山本絵
1087	西京	X001	磁器	白磁	瓶	口8	肥前	近世18C	25	5-17	唐文
1088	西京	M054	磁器	金付	皿	口14.4高3.4腹2.0	肥前唐佐佐見系	近世18C	69	6-21	唐文文目縁筋唐高台砂
1089	西京	D171	磁器	金付	皿	口11.8高3.4腹2.8	肥前唐佐佐見系	近世18C	95	12-45	彩色唐文足込五弁花通高台砂
1090	西京	D114	磁器	金付	皿	口14.8高3.6腹2.5	肥前	近世18C	53	9-32	雲輪唐文五弁花通高台砂
1091	西京	D123, M050	磁器	白磁	小皿	底4.2	肥前唐佐佐見系	近世18C	87	11-41	紅目輪高台
1092	西京	M054	磁器	金付	漆喰調	口7.6高3.6腹4.0	肥前	近世1780/1810	69	6-21	唐花文今し高森五弁花
1093	西京	D194	磁器	金付	漆喰調	口9.8高6.0腹4.2	肥前	近世1780/1810	84	10-29	竹唐文
1094	西京	M054	磁器	金付	瓶	口10	肥前	近世18C前	69	6-21	唐高弁唐文
1095	西京	D123	磁器	金付	皿	口4.8高5.3腹4.2	肥前	近世18C前中?	87	11-43	高森唐文
1096	西京	D114	磁器	金付	小片	口7.6高3.4腹3.4	肥前	近世1690/18C前	53	9-35	唐文
1097	西京	D114	磁器	金付	漆喰調	口7.6高3.4腹3.2	肥前	近世1780/1810	53	9-32	唐高唐文手書五弁花
1098	西京	D186	磁器	白磁	唐文唐口	口6.8高3.8腹4.4	肥前	近世18C前中?	74	10-28	
1099	西京	D186	磁器	青磁付	漆喰調	口7.6高5.6腹4.0	肥前	近世18C前中?	74	10-28	手書五弁花
1100	西京	D114	磁器	金付	碗	口10.0高5.5腹4.0	肥前	近世18C後/19C前	53	9-32	雲輪唐文唐文丸
1101	西京	M057, D123	磁器	金付	碗	口11.0高5.8腹4.3	肥前	近世18C	24	5-17	松文(彩色唐文) 高台砂
1102	西京	M050	磁器	色絵	皿	口8.4高5.5腹3.9	不明	近代	23	5-17	外縁唐文?中心/彩色唐文内白磁
1103	西京	X001	磁器	金付	碗	口9.8高3.1腹4.4	肥前	近世18C前中?	26	10-28	雲輪唐文唐文丸
1104	西京	D186	磁器	金付	碗	口9.9高3.1腹4.2	肥前	近世18C後	74	10-28	雲輪唐文唐文丸
1105	西京	D177, D123	磁器	金付	碗	口8.0高5.0腹3.4	肥前唐佐佐見系	近世1690/18C前	95	12-44	朝明文
1106	西京	D186	磁器	金付	碗	口9.4高4.8腹3.5	肥前唐佐佐見系	近世18C	74	10-28	雲輪唐文唐文丸

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	輪軸	形状	法量	築地	時代	本文	写真	備考
1107	西側 M054	磁器	染付	碗	口9.5底5.1底3.4	肥前濱見丸	近世18C末/18C初	肥前	69	6-21	雪輪梅文瀧大明早製高台砂
1108	西側 M054	磁器	染付	碗	口10.2底4.8底4.0	肥前	近世18C末	肥前	69	6-21	四方博刺槍子布松文瀧一高台砂い
1109	西側 M054	磁器	染付	湯飲碗	口7.0底4.3底-	肥前	近世1780/1810	肥前	69	6-21	惣起高麗文
1110	西側 (Q-022G)	磁器	染付	碗	口8.5底5.1底4.0	肥前	近世18C末	肥前	116	16-1	雪輪梅文瀧大明早製
1111	西側 M054	磁器	染付	小碗	口7.4底3.9底3.2	肥前	近世18C末	肥前	69	6-21	草文彩色良好
1112	西側 M016	磁器	染付	碗	口9.0底5.4底3.9	肥前	近世1780/1810	肥前	69	10-36	二重目文瀧大明早製
1013	西側 D114	磁器	染付	碗	口11.0底6.3底3.4	肥前	近世17C末/18C初	肥前	53	9-32	遠山・松文や上子銀化高台砂
1114	西側 D106, D186	磁器	染付	華蓋壺口	口7.4底5.7底5.4	肥前	近世18C末	肥前	83	8-29	華草文
1115	中央 X011上(0-61G)	磁器	染付	碗	口9.8底5.3底4.0	肥前濱見丸	近世18C末/18C初	肥前	140	13-50	雪輪梅文瀧大明早製高台砂
1116	西側 D124	磁器	染付	碗口	口7.5底4.6底2.5	阿蘇系	近代	80	8-30	合成C型花文二重目高台面とリ	
1117	西側 N016	磁器	染付	碗	口8.0底5.0底4.0	肥前濱見丸	近世18C末/18C初	肥前	67	10-36	雪輪梅文瀧大明早製
1118	西側 D186	磁器	染付	小碗	口7.0底3.5底2.5	肥前	近世18C	肥前	74	10-36	草文文
1119	西側 D186	磁器	染付	湯飲碗	口7.2底4.0底3.0	肥前系	近世1780/1810	肥前	74	10-36	華草文 (彩色良好)
1120	西側 D171	磁器	染付	碗口	口7.9底4.6底3.3	肥前	近世18C末	肥前	95	12-44	高麗刺槍大明早製高台砂輪刺槍
1121	西側 M054	磁器	染付	碗	口高-底3.6	肥前	近世18C末	肥前	69	6-21	雪輪梅文瀧大明早製
1122	西側 D123	磁器	染付	碗口	口8.5底4.5底3.3	肥前	近世18C末	肥前	87	11-40	雨降文瀧子手輪刺槍高台砂
1123	西側 D123, M050	磁器	染付	碗	口9.0底5.1底-	肥前	近世18C末	肥前	87	11-41	輪文文勢色良變接合2次地成
1124	西側 N037南端, (N-544G)	磁器	染付	湯飲碗	口7.4底-	肥前	近世1780/1810	肥前	103	30-27	華草文文五弁竹文
1125	西側 D186	磁器	染付	湯飲碗	口7.5底4.0底3.0	肥前系	近世18C	肥前	81	10-36	華草文文1012接合
1126	西側 D107	磁器	染付	碗	口9.4底4.9底4.0	肥前濱見丸	近世18C末/18C初	肥前	83	8-29	前大明早製
1127	西側 N024, M050	磁器	染付	碗	口12.0底5.8底4.7	肥前有田	近世1660/1670	肥前	2-6/7, 11-41		足込杉枝竹文瀧大明早製太明花車輪
1128	西側 N016, (N-038G)	磁器	染付	碗	口10.0底5.4底4.0	阿蘇美濃	近代	67	10-36	松竹梅文瀧刺槍丹文	
1129	西側 D123	磁器	青磁染付	湯飲碗	口7.6底5.5底4.0	肥前	近世18C末	肥前	87	11-40	四方博文足込五弁花高台砂
1130	西側 D107	磁器	青磁染付	湯飲碗	口7.6底5.5底4.0	肥前	近世18C末	肥前	83	8-29	内方竹文
1131	西側 D114	磁器	染付	小碗	口7.5底3.1底2.6	肥前	近世18C末	肥前	89	9-32	華草文足込竹文連目輪刺槍
1132	西側 D114	磁器	染付	湯飲碗	口7.0底5.4底3.3	肥前	近世1780/1810	肥前	53	9-32	足込五弁竹文
1133	西側 D114	磁器	染付	碗	口9.4底5.7底3.3	肥前	近世1780/1810	肥前	53	9-32	足込五弁竹文
1134	西側 D172	磁器	染付	湯飲碗	口高-底4.0	肥前	近世18C末	肥前	101	10-37	松文
1135	西側 (L-020G)	磁器	金彩白磁	碗	口8.0底3.2底3.6	阿蘇美濃	近代	222	16-61	内紋花文	
1136	西側 D171	磁器	白磁	小皿	口高-底3.6	肥前濱見丸	近世18C	肥前	95	12-45	足込松花目紋は
1137	西側 D068	磁器	染付	小皿	口7.5底3.1底2.0	肥前	近世18C	肥前	49	8-28	花文
1138	西側 (R-041G)	磁器	染付	碗	口高-底-	肥前	近世18C	肥前	122	16-61	松文
1139	西側 X001	磁器	染付	碗	口高-底4.0	肥前系	近世18C中末	肥前	25	5-17	遠文彩色
1140	西側 (U-026G)	磁器	染付	小杯	口高-底3.0	肥前	近世19C	近代	222	16-61	清元鳥
1141	西側 D123, M050	磁器	染付	碗	口高-底-	肥前	近世17C末/18C初	肥前	87	11-41	秋草文
1142	西側 D123	磁器	染付	碗	口高-底-	肥前	近世1680/1810	肥前	87	11-40	松文
1143	西側 D114	磁器	染付	碗	口高-底-	肥前	近世18C末	肥前	53	9-32	華草文
1144	西側 X001	磁器	彩色	小碗	口高-底-	肥前	近世18C末	肥前	25	5-17	輪刺槍文
1145	西側 (Q-022G)	磁器	染付	小杯	口高-底-	肥前	近世18C末	肥前	222	16-61	松竹丹文
1146	西側 (U-025G)	磁器	染付	碗	口高-底-	肥前	近代	222	16-61	柳菖蓮華文	
1147	西側 D107, (N-038G)	磁器	染付	蓋碗	口高-底-	肥前	近世18C末	肥前	83	8-29	外雪輪梅文瀧大明早製
1148	西側 D114	磁器	青磁	碗	口高-底-	肥前	近世17C中	肥前	54	9-35	高台砂
1149	西側 D124	磁器	染付	灯芯押上	口高3.6底2.6	阿蘇美濃	近代	80	8-30	合成C型合付文	
1150	西側 D106, D114	磁器	染付	碗	口高-底4.0	肥前	近世17C中	肥前	84	2-6/7, 10-39	花文瀧高台面丸
1151	西側 D106	磁器	染付	木碗	口高-底3.4	肥前	近世18C	肥前	74	10-36	輪刺槍文(文型作)
1152	西側 D114	磁器	染付	碗	口高-底-	肥前	近世17C末/18C初	肥前	54	9-35	内紋博飯
1153	西側 (L-036G)	磁器	染付	急須蓋	口6.2底1.9底-	阿蘇系	近代	222	16-61	合成C型刺槍文	
1154	西側 M054	磁器	染付	碗	口高-底-	肥前	近世1650/1660	肥前	69	2-6/7, 6-21	丸文
1155	西側 (R-007G)	磁器	彩色	大花瓶	口高3.8底2.8	阿蘇美濃	近代	222	16-61	口耳・赤中穴型文や辻地刺槍	
1156	西側 D171, D123/M050	磁器	染付	碗	口高-底-	肥前	近世1650/1660	肥前	95	2-6/7, 12-45	刺槍文
1157	西側 M054	磁器	彩色	盆	口10.3底5.6底-	肥前	近世17C末/18C初	肥前	69	6-21	内紋博飯・口はくろ水
1158	西側 D123	磁器	染付	碗	口高-底7.6	肥前吉田山	近世17C末	肥前	87	2-6/7, 11-40	松灰色と心細小・外周縁
1160	西側 (P-022G)	磁器	白磁	碗	口高-底-	肥前	近世17C末/18C初	肥前	222	16-61	外通山文・内はくろ水
1161	西側 (Q-022G)	磁器	染付	碗	口高-底-	肥前系	近世17C末/18C初	肥前	222	16-61	下段高麗
1162	西側 (R-026G)	磁器	染付	蓋物置	口7.0底-	肥前	近世17C末/18C初	肥前	222	16-61	合成C型外草文
1163	西側 N016	磁器	染付	碗	口高-底-	肥前系	近世18C末	肥前	67	10-36	外雪輪梅文瀧大明早製
1164	西側 N016	磁器	染付	湯飲碗	口高-底-	肥前	近世18C末/18C初	肥前	67	10-36	外雪輪梅文瀧大明早製
1165	西側 X001, (R-032G)	磁器	白磁	小杯	口高-底-	肥前	近世1650/1660	肥前	67	2-6/7, 10-36	高台輪刺槍
1166	西側 (R-026G)	磁器	染付	碗	口高-底-	肥前	近世18C末/18C初	肥前	222	16-61	
1167	西側 D123	磁器	白磁小	帶柄	口高-底-	肥前	近世17C末/18C初	肥前	83	8-29	刺槍文
1168	西側 D107	磁器	染付	湯飲小	口高-底-	肥前	近代	83	8-29		
1169	西側 N016, (T-039G/040G)	磁器	白磁	碗	口高-底-	肥前	近世17C末/18C初	肥前	67	10-36	
1170	西側 N016	磁器	白磁	碗	口高-底-	肥前	近世17C末/18C初	肥前	67	10-36	
1171	西側 D114	磁器	彩色	火久丸	口高-底3.3	肥前	近世19C	近代	95	12-45	内紋竹文
1172	中央 X011中下層	磁器	染付	夜直	口12.4底4.3底11.2	合津小	近代	明治大正	141	14-02	合成C型・縁起物花文
1173	中央 X011上層, (R-062G)	磁器	染付	碗	口12.1底5.2底4.2	阿蘇美濃小	近代	明治大正	140	14-05	外雪輪梅文瀧大明早製
1174	中央 X011試製	磁器	染付	碗	口9.6底5.3底4.2	肥前	近世18C中末	肥前	140	13-50	前大明早製草文高麗刺槍
1175	中央 X011底層, (G-059G)	磁器	染付	碗	口10.0底5.1底4.0	肥前	近世18C末/18C初	肥前	140	13-50	雪輪梅文瀧大明早製
1176	中央 X011中層, (U-059G)	磁器	染付	碗	口10.2底5.2底4.4	肥前濱見丸	近世18C末	肥前	140	13-51	雪輪梅文瀧大明早製
1177	中央 X011中層, X011底層	磁器	染付	碗	口10.0底5.3底4.0	肥前	近世18C	肥前	140	13-51	雪輪梅文瀧大明早製
1178	中央 X011試製	磁器	染付	碗	口10.0底5.3底4.0	肥前	近世18C末	肥前	140	13-51	雪輪梅文瀧大明早製
1179	中央 X011下層, (H-060G)	磁器	染付	碗	口10.8底5.1底4.2	肥前濱見丸	近世18C末	肥前	140	14-54	雪輪梅文瀧大明早製高台砂
1180	中央 X011下層	磁器	染付	碗	口10.1底4.9底2.2	肥前濱見丸	近世18C末	肥前	140	14-54	雪輪梅文瀧大明早製
1181	中央 X011上層, (G-060G)	磁器	染付	碗	口11.0底-	肥前	近世17C末/18C初	肥前	140	13-50	草文
1182	中央 M022下層	磁器	染付	湯飲碗	口高-底3.4	肥前系	近世1780/1810	肥前	140	13-56	四方博文瀧大明早製高台小
1183	中央 X011西端壁	磁器	染付	碗	口高-底-	肥前	近世17C末/18C初	肥前	140	13-53	雪輪梅文瀧大明早製
1184	中央 X011下層, (H-062G)集	磁器	彩色	碗	口高4.0底3.2	肥前	近代	大正昭和	140	14-54	華草文・足込松花目紋は
1185	中央 X011中層, (G-060G)集	磁器	染付	盆	口13.8底3.7底3.2	肥前濱見丸	近世18C	肥前	140	13-51	芙蓉竹梅花文手輪五弁花高台砂
1186	中央 X011下層, (U-059G)	磁器	染付	盆	口高-底6.9	肥前濱見丸	近世18C	肥前	140	14-54	五弁花文足込五弁花高台砂
1187	中央 X011下層	磁器	染付	碗	口13.6底3.1底3.4	肥前濱見丸	近世18C	肥前	140	14-54	雪輪梅文瀧大明早製高台砂
1188	中央 X011底層, 42G	磁器	染付	盆	口7.4底4.7底3.1	阿蘇美濃	近代	昭和明治	140	14-55	合成C型草文
1189	中央 X011上段下層	磁器	染付	湯飲碗	口7.8底5.7底3.6	肥前系	近世1850/1860	肥前	140	14-54	山本銀
1190	中央 X011中層一掃	磁器	彩色	扇反置	口7.2底3.6底3.2	肥前	近代	昭和明治	140	14-51	扇文・口輪刺槍文
1191	中央 X011上層, (H-059G)	磁器	彩色	盆	口7.5底3.7底3.1	阿蘇美濃小	近代	昭和明治	140	14-55	盆文・口輪刺槍文
1192	中央 X011下層	磁器	彩色	盆	口高-底-	肥前	近世18C末/18C初	肥前	140	14-54	草文
1193	中央 X011底層下層, (H-062G)	磁器	染付	急須蓋	口高-底6.0	阿蘇	近代	昭和明治	141	14-54	合成C型丸文流水刺槍高麗刺槍
1194	中央 X011底層, (H-063G)	磁器	染付	碗	口12.0底高-底-	阿蘇美濃	近代	明治大正	140	14-55	刺槍文 華草文

番号	地区	遺 物	種類	輪軸成	器形	法 量	産 地	時 代	本文	写真	備 考	
1195	中央	3011(東上層, 304-060)	磁器	輪付	碗	口<高>一底	肥前	近世 17C後	140	2-4/7	14-54	肥前寿字文
1196	中央	X011.16, (G-059G)	磁器	輪付	碗	口<高>一底	肥前	近世 18C前	140	14-55		草花文
1197	中央	X011.17中, (G-058G)	磁器	輪付	盆	口<5.8>高<底>	瀬戸美濃系	近代 幕末	140	13-51		合成Co, 絵付花文
1198	中央	3011(西上層, 304-070)	磁器	青磁	火入丸	口<高>一底 (7.0)	肥前	近世 18C	141	13-50		内陶器, 柱目四脚台 大粒彩
1199	中央	X011.1下層, (H-062G)	磁器	輪下彫	口<高>一底	肥前	近代	140	13-51			色文
1200	中央	X011.18中上層, (H-058G)	磁器	口付	1.7×4.7	口<高>一底 幅<高>8.0	瀬戸美濃系	近代	142	13-51		方形蓋
1201	中央	X011.18, (H-042G)	磁器	口付	1.7×4.7	口<高>一底 幅<高>8.0	瀬戸美濃系	近代	142	13-51		底面施彩 透裡付着
1202	中央	X011.18中上層一括	磁器	輪付	貫之足懸	口<高>一底	肥前系	近代	141	13-51		合成Co
1203	西側	X021.1中層	磁器	輪付	盆	口<高>一底	瀬戸美濃系	近代	105	12-47		合成Co, 草文
1204	中央	(Q-047G)	磁器	輪付	湯飲碗	口<高>3.9底	肥前	近世 1780/19C	222	16-02		薄文
1205	中央	(Q-048G)	磁器	輪付	湯飲碗	口<高>3.9底	肥前	近世 1780/19C	222	16-02		薄文
1206	中央	M016.1上層	磁器	輪付	湯飲碗	口<高>4.2底3.4	瀬戸美濃系	近代	163	13-19		見込文 山水文
1207	中央	M016.1上層	磁器	輪付	湯飲碗	口<高>4.2底2.6	肥前	近代 幕末	163	13-19		見込山草花 雲浮蓮文
1208	中央	M016.1上層	磁器	輪付	湯飲碗	口<高>4.2底3.4	肥前系	近代 1830/幕末	163	13-19		草花
1209	中央	M016.1上層	磁器	輪付	湯飲碗	口<高>4.2底3.4	肥前	近代 1780/1810	163	13-19		雲浮蓮文 見込山草花五弁花
1210	中央	M016.1上層	磁器	輪付	湯飲碗	口<高>4.2底3.4	肥前	近代 1780/1810	163	13-19		雲浮蓮文 見込山草花
1211	中央	M016.1上層	磁器	輪付	湯飲碗	口<高>4.2底3.4	肥前系	近代 1820/1860	163	13-19		見込文
1212	中央	M016.1上層	磁器	輪付	湯飲碗	口<高>4.0底	肥前	近代	163	13-19		草文
1213	東側	N021	磁器	輪付	輪文皿	口<高>2.3底2.7	肥前	近代 幕末	172	15-58		合成Co, 山水 柱目四脚台
1214	東側	M012	磁器	輪付	小瓶	口<高>一底	瀬戸美濃系	近代 幕末明治	183	15-59		笠文
1215	東側	M012	磁器	輪付	小瓶	口<高>一底	肥前	近代 18C前中	183	15-59		雲輪山水
1216	東側	N025	磁器	輪付	鉢	口<高>一底	肥前	近世 18C中末	170	15-57		薄文
1217	不明	(出土位置不明)	磁器	輪付	鉢	口<高>一底	肥前系	近世 18C前中	226	16-00		繪文
1218	西側	(P-011G)	陶器	二形三角手鉢	口<高>11.8	肥前	近世 17C後/18C前	221	16-09			見込山草花 胎土赤灰色
1219	西側	M046, (H-011G)	陶器	二形片口鉢	口<高>11.8	肥前	近世 17C後	221	16-09			胎土赤灰色 黄灰色
1220	西側	M046, (Q-020G)	陶器	二形片口鉢	口<高>11.8	肥前	近世 17C後	221	16-09			胎土赤灰色 黄灰色
1221	西側	M041.1上層	陶器	二形片口鉢	口<高>11.8	肥前	近代 幕末	24	5-19			内面施彩 見込山草花 黄灰
1222	西側	(出土位置不明)	陶器	片口鉢	口<高>11.8	瀬戸美濃系	近代	41	7-25	165		内面施彩 胎土赤灰色 黄灰
1223	西側	M048.1上層	陶器	片口鉢	口<高>11.8	瀬戸美濃系	近代	221	16-09			胎土赤灰色
1224	西側	M048.1上層	陶器	片口鉢	口<高>11.8	瀬戸美濃系	近代	221	16-09			胎土赤灰色
1225	西側	M048.1上層	陶器	片口鉢	口<高>11.8	瀬戸美濃系	近代	221	16-09			胎土赤灰色
1226	西側	D061 (T-009G)	陶器	二形片口鉢	口<高>10.0	肥前	近代 18C	22	7-26			胎土赤灰色
1227	西側	M048.1上層	陶器	二形片口鉢	口<高>一底	肥前	近代 18C	24	5-19			胎土赤灰色
1228	西側	M048	陶器	輪軸	徳利	口<高>一底	不明	近世 古くない	24	5-19		狭く多い 内面施彩
1229	西側	D041	陶器	輪軸輪軸付 徳利	口<高>一底	瀬戸美濃系	近代 18C前	41	7-25			内面施彩
1230	西側	D075	陶器	輪軸	徳利	口<高>一底	産地不明	近代	46	7-27		内面付着
1231	西側	D091 (H-013G)ピット	陶器	片口鉢	口<高>11.8	肥前	近代 17C前中	49	8-28			黄灰色
1232	西側	M046	陶器	片口鉢	口<高>11.8	肥前	近代 17C前中	37	6-23			胎土赤灰色 胎土灰黄色 混濁
1233	西側	M046	陶器	片口鉢	口<高>11.8	肥前	近代 18C	24	5-19			下唇有孔 黄灰色
1234	西側	D054, D041	陶器	片口鉢	口<高>一底	瀬戸美濃系	近代 17C前中	42	7-26	41		胎土赤灰色
1235	西側	PH, T-009G, (T-010G) 井	陶器	二形片口鉢	口<高>一底	肥前	近代 17C後/18C	35	6-23			胎土赤灰色 2片
1236	西側	M044	陶器	片口鉢	口<高>一底	瀬戸美濃系	近代 18C前	29	6-20			胎土灰白 白黄灰
1237	西側	D078	陶器	片口鉢	口<高>一底	瀬戸美濃系	近代 18C	47	7-27			胎土灰白 灰黄
1238	西側	M048	陶器	片口鉢	口<高>一底	瀬戸美濃系	近代 18C	24	5-19			内面施彩 胎土赤灰色 黄白色
1239	西側	D047ツケ土	陶器	片口鉢	口<高>一底	瀬戸美濃系	近代 18C	37	6-23			内面施彩 胎土赤灰色 黄白色
1240	西側	N203	陶器	片口鉢	口<高>一底	瀬戸美濃系	近代 17C前中	22	5-16			胎土灰白 白灰色
1241	西側	J016	陶器	片口鉢	口<高>一底	瀬戸美濃系	近代 18C/19C	35	6-23			胎土灰白 灰黄色 赤灰色 輪厚い
1242	西側	D057ツケ土	陶器	片口鉢	口<高>一底	不明	近代	44	7-26			胎土赤灰色
1243	西側	M048	陶器	片口鉢	口<高>一底	不明	近代	24	5-19			胎土赤灰色
1244	西側	D082	陶器	二形片口鉢	口<高>1.4底1.2	肥前	近代 17C後/18C	51	8-28			胎土赤灰色
1245	西側	D180	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C	42	8-28			胎土赤灰色 黄入
1246	西側	D078	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C	47	7-27			胎土赤灰色
1247	西側	D041	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C後	41	7-24			胎土赤灰色
1248	西側	D085	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C	44	7-26			胎土赤灰色
1249	西側	M045	陶器	片口鉢	口<高>一底	瀬戸美濃系	近代 17C前中	29	6-20			胎土赤灰色
1250	西側	M048	陶器	片口鉢	口<高>一底	瀬戸美濃系	近代 18C前	24	5-19			胎土赤灰色
1251	西側	D041	陶器	二形片口鉢	口<高>1.4底1.2	肥前	近代 18C後	41	7-24			胎土赤灰色
1252	西側	D083	陶器	片口鉢	口<高>一底	瀬戸美濃系	近代 17C後/18C前	49	8-28			胎土赤灰色
1253	西側	M041.1上層	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C中	41	7-24			胎土赤灰色
1254	西側	D041.1上層	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前/19C	41	7-24			胎土赤灰色
1255	西側	D041.1上層	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	41	7-24			胎土赤灰色 黄入
1256	西側	D041	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前/19C	41	7-24			胎土赤灰色 黄入
1257	西側	D041	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	41	7-24			胎土赤灰色
1258	西側	D045, D049	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	41	7-24			胎土赤灰色
1259	西側	D045, D049	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	41	7-24			胎土赤灰色
1260	西側	N203.1上層	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	22	5-16			胎土赤灰色
1261	西側	D041.1上層	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	41	7-24			胎土赤灰色
1262	西側	J017/3046, N036	陶器	二形片口鉢	口<高>一底	肥前	近代 18C	35	6-23			胎土赤灰色
1263	西側	D041	陶器	二形片口鉢	口<高>一底	肥前	近代 18C前	41	7-24			胎土赤灰色
1264	西側	D082	陶器	二形片口鉢	口<高>一底	肥前	近代 18C前	51	8-28			胎土赤灰色
1265	西側	D181	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	56	12-45			胎土赤灰色 黄灰色
1266	西側	M046	陶器	二形片口鉢	口<高>一底	肥前	近代 17C後/18C	221	16-09			胎土赤灰色
1267	西側	N032	陶器	片口鉢	口<高>一底	肥前	近代 18C前	27	6-22			胎土赤灰色
1268	西側	D041.1上層	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	29	6-20			胎土赤灰色
1269	西側	(M2, T-007G)	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	29	6-20			胎土赤灰色
1270	西側	M048.1上層	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	221	16-09			胎土赤灰色
1271	西側	D057ツケ土	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	41	7-24			胎土赤灰色
1272	西側	D057ツケ土	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	41	7-24			胎土赤灰色
1273	西側	(出土位置不明)	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	221	16-09			胎土赤灰色
1274	西側	D041.1上層, (T-008G)	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	41	7-24			胎土赤灰色
1275	西側	M044, M050	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	29	6-20			胎土赤灰色
1276	西側	D041	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	41	7-24			胎土赤灰色
1277	西側	D041.1上層, (T-009G)	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	41	7-24			胎土赤灰色
1278	西側	D041.1上層	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	41	7-24			胎土赤灰色
1279	西側	D041	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	41	7-24			胎土赤灰色
1280	西側	D041	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	41	7-24			胎土赤灰色
1281	西側	D082	陶器	片口鉢	口<高>1.6底1.2	肥前	近代 18C前	51	8-28			胎土赤灰色

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	輪焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1282	西側 D041	陶器	灰輪	小皿	□11.6,66.3,7.05.5	瀬戸美濃	近世 18C後	41	7-25		小倉吉七郎大木子見込ワト子履成部取
1283	西側 D041上層	陶器	灰輪	香炉	□7.9,5.0,6.8	瀬戸美濃	近世 18C/18C末	41	7-25		
1284	西側 D041,N326	陶器	輪軸	灯明皿	□10.6,6.1,6.52.5	志土呂	近世 19C	41	7-25		九州の可能性あり
1285	西側 D051	陶器	輪軸	灯明皿	□10.8,6.2,4.82.2	美濃	近世 18C	46	7-27		ゾウノ
1286	西側 D111 陶記	陶器	輪軸	盤	□10-底?4	美濃	近世 19C	53	6-23		見込目録 高台内藤御書
1287	西側 D111(V-012G)	陶器	灰輪	花瓶	□高-底5.9	瀬戸美濃	中世 15C	31	6-23		
1288	西側 D055	陶器	灰輪	皿	□15.6,5.3,2.9	瀬戸美濃	近世 17C後	44	7-26		全面施釉 底部に目貫 貫入
1289	西側 D060	陶器	黄瀬戸	灯明皿	□10.0,2.2,2.4	瀬戸美濃	近世 18C	44	7-26		ゾウ象 粘土敷
1290	西側 D041	陶器	灰輪	香炉?	□高-底4.1	瀬戸美濃	近世 19C	41	7-25		粘土敷
1291	西側 M048	陶器	志野焼	煎茶碗	□高-底?0	瀬戸美濃	近世 17C中後	24	5-19		
1292	西側 D081	陶器	輪軸	皿	□高-底?4	美濃	近世 19C	53	6-23		見込目録 目録は 口縁状
1293	西側 M046	陶器	輪軸	盆	□高-底1.4,4.82.3	瀬戸美濃	近世 17C中後	31	6-20		
1294	西側 D079	陶器	灰輪	皿	□13.0,2.0,6.6	瀬戸美濃	近世 18C後	49	7-27		見込ワト子履
1295	西側 (土位置不明)	陶器	志野焼	小皿	□高-底?0	瀬戸美濃	近世	221	16-20		粘土敷
1296	西側 M048	陶器	天目焼	瓶	□高-底?	瀬戸美濃	近世 時期不明	24	5-19		粘土敷
1297	西側 D051	陶器	灰輪	小皿	□10.0,高-底?	瀬戸美濃	近世	44	7-26		粘土敷
1298	西側 D064	陶器	志野焼部輪	小皿	□高-底?	瀬戸美濃	近世	42	26		粘土敷
1299	西側 D066	陶器	志野焼	壺皿	□高-底?0	瀬戸美濃	近世 17C前	27	6-22		内面鉄絵
1300	西側 D041	陶器	灰輪	小皿	□11.0,2.3,3.6	瀬戸美濃	中世 16C	大層	41	7-25	
1301	西側 N038	磁器	二彩彫結輪	1.5メソフ	□4.0,6.1,1.8,底1.4	瀬戸美濃	近代	27	6-22		襷鉢
1302	西側 D041	陶器	灰輪	小皿	□12.0,高-底?	瀬戸美濃	近世 17C前中	41	7-25		光沢
1303	西側 N203土上(910-911)	陶器	灰輪	小皿	□高-底?	瀬戸美濃	中世中?	49	5-16		光沢
1304	西側 D087,D088,D092	陶器	灰輪	香炉	□高-底6.4	瀬戸美濃	近世 17C後/18C末	49	5-28		27光沢
1305	西側 D041	陶器	灰輪	香炉	□高-底?	瀬戸美濃	近世 17C	49	7-25		内面鉄絵
1306	西側 M050	陶器	灰輪	小皿	□3.0,高-底?	産地不明	近世	23	5-17		外縁施青文刺花 光沢
1307	西側 M044	陶器	灰輪	水筒	□14.3,3.6,底3.4	瀬戸美濃	近世	29	6-20		淡綠色
1308	西側 N027 陶記,(M-049C)	陶器	二彩三島手	壺	□高-底?	肥前	近世 18C	103	10-37		印花
1309	西側 D060	陶器	輪軸	香爐	□高-底?	常陸	近代	44	7-26		粘土敷
1310	西側 D071	陶器	灰輪	供養鉢	□9.0,高6.0,底4.5	肥前	近世 18C	96	12-44		「小倉吉」印 山水絵
1311	西側 D114	陶器	灰輪	供養鉢	□9.0,高5.3,底4.5	肥前	近世 18C	93	9-33		「本際」印 横間山水絵
1312	西側 D086,D171	陶器	灰輪	供養鉢	□9.0,高5.3,底4.5	肥前	近世 18C	102	10-38		
1313	西側 D071	陶器	灰輪	供養鉢	□9.0,高5.3,底4.5	肥前	近世 18C	96	12-44		「小倉吉」印
1314	西側 D114	陶器	灰輪	供養鉢	□11.0,高6.0,底5.0	肥前	近世 17C後/18C	93	9-33		高台割れ 灰 鉄質 黄白色
1315	西側 D123	陶器	灰輪	供養鉢	□9.0,高5.3,底4.5	肥前	近世 17C後	87	2-6-7	11-13	横間山水絵
1316	西側 N203表土	陶器	二彩研毛目	碗	□高-底?	肥前	近世 17C末/18C	22	5-16		草木絵
1317	西側 D104	陶器	陶器	碗	□高-底?4	肥前	近世 18C	84	10-39		鉄質
1318	西側 D107,D124	陶器	灰輪	碗	□9.0,4.4,4.0,底3.4	瀬戸美濃	近世 19C	23	8-29		
1319	西側 M052	陶器	輪軸	湯洗鉢	□高-底4.0	瀬戸美濃	近世 19C	69	6-21		高台施釉 灰色 鉄質 黄白色
1320	西側 D114	陶器	部分分	煎茶碗	□高-底3.8	瀬戸美濃	近世 18C後	53	9-33		内面施釉 灰色 灰色
1321	西側 D107,N916	陶器	灰輪	小杯	□6.0,高4.1,底3.0	瀬戸美濃	近世 18C	83	8-29		高台施釉 灰色 灰色 貫入
1322	西側 (N-041G)	陶器	長石焼	碗	□(12.0)高-底?	瀬戸美濃	近世 18C	222	16-61		灰色 黄白色
1323	西側 (土位置不明)	陶器	長石焼	碗	□高-底(14.8)	瀬戸美濃	近世 18C	221	16-60		灰色 黄白色 鉄質
1324	西側 D116	陶器	二彩手	碗	□高-底?	肥前	近世 17C	93	9-33		茶碗
1325	西側 D108	陶器	二彩手	碗	□高-底?	肥前	近世 18C	93	9-33		茶碗
1326	西側 D175	陶器	二彩鉄絵	碗	□(11.0)高-底?	肥前	近世 19C	82	10-27		黄白色 灰色
1327	西側 (N-041G)	陶器	灰輪	供養鉢	□高-底?	肥前	近世 18C	222	16-61		山水絵 灰色 黄白色 鉄質
1328	西側 D186	陶器	色絵	碗	□高-底?	肥前か	近世 18C	74	10-38		筆文 関西の可能性あり
1329	西側 D188	陶器	黄瀬戸	灰輪	□高-底?	肥前	近世	94	10-37		茶碗
1330	西側 D114	陶器	色絵	碗	□高-底?	肥前か	近世 17C末/18C	93	9-33		茶碗 黄白色 色を付けたものか
1331	西側 (土位置不明)	陶器	灰輪	供養鉢	□高-底?	肥前	近世 18C	221	16-60		山水絵 黄白色 鉄質 灰黄色
1332	西側 D114	陶器	部分分	煎茶碗	□9.6,高5.3,底4.5	瀬戸美濃	近世 19C	53	9-33		灰色 灰白色
1333	西側 D107	陶器	部分分	煎茶碗	□9.6,高5.3,底4.5	瀬戸美濃	近世 19C	83	8-29		灰色 灰白色
1334	西側 D114	陶器	部分分	煎茶碗	□9.3,高5.3,底4.5	瀬戸美濃	近世 19C	53	9-33		灰色 灰白色
1335	西側 D171,D123	陶器	灰輪	碗	□12.0,高6.0,底6.0	瀬戸美濃	近世 18C	95	12-44		灰色 鉄質 黄白色 光沢
1336	西側 D114	陶器	部分分	煎茶碗	□9.2,高5.3,底4.5	瀬戸美濃	近世 19C	53	9-33		灰色 灰白色
1337	西側 D186	陶器	部分分	煎茶碗	□9.6,高5.3,底4.5	瀬戸美濃	近世 19C	74	10-38		灰色 灰白色
1338	西側 D128,D114	陶器	部分分	煎茶碗	□4.5,高5.3,底4.1	瀬戸美濃	近世 19C	73	8-30		灰色 灰白色
1339	西側 (N-031G)	陶器	部分分	煎茶碗	□10.4,高6.0,底4.5	瀬戸美濃	近世 18C後	222	16-61		灰色 黄白色
1340	西側 D171,埋土	陶器	部分分	煎茶碗	□11.4,高7.0,底5.4	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	95	12-44		粘土敷
1341	西側 D171,埋土	陶器	部分分	煎茶碗	□11.0,高7.0,底5.5	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	95	12-44		粘土敷
1342	西側 D123,M050	陶器	部分分	煎茶碗	□12.4,高7.3,底5.6	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	87	11-41		粘土敷
1343	西側 D171,(N-041G)	陶器	部分分	煎茶碗	□11.3,高7.0,底5.6	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	95	12-44		粘土敷
1344	西側 D123,M050	陶器	部分分	煎茶碗	□11.3,高7.0,底5.6	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	95	12-44		粘土敷
1345	西側 D114	陶器	部分分	煎茶碗	□11.7,高7.0,底5.4	瀬戸美濃	近世 17C/18C	53	9-33		粘土敷
1346	西側 D114	陶器	部分分	煎茶碗	□11.2,高6.7,底4.3	瀬戸美濃	近世 18C	53	9-33		粘土敷
1347	西側 D171	陶器	部分分	煎茶碗	□11.5,高6.7,底5.9	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	95	12-44		粘土敷
1348	西側 D123 7,D114 7	陶器	部分分	煎茶碗	□11.9,高6.7,底5.6	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	87	11-43		粘土敷
1349	西側 D114	陶器	部分分	煎茶碗	□8.1,高5.0,底4.2	瀬戸美濃	近世 18C	53	9-33		高台施釉
1350	西側 (N-030G)	陶器	部分分	煎茶碗	□高-底?3.8	産地不明	近世	222	16-61		灰色 黄白色
1351	西側 D123	陶器	部分分	煎茶碗	□11.8,高7.0,底5.7	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	87	11-43		粘土敷
1352	西側 D171,D123	陶器	部分分	煎茶碗	□11.6,高7.3,底5.7	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	95	12-44		粘土敷
1353	西側 D171	陶器	輪軸	碗	□高-底?5.0	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	95	12-44		灰土灰 黄白色 内面鉄絵
1354	西側 D171	陶器	部分分	煎茶碗	□12.1,高7.0,底5.6	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	95	12-44		粘土敷
1355	西側 D171	陶器	部分分	煎茶碗	□10.6,高7.0,底5.2	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	95	12-44		粘土敷
1356	西側 D141,D123,M050	陶器	輪軸	煎茶碗	□高-底?3.8	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	99	13-37		粘土敷
1357	西側 D114	陶器	部分分	煎茶碗	□11.8,高7.0,底5.0	瀬戸美濃	近世 19C	23	9-33		高台施釉 貫入
1358	西側 D076	陶器	部分分	煎茶碗	□9.7,高7.4,底7.3	瀬戸美濃	近世 18C後	46	7-27		粘土敷
1359	西側 D123	陶器	輪軸	煎茶碗	□8.0,高4.1,底3.3	瀬戸美濃	近世 18C	87	11-43		粘土敷
1360	西側 D114	陶器	部分分	煎茶碗	□9.5,高5.1,底4.1	瀬戸美濃	近世 19C	53	9-33		粘土敷
1361	西側 D114	陶器	部分分	煎茶碗	□8.6,高5.2,底4.1	瀬戸美濃	近世 19C	53	9-33		粘土敷
1362	西側 D114	陶器	部分分	煎茶碗	□12.4,高-底?	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	93	9-33		粘土敷
1363	西側 (N-030G)	陶器	灰輪	天目焼	□高-底?	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	221	16-61		粘土敷
1364	西側 D114	陶器	灰輪	天目焼	□高-底?	瀬戸美濃	近世 17C末/18C	53	9-33		粘土敷
1365	西側 D115	陶器	灰輪	ヤツノ	□高-底?	瀬戸美濃	近世 18C中後	83	8-30		粘土敷
1366	西側 D152	陶器	今のふ輪	天目焼	□高-底?	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	80	8-30		粘土敷
1367	西側 D171,(N-041G)	陶器	輪軸	徳利	□高-底?7.5	志土呂	近世 17後/18前	96	12-45		粘土敷
1368	西側 D114	陶器	灰輪	香炉	□高-底?9.0	瀬戸美濃	近世 18C後	55	9-25		粘土敷

番号	地区	遺構	種類	物産産	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1369	西宮	D14	陶器	埴輪	手製	口高-底10.4	瀬戸美濃	近世	54	9-35	粘土気味 黄灰色 砂粒 粗質
1370	西宮	D154, D114/N016	陶器	埴輪	手製	口3.6高20.0底30.2	不明	近世	84	10-39	気化灰気味黄褐色光沢質
1371	西宮	M054	陶器	埴輪	軋	口高-底8.0	不明	近世 18C?	69	6-21	粘土素焼 黄白色 軟質
1372	西宮	D123	陶器	埴輪	手製	口高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中後	88	11-42	粘土気味 黄灰色 軟質
1373	西宮	D123	陶器	埴輪	軋	口高-底-	不明	近世	88	11-42	粘土気味 褐色 軟質
1374	西宮	D054	陶器	餅分け	尾形徳利	口高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中後	42	7-36	粘土素焼 灰白色
1375	西宮	D123	陶器	埴輪	手製	口高-底(18.4)	不明	近世	86	11-42	粘土気味 黄褐色 気化灰気味内目直
1376	西宮	D114	陶器	埴輪	軋	口高-底-	不明	近世	54	9-35	気化シリ-ア系陶質-こみ紙質
1377	西宮	(U-058C)	陶器	埴輪	行子用	口9.0高-底-	関西系	近世 15C?	221	16-63	粘土素焼 灰白色
1378	西宮	D171	陶器	餅分け	尾形徳利	口高(12.0)底12.0	瀬戸美濃	近世 18C中前	95	12-45	粘土素焼 灰白色
1379	西宮	X001, (S-944G)	陶器	埴輪	軋	口高-底-	瀬戸美濃	近世 19C	25	5-17	粘土気味 灰白色 ヲリ-ア系
1380	西宮	D171, (R-639G)	陶器	餅分け	尾形徳利	口高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中後	87	11-42	粘土素焼 灰白色
1381	西宮	D123	陶器	二形輪切鉢	片口鉢	口高10.0底8.0	瀬戸美濃	近世 18C前	96	12-46	粘土気味 ヲリ-ア系
1382	西宮	D186	陶器	埴輪	軋	口高-底(17.0)底5.4	不明	近世 18C中後	74	10-38	粘土気味 ヲリ-ア系 粗目
1383	西宮	D194, D114	陶器	埴輪	手製	口27.0高-底-	不明	近世	84	10-39	粘土黒色陶質 粗粒質
1384	西宮	D171	陶器	埴輪	軋	口高-底(14.6)	瀬戸美濃	近世 18C	96	12-45	気化白灰気味気化陶質内目直
1385	西宮	D186	陶器	埴輪	軋	口高-底-	不明	近世	74	10-38	粘土気味 灰白色
1386	西宮	D114	陶器	埴輪	軋	口高-底7.6	不明	近世	54	9-35	粘土素焼 褐色色 粗質
1387	西宮	(U-026G)	陶器	埴輪	軋	口高-底14.0	瀬戸美濃	近世 18C中後	222	16-61	粘土気味 ヲリ-ア系
1388	西宮	D114	陶器	埴輪	軋	口高-底6.8	瀬戸美濃	近世 19C	54	9-35	粘土素焼 黄褐色
1389	西宮	D194, D114/D144	陶器	埴輪	軋	口高-底6.4	瀬戸美濃	近世 19C	91	8-29	気化灰-クセ気化陶質気化灰
1391	西宮	D158, (V-023G)	陶器	埴輪	軋	口高-底14.0	瀬戸美濃	近世 18C	60	8-30	粘土気味 灰白色 2片
1392	西宮	D186	陶器	陶器箱付	大人丸	口高-底-	肥前	近世 18C前	74	10-38	粘土気味 黄褐色 内輪
1393	西宮	D106	陶器	埴輪	片口鉢小	口10.0高-底-	瀬戸美濃	近世 18C後	83	8-29	粘土素焼 灰白色
1394	西宮	M054	陶器	埴輪	軋	口高-底-	不明	近世	69	6-21	粘土素焼 灰白色
1395	西宮	D114	陶器	餅分け	尾形徳利	口高-底-	瀬戸美濃	近世 18C前	54	9-35	粘土気味 黄褐色
1396	西宮	N016	陶器	埴輪	軋	口高-底-	不明	近世 18C中以後	87	10-38	粘土素焼 灰白色 粗無物
1397	西宮	D194, D114	陶器	二形丸輪切鉢	水注	口高-底-	不明	近世 18C中	84	10-39	粘土気味 黄褐色
1398	西宮	D114	陶器	餅分け	尾形徳利	口高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中	54	9-35	粘土気味 ヲリ-ア系
1400	西宮	D123	陶器	埴輪	軋	口高-底-	瀬戸美濃	近世 15C前	80	8-30	粘土気味砂粒ヲリ-ア系軟質
1401	西宮	D114	陶器	埴輪	軋	口高-底(5.0)	関西系	近世	53	9-33	粘土素焼黄褐色上位-こみ紙質
1402	西宮	D171	陶器	二形輪切鉢	片口鉢	口高-底-	肥前	近世 17C後/18C中	95	12-46	胎輪切鉢赤褐色 口輪切鉢
1403	西宮	(S-027G)	陶器	埴輪	軋	口高-底-	不明	近世	222	16-61	粘土素焼 黄褐色
1404	西宮	N203	陶器	埴輪	軋	口高-底-	瀬戸美濃	近世	22	5-16	粘土素焼 ヲリ-ア系
1405	西宮	X001	陶器	埴輪	軋	口高-底-	瀬戸美濃	近世	25	5-17	粘土気味 黄褐色 軟質
1406	西宮	D123	陶器	埴輪	軋	口高-底-	瀬戸美濃	近世	87	11-40	粘土気味 黄褐色 軟質質入
1407	西宮	IO-023G	陶器	埴輪	片口鉢	口高-底-	瀬戸美濃	近世	222	16-61	粘土気味 白灰色 軟質
1408	西宮	D114	陶器	埴輪箱籠	小皿	口13.4高3.0底8.1	瀬戸美濃	近世 18C前中	54	9-34	気化白灰気味黄褐色粗粒軟質
1409	西宮	D186	陶器	埴輪	軋	口13.0高2.8底2.3	瀬戸美濃	近世 18C前	74	10-38	粘土素焼 黄褐色 粗粒軟質
1410	西宮	D194	陶器	埴輪箱籠	小皿	口12.2高2.6底2.4	瀬戸美濃	近世 18C前中	84	10-39	粘土素焼 黄褐色 5片赤灰
1411	西宮	D123, M050	陶器	埴輪箱籠	小皿	口高-底4.4	関西系	近世	87	11-41	胎輪切鉢ヲリ-ア系内目直軟質
1412	西宮	D114	陶器	埴輪箱籠	皿	口高-底6.7	瀬戸美濃	近世 18C中前	54	9-34	粘土気味 灰白色 トリ-ア系
1413	西宮	D114	陶器	埴輪箱籠	型型皿	口高-底3.7底3.9	瀬戸美濃	近世 18C前	54	9-34	胎輪切鉢気化灰気味胎付白灰軟質
1414	西宮	D114	陶器	埴輪	型型皿	口12.7高3.6底3.2	瀬戸美濃	近世 18C前	54	9-34	粘土気味 灰白色 質入
1415	西宮	M051	陶器	志野鉢	小皿	口10.9高2.1底2.9	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	31	5-17	粘土気味白黄色 口高-底軟質
1416	西宮	D114	陶器	青緑釉	小皿	口13.3高2.4底1.8	肥前	近世 18C前	84	10-39	胎輪切鉢白灰色胎付粗粒軟質
1417	西宮	D194	陶器	青緑釉	小皿	口高-底4.0	肥前	近世 18C前	84	10-39	胎輪切鉢白黄色胎付粗粒軟質
1418	西宮	D123, M050	陶器	埴輪	長石釉	口11.3高2.4底3.0	瀬戸美濃	近世 18C前	87	11-41	粘土気味 黄白色 粗無物 軟質
1419	西宮	D114	陶器	埴輪	小皿	口12.6高3.1底2.7	瀬戸美濃	近世 18C前	54	9-34	粘土気味 灰白色 裏面 軟質
1420	西宮	D123, M050	陶器	埴輪	小皿	口12.5高2.5底2.2	瀬戸美濃	近世 18C前	87	11-41	粘土気味 灰白色 軟質
1421	西宮	D116, D123	陶器	二形輪切鉢	小皿	口13.0高3.1底2.7	瀬戸美濃	近世 18C前	83	8-30	粘土気味ヲリ-ア系重石胎軟質
1422	西宮	D114	陶器	埴輪	長石釉	口14.3高3.4底2.7	瀬戸美濃	近世 17C中	54	9-34	粘土素焼 (5輪) 質入
1423	西宮	M061	陶器	志野鉢	長石釉	口12.6高2.7底2.5	瀬戸美濃	近世 17C中後	31	5-17	粘土気味白灰色胎付 トリ-ア系軟質
1424	西宮	M061	陶器	志野鉢	長石釉	口12.2高2.5底2.7	瀬戸美濃	近世 17C中後	31	5-17	粘土気味 白色 軟質
1425	西宮	M054	陶器	志野鉢	長石釉	口高-底7.1	瀬戸美濃	近世 17C中	69	6-21	粘土気味 灰白色 軟質
1426	西宮	D114	陶器	二形輪切鉢	長石釉	口13.9高3.1底2.9	瀬戸美濃	近世 17C中	54	9-34	粘土気味 黄褐色 トリ-ア系 軟質
1427	西宮	D123	陶器	二形輪切鉢	長石釉	口14.7高4.6底3.3	瀬戸美濃	近世 17C中	87	11-43	粘土気味 白灰色 軟質
1428	西宮	D123, M050	陶器	二形輪切鉢	長石釉	口12.6高3.0底2.8	瀬戸美濃	近世 17C中	87	11-41	粘土気味 灰白色 軟質
1429	西宮	J027, (V-054G)	陶器	埴輪	小皿	口10.4高3.0底4.3	肥前	近世 1550-1610	37	2-6-7	16-4輪切鉢黄褐色胎付 トリ-ア系黄白相結
1430	西宮	N203	陶器	埴輪	軋	口高-底8.0	瀬戸美濃	近世 17C中	22	5-16	粘土素焼 灰白色
1431	西宮	D123	陶器	埴輪	輪切鉢	口高-底6.2	瀬戸美濃	近世 17C中	87	11-40	粘土気味 灰白色 見込帯付印花
1432	西宮	D123	陶器	志野鉢	輪切鉢	口高-底6.5	瀬戸美濃	近世 17C前	80	8-30	粘土石粒黄褐色胎付粗粒軟質
1433	西宮	D171	陶器	埴輪	小皿	口12.4高3.0底3.5	瀬戸美濃	近世 18C前	95	12-45	粘土気味 灰褐色 軟質
1434	西宮	D114	陶器	志野鉢	小皿	口高-底7.2	瀬戸美濃	近世 17C中	54	9-34	粘土気味 白黄色 軟質
1435	西宮	D114	陶器	埴輪箱籠	小皿	口12.0高3.0底2.8	瀬戸美濃	近世 17C中	54	9-34	気化白灰気味黄褐色胎付粗粒軟質
1436	西宮	J027	陶器	埴輪箱籠	長石釉	口18.0高-底-	瀬戸美濃	近世 17C中	37	2-23	粘土素焼 灰白色胎付粗粒軟質
1437	西宮	D194, D114	陶器	長石釉	小皿	口10.5高-底5.4	瀬戸美濃	近世 18C	92	10-37	粘土気味 黄褐色 軟質
1438	西宮	D114	陶器	埴輪箱籠	皿	口14.0高-底-	瀬戸美濃	近世 17C中	54	9-34	気化白灰色胎付粗粒胎付粗粒軟質
1439	西宮	D171	陶器	埴輪	小皿	口10.0高2.0底1.5	瀬戸美濃	近世 15C	101	10-37	粘土気味 灰ヲリ-ア系
1440	西宮	X001	陶器	埴輪	小皿	口高-底5.0	瀬戸美濃	近世 19C	25	5-17	粘土気味 灰白色 見込輪付トロン直
1441	西宮	(R-021G)	陶器	埴輪	小皿	口高-底5.0	瀬戸美濃	中世 16C 大塚	222	16-61	気化黄褐色胎付内輪 トリ-ア系質入
1442	西宮	D123	陶器	埴輪	小皿	口高-底6.0	瀬戸美濃	近世 17C	87	11-40	粘土気味白黄色胎付粗粒軟質
1443	西宮	D114	陶器	埴輪	長石釉	口高-底8.0	瀬戸美濃	近世 17C中	54	9-34	粘土素焼灰白色胎付粗粒胎付粗粒軟質
1444	西宮	M054	陶器	埴輪箱籠	皿	口高-底-	瀬戸美濃	近世 17C後	69	6-21	粘土気味 白灰色 粗粒 軟質
1445	西宮	M065	陶器	埴輪箱籠	小皿	口12.0高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中	23	5-17	粘土気味 黄白色 軟質
1446	西宮	D123	陶器	黄緑釉	鉢	口高-底14.6	瀬戸美濃	近世 17C中	88	11-43	気化白灰気味胎付粗粒口輪成
1447	西宮	M054, D123	陶器	二形輪切鉢	鉢	口高-底13.0	肥前	近世 17C後/18C前	69	6-21	胎付粗粒赤灰胎付粗粒胎付粗粒成
1448	西宮	D123	陶器	埴輪	小皿	口23.0高12.0底11.0	肥前	近世 15C	88	11-43	型付見込トロン直付粗粒軟質
1449	西宮	D171	陶器	二形三馬手	鉢	口高-底11.0	肥前	近世 17C後/18C中	87	12-46	粘土素焼 灰白色胎付粗粒胎付粗粒成
1450	西宮	D114	陶器	埴輪	心丸	口28.0高-底-	瀬戸美濃	近世 17C後/18C中	54	9-34	粘土気味胎付白黄色胎付トロン直
1451	西宮	D114	陶器	青緑釉	鉢	口高-底6.0	肥前内ヶ山	近世 18C前	93	9-34	胎付粗粒胎付粗粒胎付粗粒成
1452	西宮	D123	陶器	二形	笠原鉢	口高-底-	瀬戸美濃	近世 17C中前	88	11-43	粘土素焼 灰白色
1453	西宮	D172	陶器	二形三馬手	鉢	口29.0高-底-	肥前	近世 17C後/18C前	101	10-37	粘土素焼 赤褐色
1454	西宮	D117	陶器	長石釉	鉢	口高-底-	瀬戸美濃	近世 17C中	83	8-30	粘土素焼 灰白色胎付粗粒胎付粗粒成
1455	西宮	D114	陶器	二形輪切鉢	鉢	口高-底11.0	瀬戸美濃	近世 17C中	54	9-34	粘土素焼胎付粗粒胎付粗粒成
1456	西宮	D114	陶器	二形輪切鉢	鉢	口高-底-	瀬戸美濃	近世 17C	54	9-34	粘土気味黄褐色胎付粗粒胎付粗粒成
1457	西宮	M050	陶器	長石釉	笠原鉢	口高-底-	瀬戸美濃	近世 17C	23	5-17	粘土気味 灰ヲリ-ア系

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	植物・動物	地形	土層	遺物	年代	本文	写真	備考	
1456	西宮	D116	陶器	磁器	瓦	Ⅰ-高-底-	瀬戸美濃	近世 17C	80	8-30	気泡陶磁質黄色黒目土瀬戸胎	
1459	西宮	Ⅱ-Q44G	陶器	瓦輪	瓦	Ⅱ20.高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	222	16-21	粘土気泡 灰白色 軟質	
1460	西宮	D114	磁器	茶碗	小碗	Ⅲ8.4高.4.5底.3.4	肥前	近世 18C	53	9-32	高台御 御草文 黄白色不純	
1461	西宮	D123, M050	陶器	陶胎・磁胎	碗	Ⅰ高-底 (4.6)	肥前	近世 18C	87	11-41	粘土気泡 薄草文高台御輪磁化	
1462	西宮	D123, M050	陶器	陶胎・磁胎	碗	Ⅰ10.4高.7.5底.5.1	肥前	近世 18C	87	11-41	御草文 磁化	
1463	西宮	D114	陶器	陶胎・磁胎	碗	Ⅰ10.4高.7.6底.4.3	肥前	近世 18C	53	9-33	四方唐文山形高台御輪磁化光沢	
1464	西宮	N088	磁器	青磁多節	盆/口付	Ⅲ8.2高.4.1底.3.8	阿蘇赤	近代 幕末明治	170	10-27	粘土胎灰色 花文 口縁玉珠	
1465	西宮	D171	陶器	陶胎・磁胎	瓦	Ⅰ7.9高.4.1底.3.2	肥前	近世 18C	86	11-44	管口 高台御 薄草文	
1466	西宮	D171	陶器	陶胎・磁胎	碗	Ⅲ8.5高.4.7底.3.3	肥前	近世 18C	95	12-44	唐草文化粧土不純土気泡多気泡	
1467	西宮	M054	陶器	陶胎・磁胎	盆/口付	Ⅲ7.3高.4.1底.3.1	肥前	近世 18C	69	6-21	粘土気泡 高台御 粘土係御草文	
1468	西宮	D171	陶器	陶胎・磁胎	盆/口付	Ⅲ8.2高.4.6底.3.5	肥前	近世 18C	95	12-44	御草文粘土気泡灰色光沢灰土	
1469	西宮	D123	磁器	茶碗	盆/口付	Ⅲ7.4高.4.0底.3.0	肥前	近世 18C	87	11-40	唐草文 高台御 高台御	
1470	西宮	D123	磁器	茶碗	盆/口付	Ⅲ7.4高-底-	肥前	近世 17後?18前	87	11-43	唐草文 高台御 高台御	
1471	西宮	D123, M050	陶器	陶胎・磁胎	碗	Ⅰ高-底-	肥前	近世 18C	87	11-41	唐草文 高台御 高台御	
1472	西宮	D123, M050	陶器	陶胎	碗	Ⅰ高-底-	肥前	近世 18C	89	11-41	粘土気泡 黄白色 軟質	
1473	西宮	D114	陶器	磁胎	香炉	Ⅲ14.0高.6.0底.6.3	瀬戸美濃	近世 18C	55	9-35	底部不明唐草粘土気泡灰色御明瞭	
1474	西宮	D114	陶器	磁胎	香炉	Ⅲ11.4高.5.3底.5.2	瀬戸美濃	近世 17C後	55	9-35	気泡黄白色胎部唐草文彫り軟質	
1475	西宮	D171	陶器	磁胎	燈籠台	Ⅲ11.4高.6.8底.11.0	瀬戸美濃	近世 18C	96	12-45	気泡黄白色胎部唐草文彫り軟質	
1476	西宮	D123	陶器	磁胎	香炉	Ⅲ10.5高.6.4底.11.0	瀬戸美濃	近世 18C	89	11-43	白磁気泡 灰土?胎部 軟質	
1477	西宮	M054	陶器	瓦輪	瓦輪	Ⅰ高-底-6.9	瀬戸美濃	近世 18C/19C	60	6-21	磁胎灰土色胎部灰土色スス付軟質	
1478	西宮	D171	陶器	瓦輪	瓦輪	Ⅰ高-底-	肥前	近世 18C	56	12-43	磁胎灰土色胎部灰土色スス付軟質	
1479	西宮	D114	陶器	瓦輪	片口小鉢	Ⅲ11.8高-底-	瀬戸美濃	近世 19C	54	9-35	磁胎灰土色 灰白色	
1480	西宮	M054	陶器	瓦輪	小鉢大丸	Ⅲ5.4高.4.9底.3.7	瀬戸美濃	近世 18C	69	6-21	粘土胎砂状 灰白色 軟質貫入	
1481	西宮	M054	陶器	瓦輪	葉巻	Ⅲ5.2高.4.6底.4.1	瀬戸美濃	近世 18C	69	6-21	粘土胎砂状 灰白色 軟質	
1482	西宮	D114	陶器	瓦輪	水注	Ⅰ高-底-5.4	瀬戸美濃	中世 16C中 大雑	55	9-35	粘土胎砂状 灰白色 軟質	
1483	西宮	D171	陶器	磁胎	水注	Ⅲ5.6高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	95	12-46	粘土胎砂状 灰白色 軟質	
1484	西宮	D124	陶器	青磁	葉巻	Ⅲ2.7高.1.6底.0.9	阿蘇赤	近世 18C/19C	60	6-30	白磁気泡 灰土?胎部 灰土色光沢	
1485	西宮	D114	陶器	瓦輪	香炉	Ⅲ高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	55	9-35	磁胎灰土色内帯赤目スス付軟質	
1486	西宮	D124	陶器	磁胎	香炉	Ⅰ高-底-7.8	瀬戸美濃	近世 18C	80	8-30	気泡陶胎灰色内帯赤目胎り付け尾	
1487	西宮	D306	陶器	瓦輪	小鉢大丸	Ⅲ高-底-6.0	瀬戸美濃	近世 18C	92	10-37	粘土胎砂状 白灰色 軟質	
1488	西宮	M054	陶器	瓦輪	鳥羽丸	Ⅰ高-底-	瀬戸美濃	近世	69	6-21	粘土胎砂状 灰白色 軟質調整硬質	
1489	西宮	(V-Q24G)	陶器	磁胎	Ⅰ高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	221	16-23	粘土胎砂状 灰白色 軟質		
1490	西宮	D171	陶器	瓦輪	Ⅲ5.3高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	96	12-45	粘土胎砂状 灰白色 軟質胎部軟質		
1491	西宮	D171	陶器	瓦輪	片口小鉢	Ⅲ高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	65	11-46	磁胎灰土色胎部灰土色スス付軟質	
1492	西宮	D186	陶器	瓦輪	灯明土台	Ⅲ8.4高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	74	10-38	磁胎灰土色胎部灰土色スス付軟質	
1493	西宮	D123, M050	陶器	瓦輪	香炉	Ⅲ11.4高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	89	11-41	粘土胎砂状 灰白色 軟質	
1494	西宮	D186	陶器	瓦輪	大丸丸	Ⅰ高-底-5.6	瀬戸美濃	近世 18C	74	10-38	粘土胎砂状 灰白色 軟質	
1495	西宮	(M-Q26G)	陶器	磁胎	小物蓋	Ⅰ高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	222	16-21	粘土胎砂状 灰白色 軟質	
1496	西宮	D114	陶器	瓦輪	仏壇蓋	Ⅰ高-底-	瀬戸美濃	近世 19C	84	9-30	粘土胎砂状 灰白色 貫入	
1497	西宮	D123	陶器	磁胎	片口鉢	Ⅰ高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	66	11-49	粘土胎砂状 灰白色 軟質	
1498	西宮	D114	陶器	瓦輪	葉巻	Ⅲ14.6高.14.4底.11.0	不明	中世 16C	55	9-31	粘土胎砂状 灰白色 軟質	
1499	西宮	D123	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅰ高-底-14.2	瀬戸美濃	近世 19C	88	11-42	砂質軟赤灰埋目向左右無調整日痕	
1500	西宮	D123	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅰ高-底-13.4	瀬戸美濃	近世 19C	88	11-42	気泡陶胎灰白埋目向左右無調整日痕	
1501	西宮	D123	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅰ高-底-	瀬戸美濃	近世 19C	88	11-42	気泡陶胎灰白埋目向左右無調整日痕	
1502	西宮	D123	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅲ36.0高-底-	瀬戸美濃	近世 19C	88	11-42	気泡陶胎灰白埋目向左右無調整日痕	
1503	西宮	D194, D114	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅲ26.0高.14.3底.10.4	瀬戸美濃	近世 19C	84	10-37	気泡陶胎灰白埋目向左右無調整日痕	
1504	西宮	D186	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅲ27.0高.13.5底.11.5	瀬戸美濃	近世 19C	84	10-38	気泡陶胎灰白埋目向左右無調整日痕	
1505	西宮	D114	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅲ25.0高.14.4底.11.3	瀬戸美濃	近世 18C	55	9-31	気泡陶胎灰白埋目向左右無調整日痕	
1506	西宮	(L-Q26G)	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅰ高-底-15.6	不明	近世 19C	222	16-21	砂質軟赤灰埋目向左右無調整日痕	
1507	西宮	D123	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅰ高-底-14.6	瀬戸美濃	近世 19C	88	11-42	気泡陶胎灰白埋目向左右無調整日痕	
1508	西宮	D172	陶器	自然物	磁胎	Ⅰ高-底-	瀬戸美濃	近世	101	10-37	砂質軟赤灰埋目向左右無調整日痕	
1509	西宮	D123	土器	瓦質	磁胎	Ⅰ高-底-	不明	近世	89	45	粘土胎砂状 内スス付	
1510	西宮	D123	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅲ25.0高-底-	阿蘇赤	近世	89	11-42	粘土胎砂状 赤灰色 埋目向左右無調整日痕	
1511	西宮	D171	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅰ高-底-	瀬戸美濃	近世 19C	105	12-46	粘土胎砂状 埋目向左右無調整日痕	
1512	西宮	D123	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅲ29.0高-底-	不明	近世	89	11-42	埋目向左右無調整日痕左側貫入	
1513	西宮	(L-Q26G)	陶器	瓦輪	コ鉢	Ⅲ32.0高.8.2底.15.2	不明	中世	224	16-41	粘土胎砂状赤灰色 内帯黒 硬質	
1514	西宮	D123	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅰ高-底-8.4	肥前	近世 17C	89	2-67	11-42	磁胎コ鉢砂状赤灰埋目左側
1515	西宮	D171, (S-Q41G)	陶器	自然物	磁胎	Ⅲ34.4高.14.6底.14.6	肥前	近世 18C以降	95	12-46	砂質軟赤灰埋目向左右無調整日痕	
1517	西宮	D111	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅲ34.2高.17.0底.14.6	備前赤小	近世	55	6-31	粘土胎砂状 赤灰色 埋目向左右無調整日痕	
1518	西宮	D181	陶器	瓦輪	自然物	コ鉢	Ⅰ高-底-12.2	常滑赤	中世 12C/14C	95	10-37	粘土胎砂状 赤灰色 埋目向左右無調整日痕
1519	西宮	M065	陶器	自然物	大壺	Ⅰ高-底-18.0	常滑赤	中世 23	57	17-47	粘土胎砂状 赤灰色 幅広高台御	
1520	西宮	X001	陶器	自然物	大壺	Ⅰ高-底-	常滑	中世 13C	25	5-17	粘土胎砂状 暗灰色 硬質	
1521	西宮	M064	陶器	自然物	大壺	Ⅰ高-底-	常滑	中世 13C	25	5-17	粘土胎砂状 黄灰色	
1522	西宮	D114	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅰ高-底-	不明	近世	95	9-35	粘土胎砂状 黄灰色 軟質	
1523	西宮	D171	陶器	自然物	大壺	Ⅰ高-底-	常滑	中世 14C	99	10-26	粘土胎砂状 黄灰色	
1524	西宮	(K-Q26G)	陶器	自然物	大壺	Ⅰ高-底-	常滑	中世 12C/14C	224	16-41	粘土胎砂状 黄灰色 軟質	
1525	西宮	M050, D123	陶器	自然物	大壺	Ⅰ高-底-	常滑	中世 23	15-17	12-46	粘土胎砂状 赤灰色 埋目向左右無調整日痕	
1526	西宮	(V-Q24G)	土器	瓦質	不明物	Ⅰ高-底-	不明	近世	221	16-41	粘土胎砂状 赤灰色 スス付	
1527	西宮	(S-Q26G)	陶器	自然物	四耳磁	Ⅰ高-底-	常滑	中世	224	16-41	粘土胎砂状 埋目向左右無調整日痕	
1528	西宮	X021	陶器	瓦輪	磁胎	Ⅲ38.4高.14.5底.13.2	瀬戸美濃	近世 18C	105	12-47	砂質軟赤灰埋目向左右無調整日痕	
1529	中央	8099, 9-855G1?D17	陶器	自然物	コ鉢	Ⅰ高-底-	常滑赤	中世 12/14C	115	9-18	粘土胎砂状 オリーブ灰色	
1530	中央	X013	陶器	瓦輪	コ鉢	Ⅲ36.0高-底-	常滑赤小	中世 12/14C	119	12-48	粘土胎砂状 赤灰色 硬質	
1531	中央	X021	陶器	瓦輪	コ鉢	Ⅲ高-底-16.4	常滑赤	近世 19C	105	12-47	埋目向左右無調整日痕埋目向左右無調整日痕	
1532	西宮	X021, M040	陶器	自然物	鉢	Ⅰ高-底-	常滑	中世 12C/14C	105	12-47	粘土胎砂状 暗灰色 硬質	
1533	中央	(R-Q51G)	陶器	自然物	鉢	Ⅰ高-底-	常滑	中世 12C/14C	224	16-42	粘土胎砂状 暗灰色 硬質	
1534	西宮	X004	陶器	瓦輪	瓦	Ⅰ高-底-6.0	常滑	近世 18C	24	5-18	粘土胎砂状 オリーブ灰埋目向左右無調整日痕	
1535	中央	(T-Q46G)	陶器	瓦輪	蓋	Ⅰ高-底-4.6	越前瀬戸小	近世 13C/18C	222	16-43	粘土胎砂状 赤灰色 スス付 硬質	
1536	中央	(S-Q50G)	陶器	瓦輪	山口	Ⅰ高-底-4.0	渡江瀬戸小	中世 13C	224	16-42	気泡陶胎オリーブ灰埋目向左右無調整日痕	
1537	中央	(Q-Q46G)	陶器	瓦輪	小皿	Ⅰ高-底-	瀬戸美濃	中世 18C	222	16-43	粘土胎砂状 赤灰色 硬質	
1538	中央	X013	陶器	瓦輪	瓦	Ⅲ22.0高-底-	瀬戸美濃	中世 15C	119	10-38	粘土胎砂状 灰白色	
1539	中央	(T-Q46G)	陶器	瓦輪	瓦	Ⅰ高-底-	肥前	近世 18C	222	16-42	粘土胎砂状 オリーブ灰色 硬質貫入	
1540	中央	(S-Q47G)	陶器	瓦輪	小皿	Ⅰ高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	222	16-43	粘土胎砂状 オリーブ灰色 瓦質	
1541	西宮	X003	陶器	瓦輪	片口	Ⅰ高-底-	京焼赤	近世	24	5-18	粘土胎砂状 白灰色 硬質貫入	
1542	中央	M016上層	陶器	瓦輪	土器	Ⅲ7.0高.10.9底.7.6	常滑赤	近世 18C/19C	163	19-19	気泡陶胎灰色 下スス割下貫入	
1543	中央	M016上層	陶器	磁胎	漆分付	Ⅲ10.0高.5.0底.2.2	瀬戸美濃	近世 19C	163	19-19	粘土胎砂状 高台御	
1544	西宮	(S-Q26G)	陶器	瓦輪	瓦	Ⅰ高-底-	肥前	近世 18C	163	19-19	底部に白磁胎	
1545	中央	M016上層	陶器	瓦輪	油瓶	Ⅰ高-底-5.2	肥前	近世 18C	163	19-19	底部に白磁胎	

番号	地区	遺構	種類	地物成	形制	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1546	中央	M016下層	陶器	自然釉付物	瓦	口-高-底4.0	肥前	近世 18C前	163	13-19	粘土製砂状灰色・高台砂
1547	中央	M017下層	陶器	自然釉	平鉢	口-高-底-	常滑	中世13C/14C	164	15-16	粘土製砂状灰色
1548	中央	M016下層	陶器	灰釉	瓦	口-高-底-	近江湖西	中世 13C後	163	13-19	粘土製砂 白灰色
1549	中央	X011東	陶器	釉施	瓦	口10.0-底7.0-高3.4	瀬戸美濃	近世 18C前	140	14-12	粘土製砂 灰黄色
1550	中央	X011西下層、(H-056G)	陶器	自然釉	口-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C前	140	13-11	粘土製砂 灰白色	
1551	中央	X011東上層、土取層	陶器	自然釉	口-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	140	13-11	灰黄色(灰高台地物)赤褐色高台小	
1552	中央	X011東	陶器	自然釉	口-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	140	13-11	灰黄色(灰高台地物)赤褐色高台小	
1553	中央	X011東、(H-055、056G)	陶器	自然釉	口-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C後	140	14-15	粘土製砂 灰色	
1554	中央	X011東	陶器	灰釉	土瓶	口-高-底3.6	陶器系	古代	141	14-16	粘土製砂状 灰褐色
1555	中央	X011東	陶器	灰釉	土瓶	口-高-底3.6	陶器系	古代	141	14-16	磨青色2次焼成
1556	中央	X011下層	陶器	灰釉	土瓶	口-高-底3.6	陶器系	近世 18C	140	13-11	灰黄色(灰高台地物)赤褐色2次焼成
1557	中央	X011下層、(H-055G)	陶器	灰釉	土瓶	口-高-底3.6	陶器系	近世 18C	141	13-11	粘土製砂状 土褐色高台砂状灰
1558	中央	X011下層	陶器	自然釉	小鉢	口-高-底2.4	不明	近世	140	13-11	粘土製砂状高台地物製砂灰
1559	中央	X011東	陶器	自然釉	口-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	142	14-16	粘土製砂灰白色	
1560	中央	X011東	陶器	灰釉	腰子皿	口7.0-高3.4-底4.2	肥前小	近世 18C前中	140	14-15	磨青色灰黄色
1561	中央	X011東、X011中下層	陶器	灰釉	腰子皿	口12.5-高3.2-底7.7	瀬戸美濃	近世 17C中	140	13-11	山水絵 動之池(灰黄色)
1562	中央	X011東中層、X011中下層	陶器	灰釉	腰子皿	口12.0-高3.4-底4.2	京焼	近世 18C前中	140	13-11	山水絵 動之池(灰黄色)
1563	中央	X011下層	陶器	灰釉	碗	口11.0-高2.0-底-	瀬戸美濃	近世 18C前中	141	14-14	山水絵 動之池(灰黄色)
1564	中央	X011東、(H-061G)	陶器	自然釉	口-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C前中	142	14-15	灰黄色(灰白色)中・高台地物製灰	
1565	中央	X011西下層	陶器	青釉	有輪皿	口-高-底4.7	肥前内山	近世 18C前	140	14-13	砂状灰泥粘土層上高台地物製灰
1566	中央	X011東	陶器	土質釉	皿	口-高-底5.8	瀬戸美濃	中世末 16C末	140	14-13	灰黄色(灰白色)高台地物製灰
1567	中央	X011東W-7、X011東	陶器	古刀形磁器	磁子	口-高-底15.0	瀬戸美濃	中世 13C	141	14-12	磨青色(粘土)底面地物製灰
1568	中央	X011東	陶器	灰釉	磁器	口-高-底10.1	瀬戸美濃	近世 18C前	142	14-15	粘土製砂 灰黄色
1569	中央	X011東	陶器	釉施	香炉	口12.0-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C前中	141	14-15	粘土製砂 灰黄色
1570	中央	X011東、(M-071G)	陶器	口-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C前中	142	14-15	磨青色(灰白色)内・外高台地物製灰		
1571	中央	M025	陶器	土質釉	口-高-底-	不明	近世	164	15-16	粘土製砂 磨青色	
1572	中央	X011下層、(H-062G)	陶器	二形瓦	口-高-底-	瀬戸美濃	古代	140	14-14	粘土製砂状 灰黄色	
1573	中央	X011東	陶器	二形瓦	口-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中	141	14-15	粘土製砂 灰黄色	
1574	中央	X011中層、(H-057G)	陶器	瓦石	口-高-底-	肥前	近世 16C末/1630	140	2-7	13-11	粘土製砂状 灰褐色
1575	中央	M022	陶器	赤繪	口-高-底-	肥前	近世 17C末/18C初	164	15-16	磨青色(灰白色)中・高台地物(口)ニ	
1576	中央	X011東	陶器	二形毛瓦	口-高-底-	不明	近世 17C末/18C初	141	14-15	磨青色(灰白色)中・高台地物製灰	
1577	中央	X011東、(H-062G)	陶器	瓦	口-高-底-	不明	近世	141	14-15	磨青色(灰白色)中・高台地物製灰	
1578	中央	X011下層	土器	二形	口-高-底-	不明	古代	142	14-14	磨青色(灰白色)外・内高台地物製灰	
1579	中央	(H-061G)、X011東	陶器	青釉	木鉢	口-高-底9.2	不明	近世	222	16-22	灰黄色(灰白色)外・内高台地物製灰
1580	中央	X011東、(H-062G)	陶器	自然釉	口-高-底-	常滑	中世 12C/11C	142	14-12	粘土製砂(赤) 白灰色	
1582	中央	X011東W-8、(H-061G)	陶器	自然釉	口-高-底-	常滑	中世 12C/13C	142	14-12	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1584	中央	X011東	陶器	自然釉	口-高-底-	常滑	中世 12C/13C	142	14-12	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1586	中央	M022	陶器	瓦	口-高-底-	不明	中世	142	14-15	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1588	中央	X011東、(H-060、062G)	陶器	自然釉	口-高-底-	不明	中世	142	14-14	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1589	中央	X011東、(H-060、062G)	陶器	自然釉	口-高-底-	不明	中世	142	14-14	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1591	中央	X011東	陶器	自然釉	口-高-底-	不明	中世	142	14-14	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1592	中央	X011東	陶器	自然釉	口-高-底-	不明	中世	142	14-14	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1593	中央	X011東	陶器	自然釉	口-高-底-	不明	中世	142	14-14	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1594	中央	M022	陶器	自然釉	口-高-底-	不明	中世	142	14-14	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1595	中央	X011東W-7、(H-061G)	陶器	二形鉢	口-高-底-	瀬戸美濃	近世	141	13-10	粘土製砂 灰黄色	
1596	中央	X011東上層、(G-058G)	陶器	灰釉	口-高-底-	瀬戸美濃	近世	141	13-10	粘土製砂 灰黄色	
1597	中央	X011下層、(H-060G)	陶器	二形鉢	口-高-底-	瀬戸美濃	近世	141	13-11	粘土製砂 灰黄色	
1598	中央	X011東下層	陶器	二形鉢	口-高-底-	瀬戸美濃	近世 17C中	141	14-13	粘土製砂 灰黄色	
1599	中央	X011東下層	陶器	二形鉢	口-高-底-	肥前	近世 18C	141	14-13	粘土製砂	
1600	中央	X011下層、(H-059G、060G)	陶器	二形鉢	口-高-底-	肥前	近世 17C末/18C初	141	14-14	磨青色(灰白色)上・土2片	
1601	中央	X011東中層、(H-060G)	陶器	二形毛瓦	口-高-底-	肥前	近世 17C末/18C初	141	13-11	粘土製砂	
1602	中央	X011東、(H-060G)	陶器	鉢	口-高-底-	常滑	近世 15/16G	142	14-15	粘土製砂 灰黄色	
1603	中央	X011東、(H-060G)	陶器	鉢	口-高-底-	常滑	近世 15/16G	142	14-15	粘土製砂 灰黄色	
1604	東洋	(H-092G) 龍蔵	陶器	鉢	口-高-底-	不明	近世	141	14-12	磨青色(灰白色)中・高台地物製灰	
1605	東洋	(H-092G) 龍蔵	陶器	鉢	口-高-底-	不明	近世	225	16-42	粘土製砂 灰黄色	
1606	東洋	N005	陶器	透明釉	口-高-底-	不明	近代	170	15-17	磨青色(灰白色)化白装	
1607	東洋	N005	陶器	透明釉	口-高-底-	不明	近代	170	15-17	磨青色(灰白色)化白装	
1608	東洋	N004	陶器	透明釉	口-高-底-	不明	近代	170	15-17	磨青色(灰白色)化白装	
1609	東洋	M001、M004	陶器	長石釉	口-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中後	170	15-17	粘土製砂 灰黄色	
1610	東洋	N006	陶器	長石釉	口-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C後	180	18-46	粘土製砂 灰黄色	
1611	東洋	N004	陶器	長石釉	口-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中	170	15-17	粘土製砂 灰黄色	
1612	東洋	M001	陶器	自然釉	口-高-底-	常滑	中世	180	18-16	磨青色(灰白色)高台地物製灰	
1613	東洋	D001	陶器	灰釉	口-高-底-	常滑	中世	180	18-16	粘土製砂 灰黄色	
1614	東洋	N004	陶器	灰釉	口-高-底-	常滑	近世 18C	197	16-17	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1615	東洋	N004	陶器	灰釉	口-高-底-	常滑	近世 18C後	170	15-17	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1616	東洋	N003、(P/G-090G)	陶器	灰釉	口-高-底-	常滑	近世 17C中	170	15-17	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1617	東洋	M001	陶器	自然釉	口-高-底-	常滑	中世	180	18-10	磨青色(灰白色)高台地物製灰	
1618	東洋	M001下層	陶器	自然釉	口-高-底-	常滑	中世	180	18-10	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1619	東洋	M001	陶器	自然釉	口-高-底-	常滑	中世	180	18-10	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1620	東洋	M001	陶器	自然釉	口-高-底-	常滑	中世 12C/14C	180	18-19	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1621	東洋	M001下層	陶器	自然釉	口-高-底-	常滑	中世 11C/15C	180	15-19	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1622	東洋	M004	陶器	灰釉	口-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	180	18-16	磨青色(灰白色)中・高台地物製灰	
1623	東洋	N002	陶器	自然釉	口-高-底-	常滑	中世 13C/14C	174	15-17	粘土製砂 灰黄色	
1624	東洋	M001	陶器	自然釉	口-高-底-	常滑	中世 13C/16C	180	15-19	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1625	東洋	M001	陶器	自然釉	口-高-底-	常滑	中世 13C/16C	180	15-19	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1626	中央	M021下層	陶器	自然釉	口-高-底-	肥後	近代	172	15-18	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1628	中央	M021下層	陶器	自然釉	口-高-底-	肥後	近代	164	15-16	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1627	東洋	(P-011G)	陶器	透明釉	口-高-底-	不明	近代	221	16-40	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1628	東洋	(P-012G)	陶器	透明釉	口-高-底-	不明	近代	221	16-40	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1629	東洋	(P-011G)	陶器	透明釉	口-高-底-	不明	近代	221	16-40	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1630	東洋	X003	土器	瓦質磁器	口-高-底-	不明	近代	24	24	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1631	中央	M022、(H-074G)	土器	瓦質磁器	口-高-底-	不明	中世	164	11-17	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1632	中央	M022、(H-074G)	土器	瓦質磁器	口-高-底-	不明	中世	164	11-17	粘土製砂(赤) 灰黄色	
1633	東洋	M048	陶器	無釉磁器	口-高-底-	常滑	中世	24	24	粘土製砂(赤) 灰黄色	

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	物産名	群形	遺長	遺幅	群代	本文	写真	備考
1634	西暦 M048		土器	瓦質焼土	短卵	口-高-低	二高直	近世			粘土質物産物 褐色 上面入又
1635	西暦 M042 (I-006G)		土器	瓦質焼土	鉢	口-高-低	不明	近世	29	26	粘土質物産物 褐色
1636	西暦 M048		土器	瓦質焼土	瓶小	口-高5.6底6.6	不明	中世	24	24	粘土質物産物 白色 内入又 軟質
1637	西暦 M048		土器	瓦質酸化地物	短卵	口-高5.3底-	不明	中世	24	24	粘土質物産物 白色
1638	西暦 M042 (T-007G)		土器	瓦質焼土	大鉢小	口-高-低	不明	近世	29	26	粘土質物産物 灰青色
1639	西暦 M048		土器	瓦質焼土	短卵	口-高-低	不明	近世	24	24	粘土質物産物 褐色 継ぎ壊2次焼成
1640	西暦 M048 (Q-209G)		土器	瓦質酸化地物	短卵	口-高-低	不明	近世	24	24	粘土質物産物 褐色 内面2次焼成
1641	西暦 M042 (I-006G)		土器	瓦質焼土	小皿	口-高2.2底2.5	不明	近世	29	26	粘土質物産物 褐色
1642	西暦 M042 (I-006G)		土器	瓦質酸化地物	短卵	口-高1.6底-	不明	近世	29	26	粘土質物産物 灰青色 軟質
1643	西暦 M044 (U-014G)		土器	瓦質焼土	短卵小	口-高-低	不明	近世	29	26	粘土質物産物 褐色 内面2次焼成
1644	西暦 M041		土器	瓦質焼土	短小	口-高5.3底-	不明	近世	41	32	粘土質物産物 灰青色 土底
1645	西暦 D082		土器	瓦質焼土	短	口-高5.8底11.3底21.0	不明	近世	51	43	粘土質物産物 褐色
1646	西暦 D079		土器	瓦質焼土	短筒	口-高5.8底-	不明	近世	47	36	赤色磁物産物土底外全面入又
1647	西暦 D081		土器	瓦質焼土	短	口-高5.8底11.1底21.0	不明	近世	51	43	粘土質物産物 白色
1648	西暦 D081		土器	瓦質酸化地物	瓦灯	口-高-低	不明	近世	51	43	粘土質物産物 灰青色
1649	西暦 D076		土器	瓦質焼土	短	口-高-低	不明	近世	45	36	粘土質物産物 褐色
1650	西暦 D041		土器	瓦質焼土	短筒	口-高-低	不明	近世	41	32	気泡物産物土底見込菊花状押印
1651	西暦 D041		土器	瓦質焼土	小形丸鉢	口-高-低	不明	近世	41	32	粘土質物産物 白色
1652	西暦 D081		土器	瓦質焼土	小形丸鉢	口-高-低	不明	近世	51	43	粘土質物産物 褐色
1653	西暦 N033土層		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高6.8底13.6底20.0	不明	近世	32	23	粘土質物産物 赤土底
1654	西暦 N028 (P-011G)		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高12.6底23.8底30.0	不明	近代	22	23	粘土質物産物 赤土 内内入又
1655	西暦 N033		陶器	無釉物	コ鉢小	口-高-底	不明	中世	22	23	粘土質物産物 褐色 軟質
1656	西暦 J029 (M042) (T-012)		土器	瓦質焼土	短筒	口-高3.0底3.0底3.0	不明	近世	37	29	気泡物産物褐色土底継ぎ壊2次焼成
1657	西暦 J029 (N-041G)		土器	瓦質焼土	短筒	口-高3.5底4.4底-	不明	近世	96	70	粘土質物産物 灰青色 土底
1658	西暦 D171		土器	瓦質焼土	短筒	口-高2.0底0.4底-	不明	近世	96	70	粘土質物産物褐色土底内内入又
1659	西暦 D171		土器	瓦質焼土	大丸	口-高4.4底4.6底10.1	不明	近世	96	70	粘土質物産物 褐色 3脚
1660	西暦 D171		土器	瓦質焼土	短筒	口-高-底	不明	近世	96	70	軟質 粘土質物産物 白色 軟質
1661	西暦 D171		土器	瓦質焼土	短小	口-高-低	不明	近世	96	70	粘土質物産物 褐色
1662	西暦 D171		土器	瓦質焼土	大鉢	口-高-低	不明	近世	96	70	赤色磁物産物灰青色印花軟質
1663	西暦 D171		土器	瓦質焼土	大丸	口-高4.4底4.6底12.4	不明	近世	96	70	粘土質物産物 褐色 3脚
1664	西暦 D171		土器	瓦質焼土	短	口-高3.0底11.6底18.6	不明	近世	97	70	気泡物産物見込菊花状押印
1665	西暦 D171		土器	瓦質焼土	短筒	口-高3.0底3.5底3.6	不明	近世	96	70	軟質白質物産物白色土底押印入又
1666	西暦 D171		土器	瓦質焼土	短筒	口-高3.5底3.8底3.4	不明	近世	96	70	褐色 土底 径5.0
1667	西暦 D114		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高3.0底3.5底3.9	不明	近代	57	45	粘土質物産物 褐色 厚底
1668	西暦 D114		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高3.7底5.5底35.4	不明	近世	56	45	気泡物産物褐色土底<短土底
1669	西暦 D114		土器	瓦質焼土	小鉢小	口-高10.0	不明	近世	55	45	粘土質物産物 褐色
1670	西暦 D114		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高-底	不明	近世	56	45	粘土質物産物 褐色
1671	西暦 D114		土器	瓦質焼土	短筒	口-高3.7底5.5底35.0	不明	近世	56	45	気泡物産物白色土底継ぎ壊2次焼成
1672	西暦 D114		土器	瓦質焼土	短筒	口-高5.3底-	不明	近世	56	45	赤色磁物産物褐色孔土底継ぎ壊2次焼成
1673	西暦 D114		土器	瓦質焼土	短筒	口-高3.8底3.8底-	不明	近世	56	45	粘土質物産物 褐色 土底 軟質
1674	西暦 D114		土器	瓦質焼土	短筒	口-高4.0底5.5底36.0	不明	近世	56	45	粘土質物産物 褐色 土底 軟質
1675	西暦 D114		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高3.7底4.9底35.6	不明	近世	56	45	赤色磁物産物白色土底継ぎ壊2次焼成
1676	西暦 D114		土器	瓦質酸化地物	大鉢	口-高-底	不明	近世	57	45	赤色磁物産物白色土底継ぎ壊2次焼成
1677	西暦 D114		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高-底	不明	近世	56	45	赤色磁物産物褐色孔土底継ぎ壊2次焼成
1678	西暦 D114		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高3.8底3.8底-	不明	近世	57	46	粘土質物産物 褐色 土底
1679	西暦 D114		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高3.8底3.8底-	不明	近世	57	46	粘土質物産物 褐色 土底 軟質
1680	西暦 D123		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高3.7底4.9底35.6	不明	近世	56	45	赤色磁物産物白色土底継ぎ壊2次焼成
1681	西暦 D123		土器	瓦質酸化地物	大鉢	口-高-底	不明	近世	56	45	気泡物産物白色土底継ぎ壊2次焼成
1682	西暦 D114		土器	瓦質焼土	大丸	口-高6.7底-	不明	近世	55	45	気泡物産物白色土底押印
1683	西暦 D123		土器	土師製	小皿	口-高3.8底3.8底3.9	不明	中世	89	66	粘土質物産物 褐色 軟質
1684	西暦 D123		土器	瓦質焼土	大丸	口-高-底	不明	近世	89	66	気泡物産物白色土底押印
1685	西暦 M054, D114		土器	瓦質焼土	大鉢小	口-高3.6底-	不明	近世	69	52	気泡物産物褐色土底継ぎ壊2次焼成
1686	西暦 D114		土器	瓦質焼土	大鉢	口-高-底	不明	近世	56	45	粘土質物産物 褐色 土底
1687	西暦 D114		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高3.8底3.8底34.4	不明	近世	56	45	粘土質物産物 褐色 土底
1688	西暦 N016		土器	瓦質焼土	大鉢	口-高4.4底4.6底19.4	不明	近世	67	52	粘土質物産物 褐色
1689	西暦 D114		土器	瓦質焼土	短	口-高-底	不明	近世	56	45	赤色磁物産物白色土底継ぎ壊2次焼成
1690	西暦 D114		土器	瓦質焼土	短	口-高3.2底3.0底20.0	不明	近世	57	45	粘土質物産物 褐色
1691	西暦 D114		土器	瓦質焼土	短筒	口-高3.4底3.0底20.0	不明	近世	57	45	粘土質物産物 褐色 土底
1692	西暦 D114		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高3.4底3.0底20.0	不明	近世	56	45	粘土質物産物 褐色 土底
1693	西暦 D114		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高3.4底3.0底20.0	不明	近世	56	45	粘土質物産物 褐色 土底
1694	西暦 D114		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高3.4底3.0底20.0	不明	近世	57	45	粘土質物産物 褐色 土底
1695	西暦 D123		土器	瓦質焼土	短筒	口-高3.2底3.1底16.4	不明	近世	81	61	気泡物産物褐色物産物土底
1696	西暦 M054		土器	瓦質焼土	大丸	口-高18.8底-	不明	近世	69	52	気泡物産物白色土底押印
1697	西暦 X001		陶器	無釉物	コ鉢小	口-高-底	不明	中世	25	24	白色磁物産物 灰、茶色
1698	西暦 M054		土器	土師製	小皿	口-高3.8底3.8底3.0	不明	中世	69	52	赤色磁物産物褐色土底
1699	西暦 M054		土器	土師製	大鉢小	口-高3.4底3.4底3.2	不明	中世	69	52	赤色磁物産物褐色土底
1700	西暦 M054		土器	瓦質焼土	短筒	口-高12.0底-	不明	近世	69	52	気泡物産物 白色
1701	西暦 M054		土器	瓦質酸化地物	有孔円筒	口-高3.9底0.6	不明	近世	69	52	軟質物産物 気泡物産物 灰黄色
1702	西暦 X001		土器	土師製	短小	---	不明	古墳時代中	25	24	灰黄色物産物
1703	西暦 D168, D123		土器	瓦質酸化地物	大鉢小	底-24.0	不明	近世	94	70	赤色磁物産物 褐色
1705	西暦 D091		土器	土師製	小皿	口-高1.0底2.1底6.6	不明	中世	49	38	気泡物産物 褐色 白色
1706	西暦 D124		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高1.2底-	不明	近世	80	61	赤色磁物産物褐色土底
1707	西暦 D171		土器	土師製	小皿	口-高3.8底4.1底3.4	不明	中世	96	70	赤色磁物産物褐色土底
1708	西暦 D114		土器	灰物	短筒	口-高7.8	不明	近世	54	40	外輪部 赤色磁物産物 灰青色
1709	西暦 D107		土器	瓦質焼土	瓦灯	---	不明	近世	83	64	軟質物産物 赤色磁物産物 灰青色
1710	西暦 D124		土器	瓦質酸化地物	短筒	---	不明	中世	80	61	軟質物産物 褐色
1711	西暦 D171		土器	土師製	小皿	底7.0	不明	中世	96	70	軟質物産物 褐色 土底
1712	西暦 D124		土器	土師製	小皿	---	不明	近世	80	61	軟質物産物 褐色 土底
1713	西暦 D172		土器	瓦質酸化地物	短筒	---	不明	近世	80	61	軟質物産物 褐色 土底
1714	西暦 D123, M050		土器	瓦質酸化地物	短筒	口-高3.4底3.0底23.0	不明	近世	89	66	内内入又 褐色 土底 気泡物産物
1715	西暦 M080		土器	瓦質焼土	短筒	口-高3.8底5.0底35.0	不明	近世	33	23	粘土質物産物 褐色 白色
1716	西暦 M082		土器	瓦質焼土	大丸	口-高-底16.0	不明	近世	77	57	粘土質物産物 白色 土底
1717	西暦 M050		陶器	無釉物	コ鉢小	口-高-底16.0	不明	中世	23	23	粘土質物産物 褐色
1718	西暦 (H-020G)		陶器	須恵瓦質物	短小	口-高-底	不明	古代	222	161	粘土質物産物 白色
1719	西暦 M050		土器	土師製	小皿	口-高-底3.8	不明	中世	77	57	底部不磨着赤色磁物産物左廻転調整
1720	西暦 X001		土器	瓦質焼土	短筒小	口-高-底	不明	近世	25	24	灰黄色物産物 口-高直
1721	西暦 M085		陶器	須恵瓦質物	コ鉢小	口-高-底	不明	中世	23	24	粘土質物産物 白色

番号	地区	遺構	種類	物種/用途	形状	注	量	産地	時代	本文	写真	備考	
1722	西原	D113, N650	土器	瓦質酸化	鉢形	口高、底平	個不詳	近世	近世	69		石灰灰層裏込の開口(D1081)河原片	
1723	西原	(S-027C)	土器	瓦質酸化	鉢形	口高、底平	不明	中世	中世	224	162	土灰色、褐色、褐色	
1724	西原	(Q-044C)	土器	瓦質還元	鉢形	口高、底平	不明	近世	近世	222	161	胎土色、暗灰白灰色、土灰	
1725	西原	J015 周辺、(U-006G)	土器	瓦質還元	鉢形	口高、底平	不明	近世	近世	31	28	胎土色、暗灰白灰色、土灰	
1726	西原	J015 周辺、(V-007G)	土器	瓦質還元	鉢形	口高、底平	不明	近世	近世	31	28	胎土色、暗灰白灰色、土灰	
1727	西原	(N-041G)	土器	瓦質還元	鉢形	口高、底平	不明	近世	近世	224	162	胎土色、暗灰白灰色	
1728	西原	(S-026G)	土器	瓦質酸化	鉢形	口高、底平	不明	中世	中世	221	161	褐色、暗灰白灰色	
1729	西原	(Q-036G)	土器	瓦質還元	鉢形	口高、底平	不明	近世	近世	75	56	外壁に付着する暗赤褐色皮層状土	
1730	西原	D186	土器	瓦質酸化	鉢形	口高、底平	不明	近世	近世	221	161	灰褐色土、土灰、赤褐色、赤黄	
1731	西原	D186, D114	土器	瓦質酸化	鉢形	口高、底平	不明	近世	近世	74	56	胎土色、暗灰白灰色、土灰	
1732	西原	D186, D114	土器	瓦質酸化	鉢形	口高、底平	不明	近世	近世	74	56	胎土色、暗灰白灰色、土灰	
1733	西原	D186	土器	瓦質還元	鉢形	口高、底平	不明	近世	近世	81	61	胎土色、暗灰白灰色、土灰	
1734	西原	D186	土器	瓦質還元	鉢形	口高、底平	不明	近世	近世	81	61	胎土色、暗灰白灰色、土灰	
1735	西原	D186	土器	瓦質還元	鉢形	口高、底平	不明	近世	近世	81	61	胎土色、暗灰白灰色、土灰	
1736	西原	D197, D186	土器	瓦質還元	鉢形	口高、底平	不明	近世	近世	83	64	胎土色、暗灰白灰色、土灰	
1737	西原	D186	土器	瓦質還元	鉢形	口高、底平	不明	近世	近世	75	56	胎土色、暗灰白灰色、土灰	
1738	西原	X001	土器	化研餅付	壺	口高、底平	三河高瀬	古代	近世	25	24	石灰灰層上赤土赤土小汁軟質	
1739	西原	D114	土器	瓦質酸化	壺	口高、底平	不明	近世	近世	56	45	灰黄灰層裏込に藍紫花状印	
1740	西原	J015 周辺、(W-009G)	土器	瓦質還元	壺	口高、底平	不明	近代	近代	31	28	胎土色、暗灰白灰色、土灰	
1741	西原	D114	土器	瓦質還元	壺	口高、底平	不明	近代	近代	56	45	胎土色、暗灰白灰色、土灰	
1742	中央	(M-052G)	土器	瓦質還元	壺	口高、底平	不明	近代	近代	222	161	砂状胎土白口縁上縁平調整	
1743	中央	D009	土器	土師質	壺	口高、底平	不明	中世	中世	123	87	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1744	中央	(U-052G)	土器	土師質	壺	口高、底平	不明	中世	中世	202	162	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1745	西原	X002	土器	無酸化	小皿	口高、底平	不明	中世	中世	105	75	赤褐色胎土、調整	
1746	中央	D029	陶器	無酸化	小鉢	口高、底平	不明	中世	中世	123	87	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1747	中央	X012 No.3	陶器	自然釉還元	鉢	口高、底平	不明	中世	中世	130	118	84	砂状胎土、調整
1748	西原	X012 No.3	陶器	自然釉還元	鉢	口高、底平	不明	中世	中世	130	118	84	砂状胎土、調整
1749	中央	X012 No.7	陶器	自然釉還元	鉢	口高、底平	不明	中世	中世	130	118	84	砂状胎土、調整
1750	中央	X012 No.12	陶器	無酸化	小皿	口高、底平	不明	中世	中世	130	118	84	胎土赤褐色、暗灰色、調整
1751	中央	X012上層	土器	瓦質還元	行平	口高、底平	不明	近世	近世	118	84	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1752	中央	X012 No.13	陶器	無酸化	小皿	口高、底平	不明	中世	中世	118	84	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1753	西原	X013上層	土器	土師質	小皿	口高、底平	不明	中世	中世	105	75	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1754	中央	X012 No.3	陶器	無酸化	小皿	口高、底平	不明	中世	中世	130	118	84	胎土赤褐色、暗灰色、調整
1755	不明	(土土取動不明)	陶器	無酸化	小鉢	口高、底平	不明	中世	中世	226	163	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1756	中央	M014上層	土器	瓦質還元	壺	口高、底平	不明	近世	近世	163	117	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1757	中央	M016上層	土器	瓦質還元	火入丸	口高、底平	不明	近世	近世	163	117	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1758	中央	M016中層	陶器	無酸化	大丸	口高、底平	不明	古代	古代	163	117	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1759	中央	M017上層	陶器	無酸化	小鉢	口高、底平	不明	中世	中世	164	117	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1760	中央	M016上層	陶器	無酸化	小鉢	口高、底平	不明	中世	中世	164	117	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1761	中央	M017上層	陶器	無酸化	小鉢	口高、底平	不明	中世	中世	164	117	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1762	西原	M016上層、(N-091G)	土器	土師質	小鉢	口高、底平	不明	中世	中世	107	133	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1763	中央	M017中層	土器	土師質	小鉢	口高、底平	不明	中世	中世	107	133	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1764	中央	X011下層、(G-089G)	土器	瓦質還元	鉢	口高、底平	不明	近代	近代	144	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1765	中央	X011中層、(G-056G)	土器	瓦質還元	鉢	口高、底平	不明	近代	近代	144	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1766	中央	X011上層、(G-072G)	土器	瓦質還元	鉢	口高、底平	不明	近代	近代	144	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1767	中央	X011上層、(G-078G)	土器	土師質	小鉢	口高、底平	不明	近代	近代	143	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1768	中央	X011上層、(G-080G)	土器	瓦質還元	小鉢	口高、底平	不明	近代	近代	143	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1769	中央	X011中層、(G-084G)	土器	土師質	小鉢	口高、底平	不明	中世	中世	144	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1770	中央	X011底、(G-066G)	土器	瓦質還元	内耳	口高、底平	不明	中世	中世	143	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1771	中央	X011下層、(G-060G)	土器	瓦質還元	瓦打	口高、底平	不明	近世	近世	144	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1772	中央	X011北東部	土器	瓦質還元	瓦打	口高、底平	不明	中世	中世	144	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1773	中央	X011底、(M-060G)	土器	瓦質還元	灯鉢	口高、底平	不明	近世	近世	144	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1774	中央	X011下層、(K-067G)	土器	瓦質還元	鉢	口高、底平	不明	近世	近世	144	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1775	中央	X011上層、(H-066G)	土器	瓦質還元	鉢	口高、底平	不明	近世	近世	144	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1776	中央	M032	土器	土師質	小皿	口高、底平	不明	中世	中世	155	108	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1777	中央	M032、(J-073G)	土器	瓦質還元	壺	口高、底平	不明	中世	中世	155	108	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1778	中央	D003 No.1,2	土器	瓦質還元	壺	口高、底平	不明	中世	中世	158	112	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1779	中央	X011下層	土器	瓦質還元	火鉢	口高、底平	不明	近世	近世	145	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1780	中央	X011下層	土器	無酸化	小鉢	口高、底平	不明	中世	中世	143	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1781	中央	X011下層	土器	無酸化	小鉢	口高、底平	不明	中世	中世	143	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1782	中央	X011下層	土器	無酸化	小鉢	口高、底平	不明	中世	中世	143	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1783	中央	X011下層	土器	瓦質還元	火鉢	口高、底平	不明	中世	中世	144	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1784	中央	X011下層	土器	瓦質還元	火鉢	口高、底平	不明	中世	中世	144	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1785	中央	X011下層、(F-082G)	土器	瓦質還元	火鉢	口高、底平	不明	近世	近世	146	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1786	中央	X011下層、(G-059G)	土器	瓦質還元	火鉢	口高、底平	不明	近世	近世	143	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1787	中央	X011中層、(H-083G)	土器	無酸化	火鉢	口高、底平	不明	近代	近代	145	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1788	中央	X011中層	土器	無酸化	火鉢	口高、底平	不明	近代	近代	145	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1789	中央	X011中層、(W-7、(G-081G)	陶器	無酸化	壺	口高、底平	不明	古代	古代	144	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1790	中央	X011底、(H-080G)	土器	瓦質還元	火鉢	口高、底平	不明	近代	近代	143	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1791	中央	X011底、(H-080G)	土器	瓦質還元	火鉢	口高、底平	不明	近代	近代	143	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1792	中央	X011底、(H-082G)	土器	瓦質還元	火鉢	口高、底平	不明	近代	近代	144	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1793	中央	X011中層、(I-057G)	土器	土師質	小鉢	口高、底平	不明	近代	近代	146	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1794	中央	X011上層、(J-057G)	土器	土師質	小鉢	口高、底平	不明	近代	近代	146	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1795	中央	X011上層	土器	土師質	小鉢	口高、底平	不明	近代	近代	145	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1796	中央	X011上層、(K-087G)	土器	土師質	小鉢	口高、底平	不明	近代	近代	145	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1797	中央	X011下層、(G-057G)	土器	瓦質還元	鉢	口高、底平	不明	近代	近代	143	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1798	中央	X011下層	土器	瓦質還元	火入丸	口高、底平	不明	近代	近代	145	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1799	中央	X011底、(H-059G)	土器	瓦質還元	小鉢	口高、底平	不明	近代	近代	145	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1800	西原	D172	土器	瓦質還元	鉢	口高、底平	不明	近代	近代	101	74	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1801	西原	X011西層、(I-056G)	土器	瓦質還元	壺	口高、底平	不明	近代	近代	143	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1802	中央	X011西層下層	土器	瓦質還元	壺	口高、底平	不明	近代	近代	143	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1803	中央	X011底	土器	土師質	小鉢	口高、底平	不明	中世	中世	143	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1804	中央	X011底	土器	土師質	小鉢	口高、底平	不明	中世	中世	143	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1805	中央	X011西層上層	土器	瓦質還元	壺	口高、底平	不明	近代	近代	143	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1806	中央	X011下層	土器	瓦質還元	小鉢	口高、底平	不明	近代	近代	144	102	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1807	中央	X011底、(G-086-086G)	土器	瓦質還元	小鉢	口高、底平	不明	近代	近代	144	103	胎土赤褐色、暗灰色、調整	
1808	中央	D015、(H-057-068G)	土器	土師質	小鉢	口高、底平	不明	中世	中世	158	111	胎土赤褐色、暗灰色、調整	

N 資料

番号	地区	遺構	種類	施設名	図形	位置	年代	本文	写真	備考		
1809	中央	D027	土器	瓦葺破し	塼	128. 3617. 3625.4	不明	中世	159	113	土器 磁粒 灰褐色	
1810	中央	D027	土器	瓦葺破し	塼	128. 616. 128. 11. 3	不明	中世	159	113	土器 磁粒 内外縁黒褐色小砂粒灰褐色	
1811	中央	D004中層	土器	土師器	小皿	□-高-67.0	不明	中世	119	81	左面縁黒褐色端大塊小砂粒褐色灰	
1812	中央	D022 (H-072G)	土器	土師器	皿	□11. 243. 188. 3	不明	中世	158	112	底左面縁調整灰	
1813	中央	D027	土器	土師器	小皿	□10. 4. 282. 7. 0	不明	中世	159	113	底左面縁調整灰外外縁黒褐色灰	
1814	中央	D021	土器	土師器	小皿	□18. 0. 168. 4. 0	不明	中世	158	112	底左面縁調整灰高凸縁赤褐色粉粒	
1815	中央	D021 (H-062E土器-96Z)	陶器	磁器製小鉢	コト鉢	□-高-410. 0	不明	中世	142	2	底左面縁調整灰 灰褐色	
1816	中央	D0 (047C)	土器	土師器	小皿	□12. 3. 283. 26. 7	不明	中世	224	162	底左面縁調整灰	
1817	中央	D025	土器	瓦葺破し	小皿	□高-67.3	不明	中世	159	112	底左面縁調整灰赤褐色調整灰	
1818	中央	D021 (G-071G)	土器	瓦葺破し	輪状	□高-67.0	不明	中世	158	112	上面縁黒褐色	
1819	中央	D024 (S-062G)	土器	瓦葺破し	コト鉢小	□高-155.2	不明	中世	119	81	内面縁多凸 石灰粒 灰白色 軟質	
1820	中央	D027上層	土器	瓦葺破し	小皿	□7. 9. 81. 1. 82. 5	不明	中世	126	106	底左面縁調整灰褐色石灰質	
1821	中央	D028	土器	瓦葺破し	小皿	□7. 5. 81. 1. 52. 5. 0	不明	中世	159	113	土器 磁粒 調整灰 褐色粉粒 調整灰	
1822	中央	D027 (H-070-071G)	土器	瓦葺破し	小皿	□7. 9. 81. 1. 52. 5. 0	不明	中世	159	113	調整灰 磁粒 調整灰 軟質	
1823	中央	D024	土器	瓦葺破し	大鉢	□高-162.0	不明	中世	158	112	調整灰 灰色 軟質	
1824	中央	D018	土器	瓦葺	火鉢	□24. 6. 18. 5. 24. 0	不明	中世	158	111	外縁斜形凸縁調整灰土着調整灰赤褐色赤褐色粉粒 褐色色	
1825	中央	D018	土器	瓦葺破し	塼	□21. 1. 高-16.0	不明	中世	158	111	赤褐色粉粒 褐色色	
1826	中央	X011中島 (H-056G)	土器	瓦葺破し	小皿	□9. 4. 3. 1. 82. 5. 0	不明	中世	144	102	粘土気泡白色底左面縁調整灰	
1827	西側	M001	土器	土師器	小皿	□7. 4. 81. 1. 92. 4. 0	不明	中世	180	128	粘土微砂粒褐色底左面縁調整灰	
1828	西側	M001	土器	土師器	円筒状	□高-67.0	不明	古代	180	128	粘土赤褐色調整灰赤褐色粉粒	
1829	西側	M001	土器	瓦葺破し	塼	□高-67.0	不明	中世	180	128	粘土赤褐色調整灰赤褐色粉粒	
1830	西側	M001	土器	瓦葺破し	円筒状	□高-67.0	不明	中世	180	128	粘土赤褐色調整灰 褐色色 上下縁調整灰	
1831	西側	M001	土器	瓦葺破し	レングカ	□高-67.0	不明	近代	181	128	粘土土師器 褐色色	
1832	西側	M001	土器	瓦葺破し	塼小	□高-67.0	不明	中世	180	128	粘土土師器 褐色色	
1833	中央	X011備後 (H-061G)	土器	瓦葺破し	塼小	□高-67.0	不明	中世	143	103	粘土土師器 褐色色 調整灰 軟質	
1834	中央	D021	土器	瓦葺破し	塼小	□高-67.0	不明	中世	158	112	粘土土師器 褐色色 調整灰	
1835	西側	M001	土器	瓦葺破し	塼	□高-67.0	不明	中世	180	128	底左面縁調整灰	
1836	西側	M001	土器	土師器	塼	□高-67.0	不明	中世	180	128	調整灰 粘土赤褐色調整灰赤褐色粉粒	
1837	西側	M003	土器	瓦葺破し	塼	□高-67.0	不明	古代	183	129	粘土土師器 白色色 軟質	
1838	西側	M003	土器	瓦葺破し	塼	□高-67.0	不明	古代	183	129	黒泥 粘土土師器 灰白色 軟質	
1839	西側	M001下層	土器	無色土師	小坏	□10. 6. 3. 2. 82. 5. 0	不明	古代	180	128	右面縁調整灰調整灰調整灰灰白	
1840	西側	M001	土器	磁器製	杯	□高-67.0	不明	古代	183	129	底左面縁調整灰調整灰調整灰灰白	
1841	西側	D018 (S-096-097G)	土器	土師器	小皿	□高-67.0	不明	古代	187	133	調整灰	
1842	西側	M001	土器	磁器製	小皿	□高-67.0	不明	古代	180	128	底左面縁調整灰調整灰調整灰灰白	
1843	西側	M004	土器	土師器	羽釜	□高-67.0	不明	古代	180	128	粘土土師器 褐色色 軟質	
1844	西側	M001 (U-097G)	土器	土師器	壺小	□高-67.0	不明	古代	180	128	粘土赤褐色調整灰 褐色色	
1845	西側	M018 (S-092-098G)	土器	土師器	コト鉢	□14. 6. 高-2.0	不明	古代	187	133	粘土赤褐色調整灰 褐色色	
1846	西側	M001	土器	土師器	小皿	□11. 6. 3. 2. 82. 5. 0	不明	中世	180	128	底左面縁調整灰調整灰調整灰軟質	
1847	西側	M001上層	土器	土師器	小皿	□高-67.0	不明	古代	180	128	高凸縁調整灰調整灰調整灰軟質	
1848	西側	M001下層	土器	土師器	小皿	□高-67.0	不明	中世	180	128	底左面縁調整灰調整灰調整灰軟質	
1849	西側	M001	土器	土師器	高坏	□高-67.0	不明	古墳時代	181	128	調整灰 粘土赤褐色調整灰灰白色	
1850	西側	M001	土器	土師器	小坏	□高-67.0	不明	中世	180	128	底左面縁調整灰調整灰調整灰軟質	
1851	西側	M001	土器	土師器	小坏	□高-67.0	不明	古代	183	129	調整灰 粘土赤褐色調整灰調整灰軟質	
1852	西側	M018上層 (S-101G)	土器	土師器	高足碗	□13. 3. 2. 82. 5. 0	不明	古代	187	133	調整灰 粘土赤褐色調整灰調整灰軟質	
1853	西側	(R-086Z)	土器	瓦葺	塼	□高-67.0	不明	近代	225	162	調整灰	
1854	西側	(S-096G)	土器	瓦葺破し	塼	□高-67.0	不明	近代	225	162	調整灰	
1855	西側	(R-086Z)	土器	土師器	円筒状	□高-67.0	不明	近代	225	162	調整灰	
1856	西側	(T-100C)	陶器	上絵	不明	□高-67.0	不明	近代	225	162	調整灰	
1857	西側	(S-101G-102G)	土器	瓦葺破し	塼	□28. 2. 高-6.0	不明	近代	225	162	粘土気泡 褐色灰褐色	
1858	西側	(土土位置不明)	土器	土師器	杯	□11. 2. 82. 5. 2. 82. 5. 0	不明	近代	225	162 165	調整灰	
1859	西側	J15 (V-4036) Y 9	土器	瓦葺破し	塼	□高-67.0	不明	近世	31	28	粘土土師器 灰白色	
1860	中央	J005	土器	瓦葺破し	塼	□12. 5. 高-67.0	不明	中世	123	85	粘土土師器 灰褐色	
1862	中央	J005	土器	瓦葺破し	塼	□高-67.0	不明	近世	121	85	粘土赤褐色調整灰 褐色色 円縁面土	
1863	西側	N002	土器	土師器	調整手合	□高-67.0	不明	中世	174	120	粘土気泡 灰褐色	
1864	西側	D046, D048	土器	瓦葺破し	瓦打	□高-67.0	不明	近世	44	35	粘土土師器 褐色色	
1865	西側	M004	土器	瓦葺破し	火鉢調整	□高-67.0	不明	中世	180	159	粘土土師器 灰褐色 軟質	
1866	西側	N023 (O-017G)	陶器	二色縁調整	塼	□16. 3. 高-6.0	不明	古代	9C	22	4-12 38 145-18 白化粧土 無土 調整灰調整灰	
1867	西側	(H-106G)	陶器	縁調整	塼	□高-67.0	不明	近代	225	4-13 15 16-42 調整灰 褐色色		
1868	西側	(H-106G)	陶器	縁調整	塼	□高-67.0	不明	近代	225	4-13 15 16-42 調整灰 褐色色		
1869	西側	J15 No. 11	陶器	縁調整	塼	□高-67.0	不明	近代	225	4-13 15 16-42 調整灰 褐色色		
1870	西側	N232	陶器	縁調整	塼	□14. 0. 82. 5. 0. 82. 7. 2	不明	古代	10C 中層	199	4-13 14 15 16 42 不明調整灰 三日月高台調整灰調整灰調整灰	
1871	西側	N203	陶器	縁調整	塼	□15. 0. 82. 5. 1. 82. 7. 5	不明	古代	10C 中層	242	4-13 14 15 16 42 不明調整灰 オリーブ調整灰調整灰	
1872	西側	J15 No. 28	陶器	縁調整	塼	□高-67.0	不明	近代	10C 中層	193	203	4-13 15 2 三日月高台調整灰調整灰調整灰
1873	西側	J15 No. 13, 14	陶器	縁調整	塼	□13. 6. 82. 5. 0. 82. 7. 5	不明	近代	10C 中層	203	4-13 15 2 三日月高台調整灰調整灰調整灰	
1874	西側	D24	陶器	縁調整	塼	□13. 2. 82. 5. 0. 82. 7. 5	不明	近代	10C 中層	203	4-13 14 15 2 三日月高台調整灰調整灰調整灰	
1875	西側	J107	陶器	縁調整	長脚塼	□高-67.0	不明	近代	64	14-13	4	調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰
1876	西側	J159	陶器	縁調整	塼	□高-67.4	不明	近代	10C 中層	199	203	4-13 15 2 三日月高台調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰
1877	西側	J152 No. 3, 9, S-106Z	陶器	縁調整	長脚塼	□高-67.0	不明	近代	300	4-13 15	2	外面縁調整灰 灰褐色 調整灰
1878	西側	J106	陶器	縁調整	塼	□16. 2. 82. 5. 0. 82. 8. 0	不明	近代	30C 中層	249	4-13 14 15 2 三日月高台調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰	
1879	西側	J103 No. 21	陶器	縁調整	塼	□18. 6. 高-6.0	不明	近代	199	4-13 15 15-37 調整灰 褐色色 内面のみ		
1880	西側	J107	陶器	縁調整	塼	□高-67.0	不明	近代	64	4-13 14 15 2 三日月高台調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰		
1881	西側	M011	陶器	縁調整	塼	□高-67.0	不明	近代	164	4-13 15 15-37 調整灰 褐色色 調整灰		
1882	西側	J104	陶器	縁調整	塼	□高-67.0	不明	近代	10C 中層	199	203	4-13 14 15 2 三日月高台調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰
1883	西側	M018	陶器	縁調整	塼	□高-67.0	不明	近代	167	4-13 15 15-37 調整灰 褐色色 調整灰		
1884	西側	(L-051G)	陶器	縁調整	塼	□高-67.0	不明	近代	224	4-13 16 42 自然調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰		
1885	西側	J106	陶器	縁調整	塼	□高-67.0	不明	近代	64	4-13 14 15 2 王様調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰		
1886	西側	J106	陶器	縁調整	塼	□高-67.4	不明	近代	63	4-13 14 15 2 三日月高台調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰		
1887	西側	J106	陶器	縁調整	塼	□高-67.0	不明	近代	63	4-13 14 15 2 調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰		
1888	西側	M022	陶器	縁調整	塼	□高-67.0	不明	近代	10C 中層	199	203	4-13 15 15-37 調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰
1889	西側	M201	陶器	縁調整	塼	□高-67.8	不明	近代	191	4-13 15 15-37 調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰		
1890	西側	J159 No. 15	陶器	縁調整	塼	□13. 2. 高-6.0	不明	近代	10C 中層	193	203	4-13 15 2 王様調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰
1891	西側	M108	土製品	磁化	瓦	調1. 7. 9. 0. 8. 1. 8. 2. 3	不明	近代	187	133	半軟質 粘土土師器 灰白色	
1892	西側	(V-78-106/107G)	土製品	磁化	土鍋	□3. 1. 高1. 1. 1. 1. 8. 1. 4	不明	近代	226	163	粘土土師器 灰褐色 調整灰	
1893	西側	X001	土製品	磁化	瓦人形	高1. 0. 8. 1. 1. 1. 1. 1. 4	不明	近代	31	34	調整灰 調整灰 調整灰 調整灰 調整灰	
1894	中央	X011 (O-061G)	土製品	磁化	瓦人形	高1. 0. 8. 1. 1. 1. 1. 4	不明	近代	142	2	調整灰 調整灰 調整灰 調整灰 調整灰	
1895	西側	M012	土製品	磁化	瓦人形	高1. 0. 8. 1. 1. 1. 1. 4	不明	近代	183	130	大黒天 善平土 調整灰 調整灰 調整灰	
1896	西側	M044	土製品	磁化	瓦人形	高1. 0. 8. 1. 1. 1. 1. 4	不明	近代	25	26	仏像 小中調整灰赤褐色調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰調整灰	

番号	地区	遺構	種類	種別	形状	寸法	量	地	時代	本文	写真	備考
1087	西原 M050		土器	磁化	紡錘形	径4.0,高7.3,底0.4	不明	古代	33	29		粘土磨粉粒 白色
1088	西原 M044, (T-011/0126)		土器	磁化	泥人形	長幅-0.9,2.1	不明	近世	29	26		動物小骨類磨粉粒土磨粉粒褐色
1089	西原 M036		土器	磁化	泥人形	長幅-1.0,1.5	不明	近世	27	26		骨端 中形 粘土磨粉粒 黄褐色
1090	中央 N011中下部, J-059G		陶器	無釉燒器	鉢形	口30.0,高-底	不明	近世	142	13-50		褐色 褐色
1091	中央 N011下層		土器	瓦質還元	火鉢	口20.0,高-底	不明	近世	145	102		へちま籠文, 瓦質 褐色色
1092	中央 N011中層		土器	瓦質還元	大八木小	口11.1,高-底	不明	近世	145	102		口縁部磁化 褐色
1093	中央 N011上層, (K-061G)		土器	瓦質還元	鉢形	口28.0,高-底	不明	近世	144	102		粘土赤色焼物粒 褐色白黄色
1094	中央 N011上層		土器	瓦質還元	火鉢脚部	口-高-底	不明	中世	144	102		青花印模後2次焼物磨粉粒灰質 粘土赤粒灰質赤褐色片状灰質
1097	中央 N011上層, (K-061G)		土器	瓦質	火鉢小	口-高-底	不明	中世	144	102		粘土磨粉粒 褐色灰色 赤質
1098	中央 N011上層		土器	瓦質還元	鉢形小	口-高-底12.0	不明	中世	143	102		粘土磨粉粒 褐色 赤質
1099	中央 N011上層, (K-061G)		土器	瓦質還元	火鉢脚部	口-高-底	不明	中世	145	102		粘土磨粉粒 褐色 赤質
1101	西原 M042(T-007G)		磁器	磁化	火鉢小	口-高-底	不明	中世	145	102		巴文陶印縁部磨粉粒土磨粉粒灰色
1112	西原 M020		土器	燒器部	鉢小	口-高-底	不明	古墳時代	191	136		粘土磨粉粒 褐色灰色
1113	西原 M059		土器	還元焼物	不明	口-高-底	不明	不明	77	5-17 57		磨物焼物粉付着 粘土磨粉粒 灰色
1114	西原 M101		陶器	灰釉	高足瓶	口-高-底8.6	高遠	古代10C末11C初葉頃	191	4-13/15		内外無釉無整粘土磨粉粒白色灰質
1115	西原 M101		陶器	灰釉	高足瓶	口-高-底7.9	高遠	古代10C末11C初葉頃	201	4-13/14, 5-17		700毛刻文三角高小磨粉粒灰白
1116	西原 M151 P-12		陶器	灰釉	網	口-高-底7.2	高遠	古代10C末11C初葉頃	187	4-13/15		網文三角高小磨粉粒灰白
1117	西原 (W-1-107G)		陶器	灰釉	網	口-高-底6.4	高遠	古代10C末11C初葉頃	225	4-13/15		内外無釉三角高小磨粉粒灰色
1118	西原 N038, (T-066G)		陶器	灰釉	環	口-高-底8.0	高遠	古代10C末11C初葉頃	27	4-13/14		粘土磨粉粒 オリーブ灰
1119	西原 M001		陶器	自然釉焼物	コ鉢	口35.2,口15.5,底3.0	常滑	中世	118			粘土赤質 褐色灰色
1120	中央 N012 No.4		陶器	自然釉焼物	コ鉢	口-高-底	常滑	中世	118			粘土赤質 灰白黄色
1121	西原 M048		陶器	自然釉焼物	鉢	口-高-底	常滑	中世	21			山崎系赤系小形土磨粉粒オリーブ灰
1122	西原 M001		陶器	無釉	鉢	口-高-底	不明	中世	180			粘土磨粉粒 灰白色
1123	西原 N001 (K-028G)		陶器	無釉焼物	鉢	口-高-底	不明	中世	25			粘土磨粉粒 灰色
1124	西原 M001		陶器	自然釉焼物	鉢	口-高-底	常滑	中世 12C	180			磨物付目土磨粉粒オリーブ灰
1125	中央 (M-052G)		磁器	白磁	碗	口-高-底	中国	中世 13/14C中	224	2-4/5		口先付 灰白色
1126	西原 M001		磁器	白磁	碗	口-高-底	中国	中世 13/14C中	240	2-4/5		口先付 灰白色
1127	中央 N011下層		磁器	粉付	皿	口-高-底	肥前	近世 18C	180	14-54		竹文 粘土磨粉粒 灰白色
1128	中央 D021		陶器	灰釉	鉢	口-高-底	瀬戸焼	近世 16-17C	158	15-56		茶室へ用器 土赤色焼物心丸
1129	西原 (W-106G)		土製品	磁化	土師	口-高-底	常滑	古代	226	4-13/15		焼物焼物 褐色白黄色
1130	西原 J107R下Y		土器	土師器	コ字	口-高-底12.8	不明	古代	64	50		粘土赤粒 褐色
1131	西原 J107R下Y		土器	土師器	変型	口-高-底12.8	不明	古代	64	50		砂底粘土赤色焼物粒灰色褐色灰質
1132	西原 J107R下Y		土器	土師器	変型	口-高-底12.8	不明	古代	65	51		粘土磨粉粒 黄褐色
3003	西原 J108オヤマノ内		土器	土師器	鉢	口19.2,高-底	不明	古代	65	51		底石面無整粘土磨粉粒白色
3004	西原 N203, (N-048G)		土器	土師器	鉢	口10.8,高6.8,底0.9	不明	古代	22	23		底石面無整粘土磨粉粒白色
3005	西原 J108オヤマノ内		土器	土師器	変型	口-高-底	不明	古代	65	51		底石面無整粘土磨粉粒白色
3006	西原 J108オヤマノ内		土器	土師器	変型	口-高-底	不明	古代	63	49		底石面無整粘土磨粉粒白色
3007	西原 J104藤丸		土器	土師器	鉢	口-高-底14.2,高底2.2	不明	古代	63	49		内部色化粘土気泡灰質黄褐色
3008	西原 J107		土器	土師器	鉢	口13.4,高3.2,底4.0	不明	古代	64	50		粘土磨粉粒 褐色
3009	西原 J108		土器	土師器	鉢	口-高-底8.0	不明	古代	65	51		粘土磨粉粒灰オリーブ色灰質
3010	西原 J107		土器	土師器	S字	口15.0,高-底	不明	古墳時代	65	51		粘土磨粉粒 黄褐色
3011	西原 J109		陶器	無釉	飯甕	口-高-底	不明	古代	44	50		高台付無整粘土赤質 灰色
3012	西原 D103		土器	土師器	高足瓶	口14.0,高3.0,底0.0	不明	古代	42	32		高台付無整粘土赤質 灰色
3013	西原 D056		土器	土師器	高足瓶	口14.0,高3.0,底0.0	不明	古代	41	35		高台付無整粘土赤質 灰色
3014	西原 D103		土器	土師器	鉢	口13.0,高3.5,底4.5	不明	古代	42	32		高台付無整粘土赤質 灰色
3015	西原 D045		土器	土師器	高足瓶	口-高-底7.0	不明	古代	41	35		内部色化焼物 粘土磨粉粒 褐色灰色
3016	西原 D041		土器	土師器	小皿	口8.8,高1.7,底4.7	不明	中世	41	32		底石面無整赤色焼物粒灰質
3017	西原 D066		土器	土師器	変型	口-高-底	不明	古代小	44	35		底石面無整赤色焼物粒灰質
3018	西原 D056		土製品	磁化	フイ子皿	長幅7.0,高2.2	不明	古代	21	43		磨物付 褐色白黄色
3019	西原 N203		土器	土師器	鉢	口13.2,高4.1,底0.5	不明	古代	22	23		底石面無整赤色焼物粒灰質
3020	西原 N203		土器	土師器	鉢	口13.2,高4.1,底0.5	不明	古代	22	23		底石面無整赤色焼物粒灰質
3021	西原 N203		土器	土師器	鉢	口13.2,高4.1,底0.5	不明	古代	22	23		底石面無整赤色焼物粒灰質
3022	西原 N203		土器	土師器	鉢	口13.2,高4.1,底0.5	不明	古代	22	23		底石面無整赤色焼物粒灰質
3023	西原 N203, (M/N-016G)		土器	土師器	高足瓶	口13.0,高5.4,底4.8	不明	古代	22	23		底石面無整赤色焼物粒灰質
3024	西原 N203		土器	土師器	高足瓶	口15.0,高5.2,底7.2	不明	古代	22	23		底石面無整赤色焼物粒灰質
3025	西原 N203		土器	土師器	高足瓶	口13.8,高5.2,底6.6	不明	古代	22	23		底石面無整赤色焼物粒灰質
3026	西原 Q0-012G)		土器	土師器	鉢	口-高-底	不明	古墳時代	221	161		底石面無整赤色焼物粒灰質
3027	西原 D078		土器	土師器	鉢	口12.4,高3.3,底3.8	不明	古代	47	36		底石面無整赤色焼物粒灰質
3028	西原 J016-P046		土器	土師器	鉢	口22.1,高-底	不明	古代	36	29		底石面無整赤色焼物粒灰質
3029	西原 (X-019G)		土製品	磁化	フイ子皿	口-高-底	不明	古代	22	161		粘土磨粉粒 褐色白黄色
3030	西原 N036, (T-006G)		土器	土師器	鉢	口14.0,高3.0,底3.5	不明	古代	27	26		外磨物不明焼物・調整器灰質黄白
3031	西原 N036 T-010		土器	土師器	小皿	口9.4,高1.6,底0.9	不明	中世小	22	23		外磨物不明焼物・調整器灰質黄白
3032	西原 N203, (N-017G)		土器	土師器	小皿	口11.0,高4.0,底2.2	不明	古代	22	23		底石面無整赤色焼物粒灰質 白色
3033	西原 N048, (Q-026G)		土器	土師器	小皿	口-高-底	不明	古代	24	24		底石面無整赤色焼物粒灰質 白色
3034	西原 N203, (Q-017G)		土器	土師器	鉢	口-高-底14.8	不明	古代	22	23		外磨物不明焼物・調整器灰質黄白
3035	西原 M050		土器	褐色土	鉢	口12.4,高3.8,底6.2	不明	古代	23	23		底石面無整赤色焼物粒灰質
3036	西原 J106		土器	土師器	鉢	口-高-底5.8	不明	古代	63	50		底石面無整赤色焼物粒灰質
3037	西原 M148		土器	土師器	小皿	口-高-底3.0	不明	中世小	24	24		底石面無整赤色焼物粒灰質
3038	西原 J112		土器	土師器	鉢	口13.0,高5.1,底7.4	不明	古代	109	79		底石面無整赤色焼物粒灰質
3039	西原 J112		土器	土師器	鉢	口12.4,高5.3,底6.6	不明	古代	109	79		底石面無整赤色焼物粒灰質
3040	西原 J112		土器	土師器	鉢	口12.4,高5.3,底6.6	不明	古代	109	79		底石面無整赤色焼物粒灰質
3041	西原 J112		土器	土師器	鉢	口14.4,高5.1,底5.5	不明	古代	109	79		底石面無整赤色焼物粒灰質
3042	西原 J112 No.7,23,26,28		土器	土師器	鉢	口16.4,高4.8,底8.0	不明	古代	109	79		外磨物不明焼物・調整器灰質黄白
3043	西原 J112		土器	土師器	小形皿	口11.0,高-底	不明	古代	109	79		粘土磨粉粒 黄褐色
3044	西原 J112		土製品	磁化	フイ子皿	最大径7.8,高1.2,底1.2	不明	古代	109	79		底石面無整赤色焼物粒灰質
3045	西原 J112		土製品	磁化	フイ子皿	最大径7.8,高1.2,底1.2	不明	古代	109	79		底石面無整赤色焼物粒灰質
3046	西原 J112		土製品	磁化	フイ子皿	最大径7.8,高1.2,底1.2	不明	古代	109	79		底石面無整赤色焼物粒灰質
3047	西原 J112		土製品	磁化	フイ子皿	最大径7.8,高1.2,底1.2	不明	古代	109	79		底石面無整赤色焼物粒灰質
3048	西原 J112		土製品	磁化	フイ子皿	最大径7.8,高1.2,底1.2	不明	古代	109	79		底石面無整赤色焼物粒灰質
3049	西原 J112		土器	土師器	変型	口17.0,高-底	不明	古代	109	79		底石面無整赤色焼物粒灰質
3050	西原 J112		土器	土師器	変型	口18.0,高-底	不明	古代	109	79		底石面無整赤色焼物粒灰質
3051	西原 J111		土器	土師器	鉢	口10.8,高3.8,底4.8	不明	古代	110	79		底石面無整赤色焼物粒灰質
3052	西原 J111オヤマノ内		土器	土師器	高足瓶	口-高-底7.7	不明	古代	110	79		底石面無整赤色焼物粒灰質
3053	西原 J112		土器	土師器	高足瓶	口14.4,高5.4,底4.3	不明	古代	109	79	165	内外無整赤色焼物粒灰質
3054	西原 J111オヤマノ内		土器	土師器	変型	口18.0,高-底	不明	古代	110	79		底石面無整赤色焼物粒灰質
3055	西原 D171, (N-041G)		土器	土師器	鉢	口-高-底6.8	不明	古代	97	70		底石面無整赤色焼物粒灰質

IV 資料

番号	地区	遺 構	種類	輪軸産	経形	径 量	高 度	時 代	本文	写 真	備 考
2037	西麻 D171	土器	土師器	美	□14.8高-底-	不明	古墳時代	97	70		胎土粉砂灰黄白色
2038	西麻 (I-0266)	土器	土師器	坏	□12.0x4.1底6.4	不明	古墳時代	224	162	165	不明層位砂状灰黄褐色右回転無整
2039	西麻 (出土位置不明)	陶器	須恵器	坏	□-高-底7.0	不明	古代	234	162		底面7割整胎土粉砂灰黄褐色
2040	西麻 D114	土器	土師器	高坏	□-高-底-	不明	古墳時代	57	45		胎土粉砂 硬灰褐色
2041	西麻 D144	陶器	須恵器	瓶	□6.8高-底-	不明	古墳時代	57	45		胎土粉砂 硬灰色 自然釉
2042	西麻 D171	土器	土師器	千子鉢	□-高-底-	不明	古墳時代	97	70		胎土粉砂 黄褐色
2043	西麻 D114	土器	土師器	钵	□-高-底-	不明	古墳時代	57	45		胎土粉砂 硬灰色
2044	西麻 D186	土器	土師器	台形甕	□-高-底-	不明	古墳時代	75	54		コバハ覆砂粒 黄褐色
2045	西麻 X001	土器	土師器	台形甕	□-高-底-	不明	古墳時代	25	24		コバハ覆砂粒 黄褐色
2046	西麻 X001	土器	土師器	半球状	□-高-底-	不明	古代	25	24		片割製面 胎土粉砂 黄褐色
2047	西麻 I303	土器	須恵器	瓶	□14.6高4.5底5.8	不明	古代	161	74		赤み入 黒黄胎土灰黄褐色赤黄
2048	西麻 M103	土器	土師器	甕	□14.6高-底-	不明	古墳時代	192	137		胎土粉砂 黄褐色
2049	西麻 M057	土器	土師器	丸	最大径7.1全径-孔 0.8	不明	古代	24	24		胎土粉砂 硬灰色
2070	西麻 N064	土器	土師器	玉瑠璃	□10.4高-底-	不明	古代	23	23		胎土粉砂 黄褐色
2071	西麻 J101	陶器	須恵器	甕	□-高-底-	不明	古代	198	140		外周3目胎土粉砂灰黄色
2072	中央 D022 (S-066G)	土器	須恵器	甕	□15.6高6.2底7.0	不明	古代	123	86		胎土粉砂灰黄 黄褐色 軟質
2073	西麻 J101	土器	土師器	高足碗	□12.2高5.9底5.8	不明	古代	190	140		胎土粉砂灰黄 黄褐色
2074	西麻 X201 (V-091/092b)	土器	土師器	高足碗	□11.2高5.9底5.6	不明	古代	178	125		磨製後2次焼成砂状灰黄褐色
2075	西麻 X201 (V-090/091G)	土器	土師器	坏	□12.2高5.6底5.6	不明	古代	178	125		底面右回転無整砂状灰黄褐色
2076	西麻 X201 (V-090/091G)	土器	土師器	坏	□12.2高5.6底5.6	不明	古代	178	125		底面右回転無整砂状灰黄褐色
2077	西麻 X201 (V-090/091G)	土器	土師器	坏	□10.6高2.7底5.1	不明	古代	178	125		底面右回転無整砂状灰黄褐色
2078	西麻 X201 D005	土器	土師器	坏	□12.2高4.5底5.6	不明	古代	178	125		内底 底面7割整 灰黄褐色
2079	西麻 X202 (V-087/088G)	土器	須恵器	甕	□12.4高3.6底5.2	不明	古代	178	125		底面右回転無整砂状灰黄褐色
2080	西麻 X202 (V-090/091G)	土器	土師器	甕	□11.2高3.4底5.8	不明	古代	178	125		底面右回転無整砂状灰黄褐色
2081	西麻 D007	土器	土師器	高足碗	□12.5高5.7底7.6	不明	古代	178	126		胎土粉砂灰黄褐色軟質
2082	西麻 M018	土器	土師器	皿	□11.8高2.9底5.6	不明	古代	167	123		胎土粉砂灰黄 褐色
2083	西麻 (V-089G)	土器	土師器	皿	□12.4高2.9底5.6	不明	古代	225	142		胎土粉砂 灰白色
2085	西麻 (V-089G)	土器	土師器	坏	□11.8高4.0底6.4	不明	古代	182	162	165	磨製後胎土灰黄土用胎土無整
2086	西麻 J102	土器	土師器	甕	□-高-底6.2	不明	古代	199	142		砂状 胎土粉砂 黄褐色
2087	西麻 J102(977)下内	土器	土師器	高足碗	□20.0高-底-	不明	古代	199	142		内コア調整胎土粉砂灰黄色
2088	西麻 J102	土器	土師器	高足碗	□-高-底7.0	不明	古代	199	142		胎土黄色粘物粒 黄褐色
2099	西麻 J102	土器	須恵器	坏	□-高-底8.0	不明	古代	199	142		底面磨製 胎土粉砂 灰褐色
2090	西麻 J103	土器	土師器	高足碗	□-高-底6.6	不明	古代	198	140		底面2次焼成胎土粉砂多量灰黄色
2091	西麻 J103	土器	土師器	坏	□14.4高2.8底7.4	不明	古代	198	140		底面7割整胎土粉砂灰白色
2092	西麻 D010	土器	須恵器	甕	□14.2高-底-	不明	古代	197	140		耳部に赤み入赤褐色不明灰褐色
2093	西麻 M018	土器	土師器	高足碗	□11.5高5.2底6.8	不明	古代	167	123		底面横付着砂状灰黄色軟質
2094	西麻 M018	土器	土師器	高足碗	□11.5高-底9.1	不明	古代	167	123		胎土粉砂 白黄色 軟質
2095	西麻 M018	土器	黑色土師	坏	□11.4高-底-	不明	古代	167	123		無砂質底面右回転調整砂質硬質
2096	西麻 X022	土器	土師器	小皿	□9.7高1.9底4.9	不明	中世	211	150		胎土粉砂胎土粉砂灰黄色胎土黄褐色
2097	西麻 X022	土器	土師器	小皿	□8.9高1.9底5.6	不明	中世	211	150		胎土粉砂胎土粉砂灰白色胎土黄褐色
2098	西麻 X022	土器	土師器	胎付小皿	□8.7高-底-	不明	中世	211	150		足縁面上がり履後胎付砂状灰黄色
2099	西麻 X022	土器	土師器	小皿	□8.6高1.7底5.1	不明	中世	211	150		胎土粉砂胎土粉砂灰白色胎土黄褐色
2100	西麻 X022	土器	土師器	小皿	□8.9高1.7底5.6	不明	中世	211	150		足縁面上がり右回転無整胎土黄褐色
2101	西麻 X022	土器	土師器	小皿	□9.0高2.0底6.0	不明	中世	211	150		足縁面上がり右回転無整胎土黄褐色
2102	西麻 X022	土器	土師器	小皿	□8.0高1.6底4.2	不明	中世	211	150		左右面無整胎土灰黄色胎土黄褐色
2103	西麻 X022	土器	土師器	小皿	□8.0高1.6底4.2	不明	中世	211	150		胎土粉砂胎土粉砂灰白色胎土黄褐色
2104	西麻 X022(厚方)	土器	土師器	甕	□15.0高4.6底5.8	不明	古代	191	136		胎土粉砂 灰白色 軟質
2105	西麻 M202 日曜石直下	土器	須恵器	甕	□-高-底8.8	不明	古代	191	136	145	足縁面青風?灰黄色胎土軟質
2106	西麻 M202	土器	土師器	横割坏	□13.0高-底-	不明	古墳時代	191	136		水泥磨製 胎土粉砂 褐色
2107	西麻 M202	陶器	須恵器	甕	□13.5高-底5.5	不明	古代	191	136		底面右回転無整胎付砂状灰黄色
2108	西麻 M202(厚方)	土器	土師器	小皿	□8.7高2.3底4.2	不明	中世	191	136		胎土粉砂胎土粉砂灰白色胎土黄褐色
2109	西麻 M202(厚方)	土器	土師器	坏	□12.3高4.3底5.2	不明	古代	191	136		底面右回転無整胎付砂状灰黄色
2110	西麻 M202(厚方)	土器	須恵器	甕	□-高-底7.0	不明	古代	191	136		高台右回転無整白色胎土灰黄色胎土黄褐色
2111	西麻 M202	土器	須恵器	甕	□14.0高3.8底7.4	不明	古代	191	136		胎土粉砂 黄褐色
2112	西麻 M201	土器	土師器	コ字甕	□18.8高-底-	不明	古代	191	136		胎土粉砂 灰褐色
2113	西麻 M201	土器	土師器	台形甕	□-高-底8.7	不明	古代	191	136		胎土粉砂 灰褐色
2115	西麻 (出土位置不明)	土器	土師器	坏	□13.0高3.5底-	不明	古代	225	162		体形無整胎土粉砂 褐色
2116	西麻 X201(西麻)	土器	黑色土師	坏	□-高-底3.3	不明	古代	191	136		外上内周色粘物 赤不明磨製
2117	西麻 X201(厚方)	土器	土師器	坏	□12.0高-底-	不明	古代	191	136		水泥磨製胎付砂状灰黄色
2118	西麻 X202(厚方)	土器	土師器	高足碗	□-高-底6.6	不明	古代	191	136		足縁上右回転無整胎付砂状灰黄色胎土黄褐色
2119	西麻 X204(黄土)	土器	土師器	甕	□-高-底-	不明	古代	175	123		胎土粉砂 黄褐色
2120	西麻 (出土位置不明)	土器	土師器	高足碗小	□-高-底10.6	不明	古代	255	162		胎土粉砂 黄褐色
2121	西麻 D383	土器	土師器	坏	□11.6高-底-	不明	古代	219			体形無整胎 胎土粉砂 硬灰褐色
2122	西麻 (W-106G)	土器	土師器	甕	□-高-底-	不明	古墳時代	226	163		コバハ調整 胎土粉砂 灰褐色
2123	西麻 (V-108G)	土器	土師器	台形甕小	□-高-底-	不明	古代	225	162		磨製後胎土粉砂胎土粉砂灰白色
2124	西麻 D382	土器	土師器	坏	□10.2高4.1底5.8	不明	古代	215	157		胎土粉砂 硬灰褐色
2125	西麻 D382	土器	土師器	甕	□21.4高-底-	不明	古代	215	157		胎土粉砂 黄褐色 硬質
2126	西麻 D382	土器	須恵器	甕付部小	□-高3.3底11.4	不明	古代	215	157		接合部左回転赤み入胎土灰褐色
2127	西麻 D382	土器	須恵器系	甕	□-高-底-	不明	古代	215	157		胎土粉砂 灰褐色
2128	西麻 D382	土器	土師器	坏	□12.0高3.0底5.0	不明	古代	215	157		右回転無整胎赤褐色胎土粉砂
2129	西麻 D341	土器	土師器	甕	□20.6高-底-	不明	古代	215	156		手ごつ粉磨製黄褐色胎土
2130	西麻 D386	陶器	須恵器	高年	□-高-底-	不明	古代	215	156		胎土粉砂 灰褐色
2131	西麻 M101	土器	須恵器	甕	□14.4高4.7底7.0	不明	古代	191	136		胎土粉砂胎土粉砂灰白色胎土黄褐色
2132	西麻 M101	陶器	須恵器	甕	□-高-底-	不明	古代	191	136		細目右履製胎土粉砂灰褐色胎土
2133	西麻 M101	土器	土師器	小形丸底	□-高-底-	不明	古墳時代	191	136		水泥磨製 胎土粉砂 褐色
2134	西麻 M101	土器	土師器	甕	□16.9高-底-	不明	古墳時代	191	136		水泥磨製 胎土赤色粘物粒 褐色
2135	西麻 M101	土器	土師器	高年	□-高-底-	不明	古墳時代	191	136		水泥磨製 胎土粉砂 黄褐色
2136	西麻 M101	土器	土師器	手ごつ小	□-高-底-	不明	古墳時代	191	136		磨製胎土 胎土粉砂 褐色
2137	西麻 M101	土器	土師器	同前小	□-高-底-	不明	古墳時代	191	136		胎土粉砂 硬灰褐色
2138	西麻 M101	土器	須恵器	甕	□-高-底-	不明	古墳時代	191	136		水泥磨製 胎土粉砂 灰褐色
2139	西麻 M101	土器	土師器	甕	□-高-底-	不明	古墳時代	191	136		内周コア調整胎土灰褐色胎土黄褐色
2140	西麻 M103	土器	土師器	横割坏	□-高-底-	不明	古墳時代	192	136		水泥磨製2次焼成灰黄褐色
2141	西麻 M103	土器	土師器	横割坏	□12.2高5.7底-	不明	古墳時代	192	136		水泥磨製2次焼成灰黄褐色胎土
2142	西麻 M103	土器	土師器	小形丸底	□18.0高4.8底7.2	不明	古墳時代	192	136		水泥磨製胎土灰褐色胎土黄褐色
2143	西麻 M103	土器	土師器	坏	□11.6高-底-	不明	古墳時代	192	136		水泥磨製胎土黄褐色胎土黄褐色
2144	西麻 M103	土器	土師器	縁部小	□116.1高-底-	不明	古墳時代	192	136		水泥磨製胎土黄褐色胎土黄褐色
2145	西麻 M103	土器	土師器	丸甕	□23.0高-底-	不明	古墳時代	192	137		水泥磨製胎付砂状灰褐色胎土

2 遺物一覧表

番号	地区	遺構	種類	輪軸式	形状	寸法	量地	時代	本文	写真	備考
2147	東照 M103		土器	土師器	壺	口20.0高-底-	不明	古墳時代	192	137	水波線彫刻付黒褐色高輪紋白黄
2148	東照 M103		土器	土師器	小丸甕	口9.5高-底-	不明	古墳時代	192	137	水波線彫 胎土砂粒 黄白色
2149	東照 M103		土器	土師器	小壺	口-高-底-	不明	古墳時代	192	137	水波線彫 胎土砂粒 白黄色 軟質
2150	東照 M103		土器	土師器	小壺	口-高-底-	不明	古墳時代	192	137	水波線彫 胎土砂粒 黄白色
2151	東照 M103		土器	土師器	高杯	口-高-底-	不明	古墳時代	192	137	水波線彫 胎土砂粒 黄白色
2152	東照 M103		土器	土師器	高杯	口-高-底-	不明	古墳時代	192	137	水波線彫 胎土砂粒 黄白色
2153	東照 M121 P-11		土器	土師器	小杯	口10.5高3.7底4.3	不明	古墳時代	187	133 105	外帯巻不彫 胎土砂粒黄白色
2154	東照 M121		土器	土師器	小丸甕	口10.4高4.7底6.4	不明	古代	187	133	高台内不明 胎土砂粒 褐色
2155	東照 M121		土器	土師器	小杯	口9.8高3.0底5.0	不明	古代	187	133	内無調整或右面無調整或白灰色
2156	東照 M121		土器	土師器	小杯	口10.4高3.2底6.8	不明	古代	187	133	底右面無調整或白砂粒白灰
2157	東照 M121		土器	土師器	壺	口21.0高-底-	不明	古代	187	133	履帯彫2次焼成 胎土砂粒 黄白
2158	東照 M122		土器	土師器	羽釜	口20.0高-底-	不明	古代	187	133	履帯彫2次焼成或付有黄褐色白灰
2159	東照 M122		土器	土師器	土師器	口-高-底-	不明	古代	187	133	胎土砂粒 黄褐色
2160	東照 M122		土器	土師器	小壺	口8.9高-底-	不明	古代	187	133	胎土砂粒 灰白色 軟質薄し
2161	東照 M122		土器	土師器	小壺	口11.3高-底-	不明	古代	187	133	底右面無調整或白砂粒軟質
2162	東照 M122		土器	土師器	小壺	口8.2高1.4底5.0	不明	古代	192	137	底左面無調整或赤色胎粒黄褐色
2163	東照 M018		陶器	須恵器	杯	口12.0高3.2底6.9	不明	古墳時代	187	133	底右面無調整或赤色胎粒黄褐色
2164	東照 M009		土器	土師器	高杯	口-高-底-	不明	古墳時代	192	137	底右面無調整或赤色胎粒黄褐色
2165	東照 M009		土器	土師器	杯	口11.6高3.3底6.0	不明	古墳時代	192	137	底右面無調整或赤色胎粒黄褐色
2166	東照 M153		土器	土師器	壺	口-高-底6.0	不明	古墳時代	201	143	土底裏付有赤褐色胎粒黄褐色
2167	東照 M153		土器	土師器	壺	口-高-底6.4	不明	古墳時代	201	143	砂或胎土赤色胎粒黄褐色
2168	東照 M153		土器	土師器	小壺	口20.0高-底-	不明	古代	201	143	胎土砂粒 黄褐色
2169	東照 M153		土器	土師器	壺	口30.0高-底-	不明	古代	201	143	赤褐色胎粒或口166と同一個体か
2170	東照 M153		土器	土師器	壺	口21.0高-底-	不明	古代	201	143	胎土砂粒 褐色
2171	東照 M153		土器	土師器	壺	口-高-底-	不明	古代	201	143	
2172	東照 M153		土器	土師器	高足碗	口12.8高4.9底6.6	不明	古代	201	143	高台内無調整或胎土砂粒黄褐色
2173	東照 M153		土器	土師器	杯	口11.0高3.5底6.2	不明	古代	201	143	底左面無調整或胎土砂多黄白
2174	東照 M153		土器	土師器	高足碗	口14.0高-底-	不明	古代	201	143	履帯彫2次焼成或砂質黄白砂粒
2175	東照 M153		土器	土師器	高足碗	口12.8高4.9底6.6	不明	古代	201	143	履帯彫平づく 胎内式赤砂粒黄褐色
2176	東照 M153		土器	土師器	高足碗	口12.2高4.9底6.0	不明	古代	201	143	高台内無調整或赤色胎粒黄褐色
2177	東照 M153		土器	土師器	高足碗	口13.0高5.0底6.4	不明	古代	201	143	履帯彫調整或履帯彫2次焼成或付有
2178	東照 M153		土器	土師器	杯	口12.6高4.2底5.4	不明	古代	201	143	胎土砂粒 黄褐色高台内無調整或大砂質茶
2179	東照 M153		土器	土師器	高足碗	口15.0高-底-	不明	古代	201	143	履帯彫2次焼成或右赤粒多黄白
2180	東照 M153		土器	土師器	羽釜	口-高-底-	不明	古代	201	143	胎土砂粒 褐色赤
2181	東照 M153		土器	土師器	羽釜	口21.0高-底-	不明	古代	201	143	釜口大 胎土砂粒 黄褐色
2182	東照 M153		土器	土師器	高足碗	口-高-底5.6	不明	古代	208	148	胎土砂粒 灰白色 軟質
2183	東照 M153		土器	土師器	コ字壺	口22.0高-底-	不明	古代	208	148	底右面無調整或胎土砂粒黄褐色
2184	東照 M153 掘方		土器	土師器	高足碗	口13.0高5.0底6.2	不明	古代	208	148	底右面無調整或胎土砂粒黄褐色
2185	東照 M153		土器	土師器	高足碗	口-高-底5.7	不明	古代	208	148	高台内左面無調整或胎土砂粒白
2186	東照 M153		土器	土師器	釜	口-高-底11.3	不明	古代	208	148	胎土砂粒 黄褐色
2187	東照 M153		土器	土師器	小壺	口9.3高3.2底5.0	不明	古代	208	148	底右面無調整或 胎土灰白色 褐色
2188	東照 M153		土器	土師器	小壺	口9.4高3.2底5.2	不明	古代	208	148	底右面無調整或胎土砂粒黄褐色
2189	東照 M153		土器	土師器	小壺	口19.6高-底6.3	不明	古代	208	148	履帯彫調整或履帯彫2次焼成或付有
2190	東照 M153		土器	土師器	杯	口-高-底-	不明	古代	208	148	口内不明 胎土砂粒 黄褐色
2191	東照 M153 P-2,3,5		土器	土師器	高足碗	口15.6高6.0底7.7	不明	古代	207	147 165	胎内不明巻有右面無調整
2192	東照 M155		土器	土師器	羽釜	口20.3高-底-	不明	古代	209	149	履帯彫2次焼成或砂粒黄褐色
2193	東照 M155		土器	土師器	壺	口-高-底-	不明	古代	209	149	履帯彫2次焼成或砂粒黄褐色
2194	東照 M155		土器	土師器	壺	口18.8高-底-	不明	古代	209	149	履帯彫2次焼成或砂粒黄褐色
2195	東照 M155		土器	土師器	壺	口-高-底-	不明	古代	209	149	履帯彫2次焼成或砂粒黄褐色
2196	東照 M155		陶器	須恵器	壺	口-高-底-	不明	古代	207	147	胎土砂粒 黄褐色
2197	東照 M155		土器	土師器	壺	口20.0高-底-	不明	古代	209	149	履帯彫2次焼成或砂粒黄白軟質
2198	東照 M155		土器	土師器	台付壺	口-高-底10.0	不明	古代	209	149	胎土砂粒 黄褐色
2199	東照 M155		土器	土師器	小壺	口11.6高3.2底6.2	不明	古代	209	149	底左面無調整或砂質黄白軟質
2200	東照 M155		土器	土師器	高足碗	口14.0高5.5底7.6	不明	古代	209	149	履帯 胎土砂粒 白灰色 軟質
2201	東照 M156		土器	土師器	台付壺	口11.8高-底-	不明	古代	207	148	履帯彫2次焼成下層並胎粒胎粒黄褐色
2202	東照 M156		土器	土師器	高足碗	口13.0高6.6底8.2	不明	古代	207	148	口内高台内右面無調整或胎土砂粒
2203	東照 M156		土器	土師器	杯	口-高-底-	不明	古代	207	148	履帯彫2次焼成或砂粒黄白
2204	東照 M156		陶器	須恵器	壺	口-高-底-	不明	古代	207	148	外土位3並胎土赤褐色胎粒黄褐色
2205	東照 M156		土器	土師器	高足碗	口14.8高5.7底7.2	不明	古代	207	148	右面無調整或履帯彫2次焼成或砂粒白灰
2206	東照 M157		土器	土師器	壺	口18.4高-底-	不明	古代	199	142	履帯彫2次焼成或砂粒黄褐色
2207	東照 M157 コマド		土器	土師器	コ字壺	口22.0高-底-	不明	古代	199	142	胎土砂粒 褐色
2208	東照 M157		土器	土師器	杯	口10.8高4.7底5.9	不明	古代	199	142	右面無調整或履帯彫2次焼成或砂粒白灰
2209	東照 M158		土器	土師器	杯	口11.7高4.0底6.2	不明	古代	208	146	底右面無調整或砂粒灰褐色
2210	東照 M158		土器	土師器	杯	口10.0高4.0底5.0	不明	古代	204	144	底右面穿孔胎土赤褐色胎粒黄褐色
2211	東照 M158		土器	土師器	羽釜	口19.6高-底-	不明	古代	204	146	胎土砂粒 黄褐色
2212	東照 M153		土器	土師器	高足碗	口-高-底6.0	不明	古代	201	146	内外底黒褐色胎粒黄褐色
2213	東照 M158 M125		土器	土師器	壺	口-高-底-	不明	古代	204	146	胎土灰白色 白灰色 軟質
2214	東照 M158 D252		土器	土師器	羽釜	口30.1高-底-	不明	古代	203	145	使用量少なV砂粒灰軟質
2215	東照 M159		土器	土師器	壺	口19.2高-底-	不明	古代	203	145	胎土砂粒 褐色黄白色
2216	東照 M159		土器	土師器	壺	口20.0高-底-	不明	古代	203	145	底右面無調整或胎土砂粒黄褐色
2217	東照 M159		土器	土師器	杯	口12.0高4.5底6.0	不明	古代	203	145	底左面無調整或胎土砂粒黄褐色
2218	東照 M159		土器	土師器	杯	口11.8高3.4底6.2	不明	古代	203	145	底左面無調整或胎土砂粒黄褐色
2219	東照 M159		土器	土師器	高足碗	口12.0高5.0底7.4	不明	古代	203	145	高台内無調整或砂多黄白軟質
2220	東照 M159		土器	土師器	壺	口12.8高5.2底7.9	不明	古代	203	145	履帯彫高台内無調整或胎土砂粒
2221	東照 M159 P-17		土器	土師器	高足碗	口14.0高4.7底5.5	不明	古代	203	145	外帯巻砂粒多黄白灰白黄白内外帯
2222	東照 M159		土器	土師器	高足碗	口13.0高4.3底5.4	不明	古代	203	145	底右面無調整或胎土砂粒黄褐色
2223	東照 M159		土器	土師器	杯	口13.0高4.0底4.4	不明	古代	203	145	底右面無調整或 胎土砂粒 暗黄色
2224	東照 M160		土器	土師器	高足碗	口12.0高4.3底5.0	不明	古代	201	146	履帯彫釜口大胎粒黄褐色
2225	東照 M160		土器	土師器	コ字壺	口-高-底5.3	不明	古代	205	147	使用量少なV 胎砂粒 黄褐色
2226	東照 M160		土器	土師器	コ字壺	口21.4高-底-	不明	古代	205	147	胎砂粒 黄褐色
2227	東照 M160		土器	土師器	コ字壺	口11.0高-底-	不明	古代	205	147	釜口大 胎砂粒 黄褐色
2228	東照 M160		土器	土師器	梅花杯	口-高-底-	不明	古代	205	146	底面白灰 外帯巻有 胎砂粒黄褐色
2229	東照 M160		土器	土師器	杯	口13.0高-底-	不明	古代	205	146	胎土砂粒 黄褐色
2230	東照 M160		土器	土師器	杯	口13.0高-底-	不明	古代	205	146	胎土砂粒 黄褐色
2231	東照 M160		土器	土師器	杯	口13.4高-底-	不明	古代	205	146	胎土砂粒 黄褐色
2232	東照 M160		陶器	須恵器	杯	口14.4高3.3底8.8	不明	古代	205	146	底右面無調整 胎粒砂粒 灰白色

IV 資料

番号	地区	遺 跡	種類	地所或村名	形 態	法 量	産 地	時 代	本文	写真	備 考
2223	東阿	1160, (S-106G)	陶器	灰胎	長須取	口-高-底-	藤枝	古代	205	4-13-15	輪胎式 胎跡薄 茶灰色
2224	東阿	1160	土器	土師器	坏	口13.0高3.8底-	不明	古代	205	146	黒黒 胎砂粒 黄褐色
2225	東阿	1160	土器	土師器	台付小皿	口79.3高3.2底5.3	不明	古代	205	146	煤灰分付青 胎砂粗 黄褐色
2226	東阿	1160	陶器	須恵器	坏	口-高-底-	不明	古代	205	146	底石圓胎無調整胎 石黄粒輝灰色
2227	東阿	1160	土器	土師器	坏	口13.0高-底-	不明	古代	205	146	胎砂粗 黄褐色
2228	東阿	1160	土器	土師器	台付菓子	口-高-底-	不明	古代	205	147	胎白色胎物粒 黄褐色
2229	東阿	1161	土器	土師器	小皿	口8.8高1.9底5.2	不明	古代	205	146	底石圓胎無調整胎黄褐色
2240	東阿	1161	土器	土師器	高足小瓶	口-高-底-	不明	古代	205	146	胎黄褐色2次成或 胎砂粗 黄褐色
2241	東阿	1161	土器	土師器	高足皿	口-高-底6.3	不明	古代	205	146	胎砂粒 灰白色
2242	東阿	1161	土器	土師器	高足碗	口-高-底-	不明	古代	205	146	胎砂粗 黄褐色
2243	東阿	1161附155	土器	土師器	筒筒	口-高-底6.8	不明	古代	205	146	輪胎式2次成或胎砂粗黄褐色
2244	東阿	M141 115F	土器	土師器	円筒	口28.0高-底-	不明	古墳時代	202	137	突帯三角形 胎砂粗 黄褐色
2245	東阿	(出土位置不明)	土器	土師器	形象	口-高-底-	不明	古墳時代	226	163	突帯台形 胎砂粗 黄褐色
2246	西阿	1109	土器	土師器	円筒	口-高-底-	不明	古墳時代	65	51	突帯台形 胎砂多 黄褐色
2247	東阿	M202附方	土器	土師器	円筒	口-高-底-	不明	古墳時代	191	136	胎砂粒 黄褐色
2248	中央	M016	土器	土師器	円筒	口-高-底-	不明	古墳時代	183	117	突帯台形透孔胎白色胎物粒黄褐色
2249	東阿	N204	土器	土師器	円筒	口-高-底-	不明	古墳時代	175	123	突帯三角形 胎砂粒 黄褐色
2250	西阿	1109中マド	土器	土師器	円筒	口-高-底-	不明	古墳時代	65	51	透孔 胎砂粗 黄褐色
2251	西阿	1109	土器	土師器	円筒	口-高-底-	不明	古墳時代	65	51	突帯台形 胎砂多 黄褐色
2252	東阿	(U-108G)	土器	土師器	形象	口-高-底-	不明	古墳時代	226	163	小突帯 胎砂粗 黄褐色
2253	東阿	(U-111G)	土器	土師器	円筒	口-高-底-	不明	古墳時代	226	163	突帯三角形 透孔 胎砂粒黄褐色
2254	中央	D025	土器	瓦葺瓦	瓦瓦	厚2.5	不明	中世	159	113	内側黄褐色 胎白色胎物粒 灰白色
2255	中央	D025	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚3.0	不明	中世	159	113	内内目黄 胎白色胎物粒 灰白色
2256	中央	D025	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚3.0	不明	中世	159	113	内内目黄褐色胎白色胎物粒灰白色
2257	中央	D025	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚2.5	不明	中世	159	113	内内目黄 胎白色胎物粒 灰白色
2258	中央	D025	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚3.0	不明	中世	159	113	内内目黄 胎白色胎物粒 灰白色
2259	中央	X011下層	土器	瓦葺瓦	平瓦	厚1.4	不明	中世	146	103	上内目黄下内子目胎物粒赤灰色
2260	中央	X011底, (U-063G)	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚2.6	不明	中世	146	104	内内目黄 胎白色胎物粒灰白色
2261	中央	X011下層	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚2.5	不明	中世	146	103	内内目黄 胎白色胎物粒灰白色
2262	中央	X011下層	土器	瓦葺瓦	軒丸瓦	厚3.0	不明	中世	146	104	胎物粒 灰白色
2263	中央	X011下層, (U-060G)	土器	瓦葺瓦	平瓦	厚2.8	不明	中世	146	104	胎物粒 灰白色
2264	中央	D001	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚-	不明	中世	158	111	胎白色胎物粒 灰黄色
2265	中央	X011底, (U-063G)	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚1.7	不明	近世	146	103	透孔2-3次 胎物粒粗 灰白色
2266	中央	X011中層, (U-062G)	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚1.9	不明	近世	146	104	胎物粗 灰白色
2267	中央	X011層E-6	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚2.3	不明	中世	146	104	内内目黄胎白色胎物粒茶灰色
2268	中央	X011層E-6	土器	瓦葺瓦	軒丸瓦	厚-	不明	中世	146	103	巴文少 胎白色胎物粒 茶灰色
2269	中央	X011中層, (U-060G)	土器	瓦葺瓦	軒丸瓦	厚1.5	不明	近世	146	104	胎物粗 灰白色
2270	西阿	D058	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚2.1	不明	中世	175	56	内内目黄 胎白色胎物粒灰黄色
2271	中央	X011層E-4	土器	瓦葺瓦	平瓦	厚2.6	不明	中世	146	104	胎白色胎物粒 灰白色
2272	西阿	N018	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚-	不明	近世	67	52	透孔2-3次 胎物粒粗 灰白色
2273	中央	M016	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚2.8	不明	中世	163	117	胎白色胎物粒 灰黄色
2274	東阿	M018, (V-091G)	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚1.4	不明	中世	187	133	内内目黄 胎砂粒 黄褐色
2275	中央	M021, (U-074G)	土器	瓦葺瓦	丸瓦	厚-	不明	中世	164	117	胎白色胎物粒 茶灰色
2276	西阿	(U-092G)	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2277	東阿	(V-090G)	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2278	西阿	D056	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2279	東阿	(V-090G)	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2280	東阿	M018	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2281	東阿	D006	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2283	東阿	(出土位置不明)	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2284	西阿	(U-031G)	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2285	東阿	D041	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2286	東阿	M018	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2287	東阿	D006	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2288	東阿	J103 N002	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2289	東阿	(L-106G)	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2290	西阿	J113	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2291	東阿	M125	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2293	西阿	(V-008G)	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2294	東阿	J103	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2295	東阿	J103	土器	縄文			縄文	縄文	232	164	
2296	東阿	1161 P-8	土器	土師器	羽釜	口-高-底-	古代	205	146		
2297	東阿	1157 P-49, 66	土器	土師器	坏	口12.0高-底-	不明	古代	205	146	未焼成胎砂粒 灰白色より 磨り調整
3001	中央	X011	木器	スギ	枕形母巻	長91.1幅5.5厚4.5	不明	近世	96		焼成不良 母巻 灰白色より 片面平削
3002	中央	X011	木器	スギ	枕	長44.0幅3.2厚2.7	不明	近世	134	97	
3003	中央	X011	木器	スギ	枕形母巻	長53.1幅4.5厚2.4	不明	近世	131	96	
3004	中央	X011	木器	スギ	枕形母巻	長72.4幅4.1厚4.2	不明	近世	131	96	
3005	中央	X011	木器	スギ	枕形母巻	長141.8幅4.5厚2.5	不明	近世	131	96	
3006	中央	X011	木器	スギ	枕形母巻	長149.0幅3.8厚2.8	不明	近世	131	96	
3007	中央	X011	木器	スギ	枕形母巻	長136.5幅4.0厚3.0	不明	近世	131	96	
3008	中央	X011	木器	スギ	枕形母巻	長141.4幅4.6厚2.4	不明	近世	131	96	
3009	中央	X011	木器	スギ	枕形母巻	長141.3幅4.0厚3.0	不明	近世	131	96	
3010	中央	X011	木器	スギ	枕形母巻	長120.0幅4.7厚4.8	不明	近世	131	96	
3011	中央	X011	木器	スギ	枕形母巻	長57.4幅3.5厚2.8	不明	近世	131	96	
3012	中央	X011	木器	スギ	枕形母巻	長71.0幅4.4厚1.0	不明	近世	131	96	
3013	中央	X011	木器	スギ	枕形母巻	長57.2幅3.8厚2.5	不明	近世	131	96	
3014	中央	X011	木器	スギ	枕形母巻	長44.0幅3.2厚3.0	不明	近世	131	96	
3015	東阿	D001, (S-082G)	木器	スギ	板材	長46.3幅6.7厚0.7	不明	近世	197	140	
3016	東阿	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長28.5幅4.0厚0.8	不明	近世	197	140	
3017	東阿	D001, (S-082G)	木器	スギ	板材	長33.5幅5.0厚1.7	不明	近世	197	140	
3018	東阿	D001, (S-082G)	木器	スギ	板材	長30.0幅3.9厚0.6	不明	近世	197	140	
3019	東阿	D001	木器	ヒノキ属	大型板材	長53.4幅4.4厚2.4	不明	近世	197	140	
3020	東阿	D001, (S-082G)	木器	スギ	板材	長44.0幅4.0厚1.0	不明	近世	197	140	
3021	東阿	D001, (S-082G)	木器	スギ	板材	長43.0幅4.0厚0.8	不明	近世	197	140	
3022	東阿	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長31.0幅3.6厚0.6	不明	近世	197	140	
3023	東阿	D001, (S-082G)	木器	スギ	板材	長43.0幅4.3厚1.0	不明	近世	197	140	
3024	東阿	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長45.0幅5.5厚1.0	不明	近世	197	140	

釘残存

2 遺物一覧表

番号	地区	遺 跡	種類	材質	種類	量 数	出 産 地 域	時 代	本文	写真	備 考
3025	東郷	1001, (S-092G)	木部	スギ	板材	長44.0862,099.0.8	不明	近世	197	140	
3026	東郷	1001, (S-092G)	木部	スギ	板材	長46.2862,8.1.0	不明	近世	197	140	
3027	東郷	1001, (S-092G)	木部	スギ	板材	長44.3864,1.09.1.1	不明	近世	197	140	
3028	東郷	1001, (S-092G)	木部	スギ	板材	長20.7663,1.09.0.8	不明	近世	197	140	
3029	東郷	1001, (S-092G)	木部	スギ	板材	長15.5863,3.09.0.7	不明	近世	197	140	
3030	東郷	1001, (S-092G)	木部	スギ	板材	長23.5863,0.09.0.8	不明	近世	197	140	写真は黒紙のみ
3031	東郷	1001, (S-092G)	木部	スギ	板材	長18.5863,1.09.1.3	不明	近世	170	131	
3032	中央	X011	木部	スギ	板材	長63.1863,0.09.1.7	不明	近世	134	97	
3033	中央	X011	木部	スギ	板材	長9.5863,3.09.0.7	不明	近世	137	100	
3034	中央	X011	木部	モミ属	板等薄さ	長63.8863,15.09.2.2	不明	近世	137	100	未製品 遺書類
3035	中央	X011	木部	アカマツ	ヒシヤタ皮	長11.0863(6.0)09.0.8	不明	近世	136	99	
3036	中央	X011	木部	アカマツ	板	長24.0862,7.09.2.9	不明	近世	134	97	
3037	中央	X011	木部	スギ	板材	長16.0862,0.09.0.2	不明	近世	137	100	
3038	中央	X011	木部	タケ葉科	不明	長15.0866,0.09.1.0	不明	近世	136	99	
3039	中央	X011	木部	アカマツ	木腐材	長13.0865,0.09.2.5	不明	近世	137	100	
3040	中央	X011	木部	スギ	ヒシヤタ皮	長6.4866,2.09.0.4	不明	近世	136	99	半截竹筒 縁刷書 ホゾあり
3041	中央	X011	木部	スギ	横綱	長14.5866,0.09.0.8	不明	近世	136	99	
3042	中央	X011	木部	スギ	棒材	長17.5863,5.09.0.8	不明	近世	136	99	
3043	中央	X011	木部	モミ属	ヒシヤタ皮	長9.5863,5.1)09.0.5	不明	近世	136	99	
3044	中央	X011	木部	スギ	棒材	長16.1863(9.8)09.0.9	不明	近世	136	99	
3045	中央	X011	木部	モミ属	板材	長11.2866,2.09.1.4	不明	近世	137	100	方形板 円孔あり 径約4.8
3046	中央	X011	木部	スギ	横綱	長13.0863,2.09.0.8	不明	近世	136	99	
3047	中央	X011	木部	スギ	方形板	長6.0864,2.09.0.7	不明	近世	137	100	裏面にホゾ
3048	中央	X011	木部	ヒノキ属	木腐材	長16.0865,2.09.4.2	不明	近世	136	99	
3049	中央	X011	木部	スギ	方形板	長13.3865,5.09.0.7	不明	近世	137	100	釘穴
3050	中央	X011	木部	アカマツ	板	長22.0863,0.09.3.2	不明	近世	134	97	
3051	中央	X011, (S-097-092G)	木部	スギ	棒材	長16.1863(9.8)09.0.9	不明	近世	136	99	
3052	中央	X011中島, (S-097-092G)	木部	ハリギリ	板	長19.8863,7.09.3.0	不明	近世	134	97	
3053	東郷	X016	不明	タケ葉科	半截竹	長31.3864,5.09.0.3	不明	近世	67	52	
3054	中央	X011, (S-092G)	木部	クリ	板材小片	長8.0862,2.09.1.1	不明	近世	137	100	
3055	中央	X011	木部	モミ属	祭札	長22.3861(6.5)09.0.6	不明	近代	130	95	金字人名
3056	中央	X011	木部	スギ	祭札	長30.6861(5.3)09.0.5	不明	近代	130	95	金字人名
3057	中央	X011	木部	クスノキ科	板	長15.1861,0.09.2.4	不明	近世	135	98	
3058	中央	X011	木部	アカマツ	板	長22.5863,2.09.3.3	不明	近世	135	98	
3059	中央	X011	木部	アカマツ	板	長35.7863,6.09.3.8	不明	近世	135	98	
3060	中央	X011	木部	アカマツ	板	長35.7863,3.09.3.2	不明	近世	134	97	
3061	中央	X011	木部	クスノキ科	板	長19.5862,2.09.2.5	不明	近世	135	98	
3062	中央	X011	木部	アカマツ	板	長31.5862,6.09.3.0	不明	近世	135	98	
3063	中央	X011	木部	アカマツ	板	長20.4865,0.09.3.5	不明	近世	135	98	
3064	中央	X011	木部	アカマツ	板	長21.2864,0.09.3.2	不明	近世	135	98	
3065	中央	X011	木部	コナラ属	板	長21.0863,5.09.3.2	不明	近世	134	97	
3066	中央	X011	木部	アカマツ	板	長22.5863,4.09.4.0	不明	近世	134	97	
3067	中央	X011	木部	サワフタギ	板	長31.7864,0.09.3.7	不明	近世	134	97	
3068	中央	X011	木部	コナラ属	板	長29.5863,0.09.2.4	不明	近世	138	98	
3069	中央	X011	木部	トトリコ属	板	長20.5862,5.09.2.5	不明	近世	135	98	
3070	中央	X011	木部	スギ	板材	長53.8865,2.09.4.8	不明	近世	134	96	
3071	中央	X011	木部	アカマツ	板	長17.5862,0.09.1.8	不明	近世	135	98	
3072	中央	X011	木部	トトリコ属	板	長56.3863,0.09.2.8	不明	近世	134	96	
3073	中央	X011	木部	スギ	板	長61.5865,0.09.4.8	不明	近世	134	96	
3074	中央	X011	木部	スギ	板	長58.0864,2.09.4.0	不明	近世	134	96	
3075	中央	X011	木部	スギ	板	長56.3864,4.09.4.2	不明	近世	134	96	
3076	中央	X011	木部	スギ	板	長62.7865,3.09.5.1	不明	近世	135	98	
3077	中央	X011	木部	スギ	板	長58.0864,0.09.4.0	不明	近世	135	98	
3078	中央	X011	木部	スギ	祭札	長58.2867,0.09.0.6	不明	近世	130	95	人名遺書
3079	中央	X011, (S-092G)	木部	モミ属	ヒシヤタ皮	長11.9861(6.0)09.1.0	不明	近世	136	99	
3080	中央	X011, (S-092G)	木部	スギ	ヒシヤタ皮	長8.7866,0.09.1.0	不明	近世	136	99	
3081	中央	X011, (S-092G)	木部	ヒノキ属	板材	長20.2867,0.09.0.6	不明	近世	137	100	
3082	中央	X011, (S-092G)	木部	モミ属	下駄	長11.0861(6.0)09.1.0	不明	近世	136	99	
3083	中央	X011, (S-092G)	木部	スギ(木腐)	下駄	長21.0861,0.09.2.6	不明	近世	135	99	
3084	中央	X011中島, (S-092G)	木部	スギ	下駄	長22.7860,2.09.4.0	不明	近世	136	99	裏(ブナ属)さしこみ作り 一本あり
3085	中央	X011中島, (S-092G)	木部	コナラ属	板	長23.0861(3.0)09.2.0	不明	近世	136	99	ホゾあり 一本作り
3086	中央	X011	木部	ユズリハ	下駄	長16.2864,5.09.2.7	不明	近世	136	99	
3087	中央	X011	漆部	ブナ属	板	口-高さ(5.7)	不明	近世	135	98	内巻漆 外巻漆
3088	中央	X011	漆部	ブナ属	板	口-高さ(6.0)	不明	近世	135	98	内巻漆 外巻漆
3089	中央	X011, (S-092G)	漆部	ブナ属	板	口-高さ(7.0)	不明	近世	135	98	内巻漆 外巻漆
3090	中央	X011, (S-092G)	漆部	ブナ属	板	口-高さ(4.9)	不明	近世	135	98	内巻漆 外巻漆
3091	中央	X011中島, (S-092G)	漆部	モザレン属	板	口-高さ-	不明	近世	135	98	内外巻漆 高台なし
3092	中央	X011, (S-092G)	漆部	モザレン属	板	口-高さ-	不明	近世	135	98	内外巻漆 高台なし
3093	中央	X011, (S-092G)	漆部	ブナ属	板	口-高さ(4.6)	不明	近世	135	98	内外巻漆
3094	中央	X011, (S-092G)	漆部	トナノキ	板	口-高さ(6.0)	不明	近世	135	98	内巻漆 外巻漆
3095	中央	X011, (S-092G)	漆部	ブナ属	板	口-高さ-	不明	近世	135	98	内外巻漆
3096	中央	X011, (S-092G)	漆部	ブナ属	板	口-高さ(4.8)	不明	近世	135	98	内外巻漆 高台内「厨」金継書
3097	中央	X011, (S-092G)	漆部	トナノキ	板	口-高さ-	不明	近世	135	98	内外巻漆 高台内金継書
3098	中央	X011	漆部	ブナ属	板	口-高さ(5.0)	不明	近世	135	98	内外巻漆
3099	中央	X011, (S-092G)	漆部	ブナ属	板	口-高さ(7.2)	不明	近世	135	98	内巻漆 外巻漆 高台内金継書
3100	中央	X011, (S-092G)	漆部	ブナ属	板	口-高さ(4.5)	不明	近世	135	98	内外巻漆
3101	中央	X011, (S-092G)	漆部	ブナ属	板	口-高さ(7.0)	不明	近世	135	98	内外巻漆 外巻漆
3102	中央	X011中島, (S-092G)	漆部	ブナ属	板	口-高さ(8.2)	不明	近世	135	98	
3103	中央	X011, (S-092G)	漆部	ブナ属	板	口-高さ(4.2)	不明	近世	135	98	内外巻漆
3104	中央	X011, (S-092G)	漆部	ブナ属	板	口-高さ(5.6)	不明	近世	135	98	内外巻漆
3105	中央	X011, (S-092G)	漆部	ブナ属	板	口-高さ(5.4)	不明	近世	135	98	内外巻漆 高台なし
3106	中央	X011	木部	スギ	横綱	長30.0867,5.09.2.4	不明	近世	136	99	
3107	中央	X011, (S-092G)	木部	イヌシヤ属	板	長20.7865,0.09.3.4	不明	近世	135	98	
3108	中央	X011	木部	ヒノキ属	板材	長30.7866(3.0)09.1.2	不明	近世	137	100	
3109	中央	X011	木部	アカマツ	板	長20.5863,2.09.3.2	不明	近世	135	98	
3110	中央	X011	木部	スギ	板材	長62.4866,2.09.5.2	不明	近世	135	98	
3111	中央	X011	木部	スギ	棒材	長23.5862,7.09.2.0	不明	近世	136	99	

IV 資料

番号	地区	遺 蹟	種類	材質	形状	量 数	産 地	時 代	本文	写真	備 考
3112	中央	X011	木器	スギ	板材	長64.2幅14.2厚1.2	不明	近世	139	101	
3113	中央	X011	木器	スギ	建具	長101.2幅14.0厚2.0	不明	近世	138	101	敷居伏ノノ線あり
3114	中央	X011	木器	スギ	板材	長69.0幅18.0厚4.4	不明	近世	139	101	ホゾ穴あり
3115	中央	X011	木器	スギ	枕形唐破	長95.3幅4.2厚2.4	不明	近世	131	96	片面唐破(梵字)
3116	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口16-高1-	不明	近世	漆陶製	小片	非実測
3117	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口17-高1-	不明	近世	漆陶製	小片	非実測
3118	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口17-高1-	不明	近世	漆陶製	小片	非実測
3119	中央	X011	漆器	カバノキ属	椀	口16-高1-	不明	近世	漆陶製	小片	非実測
3120	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口16-高1-	不明	近世	漆陶製	小片	非実測
3121	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口16-高1-	不明	近世	漆陶製	小片	非実測
3122	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口16-高1-	不明	近世	漆陶製	小片	非実測
3123	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口17-高1-	不明	近世	漆陶製	小片	非実測
3124	中央	X011	木器	スギ	柱	長1.3幅4.1厚2.7	不明	近世	136	99	
3125	中央	X011下層, (H-057C)	木器	スギ	木札	長29.4幅4.7厚1.0	不明	近世	136	99	小孔あり 孔径0.6
3126	中央	X011下層, (H-057C)	木器	ヒノキ属	象形木鼻	長18.3幅10.6厚4.9	不明	近世	130	95	
3127	中央	X011	木器	ウツギ属	漆塗り椀	長1.4幅2.0厚1.9	不明	近世	135	98	漆上部分のみ残る
3128	中央	X011	木器	スギ	板材	長49.0幅19.7厚1.6	不明	近世	139	101	片面唐破のみ
3129	中央	X011	木器	スギ	桶底	長19.3幅11.3厚1.7	不明	近世	136	99	
3130	中央	X011	定	口蓋か	長55.5幅5.0厚1.3	不明	近世	136	99		
3131	中央	X011	木器	スギ	板材	長55.5幅3.6厚0.7	不明	近世	139	101	
3132	中央	X011中島	木器	アカマツ	杖	長51.0幅2.6厚2.8	不明	近世	133	97	
3133	中央	X011中島	木器	アカマツ	杖	長34.3幅3.3厚3.0	不明	近世	133	97	
3134	中央	X011中島	木器	トネリコ属	杖	長49.1幅3.6厚3.5	不明	近世	133	97	
3135	中央	X011中島	木器	スギ	杖	長34.5幅3.6厚3.2	不明	近世	134	97	
3136	中央	X011中島	木器	サカシ属	椀	長39.2幅2.7厚1.4	不明	近世	131	97	片面半楕
3137	中央	X011中島	木器	サクラ属	杖	長26.3幅4.0厚4.3	不明	近世	133	97	
3138	中央	X011中島	木器	スギ	杖	長57.6幅4.6厚3.4	不明	近世	134	97	
3139	中央	X011中島	木器	コナナ節	杖	長23.5幅4.5厚3.4	不明	近世	133	97	
3140	中央	X011中島	木器	スギ	杖	長59.2幅5.3厚5.0	不明	近世	133	97	
3141	中央	X011中島	木器	クリ	杖	長58.8幅4.6厚4.4	不明	近世	133	97	
3142	中央	X011中島	木器	コナナ節	杖	長55.6幅3.7厚2.6	不明	近世	133	97	
3143	中央	X011中島	木器	クリ	杖	長62.0幅3.7厚5.6	不明	近世	133	97	
3144	中央	X011中島	木器	クリ	杖	長29.0幅2.4厚2.0	不明	近世	134	97	写真は基部のみ
3145	中央	X011中島	木器	スギ	杖	長38.5幅3.7厚3.4	不明	近世	133	97	
3146	中央	X011中島	木器	クリ	杖	長48.0幅4.2厚3.6	不明	近世	134	96	
3147	中央	X011中島	木器	カバノキ属	杖	長27.6幅4.0厚3.6	不明	近世	133	97	
3148	中央	X011中島	木器	クリ	杖	長59.2幅4.6厚2.6	不明	近世	134	96	
3149	中央	X011中島	木器	スギ	杖	長50.5幅2.9厚2.7	不明	近世	133	97	
3150	中央	X011中島	木器	クリ	杖	長30.0幅3.7厚3.1	不明	近世	134	97	
3151	中央	X011中島	木器	マツ属	杖	長48.8幅3.0厚2.5	不明	近世	134	96	厚縁唐破
3152	中央	X011中島	木器	アカガシ属	杖	長58.8幅3.8厚4.2	不明	近世	134	96	
3153	中央	X011中島	木器	コナナ節	杖	長55.4幅3.8厚4.0	不明	近世	133	97	
3154	中央	X011中島	木器	スギ	杖	長56.2幅3.7厚3.6	不明	近世	133	97	
3155	中央	X011中島	木器	クリ	杖	長56.4幅3.2厚3.2	不明	近世	134	97	
3156	中央	X011中島	木器	クリ	杖	長53.2幅4.0厚3.2	不明	近世	134	96	
3157	中央	X011中島	木器	クリ	杖	長60.8幅5.6厚4.4	不明	近世	134	97	
3158	中央	X011	木器	ヒノキ属	方形板	長14.7幅10.7厚1.3	不明	近世	137	100	
3159	中央	X011	木器	メタレン属	棒材	長14.6幅3.5厚2.3	不明	近世	136	99	
3160	中央	X011	木器	アカマツ	板材	長15.5幅4.0厚1.9	不明	近世	137	100	
3161	中央	X011	木器	スギ	桶底	長7.9幅7.5厚2.1	不明	近世	136	99	
3162	中央	X011	木器	クリ	ケラビか	長12.2幅2.2厚2.2	不明	近世	136	99	
3163	中央	X011	木器	ヒノキ属	板材	長17.0幅4.5厚0.7	不明	近世	137	100	
3164	中央	X011	木器	ヒノキ属	方形板	長12.0幅6.5厚1.0	不明	近世	137	100	
3165	中央	X011	木器	スギ	方形板	長12.2幅7.6厚0.4	不明	近世	137	100	
3166	中央	X011	木器	スギ	板材	長24.3幅3.8厚0.7	不明	近世	137	100	
3167	中央	X011	木器	モミ属	杖	長29.5幅1.9厚1.2	不明	近世	137	100	
3168	中央	X011	木器	スギ	板材	長35.3幅10.5厚2.8	不明	近世	139	101	
3169	中央	X011	木器	スギ	木榫材	長41.0幅0.9厚5.8	不明	近世	136	99	
3170	中央	X011	木器	モミ属	板材	長43.0幅3.8厚0.9	不明	近世	139	101	
3171	中央	X011	木器	ヒノキ属	角材	長30.0幅3.8厚3.1	不明	近世	137	100	
3172	中央	X011	木器	モミ属	角材	長60.6幅2.6厚1.4	不明	近世	139	101	
3173	中央	X011	木器	アカマツ	角材	長50.6幅10.0厚6.0	不明	近世	138	101	裏面にホゾ穴?の痕
3174	中央	X011	木器	スギ	板材	長51.5幅9.1厚1.9	不明	近世	136	99	
3175	中央	X011	木器	スギ	板材	長51.2幅11.9厚1.8	不明	近世	139	101	
3176	中央	X011	木器	スギ	板材	長34.2幅14.4厚1.2	不明	近世	139	101	
3177	中央	X011	木器	スギ	板材	長41.0幅5.8厚1.0	不明	近世	139	101	
3178	中央	X011	木器	コナナ節	鎌先	長12.0幅11.0厚2.8	不明	近世	136	99	ホゾ穴あり
3179	中央	X011	木器	スギ	板材	長35.5幅3.5厚1.5	不明	近世	138	101	
3180	中央	X011	木器	サクラ属	板材	長16.4幅12.1厚2.0	不明	近世	136	99	ホゾ穴あり
3181	中央	X011	木器	スギ	板材	長29.2幅16.0厚2.0	不明	近世	139	101	
3182	中央	X011	木器	スギ	板	長6.4幅6.8厚1.0	不明	近世	136	99	
3183	中央	X011中島	木器	コナナ節	杖	長40.2幅5.0厚4.4	不明	近世	133	97	
3184	中央	X011中島	木器	サワフナギ	杖	長38.1幅4.0厚3.6	不明	近世	133	97	
3185	中央	X011中島	木器	サクラ属	杖	長17.6幅4.2厚4.3	不明	近世	133	97	
3186	中央	X011中島	木器	サクラ属	杖	長20.6幅4.8厚4.7	不明	近世	133	97	
3187	中央	X011中島	木器	アカマツ	杖	長45.0幅3.3厚2.9	不明	近世	133	97	
3188	中央	X011中島	木器	スギ	杖	長60.8幅1.9厚1.9	不明	近世	133	97	
3189	中央	X011中島	木器	スギ	杖	長32.2幅2.2厚1.8	不明	近世	133	97	
3190	中央	X011中島	木器	アカガシ属	杖	長14.4幅4.5厚3.8	不明	近世	134	97	
3191	中央	X011中島	木器	コナナ節	杖	長23.5幅3.5厚3.7	不明	近世	133	97	
3192	中央	X011中島	木器	スギ	杖	長64.0幅3.1厚2.7	不明	近世	133	97	
3193	中央	X011中島	木器	コナナ節	杖	長40.0幅5.0厚3.3	不明	近世	133	97	
3194	中央	X011中島	木器	コナナ節	杖	長54.4幅3.0厚4.1	不明	近世	133	97	
3195	中央	X011中島	木器	スギ	杖	長54.4幅3.0厚4.4	不明	近世	133	97	
3196	中央	X011中島	木器	スギ	杖	長50.9幅4.2厚3.9	不明	近世	133	97	
3197	西條	DI14	木器	サクラ属	杖	長14.0幅3.3厚3.1	不明	近世	58	46	
3198	西條	DI14	木器	クリ	杖	長13.7幅3.8厚3.5	不明	近世	58	46	

2 遺物一覧表

番号	地区	遺 構	種類	材質	器形	法 量	発 跡	時 代	本文	写真	備 考
3119	西原 D114	木部	ヤナク属	杭	長17.06x4.35x4.7	不明	近世	近世	58 46		
3200	西原 D114	木部	ヤナク属	杭	長11.08x4.25x4.2	不明	近世	近世	58 46		
3201	西原 D114	木部	アコマツ	杭	長45.48x3.05x2.9	不明	近世	近世	58 46		
3202	西原 D114	木部	アコマツ	杭	長41.14x4.05x3.5	不明	近世	近世	58 46		
3203	西原 D114	木部	ヤナク属	杭	長12.58x3.05x3.4	不明	近世	近世	58 46		
3204	西原 D114	木部	ワツ属	杭	長9.05x3.05x3.4	不明	近世	近世	47 36		単層管束系属 釘穴あり
3205	西原 D114	木部	スギ	杭	長63.04x4.05x3.4	不明	近世	近世	58 46		
3206	西原 D114	木部	アコマツ	杭	長18.28x3.25x3.2	不明	近世	近世	58 46		
3207	西原 D114	木部	クリ	杭	長54.08x2.85x2.5	不明	近世	近世	58 46		
3208	西原 D114	木部	ハリギリ	杭	長21.58x3.25x3.2	不明	近世	近世	58 46		
3209	西原 D114	木部	スギ	建具材	長61.45x9.05x1.7	不明	近世	近世	58 46		ホゾ溝あり
3210	西原 D114	木部	ヤナク属	杭	長33.48x3.05x2.8	不明	近世	近世	58 46		
3211	西原 D114	木部	スギ	板材	長7.58x2.25x0.3	不明	近世	近世	47 36		
3212	西原 D114	木部	スギ	方形板	長4.41x4.41x0.6	不明	近世	近世	58 46		
3213	西原 D114	木部	クリ	建具材	長29.08x7.85x6.9	不明	近世	近世	47 36		ホゾあり
3214	西原 D114	木部	スギ	輪盤	長23.88x6.85x0.8	不明	近世	近世	47 36		
3215	西原 D114	木部	ワツ属	板材	長21.58x15.8	不明	近世	近世	47 36		単層管束系属 釘穴あり
3216	西原 D114	木部	スギ	輪盤	長24.08x3.05x0.9	不明	近世	近世	47 36		
3217	西原 D114	木部	スギ	板材	長24.08x7.05x0.7	不明	近世	近世	47 36		
3218	西原 D114	木部	スギ	輪盤	長24.08x4.05x0.7	不明	近世	近世	47 36		
3219	中央 X301	木部	スギ	建具	長258.08x6.05x5.6	不明	近世	近世	138 101		ホゾ溝3.0-41.6x4.4-5.2x3.4
3220	中央 X301	木部	スギ	建具	長177.08x14.25x3.8	不明	近世	近世	138 101		ホゾ穴六溝溝あり
3221	中央 X301(中島)	木部	スギ	建具	長91.48x11.65x2.6	不明	近世	近世	138 101		ホゾ溝あり
3222	中央 X301	木部	アコマツ	板材	長44.58x11.65x1.2	不明	近世	近世	138 101		
3223	中央 X301	木部	スギ	板材	長38.78x4.65x0.4	不明	近世	近世	138 101		
3224	中央 X301	木部	スギ	板材	長19.78x5.05x0.4	不明	近世	近世	137 100		
3225	中央 X301	木部	モミ属	板材	長21.88x6.55x0.8	不明	近世	近世	137 100		
3226	中央 X301	木部	アコマツ	板材	長41.58x11.05x0.8	不明	近世	近世	138 101		
3227	中央 X301	木部	スギ	板形塔婆	長47.48x4.15x0.6	不明	近世	近世	131 96		頂部山形
3228	中央 X301	木部	ワツ属	輪盤	長26.78x4.75x0.7	不明	近世	近世	137 100		単層管束系属
3229	中央 X301	木部	スギ	板材	長17.78x3.55x1.5	不明	近世	近世	137 100		
3230	中央 X301	木部	アコマツ	板材	長12.38x12.85x2.5	不明	近世	近世	136 99		ホゾ穴あり
3231	中央 X301	木部	カネガ属	板材	長50.08x3.05x1.2	不明	近世	近世	137 100		
3232	中央 X301	木部	アコマツ	板材	長22.58x15.25x1.0	不明	近世	近世	137 100		
3233	中央 X301	木部	アコマツ	板材	長9.08x5.05x0.6	不明	近世	近世	137 100		
3234	中央 X301	木部	スギ	方形板	長13.08x7.35x0.6	不明	近世	近世	137 100		
3235	中央 X301	木部	スギ	木端	長17.78x6.05x1.8	不明	近世	近世	137 100		
3236	中央 X301	木部	コナク属	輪盤	長18.08x7.15x0.2	不明	近世	近世	136 99		
3237	中央 X301	木部	スギ	板材	長19.58x3.65x0.8	不明	近世	近世	137 100		
3238	中央 X301	木部	スギ	板材	長28.08x5.75x0.8	不明	近世	近世	137 100		
3239	中央 X301	木部	ワツ属	板材	長16.28x8.65x0.4	不明	近世	近世	137 100		単層管束系属
3240	中央 X301	木部	ヒノキ属	板材	長7.58x3.05x0.5	不明	近世	近世	137 100		釘穴
3241	中央 X301	木部	ヒノキ属	木端	長12.58x6.05x1.0	不明	近世	近世	137 100		孔あり
3242	中央 X301	木部	スギ	輪盤	長19.08x3.65x1.3	不明	近世	近世	138 101		
3243	中央 X301	木部	ワツ属	輪盤小	長9.38x2.45x0.5	不明	近世	近世	137 100		単層管束系属
3244	中央 X301	木部	ワツ属	輪盤小	長8.68x2.85x0.5	不明	近世	近世	137 100		単層管束系属
3245	中央 X301	木部	スギ	建具	長57.08x13.05x3.8	不明	近世	近世	138 101		ホゾ溝あり
3246	中央 X301	木部	ヒノキ属	板材	長16.38x1.85x0.4	不明	近世	近世	137 100		穴あり
3247	中央 X301	木部	アコマツ	木端	長41.68x9.05x1.0	不明	近世	近世	139 101		
3248	中央 X301	木部	ワツ属	板材	長6.58x3.05x0.5	不明	近世	近世	137 100		
3249	西原 D082	木部	スギ	木端	長7.88x2.05x1.2	不明	近世	近世	51 43		ホゾ穴あり
3250	西原 D082	木部	スギ	輪盤	長18.58x19.05x1.8	不明	近世	近世	51 43		
3251	西原 D123	木部	トネノキ	角柱状渡符	長2.38x1.75x1.6	不明	近世	近世	89 165		麻民持来遺物
3252	西原 D123	木部	トネノキ	角柱状渡符	長2.78x1.75x1.8	不明	近世	近世	89 165		麻民持来遺物
3253	西原 D123	木部	トネノキ	角柱状渡符	長2.38x1.25x1.2	不明	近世	近世	89 165		麻民持来遺物
3254	中央 X301(中島)	木部	アコマツ	杭	長65.08x4.05x3.6	不明	近世	近世	134 96		
3255	西原 D082	木部	スギ	木端	長9.08x3.05x1.2	不明	近世	近世	51 43		
3256	中央 X301	木部	スギ	杭	長43.38x4.25x4.0	不明	近世	近世	138 98		ホゾ穴あり
3257	中央 X301	木部	スギ	杭	長66.68x3.25x3.0	不明	近世	近世	135 98		
3258	中央 X301	木部	スギ	建具材	長79.48x3.85x3.7	不明	近世	近世	138 101		ホゾあり
3259	中央 X301	木部	スギ	角材	長19.58x5.05x2.4	不明	近世	近世	138 101		
3260	中央 X301(中島)	木部	スギ	輪盤	長67.48x9.05x2.8	不明	近世	近世	136 99		
3261	中央 X301(中島)	木部	ヤナク属	板材	長19.58x1.85x2.4	不明	近世	近世	138 101		ホゾ穴あり
3262	中央 X301(中島)	木部	スギ	板材	長8.08x1.05x0.6	不明	近世	近世	139 101		
3263	中央 X301	木部	スギ	建具材	長78.28x3.25x3.2	不明	近世	近世	138 101		ホゾあり
3264	中央 X301(中島)	木部	スギ	杭	長64.28x4.45x4.4	不明	近世	近世	133 97		
3265	中央 X301	木部	コナク属	杭	長64.58x4.65x5.2	不明	近世	近世	135 98		
3266	中央 X301	木部	クリ	角材	長99.08x9.25x8.8	不明	近世	近世	138 101		
3267	中央 X301	木部	アコマツ	杭	長65.08x3.25x3.1	不明	近世	近世	135 98		
3268	西原 D172	木部	クリ	木端	長15.08x3.05x1.4	不明	近世	近世	101 74		
3269	西原 D172	木部	スギ	角材	長43.08x2.85x4.3	不明	近世	近世	101 74		
3270	西原 D172	木部	スギ	建具材	長77.88x6.45x9.0	不明	近世	近世	101 74		ホゾ穴あり
3271	西原 D183	木部	モモ	輪盤	長14.68x6.05x2.0	不明	近世	近世	81 61		木釘残る
3272	西原 D172	木部	スギ	木端	長9.38x2.65x2.8	不明	近世	近世	101 74		
3273	西原 D186	木部	スギ	輪盤	長21.18x10.25x1.8	不明	近世	近世	101 74		
3274	西原 D186	木部	スギ	建具材	長55.08x3.25x3.2	不明	近世	近世	75 56		ホゾ穴あり
3275	西原 D186	木部	スギ	建具材	長50.08x4.45x1.9	不明	近世	近世	75 56		ホゾ穴あり
3276	西原 D186	木部	スギ	脚付女ね板	長40.68x30.05x14.7	不明	近世	近世	75 56		
3277	西原 D186	木部	スギ	板材	長16.78x5.45x3.0	不明	近世	近世	75 56		
3278	西原 D186	木部	クリ	柱か	長12.58x4.45x1.2	不明	近世	近世	75 56		
3279	西原 D186	木部	ヤヅリバキ	輪盤	長10.88x2.15x1.7	不明	近世	近世	75 56		
3280	西原 D186	木部	スギ	角材	長50.28x4.05x2.4	不明	近世	近世	75 56		
3281	西原 D186	木部	スギ	板材	長40.08x3.05x1.4	不明	近世	近世	75 56		
3282	西原 D186	木部	モミ属	板材	長6.18x6.85x1.0	不明	近世	近世	75 56		
3283	西原 D186	木部	クリ	板材	長27.58x3.35x1.0	不明	近世	近世	75 56		
3284	西原 D186	木部	スギ	木端	長5.28x2.45x2.2	不明	近世	近世	75 56		
3285	西原 D186	木部	モモ	柱か	長12.28x2.05x2.9	不明	近世	近世	75 56		

IV 資料

番号	地区	遺 跡	種類	材質	器形	法 量	産 地	時 代	本文	写真	備 考
3286	西原 D186	木器	スギ	樽筒	長9.74625, 2.2911.0	不明	近世	75	56		
3287	西原 D123	木器	スギ	樽筒	長9.84627, 2.8911.0	不明	近世	89	66		
3288	西原 D123	木器	ブナ属	筒	口-高-底9	不明	近世	89	66		
3289	西原 D190	木器	トナリノ松	筒	口-高-底(4.1)	不明	近世	70	53		高台内 漆塗青
3290	西原 D099	木器	イボツノキ属	板杖	長15.94625, 0.9911.2	不明	近世	47	35		中ノブスあり
3291	中央 X011下層	木器	スギ	板杖	長10.94627, 0.9911.4	不明	近世	138	101		中ノブあり
3292	西原 D123	木器	スギ	板杖	長20.94625, 0.8911.1	不明	近世	89	66		
3293	西原 D123	木器	ヒノキ属	板杖	長19.74625, 2.7911.0	不明	近世	89	66		
3295	西原 D123	木器	ブナ属	筒(漆)	口-高-底	不明	近世			漆海蝕	非実測
3296	西原 D186	木器	イヌシヤノ松	筒(漆)	口-高-底	不明	近世			漆海蝕	非実測
3297	中央 X011下層	漆器	ブナ属	筒	口-高-底	不明	近世			漆海蝕	非実測
3298	西原 D021	木器	イボツノ松	板杖	長-高-厚	不明	近世			漆海蝕	非実測
3299	西原 D114	木器	トナリノ松	漆木杓	長-高-厚	不明	近世			漆海蝕	非実測
3300	西原 D186	木器	イヌシヤノ松	筒	口-高-底	不明	近世	75	56		果蝕青「漆」字 漆塗
3301	西原 D054	木器	ブナ属	筒(漆)	口-高-底	不明	近世			漆海蝕	非実測
3302	中央(土上位置不明)	木器	スギ	不明(漆)	長-高-厚	不明	近世			漆海蝕	非実測
3303	西原 D194	木器	不明	不明	長-高-厚	不明	近世			漆海蝕	非実測
3304	西原(土上位置不明)	木器	不明	不明(漆)	長-高-厚	不明	近世			漆海蝕	非実測
3305	西原 D190	木器	スギ	動物	長-高-厚	不明	近世			漆海蝕	非実測
3306	中央 D025	漆器	トナリノ松属	漆木	長-高-厚	不明	近世			漆海蝕	非実測
3307	西原 D109	木器	トウヒ属	板杖	長-高-厚	不明	近世			漆海蝕	非実測
4001	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石塔台座	長26.74626, 4.0912.3	不明	近世	150	106		横形郭 14.8K
4002	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等空堀輪	長27.04617, 0.9817.4	不明	近世	149	105		6.3K
4003	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等空堀輪	長25.04637, 1.0914.0	不明	近世	151	107		22.1K
4004	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	宝篋印塔基座	長16.04625, 0.9817.8	不明	近世	150	107		6.3K
4005	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石鉢	長27.04618, 4.0914.4	不明	近世	151	107		3.8K
4006	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石臼上玉	長13.04623, 0.9113.6	不明	近世	151	107		4.5K
4007	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等火輪	長28.04627, 0.9114.8	不明	近世	149	105		11.7K
4008	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等火輪	長16.44626, 0.9115.6	不明	近世	149	105		8.1K
4009	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等火輪	長29.44616, 4.0918.0	不明	近世	149	105		6.9K
4010	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	宝篋印塔基座	長15.24615, 0.9115.4	不明	近世	150	107		宝篋印塔奉納 2.3K
4011	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長28.44627, 0.9115.4	不明	近世	149	105		15.5K
4012	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長17.24622, 0.9113.2	不明	近世	149	105		12.5K
4013	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	方形石塔台座	長22.04624, 2.9115.6	不明	近世	150	106		10.6K
4014	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長22.24625, 0.9119.2	不明	近世	149	105		17.8K
4015	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長23.04623, 厚20.2	不明	近世	149	105		27.4K
4016	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長22.44619, 0.9116.6	不明	近世	149	105		10.4K
4017	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長24.04621, 0.9115.4	不明	近世	149	105		「六注連」鏡
4018	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	宝篋印塔基座	長15.24618, 4.0914.4	不明	近世	150	107		2.9K 宝篋鏡
4019	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石臼小	長14.84627, 0.9113.0	不明	近世	151	107		6.3K 磨鉢
4020	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長24.04629, 0.9115.6	不明	近世	149	105		17.4K
4021	中央 X011下層	石造物	凝灰岩質凝灰岩	不明形状方碑	長16.44629, 0.9112.6	不明	近世	150	106		5.3K 磨鉢
4022	中央 X011下層	石造物	凝灰岩質砂岩	石臼下玉	長15.84617, 2.9111.6	不明	近世	151	107		3.2K 磨鉢
4023	中央 X011下層	石造物	凝灰岩質砂岩	石塔水基	長42.04621, 0.9115.0	不明	近世	151	106		17.8K
4024	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長27.14626, 7.9115.4	不明	近世	149	105		29.7K 「まつこ」鏡
4025	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	庚申等	長43.24629, 0.9116.0	不明	近世	148	107		29.3K 「小堀石右衛門」鏡
4026	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長14.84622, 0.9116.0	不明	近世	149	105		6.9K
4027	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長26.04626, 0.9117.0	不明	近世	149	105		12.3K
4028	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長20.24625, 4.0915.0	不明	近世	149	105		8.7K
4029	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石塔水基	長20.64621, 4.0920.6	不明	近世	151	106		15.4K
4030	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等空堀輪	長31.04626, 0.9117.0	不明	近世	149	105		11.8K
4031	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石臼下玉	長11.24612, 2.919.4	不明	近世	151	107		1.7K
4032	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石塔基座	長9.24618, 4.0915.8	不明	近世	148	106		1.8K 寛永鏡石塔の一部か
4033	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石塔台座	長28.04631, 0.9111.4	不明	近世	150	105		14.7K 自然形
4034	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長20.84621, 2.9114.0	不明	近世	149	105		8.8K
4035	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等空堀輪	長27.34630, 0.9120.6	不明	近世	149	105		12.0K
4036	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石塔台座	長22.04622, 0.9114.8	不明	近世	150	106		16.3K 鏡「自然形
4037	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石鉢	長28.24629, 4.1918.8	不明	近世	149	107		18.2K 五輪等水輪利用
4038	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等空堀輪	長27.84615, 4.0915.2	不明	近世	149	105		5.7K
4039	中央 D021	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長24.04624, 0.9116.0	不明	近世	152	112		18.4K
4040	中央 D016	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長23.64624, 0.9116.4	不明	中世	138	111		18.7K
4041	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	宝篋印塔基座	長16.04616, 2.9116.0	不明	近世	150	106		27.4K 画像4面
4042	中央 D021	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長24.64620, 0.9116.8	不明	近世	158	112		18.9K
4043	中央 D021	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長24.64620, 0.9115.8	不明	近世	158	112		11.2K
4044	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石塔台座	長23.04620, 9.0	不明	近世	150	106		10.2K 方形 片瀬御寺出土品か
4045	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	磨石塔等	長38.24630, 0.9135.2	不明	近世	148	106		21.2K 三田加九型「寛政」鏡
4046	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	庚申等	長42.04630, 0.9121.0	不明	近世	148	107		34.8K 「都井七浪」鏡
4047	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石鉢小	長37.14611, 0.9120.0	不明	近世	150	106		40.2K 六角形
4048	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	磨石等基座	長32.44633, 2.9118.0	不明	近世	150	106		24.1K 方形
4049	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長21.34623, 0.9121.2	不明	近世	149	106		53.6K
4050	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石塔水基	長52.24632, 2.9120.0	不明	近世	150	106		30.3K 自然形
4051	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	磨石等基座	長31.84632, 0.9118.2	不明	近世	150	106		31.5K 方形
4052	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石塔水基	長24.14637, 0.9116.0	不明	近世	150	106		22.7K 自然形
4053	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	磨石	長20.54616, 0.9113.2	不明	近世	151	107		8.1K 自然形の可能性もある
4054	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	庚申等	長49.04626, 0.918.4	不明	近世	148	106		18.0K 磨石利用
4055	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石塔水基	長41.04628, 0.9119.8	不明	近世	150	106		7.4K 方形
4056	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石塔水基	長45.04629, 0.9115.8	不明	近世	148	106		32.6K 「磨水」鏡 行書体鏡
4057	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石塔水基	長42.54643, 5.9119.5	不明	近世	150	106		47.1K
4058	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	宝篋印塔基座	長28.54628, 0.9124.4	不明	近世	150	107		16.0K
4059	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石臼上玉	長12.74615, 5.918.6	不明	近世	151	107		1.5K 磨鉢
4060	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長22.04620, 5.9122.0	不明	近世	149	105		30.6K
4061	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	五輪等水輪	長25.54625, 2.9113.8	不明	近世	149	105		12.3K
4062	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石鉢	長26.04617, 2.2915.0	不明	近世	148	106		3.8K 「岡田 吉」行書体鏡
4063	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石鉢	長17.04622, 0.9116.5	不明	近世	149	107		5.4K
4064	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石臼上玉	長11.54624, 0.9113.5	不明	近世	151	107		6.2K 磨鉢
4065	中央 X011下層	石造物	凝灰火山岩	石臼下玉	長15.04629, 5.9111.0	不明	近世	151	107		5.5K 磨鉢
4066	中央 X011下層	石造物	角閃岩山岩	五輪等水輪	長23.54623, 5.9115.1	横石山	近世	149	105		10.0K 不明鏡

番号	地区	遺物	種類	材質	形状	数量	産地	時代	本文	写真	備考
4067	西陣 D102	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長17.3幅14.5厚9.6	不明	近世	51	43		1.6kg 摩挲
4068	西陣 D102	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長18.2幅28.5厚8.3	不明	近世	58	46		5.4kg 摩挲
4069	西陣 D114	石造物	楕圓形山笠	有孔石跡	長15.6幅26.0厚13.0	不明	近世	58	46		4.0kg
4070	西陣 D114	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長13.0幅12.1厚9.0	不明	近世	58	46		2.3kg
4071	西陣 D114	石造物	楕圓形山笠	石等基礎	長15.2幅29.4厚11.4	不明	近世	58	46		14.7kg
4072	西陣 D114	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長17.0幅26.0厚12.0	不明	近世	58	46		23.6kg
4073	西陣 D133	石造物	角閃石山笠	石等小	長35.0幅23.0厚15.0	標名山	近世	90	66		11.8kg
4074	西陣 D123	石造物	楕圓形山笠	石等基礎	長34.5幅33.0厚12.0	不明	近世	90	66		20.1kg 3月 4004組合
4075	西陣 D123	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長12.0幅19.0厚9.7	不明	近世	90	66		2.5kg
4077	西陣 D123	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長15.0幅29.0厚9.0	不明	近世	90	66		4.2kg 摩挲
4078	西陣 D114	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長33.0幅34.0厚19.2	不明	近世	58	46		18.5kg
4079	西陣 D114	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長20.0幅27.0厚17.0	不明	近世	58	46		12.5kg
4080	西陣 D114	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長32.0幅32.0厚21.2	不明	近世	58	46		27.7kg
4081	西陣 D114	石造物	楕圓形山笠	石跡	長10.5幅22.0厚12.2	不明	近世	58	46		1.9kg
4082	西陣 D114	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長11.0幅24.0厚14.0	不明	近世	58	46		12.3kg 摩挲
4083	西陣 D114	石造物	楕圓形山笠	石跡	長9.0幅23.0厚16.2	不明	近世	58	46		3.4kg
4084	西陣 D114	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長25.7幅25.0厚16.7	不明	近世	58	46		11.0kg
4085	西陣 D114	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長22.0幅27.0厚28.0	不明	近世	58	46		25.0kg 摩挲
4087	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	石等基礎	長26.5幅26.0厚13.0	不明	近世	150	106		9.7kg 方形
4088	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	六角塔基礎	長27.0幅25.5厚10.0	不明	近世	150	106		10.0kg
4089	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	腕中塔	長40.0幅28.0厚19.5	不明	近世	148	106		28.0kg 「印所」具 磨器林跡
4090	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長25.0幅24.0厚15.2	不明	近世	149	105		11.8kg
4091	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長34.0幅17.0厚17.2	不明	近世	149	105		8.4kg
4092	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長16.0幅28.0厚9.0	不明	近世	148	107		7.6kg
4093	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	腕中塔	長47.5幅34.0厚19.0	不明	近世	111	106		34.2kg 「岩土左端門」内 宅 具 摩挲
4095	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長17.0幅18.0厚10.8	不明	近世	151	107		3.4kg 摩挲
4096	中央 X011下層	石造物	波紋石質扇状石	五輪塔水輪	長36.0幅37.0厚25.0	不明	近世	149	106		31.0kg
4097	中央 X011下層	石造物	波紋石質扇状石	有孔立方体	長42.0幅41.0厚14.0	不明	近世	150	107		14.9kg
4098	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長17.0幅17.0厚17.5	不明	近世	149	105		3.5kg
4099	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長19.0幅25.0厚11.3	不明	近世	151	107		1.2kg 衣製品
4100	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長30.0幅18.0厚18.0	不明	近世	149	105		8.1kg
4101	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長30.0幅17.0厚17.2	不明	近世	149	105		8.9kg
4102	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長27.7幅16.4厚14.3	不明	近世	149	105		6.9kg
4103	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	空筒印相輪	長26.0幅11.7厚12.0	不明	近世	150	105		3.9kg
4106	中央 X011下層	石造物	波紋石質扇状石	立方体	長13.8幅18.5厚12.7	不明	近世	150	107		2.6kg 軟質
4106	中央 X011下層	石造物	波紋石質扇状石	立方体	長22.0幅22.0厚11.0	不明	近世	150	107		6.7kg
4107	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長14.5幅22.5厚10.7	不明	近世	151	107		3.8kg 摩挲
4108	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長16.0幅21.5厚9.7	不明	近世	151	107		1.6kg
4109	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	仏像頭部	長20.0幅15.0厚16.8	不明	近世	148	105		5.9kg
4110	中央 X011下層	石造物	楕圓形山笠	仏像頭部	長10.8幅8.0厚10.2	不明	近世	148	105		0.9kg
4111	西陣 D076	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長34.5幅35.0厚8.7	不明	近世	46	36		17.8kg
4112	西陣 D076	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長31.5幅31.0厚14.0	不明	近世	46	36		14.9kg
4113	西陣 D076	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長14.7幅20.0厚11.3	不明	近世	46	36		17.7kg
4114	西陣 D076	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長28.0幅30.0厚19.5	不明	近世	46	36		28.0kg
4115	西陣 D076	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長38.5幅37.0厚10.0	不明	近世	46	36		29.4kg 有孔
4118	西陣 D076	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長15.5幅34.0厚8.8	不明	近世	46	36		6.6kg
4117	西陣 D076	石造物	楕圓形山笠	石等基礎	長12.0幅19.0厚17.3	不明	近世	46	36		4.5kg
4119	西陣 D076	石造物	角閃石山笠	五輪塔水輪	長21.7幅22.0厚10.8	不明	近世	46	36		4.4kg
4120	西陣 D076	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長16.3幅26.5厚18.3	不明	近世	46	36		11.4kg
4121	西陣 D076	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長35.5幅34.0厚6.5	不明	近世	46	36		17.7kg
4129	西陣 D076	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長13.8幅17.0厚9.6	不明	近世	46	36		2.3kg 摩挲
4122	西陣 D076	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長15.5幅21.0厚10.0	不明	近世	46	36		3.4kg 摩挲
4123	西陣 D076	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長14.5幅23.5厚7.3	不明	近世	46	36		3.0kg 摩挲
4124	西陣 D076	石造物	二ヶ倉石	石跡	長15.5幅39.0厚15.5	標名山	近世	46	36		3.3kg
4125	西陣 D076	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長12.5幅17.0厚10.0	不明	近世	46	36		1.8kg
4126	西陣 D100	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長16.0幅20.0厚16.4	不明	近世	42	32		6.9kg
4128	西陣 D100	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長14.0幅22.7厚14.0	不明	近世	42	32		10.0kg
4129	西陣 D100	石造物	楕圓形山笠	石等基礎	長23.5幅25.0厚15.5	不明	近世	42	32		17.5kg 立方体
4130	西陣 D100	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長13.8幅22.5厚16.3	不明	近世	42	32		5.7kg 摩挲
4131	西陣 D100	石造物	楕圓形山笠	石等基礎	長15.0幅17.0厚16.8	不明	近世	42	32		3.1kg 立方体
4132	西陣 D100	石造物	楕圓形山笠	李石	長15.1幅13.0厚9.5	不明	近世	42	32		2.0kg
4133	西陣 D100	石造物	楕圓形山笠	石等基礎	長20.0幅22.0厚9.2	不明	近世	42	32		5.0kg 立方体
4134	西陣 D100	石造物	楕圓形山笠	石等基礎	長13.0幅16.0厚9.3	不明	近世	42	32		2.1kg
4135	西陣 D100	石造物	角閃石山笠	五輪塔水輪	長17.5幅20.0厚13.0	標名山	近世	42	32		4.9kg
4139	西陣 D100	石造物	楕圓形山笠	腕中塔小	長20.0幅21.5厚7.0	不明	近世	42	32		3.9kg 自然石小 燒痕あり
4141	西陣 D114下層	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長21.5幅28.0厚13.0	不明	近世	58	46		8.2kg 摩挲
4142	西陣 D114下層	石造物	楕圓形山笠	四石	長11.5幅9.0厚9.5	不明	近世	58	46		0.7kg
4143	西陣 D114下層	石造物	楕圓形山笠	四石	長8.0幅14.0厚6.8	不明	近世	58	46		0.8kg
4144	西陣 D114	石造物	楕圓形山笠	空筒印相輪	長8.0幅8.2厚3.5	不明	近世	58	46		0.4kg 小片
4145	東區 S-098G	石造物	楕圓形山笠	茶白下玉	長14.5幅17.5厚11.7	不明	近世	225	162		2.0kg 摩挲
4146	西陣 D160	石造物	楕圓形山笠	石跡	長8.0幅13.0厚6.8	不明	近世	62	49		0.8kg 底面
4147	西陣 D076	石造物	楕圓形山笠	五輪塔大輪	長38.5幅19.0厚7.5	不明	近世	46	36		0.7kg 粗石
4148	西陣 M050	石造物	楕圓形山笠	五輪塔水輪	長27.0幅29.0厚18.8	不明	近世	23	23		15.3kg
4149	西陣 D172	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長21.2幅24.0厚9.3	不明	近世	58	46		1.8kg 小片
4150	西陣 D172	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長17.0幅28.0厚9.6	不明	近世	101	74		4.7kg
4151	西陣 D183上層	石造物	楕圓形山笠	石等基礎	長26.5幅33.0厚12.3	不明	近世	81	61		18.9kg 片取端華状出.
4152	西陣 D183中層	石造物	波紋石質扇状石	立方体形状	長9.4幅14.0厚12.0	不明	近世	81	61		1.5kg 軟質
4153	西陣 D183中層	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長20.3幅11.9厚10.2	不明	近世	81	61		3.1kg 摩挲
4154	西陣 D183中層	石造物	楕圓形山笠	茶白下玉	長12.8幅9.0厚9.8	不明	近世	81	61		1.2kg
4155	西陣 X021中層	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長14.3幅15.0厚10.6	不明	近世	106	76		2.9kg
4156	西陣 J077	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長11.0幅13.0厚9.0	不明	近世	29	29		5.2kg 柱内礎石に用い
4157	西陣 S-096G	石造物	佛尊	磁石	長5.0幅6.0厚2.9	不明	近世	223	161		164g 立方体 二層使用基部未調査
4158	西陣 S-096G	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長16.0幅16.0厚10.3	不明	近世	223	161		2.8kg 摩挲
4159	西陣 M050中層	石造物	楕圓形山笠	茶白下玉	長9.0幅10.2厚12.0	不明	近世	23	23		1.9kg 摩挲
4160	西陣 M050中層	石造物	楕圓形山笠	石白下玉	長15.5幅20.0厚13.0	不明	近世	23	23		6.4kg

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	材質	形制	法量	産地	時代	本文	写真	備考
4181	西側 M05中層	石造物	榎粒安山岩	石帯基礎	長18.3幅19.2厚9.5	不明	近世	69	52		3.7kg 2片 直方体
4183	西側 D026	石造物	榎粒安山岩	五輪等六輪	長22.5幅23.0厚11.5	不明	近世	81	61		6.4kg 2片
4184	西側 (0-027)	石造物	榎粒安山岩	石臼下玉	長15.3幅27.5厚9.8	不明	近世	223	161		4.0kg 榎粒
4186	西側 D191	石造物	榎粒安山岩	石臼	長11.0幅10.5厚4.0	不明	近世	99	72		0.9kg 榎粒
4187	西側 D181	石造物	榎粒安山岩	石臼下玉	長22.0幅22.0厚9.5	不明	近世	84	64		2.9kg 榎粒
4187	西側 D194	石造物	榎粒安山岩	五輪等六輪	長16.0幅22.0厚9.5	不明	近世	84	64		3.8kg
4188	西側 D194	石造物	榎粒安山岩	石鉢	長13.3幅16.4厚9.5	不明	近世	84	64		1.2kg
4189	西側 D194	石造物	榎粒安山岩	石臼上玉	長6.1幅4.6厚10.1	不明	近世	84	64		1.0kg
4179	西側 D194	石造物	榎粒安山岩	石臼上玉	長17.4幅27.5厚9.8	不明	近世	84	64		3.6kg
4171	西側 D192	石造物	榎粒安山岩	五輪等六輪	長29.0幅30.5厚24.0	不明	近世	72	50		39.0kg
4172	西側 D196	石造物	榎粒安山岩	石臼上玉	長22.0幅22.0厚9.5	不明	近世	75	56		19.2kg 把手孔?
4173	西側 D198	石造物	榎粒安山岩	石臼下玉	長27.5幅27.5厚9.5	不明	近世	84	64		28.1kg
4174	西側 D186	石造物	榎粒安山岩	石鉢少	長5.0幅3.1厚6.5	不明	近世	75	56		1.2kg 小片
4175	西側 D186	石造物	榎粒安山岩	石臼上玉	長18.6幅28.6厚9.2	不明	近世	75	56		3.4kg 榎粒
4178	西側 D185	石造物	榎粒安山岩	石臼上玉	長17.0幅28.4厚9.4	不明	近世	75	56		4.7kg 榎粒
4177	西側 D186	石造物	榎粒安山岩	石帯基礎	長18.9幅39.5厚12.6	不明	近世	75	56		11.7kg 直方体
4178	西側 D194	石造物	榎粒安山岩	石鉢	長24.0幅30.8厚20.0	不明	近世	84	64		13.7kg 有孔
4179	西側 D194	石造物	榎粒安山岩	石臼下玉	長15.0幅15.3厚9.2	不明	近世	84	64		0.9kg 4.1kg 柱状 榎粒
4180	西側 D194	石造物	榎粒安山岩	石臼	長6.5幅6.8厚7.0	不明	近世	84	64		0.2kg 小片
4181	西側 D194	石造物	榎粒安山岩	石臼下玉	長4.0幅6.4厚9.5	不明	近世	84	64		0.2kg 榎粒 小片
4183	西側 D194	石造物	榎粒安山岩	石鉢	長10.3幅10.5厚10.3	不明	近世	84	64		0.1kg 榎粒 小片
4184	西側 D194	石造物	榎粒安山岩	五輪等六輪	長19.0幅26.0厚10.3	不明	近世	84	64		14.1kg 直方体
4185	西側 D196	石製品	頁岩	碇石	長12.0幅6.5厚9.1	不明	近世	74	56		34.6kg 直方体 環ひ穿孔 碇石色
4186	西側 M041	石製品	頁岩	小形碇	長9.1幅4.5厚9.2	不明	近世	42	32		15.5kg 直方体 下蓋面磨面 碇石色
4187	西側 M050	石製品	頁岩	碇石	長12.5幅10.7厚8.5	不明	近世	23	23		19.6kg 直方体 碇石色
4188	西側 D107_N016	石製品	頁岩	碇石	長14.5幅15.8厚2.3	不明	近世	83	64		35.8kg 直方体 4190と結合 碇石色
4189	西側 D114	石製品	頁岩	碇石	長10.0幅5.8厚4.0	不明	近世	84	64		14.1kg 直方体 碇石色
4191	西側 D087_D090	石製品	頁岩	碇石	長6.8幅3.6厚2.9	不明	近世	49	38		7.4kg 直方体 碇石色
4192	西側 D041	石製品	頁岩	碇石	長15.6幅5.2厚2.9	不明	近世	42	32		16.6kg 直方体 磨面粗粒 碇石色
4193	西側 D104	石製品	頁岩	碇石	長6.4幅4.0厚	不明	近世	84	64		37.9kg 直方体 磨面粗粒 碇石色
4194	西側 M052	石製品	頁岩	碇石	長6.5幅3.5厚	不明	近世	77	57		46.9kg 直方体 磨面粗粒 碇石色
4195	西側 M065	石製品	頁岩	小形碇	長6.4幅4.0厚	不明	近世	23	23		6.9kg 直方体 碇石色
4196	西側 D194	石製品	頁岩	碇石	長6.4幅4.0厚	不明	近世	84	64		7.4kg 直方体 碇石色
4197	西側 D106	石製品	頁岩	碇石	長6.4幅4.0厚	不明	近世	83	64		10.2kg 直方体 磨面粗粒 碇石色
4198	西側 D168	石製品	頁岩	碇石	長6.4幅4.0厚	不明	近世	84	64		5.9kg 直方体
4199	西側 N033_W列	石製品	頁岩	石板	長6.4幅4.0厚	不明	近代	27	26		7.4kg 直方体 碇石色
4200	中央 D028	石製品	頁岩	碇石	長6.4幅4.0厚	不明	中央	138	138		22.9kg 直方体 碇石 灰白色
4201	中央 M016上層	石製品	榎粒安山岩	碇石	長4.0幅4.0厚1.8	不明	近世	183	117		50.0kg 直方体 碇石色
4202	西側 D123_M050	石製品	榎粒安山岩	碇石	長7.7幅7.1厚2.1	不明	近世	90	66		10.6kg 直方体 碇石色
4203	不明 (出土位置不明)	石製品	ニッポロ石	碇石	長5.0幅3.2厚1.8	榎山産	近世	226	163		41.6kg 直方体 灰白色
4204	西側 N036	石製品	頁岩	碇石	長6.4幅4.0厚	不明	近世	27	26		4.9kg 直方体
4205	西側 N036_5列	石製品	榎粒安山岩	自然石	長6.4幅4.0厚	不明	近世	84	64		7.9kg 直方体 碇石色
4206	西側 D041	石製品	碇石	碇石	長13.7幅13.2厚9.7	碇石	近世	42	32		117.3kg 直方体 二使用 磨面粗粒 タタキ 碇石
4207	西側 M048上層	石製品	碇石	碇石	長18.0幅18.0厚2.6	碇石	近世	34	34		14.0kg 直方体 二使用 磨面粗粒 タタキ 碇石
4208	西側 D167_2	石製品	碇石	碇石	長9.5幅13.2厚2.7	碇石	近世	35	29		18.4kg 直方体 二使用 磨面粗粒 タタキ 碇石
4209	西側 D041	石製品	碇石	碇石	長11.5幅13.2厚3.5	碇石	近世	42	32		13.0kg 直方体 二使用 磨面粗粒 / 碇石
4210	西側 D082	石製品	碇石	碇石	長8.0幅13.2厚2.2	碇石	近世	51	43		11.5kg 直方体 二使用 磨面粗粒 / 碇石
4211	西側 M044	石製品	碇石	碇石	長9.5幅13.2厚2.7	碇石	近世	29	26		11.2kg 直方体 二使用 磨面粗粒 / 碇石
4212	西側 N033	石製品	碇石	碇石	長6.8幅10.6厚2.8	碇石	近世	23	23		10.6kg 直方体 一使用 磨面粗粒 / 碇石
4213	西側 D041	石製品	碇石	碇石	長10.0幅13.2厚2.8	碇石	近世	42	32		10.3kg 直方体 二使用 磨面粗粒 タタキ 碇石
4214	西側 D081	石製品	碇石	碇石	長17.0幅17.0厚2.9	碇石	近世	51	43		10.9kg 直方体 四使用 碇石
4215	西側 J020_(T-013G)	石製品	碇石	碇石	長8.0幅4.1厚1.7	碇石	近世	35	29		9.4kg 直方体 一使用 磨面粗粒 タタキ 碇石
4216	西側 M044	石製品	碇石	碇石	長17.0幅13.2厚2.6	碇石	近世	29	26		60.9kg 直方体 二使用 磨面粗粒 / 碇石
4217	西側 J016_3019	石製品	碇石	碇石	長17.0幅13.2厚1.5	碇石	近世	35	29		43.9kg 直方体 一使用 磨面粗粒 タタキ 碇石
4218	西側 N205	石製品	碇石	碇石	長15.9幅13.2厚2.6	碇石	近世	22	23		67.9kg 直方体 一使用 磨面粗粒 / 碇石
4219	西側 J085_M045	石製品	碇石	碇石	長11.0幅13.2厚2.6	碇石	近世	51	43		64.9kg 直方体 二使用 磨面粗粒 タタキ 碇石
4220	西側 D060	石製品	碇石	碇石	長18.0幅18.0厚2.1	碇石	近世	44	35		47.9kg 直方体 三使用 磨面粗粒 タタキ 碇石
4221	西側 D041	石製品	碇石	碇石	長18.2幅18.2厚1.7	碇石	近世	42	32		61.9kg 直方体 一使用 磨面粗粒 タタキ 碇石
4222	西側 M048上層	石製品	碇石	碇石	長7.7幅2.8厚1.8	不明	近世	46	36		6.0kg 小形直方体 四使用 白灰
4223	西側 M048上層	石製品	碇石	碇石	長6.0幅3.0厚1.8	不明	近世	34	34		47.9kg 直方体 三使用 粗粒 白灰
4224	西側 D041	石製品	碇石	碇石	長6.3幅3.2厚	不明	近世	42	32		69.0kg 直方体 一使用 磨面粗粒 タタキ
4225	西側 (V-016G)	石製品	碇石	碇石	長6.3幅3.2厚	不明	近世	221	161		65.8kg 直方体 一使用 磨面粗粒 タタキ
4226	西側 M048上層	石製品	碇石	碇石	長6.3幅3.2厚	不明	近世	24	24		24.8kg 直方体 二使用 磨面粗粒 タタキ
4228	西側 N036_(T-006G)	石製品	碇石	碇石	長6.4幅4.0厚	不明	近世	26	26		24.8kg 直方体 二以上使用 白灰
4229	西側 D082	石製品	碇石	碇石	長6.3幅3.5厚	不明	近世	51	43		56.0kg 直方体 一使用 磨面粗粒 タタキ
4230	西側 M036	石製品	碇石	碇石	長6.2幅3.1厚2.3	不明	近世	27	26		11.6kg 直方体 二使用 磨面粗粒 / 碇石
4231	西側 J017_3019	石製品	碇石	碇石	長6.8幅3.0厚2.3	不明	近世	35	29		71.8kg 直方体 一使用 磨面粗粒 タタキ 白灰
4232	西側 J016_(U-013G)	石製品	碇石	碇石	長6.6幅3.0厚2.0	不明	近世	35	29		11.6kg 直方体 一使用 磨面粗粒 タタキ 白灰
4233	西側 (出土位置不明)	石製品	碇石	碇石	長6.3幅3.1厚1.6	不明	近世	221	161		37.6kg 直方体 四使用 碇石
4234	西側 N036_8列	石製品	碇石	碇石	長6.3幅3.5厚	不明	近世	27	26		26.9kg 直方体 一使用 磨面粗粒 / 碇石
4235	西側 N205	石製品	碇石	碇石	長6.3幅3.5厚	不明	近世	22	23		11.9kg 直方体 四使用 碇石
4236	東側 (W-109G)	石製品	ニッポロ石	碇石	長5.9幅6.0厚3.1	榎山産	近世	225	170		70.9kg 直方体 一使用 白灰
4237	西側 D171	石製品	碇石	碇石	長18.0幅13.2厚2.2	不明	近世	90	66		10.9kg 直方体 一使用 磨面粗粒
4238	西側 D171	石製品	碇石	碇石	長18.5幅13.2厚2.0	不明	近世	97	70		22.6kg 直方体 一使用 磨面粗粒
4239	西側 (0-025G)	石製品	碇石	碇石	長12.0幅13.2厚1.9	不明	近世	223	161		17.3kg 直方体 四使用
4240	西側 D114	石製品	碇石	碇石	長11.7幅13.2厚2.3	不明	近世	90	66		14.6kg 直方体 一使用 磨面粗粒
4241	西側 D114	石製品	碇石	碇石	長10.4幅13.2厚2.4	不明	近世	99	47		14.6kg 直方体 一使用 磨面粗粒
4242	西側 D107	石製品	ケルソフェル石	碇石	長10.0幅12.0厚2.0	不明	近代心	83	64		11.3kg 直方体 一使用 磨面粗粒
4243	西側 D123_M050	石製品	碇石	碇石	長12.7幅13.8厚1.6	不明	近世	90	66		9.2kg 直方体 一使用 磨面粗粒
4244	西側 D123_M050	石製品	碇石	碇石	長12.5幅13.8厚2.1	不明	近世	90	66		58.6kg 直方体 一使用 磨面粗粒
4245	西側 D171	石製品	碇石	碇石	長10.2幅13.2厚3.0	不明	近世	97	70		29.0kg 直方体 二使用 磨面粗粒
4246	西側 D114	石製品	碇石	碇石	長11.7幅13.2厚2.3	不明	近世	97	70		17.3kg 直方体 一使用 磨面粗粒
4247	西側 D123	石製品	碇石	碇石	長11.7幅13.2厚2.3	不明	近世	90	66		14.6kg 直方体 一使用 磨面粗粒
4248	西側 D123_M050	石製品	碇石	碇石	長10.3幅13.2厚1.8	不明	近世	90	66		117.0kg 直方体 一使用 磨面粗粒
4249	西側 D123_M050	石製品	碇石	碇石	長12.0幅13.2厚2.7	不明	近世	90	66		127.0kg 直方体 一使用 磨面粗粒
4250	西側 D114	石製品	碇石	碇石	長10.4幅13.2厚3.0	不明	近世	99	47		11.9kg 直方体 一使用 磨面粗粒
4251	西側 (出土位置不明)	石製品	碇石	碇石	長11.3幅12.7厚2.2	不明	近世	223	161		10.0kg 直方体 二使用 磨面粗粒 / 碇石

番号	地区	遺 跡	種類	材質	器形	法 量	発 見 時 代	本文	写真	備 考
4253	西郷 (山位・位置不明)		石製	凝灰石	碗石	長11.5×幅2.7×厚2.0	縄文	近世	223 161	10×6立方体 一使用 磨面
4253	西郷 D171		石製	凝灰石	碗石	長10.1×幅2.2×厚2.8	縄文	近世	97 70	10×6形 一使用 磨面 再加工か
4254	西郷 D114		石製	凝灰石	碗石	長12.4×幅2.7×厚2.6	縄文	近世	59 47	8×6立方体 一使用 磨ノミ
4255	西郷 (S-029G)		石製	凝灰石	碗石	長10.2×幅2.3×厚2.0	縄文	近世	223 161	91×91形 四使用 磨ノミ
4256	西郷 J027 (V-001G)		石製	凝灰石	碗石	長9.7×幅2.8×厚1.8	縄文	近世	37 29	91×91形 一使用 磨ノミ
4257	西郷 D171		石製	凝灰石	碗石	長9.0×幅2.7×厚2.5	縄文	近世	97 70	10×6立方体 一使用 磨面
4258	西郷 D114		石製	凝灰石	碗石	長9.6×幅2.0×厚2.3	縄文	近世	59 47	121×61形 一使用 磨ノミ
4259	西郷 (山位・位置不明)		石製	凝灰石	碗石	長8.2×幅2.7×厚2.2	縄文	近世	223 161	80立方体 一使用 磨面
4260	西郷 D171		石製	凝灰石	碗石	長8.9×幅2.7×厚2.6	縄文	近世	97 70	114立方体 二使用 磨面
4261	西郷 D183		石製	凝灰石	碗石	長10.3×幅2.6×厚2.4	縄文	近世	81 61	73立方体 一使用 磨面
4262	西郷 D114		石製	凝灰石	碗石	長7.7×幅2.3×厚2.3	縄文	近世	59 46	91×91形 一使用 磨ノミ
4263	西郷 (Q-044G)		石製	凝灰石	碗石	長9.0×幅2.4×厚2.4	縄文	近世	223 161	71×61形 全使用 磨ノミ
4264	西郷 N016		石製	凝灰石	碗石	長8.7×幅2.3×厚1.5	縄文	近世	67 52	56×6形 全使用 磨面
4265	西郷 D171		石製	凝灰石	碗石	長7.7×幅2.1×厚1.8	縄文	近世	97 70	73×62形 一使用 磨面
4266	西郷 (S-027G)		石製	凝灰石	碗石	長8.6×幅2.0×厚2.0	縄文	近世	223 161	121×61形 一使用 磨ノミ
4267	西郷 D123		石製	凝灰石	碗石	長7.9×幅2.5×厚2.2	縄文	近世	90 66	80×6立方体 一使用 磨面
4268	西郷 D123		石製	凝灰石	碗石	長7.9×幅2.3×厚1.7	不明	近世	90 61	43立方体 三使用 平タゴ木
4269	西郷 D123, M050		石製	凝灰石	碗石	長9.7×幅2.1×厚1.6	縄文	近世	90 66	69×61形 一使用 磨面
4270	西郷 (V-025G)		石製	凝灰石	碗石	長7.0×幅2.3×厚2.5	縄文	近世	223 161	85立方体 一使用 磨面
4271	西郷 D114		石製	凝灰石	碗石	長6.9×幅2.3×厚2.4	縄文	近世	59 47	78立方体 一使用 平タゴ木
4272	西郷 D123		石製	流紋岩	碗石	長7.2×幅2.4×厚2.4	不明	近世	90 66	132×61形 全使用 磨面
4273	西郷 M054		石製	流紋岩	碗石	長6.1(6.8)×幅2.3×厚2.3	不明	近世	69 52	116×61形 全使用 「大」字磨削
4274	西郷 D114		石製	砂岩	碗石	長7.9×幅2.2×厚2.0	不明	近世	59 47	60×61形 全使用
4275	西郷 (Q-044G)		石製	凝灰石	碗石	長7.5×幅2.5×厚1.1	縄文	近世	223 161	28×61形 全使用
4276	西郷 (Q-044G)		石製	凝灰石	碗石	長7.2×幅2.3×厚1.6	不明	近世	37 29	37×61形 一使用 磨ノミ
4277	西郷 M057		石製	凝灰石	碗石	長6.4(幅6.0)×厚1.9	不明	近世	24 24	72立方体 一使用 磨面
4278	西郷 D184		石製	凝灰石	碗石	長6.7(幅6.2)×厚1.8	縄文	近世	81 61	85立方体 全使用 磨面
4279	西郷 D123, M050		石製	凝灰石	碗石	長7.0(幅6.1)×厚1.9	縄文	近世	90 66	57×62形 二使用 磨ノミ
4280	西郷 (M-026G)		石製	凝灰石	碗石	長6.4(幅6.2)×厚1.5	縄文	近世	223 161	40立方体 三使用 磨面
4281	西郷 (Q-044G)		石製	砂岩	碗石	長5.9(幅5.1)×厚1.7	不明	近世	223 161	114立方体 一使用 平タゴ木
4282	西郷 D114		石製	凝灰石	碗石	長7.0×幅2.2×厚2.0	縄文	近世	59 47	164立方体 二使用 平タゴ木
4283	西郷 J027 (トノ内)		石製	凝灰石	碗石	長7.0(幅6.4)×厚3.7	不明	近世	37 29	201×不定形 全使用 石塔平組用
4284	西郷 (Q-036G)		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	223 161	136立方体 全使用
4285	西郷 D114		石製	砂岩	碗石	長6.0(幅2.7)×厚2.7	不明	近世	59 47	29×6立方体 全使用
4286	西郷 D123, M050		石製	凝灰石	碗石	長9.3×幅2.5×厚4.0	不明	近世	90 66	29×6立方体 全使用 一凹み
4287	西郷 D123, M050		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.0	不明	近世	90 66	15×6立方体 全使用 磨面
4288	西郷 (S-026G)		石製	凝灰石	碗石	長幅厚2.9	不明	近世	223 161	150立方体 三使用 磨面
4289	西郷 D171		石製	凝灰石	碗石	長幅厚2.9	不明	近世	97 70	53×6立方体 一使用 磨面
4290	西郷 D171		石製	凝灰石	碗石	長幅厚2.9	不明	近世	97 70	53×6立方体 一使用 磨面
4291	西郷 N016		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	67 52	54×6立方体 一使用 磨面
4292	西郷 M052		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	67 52	45×62形 三使用 磨ノミ
4293	西郷 N037附近		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	103 74	37×62形 一使用 磨面
4294	西郷 D123, M050		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	90 66	47×6立方体 三使用 磨面
4295	西郷 (S-026G)		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	90 66	47×6立方体 三使用 磨面
4296	西郷 D114		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	83 64	20×6形 上下蓋(2つ)
4297	西郷 M050		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	23 23	76×6立方体 三使用 磨面
4298	西郷 D194		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	84 64	100×6立方体 一使用 磨面
4299	西郷 D114		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	59 47	67×6立方体 二使用 磨面
4300	西郷 D114		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	90 66	50×62形 二使用 磨面
4301	西郷 D114		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	59 47	46立方体 二使用 磨ノミ
4302	西郷 J171		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	67 70	39×62形 一使用 磨面
4303	西郷 (Q-044G)		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	223 161	56×62形 三使用 磨面
4304	西郷 D114		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	59 46	30×62形 三使用 磨面
4305	西郷 N016		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	67 52	26×62形 一使用 磨面
4306	西郷 D194		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	84 64	52×62形 一使用 磨面
4307	西郷 D114		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	59 46	21×62形 一使用 磨面
4308	西郷 D194		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	70 53	18×6立方体 一上二使用 磨ノミ
4309	西郷 (L-026G)		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	223 161	24×62形 一使用 磨面
4310	西郷 J027 (U-001G)		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	37 29	16×62形 一使用 平タゴ木
4311	西郷 D194		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	84 64	17×6立方体 一使用 加工不明
4312	西郷 M052		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	77 57	27×62形 一使用 磨面
4313	中央 N011東		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	116 84	56×6立方体 四使用 鉄分付
4314	西郷 M050		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	23 23	76×6立方体 四使用 鉄分付
4315	西郷 D123		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	59 46	59×6立方体 一使用 磨面
4316	西郷 N037附近		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	103 74	66×62形 四使用 鉄分付
4317	西郷 N037附近		石製	砂岩	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	103 74	42×62形 四使用 磨面
4318	中央 D109		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	123 87	76×62形 四使用
4319	中央 M022		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	164 117	62立方体 四使用
4320	中央 M017下層		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	164 117	24立方体 三上二使用
4321	中央 M017中層		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	164 117	116×61形 一使用 磨面
4322	中央 N011東		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	240立方体 二使用 磨面
4323	中央 N011東		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	214立方体 一使用 磨面
4324	中央 N011東W-7		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	148立方体 二使用 磨ノミ
4325	中央 M032		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	150 108	167×62形 四使用
4326	中央 N011東		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	96立方体 一使用 磨ノミ
4327	中央 N011東		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	73×6立方体 一使用 磨面
4328	中央 N011東中層西		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	72×6立方体 一使用 磨面
4329	中央 N011中層		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	52×6立方体 五使用 磨面
4330	中央 N011中層		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	85立方体 一使用 磨ノミ
4331	中央 D004		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	158 112	199立方体 五使用 表面無調整
4332	中央 N011東		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	162立方体 三使用 表面無調整
4333	中央 N011中層		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	73×6立方体 一使用 磨面
4334	中央 N011東中層下		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	72×6立方体 一使用 磨面
4335	中央 N011下層		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	69立方体 一使用 磨面
4336	中央 N011下層		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	30×6立方体 一使用 平タゴ木
4337	中央 N011中層		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	19×62形 一使用 磨面
4338	中央 N011下層		石製	凝灰石	碗石	長幅厚3.9	不明	近世	151 107	36×6立方体 一使用 磨面

IV 資料

番号	地区	種 類	種類	材質	形状	寸法	厚 薄	時 代	本文	写真	備 考
4339	中央	M011E	石製品	磁沢石	鏡石	長-幅2.39×1.4	砥沢	近世	151	107	24g筒形 二使用 粗ノミ
4340	中央	M011E	石製品	磁沢石	鏡石	長-幅2.39×2.0	砥沢	近世	151	107	25g小形立方体 一使用 粗ノミ
4341	中央	M010	石製品	磁沢石	鏡石	長-幅-厚1.3	砥沢	近世	124	67	14g角筒形 二使用
4342	中央	M032	石製品	磁沢石	鏡石	長-幅-厚1.5	砥沢	中世か	135	108	20g厚筒形 三使用
4343	中央	M011上層	石製品	磁沢石	鏡石	長-幅2.18×1.9	砥沢	近世	151	107	19g小形立方体 一使用
4344	中央	M011E	石製品	頁岩	鏡石	長-幅1.0×1.6	不詳	近代	151	107	13g石板状 鏡筒
4345	東海	M007	石製品	頁岩	鏡石	長-幅1.0×幅0.9	不詳	近代	170	121	14g赤石 二使用
4346	東海	M007	石製品	武蔵岩	鏡石	長-幅2.5	不詳	近世	170	121	10g赤石 三使用
4347	中央	D021 No.1	石造物	緑色片岩	板碑	長23.0×幅15.2×厚1.7	不詳	中世	159	112	1.1kg鏡子キーク 二使用
4348	中央	D021 No.1	石造物	緑色片岩	板碑	長31.0×幅26.0×厚2.6	不詳	中世	158	112	4.3kg鏡子キーク 二使用
4349	中央	D025	石造物	緑色片岩	板碑	長51.0×幅26.0×厚3.2	不詳	中世	159	112	3.2kg鏡子不明 副鏡筒多し
4350	中央	D025	石造物	麻粒安山岩	茶臼子玉	長-幅-厚10.5	不詳	中世	159	112	2.9kg筒形
4351	中央	D025	石造物	麻粒安山岩	石臼子玉	長-幅-厚11.0	不詳	中世	159	112	2.9kg筒形
4352	中央	D025	石造物	麻粒安山岩	茶臼子玉	長-幅10.7×厚10.0	不詳	中世	159	112	2.9kg筒形
4353	中央	D025	石造物	麻粒安山岩	石臼子玉	長-幅-厚8.6	不詳	中世	159	112	2.7kg筒形 右側手に把手孔
4354	中央	D025	石造物	麻粒安山岩	片口石鉢	長-幅-厚2.7	不詳	中世	159	112	0.4kg内底磨削
4355	中央	D025	石造物	麻粒安山岩	石臼	長-幅-厚8.0	不詳	中世	159	112	0.3kg上蓋把手痕 上平滑有孔
4356	中央	D025	石造物	麻粒安山岩	石鉢	長-幅-厚18.0	不詳	中世	159	112	1.7kg内底磨削
4357	中央	D015	石製品	麻粒安山岩	茶石子玉	長-幅-厚10.6	不詳	中世	158	111	2.6kg筒形 鏡把手孔
4358	中央	D018 (H-009G)	石造物	麻粒安山岩	片口石鉢	長-幅-厚8.0	不詳	中世	158	111	0.4kg内底磨削
4359	西海	D076	石造物	牛伏砂岩	石臼子玉	長14.8×幅19.2×厚6.2	不詳	伏出	46	36	2.1kg筒形
4360	西海	D078	石造物	麻粒安山岩	方型石鉢	高8.7×幅8.3	不詳	近世	97	70	0.5kg筒形
4361	中央	D111	石製品	麻粒安山岩	宝篋印輪	長8.0×幅11.7×厚6.0	不詳	中世	158	111	0.8kg板状
4362	西海	J112	石製品	角閃石安山岩	コマ石	長23.3×幅19.5×厚11.5	不詳	古代	109	79	4.0kg筒形 砥沢
4363	西海	J112 No.82	石製品	角閃石安山岩	コマ石	長17.7×幅17.7×厚12.0	不詳	古代	109	79	3.9kg立方体 砥取り加工 砥沢
4364	西海	J112 No.72	石製品	角閃石安山岩	コマ石	長26.0×幅22.0×厚12.4	不詳	古代	109	79	6.4kg立方体 砥取り加工 砥沢
4365	中央	D025	武蔵岩質凝灰岩	方型石	長25.0×幅19.5×厚14.2	不詳	中世	159	112	4.7kg立方体 砥取り加工 砥沢	
4366	中央	D025	武蔵岩質凝灰岩	鏡台	長18.4×幅13.3×厚6.1	不詳	中世	159	112	1.2kg中央部平底	
4367	東海	J160	赤銅結晶岩	鏡石	長21.7×幅18.3×厚15.1	不詳	古代	305	147	4.7kg立方体 三面砥沢	
4368	西海	D114	石製品	磁沢石	鏡石	長7.3×幅2.8×厚1.8	砥沢	近世	59	47	63g立方体 一使用
4369	西海	D171	石製品	磁沢石	鏡石	長-幅2.29×4.6	砥沢	近世	97	70	92g立方体 一使用 磨削
4370	西海	M068	石製品	磁沢石	鏡石	長-幅2.7×厚1.5	砥沢	近世	23	23	45g立方体 一使用 磨削
4371	西海	M016	石製品	磁沢石	鏡石	長-幅2.5×厚1.3	砥沢	近世	67	52	31g板状 一使用 磨削
4372	西海	D123	石製品	磁沢石	鏡石	長-幅2.39×1.4	砥沢	近世	90	66	36g立方体 二使用 磨削
4373	西海	(R-008G)	石製品	武蔵岩	鏡石	長(4.3)×幅2.9×厚3.0	不詳	近世	223	161	64g立方体 二使用 磨削
4374	西海	M063	石製品	磁沢石	鏡石	長-幅2.6×厚1.8	砥沢	近世	31	26	46g立方体 一使用 粗ノミ
4375	西海	M057	石製品	磁沢石	鏡石	長-幅2.9×厚1.5	砥沢	近世	24	24	30g板状 磨削
4376	西海	D124	石製品	武蔵岩	鏡石	長-幅3.0×厚1.5	不詳	近世	80	61	51g板状 全使用
4377	不明 (出土位置不明)		石製品	麻粒安山岩	石臼子玉	長-幅15.5	不詳	近代	23	23	2.8kg
4378	東海	(R-008G)	石製品	武蔵岩	鏡石	長7.7×幅3.1×厚1.8	不詳	鏡文	231	164	45g使用あり
4379	西海	(T-009G)	石製品	武蔵岩	鏡石	長7.9×幅3.1×厚1.3	不詳	鏡文	231	164	55g使用あり
4380	東海	M001-M002	石製品	武蔵岩	鏡石	長5.8×幅5.6×厚1.2	不詳	鏡文	231	164	40g加工あり
4381	東海	M125	石製品	武蔵岩	鏡石	長5.8×幅6.6×厚0.9	不詳	鏡文	231	164	21g加工あり
4382	東海	(V-W-106/107G)	石製品	武蔵岩	鏡石	長2.9×幅1.9×厚0.5	不詳	鏡文	228	163	2g
4383	西海	(V-008G)	石製品	武蔵岩	鏡石	長4.8×幅3.0×厚0.4	不詳	鏡文	228	163	2g
4384	西海	(R-008G)	石製品	武蔵岩	鏡石	長2.6×幅1.7×厚0.3	不詳	鏡文	228	163	1g
4385	東海	M125	石製品	武蔵岩	鏡石	長2.6×幅1.5×厚0.4	不詳	鏡文	228	163	1g
4386	西海	(R-014G)	石製品	武蔵岩	鏡石	長2.3×幅1.5×厚0.5	不詳	鏡文	228	163	1g
4387	東海	N104	石製品	武蔵岩	鏡石	長2.1×幅1.5×厚0.4	不詳	鏡文	228	163	1g
4388	西海	D091	石製品	打製石斧	長6.7×幅6.7×厚1.4	不詳	鏡文	228	163	86g	
4389	西海	M013	石製品	打製石斧	長14.0×幅8.3×厚2.9	不詳	鏡文	228	163	279g	
4390	西海	(R-012G)	石製品	石	長4.7×幅3.1×厚0.5	不詳	鏡文	228	163	1g	
4391	西海	(出土位置不明)	石製品	打製石斧	長10.0×幅6.3×厚1.5	不詳	鏡文	228	163	109g	
4392	東海	(R-008G)	石製品	打製石斧	長11.0×幅4.6×厚1.7	不詳	鏡文	228	163	98g	
4393	東海	N104	石製品	打製石斧	長9.1×幅4.8×厚1.2	不詳	鏡文	228	163	72g	
4394	中央	(O-050G)	石製品	打製石斧	長7.9×幅5.7×厚1.5	不詳	鏡文	228	163	80g	
4395	中央	M027	石製品	打製石斧	長10.3×幅5.4×厚1.3	不詳	鏡文	228	163	87g	
4396	西海	(R-009G)	石製品	打製石斧	長11.4×幅5.0×厚2.4	不詳	鏡文	228	163	122g	
4397	中央	(R-047G)	石製品	スクレイパー	長18.0×幅8.2×厚4.2	不詳	鏡文	229	163	79g	
4398	東海	M018	石製品	スクレイパー	長6.8×幅2.7×厚1.9	不詳	鏡文	229	163	158g	
4399	東海	(T-070G)	石製品	スクレイパー	長7.8×幅2.5×厚2.1	不詳	鏡文	229	163	109g	
4400	東海	M003	石製品	スクレイパー	長6.8×幅2.0×厚2.0	不詳	鏡文	229	163	176g	
4401	東海	M032	石製品	スクレイパー	長5.7×幅2.6×厚1.5	不詳	鏡文	229	163	59g	
4402	東海	D195	石製品	スクレイパー	長8.2×幅3.0×厚2.3	不詳	鏡文	229	163	449g	
4403	東海	M202	石製品	三角型石	長11.8×幅7.3×厚3.6	不詳	鏡文	229	164	719g	
4404	西海	(M-041G)	石製品	スクレイパー	長14.0×幅9.9×厚3.6	不詳	鏡文	229	163	621g	
4405	東海	(F-078G)	石製品	石核	長8.3×幅4.9×厚5.5	不詳	鏡文	229	163	543g	
4406	不明 (出土位置不明)		石製品	石核	長13.6×幅12.7×厚7.6	不詳	鏡文	229	164	1,492g	
4407	東海	J153	石製品	磨石	長11.8×幅10.8×厚3.6	不詳	鏡文	231	164	691g	
4408	不明 (出土位置不明)		石製品	磨石	長11.3×幅8.7×厚3.3	不詳	鏡文	231	164	507g	
4409	東海	N101	石製品	磨石	長10.3×幅6.5×厚3.2	不詳	鏡文	231	164	394g	
4410	東海	J153	石製品	磨石	長14.0×幅11.0×厚3.6	不詳	鏡文	231	164	941g	
4411	東海	J160	石製品	磨石	長14.8×幅11.9×厚3.3	不詳	鏡文	231	164	1,450g	
4412	東海	M007	石製品	実質武蔵岩	平円形板状	長-幅2.2×厚0.4	不詳	近世	170	121	0.2kg重し 上面に砥取痕 数量
4413	西海	(R-008G)	石製品	磁沢石	有孔分形状	直径3.0×厚0.7	不詳	近世	223	161	72g重し
4414	東海	M001	石製品	磨石	磨石	長-幅0.6×厚0.7	不詳	近代	161	126	0.4g下部部
4415	中央	M011E	石製品	緑色片岩	板状	長55.0×幅15.0×厚2.7	不詳	中世	148	107	4.5kg鏡子キーク 磨削
4417	中央	M011	石造物	麻粒安山岩	磨石	長6.7×幅5.2×厚2.1	不詳	鏡文	148	107	10g(鏡) 手磨石 石等付
5001A	東海	M001	陶製品	有孔	標準通貫	径2.3×孔部.65	不詳	中世	161	128	蓋体 1068年初
5001B	東海	M001	陶製品	有孔	標準通貫	径2.3×孔部.6	不詳	中世	161	128	999年初
5002	東海	M001	陶製品	有孔	元祐通貫	径2.3×孔部.7	不詳	中世	161	128	新書体 1093年初
5003	中央	M016	陶製品	有孔	寛永通貫	径2.3×孔部.65	不詳	近世	163	117	新書体
5003A	中央	M016	陶製品	有孔	寛永通貫	径2.3×孔部.6	不詳	近世	163	117	
5004B	中央	M016	陶製品	有孔	寛永通貫	径2.3×孔部.6	不詳	近世	163	117	
5005A	中央	M016	陶製品	有孔	寛永通貫	径2.3×孔部.6	不詳	近世	163	117	
5005B	中央	M016	陶製品	有孔	寛永通貫	径2.3×孔部.6	不詳	近世	164	117	
5006	中央	M016	陶製品	有孔	寛永通貫	径2.3×孔部.65	不詳	中世	163	117	

2 遺物一覧表

番号	地区	遺 蹟	種類	材質	器型	法 量	発 掘 時 代	本文	写真	備 考	
5005A	中央	M016	銅鏡	有孔鏡	東水通貫	径2.3孔径0.6	不明	近世	163	117	新鏡水
5005B	中央	M016	銅鏡	有孔鏡	東水通貫	径2.15孔径0.7	不明	近世	163	117	新鏡水
5005C	中央	M016	銅鏡	有孔鏡	東水通貫	径2.3孔径0.6	不明	近世	163	117	新鏡水
5005D	中央	M016	銅鏡	有孔鏡	不明	径1.8径0.45	不明	近世	164	117	3枚通貫
5005A	中央	M016	銅鏡	有孔鏡	東水通貫	径2.3孔径0.65	不明	近世	163	117	新鏡水
5005B	中央	M016	銅鏡	有孔鏡	東水通貫	径2.25孔径0.65	不明	近世	162	117	新鏡水
5005C	中央	M016	銅鏡	有孔鏡	不明	径2.4孔径0.75	不明	近世	164	117	3枚通貫
5009	中央	M016	銅鏡	有孔鏡	不明	径2.3孔径0.7	不明	近世	164	117	新鏡水
5010A	中央	M016上層	銅鏡	有孔鏡	東水通貫	径2.4孔径0.55	不明	近世	163	117	新鏡水
5010B	中央	M016上層	銅鏡	有孔鏡	東水通貫	径2.4孔径-	不明	近世	163	117	新鏡水
5010C	中央	M016上層	銅鏡	有孔鏡	不明	径2.4孔径0.6	不明	近世	164	117	新鏡水
5010D	中央	M016上層	銅鏡	有孔鏡	東水通貫	径2.3孔径0.6	不明	近世	164	117	新鏡水
5010E	中央	M016上層	銅鏡	有孔鏡	東水通貫	径2.3孔径0.6	不明	近世	164	117	新鏡水
5011	中央	M016中層	銅鏡	有孔鏡	不明	径2.4孔径0.6	不明	近世	164	117	新鏡水
5012	中央	M017	銅鏡	有孔鏡	不明	径2.3孔径0.7	不明	中世か	164	117	穴鏡か 摩鏡
5013	中央	M017東層	銅鏡	有孔鏡	不明	径1.8径-	不明	中世か	164	117	摩鏡
5014	西側	M050	銅	鍍金帯	長(5.9)幅(0.8)厚-	不明	近世	23	23	野なし	
5015	西側	M044	銅	鍍金帯	長(4.3)幅(1.0)厚-	不明	近世	29	26	文部省	
5016	西側	M045	銅	鍍金帯	長(5.0)幅(1.0)厚0.1	不明	近世か	24	24	彫刻 様子目に 大 字	
5017A	西側	J107	鉄	刀子か	長(3.7)幅(2.4)厚0.45	不明	古代	64	50		
5017B	西側	J107	鉄	鍍金	長(4.5)幅(2.4)厚-	不明	古代か	64	50		
5018	西側	J016	銅	鍍金帯	長(4.2)幅(1.2)厚-	不明	近世	35	29	羽状彫らな 跡多い	
5019	東側	N002	銅	一貫	径1.6	不明	近世	174	120	昭和十七年	
5020A	西側	N016	銅鏡	有孔鏡	不明	径1.4孔径0.6	不明	近世	67	52	
5020B	西側	N016	銅鏡	有孔鏡	不明	径2.3孔径0.6	不明	近世か	67	52	
5021	西側	N014	銅鏡	有孔鏡	不明	径2.25孔径0.65	不明	近世	67	52	
5022	西側	N036	銅	鍍金	長(3.0)幅(1.0)厚-	不明	近世か	27	32	新鏡水	
5023	西側	D041	銅	鍍金帯	長(8.1)幅(0.8)厚-	不明	近世	42	32	片側ややつぶれる	
5024	西側	D043,D044	銅鏡	有孔鏡	東水通貫	径1.8孔径0.6	不明	近世	39	30	新鏡水
5026	西側	D046/D049	銅	鍍金具	長(1.7)幅(0.7)厚-	不明	近世か	44	35	しっくい状白色付着物	
5027	西側	D060	銅	鍍金帯	長(4.1)幅(1.0)厚-	不明	近世 /	44	28	文部省	
5028	西側	D074	銅	鍍金帯	長(3.3)幅(1.0)厚0.9	不明	近世	49	38	漆剥離跡の ウラ味	
5029	中央	X011E	銅	鍍金具	長(14.7)幅(3.4)厚0.5	不明	近世	147	104	魚子文上に唐文 釘穴4ヶ所	
5030A	西側	D124	鉄	鍍金品	長(10.7)幅(13.5)厚0.4	不明	近代	80	61	内面黄変あり	
5030B	西側	D124	鉄	鍍金板	長(9.6)幅(1.5)厚0.4	不明	近代	80	61	平面やや凹み	
5030C	西側	D124	鉄	鍍金板	長(1.8)幅(1.5)厚0.1	不明	近代	80	61	平面凹陥 薄い	
5030D	西側	D124	鉄	小鍍	長(1.7)幅(1.7)厚-	不明	近代	80	61	柄部端より	
5030E	西側	D124	鉄	小鍍	長(13.7)幅(1.2)厚-	不明	近代	80	61	角棒状 2片	
5031A	西側	(L-0296)	鉄	五徳	長(5.0)幅(4.0)厚0.6	不明	近世か	223	162	厚い鉄板を縦角に曲げて万部形成	
5031B	西側	(L-0296)	鉄	五徳	長(11.3)幅(3.0)厚0.9	不明	近世	223	162	330μm程度の3本の突起を縦状配列	
5032	西側	(M-030G)	鉄	鍍金	長(22.5)幅(15.0)厚0.5	不明	近代	223	162	柄部は角状には本長に届ける	
5033A	東側	M001	鉄	鍍金	長(9.2)幅(2.0)厚0.5	不明	近代	181	126	面4ヶ所 鍍金	
5033B	東側	M001	鉄	鍍金	長(4.7)幅(2.0)厚0.7	不明	近代	181	126	鍍金部脱落	
5034	東側	M018	鉄	鍍金	長(28.2)幅(10.0)厚0.4	不明	近世か	167	133	鍍金文字	
5035	西側	M051	鉄	小鍍	径2.5幅(2.2)厚-	不明	近世か	77	57		
5036	西側	M042	鉄	包丁	長(4.0)幅(0.8)厚0.7	不明	近世か	29	26	出刃形	
5037	西側	M044	鉄	刀物	長(22.6)幅(1.0)厚-	不明	近代	29	26	本柄一部残 縁やや厚い	
5038	西側	M052	鉄	農具か	長(1.4)幅(1.0)厚-	不明	近代	77	57	厚鉄板を曲げて万部形成	
5039	西側	X001	鉄	刀子か	長(4.6)幅(1.0)厚0.3	不明	近代	25	24	柄部付	
5040	西側	M054	鉄	角釘	長(5.6)幅(0.8)厚-	不明	近代	69	52		
5041A	西側	X001	鉄	鍍金具	長(10.0)幅(10.0)厚0.7	不明	近代	25	24	近い側面より方角以上 厚い	
5041B	西側	X001	鉄	鍍金具	径20.0幅(4.0)厚0.5	不明	近代	25	24	鍍金し曲した鉄丸棒	
5041C	西側	X001	鉄	角釘	長(6.7)幅(0.4)厚-	不明	近代	25	24		
5042	東側	J103	鉄	角釘	長(3.8)幅(0.8)厚0.8	不明	近代	198	140		
5043	西側	J112	鉄	芥	長(6.8)幅(3.2)厚1.6	不明	古代	109	79		
5044	西側	J112	鉄	柄杓	長(15.3)幅(1.0)厚0.6	不明	古代	109	79		
5045	東側	J152	鉄	鍍金	長(10.3)幅(2.3)厚-	不明	古代	200	142		
5046	西側	J116	鉄	刀子か	長(8.6)幅(1.0)厚-	不明	近代	35	29	縁やや厚い	
5047A	東側	N004	鉄	火打金	長(7.2)幅(1.3)厚-	不明	近代	170	121		
5047B	東側	N004	鉄	円筒付板	長(5.2)幅(2.5)孔径0.6	不明	近代	170	121	用途不明	
5048A	東側	N007	鉄	五徳	径(18.0)幅(8.0)厚0.7	不明	近代	170	121	鍍金の環状突起に足	
5048B	東側	N007	鉄	五徳	長(11.0)幅(3.2)厚-	不明	近代	170	121	鍍金部脱落途中で分岐あり	
5049	東側	M025	鉄	鍍金	長(12.5)幅(11.0)厚0.9	不明	近代	177	131	200μm程度の突起	
5050	西側	M036	鉄	鍍金	長(20.5)幅(10.0)厚0.2	不明	近代	27	26	厚板 凸部に曲げられる	
5051A	東側	D009	鉄	農具	長(3.8)幅(1.0)厚0.3	不明	近代	176	124	厚板を縦角に曲げて万部形成	
5051B	東側	D009	鉄	刀子か	長(5.4)幅(0.9)厚-	不明	近代	176	124	柄部か	
5052A	西側	D041	鉄	刀子	長(19.5)幅(1.8)厚-	不明	近世か	42	32	柄部も鉄	
5052B	西側	D041	鉄	引手	長(8.8)幅(0.8)厚0.5	不明	近世	42	32	柄部長方形	
5052C	西側	D041	鉄	鍍金	長(2.9)幅(1.0)厚-	不明	近世か	42	32	厚方形に近い	
5053	西側	D064	鉄	鍍金	長(7.7)幅(0.8)厚-	不明	近世	42	32	柄部と鍍金部を直交方向に止め	
5054	西側	D060	鉄	刀子	長(1.4)幅(1.0)厚-	不明	近世	44	35	柄部鍍金	
5055	西側	D085,D086	鉄	鍍金	長(4.9)幅(1.2)厚-	不明	近代	49	38	厚板し字部に曲げ溝孔四隅鍍金	
5056	西側	D107	鉄	刀子	長(9.4)幅(1.4)厚-	不明	近代	83	64	万部鏡 柄部鍍金は万部の延長	
5057A	西側	D114	鉄	刀子	長(5.6)幅(1.1)厚-	不明	近世	59	46	万部鏡	
5057B	西側	D114	鉄	三角形鉄板	長(6.2)幅(1.7)厚0.3	不明	近世	59	46		
5057C	西側	D114	鉄	円形鉄板	長(4.0)幅(0.3)厚-	不明	近世	59	46	上面鍍金	
5058	西側	M076	鉄	鍍金	長(16.1)幅(6.0)厚0.4	不明	近代	46	36	厚板を縦角に曲げて万部形成	
5059	西側	D078	鉄	長方形板	長(4.6)幅(2.5)厚0.2	不明	近代	47	36	板打て曲げられる	
5060	西側	D190	鉄	角釘	長(9.0)幅(0.5)厚0.3	不明	近代	70	53	頂部鍍金	
5061	西側	D194	鉄	鍍金	長(6.0)幅(1.0)厚-	不明	近代	84	64	柄部大きく外反	
5062A	東側	D043	鉄	鍍金	直径(2.0)厚0.1	不明	近代	215	156	内面半球の鍍金 柄部も付着	
5062B	東側	D043	鉄	有孔鏡	径(2.4)孔径0.75	不明	近代	215	156		
5062C	東側	D043	鉄	刀物	長(4.0)幅(1.0)厚-	不明	近代	215	156		
5063A	中央	X011下層	鉄	鍍金	長(14.0)幅(1.0)厚-	不明	近代	147	104	片側方形形部	
5063B	中央	X011下層	鉄	鍍金	長(1.4)幅(1.0)厚-	不明	近代	147	104	厚板 口部は曲げて柄部に溝孔	
5063C	中央	X011下層	鉄	鍍金	長(1.4)幅(1.0)厚-	不明	近代	147	104	厚板 口部は曲げて柄部に溝孔	
5064	中央	X011中層/鳥	鉄	鍍金	長(3.7)幅(0.8)厚0.4	不明	近代	147	104	断面長方形	
5065	中央	X011上	鉄	角釘	長(10.7)幅(0.8)厚0.4	不明	近代	147	104	頂部鍍金	

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	材質	題名	法量	発掘時代	本文	写真	備考
5066	中央 X011		鉄か		円筒状	長-61.0厚0.2	不明	近代か	147 104	表面黒く錆び
5067	西側 M-037G)		鉄		扁片	長5.3幅0.5厚0.6	不明	近代	223 161	厚板を削りこむけて刀痕形成
5068	西側 N037E近		鉄		小棒	長-2.2厚-	不明	近世	103 74	柄部直線状
5069	東側 N1-079G)		鉄		ビッケル	長-11.0幅1.1径2.3	不明	近代	225 162	柄部凹線状
5070	西側 X021		鉄			直径14.0幅2.6厚-	不明	近世か	105 75	柄部彫削状
5071	西側 X001		鉄		扇形片手か	長-30.0厚0.4幅0.7	不明	近世か	25 24	柄部長方形縁幅が曲がる 2片
5072	中央 X013 No.3		鉄		肉釘	長-60.4幅0.4	不明	近代	119 94	2枚
5075	西側 J104		鉄		小片	長(2.1幅1.4)厚0.1	不明	近代か	63 49	端部内反
5073	中央 X011上層		鉄		骨金具類	長12.0幅2.2厚0.3	不明	近代か	147 104	孔部3.3 厚手鉄板直交方向
5074A	西側 D123		鉄		刀物	長(8.4幅4.2)厚0.5	不明	近代	90 66	
5074B	西側 D123		鉄		端部	径2.3厚0.6	不明	近代	90 66	断面長方形
5076	西側 J105		鉄		扇状	長-6厚-	不明	近代か	64 51	跡多い
5077	西側 (出土位置不明)		鉄		扁片か	長(16.7幅4.9)厚0.2	不明	近代か	223 161	中1/4断面を鋭角に削りて刃部形成
5079	東側 J159		鉄		扇か	長-60.6厚-	不明	近代か	203 145	100%跡多い
5080	東側 J159		鉄		扇片状	長79.8幅3.2厚-	不明	近代	203 145	新発見なし
5081	西側 D135		銅		佛堂首大眼	径1.8	不明	近代か	81 81	新発見なし
5082	西側 D188		銅		寛永通寶	径2.25孔0.65	不明	近世	94 70	新発見
5083	西側 D184		銅		佛堂	長7.7径1.2	不明	近世	84 84	新発見
5084	中央 X011中島境		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.25孔0.75	不明	近世	147 104	吸いこぼり有りラウラ残
5085	中央 X011中島境		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.5孔0.6	不明	近世	147 104	新発見
5086	中央 X011底		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.45孔0.6	不明	近世	147 104	1656年初録 字「文」字
5087A	中央 X011底		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.25孔0.65	不明	近世	147 104	新発見
5087B	中央 X011底		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.3孔0.7	不明	近世	147 104	新発見
5088	中央 X011底		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.35孔0.5	不明	近世	147 104	1626年初録 古寛永
5089	中央 X011西側境		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.45孔0.6	不明	近世	147 104	1626年初録 古寛永 摩耗
5090	西側 D107		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.32孔0.65	不明	近世	147 104	新発見
5091	西側 (L-029G)		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.8孔0.65	不明	近世	223 161	1768年初録 新寛永 流背
5092	西側 (N-028G)		銅		佛堂首	長5.3径0.95	不明	近代か	223 161	削つき 火皿取なし 溝跡小さい
5093	西側 J025		銅		佛堂首	長6.0径0.95	不明	近代か	77 57	新発見
5094	西側 (V-049G)		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.3孔0.65	不明	近世	223 161	
5095	西側 J016		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.35孔-	不明	近世	38 29	
5096	西側 J014E近		銅		佛堂	長(4.2)径0.9	不明	近世	31 28	
5097A	東側 (V-069G)		銅鉄	有孔鉄	元長通寶	径2.4孔0.6	不明	中世	225 162	吸いこぼりなし 光沢
5097B	東側 (V-069G)		銅鉄	有孔鉄	元長通寶	径2.4孔0.6	不明	中世	225 162	1078年初録 墨色
5098	東側 (V-070G)		銅鉄	有孔鉄	天皇元寶	径2.4孔0.65	不明	中世	225 162	1023年初録
5099	西側 X021中層		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.25孔0.6	不明	近代	105 76	新発見
5100A	西側 X021下層		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.4孔0.6	不明	近代	105 76	1626年初録 古寛永
5100B	西側 X021下層		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.25孔0.65	不明	近代	105 76	新発見
5100C	西側 X021下層		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.25孔0.7	不明	近代	105 76	
5100D	西側 X021下層		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.15孔0.7	不明	近代	105 76	
5100E	西側 X021下層		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.8孔0.65	不明	近代	105 76	1768年初録 新寛永 流背
5100F	西側 X021下層		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.4孔0.6	不明	近代	105 76	1626年初録 古寛永
5101A	西側 X021北西隅境		銅鉄	有孔鉄	寛永通寶	径2.25孔0.65	不明	近世	105 76	1626年初録 古寛永
5101B	西側 X021北西隅境		銅鉄	有孔鉄	他	径2.45孔1.0厚0.1	不明	近代か	147 104	Lに似て大 西側ラセン
5102	中央 X011東側境		銅		他	径2.45孔1.0厚0.1	不明	近代か	147 104	
5103	中央 (G-062G)		銅		佛堂	長4.8幅1.6	不明	近代	223 161	吸いこぼりなし
5104	中央 (N-049G)		銅		小存容か	長-6厚-	不明	近代	223 161	流背文跡あり
5106	中央 (V-090G)		銅		二連管	長(6.8)幅0.75	不明	近代か	223 162	内径0.3 の円筒が2個なる
5107	中央 X011底		銅		佛堂首	直径1.75首径1.1	不明	近世	147 104	上面縁なし火皿縁あり
5108	中央 X011中島		銅		佛堂 吸口	長5.7幅0.25口部5	不明	近世	147 104	形状異なり吸口部や曲がる
5109A	西側 D069		鉄		扇	長-60.4厚-	不明	近代か	49 38	断面方形
5109B	西側 D069		鉄		扇り手	長-60.4厚-	不明	近代か	49 38	断面方形
5109C	西側 D069		鉄		扇り手	長-60.4厚-	不明	近代か	49 38	断面方形
5109D	西側 D069		鉄		L字状縁	長-60.3厚-	不明	近代か	49 38	断面方形
5109E	西側 D069		鉄		角釘	長(6.3)幅0.5厚-	不明	近代か	49 38	
5110	中央 X011東側境		銅		鉄釘玉	径1.3×1.35	不明	近代	147 104	12g片断黒色灰質層
5111	東側 X005		鉄		鉄釘	長-6厚-	不明	近代	170 121	刀物がつくいに磨傷
5112	西側 M048		鉄		扇	長-6厚-	不明	近代か	24 24	表面に磨傷
6001	中央 X011中島		ガラス	透明	薬瓶	口-高6.0底1.5	不明	近代	147 16-64	丸型L型蓋
6002	西側 D057		ガラス	透明	薬瓶	口-高6.0底1.5	不明	近代	44 16-64	
6003	西側 D046/D049		ガラス	白色地に緑染	おはじき	径2.0×1.7厚0.0	不明	近代	44 16-64	上面押手形
6004	中央 X011中島		ガラス	青緑色	おはじき	径1.2×1.3厚0.5	不明	近代	147 16-64	片割断面 上面押手
6005	東側 X004		ガラス	青色	おはじき	径(4.8)厚0.9	不明	近代	170 16-64	上面中円縁内に桜花押印
6006	東側 M012		ガラス	グリーンアモ	おはじき	径(4.7)厚0.8	不明	近代	183 161	上面中円縁内に方格押印
6007	中央 X011東側上層		ガラス	青黄色	薬瓶	口11.9幅3.4底2.5	不明	近代	147 16-64	蓋蓋目目
6008	中央 X011下層		ガラス	透明	薬瓶	口11.7幅12.7底2.5	不明	近代	147 16-64	L型つくし上面は把手状
6009	西側 D124		ガラス	黄色	高筒	径(4.7)幅(3.1)厚0.9	不明	近代か	80 16-65	上下端穴状内凹形
6010	東側 M001/M004		ガラス	青色	小玉	径0.3孔径1.1厚0.2	不明	近代か	181 16-63	

IV 資料

番号	種別	種/産成/材質	銘柄	頁	写真
1037	陶器	灰胎	磁	170	15
1053	陶器	灰胎	磁	225	26
1257	陶器	灰胎	磁	41	1
1239	陶器	灰胎	磁	22	2
1339	陶器	灰胎	磁	83	16
1318	陶器	灰胎	磁	203	4
1672	陶器	灰胎	磁	203	4
1674	陶器	灰胎	磁	203	4
1676	陶器	灰胎	磁	203	4
1678	陶器	灰胎	磁	203	4
1885	陶器	灰胎	磁	63	3
1888	陶器	灰胎	磁	191	4
1889	陶器	灰胎	磁	205	4
1916	陶器	灰胎	磁	187	4
1917	陶器	灰胎	磁	225	4
1914	陶器	灰胎	磁	191	4
1953	陶器	灰胎	磁	27	6
1886	陶器	灰胎	磁	63	3
1254	陶器	灰胎磁器	磁	41	7
1613	陶器	灰胎磁器	磁	197	15
1262	陶器	灰胎磁器	磁	95	12
1253	陶器	磁	140	13	
1501	陶器	磁	50	9	
1574	陶器	灰胎	磁	140	2
1325	陶器	灰胎	磁	94	10
1323	陶器	灰胎	磁	221	16
1689	陶器	磁	199	6	
1252	陶器	灰胎	磁	49	9
1363	陶器	灰胎	磁	221	16
1364	陶器	灰胎	磁	53	3
1538	陶器	灰胎	磁	119	13
1349	陶器	砂	39	6	
1366	陶器	灰胎	磁	69	6
1365	陶器	灰胎	磁	83	8
1267	陶器	灰胎磁器	磁	29	6
1827	土器	灰胎	磁	129	12
1836	土器	灰胎	磁	129	12
2007	土器	灰胎	磁	63	49
2012	土器	灰胎	磁	44	35
2030	土器	灰胎	磁	89	79
2042	土器	灰胎	磁	109	79
2054	土器	灰胎	磁	191	79
2100	土器	灰胎	磁	191	336
2111	土器	灰胎	磁	191	336
2092	土器	灰胎	磁	197	340
2131	土器	灰胎	磁	203	147
2087	土器	灰胎	磁	101	74
2052	土器	灰胎	磁	123	86
2230	土器	灰胎	磁	203	145
2178	土器	灰胎	磁	201	143
2099	土器	灰胎	磁	65	51
1847	土器	灰胎	磁	183	128
2098	土器	灰胎	磁	93	50
2058	土器	灰胎	磁	339	79
2104	土器	灰胎	磁	119	136
2143	土器	灰胎	磁	192	126
2175	土器	灰胎	磁	201	143
2176	土器	灰胎	磁	201	143
2212	土器	灰胎	磁	201	146
2254	土器	灰胎	磁	205	144
2343	土器	灰胎	磁	205	144
3033	土器	灰胎	磁	205	144
2222	土器	灰胎	磁	202	145
1852	土器	灰胎	磁	187	133
2012	土器	灰胎	磁	42	32
2013	土器	灰胎	磁	44	35
2034	土器	灰胎	磁	22	23
2062	土器	灰胎	磁	110	79
2072	土器	灰胎	磁	190	140
2073	土器	灰胎	磁	178	125
2081	土器	灰胎	磁	178	126
2084	土器	灰胎	磁	114	112
2090	土器	灰胎	磁	186	140
2093	土器	灰胎	磁	187	133
2094	土器	灰胎	磁	187	133
2117	土器	灰胎	磁	191	136
2171	土器	灰胎	磁	201	143
2177	土器	灰胎	磁	201	143
2179	土器	灰胎	磁	201	143
2200	土器	灰胎	磁	209	149
2202	土器	灰胎	磁	207	148
2215	土器	灰胎	磁	202	145
2242	土器	灰胎	磁	205	144
2320	土器	灰胎	磁	228	162
2144	土器	灰胎	磁	192	136
2125	土器	灰胎	磁	22	23
2240	土器	灰胎	磁	205	146
1944	土器	灰胎	磁	191	133
2172	土器	灰胎	磁	201	143
1209	磁器	磁	182	13	
1495	磁器	磁	66	7	
1071	磁器	磁	27	6	
1092	磁器	磁	69	6	
1094	磁器	磁	84	8	
1097	磁器	磁	53	9	
1100	磁器	磁	63	9	
1101	磁器	磁	53	9	
1132	磁器	磁	59	9	
1134	磁器	磁	104	30	
1164	磁器	磁	102	30	
1182	磁器	磁	164	33	
1207	磁器	磁	165	33	
1210	磁器	磁	163	33	
1180	磁器	磁	140	34	

番号	種別	種/産成/材質	銘柄	頁	写真
1125	磁器	磁	磁	84	10
1204	磁器	磁	磁	122	16
1206	磁器	磁	磁	163	13
1212	磁器	磁	磁	263	30
1099	磁器	青磁	磁	67	7
1139	磁器	青磁	磁	71	8
1130	磁器	青磁	磁	83	10
1219	磁器	磁	磁	69	6
1594	磁器	磁	磁	143	13
1611	磁器	磁	磁	170	15
2008	土器	灰胎	磁	22	23
2014	土器	灰胎	磁	42	32
2020	土器	灰胎	磁	22	23
2021	土器	灰胎	磁	22	23
2022	土器	灰胎	磁	22	23
2027	土器	灰胎	磁	47	36
2034	土器	灰胎	磁	22	23
2041	土器	灰胎	磁	109	79
2076	土器	灰胎	磁	178	125
2077	土器	灰胎	磁	178	125
2078	土器	灰胎	磁	178	125
2080	土器	灰胎	磁	125	178
2091	土器	灰胎	磁	225	162
2109	土器	灰胎	磁	188	140
2115	土器	灰胎	磁	225	162
2117	土器	灰胎	磁	191	136
2121	土器	灰胎	磁	214	147
2124	土器	灰胎	磁	215	157
2125	土器	灰胎	磁	215	157
2145	土器	灰胎	磁	187	133
2173	土器	灰胎	磁	201	143
2184	土器	灰胎	磁	208	148
2217	土器	灰胎	磁	205	146
2218	土器	灰胎	磁	203	145
2223	土器	灰胎	磁	203	145
2229	土器	灰胎	磁	205	146
2230	土器	灰胎	磁	205	146
2231	土器	灰胎	磁	205	146
2234	土器	灰胎	磁	205	146
2237	土器	灰胎	磁	205	146
1903	土器	灰胎	磁	191	24
2106	土器	灰胎	磁	191	24
2140	土器	灰胎	磁	192	136
2141	土器	灰胎	磁	192	136
2142	土器	灰胎	磁	192	136
2143	土器	灰胎	磁	192	136
2144	土器	灰胎	磁	192	136
2145	土器	灰胎	磁	192	136
2146	土器	灰胎	磁	192	136
2147	土器	灰胎	磁	192	136
2148	土器	灰胎	磁	192	136
2149	土器	灰胎	磁	192	136
2150	土器	灰胎	磁	192	136
2151	土器	灰胎	磁	192	136
2152	土器	灰胎	磁	192	136
2153	土器	灰胎	磁	192	136
2154	土器	灰胎	磁	192	136
2155	土器	灰胎	磁	192	136
2156	土器	灰胎	磁	192	136
2157	土器	灰胎	磁	192	136
2158	土器	灰胎	磁	192	136
2159	土器	灰胎	磁	192	136
2160	土器	灰胎	磁	192	136
2161	土器	灰胎	磁	192	136
2162	土器	灰胎	磁	192	136
2163	土器	灰胎	磁	192	136
2164	土器	灰胎	磁	192	136
2165	土器	灰胎	磁	192	136
2166	土器	灰胎	磁	192	136
2167	土器	灰胎	磁	192	136
2168	土器	灰胎	磁	192	136
2169	土器	灰胎	磁	192	136
2170	土器	灰胎	磁	192	136
2171	土器	灰胎	磁	192	136
2172	土器	灰胎	磁	192	136
2173	土器	灰胎	磁	192	136
2174	土器	灰胎	磁	192	136
2175	土器	灰胎	磁	192	136
2176	土器	灰胎	磁	192	136
2177	土器	灰胎	磁	192	136
2178	土器	灰胎	磁	192	136
2179	土器	灰胎	磁	192	136
2180	土器	灰胎	磁	192	136
2181	土器	灰胎	磁	192	136
2182	土器	灰胎	磁	192	136
2183	土器	灰胎	磁	192	136
2184	土器	灰胎	磁	192	136
2185	土器	灰胎	磁	192	136
2186	土器	灰胎	磁	192	136
2187	土器	灰胎	磁	192	136
2188	土器	灰胎	磁	192	136
2189	土器	灰胎	磁	192	136
2190	土器	灰胎	磁	192	136
2191	土器	灰胎	磁	192	136
2192	土器	灰胎	磁	192	136
2193	土器	灰胎	磁	192	136
2194	土器	灰胎	磁	192	136
2195	土器	灰胎	磁	192	136
2196	土器	灰胎	磁	192	136
2197	土器	灰胎	磁	192	136
2198	土器	灰胎	磁	192	136
2199	土器	灰胎	磁	192	136
2200	土器	灰胎	磁	192	136
2201	土器	灰胎	磁	192	136
2202	土器	灰胎	磁	192	136
2203	土器	灰胎	磁	192	136
2204	土器	灰胎	磁	192	136
2205	土器	灰胎	磁	192	136
2206	土器	灰胎	磁	192	136
2207	土器	灰胎	磁	192	136
2208	土器	灰胎	磁	192	136
2209	土器	灰胎	磁	192	136
2210	土器	灰胎	磁	192	136
2211	土器	灰胎	磁	192	136
2212	土器	灰胎	磁	192	136
2213	土器	灰胎	磁	192	136
2214	土器	灰胎	磁	192	136
2215	土器	灰胎	磁	192	136
2216	土器	灰胎	磁	192	136
2217	土器	灰胎	磁	192	136
2218	土器	灰胎	磁	192	136
2219	土器	灰胎	磁	192	136
2220	土器	灰胎	磁	192	136
2221	土器	灰胎	磁	192	136
2222	土器	灰胎	磁	192	136
2223	土器	灰胎	磁	192	136
2224	土器	灰胎	磁	192	136
2225	土器	灰胎	磁	192	136
2226	土器	灰胎	磁	192	136
2227	土器	灰胎	磁	192	136
2228	土器	灰胎	磁	192	136
2229	土器	灰胎	磁	192	136
2230	土器	灰胎	磁	192	136
2231	土器	灰胎	磁	192	136
2232	土器	灰胎	磁	192	136
2233	土器	灰胎	磁	192	136
2234	土器	灰胎	磁	192	136
2235	土器	灰胎	磁	192	136
2236	土器	灰胎	磁	192	136
2237	土器	灰胎	磁	192	136
2238	土器	灰胎	磁	192	136
2239	土器	灰胎	磁	192	136
2240	土器	灰胎	磁	192	136
2241	土器	灰胎	磁	192	136
2242	土器	灰胎</			

IV 資料

番号	種別	種/構成/材質	形態	頁	写真
1152	紙器	巻付	紙	54	9
1154	紙器	巻付	紙	69	2
1158	紙器	巻付	紙	87	2
1163	紙器	巻付	紙	7	20
1166	紙器	巻付	紙	222	26
1957	紙器	白紙	紙	25	5
1160	紙器	白紙	紙	222	26
1169	紙器	白紙	紙	67	10
1170	紙器	白紙	紙	67	10
1296	紙器	天竺織	紙	24	5
1571	陶器	滑石	瓦	69	6
1573	陶器	滑石	瓦	88	11
1881	陶器	灰	瓦	25	5
1548	陶器	灰	瓦	163	13
1880	陶器	灰	瓦	64	4
1887	陶器	灰	瓦	164	4
1887	陶器	灰	瓦	63	4
1979	陶器	灰	瓦	225	4
1708	陶器	灰	瓦	54	2
1572	陶器	二赤	瓦	140	14
1866	陶器	二赤	瓦	22	4
1567	陶器	赤	瓦	141	14
1571	陶器	練上汁	瓦	164	15
1759	陶器	滑石	瓦	164	15
1718	陶器	滑石	瓦	161	22
2011	陶器	滑石	瓦	61	50
1636	土器	瓦	24	24	
2182	土器	瓦	206	148	
1563	陶器	灰	瓦	141	14
1487	陶器	灰	瓦	89	11
1875	陶器	灰	瓦	4	1219
1877	陶器	灰	瓦	209	4
2023	陶器	灰	瓦	20	5
1303	陶器	灰	瓦	206	4
1306	陶器	灰	瓦	23	5
1578	土器	小瓦	瓦	141	14
1156	紙器	巻付	紙	95	10
1161	紙器	巻付	紙	222	26
1167	紙器	巻付	紙	11	11
1229	陶器	粉砂	瓦	34	5
1404	陶器	粉砂	瓦	32	5
1405	陶器	粉砂	瓦	22	5
1406	陶器	粉砂	瓦	67	11
1362	陶器	粉砂	瓦	71	10
1411	陶器	粉砂	瓦	171	22
1379	陶器	粉砂	瓦	41	7
1391	陶器	粉砂	瓦	66	9
1387	陶器	粉砂	瓦	59	8
1386	陶器	粉砂	瓦	54	9
1387	陶器	粉砂	瓦	222	26
1370	陶器	粉砂	瓦	46	7
1576	陶器	粉砂	瓦	94	9
1414	陶器	粉砂	瓦	119	13
1384	陶器	粉砂	瓦	56	12
1385	陶器	粉砂	瓦	74	10
1343	陶器	粉砂	瓦	24	5
1388	陶器	灰	瓦	34	9
1389	陶器	灰	瓦	91	8
1242	陶器	灰	瓦	44	7
1866	陶器	白化粧	瓦	170	15
1374	陶器	滑石	瓦	42	7
1378	陶器	滑石	瓦	95	12
1380	陶器	滑石	瓦	11	1717
1395	陶器	滑石	瓦	54	9
1399	陶器	滑石	瓦	54	9
1573	陶器	滑石	瓦	141	14
1282	陶器	滑石	瓦	141	14
1172	陶器	巻付	瓦	141	14
1648	陶器	巻付	瓦	183	13
1284	陶器	巻付	瓦	98	12
1080	陶器	白紙	瓦	87	11
1162	陶器	巻付	瓦	222	26
1285	陶器	巻付	瓦	222	26
1393	陶器	巻付	瓦	31	5
1047	陶器	滑石	瓦	44	2
1928	陶器	滑石	瓦	224	24
1879	陶器	灰	瓦	189	4
1884	陶器	灰	瓦	187	4
2394	陶器	灰	瓦	207	168
2065	陶器	灰	瓦	65	10
2062	土器	灰	瓦	64	10
2017	土器	灰	瓦	44	10
2068	土器	灰	瓦	192	137
2131	土器	灰	瓦	192	137
2146	土器	灰	瓦	192	137
2149	土器	灰	瓦	192	137
1527	陶器	自然釉	瓦	192	137
1373	陶器	自然釉	瓦	86	11
1384	陶器	自然釉	瓦	6	6
1523	陶器	自然釉	瓦	95	12
1525	陶器	自然釉	瓦	22	5
1524	陶器	自然釉	瓦	224	16
1854	土器	灰	瓦	225	25
1549	陶器	自然釉	瓦	23	5
1540	陶器	自然釉	瓦	25	5
1521	陶器	自然釉	瓦	23	5
1522	陶器	自然釉	瓦	55	9
1650	陶器	自然釉	瓦	192	137
1651	陶器	自然釉	瓦	141	13
1652	陶器	自然釉	瓦	142	14
1643	陶器	自然釉	瓦	143	15
1642	陶器	自然釉	瓦	144	16
1621	陶器	自然釉	瓦	143	14
1622	陶器	自然釉	瓦	143	14
1623	陶器	自然釉	瓦	143	14
1624	陶器	自然釉	瓦	143	14
1625	陶器	自然釉	瓦	143	14
1626	陶器	自然釉	瓦	143	14
1627	陶器	自然釉	瓦	143	14
1628	陶器	自然釉	瓦	143	14
1629	陶器	自然釉	瓦	143	14
1630	陶器	自然釉	瓦	143	14
1631	陶器	自然釉	瓦	143	14
1632	陶器	自然釉	瓦	143	14
1633	陶器	自然釉	瓦	143	14
1634	陶器	自然釉	瓦	143	14
1635	陶器	自然釉	瓦	143	14
1636	陶器	自然釉	瓦	143	14
1637	陶器	自然釉	瓦	143	14
1638	陶器	自然釉	瓦	143	14
1639	陶器	自然釉	瓦	143	14
1640	陶器	自然釉	瓦	143	14
1641	陶器	自然釉	瓦	143	14
1642	陶器	自然釉	瓦	143	14
1643	陶器	自然釉	瓦	143	14
1644	陶器	自然釉	瓦	143	14
1645	陶器	自然釉	瓦	143	14
1646	陶器	自然釉	瓦	143	14
1647	陶器	自然釉	瓦	143	14
1648	陶器	自然釉	瓦	143	14
1649	陶器	自然釉	瓦	143	14
1650	陶器	自然釉	瓦	143	14
1651	陶器	自然釉	瓦	143	14
1652	陶器	自然釉	瓦	143	14
1653	陶器	自然釉	瓦	143	14
1654	陶器	自然釉	瓦	143	14
1655	陶器	自然釉	瓦	143	14
1656	陶器	自然釉	瓦	143	14
1657	陶器	自然釉	瓦	143	14
1658	陶器	自然釉	瓦	143	14
1659	陶器	自然釉	瓦	143	14
1660	陶器	自然釉	瓦	143	14
1661	陶器	自然釉	瓦	143	14
1662	陶器	自然釉	瓦	143	14
1663	陶器	自然釉	瓦	143	14
1664	陶器	自然釉	瓦	143	14
1665	陶器	自然釉	瓦	143	14
1666	陶器	自然釉	瓦	143	14
1667	陶器	自然釉	瓦	143	14
1668	陶器	自然釉	瓦	143	14
1669	陶器	自然釉	瓦	143	14
1670	陶器	自然釉	瓦	143	14
1671	陶器	自然釉	瓦	143	14
1672	陶器	自然釉	瓦	143	14
1673	陶器	自然釉	瓦	143	14
1674	陶器	自然釉	瓦	143	14
1675	陶器	自然釉	瓦	143	14
1676	陶器	自然釉	瓦	143	14
1677	陶器	自然釉	瓦	143	14
1678	陶器	自然釉	瓦	143	14
1679	陶器	自然釉	瓦	143	14
1680	陶器	自然釉	瓦	143	14
1681	陶器	自然釉	瓦	143	14
1682	陶器	自然釉	瓦	143	14
1683	陶器	自然釉	瓦	143	14
1684	陶器	自然釉	瓦	143	14
1685	陶器	自然釉	瓦	143	14
1686	陶器	自然釉	瓦	143	14
1687	陶器	自然釉	瓦	143	14
1688	陶器	自然釉	瓦	143	14
1689	陶器	自然釉	瓦	143	14
1690	陶器	自然釉	瓦	143	14
1691	陶器	自然釉	瓦	143	14
1692	陶器	自然釉	瓦	143	14
1693	陶器	自然釉	瓦	143	14
1694	陶器	自然釉	瓦	143	14
1695	陶器	自然釉	瓦	143	14
1696	陶器	自然釉	瓦	143	14
1697	陶器	自然釉	瓦	143	14
1698	陶器	自然釉	瓦	143	14
1699	陶器	自然釉	瓦	143	14
1700	陶器	自然釉	瓦	143	14

番号	種別	種/構成/材質	形態	頁	写真
1533	陶器	白化粧	瓦	224	16
1581	陶器	白化粧	瓦	142	14
1582	陶器	白化粧	瓦	142	14
1747	陶器	白化粧	瓦	118	81
1749	陶器	白化粧	瓦	218	84
1825	陶器	白化粧	瓦	118	81
1823	陶器	白化粧	瓦	118	81
1824	陶器	白化粧	瓦	180	10
1922	陶器	白化粧	瓦	180	10
1309	陶器	滑石	瓦	44	7
1750	陶器	滑石	瓦	118	84
1369	陶器	滑石	瓦	164	15
1220	陶器	滑石	瓦	24	5
1369	陶器	滑石	瓦	54	9
1575	陶器	滑石	瓦	164	15
1383	陶器	滑石	瓦	86	10
1799	陶器	滑石	瓦	163	117
2071	陶器	滑石	瓦	144	103
2132	陶器	滑石	瓦	196	140
2196	陶器	滑石	瓦	191	136
2205	陶器	滑石	瓦	207	147
2206	陶器	滑石	瓦	207	147
2207	陶器	滑石	瓦	207	147
2208	陶器	滑石	瓦	207	147
2209	陶器	滑石	瓦	207	147
2210	陶器	滑石	瓦	207	147
2211	陶器	滑石	瓦	207	147
2212	陶器	滑石	瓦	207	147
2213	陶器	滑石	瓦	207	147
2214	陶器	滑石	瓦	207	147
2215	陶器	滑石	瓦	207	147
2216	陶器	滑石	瓦	207	147
2217	陶器	滑石	瓦	207	147
2218	陶器	滑石	瓦	207	147
2219	陶器	滑石	瓦	207	147
2220	陶器	滑石	瓦	207	147
2221	陶器	滑石	瓦	207	147
2222	陶器	滑石	瓦	207	147
2223	陶器	滑石	瓦	207	147
2224	陶器	滑石	瓦	207	147
2225	陶器	滑石	瓦	207	147
2226	陶器	滑石	瓦	207	147
2227	陶器	滑石	瓦	207	147
2228	陶器	滑石	瓦	207	147
2229	陶器	滑石	瓦	207	147
2230	陶器	滑石	瓦	207	147
2231	陶器	滑石	瓦	207	147
2232	陶器	滑石	瓦	207	147
2233	陶器	滑石	瓦	207	147
2234	陶器	滑石	瓦	207	147
2235	陶器	滑石	瓦	207	147
2236	陶器	滑石	瓦	207	147
2237	陶器	滑石	瓦	207	147
2238	陶器	滑石	瓦	207	147
2239	陶器	滑石	瓦	207	147
2240	陶器	滑石	瓦	207	147
2241	陶器	滑石	瓦	207	147
2242	陶器	滑石	瓦	207	147
2243	陶器	滑石	瓦	207	147
2244	陶器	滑石	瓦	207	147
2245	陶器	滑石	瓦	207	147
2246	陶器	滑石	瓦	207	147
2247	陶器	滑石	瓦	207	147
2248	陶器	滑石	瓦	207	147
2249	陶器	滑石	瓦	207	147
2250	陶器	滑石	瓦	207	147
2251	陶器	滑石	瓦	207	147
2252	陶器	滑石</			

3 遺物検索表

番号	種別	物/構成/材質	器形	頁	写真
4068	石造物	磨光安山岩	石臼下玉	58	46
4070	石造物	磨光安山岩	石臼下玉	58	46
4071	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	58	46
4075	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	90	66
4077	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	90	66
4082	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	58	46
4083	石造物	磨光安山岩	石臼下玉	153	107
4095	石造物	磨光安山岩	石臼下玉	153	107
4107	石造物	磨光安山岩	石臼下玉	153	107
4108	石造物	磨光安山岩	石臼下玉	153	107
4111	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	40	26
4184	石造物	磨光安山岩	石臼下玉	46	26
4111	石造物	磨光安山岩	石臼下玉	46	26
4122	石造物	磨光安山岩	石臼下玉	46	26
4153	石造物	磨光安山岩	石臼下玉	46	26
4130	石造物	磨光安山岩	石臼下玉	41	27
4155	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	105	76
4189	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	125	23
4144	石造物	磨光安山岩	石臼下玉	223	161
4180	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	131	107
4180	石造物	磨光安山岩	石臼下玉	84	64
4359	石造物	牛伏砂岩	石臼下玉	46	26
4184	石造物	牛伏砂岩	石臼上玉	99	72
4022	石造物	凝灰岩質砂岩	石臼下玉	153	107
4096	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	153	107
4094	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	153	107
4067	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	54	43
4085	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	58	46
4099	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	153	107
4111	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	46	26
4112	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	46	26
4113	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	46	26
4120	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	46	26
4125	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	46	26
4141	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	58	46
4149	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	108	74
4150	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	74	54
4153	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	81	61
4156	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	81	61
4158	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	223	161
4169	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	84	64
4170	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	64	44
4172	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	75	56
4175	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	75	56
4176	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	75	56
4181	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	159	112
4353	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	159	112
4353	石造物	磨光安山岩	石臼上玉	159	112
4377	石造物	磨光安山岩	茶臼上玉	223	161
4145	石造物	磨光安山岩	茶臼上玉	223	161
4350	石造物	磨光安山岩	茶臼上玉	159	112
4179	石造物	磨光安山岩	茶臼上玉	84	64
4181	石造物	磨光安山岩	茶臼上玉	84	64
4352	石造物	磨光安山岩	茶臼上玉	159	112
4154	石造物	磨光安山岩	茶臼上玉	23	23
4159	石造物	磨光安山岩	茶臼上玉	23	23
4387	石造物	磨光安山岩	茶臼上玉	158	111
1542	陶器	土質	土皿	13	13
1554	陶器	土質	土皿	14	14
1555	陶器	土質	土皿	14	14
1604	陶器	土質	土皿	225	16
1609	土器	瓦質	土器	49	26
1664	土器	瓦質	土器	97	70
1667	土器	瓦質	土器	125	45
1658	土器	瓦質	土器	57	46
1669	土器	瓦質	土器	56	45
1690	土器	瓦質	土器	57	45
1691	土器	瓦質	土器	57	45
1692	土器	瓦質	土器	57	45
1694	土器	瓦質	土器	57	45
1695	土器	瓦質	土器	88	61
1714	土器	瓦質	土器	89	66
1717	土器	瓦質	土器	115	108
1778	土器	瓦質	土器	158	112
1801	土器	瓦質	土器	158	112
1803	土器	瓦質	土器	143	102
1805	土器	瓦質	土器	143	102
1809	土器	瓦質	土器	117	113
1823	土器	瓦質	土器	118	112
1825	土器	瓦質	土器	158	111
1826	土器	瓦質	土器	158	111
1723	土器	瓦質	土器	234	162
1770	土器	瓦質	土器	143	102
1794	土器	瓦質	土器	69	64
1832	土器	瓦質	土器	128	126
1804	土器	瓦質	土器	143	102
1795	土器	瓦質	土器	69	64
1724	土器	瓦質	土器	222	161
1726	土器	瓦質	土器	222	161
1834	土器	瓦質	土器	112	112
1605	陶器	土質	土器	225	16
2003B	銅器	銅	銅	147	104
1799	土器	瓦質	土器	145	103
1806	土器	瓦質	土器	144	102
1736	土器	瓦質	土器	25	24
2003	土器	瓦質	土器	45	51
2146	土器	土質	土器	175	123
2186	土器	土質	土器	200	149
1774	土器	土質	土器	144	102
1742	土器	瓦質	土器	222	161
1818	土器	瓦質	土器	112	112
2041	陶器	瓦質	土器	57	45
2138	土器	瓦質	土器	191	136
1863	土器	瓦質	土器	128	126
1509	土器	瓦質	土器	49	45
1834	土器	瓦質	土器	24	24
1838	土器	瓦質	土器	24	24
1640	土器	瓦質	土器	34	24

番号	種別	物/構成/材質	器形	頁	写真
1642	土器	瓦質	土器	29	26
1706	土器	瓦質	土器	80	61
1710	土器	瓦質	土器	80	61
1721	土器	瓦質	土器	74	56
1765	土器	瓦質	土器	144	102
1791	土器	瓦質	土器	144	102
1784	土器	瓦質	土器	144	102
1785	土器	瓦質	土器	146	103
1793	土器	瓦質	土器	146	103
1793	土器	瓦質	土器	225	162
1823	土器	瓦質	土器	144	102
1740	土器	瓦質	土器	25	24
1730	土器	瓦質	土器	31	24
1853	土器	瓦質	土器	25	24
3030A	銅器	銅	銅	80	61
5013B	銅器	銅	銅	223	162
5068A	銅器	銅	銅	223	162
5068B	銅器	銅	銅	170	121
1644	土器	瓦質	土器	41	32
1646	土器	瓦質	土器	47	36
1650	土器	瓦質	土器	41	32
1653	土器	瓦質	土器	22	23
1654	土器	瓦質	土器	22	23
1656	土器	瓦質	土器	29	29
1657	土器	瓦質	土器	98	70
1658	土器	瓦質	土器	98	70
1660	土器	瓦質	土器	96	70
1662	土器	瓦質	土器	98	70
1668	土器	瓦質	土器	56	45
1670	土器	瓦質	土器	45	45
1671	土器	瓦質	土器	56	45
1672	土器	瓦質	土器	56	45
1673	土器	瓦質	土器	66	66
1674	土器	瓦質	土器	56	45
1675	土器	瓦質	土器	56	45
1676	土器	瓦質	土器	56	45
1677	土器	瓦質	土器	56	45
1678	土器	瓦質	土器	56	45
1679	土器	瓦質	土器	56	45
1680	土器	瓦質	土器	56	45
1681	土器	瓦質	土器	56	45
1682	土器	瓦質	土器	56	45
1683	土器	瓦質	土器	56	45
1684	土器	瓦質	土器	56	45
1685	土器	瓦質	土器	56	45
1686	土器	瓦質	土器	56	45
1687	土器	瓦質	土器	56	45
1688	土器	瓦質	土器	56	45
1689	土器	瓦質	土器	56	45
1690	土器	瓦質	土器	56	45
1691	土器	瓦質	土器	56	45
1692	土器	瓦質	土器	56	45
1693	土器	瓦質	土器	56	45
1694	土器	瓦質	土器	56	45
1695	土器	瓦質	土器	56	45
1696	土器	瓦質	土器	56	45
1697	土器	瓦質	土器	56	45
1698	土器	瓦質	土器	56	45
1699	土器	瓦質	土器	56	45
1700	土器	瓦質	土器	56	45
1701	土器	瓦質	土器	56	45
1702	土器	瓦質	土器	56	45
1703	土器	瓦質	土器	56	45
1704	土器	瓦質	土器	56	45
1705	土器	瓦質	土器	56	45
1706	土器	瓦質	土器	56	45
1707	土器	瓦質	土器	56	45
1708	土器	瓦質	土器	56	45
1709	土器	瓦質	土器	56	45
1710	土器	瓦質	土器	56	45
1711	土器	瓦質	土器	56	45
1712	土器	瓦質	土器	56	45
1713	土器	瓦質	土器	56	45
1714	土器	瓦質	土器	56	45
1715	土器	瓦質	土器	56	45
1716	土器	瓦質	土器	56	45
1717	土器	瓦質	土器	56	45
1718	土器	瓦質	土器	56	45
1719	土器	瓦質	土器	56	45
1720	土器	瓦質	土器	56	45
1721	土器	瓦質	土器	56	45
1722	土器	瓦質	土器	56	45
1723	土器	瓦質	土器	56	45
1724	土器	瓦質	土器	56	45
1725	土器	瓦質	土器	56	45
1726	土器	瓦質	土器	56	45
1727	土器	瓦質	土器	56	45
1728	土器	瓦質	土器	56	45
1729	土器	瓦質	土器	56	45
1730	土器	瓦質	土器	56	45
1731	土器	瓦質	土器	56	45
1732	土器	瓦質	土器	56	45
1733	土器	瓦質	土器	56	45
1734	土器	瓦質	土器	56	45
1735	土器	瓦質	土器	56	45
1736	土器	瓦質	土器	56	45
1737	土器	瓦質	土器	56	45
1738	土器	瓦質	土器	56	45
1739	土器	瓦質	土器	56	45
1740	土器	瓦質	土器	56	45
1741	土器	瓦質	土器	56	45
1742	土器	瓦質	土器	56	45
1743	土器	瓦質	土器	56	45
1744	土器	瓦質	土器	56	45
1745	土器	瓦質	土器	56	45
1746	土器	瓦質	土器	56	45
1747	土器	瓦質	土器	56	45
1748	土器	瓦質	土器	56	45
1749	土器	瓦質	土器	56	45
1750	土器	瓦質	土器	56	45
1751	土器	瓦質	土器	56	45
1752	土器	瓦質	土器	56	45
1753	土器	瓦質	土器	56	45
1754	土器	瓦質	土器	56	45
1755	土器	瓦質	土器	56	45
1756	土器	瓦質	土器	56	45
1757	土器	瓦質	土器	56	45
1758	土器	瓦質	土器	56	45
1759	土器	瓦質	土器	56	45
1760	土器	瓦質	土器	56	45
1761	土器	瓦質	土器	56	45
1762	土器	瓦質	土器	56	45
1763	土器	瓦質	土器	56	45
1764	土器	瓦質	土器	56	45
1765	土器	瓦質	土器	56	45
1766	土器	瓦質	土器	56	45
1767	土器	瓦質	土器	56	45
1768	土器	瓦質	土器	56	45
1769	土器	瓦質	土器	56	45
1770	土器	瓦質	土器	56	45
1771	土器	瓦質	土器	56	45
1772	土器	瓦質</			

IV 資料

番号	種別	物/産地/材質	部形	頁	写真
5009	鉄貨	有孔銀貨	不明	164	117
5010C	鉄貨	有孔銀貨	不明	164	117
5011	鉄貨	有孔銀貨	不明	164	117
5030M	鉄貨	有孔銀貨	不明	67	52
5030S	鉄貨	有孔銀貨	不明	156	101
5039	アルミ銭	無孔銀貨	一銭	174	120
農具・武器					
5032	金貨彫	鉄	鏟	223	162
5065	木造	コナラ彫		136	99
5176	木造	コナラ彫		136	99
3226	木造	コナラ彫		136	99
5061	金貨彫	鉄	鏟	84	64
5062	金貨彫	鉄	鏟	165	75
5030D	金貨彫	鉄	小鍬	80	61
5031A	金貨彫	鉄	鍬	103	74
5032A	金貨彫	鉄	鍬	181	128
5052	金貨彫	鉄	鍬	42	32
5051A	金貨彫	鉄	鍬	223	162
5051A	金貨彫	鉄	鍬	158	124
5067	金貨彫	鉄	鍬	223	161
5058	金貨彫	鉄	鍬	77	57
5058	金貨彫	鉄	鍬	44	36
5057	金貨彫	鉄	鍬	221	161
5049	金貨彫	鉄	鍬	172	121
5043	金貨彫	鉄	鍬	159	79
3482	木造	ケナラ	ケナラ	136	99
5099	金貨彫	鉄	ピッケル	223	162
5041B	金貨彫	鉄	活り丸ノコ	35	24
5103A	金貨彫	鉄	活り丸ノコ	49	38
5100B	金貨彫	鉄	活り丸ノコ	49	38
5102C	金貨彫	鉄	活り丸ノコ	49	38
3018	土製品	土製瓦	ワイフ口口	51	43
3019	土製品	土製瓦	ワイフ口口	109	79
3045	土製品	土製瓦	ワイフ口口	109	79
3046	土製品	土製瓦	ワイフ口口	109	79
3047	土製品	土製瓦	ワイフ口口	109	79
2049	土製品	土製瓦	ワイフ口口	109	79
2159	土製品	土製瓦	ワイフ口口	24	24
3029	土製品	瓦	ワイフ口口	221	161
4366	石製品	成産石	銅鏡ヤ	189	112
4362	石製品	内穴石製山鏡		4314	79
4363	石製品	内穴石製山鏡		4315	79
4364	石製品	内穴石製山鏡		4316	79
4365	石製品	内穴石製山鏡		4317	79
4367	石製品	東海産銅鏡		209	147
8111	金貨	土製瓦	鉄貨	170	121
1807	土製品	土製瓦	銅鏡	25	23
1800	土製品	土製瓦		226	162
1920	土製品	土製瓦		226	162
5110	土製品	土製瓦		226	162
5034	金貨彫	鉄	鉄鍬	147	100
5045	金貨彫	鉄	鍬	187	133
5079	金貨彫	鉄	鍬	200	142
5052A	金貨彫	鉄	鍬	50	64
5054	金貨彫	鉄	刀	203	142
5056	金貨彫	鉄	刀	83	64
5057A	金貨彫	鉄	刀	83	64
5057A	金貨彫	鉄	刀	83	64
5039	金貨彫	鉄	刀	35	24
5046	金貨彫	鉄	刀	178	124
5056	金貨彫	鉄	刀	35	24
5057	金貨彫	鉄	刀	29	26
5062C	金貨彫	鉄	刀	215	156
5074A	金貨彫	鉄	刀	29	26
4356	石製品	成産石	刀	42	32
4367	石製品	成産石	刀	24	24
4368	石製品	成産石	刀	35	29
4369	石製品	成産石	刀	42	32
4370	石製品	成産石	刀	31	45
4371	石製品	成産石	刀	39	28
4372	石製品	成産石	刀	29	26
4373	石製品	成産石	刀	29	26
4374	石製品	成産石	刀	29	26
4375	石製品	成産石	刀	29	26
4376	石製品	成産石	刀	29	26
4377	石製品	成産石	刀	29	26
4378	石製品	成産石	刀	29	26
4379	石製品	成産石	刀	29	26
4380	石製品	成産石	刀	29	26
4381	石製品	成産石	刀	29	26
4382	石製品	成産石	刀	29	26
4383	石製品	成産石	刀	29	26
4384	石製品	成産石	刀	29	26
4385	石製品	成産石	刀	29	26
4386	石製品	成産石	刀	29	26
4387	石製品	成産石	刀	29	26
4388	石製品	成産石	刀	29	26
4389	石製品	成産石	刀	29	26
4390	石製品	成産石	刀	29	26
4391	石製品	成産石	刀	29	26
4392	石製品	成産石	刀	29	26
4393	石製品	成産石	刀	29	26
4394	石製品	成産石	刀	29	26
4395	石製品	成産石	刀	29	26
4396	石製品	成産石	刀	29	26
4397	石製品	成産石	刀	29	26
4398	石製品	成産石	刀	29	26
4399	石製品	成産石	刀	29	26
4400	石製品	成産石	刀	29	26
4401	石製品	成産石	刀	29	26
4402	石製品	成産石	刀	29	26
4403	石製品	成産石	刀	29	26
4404	石製品	成産石	刀	29	26
4405	石製品	成産石	刀	29	26
4406	石製品	成産石	刀	29	26
4407	石製品	成産石	刀	29	26
4408	石製品	成産石	刀	29	26
4409	石製品	成産石	刀	29	26
4410	石製品	成産石	刀	29	26
4411	石製品	成産石	刀	29	26
4412	石製品	成産石	刀	29	26
4413	石製品	成産石	刀	29	26
4414	石製品	成産石	刀	29	26
4415	石製品	成産石	刀	29	26
4416	石製品	成産石	刀	29	26
4417	石製品	成産石	刀	29	26
4418	石製品	成産石	刀	29	26
4419	石製品	成産石	刀	29	26
4420	石製品	成産石	刀	29	26
4421	石製品	成産石	刀	29	26
4422	石製品	成産石	刀	29	26
4423	石製品	成産石	刀	29	26
4424	石製品	成産石	刀	29	26
4425	石製品	成産石	刀	29	26
4426	石製品	成産石	刀	29	26
4427	石製品	成産石	刀	29	26
4428	石製品	成産石	刀	29	26
4429	石製品	成産石	刀	29	26
4430	石製品	成産石	刀	29	26
4431	石製品	成産石	刀	29	26
4432	石製品	成産石	刀	29	26
4433	石製品	成産石	刀	29	26
4434	石製品	成産石	刀	29	26
4435	石製品	成産石	刀	29	26
4436	石製品	成産石	刀	29	26
4437	石製品	成産石	刀	29	26
4438	石製品	成産石	刀	29	26
4439	石製品	成産石	刀	29	26
4440	石製品	成産石	刀	29	26
4441	石製品	成産石	刀	29	26
4442	石製品	成産石	刀	29	26
4443	石製品	成産石	刀	29	26
4444	石製品	成産石	刀	29	26
4445	石製品	成産石	刀	29	26
4446	石製品	成産石	刀	29	26
4447	石製品	成産石	刀	29	26
4448	石製品	成産石	刀	29	26
4449	石製品	成産石	刀	29	26
4450	石製品	成産石	刀	29	26
4451	石製品	成産石	刀	29	26
4452	石製品	成産石	刀	29	26
4453	石製品	成産石	刀	29	26
4454	石製品	成産石	刀	29	26
4455	石製品	成産石	刀	29	26
4456	石製品	成産石	刀	29	26
4457	石製品	成産石	刀	29	26
4458	石製品	成産石	刀	29	26
4459	石製品	成産石	刀	29	26
4460	石製品	成産石	刀	29	26
4461	石製品	成産石	刀	29	26
4462	石製品	成産石	刀	29	26
4463	石製品	成産石	刀	29	26
4464	石製品	成産石	刀	29	26
4465	石製品	成産石	刀	29	26
4466	石製品	成産石	刀	29	26
4467	石製品	成産石	刀	29	26
4468	石製品	成産石	刀	29	26
4469	石製品	成産石	刀	29	26
4470	石製品	成産石	刀	29	26
4471	石製品	成産石	刀	29	26
4472	石製品	成産石	刀	29	26
4473	石製品	成産石	刀	29	26
4474	石製品	成産石	刀	29	26
4475	石製品	成産石	刀	29	26
4476	石製品	成産石	刀	29	26
4477	石製品	成産石	刀	29	26
4478	石製品	成産石	刀	29	26
4479	石製品	成産石	刀	29	26
4480	石製品	成産石	刀	29	26
4481	石製品	成産石	刀	29	26
4482	石製品	成産石	刀	29	26
4483	石製品	成産石	刀	29	26
4484	石製品	成産石	刀	29	26
4485	石製品	成産石	刀	29	26
4486	石製品	成産石	刀	29	26
4487	石製品	成産石	刀	29	26
4488	石製品	成産石	刀	29	26
4489	石製品	成産石	刀	29	26
4490	石製品	成産石	刀	29	26
4491	石製品	成産石	刀	29	26
4492	石製品	成産石	刀	29	26
4493	石製品	成産石	刀	29	26
4494	石製品	成産石	刀	29	26
4495	石製品	成産石	刀	29	26
4496	石製品	成産石	刀	29	26
4497	石製品	成産石	刀	29	26
4498	石製品	成産石	刀	29	26
4499	石製品	成産石	刀	29	26
4500	石製品	成産石	刀	29	26
4501	石製品	成産石	刀	29	26
4502	石製品	成産石	刀	29	26
4503	石製品	成産石	刀	29	26
4504	石製品	成産石	刀	29	26
4505	石製品	成産石	刀	29	26
4506	石製品	成産石	刀	29	26
4507	石製品	成産石	刀	29	26
4508	石製品	成産石	刀	29	26
4509	石製品	成産石	刀	29	26
4510	石製品	成産石	刀	29	26
4511	石製品	成産石	刀	29	26
4512	石製品	成産石	刀	29	26
4513	石製品	成産石	刀	29	26
4514	石製品	成産石	刀	29	26
4515	石製品	成産石	刀	29	26
4516	石製品	成産石	刀	29	26
4517	石製品	成産石	刀	29	26
4518	石製品	成産石	刀	29	26
4519	石製品	成産石	刀	29	26
4520	石製品	成産石	刀	29	26
4521	石製品	成産石	刀	29	26
4522	石製品	成産石	刀	29	26
4523	石製品	成産石	刀	29	26
4524	石製品	成産石	刀	29	26
4525	石製品	成産石	刀	29	26
4526	石製品	成産石	刀	29	26
4527	石製品	成産石	刀	29	26
4528	石製品	成産石	刀	29	26
4529	石製品	成産石	刀	29	26
4530	石製品	成産石	刀	29	26
4531	石製品	成産石	刀	29	26
4532	石製品	成産石	刀	29	26
4533	石製品	成産石	刀	29	26
4534	石製品	成産石	刀	29	26
4535	石製品	成産石	刀	29	26
4536	石製品	成産石	刀	29	26
4537	石製品	成産石	刀	29	26
4538	石製品	成産石	刀	29	26
4539	石製品	成産石	刀	29	26
4540	石製品	成産石	刀	29	26
4541	石製品	成産石	刀	29	26
4542	石製品	成産石	刀	29	26
4543	石製品	成産石	刀	29	26
4544	石製品	成産石	刀	29	26
4545	石製品	成産石	刀	29	26
4546	石製品	成産石	刀	29	26
4547	石製品	成産石	刀	29	26
4548	石製品	成産石	刀	29	26
4549	石製品	成産石	刀	29	

3 遺物検索表

番号	種類	胎/焼成/材質	形状	頁	写真	番号	種類	胎/焼成/材質	形状	頁	写真
4242	石製品	ホクレンツェルス	硬石	83	64	3153	木製品	コナツ節	杖	133	97
4259	石製品	硬石	硬石	83	63	3205	石製品	コナツ節	杖	133	97
4238	石製品	ニゴ石礫石	硬石?	225	102	3203	木製品	コナツ節	杖	134	96
4236	石製品	野石	硬石?	83	64	3067	木製品	ヤワラクサ	杖	124	97
4413	石製品	新石分級	新石分級	223	161	3184	木製品	ヤワラクサ	杖	133	97
遺物											
2251	土製品	瓦	瓦	159	113	3187	木製品	ヤワラクサ	杖	133	97
2255	土製品	瓦	瓦	159	113	3197	木製品	ヤワラクサ	杖	58	46
2256	土製品	瓦	瓦	159	113	3199	木製品	ヤワラクサ	杖	58	46
2257	土製品	瓦	瓦	159	113	3200	木製品	ヤワラクサ	杖	58	46
2258	土製品	瓦	瓦	159	113	3210	木製品	ヤワラクサ	杖	58	46
2260	土製品	瓦	瓦	146	104	3002	木製品	スギ	杖	134	97
2261	土製品	瓦	瓦	146	103	3002	木製品	スギ	杖	134	96
2264	土製品	瓦	瓦	159	111	3073	木製品	スギ	杖	134	96
2267	土製品	瓦	瓦	146	104	3074	木製品	スギ	杖	135	98
2270	土製品	瓦	瓦	75	56	3075	木製品	スギ	杖	134	96
2274	土製品	瓦	瓦	187	133	3076	木製品	スギ	杖	134	96
2275	土製品	瓦	瓦	164	117	3077	木製品	スギ	杖	135	98
2282	土製品	瓦	新瓦	146	104	3110	木製品	スギ	杖	135	98
2288	土製品	瓦	新瓦	146	103	3135	木製品	スギ	杖	134	97
2259	土製品	瓦	平瓦	146	103	3138	木製品	スギ	杖	134	97
2263	土製品	瓦	平瓦	146	104	3140	木製品	スギ	杖	133	97
2271	土製品	瓦	平瓦	146	104	3145	木製品	スギ	杖	133	97
2273	土製品	瓦	平瓦	163	117	3149	木製品	スギ	杖	133	97
2274	土製品	瓦	瓦	146	104	3154	木製品	スギ	杖	133	97
2285	土製品	瓦	焼附瓦	146	103	3188	木製品	スギ	杖	133	97
2287	土製品	瓦	焼附瓦	87	52	3189	木製品	スギ	杖	133	97
2288	土製品	瓦	焼附瓦	146	104	3195	木製品	スギ	杖	133	97
2299	土製品	瓦	焼附瓦	146	104	3195	木製品	スギ	杖	133	97
3113	木製品	スギ	遺具材	138	101	3196	木製品	スギ	杖	133	97
3219	木製品	スギ	遺具材	138	101	3203	木製品	スギ	杖	133	97
3220	木製品	スギ	遺具材	138	101	3205	木製品	スギ	杖	135	98
3221	木製品	スギ	遺具材	138	101	3207	木製品	スギ	杖	135	98
3245	木製品	スギ	遺具材	138	101	3204	木製品	スギ	杖	133	97
3291	木製品	スギ	遺具材	138	101	3205	木製品	スギ	杖	58	46
3296	木製品	スギ	遺具材	138	101	3069	木製品	トナリコ	杖	135	98
3298	木製品	スギ	遺具材	138	101	3072	木製品	トナリコ	杖	135	98
3293	木製品	スギ	遺具材	138	101	3134	木製品	トナリコ	杖	133	97
3270	木製品	スギ	遺具材	101	74	3208	木製品	ハナツク	杖	58	46
3274	木製品	スギ	遺具材	75	56	3070	木製品	シロノ	杖	134	96
3275	木製品	スギ	遺具材	75	56	3154	木製品	マツ属	杖	134	96
3215	木製品	ナツク	遺具材	47	36	3167	木製品	モノ	杖	137	100
5006	金属器	鉄	器	27	26	縄文遺物					
5060	金属器	鉄	筒	49	28	2276	土器	縄文	232	164	
5065	金属器	鉄	筒	147	104	2277	土器	縄文	232	164	
5068	金属器	鉄	筒	42	32	2278	土器	縄文	232	164	
5062B	金属器	鉄	筒	127	100	2279	土器	縄文	232	164	
3171	木製品	ヒノキ属	角材	139	101	2280	土器	縄文	232	164	
3172	木製品	アケマツ	角材	138	101	2281	土器	縄文	232	164	
3259	木製品	スギ	角材	138	101	2282	土器	縄文	232	164	
3260	木製品	スギ	角材	101	74	2284	土器	縄文	232	164	
3280	木製品	スギ	角材	75	56	2285	土器	縄文	232	164	
3286	木製品	ナツク	角材	138	101	2286	土器	縄文	232	164	
5040	金属器	鉄	角釘	89	52	2287	土器	縄文	232	164	
4942	金属器	鉄	角釘	198	140	2288	土器	縄文	232	164	
5060	金属器	鉄	角釘	52	39	2289	土器	縄文	232	164	
5065	金属器	鉄	角釘	147	104	2290	土器	縄文	232	164	
5072	金属器	鉄	角釘	119	86	2291	土器	縄文	232	164	
5109C	金属器	鉄	角釘	4	28	2292	土器	縄文	232	164	
1831	土器	瓦質	燧瓦?	181	128	2294	土器	縄文	232	164	
						2295	土器	縄文	232	164	
						4286	石器		229	163	
遺物部材						4399	石器	スタレイバー	239	163	
3152	木製品	アカガシ	杖	134	96	4400	石器	スタレイバー	239	163	
3190	木製品	アカガシ	杖	134	97	4401	石器	スタレイバー	229	163	
3036	木製品	アカマツ	杖	134	97	4402	石器	スタレイバー	229	163	
3050	木製品	アカマツ	杖	134	97	4404	石器	スタレイバー	229	163	
3051	木製品	アカマツ	杖	134	97	4397	石器	スタレイバー	229	163	
3058	木製品	アカマツ	杖	135	96	4403	石器	三角錐	231	164	
3059	木製品	アカマツ	杖	135	96	4405	石器	石杖	229	163	
3060	木製品	アカマツ	杖	134	97	4406	石器	石杖	229	164	
3063	木製品	アカマツ	杖	135	96	4408	石器	石杖	228	163	
3062	木製品	アカマツ	杖	135	96	4409	石器	石杖	228	163	
3064	木製品	アカマツ	杖	135	96	4410	石器	石杖	228	163	
4066	木製品	アカマツ	杖	134	97	4412	石器	石杖	228	163	
6071	木製品	アカマツ	杖	135	96	4385	石器	石杖	228	163	
3109	木製品	アカマツ	杖	135	96	4386	石器	石杖	228	163	
3122	木製品	アカマツ	杖	133	97	4387	石器	石杖	228	163	
3133	木製品	アカマツ	杖	133	97	4390	石器	石杖	228	163	
3187	木製品	アカマツ	杖	133	97	4378	石器	石杖	228	163	
3201	木製品	アカマツ	杖	58	48	4379	石器	削片	231	164	
3396	木製品	アカマツ	杖	58	46	4380	石器	削片	231	164	
3254	木製品	アカマツ	杖	135	96	4381	石器	削片	231	164	
3267	木製品	アカマツ	杖	135	96	4407	石器	削片	231	164	
3107	木製品	イシノ	杖	135	96	4408	石器	削片	231	164	
3147	木製品	クスノキ	杖	135	96	4389	石器	削片	231	164	
3057	木製品	クスノキ	杖	135	98	4410	石器	削片	231	164	
3061	木製品	クスノキ	杖	135	96	4411	石器	削片	231	164	
3141	木製品	ナツク	杖	133	97	4383	石器	燧石?	231	164	
3143	木製品	ナツク	杖	133	97	4388	石器	燧石?	231	164	
3144	木製品	ナツク	杖	134	97	4389	石器	燧石?	231	164	
3148	木製品	ナツク	杖	134	96	4391	石器	燧石?	231	164	
3148	木製品	ナツク	杖	134	96	4392	石器	燧石?	231	164	
3150	木製品	ナツク	杖	134	97	4393	石器	燧石?	231	164	
3155	木製品	ナツク	杖	134	96	4394	石器	燧石?	231	164	
3156	木製品	ナツク	杖	134	96	4395	石器	燧石?	231	164	
3157	木製品	ナツク	杖	134	97	4396	石器	燧石?	231	164	
3186	木製品	ナツク	杖	58	46	不明					
3207	木製品	ナツク	杖	58	46	1828	土器	瓦質	180	128	
3276	木製品	ナツク	杖	75	56	1829	土器	瓦質	180	128	
3065	木製品	コナツ節	杖	134	97	1805	土器	瓦質	225	162	
3068	木製品	コナツ節	杖	135	96	5057C	金属器	鉄	59	46	
3129	木製品	コナツ節	杖	133	97	5066	金属器	鉄	147	104	
3141	木製品	コナツ節	杖	133	97	5067B	金属器	鉄	179	121	
3183	木製品	コナツ節	杖	133	97	5067C	金属器	鉄	59	46	
3194	木製品	コナツ節	杖	133	97	5068	金属器	鉄	147	104	
3195	木製品	コナツ節	杖	133	97	5069	金属器	鉄	147	104	
3194	木製品	コナツ節	杖	133	97	5074B	金属器	鉄	90	66	

IV 資料

番号	種類	物/地産/材質	品形	頁	写真
5032C	金属部	鉄	環状継ぎ	42	32
5038B	金属部	鉄	環状継ぎ	89	61
5039C	金属部	鉄	環状継ぎ	89	61
3271	木部	シロキ	節輪	81	61
3279	木部	ヒノキ	節輪	79	56
3042	木部	スギ	榿材	136	99
3111	木部	スギ	榿材	136	99
3159	木部	ヒノキ	榿材	136	99
3044	金属部	鉄	榿材	109	71
5076	金属部	鉄	榿材	49	29
5023B	金属部	鉄	榿材	141	126
5109B	金属部	鉄	リ字穴継ぎ	49	28
5041C	金属部	鉄	角継ぎ	25	24
5065A	金属部	鉄	穴	147	104
5041A	金属部	鉄	穴	25	24
5104	金属部	鉄	小径部?	223	161
1229	両面	鉄輪	榿材	27	6
1526	土部	瓦	筒	221	16
4142	石部品	榿粒安山岩	くは山石	58	46
4143	石部品	榿粒安山岩	くは山石	58	46
4365	石部品	榿粒安山岩	くは山石	99	72
4053	石部品	榿粒安山岩	榿粒	151	107
5106	金属部	鋼	一連管	225	162
5022	金属部	鋼	短管	27	26
5059	金属部	鋼	増強管	203	145
5059	金属部	鋼	長方形鋼	47	28
4106	石部品	流紋岩	立方体	150	107
4106	石部品	流紋岩	立方体	150	107
4152	石部品	流紋岩	立方体	150	107
4360	石部品	流紋岩	立方体	159	112
4021	石部品	流紋岩	立方体	150	108
4097	石部品	流紋岩	立方体	150	107
4412	石部品	流紋岩	立方体	170	121
3066	土部品	土	半丸	25	24
3053	木部品	チヤチヤ	半丸	67	52
1701	土部	土	半丸	69	52
5012	金属部	鋼	鋼	34	24
5025	金属部	鋼	小径鉄	77	57
3049	木部品	ヒノキ	大木部材	197	140
3160	木部品	アケマツ	榿材	137	100
3230	木部品	アケマツ	榿材	136	99
3222	木部品	アケマツ	榿材	139	101
3229	木部品	アケマツ	榿材	101	139
3232	木部品	アケマツ	榿材	137	100
3233	木部品	アケマツ	榿材	137	100
3250	木部品	イボクノキ	榿材	47	26
3231	木部品	カヌヅ	榿材	137	100
3258	木部品	カヌヅ	榿材	137	100
3263	木部品	タリ	榿材	75	56
3054	木部品	タリ	榿材	137	100
3261	木部品	カシラ	榿材	138	101
3048	木部品	スギ	榿材	197	140
3047	木部品	スギ	榿材	197	140
3048	木部品	スギ	榿材	197	140
3029	木部品	スギ	榿材	197	140
3021	木部品	スギ	榿材	197	140
3022	木部品	スギ	榿材	197	140
3023	木部品	スギ	榿材	197	140
3024	木部品	スギ	榿材	197	140
3025	木部品	スギ	榿材	197	140
3026	木部品	スギ	榿材	197	140
3027	木部品	スギ	榿材	197	140
3028	木部品	スギ	榿材	197	140
3029	木部品	スギ	榿材	197	140
3030	木部品	スギ	榿材	197	140
3031	木部品	スギ	榿材	197	140
3032	木部品	スギ	榿材	137	100
3033	木部品	スギ	榿材	137	100
3037	木部品	スギ	榿材	137	100
3112	木部品	スギ	榿材	139	101
3114	木部品	スギ	榿材	139	101
3128	木部品	スギ	榿材	139	101
3131	木部品	スギ	榿材	139	101
3166	木部品	スギ	榿材	137	100
3168	木部品	スギ	榿材	137	100
3175	木部品	スギ	榿材	139	101
3176	木部品	スギ	榿材	139	101
3177	木部品	スギ	榿材	139	101
3179	木部品	スギ	榿材	139	101
3181	木部品	スギ	榿材	139	101
3111	木部品	スギ	榿材	28	24
3223	木部品	スギ	榿材	101	139
3224	木部品	スギ	榿材	137	100
3229	木部品	スギ	榿材	137	100
3237	木部品	スギ	榿材	137	100
3238	木部品	スギ	榿材	137	100
3262	木部品	スギ	榿材	139	101
3277	木部品	スギ	榿材	75	56
3281	木部品	スギ	榿材	75	56
3282	木部品	スギ	榿材	75	56
3307	木部品	トウヒ	榿材	89	66
3340	木部品	ヒノキ	榿材	137	100
3346	木部品	ヒノキ	榿材	137	100
3081	木部品	ヒノキ	榿材	137	100
3108	木部品	ヒノキ	榿材	137	100
3163	木部品	ヒノキ	榿材	137	100
3283	木部品	ヒノキ	榿材	89	66
3348	木部品	マツ	榿材	137	100
3354	木部品	マツ	榿材	47	26
3219	木部品	マツ	榿材	47	26
3220	木部品	マツ	榿材	137	100
3229	木部品	マツ	榿材	137	100
3292	木部品	セト	榿材	75	56
3045	木部品	セト	榿材	137	100
3170	木部品	セト	榿材	139	101
3225	木部品	セト	榿材	137	100
3283	木部品	不明	榿材	不明	不明
3047	木部品	スギ	方形榿	137	100
3049	木部品	スギ	方形榿	137	100

番号	種類	物/地産/材質	品形	頁	写真
3165	木部品	スギ	方形榿	137	100
3212	木部品	スギ	方形榿	61	46
3231	木部品	スギ	方形榿	137	100
3168	木部品	ヒノキ	方形榿	137	100
2161	木部品	ヒノキ	方形榿	137	100
3125	木部品	スギ	木丸	136	99
3247	木部品	アケマツ	木丸	139	101
3029	木部品	アケマツ	木丸	137	100
3280	木部品	タリ	木丸	131	74
3225	木部品	スギ	木丸	137	100
3249	木部品	スギ	木丸	51	43
3255	木部品	スギ	木丸	54	43
3272	木部品	スギ	木丸	104	74
3284	木部品	スギ	木丸	75	56
3169	木部品	スギ	木丸	136	99
3041	木部品	ヒノキ	木丸	137	100
3048	木部品	ヒノキ	木丸	136	99
1846	陶器	土	土瓶	225	16
1852	土部	土	土瓶	164	117
1775	土部	土	土瓶	144	102
1913	土部品	土	土瓶	77	5
3038	木部品	チヤチヤ	不明	不明	不明
3302	木部品	スギ	不明	不明	不明
3304	木部品	不明	不明	不明	不明
5075	金属部	鋼	不明	不明	不明
5112	金属部	鋼	不明	不明	不明
3306	木部品	マンゴノ木	榿木	不明	不明
3259	木部品	トクノ木	榿木	不明	不明
4205	石部	石	自然石	不明	不明

群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告書第164集

二之宮宮東遺跡

<本文編>

一般国道17号(上武道路)改築工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成6年3月25日 印刷

平成6年3月28日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

勢多郡北碓村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／株式会社 前橋印刷所